北埋調報295

北 斗 市

館 野 6 遺 跡(1)

―高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書―

平成24年度

公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター

北 斗 市

館 野 6 遺 跡(1)

―高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書―

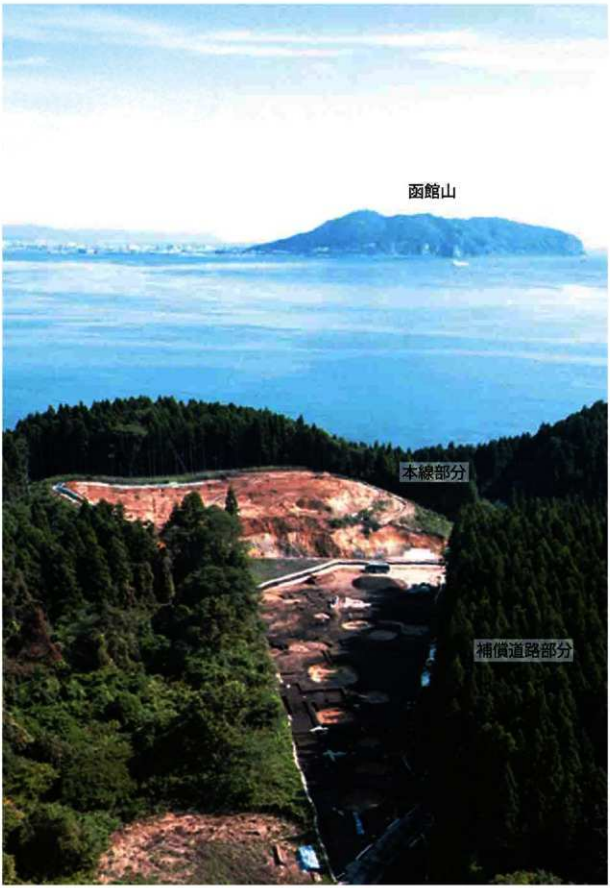
平成24年度

公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター

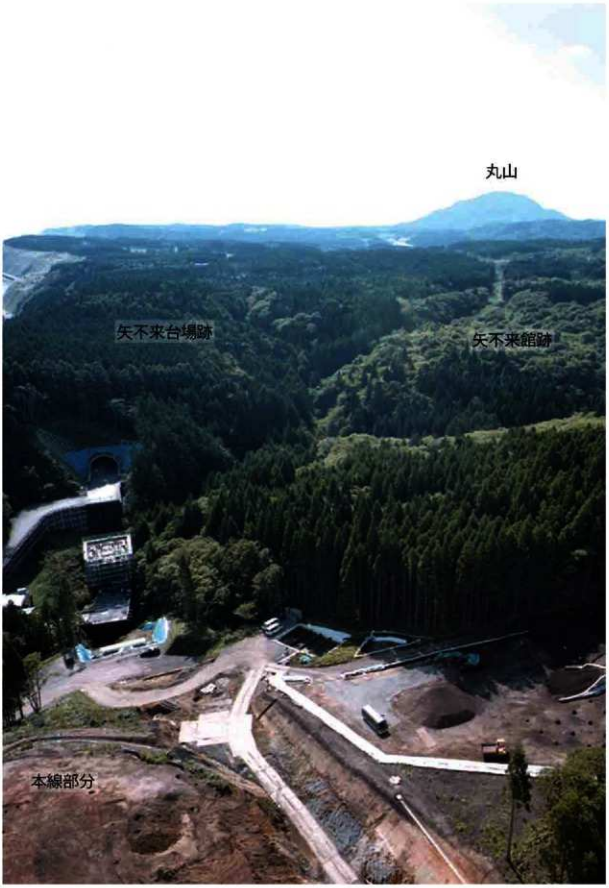
遺跡遠景（西から）（北埋調報47　図版１より使用）

口絵１

口絵 2



遺跡遠景（東から）



遺跡遠景（北から）

口絵 4

調査状況（南から）

P－14 坑底検出状況（北から）

遺物集中 4 検出状況（西から）

FC－9 検出状況（北西から）

鐸形土器 検出状況（北から）

H－6 調査状況（西から）

H－6 生活面 検出状況（北から）

H－6 床面 検出状況（西から）

口絵 6

縄文時代前期後半 住居跡（中央：H－2 右：H－8 左：H－14）出土土器

縄文時代前期後半 土坑（左：P－23 中央：P－33 右：P－24）出土遺物

縄文時代前期後半 遺物集中 4 出土土器

口絵 8

FC－9 剥片

FC－9 出土遺物

例　言

1．本書は、国土交通省北海道開発局函館開発建設部が行なう高規格幹線道路函館江差自動車道函館茂辺地道路工事に伴い、同建設部の委託を受けて財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成20年度に実施した北斗市館野６遺跡の発掘調査報告書である。

2．現地の発掘調査は第２調査部第２調査課・同第３調査課が担当し、第１調査部　第１調査課、第２調査部　第２調査課が分担した。

3．現地での写真撮影は吉田　裕吏洋、中山　昭大、袖岡　淳子、谷島　由貴が行ない、室内での写真撮影は吉田が行なった。

4．遺物の整理は土器を袖岡、石器を佐藤　剛、フローテーション作業を佐川　俊一が行った。

5．本書の執筆は佐川、谷島、袖岡、佐藤、立川　トマスが行ない、巻末の現場写真図版編集を佐藤、遺物の写真図版編集を吉田、全体の編集を袖岡が行ない、文責者は文末に丸括弧で記した。

6．地形分類について、普及活用課　藤井　浩が行なった。

7．現地での測量業務の一部を　株式会社　トラスト技研に依託した。
8．放射性炭素年代測定は　株式会社　加速器分析研究所に依託した。
9．炭化材の樹種同定は　株式会社　パレオ・ラボに依託した。
10．黒曜石製遺物の原産地分析は　有限会社　遺物材料研究所に依託した。

11．館野地区・矢不来地区の完新世テフラについて、花岡　正光が分析を行なった。

12．調査にあたっては、下記の諸機関及び諸氏に御協力・御指導を頂いた。（順不同・敬称略）

北海道教育委員会
北斗市教育委員会　森　靖裕
北海道立地質研究所　田近　淳
市立函館博物館　田原　良信、佐藤　智雄、大矢　京右
函館市教育委員会　野村　祐一、福田　裕二
七飯町教育委員会　山田　央
厚沢部町教育委員会　石井　淳平
松前町教育委員会　佐藤　雄生
札幌学院大学　鵜丸　俊明、臼杵　勲
大沼　忠春
横山　英介

記号等の説明

1．遺構は下記の記号を略称として用い、確認順にアラビア数字を順に付した。
　竪穴住居跡：H　竪穴住居の付属遺構　柱穴・土坑：HP　焼土・炉跡：HF
　土　　坑：P　　Tピット：TP　　焼　　土：F　　剥片集中：FC　　埋設土器：MS
　遺物集中：IS　　集　　石：S　　柱穴状の小土坑：SP
2．土層の表記は基本層序をローマ数字で、遺構の層位をアラビア数字で示した。
3．遺跡で確認した火山灰は以下の略号を用いた。
　Ko－d：駒ケ岳ｄ火山灰（1,640年降灰）
　B－Tm：白頭山－苫小牧火山灰（10世紀降灰）
　Ng：濁川火砕流堆積物（12,000年前降灰）
4．土色の判定については『新版　標準土色帖』（小山・竹原1967）を用い、カラーチャートの番号を示した。
5．挿図中の方位は真北を示す。
6．遺跡・遺構の挿図にはすべてスケールを付した。
7．遺構から出土した遺物の位置と高さについては、以下の記号を用いた。
　床面・坑底出土遺物　土器：●　剥片石器：▲　剥片：▼石斧：◆　礫石器・礫：■　土・石製品：★
　覆土出土　遺物　　土器：○　剥片石器：△　剥片：▽石斧：◇　礫石器・礫：□　土・石製品：☆
8．遺構の規模については以下の方法で示した。撹乱・遺構の重複等で破壊されている場合は現存長を丸括弧で付し表示した。（単位：m）
　竪穴住居跡・土坑・Tピット：確認面の長軸長×床面・坑底の長軸長／確認面の短軸長×床面・坑底の短軸長／最大の深さ
　焼土・埋設土器：確認面の長軸長×確認面の短軸長×最大厚
　剥片集中・遺物集中：確認面の長軸長×確認面の短軸長
9．遺構中の焼土はアミ掛けで示した。
10．掲載した遺物については下記の縮尺を用いた。また、各々にはスケールを付してある。
　復元土器・土器拓影図：1／3　剥片石器・石斧類：1／2　礫石器：1／3・1／4
　土製品：1／2・1／3
11．復元土器については以下の計測を行なった。また、復元できなかった部分については現存長を丸括弧を付し表示した。
　口径×底径×器高（単位：cm）
12．掲載した石器・礫石器・土製品は実測図を正面とし以下の計測を行なった。破損しているものについては（丸括弧）を付し表示した。
　最大長×最大幅×最大厚（単位：cm）
13．掲載した石器について、擦り面があるものは｜―｜、敲痕にはV―Vでその範囲を示した。
14．遺構図にある掲載遺物は図Ⅲ－91～161から抜粋した1／2図である。

目　次

口　絵
例　言
記号等の説明
目　次
表目次・挿図目次・写真図版目次

Ⅰ章　緒言
1　調査要項 …… 1
2　調査体制 …… 1
3　調査にいたる経緯 …… 3
4　調査の概要 …… 6
5　遺跡の位置と環境 …… 7
6　遺跡周辺の地形 …… 13

Ⅱ章　調査の方法
1　グリットの設定と座標値 …… 15
2　発掘調査の方法と経過 …… 15
3　整理の方法 …… 19
4　遺物の分類 …… 20
5　土層の区分 …… 22

Ⅲ章　遺構と遺物
1　遺構
(1)　竪穴住居跡 …… 23
(2)　土坑 …… 71
(3)　Ｔピット …… 97
(4)　焼土 …… 102
(5)　フレイク集中 …… 127
(6)　埋設土器 …… 133
(7)　遺物集中 …… 137
(8)　集石 …… 148
(9)　柱穴状の小土坑 …… 148
2　遺構出土の遺物
(1)　竪穴住居跡 …… 149
(2)　土坑 …… 188
(3)　Ｔピット …… 199
(4)　焼土 …… 199
(5)　フレイク集中 …… 202
(6)　埋設土器 …… 206
(7)　遺物集中 …… 206

(8) 柱穴状の小土坑 …… 228
3 包含層出土の遺物
(1) 土　器 …… 231
(2) 石　器 …… 259
4 表 …… 291
Ⅳ章 自然科学的分析
1 館野６遺跡における放射性炭素年代（AMS）測定 …… 327
2 館野６遺跡出土炭化材の樹種同定 …… 333
3 館野６遺跡の黒曜石製遺物の原産地分析 …… 339
4 館野地区・矢不来地区の完新世テフラについて …… 353
Ⅴ章 まとめ
1 小括 …… 359
2 Ｐ－14坑底検出の砂質の礫について …… 361

引用・参考文献 …… 364

表 目 次

表Ⅰ－1　函館江差自動車道にかかる発掘調査
表Ⅰ－2　周辺の遺跡一覧

表Ⅲ－1　検出遺構規模一覧
表Ⅲ－2　遺構出土遺物一覧
表Ⅲ－3　遺構別出土遺物一覧
表Ⅲ－4　焼土（石組炉）構成礫一覧
表Ⅲ－5　遺構掲載土器一覧
表Ⅲ－6　遺構掲載石器一覧
表Ⅲ－7　包含層出土遺物一覧
表Ⅲ－8　包含層掲載土器一覧
表Ⅲ－9　包含層掲載石器一覧

表Ⅳ－1　測定結果
表Ⅳ－2　暦年較正
表Ⅳ－3　館野6遺跡出土炭化材の樹種同定結果
表Ⅳ－4　館野6遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧
表Ⅳ－5　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値
表Ⅳ－6　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値
表Ⅳ－7　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値
表Ⅳ－8　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値
表Ⅳ－9　湧別川河口域の河床から採取した247個の黒曜石円礫の分類結果
表Ⅳ－10　常呂川（中ノ島～北見大橋）から採取した661個の黒曜石円礫の分類結果
表Ⅳ－11　サナブチ川から採取した44個の黒曜石円礫の分類結果
表Ⅳ－12　北斗市館野6遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果
表Ⅳ－13　北斗市館野6遺跡出土黒曜石製遺物の産地比分析結果
表Ⅳ－14　テフラの構成物
表Ⅳ－15　火山ガラスの平均化学組成

表Ⅴ－1　石材・土壌分析観察一覧

挿図目次

図Ⅰ－1　函館江差自動車道にかかる発掘調査の経過
図Ⅰ－2　遺跡の位置
図Ⅰ－3　松浦武四郎『東西蝦夷山川地理取調図』より
図Ⅰ－4　松浦武四郎『渡島日誌』その壱　より
図Ⅰ－5　周辺の遺跡
図Ⅰ－6　矢不来館・矢不来台場跡・館野6遺跡
図Ⅰ－7　茂別館跡周辺要図
図Ⅰ－8　旧道（馬道）位置図
図Ⅰ－9　遺跡周辺の地形分類図

図Ⅱ－1　遺跡周辺の地形
図Ⅱ－2　グリット設定図
図Ⅱ－3　濁土処理用側溝と沈砂地用地
図Ⅱ－4　調査の方法(1)
図Ⅱ－5　調査の方法(2)
図Ⅱ－6　土層柱状図

図Ⅲ－1　最終面の地形と地滑りによる地割れ跡
図Ⅲ－2　遺構の位置(1)
図Ⅲ－3　遺構の位置(2)
図Ⅲ－4　H－1(1)

図Ⅲ－5　H－1 (2)
図Ⅲ－6　H－2 (1)
図Ⅲ－7　H－2 (2)
図Ⅲ－8　H－3 (1)
図Ⅲ－9　H－3 (2)
図Ⅲ－10　H－4 (1)
図Ⅲ－11　H－4 (2)
図Ⅲ－12　H－5 (1)
図Ⅲ－13　H－5 (2)
図Ⅲ－14　H－6 (1)
図Ⅲ－15　H－6 (2)
図Ⅲ－16　H－6 (3)
図Ⅲ－17　H－6 (4)
図Ⅲ－18　H－6 (5)
図Ⅲ－19　H－6 (6)
図Ⅲ－20　H－7
図Ⅲ－21　H－8 (1)
図Ⅲ－22　H－8 (2)
図Ⅲ－23　H－9
図Ⅲ－24　H－10(1)
図Ⅲ－25　H－10(2)
図Ⅲ－26　H－10(3)
図Ⅲ－27　H－10(4)
図Ⅲ－28　H－11(1)
図Ⅲ－29　H－11(2)
図Ⅲ－30　H－12(1)
図Ⅲ－31　H－12(2)
図Ⅲ－32　H－12(3)
図Ⅲ－33　H－13(1)
図Ⅲ－34　H－13(2)
図Ⅲ－35　H－14(1)
図Ⅲ－36　H－14(2)
図Ⅲ－37　H－15(1)
図Ⅲ－38　H－15(2)
図Ⅲ－39　H－16(1)
図Ⅲ－40　H－16(2)
図Ⅲ－41　H－17
図Ⅲ－42　P－1・2・3
図Ⅲ－43　P－4・5
図Ⅲ－44　P－6・7・8
図Ⅲ－45　P－9・10・11
図Ⅲ－46　P－12・13
図Ⅲ－47　P－14(1)
図Ⅲ－48　P－14(2)
図Ⅲ－49　P－15・16・17
図Ⅲ－50　P－18・19・20
図Ⅲ－51　P－21・23
図Ⅲ－52　P－24・25・26・27
図Ⅲ－53　P－28・29・30・31
図Ⅲ－54　P－32・33・34
図Ⅲ－55　P－35・36・37
図Ⅲ－56　P－38・39
図Ⅲ－57　P－40・41・42
図Ⅲ－58　P－43
図Ⅲ－59　TP－1
図Ⅲ－60　TP－2・3
図Ⅲ－61　TP－4・5
図Ⅲ－62　F－1・2・3・4
図Ⅲ－63　F－5・6・7・8・9
図Ⅲ－64　F－10・11・12・13・14・15
図Ⅲ－65　F－16・17・18・19
図Ⅲ－66　F－20・21・22・23・24・25・26・27
図Ⅲ－67　F－28・29・30・31
図Ⅲ－68　F－32・33・34・35・36・44
図Ⅲ－69　F－37・38・39・40・41・42
図Ⅲ－70　F－43・45・46・47・48・49・50
図Ⅲ－71　F－51・52・53・54・55・56
図Ⅲ－72　F－57・58・61・62
図Ⅲ－73　F－59
図Ⅲ－74　F－60
図Ⅲ－75　FC－1・2・3・4・6
図Ⅲ－76　FC－5・7・8
図Ⅲ－77　FC－9
図Ⅲ－78　FC－10・11・12・13・14
図Ⅲ－79　埋設土器1・2・3・4
図Ⅲ－80　埋設土器5・遺物集中1・2
図Ⅲ－81　遺物集中3
図Ⅲ－82　遺物集中4 (1)
図Ⅲ－83　遺物集中4 (2)
図Ⅲ－84　遺物集中4 (3)

図Ⅲ－85　遺物集中５・６・７・８　集石１
図Ⅲ－86　柱穴状の小土坑(1)
図Ⅲ－87　柱穴状の小土坑(2)
図Ⅲ－88　柱穴状の小土坑(3)
図Ⅲ－89　柱穴状の小土坑(4)
図Ⅲ－90　柱穴状の小土坑(5)
図Ⅲ－91　Ｈ－１出土遺物
図Ⅲ－92　Ｈ－２出土遺物(1)
図Ⅲ－93　Ｈ－２出土遺物(2)
図Ⅲ－94　Ｈ－２出土遺物(3)
図Ⅲ－95　Ｈ－３出土遺物
図Ⅲ－96　Ｈ－４出土遺物
図Ⅲ－97　Ｈ－５出土遺物(1)
図Ⅲ－98　Ｈ－５出土遺物(2)
図Ⅲ－99　Ｈ－６出土遺物(1)
図Ⅲ－100　Ｈ－６出土遺物(2)
図Ⅲ－101　Ｈ－６出土遺物(3)
図Ⅲ－102　Ｈ－６出土遺物(4)
図Ⅲ－103　Ｈ－６出土遺物(5)
図Ⅲ－104　Ｈ－６出土遺物(6)
図Ⅲ－105　Ｈ－６出土遺物(7)
図Ⅲ－106　Ｈ－６出土遺物(8)
図Ⅲ－107　Ｈ－７・８出土遺物
図Ⅲ－108　Ｈ－９出土遺物
図Ⅲ－109　Ｈ－10出土遺物(1)
図Ⅲ－110　Ｈ－10出土遺物(2)
図Ⅲ－111　Ｈ－10出土遺物(3)
図Ⅲ－112　Ｈ－10出土遺物(4)
図Ⅲ－113　Ｈ－10出土遺物(5)
図Ⅲ－114　Ｈ－10出土遺物(6)
図Ⅲ－115　Ｈ－10出土遺物(7)
図Ⅲ－116　Ｈ－11出土遺物(1)
図Ⅲ－117　Ｈ－11出土遺物(2)
図Ⅲ－118　Ｈ－11出土遺物(3)
図Ⅲ－119　Ｈ－11出土遺物(4)
図Ⅲ－120　Ｈ－11出土遺物(5)
図Ⅲ－121　Ｈ－12出土遺物(1)
図Ⅲ－122　Ｈ－12出土遺物(2)
図Ⅲ－123　Ｈ－13出土遺物
図Ⅲ－124　Ｈ－14出土遺物(1)
図Ⅲ－125　Ｈ－14出土遺物(2)
図Ⅲ－126　Ｈ－15出土遺物
図Ⅲ－127　Ｈ－16出土遺物(1)
図Ⅲ－128　Ｈ－16出土遺物(2)
図Ⅲ－129　Ｈ－17出土遺物
図Ⅲ－130　Ｐ－４・11・13・17・19出土遺物
図Ⅲ－131　Ｐ－14出土遺物(1)
図Ⅲ－132　Ｐ－14出土遺物(2)
図Ⅲ－133　Ｐ－20・23出土遺物
図Ⅲ－134　Ｐ－24・28・29・33・37出土遺物
図Ⅲ－135　Ｐ－38・39・ＴＰ－２出土遺物
図Ⅲ－136　Ｆ－１・９・34出土遺物
図Ⅲ－137　Ｆ－31出土遺物
図Ⅲ－138　Ｆ－59・60出土遺物
図Ⅲ－139　ＦＣ－１・２出土遺物
図Ⅲ－140　ＦＣ－３・８・９出土遺物
図Ⅲ－141　埋設土器１・２・３・４出土遺物
図Ⅲ－142　埋設土器５・遺物集中１出土遺物
図Ⅲ－143　遺物集中３出土遺物(1)
図Ⅲ－144　遺物集中３出土遺物(2)
図Ⅲ－145　遺物集中４出土遺物(1)
図Ⅲ－146　遺物集中４出土遺物(2)
図Ⅲ－147　遺物集中４出土遺物(3)
図Ⅲ－148　遺物集中４出土遺物(4)
図Ⅲ－149　遺物集中４出土遺物(5)
図Ⅲ－150　遺物集中４出土遺物(6)
図Ⅲ－151　遺物集中４出土遺物(7)
図Ⅲ－152　遺物集中４出土遺物(8)
図Ⅲ－153　遺物集中４出土遺物(9)
図Ⅲ－154　遺物集中４出土遺物(10)
図Ⅲ－155　遺物集中４出土遺物(11)
図Ⅲ－156　遺物集中４出土遺物(12)
図Ⅲ－157　遺物集中４出土遺物(13)
図Ⅲ－158　遺物集中４出土遺物(14)
図Ⅲ－159　遺物集中４出土遺物(15)
図Ⅲ－160　遺物集中５・６・７出土遺物
図Ⅲ－161　遺物集中８・ＳＰ－21・149出土遺物
図Ⅲ－162　包含層出土の土器(1)
図Ⅲ－163　包含層出土の土器(2)
図Ⅲ－164　包含層出土の土器(3)

図Ⅲ－165　包含層出土の土器(4)
図Ⅲ－166　包含層出土の土器(5)
図Ⅲ－167　包含層出土の土器(6)
図Ⅲ－168　包含層出土の土器(7)
図Ⅲ－169　包含層出土の土器(8)
図Ⅲ－170　包含層出土の土器(9)
図Ⅲ－171　包含層出土の土器(10)
図Ⅲ－172　包含層出土の土器(11)
図Ⅲ－173　包含層出土の土器(12)
図Ⅲ－174　包含層出土の土器(13)
図Ⅲ－175　包含層出土の土器(14)
図Ⅲ－176　包含層出土の土器(15)
図Ⅲ－177　包含層出土の土器(16)
図Ⅲ－178　包含層出土の土器(17)
図Ⅲ－179　包含層出土の土器(18)
図Ⅲ－180　包含層出土の土器(19)
図Ⅲ－181　包含層出土の土器(20)
図Ⅲ－182　包含層出土の土製品
図Ⅲ－183　包含層　土器の分布(1)
図Ⅲ－184　包含層　土器の分布(2)
図Ⅲ－185　包含層出土の石器(1)
図Ⅲ－186　包含層出土の石器(2)
図Ⅲ－187　包含層出土の石器(3)
図Ⅲ－188　包含層出土の石器(4)
図Ⅲ－189　包含層出土の石器(5)
図Ⅲ－190　包含層出土の石器(6)
図Ⅲ－191　包含層出土の石器(7)
図Ⅲ－192　包含層出土の石器(8)
図Ⅲ－193　包含層出土の石器(9)
図Ⅲ－194　包含層出土の石器(10)
図Ⅲ－195　包含層出土の石器(11)
図Ⅲ－196　包含層出土の石器(12)
図Ⅲ－197　包含層出土の石器(13)
図Ⅲ－198　包含層出土の石器(14)
図Ⅲ－199　包含層出土の石器(15)
図Ⅲ－200　包含層出土の石器(16)
図Ⅲ－201　包含層出土の石器(17)
図Ⅲ－202　包含層出土の石器(18)
図Ⅲ－203　包含層出土の石器(19)
図Ⅲ－204　包含層出土の石器(20)
図Ⅲ－205　包含層出土の石器(21)
図Ⅲ－206　包含層出土の石器(22)
図Ⅲ－207　包含層出土の石器(23)
図Ⅲ－208　包含層　石器の分布(1)
図Ⅲ－209　包含層　石器の分布(2)
図Ⅲ－210　包含層　石器の分布(3)
図Ⅲ－211　包含層　石器の分布(4)
図Ⅲ－212　包含層　石器の分布(5)

図Ⅳ－1　黒曜石原産地
図Ⅳ－2　地質柱状図
図Ⅳ－3－1　火山ガラスの化学組成値分布(1)
図Ⅳ－3－2　火山ガラスの化学組成値分布(2)

写真図版目次

口絵1　遺跡遠景（西から）
口絵2　遺跡遠景（東から）
口絵3　遺跡遠景（北から）
口絵4－1　調査状況（南から）
口絵4－2　P－14（北から）
口絵4－3　遺物集中4（西から）
口絵4－4　FC－9　検出状況（北西から）
口絵4－5　鐸形土製品（北から）
口絵5－1　H－6（西から）
口絵5－2　H－6生活面（北から）
口絵5－3　H－6床面（西から）
口絵6－1　縄文時代前期後半（H－2・8・14）住居跡出土土器
口絵6－2　縄文時代前期後半土坑（P－23・24・33）出土土器
口絵7　縄文時代前期後半遺物集中4出土土器

口絵８－１　FC－９の出土剥片

図版１　調査状況(1)
図版２　調査状況(2)
図版３　調査状況(3)
図版４　調査状況(4)
図版５　調査状況(5)
図版６　調査状況(6)
図版７　調査状況(7)
図版８　調査状況(8)
図版９　断層(1)
図版10　断層(2)
図版11　断層(3)
図版12　H－１(1)
図版13　H－１(2)
図版14　H－２(1)
図版15　H－２(2)
図版16　H－２(3)
図版17　H－３(1)
図版18　H－３(2)
図版19　H－４(1)
図版20　H－４(2)
図版21　H－４(3)
図版22　H－５(1)
図版23　H－５(2)
図版24　H－６(1)
図版25　H－６(2)
図版26　H－６(3)
図版27　H－６(4)
図版28　H－６(5)
図版29　H－６(6)
図版30　H－６(7)
図版31　H－７(1)
図版32　H－７(2)
図版33　H－８(1)
図版34　H－８(2)
図版35　H－８(3)
図版36　H－９(1)
図版37　H－９(2)
図版38　H－10(1)

口絵８－２　FC－９　出土遺物

図版39　H－10(2)
図版40　H－10(3)
図版41　H－10(4)
図版42　H－10(5)
図版43　H－11(1)
図版44　H－11(2)
図版45　H－11(3)
図版46　H－12(1)
図版47　H－12(2)
図版48　H－13(1)
図版49　H－13(2)
図版50　H－13(3)
図版51　H－14(1)
図版52　H－14(2)
図版53　H－14(3)
図版54　H－15(1)
図版55　H－15(2)
図版56　H－16(1)
図版57　H－16(2)
図版58　H－16(3)
図版59　H－16(4)
図版60　H－17(1)
図版61　H－17(2)
図版62　土坑(1)　P－１～３
図版63　土坑(2)　P－４
図版64　土坑(3)　P－４～８
図版65　土坑(4)　P－８・10～12
図版66　土坑(5)　P－12～13
図版67　土坑(6)　P－13～14
図版68　土坑(7)　P－15～16
図版69　土坑(8)　P－17～19
図版70　土坑(9)　P－20～23
図版71　土坑(10)　P－23～25
図版72　土坑(11)　P－25～28
図版73　土坑(12)　P－28～29
図版74　土坑(13)　P－30～32
図版75　土坑(14)　P－33～35
図版76　土坑(15)　P－36～37

図版77　土坑(16)　P－38～40
図版78　土坑(17)　P－40～42
図版79　焼土(1)　F－1～5
図版80　焼土(2)　F－6・7・9～11
図版81　焼土(3)　F－12～17
図版82　焼土(4)　F－18～21
図版83　焼土(5)　F－22～27
図版84　焼土(6)　F－28～31
図版85　焼土(7)　F－32～36
図版86　焼土(8)　F－37～42
図版87　焼土(9)　F－43～48
図版88　焼土(10)　F－49～51・53・54
図版89　焼土(11)　F－55～60
図版90　焼土(12)　F－60～62
図版91　柱穴様の小土坑(1)　SP－1～9・22～40
図版92　柱穴様の小土坑(2)　SP（14N・11～13W区）
図版93　柱穴様の小土坑(3)　SP－4～8
図版94　柱穴様の小土坑(4)　SP－11～17
図版95　柱穴様の小土坑(5)　SP－18～105
図版96　柱穴様の小土坑(6)　SP－118～167
図版97　Tピット(1)　TP－1～3
図版98　Tピット(2)　TP－3～6
図版99　フレイク・チップ集中(1)　FC－1～5
図版100　フレイク・チップ集中(2)　FC－7～9
図版101　フレイク・チップ集中(3)　FC－9～11・13・14
図版102　集石(1)・遺物集中(1)　S－1・遺物集中1～3
図版103　遺物集中(2)・埋設土器(1)　遺物集中3・4・6～8・埋設土器1
図版104　埋設土器(2)　埋設土器2～5
図版105　包含層　遺物の出土状況

図版106　H－1出土遺物・H－2出土遺物(1)
図版107　H－2出土遺物(2)
図版108　H－3・H－4出土遺物
図版109　H－5出土遺物
図版110　H－6出土遺物(1)
図版111　H－6出土遺物(2)
図版112　H－6出土遺物(3)
図版113　H－6出土遺物(4)
図版114　H－7・8・9出土遺物
図版115　H－10出土遺物(1)
図版116　H－10出土遺物(2)
図版117　H－10出土遺物(3)
図版118　H－11出土遺物(1)
図版119　H－11出土遺物(2)
図版120　H－11出土遺物(3)・H－12出土遺物
図版121　H－13出土遺物・H－14出土遺物(1)
図版122　H－14出土遺物(2)・H－15・16・17出土遺物
図版123　P－4・11・13・17・19・20・23(1)出土遺物
図版124　P－14・23(2)出土遺物
図版125　P－24・28・29・33・37・38・39・TP－2出土遺物
図版126　F－1・9・31・34・59・60出土遺物
図版127　FC－1・2・3・8・9出土遺物
図版128　埋設土器1・2・3・4・5出土遺物
図版129　遺物集中1・3出土遺物・遺物集中4出土遺物(1)
図版130　遺物集中4出土遺物(2)
図版131　遺物集中4出土遺物(3)
図版132　遺物集中4出土遺物(4)
図版133　遺物集中4出土遺物(5)
図版134　遺物集中4出土遺物(6)
図版135　遺物集中4出土遺物(7)
図版136　遺物集中4出土遺物(8)・遺物集中5・6・7・8出土遺物・SP－21・149出土遺物
図版137　包含層出土の土器(1)
図版138　包含層出土の土器(2)
図版139　包含層出土の土器(3)
図版140　包含層出土の土器(4)
図版141　包含層出土の土器(5)
図版142　包含層出土の土器(6)
図版143　包含層出土の土器(7)
図版144　包含層出土の土器(8)
図版145　包含層出土の土製品
図版146　包含層出土の石器(1)
図版147　包含層出土の石器(2)
図版148　包含層出土の石器(3)
図版149　包含層出土の石器(4)
図版150　包含層出土の石器(5)
図版151　包含層出土の石器(6)
図版152　包含層出土の石器(7)

図版Ⅳ－1　館野６遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(1)
図版Ⅳ－2　館野６遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(2)
図版Ⅴ－1　Ｐ－14坑底の砂質礫と比較資料

Ⅰ章　緒　　言

1．調査要項

事　業　名：
平成20年～23年度　高規格幹線道路函館江差自動車道函館茂辺地道路建設用地内埋蔵文化財発掘調査
平成24年度　高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査（釜谷８遺跡外）
委　託　者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部
受　託　者：財団法人　北海道埋蔵文化財センター（平成24年４月１日付で公益財団法人に移行）
遺　跡　名：館野６遺跡（北海道教育委員会登載番号Ｂ－06－35）
所　在　地：北斗市館野85－１ほか
調　査　面　積：5,768㎡
調　査　期　間：平成20年５月12日～11月28日

2．調査体制

平成20年度

財団法人　北海道埋蔵文化財センター
理　事　長　森重　楯一（平成20年５月31日まで）
理　事　長　坂本　　均（平成20年６月１日～　）
専務理事　佐藤　俊和
常務理事　畑　　宏明

第１調査部長　越田　賢一郎
第２調査部長　西田　　茂

第２調査部　第３調査課　課長　佐藤　和雄（発掘担当者）
　　主査　谷島　由貴（発掘担当者）
　　主任　袖岡　淳子
　　主任　佐藤　　剛

第２調査部　第２調査課　課長　佐川　　俊一
　　主査　立川　トマス

※調査体制強化のため、下記の調査員が業務の一部を負担した。

第１調査部　第１調査課　主査　花岡　正光
　　主任　吉田　裕吏洋

第２調査部　第１調査課　主査　中山　昭大

平成21年度（一次整理作業）
第２調査部長　西田　　茂

第２調査部　第２調査課　課長　村田　　大
　　主任　袖岡　淳子
　　主任　佐藤　　剛

平成22年度（二次整理作業）
第２調査部長　西田　　茂

第２調査部　第２調査課　課長　佐川　俊一
　　主査　袖岡　淳子
　　主任　佐藤　　剛

平成23年度（二次整理作業）
第１調査部長　千葉　英一

第１調査部　第３調査課　課長　土肥　研晶
　　主査　袖岡　淳子
　　主査　佐藤　　剛

第１調査部　第１調査課　主任　吉田裕吏洋

平成24年度（二次整理作業）
公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター
理　事　長　坂本　　均
副理事長　畑　　宏明
専務理事　中田　　仁
常務理事　兼　第１調査部長　千葉　英一

第１調査部　第３調査課　課長　土肥　研晶
　　主査　袖岡　淳子
第１調査部　第４調査課　主査　佐藤　　剛

第１調査部　第１調査課　主任　吉田裕吏洋

3．調査に至る経緯

高規格幹線道路「函館江差自動車道」は、函館市を起点とし北斗市・木古内町を経由、江差町に至る延長約70kmの一般国道自動車専用道路として国土交通省北海道開発局により整備が進められている。この道路は北海道縦貫自動車道・函館新道と接続し、函館都市圏の新たな環状道路として地域の交通混雑の解消や地域経済の活性化のために計画されたものである。

函館茂辺地道路は平成２年度から事業着手され、平成15年３月に函館 IC－北斗中央（旧上磯）IC 間（約８km）、平成21年11月に北斗中央 IC－北斗富川 IC 間（約５km）、平成24年３月に北斗富川 IC－北斗茂辺地 IC 間（約５km）が供用されている。現在、事業区間となっている茂辺地木古内道路（延長16.0km）は平成６年度に着手された。

平成６年４月、国土交通省北海道開発局函館開発建設部（以下、「函館開建」という）は、函館江差自動車道にかかる埋蔵文化財保護のための事前協議書を北海道教育委員会（以下、「道教委」という）に提出した。これを受けて道教委は、同年同月に遺跡の所在確認調査を実施した。その結果、次の９か所において遺跡の範囲確認調査が必要と判断された。遺跡は北から押上１・館野・館野４・館野２・館野６遺跡、矢不来館跡、矢不来台場跡、矢不来６・矢不来７遺跡である。

平成11・12年、高規格幹線道路と道営農道の整備事業に伴い、路線やその周辺にかかる矢不来館・矢不来台場跡・周辺遺跡の規模及び分布状況の詳細を調査するため、上磯町教育委員会（当時）が国庫補助事業によりトレンチ調査を行う。この調査結果により平成13年７月、函館開建により道路の工法変更がなされ矢不来館跡、矢不来台場跡の２ヶ所について保存が決定、調査の必要な遺跡は７か所となった。

平成15年11月の試掘調査では矢不来６遺跡と呼ばれていた範囲は矢不来６・10・11・12遺跡の４遺跡に、また矢不来７遺跡と呼ばれていた範囲は矢不来７・８・９遺跡の３遺跡に分けられた。この結果、平成15年12月、道教委から函館開建へ工事に伴い発掘調査が必要な遺跡は最終的に12か所であることが通知された。平成22年、試掘により調査必要遺跡が１か所増え（茂辺地４遺跡）、13か所になる。平成24年度までにこれらの遺跡は現地の発掘調査を行い、８遺跡は報告済で、５遺跡が一部報告済の他、現在も整理作業中である（図・表Ⅰ－１）。

館野６遺跡の本線部分における発掘調査範囲は、さきに平成11・12年に実施した矢不来台場跡および矢不来館跡の調査で、矢不来館の対岸に位置する本遺跡の試掘結果により北海道教育委員会が決定したものである。ここでは高規格道路の本線建設が計画されていたところで、テストピット17か所が掘開された。試掘調査の結果、縄文時代前・中期の遺構（竪穴１～２軒、土坑５基、Ｔピット１基）・遺物（テストピット１か所から300点、２ヶ所から200点）が検出された。これら試掘調査の結果をもとにセンターは館野６遺跡本線部分の調査計画を立案した。

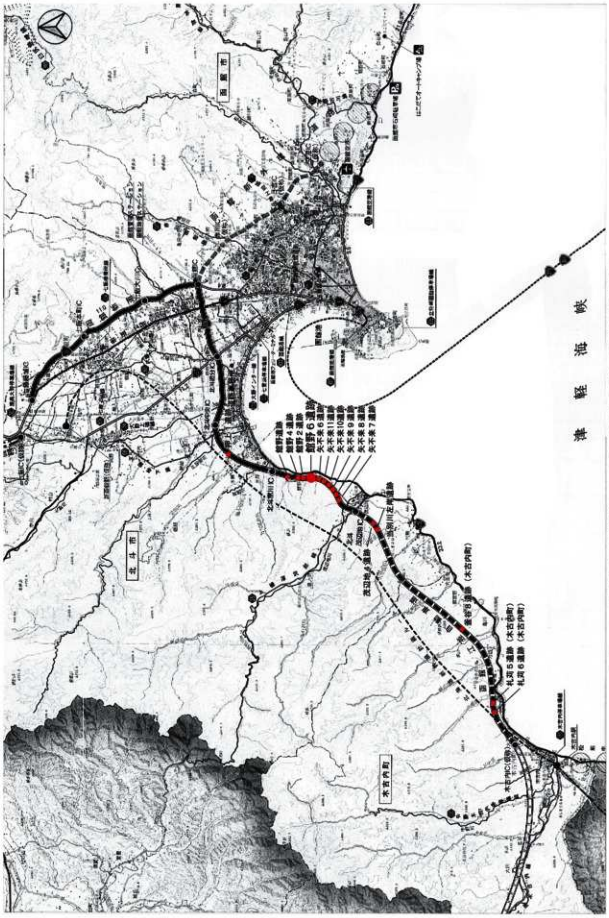
平成20年度の函館江差自動車道関連の発掘調査は館野６遺跡のほか、館野２遺跡Ｃ地区、矢不来８遺跡、矢不来９遺跡、矢不来10遺跡の５か所が予定された。工事工程上、館野６遺跡以外の調査が急がれたため、それらを先に終了させて８月下旬以降、調査員、作業員全員を館野６遺跡へ投入し10月末に終了させる計画であった。

調査は二課体制で実施することとし、第２調査部第２調査課と同第３調査課が担当した。第２調査課は５月から８月中旬まで館野２遺跡Ｃ地区、８月下旬から館野６遺跡の調査にあたることとした。しかし、館野２遺跡Ｃ地区は縄文時代中期を主体とする集落跡で遺構・遺物共に内容が濃かったため、８月１日に函館道路事務所、企業体と話し合い、調査終了を９月末になることで了承を得た。こ

のことにより館野６遺跡では８月下旬から調査展開する範囲の縮小が見込まれ、体制強化のため調査員はセンター内で調整可能な範囲で現場に投入した。作業員人工については、館野６遺跡の工事が翌年に行われるため発掘調査の延長として対応が可能になり、調査は11月28日に終了した。　（佐川）

表Ｉ－１　函館江差自動車道にかかる発掘調査の経過（平成24年度現在）

遺跡名	調査主体	調査面積	現地調査期間	調査の結果	報告書・ほか
		2,000㎡	平成14年７月16日～12月12日	縄文時代中期末～後期初頭	既刊
		3,800㎡	平成15年５月８日～10月９日	縄文時代後期初頭	既刊
		10,880㎡	平成16年５月１日～10月31日	縄文時代後期初頭	既刊
	上磯町（現北斗市）教育委員会	2,665㎡	平成17年５月１日～10月31日	縄文時代中期末～後期前葉	既刊
		2,532㎡	平成22年９月６日～12月１日	縄文時代中期末～後期前葉	
押上１遺跡	財北海道埋蔵文化財センター	2,008㎡	平成23年５月９日～９月９日	縄文時代中期末～後期前葉	未刊（新幹線建設事業）
		5,750㎡	平成15年５月６日～10月31日	縄文時代中期後半～後期初頭の集落跡	北埋調報237集
館野遺跡	財北海道埋蔵文化財センター	2,815㎡	平成16年５月６日～11月16日	縄文時代後期前葉の配石遺構	北埋調報282集
館野２遺跡Ａ地区		953㎡	平成19年５月７日～10月31日	旧石器時代・縄文時代後期前葉	
館野２遺跡Ｂ地区	財北海道埋蔵文化財センター	3,406㎡	平成19年５月７日～10月31日	縄文時代中期前半の集落	北埋調報283集
		2,231㎡	平成19年５月７日～10月31日		
館野２遺跡Ｃ地区	財北海道埋蔵文化財センター	2,076㎡	平成20年５月12日～10月１日	縄文時代中期の集落	未刊
館野４遺跡	財北海道埋蔵文化財センター	7,100㎡	平成17年９月１日～10月27日	縄文時代中期末～後期前葉	北埋調報235集
		5,706㎡	**平成20年５月12日～11月28日**	**縄文時代前期後半～中期前半**	**本書　北埋調報235集**
館野６遺跡	**財北海道埋蔵文化財センター**	5,263㎡	平成21年５月12日～11月13日	縄文時代前期後半の集落・盛土遺構	未刊
		4,660㎡	平成17年５月12日～８月31日	縄文時代前期後半の小集落・後期前葉の配石	北埋調報235集
矢不来６遺跡	財北海道埋蔵文化財センター	587㎡	平成19年９月７日～10月31日	縄文時代中期前半？・後期前葉	北埋調報257集
		2,141㎡	平成16年10月４日～10月29日		
矢不来７遺跡	財北海道埋蔵文化財センター	6,482㎡	平成17年５月９日～10月28日	縄文時代後期後葉の集落跡	北埋調報232集
		6,196㎡	平成17年８月８日～10月28日	縄文時代晩期中葉	北埋調報232集
		82㎡	平成18年10月３日～10月27日	縄文時代中期後半～後期前葉・晩期中葉	北埋調報244集
矢不来８遺跡	財北海道埋蔵文化財センター	1,791㎡	平成20年５月12日～７月18日	縄文時代中期後半～後期前葉・晩期中葉	北埋調報272集
		2,030㎡	平成19年８月１日～10月31日	縄文時代中期前半～後期前葉	北埋調報257集
矢不来９遺跡	財北海道埋蔵文化財センター	1,514㎡	平成20年５月12日～８月４日	縄文時代中期前半～後期前葉・近世	北埋調報272集
		7,607㎡	平成18年７月10日～10月27日	縄文時代早期前半・後期前葉・晩期後葉	北埋調報244集
矢不来10遺跡	財北海道埋蔵文化財センター	1,907㎡	平成20年５月12日～７月18日	縄文時代早期前半・後期前葉・晩期後葉	北埋調報272集
		5,300㎡	平成17年５月12日～８月31日	縄文時代後期前葉	北埋調報235集
		246㎡	平成19年９月７日～10月31日	縄文時代後期前葉	北埋調報257集
矢不来11遺跡	財北海道埋蔵文化財センター	1,349㎡	平成21年５月12日～６月30日	縄文時代後期前葉	北埋調報272集
	財北海道埋蔵文化財センター	99㎡	平成22年５月12日～６月４日	縄文時代中期前半～後期前葉	
		6,800㎡	平成23年７月12日～11月17日		
茂辺地４遺跡	北斗市教育委員会	8,465㎡	平成24年５月７日～11月２日	縄文時代中期末～後期初頭	未刊
		1,816㎡	平成23年８月１日～９月９日		
当別川左岸遺跡	財北海道埋蔵文化財センター	2,442㎡	平成23年９月７日～10月30日	縄文時代前期後半～後期前葉	未刊
		786㎡	平成23年９月５日～11月11日		
釜谷８遺跡（木古内町）	財北海道埋蔵文化財センター	8,414㎡	平成24年５月７日～10月31日	縄文時代早期・中期末・後期前葉	未刊
札苅５遺跡（木古内町）	財北海道埋蔵文化財センター	3,360㎡	平成23年５月９日～10月28日	旧石器時代・縄文時代前期後半	北埋調報294集
札苅６遺跡（木古内町）	財北海道埋蔵文化財センター	2,798㎡	平成23年５月９日～10月28日	縄文時代中期前半～後期前葉	未刊


函館市
北斗市
木古内町
知内町
津軽海峡
函館空港
函館駅
函館ターミナル
函館港
函館ベイエリア
函館山
函館ICT実験区間
函館ICT実験区間
函館ICT実験区間

4．調査の概要

調査区（本線部分）は海岸線から直線距離で約300m、標高50～60mの海岸段丘上に位置する。函館湾に面する海岸段丘の北を矢不来川、南に下矢不来川が流れ、さらにこの二つの川の支流が西側に２条走り、調査区は独立した平坦面になっている。調査区の中央には浅い沢状地形がある。これに並行する地割れ跡を２条確認している（図Ⅲ－１）。

北海道立地質研究所の田近淳氏の所見によると地滑りによる断層と考えられ、調査区中央の沢状地形も地滑りから由来するとの見解を頂いた。地滑りは縄文時代前期後半以降にも起きたと考えられ、この時期の竪穴住居床面（Ｈ－14）が傾いていたり、住居床面（Ｈ－13）に亀裂が入っていた。

検出した遺構は竪穴住居跡17軒、土坑43基、Ｔピット６基、小ピット６基、198基、焼土62ヶ所、フレイク集中14ヶ所、遺物集中７ヶ所、埋設土器５基である。

遺構は沢状地形を境に大きく北側と南側に時期が分けられる（図Ⅲ－２・３）。北側には主に縄文時代前期後半の竪穴住居（Ｈ－１、２、３、４、８、12、13、14）、土坑、焼土、フレイク・チップ集中、遺物集中などが検出された。

沢状地形北側の住居跡Ｈ－２、８、９、14からは円筒土器下層ｂ式の中でも新しいと考えられる土器が出土している。土坑では土坑墓と考えられるＰ－23、24、33があり、埋め戻しの土に小型でほぼ完形の土器が１個体検出されている。フレイク・チップ集中では FC－９で黒曜石の剥片が主体のものがある。原産地分析の結果では出来島（青森県つがる市木造）のものとの結果が得られた。この黒曜石は山田野層の礫に起源があり、これが直接侵食を受けている付近の海岸、鰺ヶ沢町川尻～七里長浜でも円磨された礫が拾える（新渡戸・鈴木1983、斉藤2002）。同じ遺跡内で、Ｈ－６、Ｈ－10などの縄文時代中期前半の住居跡床面から検出した黒曜石フレイクの原産地分析結果はＨ－６赤石山（紋別郡遠軽町白滝）、Ｈ－10赤井川（余市郡赤井川村）との結果が得られている。縄文時代中期前半になると道内産のものが使用され、石材の一部において供給源が円筒土器文化圏から道内に変化していることが伺える。

遺物集中では住居跡の窪みを利用した土器捨場と考えられる遺物集中４がある。これらは主に円筒土器下層ｂ式相当である。

沢状地形を挟んだ南側には主に縄文時代中期前半の竪穴住居跡（Ｈ－５、６、７、９、11、15、16、17）等の遺構・遺物を検出している。縄文時代前期後半の遺構・遺物が多い調査区北側から外れた遺構で土坑墓と考えられるフラスコ状土坑（Ｐ－14）や、土器の体部から底部にかけ、正立した状態で検出した埋設土器が５基検出されている。

出土した遺物の総点数は119,462点、そのうち遺構からの出土は43,686点（土器22,612点、石器等21,074点）、包含層からは75,776点（土器49,585点、石器等26,191点）である。時期は縄文時代早期～続縄文時代のものまで出土しているが、多くは縄文時代前期後半、主に円筒土器下層ｂ式に相当するものが多く、次いで縄文時代中期前半、サイベ沢Ⅶ式相当のものである。

調査区の後背、標高55～60mのところに同遺跡名で補償道路部分があり、平成21年度に調査を行った。調査の結果、矢不来川に向かって伸びる沢に面した段丘の縁と、下矢不来川に向かう沢に面した台地の馬の背状になる尾根部分に円筒土器下層式期の集落跡と盛土遺構が検出されており、遺物の総点数は100万点を超える。本報告は平成27年度以降の予定である。（袖岡）

5．遺跡の位置と環境

北海道の南端に位置する渡島半島は三方を海に囲まれ、西岸（日本海）と南岸（津軽海峡）は対馬暖流に洗われている。北斗市は渡島半島の南部に位置する。このような地理的条件から冬の冷え込みは弱く、夏の暑さも厳しくない。

北斗市は平成18年、市町村合併で上磯町と大野町が統合した市で、南東部を函館市に、北は七飯町、森町、北西部に厚沢部町、西は木古内町に接し、南は函館湾に面する。

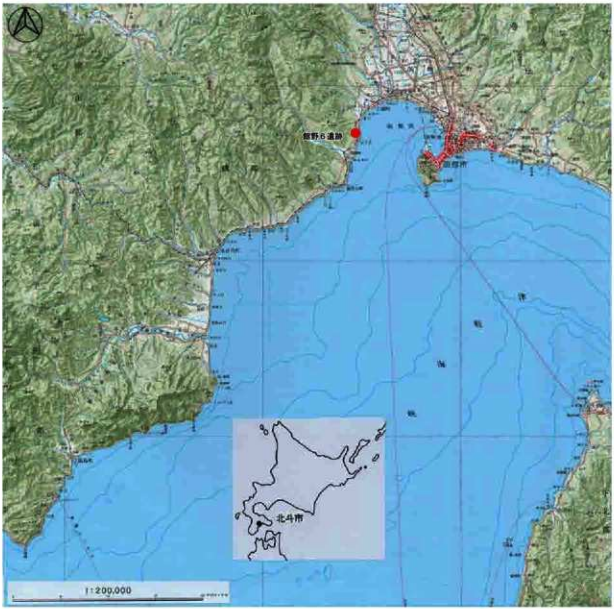
地形は平野部、海岸段丘部、それより標高の高い丘陵部からなり、丘陵は西部を、平野部は東部を占める。段丘部は津軽海峡に面して狭い平坦面をなし、標高50～70mである。丘陵部は標高約450m以下の山陵地形をなしている。万太郎沢川を境にして北・東側には平野部が広がる。南・西側には館野、矢不来、茂辺地、当別川右岸段丘は後背地が広く、変化に富んだ海岸線が続く。館野と矢不来の境は鏡山から丘陵部、海岸段丘を経て函館湾に向かい、突き出た尾根状地形とその北側を館野、南側を矢不来と呼んでいる。対岸には函館山を望む。館野・矢不来では丘陵部から茂辺地川に向かう沢によって海岸段丘が解析され、狭い平坦面や緩斜面などに縄文時代から中・近世にかけ多くの遺跡が確認されている（図Ⅰ－5、表Ⅰ－2）。

現在の「館野」という地名は『上磯町史』（1997）によると、明治33年から一級町村上磯村の大字、「富川村」が昭和3年部制の廃止に伴い、昭和5年に「字富川町」、「柳沢」、「館野」となったことによる。昭和4年、大字「茂別村」は「茂辺地」、「矢不来」、「湯の沢」、「市の渡」、「当別」、「三ツ石」の六字を編成。このうち、「矢不来」の旧小字を見ていくと、「フコ間」、「馬道岱」、「竹切沢」、「館」、「館の上」、「矢不来館」とある。

安政3年（1856）、松浦武四郎の『渡島日誌』には、「…富川村人家六七十軒農漁商まざり寛政前は下国氏の給所なり。浜形辰向、函館弁天崎に対す。（中略）村端小川有。是より右館野通り、左浜通り。波風厳敷時は館野通りを行。此処を下国氏の古城なる故に号しと。今に柵跡厳然として、銅・鉄・陶器類を掘り出すことあり。」とある（図Ⅰ－4）。安政6年（1859）、武四郎の『東西蝦夷山川地理取調図』（図Ⅰ－3）には「タテノ下」とあり、（古）館の下を表す地名が記されている。武四郎の絵図から文中の「古城」は矢不来館のことであり、「館野」とは矢不来館の北側隣りに位置していることから「館」の付いた地名になったことが伺える。

矢不来館について『安倍姓下国氏系譜』によれば、「家政　下国安東八郎式部大輔と称す。茂別矢不来の館に居住す。享徳三（1454）年八月八日兄政季と家政と狄ノ島に押渡り、茂別矢不来の館に居住。しかる後、蠣崎、若狭、相原周防と同心して此嶋を守る。明応四年六月七日卒」とある。「茂別矢不来館」と記されているが、実際には茂別館と矢不来館は直線距離でも2km程度は離れている。茂別館は道南十二館のひとつにふくまれているが、矢不来館については不明なことが多く、茂別の隠し砦や本陣説、またアイヌのチャシではないかとも考えられてきた。

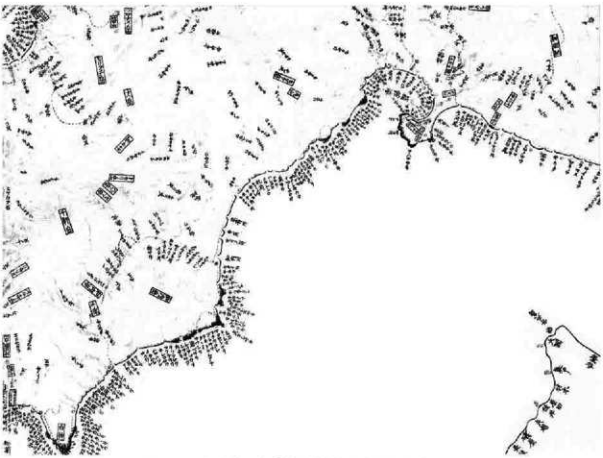
矢不来館は所在がわからなくなっていた時期があったが、1979年に地元の郷土史研究会会長、落合治彦氏が確認された。1999、2000年、当時持ち上がっていた道営農道の整備事業と高規格幹線道路の建設に伴い、路線やその周辺にかかる矢不来館、矢不来台場跡、周辺遺跡の範囲確認するため上磯町教育委員会が国庫補助事業により考古学的なトレンチ調査を行う（図Ⅰ－6）。2000年、高知大学で中世史学の城郭を研究している市村高男教授と青森県史中世部会専門委員の小山彦逸氏が矢不来館を踏査した。これらの調査により、台地の東側斜面で幅2～3mの連続縦土塁が6条確認され、この下側に大手虎口が見つかった。連続縦土塁は秋田県男鹿市にある脇本館に似ており、大手虎口は勝山館



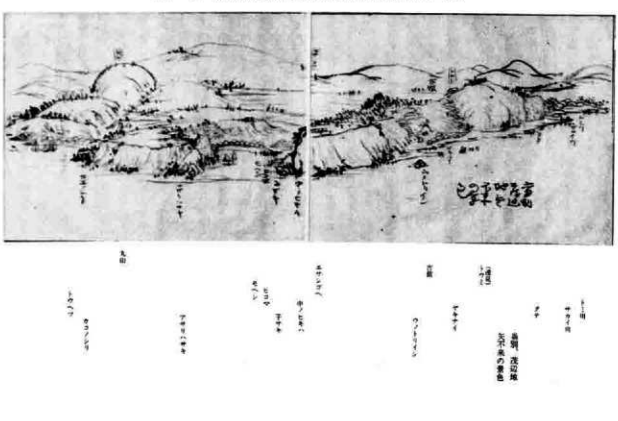
図Ⅰ－2　遺跡の位置（国土地理院20万分の１『函館』を使用）

と同じ造りと見られている。また高村は「かつては茂辺地川の渡し場から小館の下を経て、江差線の西側から丘陵に上り、矢不来館の西方に出る道路があった痕跡がある。（中略）少なくとも茂別館が陸路をもって矢不来館と一体に結ばれていたことは間違いないであろう。」（高村2000）と、陸路からのアプローチがあった可能性とその重要性を指摘している。この陸路側からの茂別館と矢不来館を結ぶフィールド調査が行われている（野村・石井・塚田2008）。調査により茂別館と矢不来館を結ぶ旧道（馬道）跡が確認された。双方の館をつなぐ旧道（馬道）は中世まで遡る可能性があることを示唆している（図Ⅰ－８）。

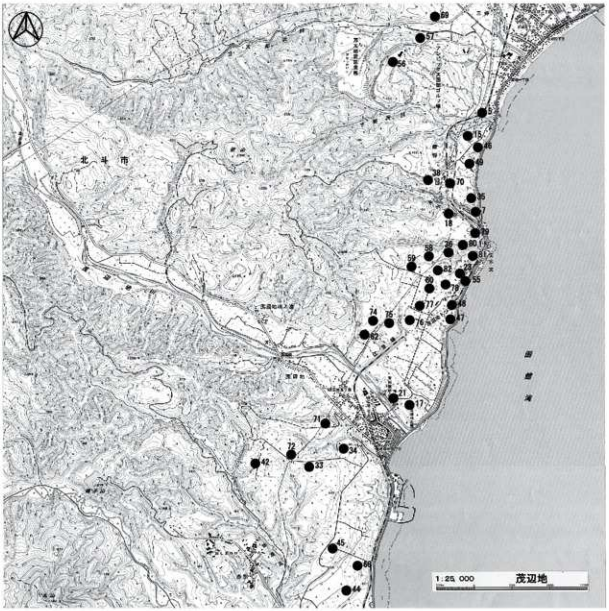
その後2010、2011年、弘前大学と愛知学院大学の合同調査グループが学術による発掘調査を行った（関根2010、2011）。矢不来館は下矢不来川と館の沢川に挟まれた海岸段丘上に築かれ、大手側が広く搦手側が狭い琵琶形の主郭に主要な機能が集中している。主郭の最奥部、もっとも高い場所に宗教施設を配置し、空堀を挟んでその先に墓域を形成する構造は勝山館に類似するという。2010年の調査



図Ⅰ－3　松浦武四郎『東西蝦夷山川地理取調図』より



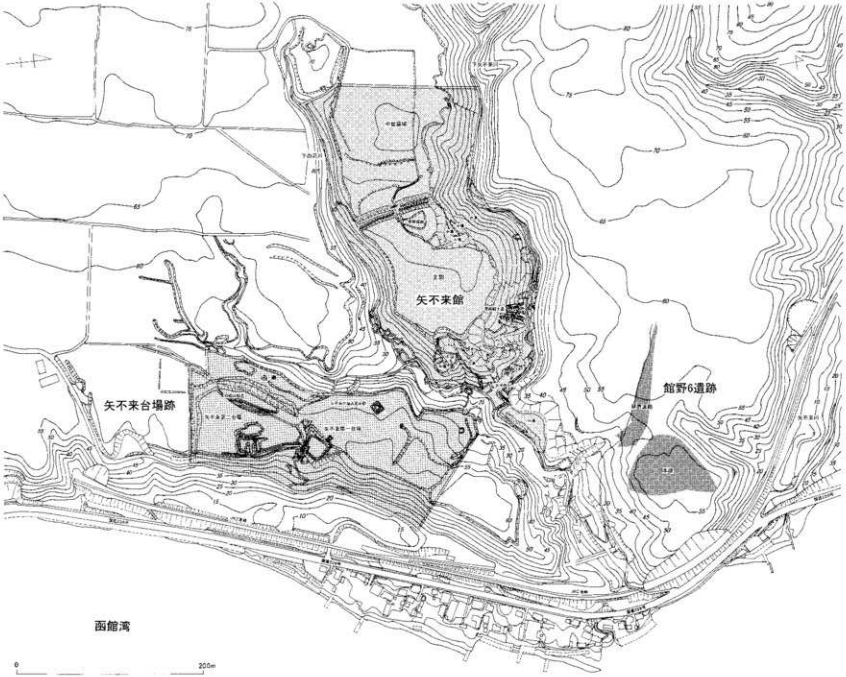
図Ⅰ－4　松浦武四郎『渡島日誌』その壱　より



図Ⅰ－5　周辺の遺跡（国土地理院２万５千分の１『茂辺地』を使用）

表Ⅰ－２　周辺の遺跡一覧

遺構番号	遺跡名	種別	所在地	立地	標高(m)	時期	調査・報告等
3－06－1	当別館	遺物散布地	当別	台地	10－30	縄文時代	函館市（1962）
3－06－2	ヲヂガイ遺跡	遺物散布地	鮫野	台地	10－15	縄文時代・晩期	明教寺（2000）
3－06－3	鮫野	遺物散布地	鮫野	海岸段丘	5－20	縄文時代・後期	北埋調報112（2002）
3－06－4	当別遺跡	集落跡	当別	海岸段丘	20－35	縄文早期・前期・後期末	北埋調報121
3－06－5	矢不来	遺物散布地	鮫野	古砂丘地	30－40	縄文中期	
3－06－6	茂辺地	集落	茂辺地	海岸段丘	5－30	1011－1127（平安）	
3－06－7	矢不来台場跡	台場跡	矢不来	海岸段丘	60	江戸	明教寺（1999）
3－06－8	茂辺地1	遺物散布地	茂辺地	海岸段丘	60－70	縄文中期・後期	
3－06－9	茂辺地2	遺物散布地	茂辺地	海岸段丘	35－50	縄文中期	
3－06－10	鮫野1	遺物散布地	鮫野	海岸段丘	30－37	縄文中期・晩期	北埋調報262
3－06－11	矢不来館跡	集落	矢不来	古砂丘地	15－40	中世	明教寺（2000）
3－06－12	鮫野2	遺物散布地	鮫野	台地	30	縄文中期	
3－06－13	当別川上ノ	遺物散布地	当別	台地	75	縄文後期	
3－06－14	当別4	遺物散布地	当別	海岸段丘	5	縄文後期	
3－06－15	茂辺地3	遺物散布地	茂辺地	海岸段丘	30－40	縄文	
3－06－16	釜谷砦跡	砦	釜谷	海岸段丘	5	中世	明教寺（1967）
3－06－17	矢不来1	遺物散布地	矢不来	海岸段丘	40	縄文前期・中期・後期末	北埋調報121
3－06－18	矢不来7(義経)	神社跡	矢不来	海岸段丘	15－40	中・近世・近代	北埋調報121
3－06－19	鮫野3	集落跡	鮫野	海岸段丘	5－15	縄文中期・後期	北埋調報121
3－06－20	矢不来4	集落跡	矢不来	海岸段丘	5－15	縄文	明教寺（1960）
3－06－21	横沢1	遺物散布地	横沢	海岸段丘	80－90	縄文早期・中期	
3－06－22	横沢2	遺物散布地	横沢	段丘前面	50	縄文早期・晩期	
3－06－23	矢不来5	遺物散布地	矢不来	海岸段丘	30	縄文中期・後期	
3－06－24	矢不来6	遺物散布地	矢不来	砂丘地	60	縄文中期	
3－06－25	矢不来11	集落跡	矢不来	台地	60－66	縄文早期・後期	北埋調報121・222
3－06－26	矢不来12	台場跡	矢不来	台地	60	江戸	
3－06－27	矢不来13	集落跡	矢不来	砂丘地	30－50	縄文早期・後期	北埋調報121
3－06－28	当別3	遺物散布地	当別	海岸段丘	5	縄文	
3－06－29	矢不来14	台場跡	矢不来	台地	60	江戸	
3－06－30	鮫野7	遺物散布地	鮫野	台地	15－20	縄文早期・後期	
3－06－31	鮫野8	集落跡	鮫野	海岸段丘	50－55	縄文早期・後期	
3－06－32	茂辺地4	遺物散布地	茂辺地	海岸段丘	70－80	縄文	明教寺（2002）
3－06－33	矢不来8	遺物散布地	矢不来	台地	30－35	縄文早期・後期末	北埋調報121
3－06－34	矢不来9	遺物散布地	矢不来	台地	60－75	縄文中期・後期	北埋調報121・222
3－06－35	矢不来10	遺物散布地	矢不来	台地	60－65	縄文	北埋調報121・222
3－06－36	矢不来15	遺物散布地	矢不来	台地	30－35	縄文中期・後期末	北埋調報121・222
3－06－37	矢不来16	遺物散布地	矢不来	海岸段丘	35－40	縄文早期	北埋調報121・222
3－06－38	鮫野9	集落跡	鮫野	海岸段丘	30－55	縄文早期・後期	北埋調報121
3－06－39	矢不来17	遺物散布地	矢不来	海岸段丘	5－15	縄文	北埋調報121
3－06－40	当別5	遺物散布地	当別	海岸段丘	5	縄文	
3－06－41	鮫野10	遺物散布地	鮫野	台地	15－25	縄文早期・後期	
3－06－42	鮫野11	遺物散布地	鮫野	海岸段丘	50－60	縄文早期・後期	
3－06－43	トヤノ下山A	遺物散布地	茂辺地	海岸段丘	50－55	縄文	
3－06－44	茂辺地5	遺物散布地	茂辺地	海岸段丘	70－80	縄文早期	明教寺（2002）
3－06－45	矢不来18	遺物散布地	矢不来	台地	30－35	縄文早期・後期末	北埋調報121
3－06－46	矢不来19	遺物散布地	矢不来	台地	60－75	縄文中期・後期	北埋調報121・222
3－06－47	矢不来20	遺物散布地	矢不来	台地	60－65	縄文	北埋調報121・222
3－06－48	矢不来21	遺物散布地	矢不来	台地	60－65	縄文	北埋調報121・222・272
3－06－49	矢不来22	遺物散布地	矢不来	海岸段丘	60－70	縄文	北埋調報121・222・272
3－06－50	矢不来23	遺物散布地	矢不来	海岸段丘	60－70	縄文	北埋調報121・222・272
3－06－51	鮫野12	遺物散布地	鮫野	海岸段丘	50－55	縄文早期・後期末	北埋調報121・222
3－06－52	当別6	遺物散布地	当別	海岸段丘	5－15	縄文	
3－06－53	矢不来24	遺物散布地	矢不来	台地	60－65	縄文	北埋調報121・222・272
3－06－54	矢不来25	遺物散布地	矢不来	台地	60－65	縄文	北埋調報121・222・272
3－06－55	矢不来26	遺物散布地	矢不来	台地	60－65	縄文	北埋調報121・222・272
3－06－56	矢不来27	遺物散布地	矢不来	海岸段丘	60－70	縄文	北埋調報121・222・272
3－06－57	鮫野13	集落跡	鮫野	海岸段丘	50－55	縄文早期・後期末	北埋調報121・222
3－06－58	当別7	遺物散布地	当別	海岸段丘	5－15	縄文	
3－06－59	鮫野14	集落跡	鮫野	海岸段丘	50－55	縄文早期・後期末	北埋調報121・222
3－06－60	矢不来28	遺物散布地	矢不来	海岸段丘	55－60	縄文中期・後期	北埋調報121・222・272
3－06－61	矢不来29	遺物散布地	矢不来	海岸段丘	55－60	縄文中期・後期	北埋調報121・222・272
3－06－62	矢不来30	遺物散布地	矢不来	海岸段丘	55－60	縄文中期・後期	北埋調報121・222・272
3－06－63	矢不来31	遺物散布地	矢不来	海岸段丘	55－60	縄文中期・後期	北埋調報121・222・272
3－06－64	矢不来32	遺物散布地	矢不来	海岸段丘	55－60	縄文中期・後期	北埋調報121・222・272
3－06－65	矢不来33	遺物散布地	矢不来	海岸段丘	55－60	縄文中期・後期	北埋調報121・222・272
3－06－66	矢不来34	遺物散布地	矢不来	海岸段丘	55－60	縄文中期・後期	北埋調報121・222・272
3－06－67	鮫野15	遺物散布地	鮫野	海岸段丘	50－55	縄文早期・後期末	北埋調報121・222
3－06－68	鮫野16	集落跡	鮫野	海岸段丘	50－55	縄文早期・後期末	北埋調報121・222
3－06－69	鮫野17	遺物散布地	鮫野	海岸段丘	50－55	縄文早期・後期末	北埋調報121・222
3－06－70	鮫野18	遺物散布地	鮫野	海岸段丘	50－55	縄文早期・後期末	北埋調報121・222
3－06－71	鮫野19	遺物散布地	鮫野	海岸段丘	50－55	縄文早期・後期末	北埋調報121・222
3－06－72	矢不来35	遺物散布地	矢不来	海岸段丘	55－60	縄文中期・後期	北埋調報121・222・272
3－06－73	矢不来36	遺物散布地	矢不来	海岸段丘	55－60	縄文中期・後期	北埋調報121・222・272
3－06－74	矢不来37	遺物散布地	矢不来	海岸段丘	55－60	縄文中期・後期	北埋調報121・222・272
3－06－75	矢不来38	遺物散布地	矢不来	海岸段丘	55－60	縄文中期・後期	北埋調報121・222・272
3－06－76	矢不来39	遺物散布地	矢不来	海岸段丘	55－60	縄文中期・後期	北埋調報121・222・272
3－06－77	矢不来40	遺物散布地	矢不来	台地	60－65	縄文	北埋調報121・222・272
3－06－78	矢不来41	遺物散布地	矢不来	海岸段丘	60－65	縄文	北埋調報121・222・272
3－06－79	矢不来42	遺物散布地	矢不来	海岸段丘	60－65	縄文	
3－06－80	鮫野6	集落跡	鮫野	海岸段丘	50－55	縄文早期・後期末	北埋調報121・222
3－06－81	鮫野20	遺物散布地	鮫野	海岸段丘	50－55	縄文早期・後期末	北埋調報121・222
3－06－82	矢不来43	遺物散布地	矢不来	海岸段丘	55－60	縄文中期・後期	北埋調報121・222・272
3－06－83						縄文中期・後期	（1次調査（2004調査）未刊）



図Ⅰ－6　矢不来館・矢不来台場跡・館野6遺跡「遺跡現状図」（上磯町教委2001）に加筆

図Ⅰ－7　茂別館跡周辺要図（高村2000より）

図Ⅰ－8　旧道（馬道）位置図（野村他2008に加筆）

では主郭の最奥部、三重の堀に面した最も高い場所を発掘し、土墨状の高まりと主郭の中心部と見られる部分を検出した。遺構の形態から新旧の２時期あり、古くは柵木列、新しいのは土墨に塀が廻っていたという。出土した遺物は銅製の仏具や茶器などが目立ち、日常雑器が著しく少ない。館主は下国安東氏と考えられている。遺物などはその殆どが火事か何かで焼けた痕跡があり、陶磁器から15世紀後半台の比較的短期間に収まる可能性が高く、15世紀末・16世紀初め頃焼失したと判断されている。翌年、主郭の中心部を発掘調査し、墓が２基検出されている。墓からは埋葬品として用いられる銅銭のほか、１基からは小刀や朱塗りの椀、複数の鉄釘が、もう１基からは日本刀の鍔を固定する「はばき」が出土した。これらの墓は館主のような中心人物である可能性が高いとしている。この調査により、館跡の規模と出土品から下国安東氏は、コシャマインの戦を経た15世紀後半の段階でなお、政治・経済的に上ノ国を本拠とする蠣崎氏を上回る勢力を保持していた可能性が高いものと推測している。

「矢不来」という地名は、『北海道蝦夷語地名解』（永田1984）によると「ヤンゲ・ナイ　yanngenai 陸揚げ場　船ヨリ荷物ヲ揚ゲル処」とある。また、矢不来天満宮の『天満宮縁起』によるとコシャマインの戦のときアイヌの毒矢が一本も届かなかったことから地名カムイヤンゲナイから文字を矢不来と改めたとしている。

道南十二館を中心としてアイヌ民族を支配し、経済基盤の強化を行なった下国安藤氏であれば、地名由来にもなったヤンゲ・ナイ、船で荷揚げなどの物流・経済活動が行なわれたことも想定でき、またアイヌ民族に対し“矢も届かない”と牽制したとも考えられる。下国安藤氏とアイヌ民族との緊張状態や室町幕府との強い関連を示す考古学資料は、先の2010年以降に調査を行った弘前大学・愛知学院大学の研究成果で明らかになっていくと考える。（袖岡）

6．遺跡周辺の地形

遺跡周辺の地形は主に海成段丘から構成される。この海成段丘は現在の海岸線とほぼ平行に発達し、また、その背後には丘陵が発達している。丘陵は矢不来川、下矢不来川、下の沢川などの源となり、さらに、これらの川、沢が丘陵、段丘を細かく開析することによって、複雑な地形をかたちづくっている。

海成段丘は、特に遺跡周辺においては数段に分類することが出来、ひなだん状に発達している。図Ⅰ－９は遺跡周辺の地形分類図で、空中写真判読により確認できた段丘面について、宮内・八木（1984）分類を照合し作成したものである。各段丘面の特徴は以下の通りである。

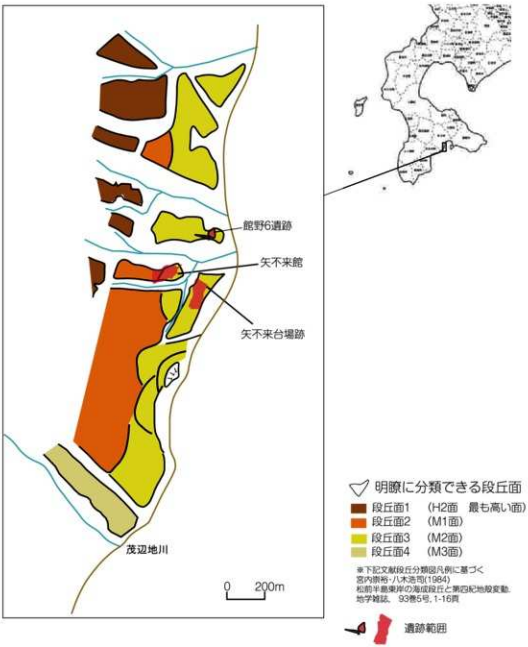
段丘面１　高度60～120mにある。宮内・八木分類のＨ２面にあたり、幅１kmとされる。

段丘面２　高度50～80mにある。宮内・八木分類のＭ１面にあたり、幅約500mとされる。遺跡周辺などを除く一部不明瞭な部分もあるが、図化した範囲内のほぼ全域で確認することが出来た。段丘面１との間は急崖を介している。

段丘面３　高度15～70mにある。宮内・八木分類のＭ２面にあたり、幅500mとされる。図化した範囲内のほぼ全域で確認することが出来た。また、段丘面２との間はわずかな起伏の差のみであった。海岸寄りの一部では地すべりの跡も認められた。

段丘面４　高度10～38mにある。宮内・八木分類のＭ３面に当たる。段丘面３との間は比高差数mの急崖を介している。茂辺地川に面する部分にのみ見られ、河成段丘とも考えられる。

遺跡は最も低い海寄りの段丘面（段丘面３）上に位置する。周辺の矢不来館や矢不来台場など縄文時代～近現代にいたる遺跡群も、本遺跡と同様にこの段丘面３上に位置し、細かく開析されて部分的になった平坦面上に立地する。背後には段丘面１にいたる緩やかな斜面が続いている。　（藤井）



図Ⅰ－9　遺跡周辺の地形分類図

Ⅱ章　調査の方法

1．グリットの設定と座標値

館野６遺跡のグリット設定にあたっては、国土交通省北海道開発局函館開発建設部が作成した「函館江差自動車道上磯町館野矢不来間用地測量用地平面図」１／1,000図を基本図として使用し、路線内の測点SPを基準点として用いている（図Ⅱ－１）。いずれも遺跡内やその近くにある測点SPを２ヶ所直線で結びグリットラインの基軸とし、それに直交するラインを設け４ｍ×４ｍの方眼を発掘区に設定している（図Ⅱ－２）。測点SPに並行するラインにアラビア数字を用い、直交するラインにはアルファベットの大文字を使用した。なお、測量成果は平面直角座標系ⅩⅠ系の値（世界測値系）である。以下に測点と設定の基準を示す。

測点SP14,400－SP14,500間を20ライン、SP14,400に直交するラインをＭとして発掘区にグリット設定。なおSP14,400及びSP14,500の測量成果及び水準測量に使用した基準点は、つぎのとおりである。

SP14,400（20Ｍ杭）	Ｘ＝－245,525.262	Ｙ＝30,528.574
SP14,500	Ｘ＝－245,623.291	Ｙ＝30,508.914

2．発掘調査の方法と経過

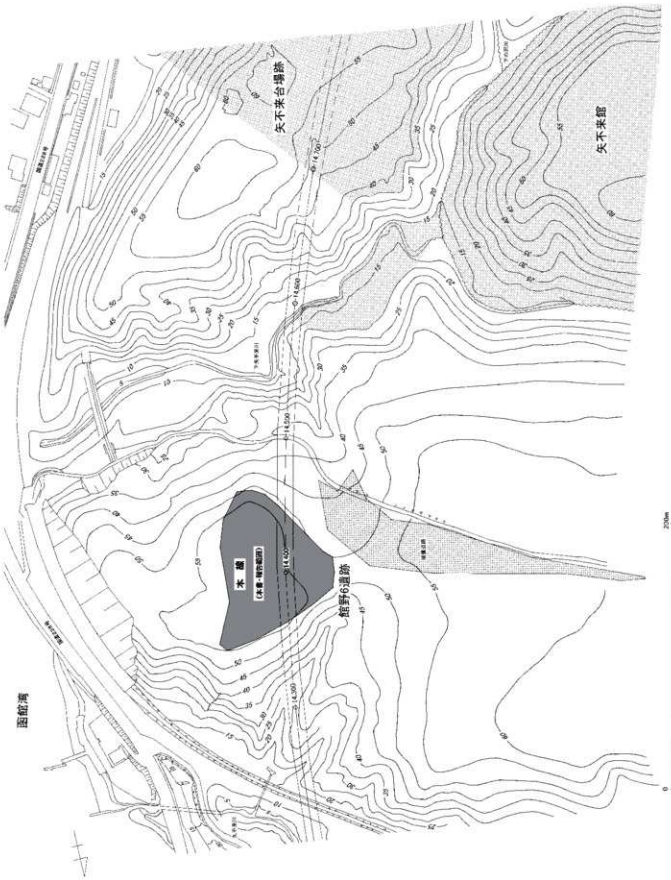
館野６遺跡（本線部分）は海岸線から直線距離で約200ｍ、標高50～60ｍの海岸段丘上に位置する。

函館湾に突き出した形を呈する海岸段丘の北を矢不来川、南を下矢不来川に挟まれ、さらにこの二つの川に向かい、西側に比高差30～40ｍの沢が２条走り、調査区は独立した平坦面になっている。ここでは主に縄文時代前期後半、円筒土器下層ｂ式相当と縄文時代中期前半、サイベ沢Ⅶ式相当の竪穴式住居跡を中心とする遺構・遺物が検出された。遺物の総点数は119,462点（表Ⅲ－２・７参照）である。

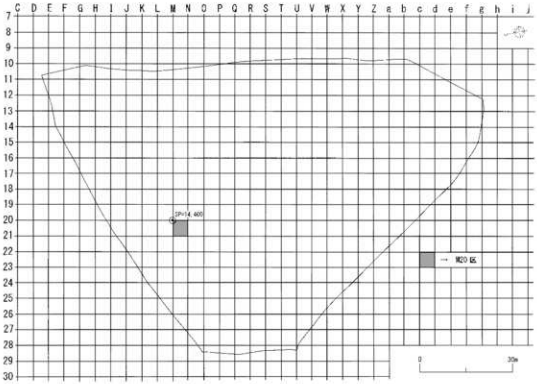
調査区の後背、標高55～60ｍのところには同遺跡で平成21年度に調査を行った補償道路部分がある。調査の結果、矢不来川に向かって伸びる沢に面した段丘の縁と、下矢不来川に向かう沢に面した台地の馬の背状になる尾根部分に円筒土器下層式期の集落跡と盛土遺構が検出された。遺物点数は100万点以上になるとみられ、本報告は平成26年度以降の予定である。下矢不来川の対岸には中世の矢不来館、近世の矢不来台場跡がある（図Ⅱ－１）。

本線部分の調査を行うにあたり、降雨により排土等が海へ流出し沿岸の磯で営まれている布海苔・ひじきなど養殖事業への漁業被害を防ぐため、調査区の周囲に側溝を設定（図Ⅱ－３）、先にこの側溝調査を開始した。海に面する西側の側溝は垂直に掘らず、法面にして調査を行った。また、ここに流れる濁水処理の沈砂地を設けるため、工事立会も行なった。

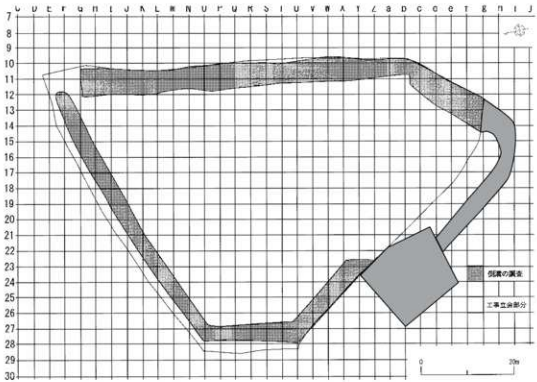
側溝の調査では縄文時代の遺構・遺物のほか、当初は近・現代の畑跡と考えられる遺構を検出した。この遺構はＢ－Ｔｍ火山灰を溝状に掘られていたため、調査区上面ではこの畑状の遺構検出・撮影・測量した。しかし、この地域では近年、杉の植林が大規模に行なわれており、その痕跡を畑と誤認したと判断、未掲載とした。この後、15ラインより東の海側は竪穴住居を想定した落ち込みをいく



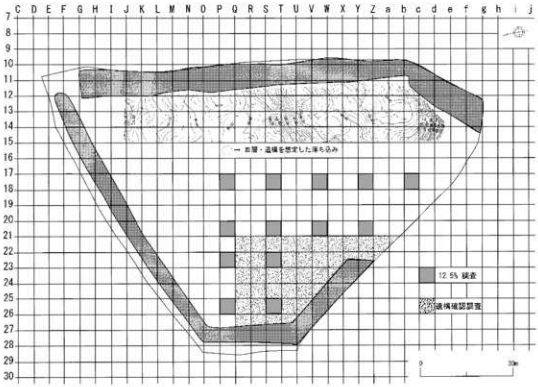
図Ⅱ－1　遺跡周辺の地形



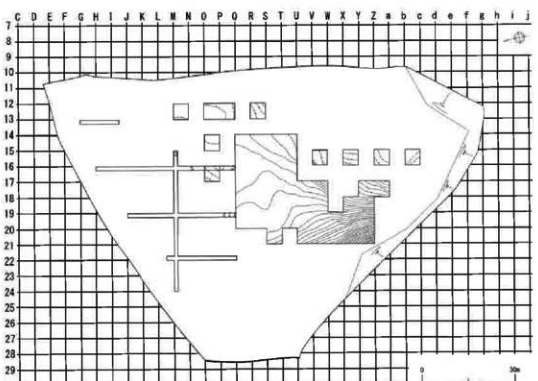
図Ⅱ－2　グリット設定図



図Ⅱ－3　濁土処理用側溝と沈砂地用地



図Ⅱ－4　調査の方法(1)



図Ⅱ－5　調査の方法(2)

つか検出し、Ⅲ層面の地形測量を行った。また15ラインより山側はこのうちの12.5%を調査した。トレンチ調査と12.5%の調査結果から21ラインとRラインが交差する南西側は急斜面で遺物包含層が薄く、遺構・遺物の検出が見られなかったため重機による遺構確認調査とした（図Ⅱ－４）。調査区の南西端は沢に向かい崖になっており、ローム層が剥き出しになっていた。人力の及ぶ範囲で精査したが遺構・遺物の検出は無かった。

包含層調査ではⅣ層から縄文時代早期の遺物が検出された。遺物が検出された周辺とトレンチ調査を中心にⅣ層を掘り下げ、縄文時代早期の遺構・遺物の調査を行った（図Ⅱ－５）。

排土について、調査区では先に述べたとおり独立した段丘であり、排土の置き場に適したところが無かった。排土は調査区内に仮置きし、溜まると重機とダンプで排出するといった方法を取った。

写真撮影

現場での写真撮影は主に以下の機材を使用した。

カメラ	マミヤ　RZ67ProⅡ
レンズ	マミヤ・セコール50㎜Ｆ4.5
	マミヤ・セコール65㎜Ｆ４Ｌ－Ａ
	マミヤ・セコール90㎜Ｆ3,5㎜Ｆ3.5W
	マミヤ・セコールマクロM140㎜Ｆ4.5m／Ｌ－Ａ
フィルター	UV
三脚	クイックセット　ハスキー３段
フィルム	フジクローム　プロビア400
	フジクローム　ネオパン400
レフ版	
デジタルカメラ	

３．整理作業の方法

(1)　一次整理

平成20年度は発掘調査を優先し、出土遺物の水洗・整理作業は翌年に行なう予定になっており、遺物は北斗市内で保管した。平成21年度には５月に開始予定の調査（補償道路部分）が、用地買収遅延に伴う準備工の遅れにより一次整理作業を先行、水洗・分類・注記作業・遺物台帳作成をおこなった。

台帳については紙に手書きのものを作成しパソコンに入力、整合性をチェックしたのち集計等の作業を行った。注記については、包含層が「遺跡名．グリット．層位」（記入例：タテ６．Ｈ７．Ⅲ）、遺構については「遺跡名．遺構番号．層位．遺物番号」（記入例：タテ６．Ｈ－3.フク土．16）と記入した。遺物台帳については手書きのものを作成し、パソコンに入力した。遺構からサンプル採取を行った土壌については台帳を作成しフローテーション作業を行った。現場写真はリバーサル、モノクロフィルムを同一カットでそろえた写真台帳を作成した。

これらの遺物・記録類は江別市の北海道埋蔵文化財センター作業棟に搬送し平成22年11月より二次整理作業を開始した。

(2) 二次整理

土器は遺構出土のもの、包含層出土のものをそれぞれ分類ごとに接合作業を行った。復元できたもの、遺構の時期が判断できるもの、遺跡において遺物の時期と特徴がわかるものを掲載遺物とした。

(3) 室内撮影

二次整理後の報告書掲載遺物は室内にて撮影をし、写真図版を作成した。

室内での写真撮影は以下の撮影機材を使用した。

カメラ	トヨ　トヨビュー45GX
レンズ	ニコン　ニッコールAM　ED210F5.6
トヨ	無影撮影台
ストロボ	コメット CA3200
	発光部（32H）
デフューサー	ライトバンク・アンブレラ
フィルム	コダック　T－MAX100
	コダック　エクタクローム100G
デジタルカメラ	

スタジオ撮影した台帳はパソコンに入力し、被写体による検索が可能なデジタルデータベースとして管理している。

(4) 記録類・遺物の収納・保管

現場で記録した図面類は遺構と包含層とに分け管理番号を与え収納した。報告書作成のため現場の記録類を整理し浄書した図も同様にした。遺物は二次整理後、報告書に掲載したものと未掲載のものに分け、報告したものに関しては掲載番号を記し、収納した。

4．遺物の分類

(1) 土　器

縄文時代をⅠ～Ⅴ群、続縄文時代をⅥ群、擦文時代をⅦ群と大別し、下記の分類基準を用いて行なった。

Ⅰ群　縄文時代早期に属する土器群

a類：貝殻文、貝殻条痕文が施されているもの。

b類：撚糸文、組紐圧痕文、絡条体圧痕文、貼付文、縄文が施されているもの。

Ⅱ群　縄文時代前期に属する土器群

a類：丸底、尖底を主体とするもの（出土していない）。

b類：円筒土器下層式に相当するもの。

Ⅲ群　縄文時代中期に属する土器群
　a類：円筒土器上層式、サイベ沢Ⅶ式、見晴町式に相当するもの。
　b類：榎林式、大安在B式、ノダップⅡ式、煉瓦台式に相当するもの（出土していない）。

Ⅳ群　縄文時代後期に属する土器群
　a類：天祐寺式、涌元式、トリサキ式、大津式、白坂３式に相当するもの。
　b類：ウサクマイC式、手稲式、ホッケマ式、エリモB式に相当するもの（出土していない）。
　c類：堂林式、三ツ谷式、御殿山式、湯の里３式に相当するもの（出土していない）。

Ⅴ群　縄文時代晩期に属する土器群
　a類：大洞B式、大洞BC式、上の国式に相当するもの（出土していない）。
　b類：大洞C１式、大洞C２式に相当するもの。
　c類：大洞A式、大洞A′式に相当するもの（出土していない）。

Ⅵ群　続縄文時代に属する土器群
　恵山式に相当するもの。

Ⅶ群　擦文時代に属する土器群（出土していない）。

土製品　器としての機能をもたない、粘土や土器片を用いて焼成・加工を施したもの。
　　鐸形土製品、土偶、土製円盤が出土している。

　中世～近世にかけての陶磁器・金属製品・木製品（出土していない）。　（袖岡）

(2)　石　器

石　鏃：押圧剥離や平坦剥離により調整している尖頭形のもので、５㎝未満のもの。
石槍またはナイフ：押圧剥離や平坦剥離により調整している尖頭形のもので、５㎝以上のもの。
石錐：端部に錐状の突出部を作り出しているもの。
つまみ付ナイフ：ノッチ状の加工により端部につまみ部を作り出しているもの。
スクレイパー：剥片を素材とする、調整剥離面が側縁に連続しているもの。
両面調整石器：剥離が両面に施されるが明瞭な尖頭形ではないもの。
Rフレイク：剥片を素材とする、不規則で散漫な剥離を加えた不定形のもの。
Uフレイク：剥片を素材とする、使用痕跡と考える、微細剥離や潰れ痕、光沢があるもの。
石核：剥片もしくは礫を素材とする、石器の素材となりえる大きさ・形状の剥片を剥離した痕跡が複数あるもの。
石斧：剥片もしくは礫を素材とする、敲打・打ち欠き・研磨により整形している、斧状の刃部があるもの。
擦切り残片：擦切り技法により発生した、整形されない切り取られた部分。
扁平打製石器：扁平な礫を素材とする、周囲もしくは端部を打ち欠き、楕円・半円・長方形を呈するもので、下面に幅の狭い擦痕があるもの。

北海道式石冠：分厚い礫を素材とする、敲打・打ち欠きにより石冠様の形状に整形している、下面に幅の広い擦痕があるもの。器体中央部には帯状の凹みが巡る。

すり石：礫を素材とする、能動的な擦痕があるもの。

たたき石：礫を素材とする、能動的な敲打痕があるもの。

石　錘：礫を素材とする、端部の一部を打ち欠くもの。

台石・石皿：礫を素材とする、受動的な擦痕もしくは敲打痕があるもの。

原石：剥片石器または石斧の素材を供給する石材の礫。素材剥片の剥離は行われていないか、もしくは不明瞭なもので、石器の原材料とみられるもの。

石製品：特異な形態を呈するもの。　（佐藤　剛）

5．土層の区分

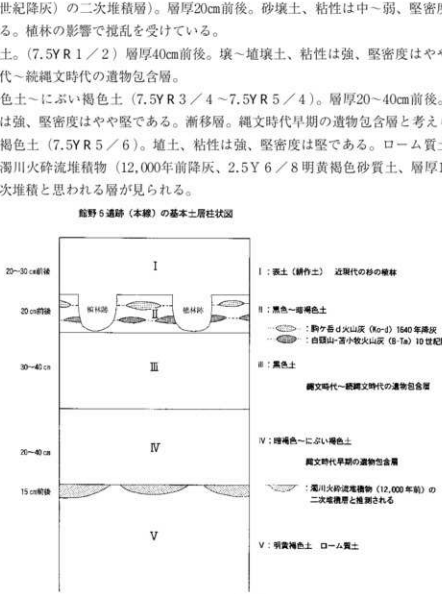
Ⅰ層：表土。層厚20～30cm前後。近・現代に行なわれた杉の植林によって耕作を受けている層。

Ⅱ層：黒色土～褐色土層（黒色土と Ko－ｄ（1,670年降灰）火山灰、Ｂ－Ｔｍ白頭山－苫小牧火山灰（10世紀降灰）の二次堆積層）。層厚20cm前後。砂壌土、粘性は中～弱、堅密度はしょう～軟である。植林の影響で撹乱を受けている。

Ⅲ層：黒色土。（7.5Ｙ Ｒ １／２）層厚40cm前後。壌～埴壌土、粘性は強、堅密度はやや堅である。縄文時代～続縄文時代の遺物包含層。

Ⅳ層：暗褐色土～にぶい褐色土（7.5Ｙ Ｒ ３／４～7.5Ｙ Ｒ ５／４）。層厚20～40cm前後。埴壌～埴土、粘性は強、堅密度はやや堅である。漸移層。縄文時代早期の遺物包含層と考えられる。

Ⅴ層：明黄褐色土（7.5Ｙ Ｒ ５／６）。埴土、粘性は強、堅密度は堅である。ローム質土。Ⅴ層上面で稀に濁川火砕流堆積物（12,000年前降灰、2.5Ｙ ６／８明黄褐色砂質土、層厚10～15cm前後）の二次堆積と思われる層が見られる。　（袖岡）



図Ⅱ－６　土層柱状図

Ⅲ章　遺構と遺物

1．遺　　構

(1)　住居跡

H－1（図Ⅲ－4・5　図版12・13）

位置・立地：16・17H、16Ⅰ区、東側の高い傾斜のある台地の縁で、北側は沢に面する崖縁にあたる。

確認・調査：排水路を設置するため先行して調査を行った。排水路側のⅢ層を精査し検出したため、排水路予定部分の南側を拡張し調査を行った。

覆　　土：覆土1はⅢ層に対応する土層である。覆土2は黒色土とロームの混合土で流れ込みと考えられる。壁際の覆土8は三角堆積で柱穴HP1の直上が柱状に別な土が堆積していることから、この柱が覆土8の堆積後まで残ったことが推定される。

構　　造：五角形に近い平面形を呈し、床はⅤ層に掘り込まれ平坦である。柱穴の配置や傾きから沢に面した北側の高い片寄棟の形態とも取れる。

付属施設：北側の壁に近い位置にHF1とした長方形の焼土層を含む堀込が北側にあり、中に深さ45cmで底の平らな柱穴がある。壁に近いことや柱穴のあること、覆土が粒状の焼土や黒土であることから他の場所で焚いた焼土を入れた可能性がある。北東の壁際には深さ25cmで底の平らな柱穴が単独である。床の柱穴痕は中心よりに底の窄まるHP6とHP11の2か所あり、東西と南側の壁に中央を向くように斜めに柱穴痕があり傍の壁際に直立する柱穴痕もある。

遺物出土状況：Ⅱ群b類土器がHF覆土上から3点出土している他、覆土の上・中・下から361点出土している。Ⅲ群a類土器が覆土上・中から10点視出土しているが混入と考えられる。石鏃・両面調整石器・被熱礫片各1点が覆土したから出土しているが、床および、HF各層からはR・Uフレイクやフレイクが出土しているのみである。

時　　期：出土した遺物から縄文時代前期Ⅱ群b類土器の時期の住居と考えられる。　　（谷島）

H－2（図Ⅲ－6・7　図版14～16）

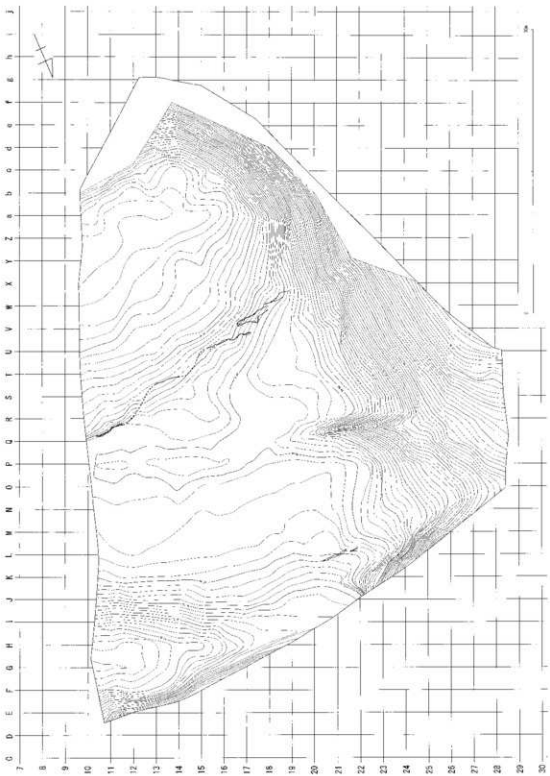
位置・立地：21～23N・O区

確認・調査：Ⅲ層上面を精査し、Ⅱ層の大きな落ち込みを検出した。観察用の土層断面を北東－南西方向と北西－南東方向に設定したが、平面形が落ち込みの2倍以上の広がりを持っており堆積の観察にはやや不都合な位置となった。

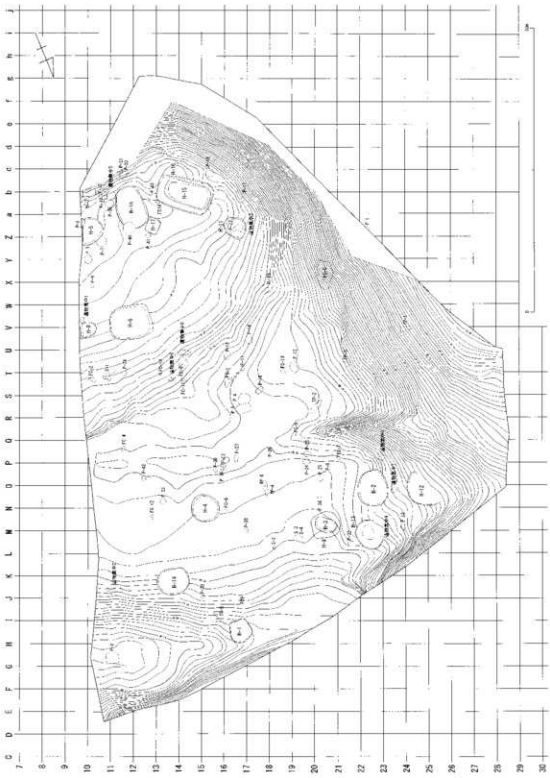
覆　　土：覆土1～3はⅡ層に、4はⅢ層に対応する。覆土6が遺物取り上げ時の「覆土下」である。壁側はロームとほぼ類似した土が厚く堆積していた。

構　　造：南北に長い楕円形を呈し、床はⅤ層に掘り込まれ平坦である。東側の掘り込み面と床との差が大きいところで約80cmである。主柱穴痕は4か所で北東側にHP1、南東側にHP5、南西側にHP4、北西側にHP15がある。北側2か所はほぼ直立し、南側2か所は竪穴中央向きに傾斜している。この配置から推定すると、沢に面した北側の高い片寄棟であった可能性も有る。

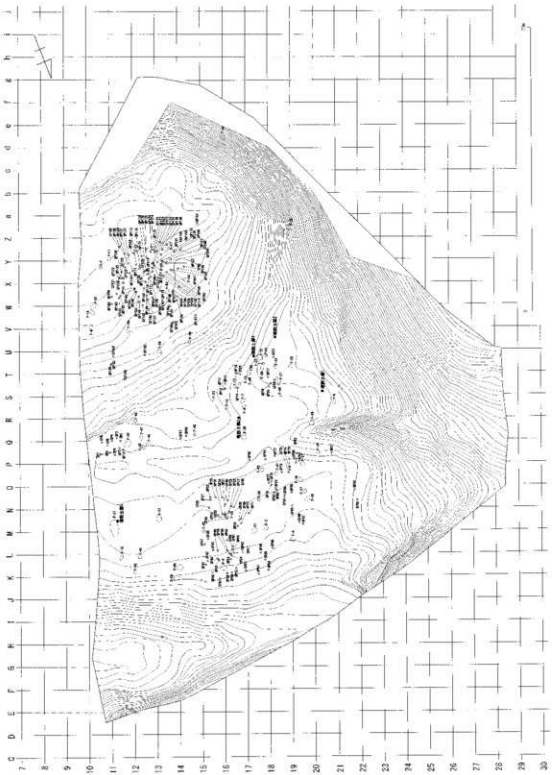
付属施設：住居の中央に焼土のHF1がある。覆土下位からの検出である。ここからフローテーションサンプルで得られた炭化物について、放射性炭素年代測定（AMS）と樹種同定を行なった（第Ⅳ章1・2）。放射性炭素年代測定については、4,470±30yrBPという結果が得られた。この周辺にはⅢ群a類土器が1個体（図Ⅲ－92－2）が潰れた状態で出土しており、調査の年代観と一致する。樹



図Ⅲ－1　最終面の地形と地滑りによる地割れ跡



図Ⅲ－２　遺構の位置(1)


C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z a b c d e f g h i
7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

図Ⅲ－３　遺構の位置(2)

種同定については、コナラ属コナラ節という結果が得られた。

HF１の周辺には底の平らな浅い柱穴痕が穿たれている。HP１とHF１の間に浅い溝状のHP12とHP13がある。

遺物出土状況：Ⅱ群ｂ類土器が床から55点出土している他、覆土等各層から約850点が出土している。Ⅲ群ａ類土器232点、Ⅳ群ａ類土器31点も覆土各層から出土している。石器は床からスクレイパー・両面調整石器・扁平打製石器・Ｒフレイクが各１点と砥石７点などが出土している。

時　　期：出土した遺物から縄文時代前期Ⅱ群ｂ類土器の時期の住居と考えられる。　（谷島）

Ｈ－３（図Ⅲ－８・９　図版17・18）

位置・立地：20M区

確認・調査：Ⅲ層上面にⅡ層の落ち込みを検出し、この中央を直行するように土層観察用の土手を残し、周囲を掘り下げ平面形の確認に努めた。西側は大きな風倒木痕があり判然としないが他の部分はほぼ半分の深さで床面の深さの変わるところだったため、土層を確かめＨ－３がそれより平面形の大きなＨ－８の床面を切っていることが判明した。

覆　　土：壁際に黒褐色埴壌土、床は黒色埴壌土が堆積している。

構　　造：Ｈ－８が埋もれた後、その床を貫いて入れ子になっている。南東から北西が長軸の長円形を呈する。床面はⅤ層に掘り込まれ、ほぼ平坦、堀込からの深さは１ｍ弱である。

付属施設：小柱穴状の土坑５か所と焼土を２か所（HF１・２）検出した。この住居跡に伴う炉跡と判断したHF２について、放射性炭素年代測定（AMS）と樹種同定を行なった（第Ⅳ章１・２）。放射性炭素年代測定については、4,160±30yrBPという結果が得られた。調査で判断した年代観と異なる結果であり、縄文時代中期以降の可能性もある。樹種同定ではコナラ属コナラ節という結果が得られた。

遺物出土状況：床からⅡ群ｂ類土器が71点、Ⅳ群ａ類土器が２点、覆土上・中・下等各層からⅠ群ｂ類１点、Ⅱ群ｂ類土器534点、Ⅲ群ａ類土器14点、Ⅳ群ａ類土器88点が出土している。石器は床から両面調整石器１点、扁平打製石器３点、石斧片１点、フレイク14点、被熱礫３点、礫・礫片38点が出土している。

時　　期：出土した遺物から縄文時代前期Ⅱ群ｂ類土器の時期の住居と考えられる。　（谷島）

Ｈ－４（図Ⅲ－10・11　図版19～21）

位置・立地：14・15M・N区

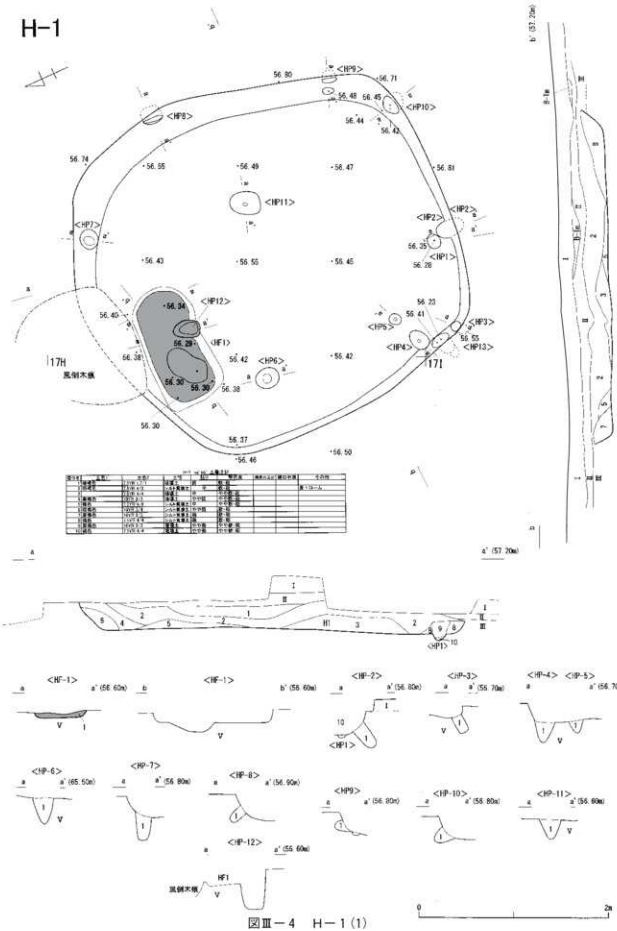
確認・調査：Ⅲ層を精査し周囲より黒い落ち込みを検出した。東西、南北方向に土層観察用の土手を残し、周囲を掘り下げ平面形の確認に努めた。

覆　　土：覆土は上中下３枚に別れ、黒色壌土～黒褐色埴壌土である。

構　　造：円形を呈し、床はⅤ層上部に掘り込まれて平坦である。

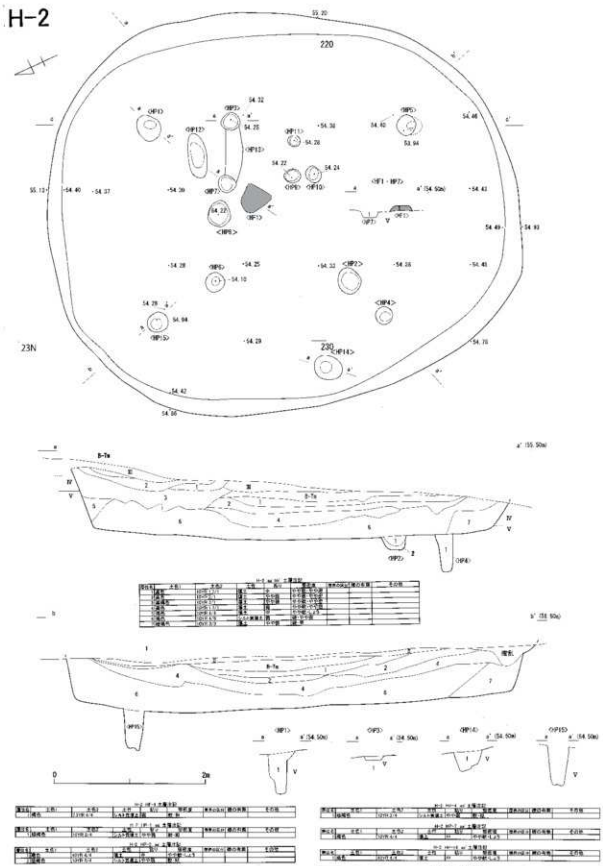
付属施設：焼土HF１が西側の壁近くにあり、HF２とHF３は東側の野壁近くにある。中央のHP８は平面形が円形で断面は半円である。HP７とHP９が床面から約30cmと深さがあるほかの柱穴痕は10～15cmで底が平らなものである。

遺物出土状況：焼土と覆土下からⅡ群ｂ類土器が13点出土し、覆土上・中層等からⅡ群ｂ類土器390点、Ⅲ群ａ類土器15点、Ⅳ群ａ類土器５点、Ⅴ群ａ類土器10点、Ⅵ群土器２点が出土している。石器は焼土と覆土下を除いた覆土各層から石鏃、スクレイパー、たたき石、扁平打製石器、フレイクなど

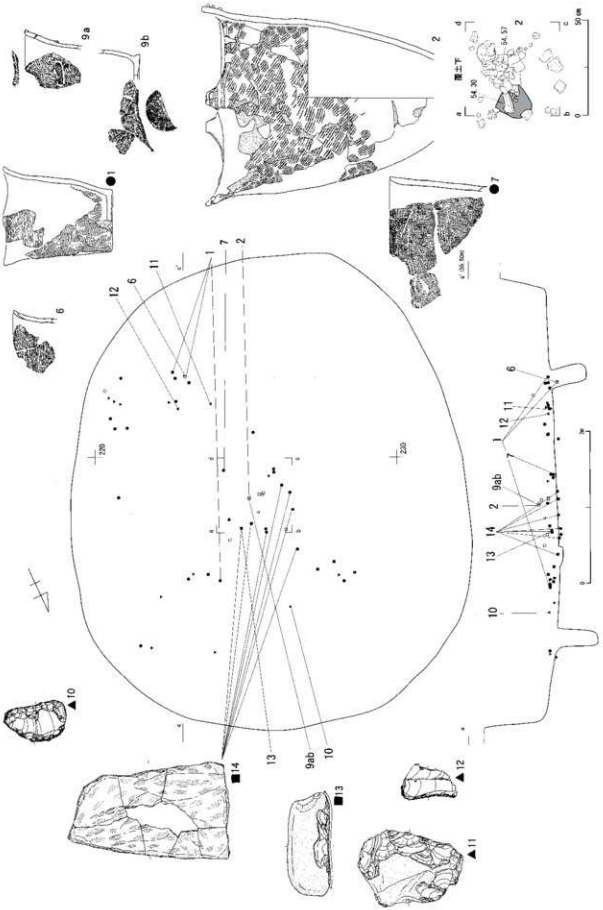

H-1
<HP8>
<HP9>
<HP10>
<HP11>
<HP7>
<HP2>
<HP1>
<HP12>
<HP3>
<HP5>
<HP4>
<HP13>
<HP6>
<HF1>
17H
17I
風倒木痕
a' (57.70m)
b' (57.20m)
<HP1>
<HF-1>
a' (56.60m)
b' (56.60m)
<HF-2>
a' (56.80m)
<HP-3>
a' (56.70m)
<HP-4>
<HP-5>
a' (56.70m)
<HP-6>
a' (65.50m)
<HP-7>
a' (56.80m)
<HP-8>
a' (56.90m)
<HP9>
a' (56.80m)
<HP-10>
a' (56.80m)
<HP-11>
a' (56.60m)
<HP-12>
a' (56.60m)
HF1
風倒木痕
0
2m

図Ⅲ－4　H－1 (1)

| | | |

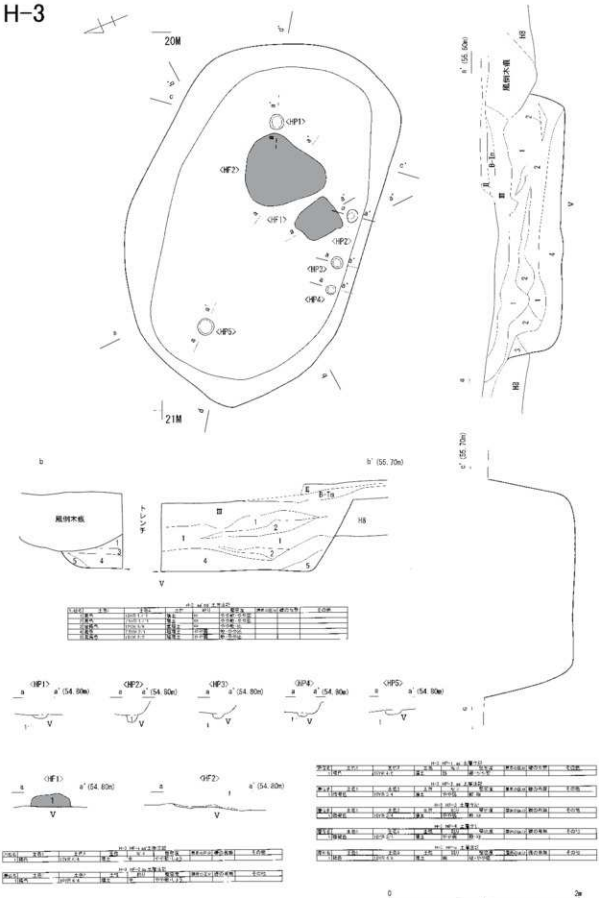


図Ⅲ－6　H－2 (1)

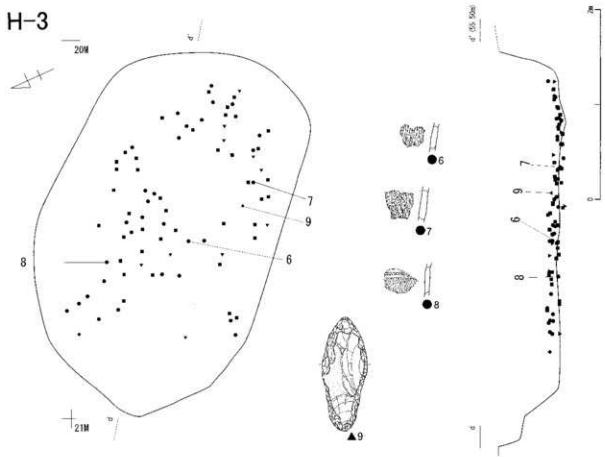

9a
9b
1
6
7
2
12
11
1
7
2
6
12
11
1
9ab
2
14
13
10
13
9ab
10
14
13
12
11
10
表土下
54.30
54.57
2
9a
9b
6
7
1
2
9ab
10
11
12
13
14

図Ⅲ－7　H－2 (2)

H−3


20M
21M
<HP1>
<HP2>
<HP3>
<HP4>
<HP5>
<HF1>
<HF2>
H8
b' (55.70m)
c' (55.70m)
a' (54.80m)
0
2m

図Ⅲ−8　H−3 (1)



図Ⅲ－9　H－3 (2)

が出土している。

時　　期：出土した遺物から縄文時代前期Ⅱ群ｂ類土器の時期の住居と考えられる。　（谷島）

Ｈ－５（図Ⅲ－12・13　図版22・23）

位置・立地：９・10Ｙ・Ｚ　調査区南側の平坦面

確認・調査：側溝部分のⅤ層上面を精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。周辺にも暗褐色土の落ち込みがあり、遺構の切り合いを想定しベルトを設定した。平坦な床面、炉跡、柱穴を検出し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層中と考える。土層の観察により、Ｈ－５はＰ－７より新しく、Ｐ－９より古い。Ｈ－５の範囲は調査範囲外に広がっている。

覆　　土：自然堆積である。

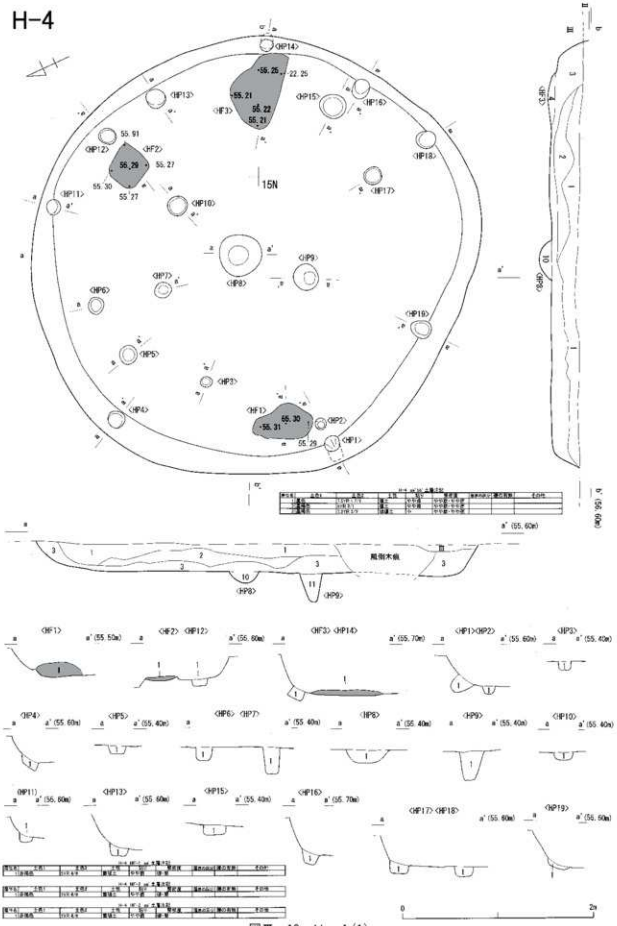
構　　造：平面形は全体の３／４ほどの確認で、隅丸長方形または五角形の可能性がある。床面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

付属施設：HF－１は中央に位置する不整形の地床炉である。HP－１～３は主柱穴と考える。HP－１・２は近接することから主柱穴の改変が行われた可能性がある。

遺物出土状況：144点出土した。遺物は、１層は１層、２・３層は２層として取上げた。床面出土の遺物は少ない。

時　　期：床面出土のⅢ群ａ類土器から縄文時代中期前半である。　（佐藤）

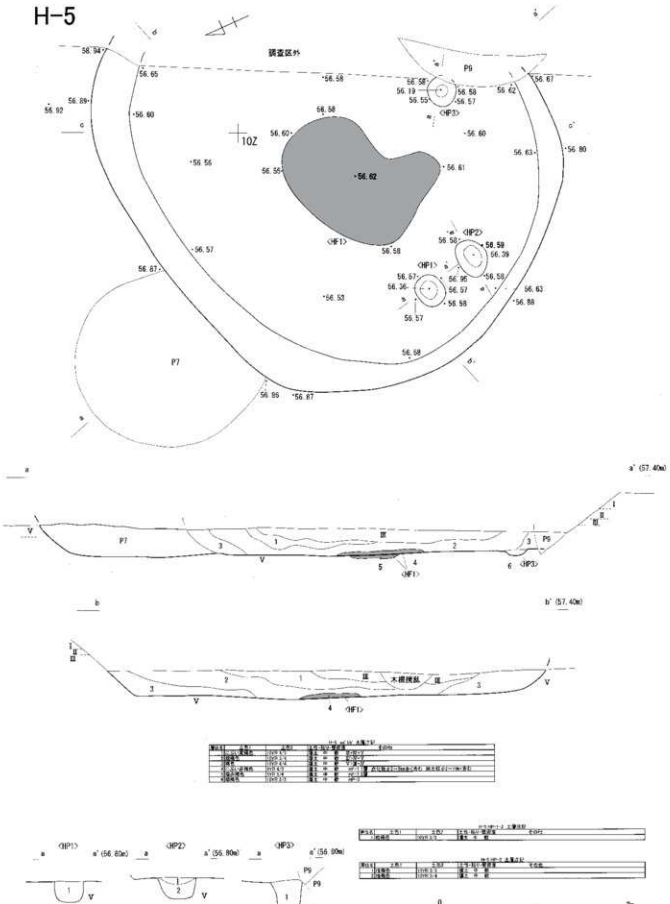
H-4


15N
<HP14>
<HP13>
<HP15>
<HP16>
<HP12>
<HP11>
<HP10>
<HP17>
<HP18>
<HP9>
<HP8>
<HP7>
<HP6>
<HP19>
<HP5>
<HP3>
<HP4>
<HP1>
<HP2>
<HF1>
<HF2>
<HF3>
55.25
22.25
55.21
55.22
55.21
55.91
56.29
55.27
55.30
55.27
55.30
55.31
55.29
(56.60m)
a' (55.60m)
<HP8>
<HP9>
<HP1>
a' (55.50m)
<HP2> <HP12>
a' (55.60m)
<HP3> <HP14>
a' (55.70m)
<HP1> <HP2>
a' (55.60m)
<HP3>
a' (55.40m)
<HP4>
a' (55.60m)
<HP5>
a' (55.40m)
<HP6> <HP7>
a' (55.40m)
<HP8>
a' (55.40m)
<HP9>
a' (55.40m)
<HP10>
a' (55.40m)
<HP11>
a' (56.60m)
<HP13>
a' (55.60m)
<HP15>
a' (55.40m)
<HP16>
a' (55.70m)
<HP17> <HP18>
a' (55.60m)
<HP19>
a' (56.60m)
0
2m

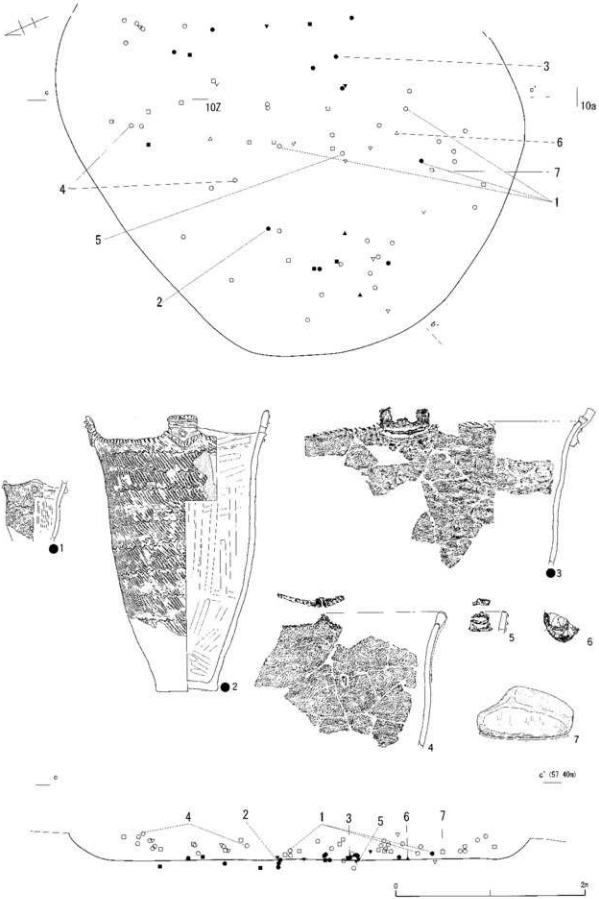
図Ⅲ－10　H－4 (1)

| | | |

H-5


調査区外
P6
P7
P9
10Z
56.02
a' (57.40m)
b' (57.40m)
木根痕跡
a' (56.80m)
a' (56.80m)
a' (56.80m)
0
2m

図Ⅲ－12　H－5 (1)



図Ⅲ－13　H－5 (2)

Ｈ－６（図Ⅲ－14～19　図版24～29）

位置・立地：10～12Ｕ～Ｗ　調査区南側の平坦面から緩斜面

確認・調査：Ⅴ層上面を精査中に暗褐色土の落ち込みの一部を確認した。濁水処理用の側溝部分を調査していたため、側溝部分に掛かる平面形の段差より東側を先に調査し、その後、残りを調査した。覆土を掘り下げたところ、４層上面では遺物が平面的に分布し、Ⅲ層が混じる平坦でやや堅くしまるローム質土を確認したため、生活面と判断した。さらに掘り下げ、平坦な床面、炉跡、柱穴を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層中位から下位である。

覆　　土：自然堆積である。

構　　造：平面形は隅丸長方形である。床面はほぼ平坦で、壁は北側でやや急角度、それ以外は緩やかに立ち上がる。４層上面にはほぼ平坦な生活面があり、遺物は平面的に分布する。さらに、４層上面から床面にかけても遺物が分布することから、生活面は何面かあった可能性がある。HF－６はHP－４に重なり、より新しい。HP－１の１・２層、HP－３・４の１層は柱痕以外の堆積と考える。これらのことから焼失住居ではなく、建替えまたは再利用の可能性を考える。北西角の壁は風倒木により消失している。

付属施設：HF－１は中央に位置する円形の地床炉で、掘り込みがある。HF－２～６はその周辺に分布する焼土で、床面で明瞭な焼成部を確認した。HP－１～５は主柱穴と考える。HP－１は長軸上に位置する。HP－６はやや細く、HP－７はごく浅い柱穴である。HP－８・９は先端の尖る細い柱穴で、なんらかの付属施設のものと考える。HS－１は小礫の集中である。HFC－１・２はフレイクが散在していた。

遺物出土状況：2,457点出土した。遺物は、１層は１層、２・３層は２層、４層上面は３層上面、４層は３層として取上げた。４層上面では、Ⅲ群ａ類土器は形状を保ったままの状態で２個体（図Ⅲ－99－２・102－11）と潰れた状態で２個体（図99－２・３）が出土した。石器は石皿（図Ⅲ－16ｑ－ｔ）が出土した。床面では、Ⅲ群ａ類土器は潰れた状態で３個体(図Ⅲ－99－１・103－12・104－13)、石器は図Ⅲ－106－19～27掲載のもの、台石（図Ⅲ－18ｅ’～ｈ’）が出土した。HS－１からは小礫34点が出土した。HFＣ－１からはフレイク99点、ＵフレイクＩ点・HFC－２からはフレイク275点、Ｕフレイク３点、Ｒフレイク１点が出土した。

分　　析：床面から出土した黒曜石製のフレイクについて原産地分析（Ⅳ章３参照）を行った。原産地分析では赤石山産と判定された。肉眼観察による推定と一致する。

時　　期：生活面及び床面出土のⅢ群ａ類土器から縄文時代中期前半である。　（佐藤）

Ｈ－７（図Ⅲ－20　図版31・32）

位置・立地：９・10ａ・10ｂ　調査区南側の平坦面

確認・調査：側溝部分のⅢ層下位を精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。平坦な床面を検出し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層下位と考える。Ｈ－７の範囲は調査範囲外に広がっている。

覆　　土：自然堆積である。

構　　造：平面形は全体の１／４ほどの確認で不明であるが、楕円形の可能性がある。平面の南側は斜面となっており、崩落している。床面はほぼ平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。

付属施設：確認できなかった。

遺物出土状況：28点出土した。床面出土の遺物は少ない。遺物は、１層は１層、２・３層は２層とし

て取上げた。

時　　期：覆土出土のⅡ群ｂ類土器から縄文時代前期後半の可能性がある。　（佐藤）

Ｈ－８（図Ⅲ－21・22　図版33～35）

位置・立地：19～21Ｌ・Ｍ区

確認・調査：Ⅲ層上面にⅡ層の落ち込みを検出し、この中央をクロスするように土層観察用の土手を残し、周囲を掘り下げ平面形の確認に努めた。西側は大きな風倒木痕があり判然としないが他の部分はほぼ半分の深さで床面の深さの変わるところだ出たため、土層を確かめＨ－３に床面を切られていることが判明した。

覆　　土：覆土は褐色から黒褐色埴壌土が堆積している。

構　　造：中央部分はＨ－３に床を壊され入れ子になっている。Ｈ－３はＨ－８がほぼ埋まった状態から掘り込まれている。平面形は五角形を呈し、床はⅤ層に掘り込まれ、残存する床面は平坦である。

付属施設：壁際から柱穴痕が検出されている。

遺物出土状況：床とＨＰ覆土からⅡ群ｂ類土器が268点出土し、覆土各層等からⅡ群ｂ類土器1,025点出土している。特に東側の柱穴痕ＨＰ２は１個体の小型土器がまとまって出土している。他に覆土各層からⅠ群ｂ類５点、Ⅲ群ａ類土器15点、Ⅳ群ａ類土器９点、Ⅵ群土器６点が出土している。石器は床からスクレイパー２点、扁平打製石器１点、台石・石皿片51点、フレイクなどが出土している。

時　　期：出土した遺物から縄文時代前期Ⅱ群ｂ類土器の時期と考えられる。　（谷島）

Ｈ－９（図Ⅲ－23　図版36・37）

位置・立地：９・10Ｕ・Ⅴ　調査区南側の斜面

確認・調査：側溝部分のⅤ層上面を精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。平坦な床面を検出し、住居跡と判断した。法面での堆積状況から、掘り込み面はⅢ層下位と考える。Ｈ９の範囲は調査範囲外に広がっている。

覆　　土：自然堆積である。

構　　造：平面形は全体の１／２ほどの確認で不明であるが、楕円形の可能性がある。床面はほぼ平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。

付属施設：ＨＰ－１・２は主柱穴と考える。

遺物出土状況：45点出土した。床面出土の遺物は少ない。床面からはⅡ群ｂ類土器（図Ⅲ－108－２）が出土した。ＨＰ１からはⅡ群ｂ類土器とフレイクが出土した。遺物は、１層は１層、２・３層は２層として取上げた。

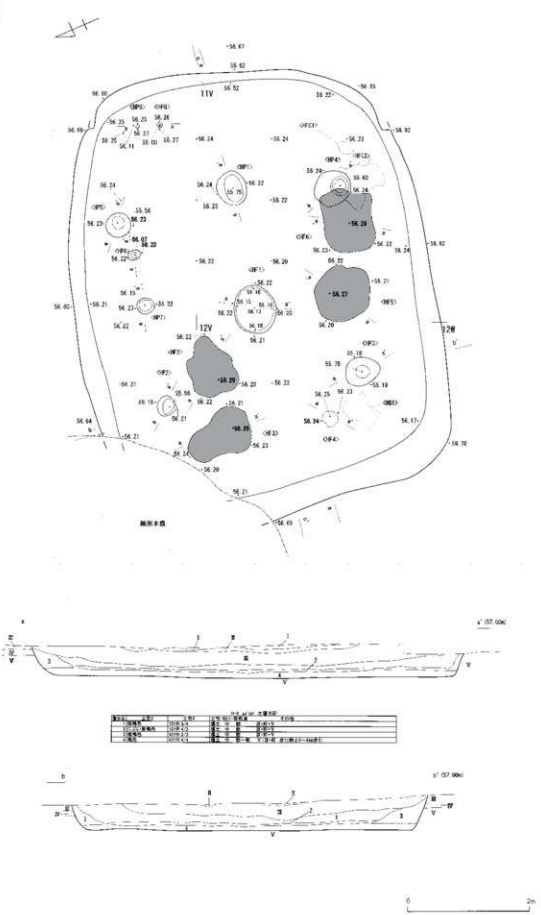
時　　期：ＨＰ－１出土のⅡ群ｂ類土器から縄文時代前期後半である。　（佐藤）

Ｈ－10（図Ⅲ－24～27　図版38～42）

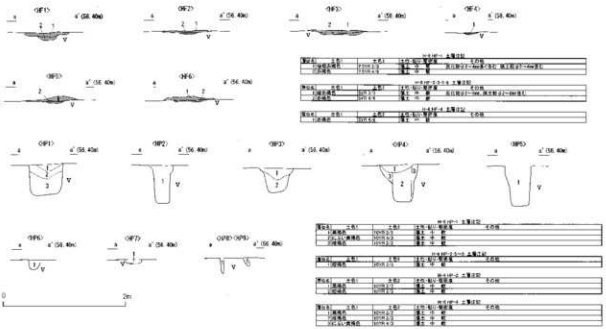
位置・立地：13～15ａ・ｂ・14・15Ｚ　調査区南側の平坦面

確認・調査：Ⅳ層上面を精査中に暗褐色土の落ち込みの一部を確認した。15ラインよりも西側部分の調査を優先していたため、平面形の段差の西側を先にＨ－10として調査した。西側部分では土層の観察から切り合いが想定されたが、狭い範囲での調査であったため、判断は保留した。その後、15ラインより東側の表土剥ぎを行い、残りを調査した。覆土を掘り下げると暗褐色土（Ｈ－10　２層上面）

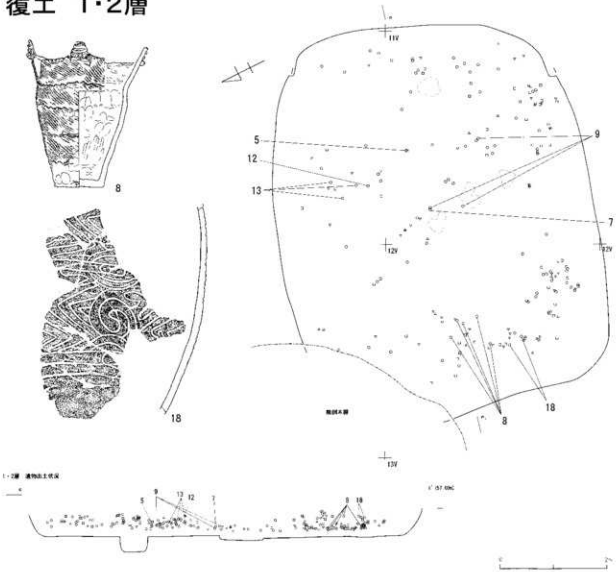
H-6



図Ⅲ－14　H－6 (1)

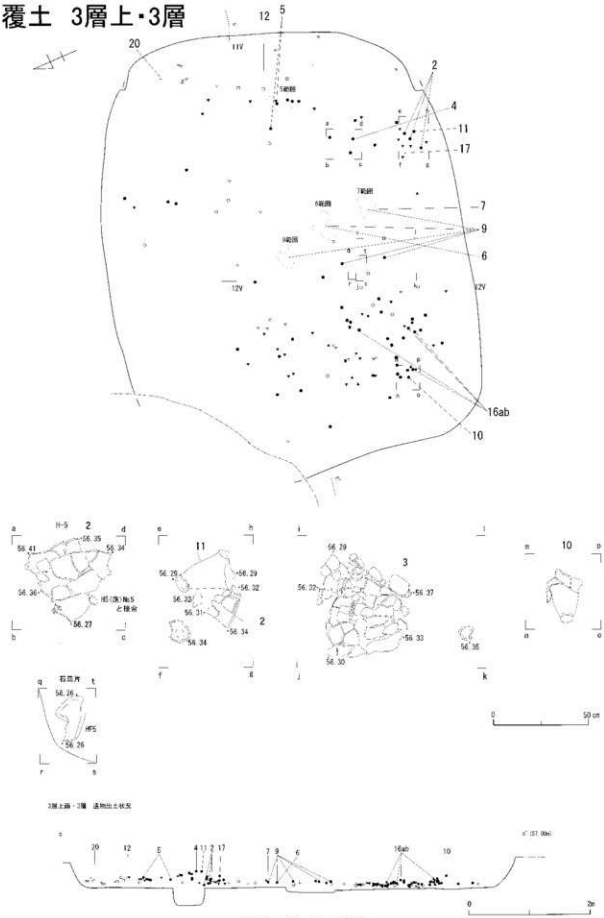


覆土　1・2層



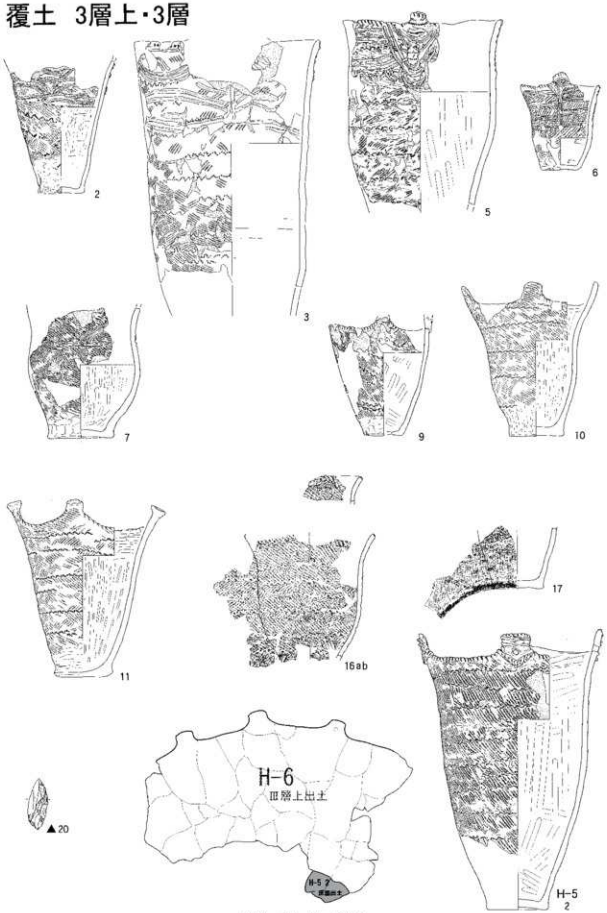
図Ⅲ－15　H－6 (2)

覆土 3層上・3層



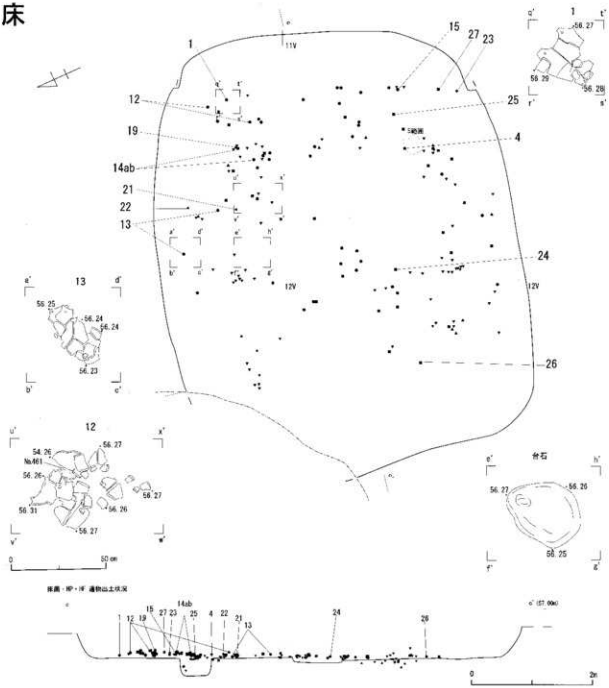
図Ⅲ－16 H－6 (3)

覆土　3層上・3層



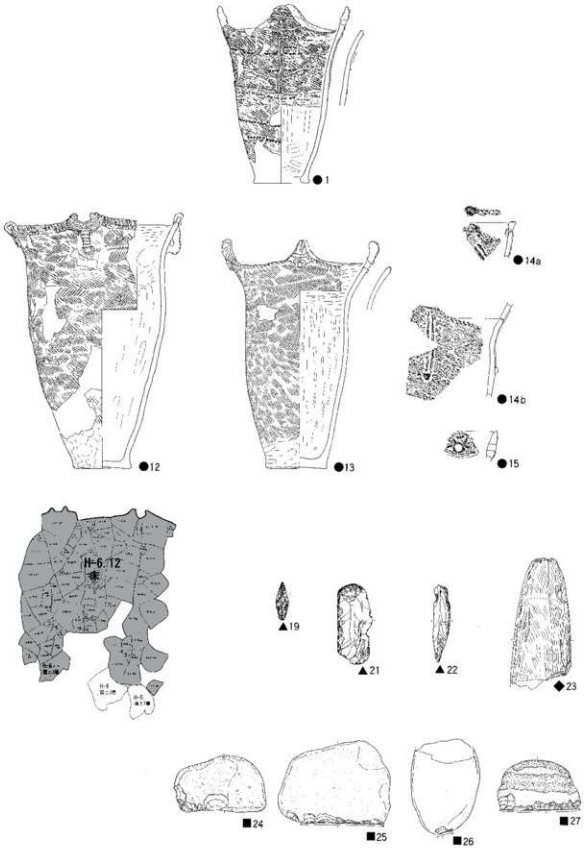
図Ⅲ－17　H－6 (4)

床

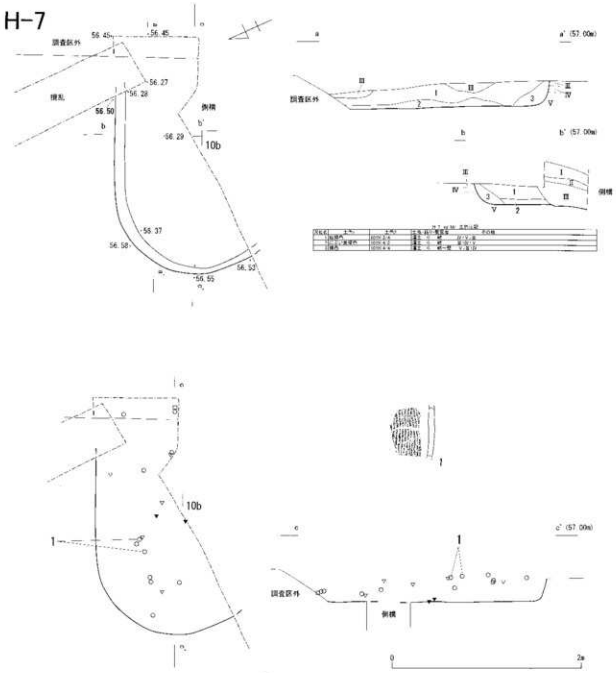


図Ⅲ－18　H－6 (5)

床



図Ⅲ－19　H－6 (6)


H-7
調査区外
撹乱
側溝
10b
56.45
56.27
56.28
56.50
56.29
56.37
56.58
56.55
56.53
a
a' (57.00m)
b
b' (57.00m)
c
c' (57.00m)
0
2m

図Ⅲ－20　H－7

に石組み炉と平面的な遺物の分布を確認した。土層の観察から、住居跡が入れ子となり重なっている可能性があったため、そこまでをH－15として調査した。さらに覆土を掘り下げ、地床炉、平坦な床面、柱穴を確認し、住居跡と判断した。確認状況と土層の観察により、H－10はH－15と入れ子になっており、H－15より古い。また、確認状況からP－43より新しい。

覆　　土：自然堆積である。3層は平坦で、床面全体にみられることから、生活面の可能性がある。

構　　造：平面形は隅丸長方形である。床面は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。

付属施設：HF－1は中央に位置する円形の地床炉で、掘り込みがある。HF－2は当初HF－1の灰層と考えたが、調査した結果、床面に明瞭な焼成部を確認した。HF－3も床面に明瞭な焼成部を確認した。H－10とH－15の柱穴はすべて、H－10の床面を確認後に検出している。柱穴は土層の堆積が暗褐色土主体のものとにぶい黄褐色土主体のものがあり、それらは分布も異なる。H－15の床面は暗褐色土中であることと、暗褐色土主体のものはH－15の範囲内にあることから、暗褐色土主体のものはH－15に付属するものとした。にぶい黄褐色土主体のものはH－15の範囲よりも外側にあるものが多いためH－10に付属するものとした。HP－2・8～11・13・14・16は主柱穴と考える。HP－9は長軸上に位置する。HP－8・11とHP－13・14はそれぞれ近接することから、柱穴の改変が行われた可能性がある。HP－1・3～7・15は細く浅い柱穴である。HP－2は細く深い柱穴で、中心に向かい傾斜する。HF3と周辺に分布するHP－1・3～7・15の関係や南西隅の平面形がやや外側に広がることから別の住居がさらに切り合っていることも想定したが、3層の堆積と床面が平坦に連続していることから一連のものと捉え、それらはH－10に伴うものとした。

遺物出土状況：1,442点出土した。遺物は、1・2層は1層、3層上面は2層上面、3層は2層として取上げた。

分　　析：HF－1の1層出土の炭化木片について放射性炭素年代測定（Ⅳ章1参照）と樹種同定（Ⅳ章2参照）を行った。放射性炭素年代測定では4440±30yrBPの^{14}C年代が得られた。縄文時代中期前半の年代に相当し、推定と一致する。樹種同定ではコナラ属コナラ節と同定された。また床面から出土した黒曜石製のフレイクについて原産地分析（Ⅳ章3参照）を行った。原産地分析では赤井川産と判定された。肉眼観察による推定と一致する。

時　　期：床面出土のⅢ群a類土器から縄文時代中期前半である。（佐藤）

H－11（図Ⅲ－28・29　図版43～45）

位置・立地：16Y・Z　調査区中央北側の緩斜面

確認・調査：Ⅳ層上面を精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。平坦な床面、柱穴を検出し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層下位と考える。

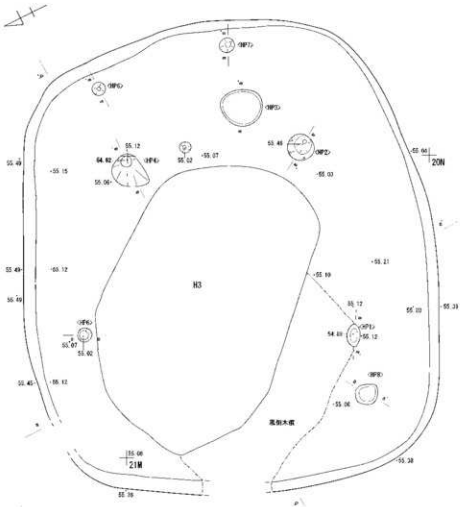
覆　　土：自然堆積である。4層はほぼ平坦で、床面全体にみられることから、生活面の可能性がある。

構　　造：平面形は卵形である。床面はほぼ平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。16Yグリッドでは平面形を確認できなかったため、北側の壁の一部を消失してしまった。

付属施設：HP－1・4は位置と堆積状況、HP－2・3は浅いものの位置から主柱穴と考える。HP－12は住居の付属土坑である。HP－5～11は外柱穴と考える。HP－11は傾斜している。HFC－1は5cmほどのやや大型のフレイクがまとまっていた。

遺物出土状況：690点出土した。遺物は、1層は1層、2・3層は2層として取上げた。形状を保ったままの状態の土器（図Ⅲ－118－3）、HFC1の潰れた状態の土器（図Ⅲ－119－8）、まとまりの

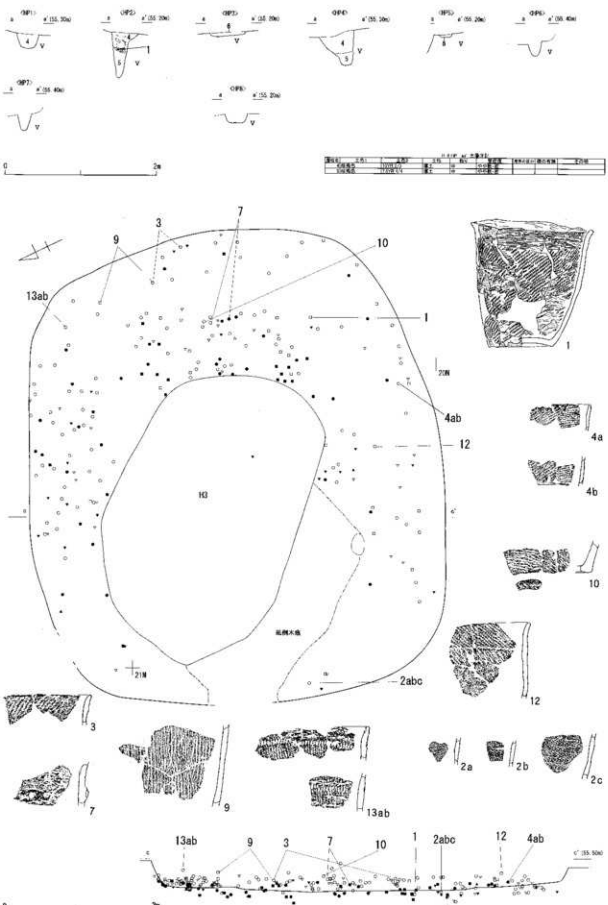
H-8



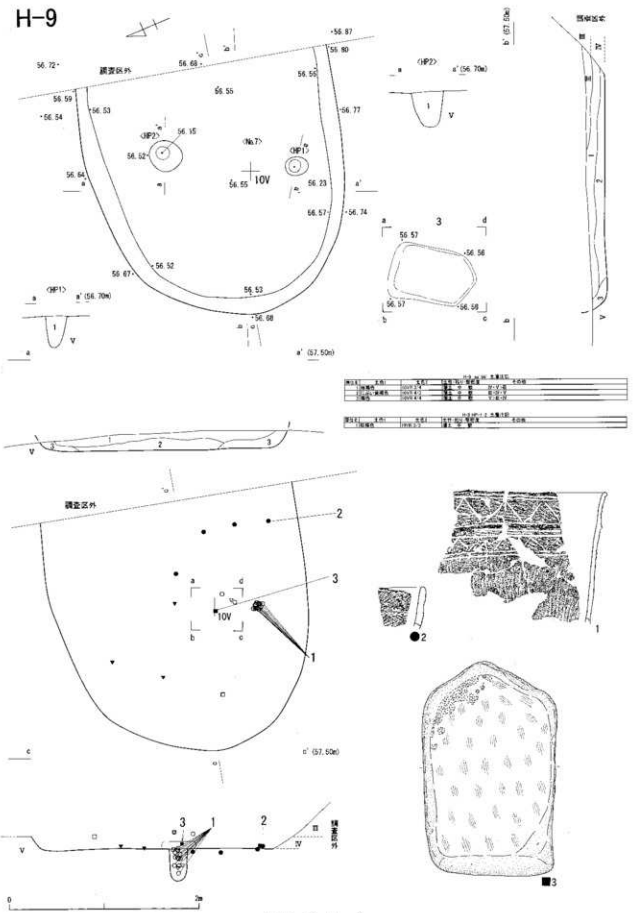
遺物番号	出土層	出土位置	種別	器種	部位	特徴	残存率	胎土	焼成	色調	備考
1	覆土	H3	土師	甕	口縁	口縁部	口縁				
2	覆土	H3	土師	甕	口縁	口縁部	口縁				
3	覆土	H3	土師	甕	口縁	口縁部	口縁				
4	覆土	H3	土師	甕	口縁	口縁部	口縁				
5	覆土	H3	土師	甕	口縁	口縁部	口縁				
6	覆土	H3	土師	甕	口縁	口縁部	口縁				

図Ⅲ－21　H－8 (1)

0　2m



図Ⅲ－22　H－8 (2)



図Ⅲ－23　H－9

ある遺物が４層から床面にかけて出土し、出土状況による違いがなかったため、４層と床面は床面として取上げた。床面からは、Ⅲ群ａ類土器は形状を保った土器（図Ⅲ－118－３）、HFC－１の潰れた状態で１個体（図Ⅲ－119－８）、床面とHP－12が接合した石Ⅲ（図Ⅲ－120－13）が出土した。HP－12からは、Ⅲ群ａ類土器は形状を保ったままの状態で１個体（図Ⅲ－119－７）、潰れた状態で１個体（図Ⅲ－119－９）が出土した。

時　　期：床面とHP－12出土のⅢ群ａ類土器から縄文時代中期前半である。（佐藤）

H－12（図Ⅲ－30～32　図版46・47）

位置・立地：24・25N・O　調査区北西側の標高54.20～53.60mの西向き斜面上。

確認・調査：Ⅳ層上面で直径６m程の黒色土の広がりを確認した。土層観察用のベルトを十字に設定し掘り下げたところ、Ⅴ層を掘り込んだ平坦な床面と北西側に壁の立ち上がりを確認したため、住居跡と判断し調査を行った。住居跡南西側の覆土２層上部からフレイク・チップの集中（FC－１）、また、覆土３層下部の住居跡中央部付近から３ヵ所の焼土を検出した。床面を精査したところ、炉（HF－１）と柱穴（HP－１・３・５～７）および柱穴様小ピット（HP－２・４・８・９）が検出された。

覆　　土：竪穴住居内の覆土は大きく３層に分けられ、いずれも自然堆積によるものである。覆土１層は、自然堆積層のⅢ層に相当する。

構　　造：南西方向に向かう斜面上に位置すること、斜面下方が伐根による撹乱を受けている。このため、住居跡北西側の半分ほどが認められるだけである。残存状況・出土遺物から、円形ないし隅丸方形と考えられる。床面は中央部がやや窪むものの、ほぼ平坦である。壁は急角度で立ち上がる。

付属遺構：炉と柱穴および柱穴様小ピットが検出された。炉は住居跡中央部に位置し、不整形で、床面に被熱部分が見られる。炉（HF－17）の西側に焼土（HF－２・３）が検出されたが、いずれも焼土下部の床面に被熱部分が見られないことから、炉（HF－１）からの投棄によるものと思われる。柱穴様小ピット（HP－８）は、焼土（HF－２）の下位から検出された。

柱穴・柱穴様小ピットは10ヵ所（HP－１～10）検出された。このうちHP－１・３・５・６・７は、深さ40～70cmを測る柱穴で、炉を中心に方形に配列されている。

遺物出土状況：住居跡南東の壁際覆土上部から、フレイクチップ集中（FC－１）が検出された。53×47cm範囲で、壁肩口から流れ込む形で剥片類が1,197点出土している。このほか、覆土中より土器・石器類あわせて634点、柱穴５ヶ所の覆土より９点、床面からはⅡ群ｂ類土器88点、Ⅲ群ａ類土器４点、つまみ付きナイフ１点、フレイク25点、石斧１点、たたき石、扁平打製石器各２点、台石１点、礫・礫片５点の計129点、合計1,969点出土した。

時　　期：床面から円筒土器下層式が出土していることから、縄文時代前期後半と考えられる。（立川）

H－13（図Ⅲ－33・34　図版48～50）

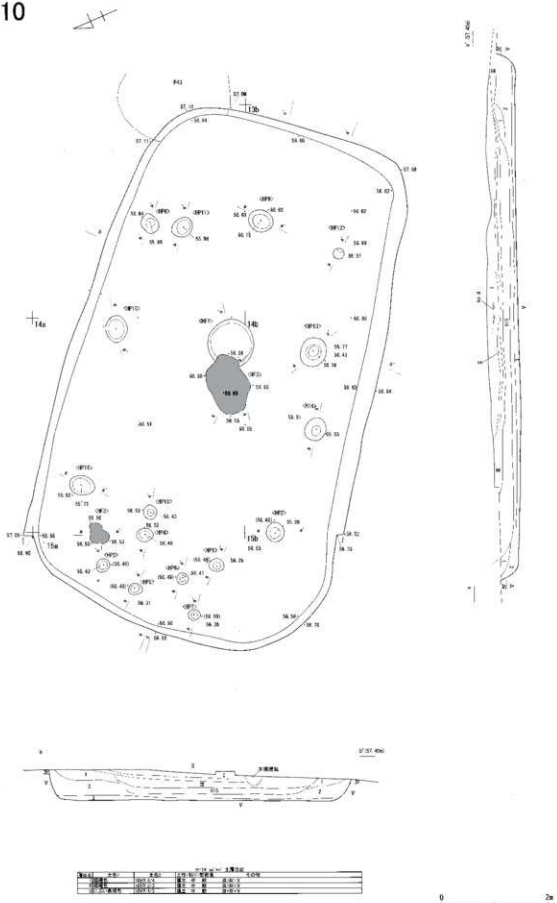
位置・立地：21・22L・M区

確認・調査：Ⅲ層の調査で、黒褐色～暗褐色土の落ち込みに遺物が集中する部分を検出した。「遺物集中４」とし調査を進め、周囲の遺物を取り上げたところで精査し壁の立ち上がりを検出した。

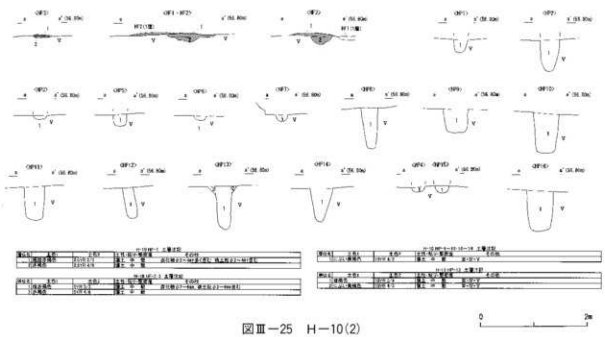
覆　　土：覆土は窪みを利用した遺物の廃棄場と考えられ、多量の土器が出土している。「遺物集中４」とし調査した。

構　　造：円形を呈すると推定されるが、西側は傾斜で消失し不明である。床はⅤ層に掘り込まれ、

H-10



図Ⅲ－24　H－10(1)



図Ⅲ－25　H－10(2)

竪穴を二分するように東西に断層が走り段差が生じている。床面は平坦に作られている。

床面に10cmの段差を生じる断層が走ったため、この竪穴住居を廃棄したのか、廃棄後に断層が出来たものである。ただし、覆土の「遺物集中４」は断層の段差の影響は受けていないことから、断層発生後に遺物の廃棄が始められている。

付属施設：中央にHP１があり、その東側に炉HF１がある。主柱穴痕は４か所で南北間は約２m、東西間は約1.5mで床面から垂直に0.3～0.5mの深さがある。

遺物出土状況：床とHP覆土からⅡ群ｂ類土器が床から11点、HP４とHP５から14点出土した。

時　　期：出土した遺物から縄文時代前期後半である。住居放棄後に廃棄場となるまで、さほどの時間差はないものと考えられる。（谷島）

H－14（図Ⅲ－35・36　図版51～53）

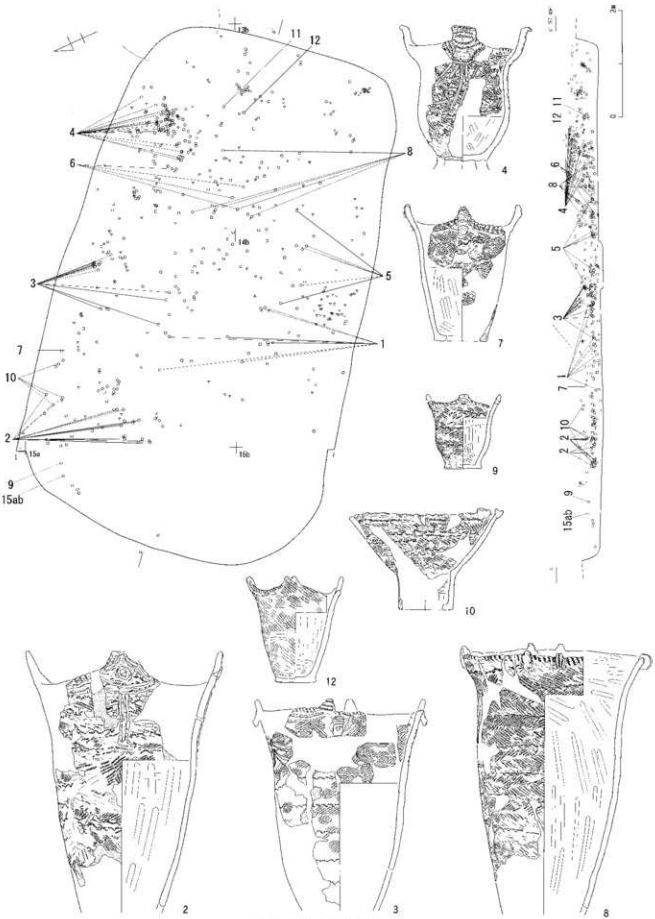
位置・立地：13J・14K区　調査区北東側の平坦面から沢状地形にかけての緩斜面、標高55.5m前後。

確認・調査：包含層調査でⅢ層中から浅く広範囲のくぼみとして確認した。この時点で石組炉である F－59も確認していた。竪穴住居跡と想定し、このF－59と共にかかる土層観察用のベルトを設定、竪穴住居のプラン確認のため周辺の掘り下げとトレンチ調査を行った。調査の結果、住居跡のくぼみを利用して石組炉F－59が構築してあり、その下からは住居の床面、急で明瞭な床面の立ち上がりを検出し住居跡と認定した。床面は縄文時代前期後半以降に起きたと考えられる地滑りにより南側に若干低く傾いている。平面形は楕円である。構築面はⅢ層中～下位にかけてである。

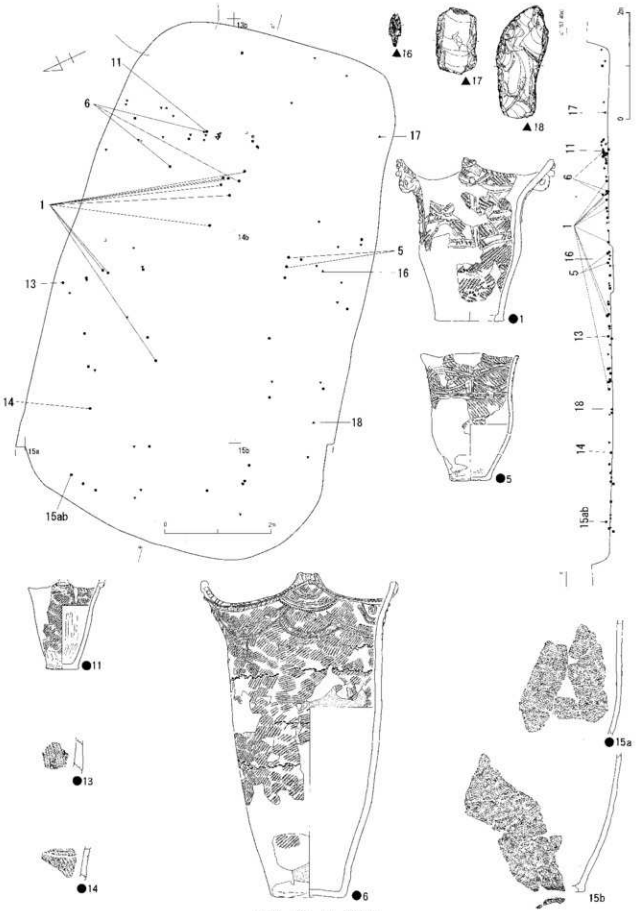
覆　　土：自然埋没によるものである。覆土中の浅い落ち込みに縄文時代後期前葉と考えられる石組炉のF－59が構築されている。

付属遺構：床面から柱穴状の小土坑10ヶ所、浅い皿状の土坑を１ヶ所確認した。深さは床面から40cm前後である。床面には地床炉や焼土の痕跡は検出しなかった。この住居跡周辺を掘り下げ、柱穴の有無を精査したが、検出できなかった。

遺　　物：覆土中から土器・石器類367点、床面からⅡ群ｂ類土器105点、スクレイパー１点、フレイク14点、石核１点、石斧片１点、石鋸１点、台石・石皿３点、礫・礫片13点、覆土・床面併せて506

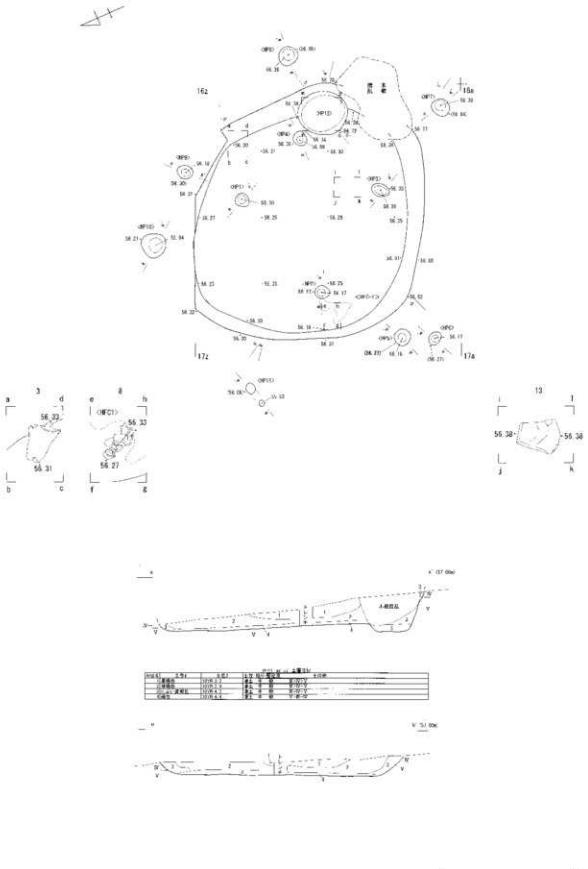


図Ⅲ－26　H－10(3)

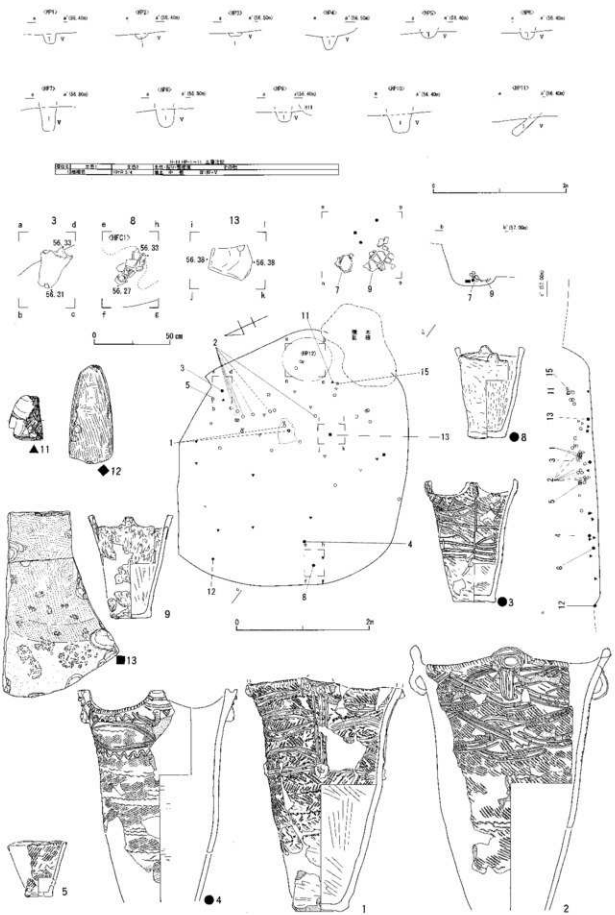

11
6
1
13
14
15ab
15a
15b
14b
17
5
16
18
▲16
▲17
▲18
●1
●5
●11
●13
●14
●6
●15a
15b
A
17
11
6
1
16
5
13
18
14
15ab

図Ⅲ－27　H－10(4)

H−11

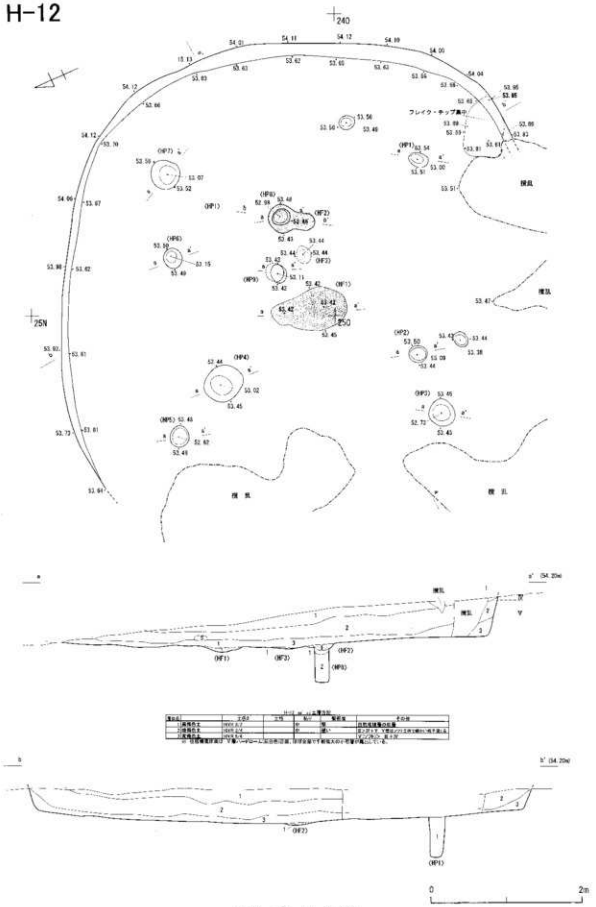


図Ⅲ−28　H−11(1)

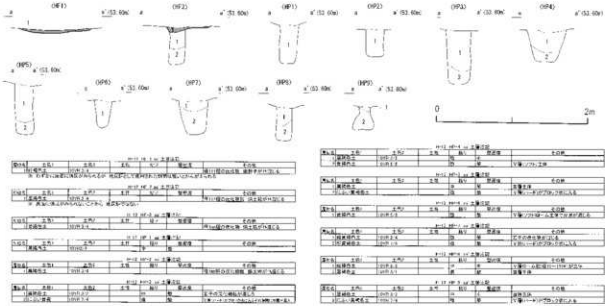


図Ⅲ－29　H－11(2)

H−12



図Ⅲ−30　H−12(1)



図Ⅲ－31　H－12(2)

点出土している。

時　　期：床面から円筒土器下層式に相当する土器が出土していることから縄文時代前期後半の住居跡と判断する。（袖岡）

H－15（図Ⅲ－37・38　図版54・55）

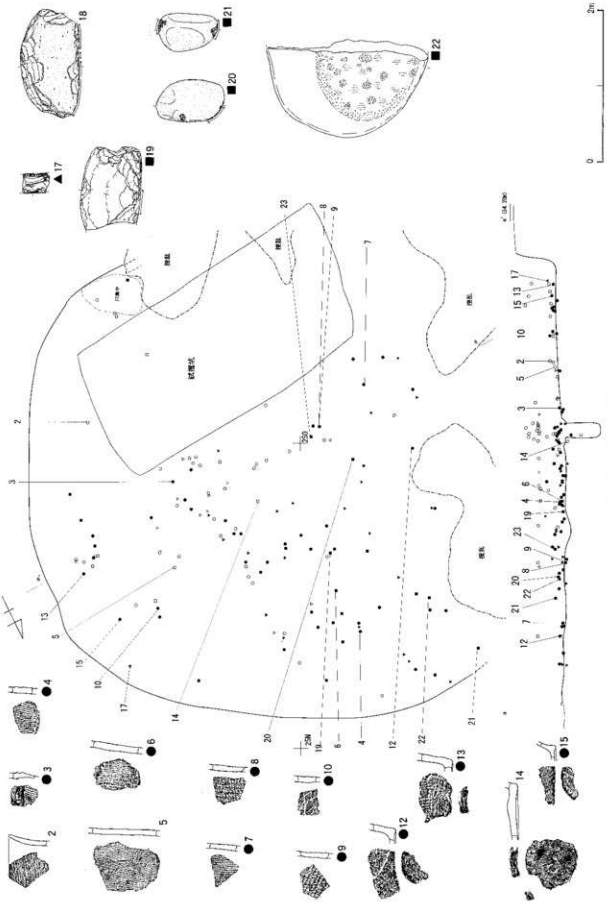
位置・立地：13～15ａ・ｂ　調査区南側の平坦面

確認・調査：Ⅳ層上面を精査中に暗褐色土の落ち込みの一部を確認した。15ラインよりも西側部分の調査を優先していたため、平面形の段差の西側を先にH－10として調査した。西側部分では土層の観察から切り合いが想定されたが、狭い範囲での調査であったため、判断は保留した。その後、15ラインより東側の表土剥ぎを行い、残りを調査した。覆土を掘り下げると暗褐色土（H－10　2層上面）に石組み炉と平面的な遺物の分布を検出した。土層の観察から、住居跡が入れ子となり重なっている可能性があったため、そこまでをH－15として調査した。確認状況と土層の観察により、H－10はH－15と入れ子になっており、H－10より新しい。

覆　　土：自然堆積である。

構　　造：平面形は隅丸長方形である。床面はほぼ平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。HF－1が中央よりやや北側に位置することとHP－2が北側の壁と重なること、遺物の接合状況から、実際の平面形はやや北側に広がる可能性がある。

付属施設：HF－1は中央やや北側寄りに位置する長方形の石組み炉である。石組みは南側と西側でのみ確認した。石組みは掘り込まずに炉の周囲に石を置くものである。一部を木根により消失している。H－10とH－15の柱穴はすべて、H－10の床面を確認後に検出している。柱穴は土層の堆積が暗褐色土主体のものとにぶい黄褐色土主体のものがあり、それらは分布も異なる。H－15の床面は暗褐色土中であることと、暗褐色土主体のものはH－15の範囲内にあることから、暗褐色土主体のものはH－15に付属するものとした。にぶい黄褐色土主体のものはH－15の範囲よりも外側にあるものが多いためH－10に付属するものとした。HP－1～5は主柱穴と考える。HP－1・4・5はやや先が



図Ⅲ－32 H－12(3)

尖る柱穴、HP－２は他よりもやや浅い柱穴、HP－３は他よりも深く、先が尖る柱穴である。

遺物出土状況：480点出土した。遺物は、１層は１層、２層上面は２層上面、２層は２層、床面は床面として取上げた。床面出土の遺物は少ない。

時　　期：床面出土のⅢ群ａ類土器から縄文時代中期前半である。　（佐藤）

Ｈ－16（図Ⅲ－39・40　図版56～58）

位置・立地：11・12Ｚ～ｂ　調査区南側の平坦面

確認・調査：Ⅴ層上面を精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。周辺にも暗褐色土の落ち込みがあり、遺構の切り合いを想定しベルトを設定した。平坦な床面、炉跡、柱穴を検出し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層中と考える。土層の観察により、Ｈ－16はＰ－40より新しい。

覆　　土：自然堆積である。調査が降雪期に及んだため、降雪や凍上により、床面付近では土層の観察を詳細にできなかった。

構　　造：平面形は隅丸長方形である。床面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

付属施設：HF－２は中央に位置する長方形の地床炉で、掘り込みがある。HF－１・３は不整形の焼土で、床面で明瞭な焼成部を確認した。HFC－１はフレイクが散在する。HC－１は、HF－２の灰層の可能性がある。HS－１はHP－６の周囲に分布し、直径0.5～２㎝ほどの小礫が散在する。HP－１～６は主柱穴と考える。HP－１・４は切り合いがあることから主柱穴の改変が行われた可能性がある。HP－３は形状が不整形であることから抜き取られた痕跡の可能性がある。HP－７・８は細い柱穴である。HP－７はHC－１が覆う。

遺物出土状況：1,284点出土した。遺物は、１層は１層、２層は２層、床面は床面として取上げた。調査が降雪期に及んだため、特に床面付近の遺物は凍上した状態で取上げたものが多く、床面付近の遺物はほとんど床面で取上げた。また、遺物が土とともに凍りついてしまい、土ごと取上げたものが多い。

分　　析：HF－１の１層出土の炭化材について放射性炭素年代測定（Ⅳ章１参照）と樹種同定（Ⅳ章２参照）を行った。放射性炭素年代測定では4430±30yrBPの^{14}C年代が得られた。縄文時代中期前半の年代に相当し、推定と一致する。樹種同定ではコナラ属コナラ節と同定された。

時　　期：床面出土のⅢ群ａ類土器から縄文時代中期前半である。　（佐藤）

Ｈ－17（図Ⅲ－41　図版60・61）

位置・立地：12・13Ｚ　調査区南側の平坦面

確認・調査：Ⅴ層上面を精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。平坦な床面、炉跡、周溝、柱穴を検出し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層中と考える。

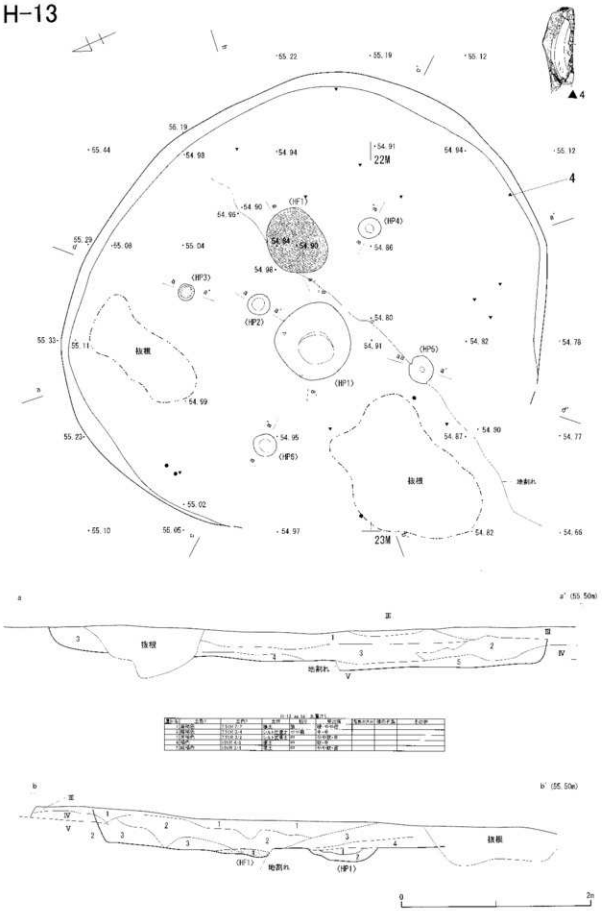
覆　　土：自然堆積である。

構　　造：平面形は隅丸長方形である。床面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

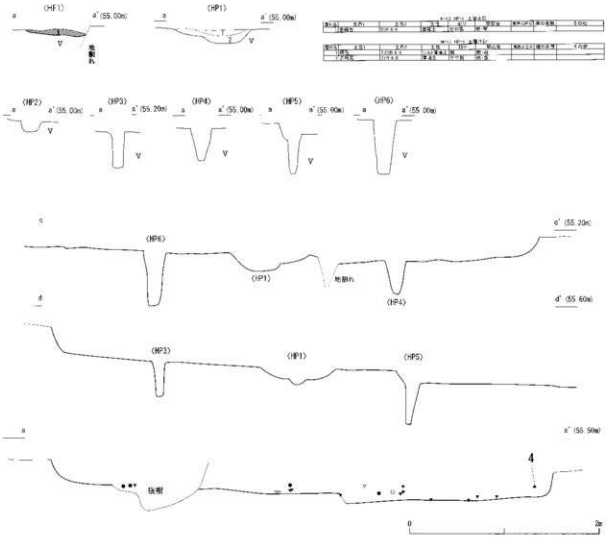
付属施設：HF－１は中央に位置する不整形の地床炉である。焼土は焼土粒・炭化物粒の混じるもので、焼成部は確認できなかったため、動かされたものと考える。ベルト以外の部分では掘りすぎてしまい、図上で復元している。周溝は壁際を全周しており、北東角では壁際から少し離れる。HP－１・２は主柱穴と考える。HP－１・２は近接していることとHP－１にHF－１の範囲が重なることから主柱穴の改変が行われた可能性がある。

遺物出土状況：38点出土した。遺物は、１層は１層、２・３層は２層、床面は床面として取上げた。床面からは、Ⅲ群ａ類土器は形状を保った状態で１個体（図Ⅲ－129－１）が出土した。

H−13

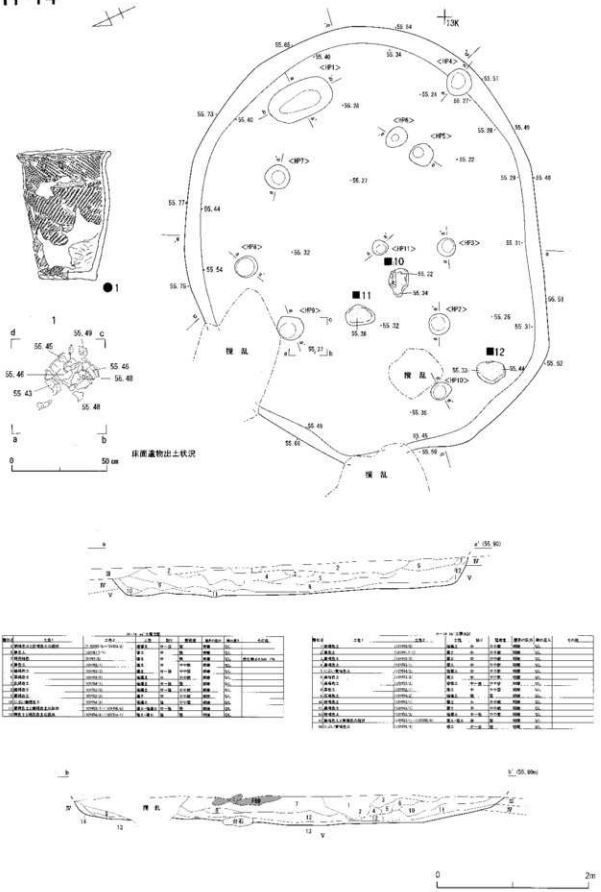


図Ⅲ−33　H−13(1)

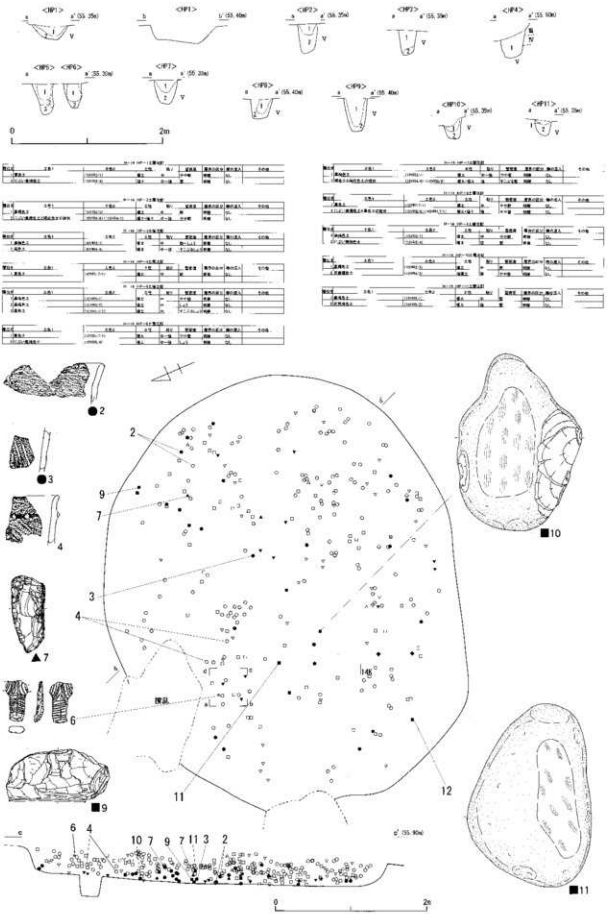

(HF1)
a
a'(55.00m)
V
(HP1)
a
a'(55.00m)
V
(HP2)
a
a'(55.00m)
V
(HP3)
a
a'(55.20m)
V
(HP4)
a
a'(55.00m)
V
(HP5)
a
a'(55.00m)
V
(HP6)
a
a'(55.00m)
V
c
c'(55.20m)
(HP6)
(HP1)
地割れ
(HP4)
d
d'(55.60m)
(HP3)
(HP1)
(HP5)
a
a'(55.50m)
4
板壁
0
2m

図Ⅲ－34　H－13(2)

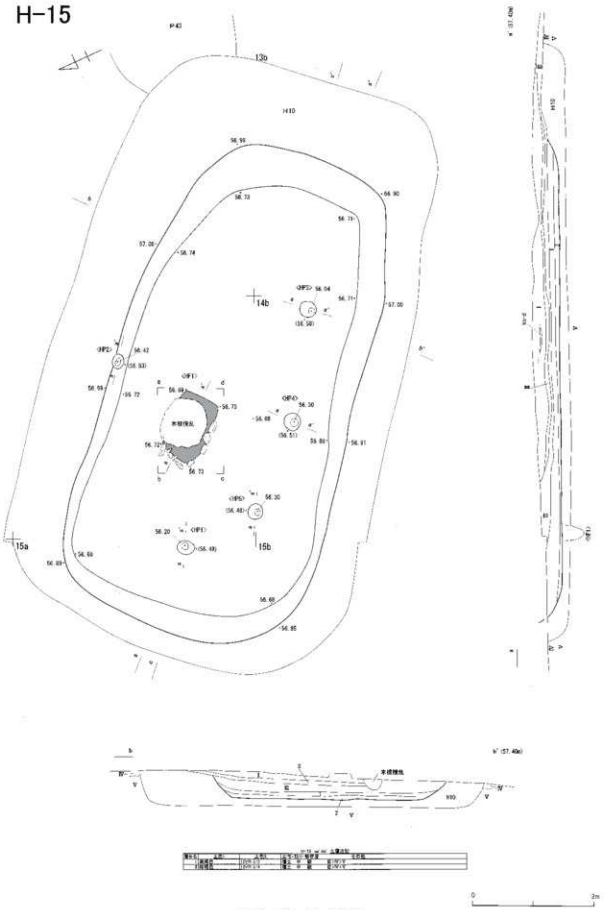
H-14



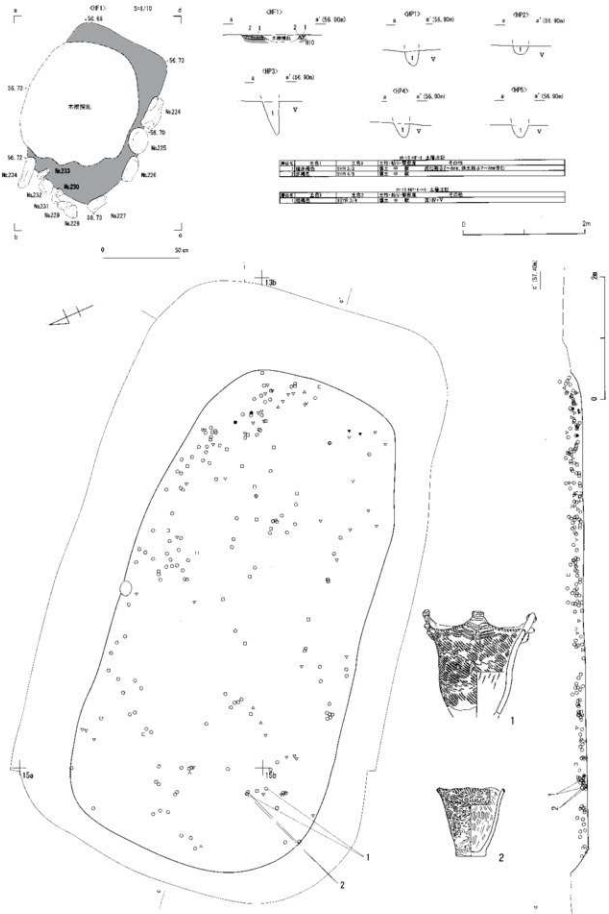
図Ⅲ－35　H－14(1)



図Ⅲ－36　H－14(2)

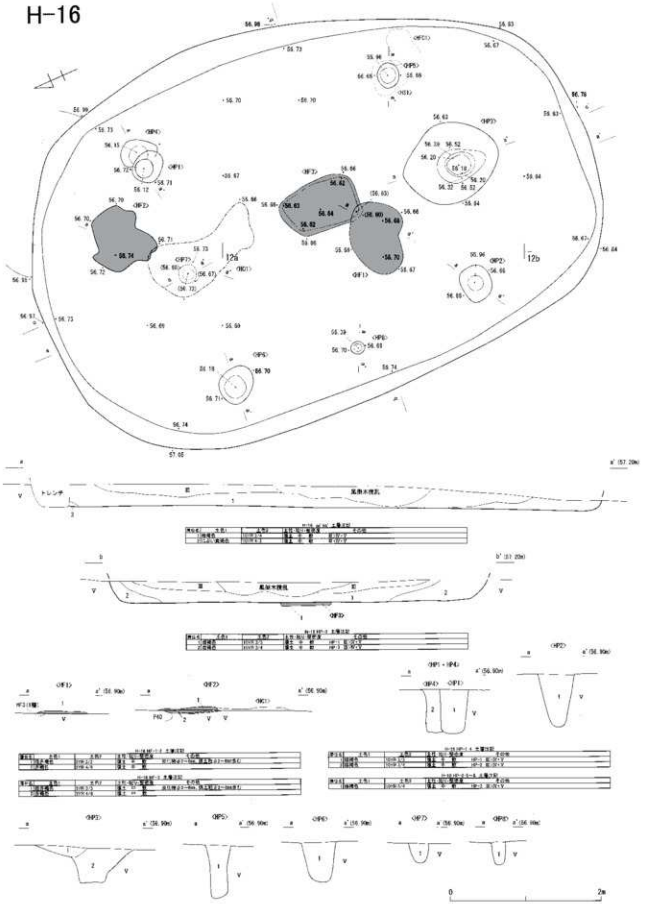


図Ⅲ－37　H－15(1)

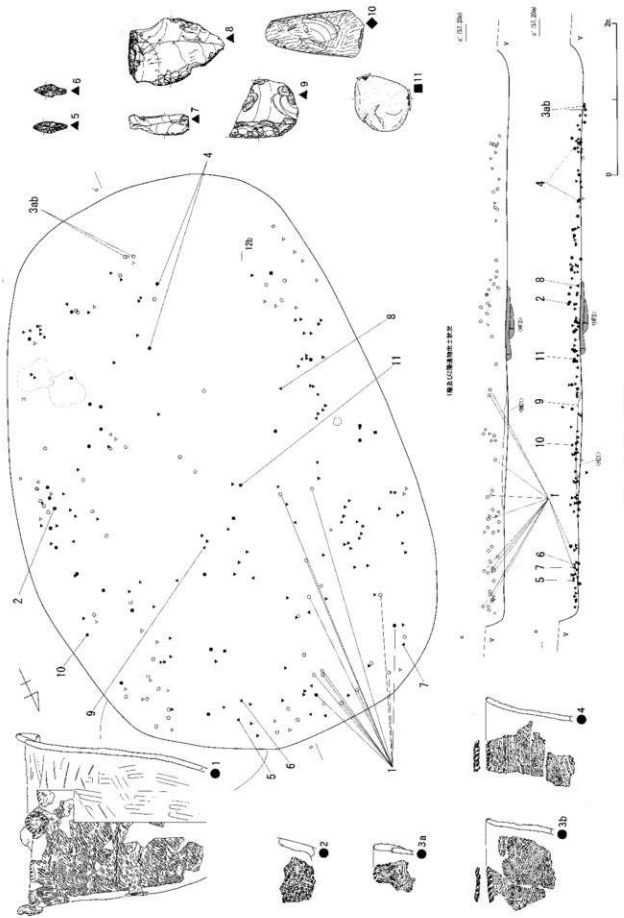


図Ⅲ－38　H－15(2)

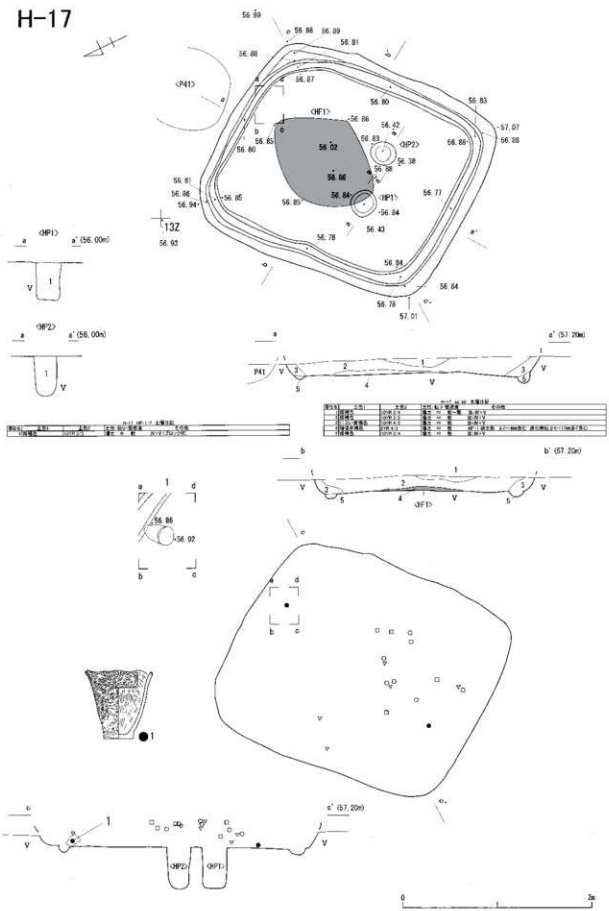
H−16



図Ⅲ−39　H−16(1)



図Ⅲ－40　H－16(2)



図Ⅲ−41　H−17

分　　析：HF－１の１層出土の炭化材について放射性炭素年代測定（Ⅳ章１参照）と樹種同定（Ⅳ章２参照）を行った。放射性炭素年代測定では4450±30yrBP の^{14}C 年代が得られた。縄文時代中期前半の年代に相当し、推定と一致する。樹種同定では樹種不明の環孔材と同定された。

時　　期：床面出土のⅢ群ａ類土器から縄文時代中期前半である。（佐藤）

(2) 土　坑

Ｐ－１（図Ⅲ－42　図版62）

位置・立地：22Ｚ区。北東側が標高の高い斜面に位置する。

確認・調査：排水路を設置するため先行して調査を行った。Ⅳ層上面で検出された。掘り込みはⅢ層下部と考えられる。傾斜に沿って土層断面を設定し半截した。

覆　　土：自然体積で、傾斜の高い側から順に土坑内に流れ込み堆積していることが読みとれる。

構　　造：平面形は長軸が等高線に沿って南北に長い楕円形を呈する。坑底はＶ層に掘り込まれ平らで、壁は急角度で立ち上がり上部は開き角度は浅くなる。

遺物出土状況：石核と原石が出土している。

時　　期：掘り込まれた層位から縄文時代前期頃の土坑と考えられる。（谷島）

Ｐ－２（図Ⅲ－42　図版62）

位置・立地：10・11Ｇ区。調査区北東端の標高57.5ｍと最も高い面に位置する。

確認・調査：排水路を設置するため先行して調査を行った。Ⅲ層下位を精査中に黒色土の落ち込みを確認した。傾斜に直行する方向と並行する方向にベルトを設定し、周囲を掘り下げ平面形の確認に努めた。確認面では円形と思えたが、完掘すると隅丸方形であった。

覆　　土：　覆土は中央部に黒色土、その周囲と坑底に暗褐色土、壁際は黒褐色土が壁から中央に向かって自然堆積している。

構　　造：平面観は隅丸方形で、坑底はＶ層に達し、ほぼ平坦である。

遺物出土状況：Ⅱ群ｂ類土器が坑底から１点と覆土から54点出土している。ほかに覆土からⅢ群ａ類土器４点とフレイク30点が出土している。

時　　期：出土した遺物から縄文時代前期Ⅱ群ｂ類土器期の土坑と考えられる。（谷島）

Ｐ－３（図Ⅲ－42　図版62）

位置・立地：９・10Ｘ・Ｙ　調査区南側の平坦面

確認・調査：側溝部分のＶ層上面を精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。平面形は円形である。坑底はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がったあとオーバーハングするフラスコ状である。２・３層は埋め戻しの可能性がある。坑底に炭化物を含む層（６層）を確認した。

遺物出土状況：51点出土した。１層は１層、２層は２層、３・４層は３層、５層は４層、６層は５層で取上げた。

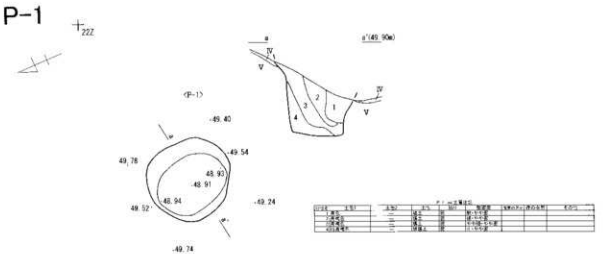
時　　期：覆土出土のⅣ群ａ類土器から縄文時代後期前葉の可能性がある。（佐藤）

Ｐ－４（図Ⅲ－43　図版63）

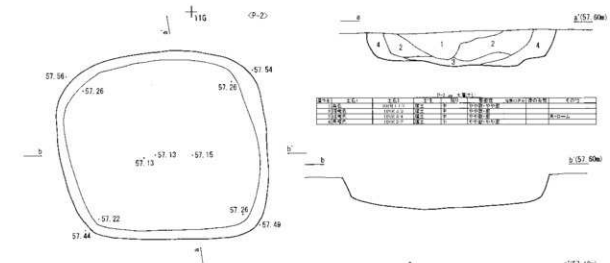
位置・立地：16・17Ｒ区　調査区の沢状地形のほぼ中央、標高55.0ｍ付近。

確認・調査：包含層調査でＶ層上面において黒色～黒褐色土の落ち込みとして確認した。この時点で

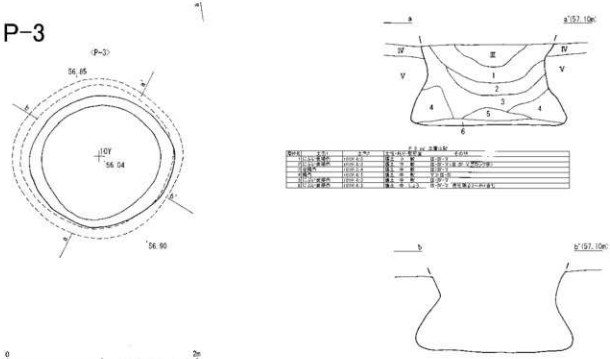
P-1



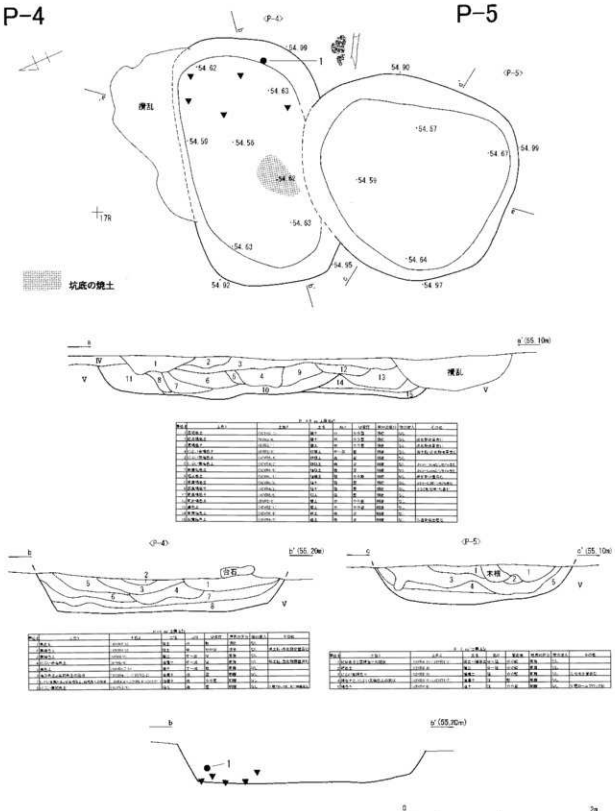
P-2



P-3



図Ⅲ－42　P－1・2・3


P−4
P−5
(P−4)
(P−5)
54.99
54.62
54.63
54.90
54.57
54.67
54.99
54.56
54.59
54.62
54.59
54.63
54.63
54.95
54.64
54.92
54.97
攪乱
攪乱
17R
抗底の粘土
a
a'(55.10m)
b
b'(55.20m)
c
c'(55.10m)
谷石
木根
b
b'(55.70m)
0
1
2m

図Ⅲ−43　P−4・5

平面形が不整で、遺構の重複が想定されたため、3つの土層観察用のベルトを設定しトレンチ調査を行った。結果、土坑2基（P－5）が重複する遺構と判断した。P－4はP－5に切られている。坑底は平坦で壁は明瞭、平面形は楕円である。

覆　　土：確認した面の上部では黒～黒褐色土でプライマリーのⅢ層土が落ち込みに溜まっていたが、それより下はⅤ層ロームが主体となる、にぶい褐色～明黄褐色土が主体である。

遺　　物：坑底よりⅠ群b類と思われる土器片1点が出土した。表面の磨滅が著しい。一部撚糸の圧痕のような痕跡がみられる。このほか、覆土・坑底からフレイクを中心に27点出土した。

時　　期：確認した面と出土した遺物から縄文時代早期と考えられる。（袖岡）

P－5（図Ⅲ－43　図版63）

位置・立地：16・17R区　調査区の沢状地形のほぼ中央、標高55.0m付近。

確認・調査：P－4と同様である。坑底は平坦、壁の立ち上がりは急で明瞭、平面形はやや不整な円である。

遺　　物：覆土中より6点出土した。

時　　期：確認した面と出土した遺物から縄文時代早期と考えられる。（袖岡）

P－6（図Ⅲ－44　図版64）

位置・立地：10W　調査区南側の平坦面

確認・調査：側溝部分のⅤ層上面を精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形である。坑底はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

覆　　土：自然堆積である。

遺物出土状況：6点出土した。

時　　期：覆土出土のⅢ群a類土器から縄文時代中期前半の可能性がある。（佐藤）

P－7（図Ⅲ－44　図版64）

位置・立地：10Y・Z　調査区南側の平坦面

確認・調査：側溝部分のⅤ層上面を精査中にH－5の北側で暗褐色土の落ち込みを確認した。平面形はH－5に切られており不明であるが、楕円形の可能性がある。坑底はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。土層の観察により、P－7はH－5より古い。

覆　　土：自然堆積である。

遺物出土状況：6点出土した。

時　　期：覆土出土のⅢ群a類土器から縄文時代中期前半の可能性がある。（佐藤）

P－8（図Ⅲ－44　図版64・65）

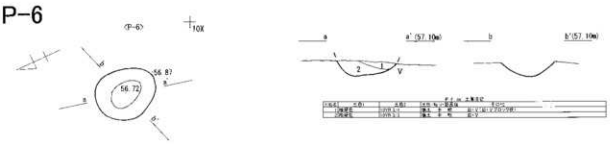
位置・立地：20O区。緩傾斜面の下側、標高55.4mに位置する。

確認・調査：Ⅲ層下位を精査中に黒色土の落ち込みを確認した。土層確認用の土手を残し、周囲を掘り下げ平面形の確認に努めた。

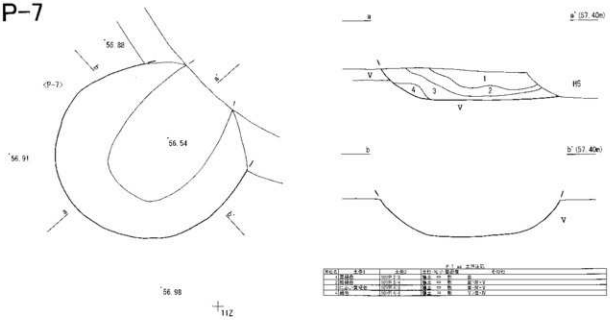
覆　　土：壁から坑底にかけて褐色の壌土が堆積しているが、中央部は極暗褐色の壌土と褐色の粘質土が分けていることから埋戻しと考えられる。

構　　造：平面観は長方形を呈するが、北側の壁は緩やかに立ち上がり角度も緩いが、南側の壁は

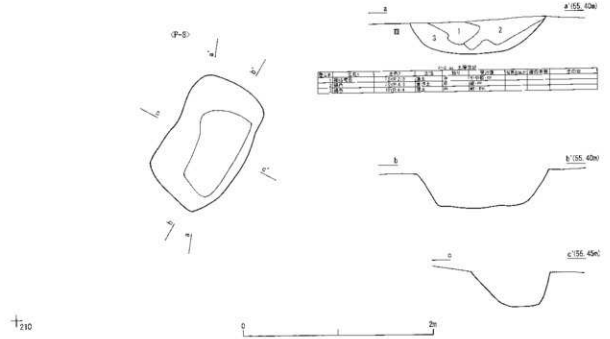
P−6



P−7

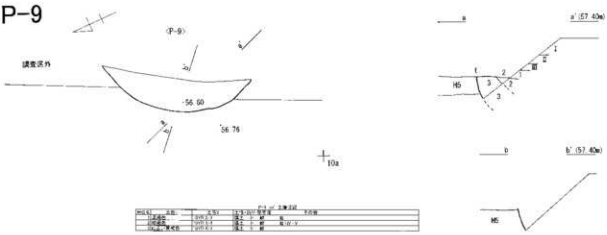


P−8

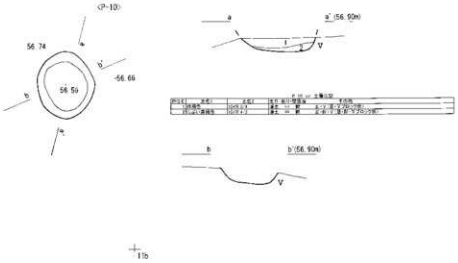


図Ⅲ−44　P−6・7・8

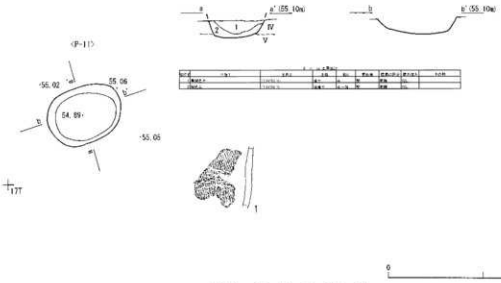
P−9



P−10



P−11



図Ⅲ−45　P−9・10・11

急に立ち上がる偏った断面形である。

遺物出土状況：覆土からⅡ群ｂ類土器とたたき石、フレイクが出土している。

時　　期：出土した遺物から縄文時代前期Ⅱ群ｂ類土器期の土坑と考えられる。（谷島）

Ｐ－９（図Ⅲ－45）

位置・立地：９Ｚ　調査区南側の平坦面

確認・調査：側溝部分のⅤ層上面を精査中にＨ－５の南東側で暗褐色土の落ち込みを確認した。平面形は一部の確認のため不明である。坑底は不明で、壁は緩やかに立ち上がる。土層の観察により、Ｐ－９はＨ－５より新しい。Ｈ－５の範囲は調査範囲外に広がっている。

覆　　土：自然堆積である。

遺物出土状況：３点出土した。

時　　期：覆土出土のⅡ群ｂ類土器とⅢ群ａ類土器から、縄文時代前期後半または中期前半の可能性がある。（佐藤）

Ｐ－10（図Ⅲ－45　図版65）

位置・立地：10ａ　調査区南側の平坦面

確認・調査：Ⅴ層上面を精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形である。坑底はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

覆　　土：自然堆積である。

遺物出土状況：９点出土した。

時　　期：覆土出土のⅡ群ｂ類土器から縄文時代前期後半の可能性がある。（佐藤）

Ｐ－11（図Ⅲ－45　図版65）

位置・立地：16Ｔ区　調査区沢状地形のほぼ中央、標高55.0ｍ付近。

確認・調査：Ⅳ層上面において黒褐色土の落ち込みとして確認した。土坑であることが想定されたため半截したところ平坦な坑底と急で明瞭な壁の立ち上がりを検出し土坑と認定した。

覆　　土：自然埋没によるものである。覆土の１層からはⅡ群ｂ類土器が少量のまとまりで出土した。

遺　　物：覆土中からⅡ群ｂ類土器25点、フレイク５点、礫１点、合計31点の遺物が出土した。

時　　期：時期を判断できる遺物の出土状況ではないが、確認した層位などから縄文時代前期後半と考えられる。（袖岡）

Ｐ－12（図Ⅲ－46　図版65・66）

位置・立地：19Ｔ区　調査区の沢状地形の西端、急斜面に面した標高54.7ｍ付近。

確認・調査：Ⅴ層上面において灰黄褐色土の落ち込みとして確認した。土坑であることが想定されたため、半截したところ平坦な坑底と急で明瞭な壁の立ち上がりを検出し土坑と認定した。

覆　　土：Ⅴ層ローム質土が多く含まれる、にぶい黄褐色～灰黄褐色土が主体の混濁した締まりのある土である。埋め戻しであると考えられる。

遺　　物：覆土中よりⅡ群ｂ類土器１点、石斧片１点、フレイク29点出土、合計31点出土した。

時　　期：坑底からの出土遺物はないが、覆土にⅢ層由来の黒色土が縄文時代中期前半の遺構に比

べて含まれる量が少ない。また覆土中からⅡ群ｂ類土器が出土していることから縄文時代前期後半の土坑と判断する。（袖岡）

Ｐ－13（図Ⅲ－46　図版66・67）

位置・立地：23M区。東側の高い傾斜のある台地の縁で、北側は沢に面する崖縁に近い傾斜面である。

確認・調査：24M区の断面で検出した。西側はすでに掘削した後で東側半分が残存する。Ⅲ層上層から掘り込まれ覆土上部に炭化物の混入した層が検出されたことから、周囲で火が焚かれ、埋め戻しのさい上部にまとめて被せられたものと考えられる。

覆　　土：壁から坑底にかけて黒褐色の壌土が堆積し、中央部は黒色の壌土で上部に炭化物を含む層がありその上を黒褐色の壌土が覆っている。

構　　造：坑底は丸みが有り、壁は急角度に立ち上がる。

遺物出土状況：覆土からⅡ群ｂ類土器とフレイクが出土し、土器は中央部から南側に多く出土している。

時　　期：出土した遺物から縄文時代前期Ⅱ群ｂ類土器期の土坑と考えられる。（谷島）

Ｐ－14（図Ⅲ－47・48　図版67）

位置・立地：17U区　調査区沢状地形の南西側、標高55.2m付近。

確認・調査：包含層調査でⅤ層上面を精査中に黒色土の落ち込みとして確認した。土坑であることが考えられたため、半截したところ、坑底が広く平坦、オーバーハングし上場に向かい広がって立ち上がる壁面を検出し、フラスコ状土坑と認定した。

覆　　土：覆土１～４層まで自然埋没によるもので黒色～黒褐色土が主体で流れ込んだ堆積を観察するもの、５～７層が褐色～褐灰色土を主体とし、Ⅴ層上面で時折見られる濁川火砕流堆積物（推定）とⅤ層ローム質土を主体とする壁面崩落によるもの、８層以下が主にⅤ層ローム質土を主体とした埋め戻しによるものと考えられる。

遺物出土状況：覆土から土器・石器類17点、坑底と、坑底から検出した付属土坑からⅡ群ｂ類土器113点、石核２点、フレイク３点、たたき石１点、扁平打製石器２点、礫・礫片35点、覆土と併せて合計173点出土した。坑底から検出した２点の礫について、砂質で脆弱なものであったため取り上げ後、形状維持のためパラロイドＢ72の溶剤溶液に浸した。この礫の石材について、花岡が分析を行なっており、（Ⅴ章２．表Ⅴ－１・図版Ⅴ－１参照）水成の泥質砂岩であるとの結果が得られた。

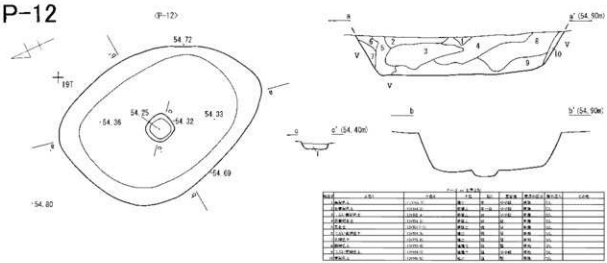
付属遺構：坑底遺物を取り上げた底から焼土の広がりと小土坑２ヶ所を検出している。焼土は斑な広がりである。この焼土をフローテーション資料として取り上げ、ここから得られた炭化物によって放射性炭素年代測定（AMS 法）と樹種同定を行なったところ、年代は4,710±30yrBP、樹種はカバノキ属との結果が得られた（第Ⅳ章１・２）。年代観は調査で判断した時期とほぼ一致する。

時　　期：坑底で検出された土器を接合したところ、Ⅱ群ｂ類土器の体部～底部にかけ復元できた。底は丁寧に磨かれており、少々上げ底気味である。文様は表面風化が著しいが、縦に撚糸文が施されているものと見られる。円筒土器下層式に相当し、土坑の時期は縄文時代前期後半の土坑墓と考えられる。（袖岡）

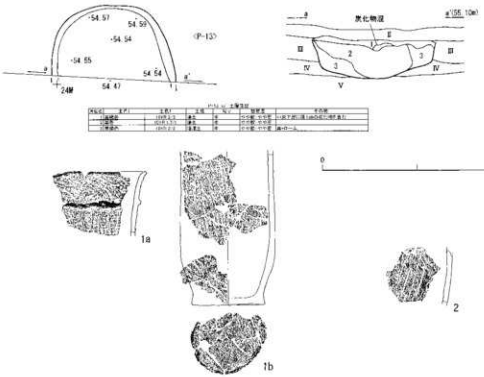
Ｐ－15（図Ⅲ－49　図版68）

位置・立地：15ｂ・ｃ　調査区南側の緩斜面

P-12

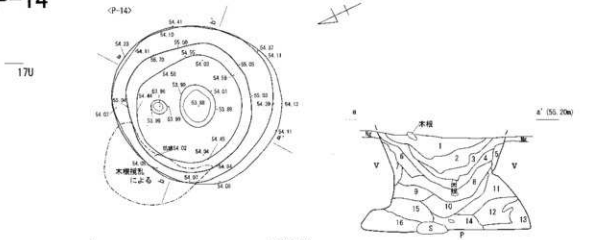


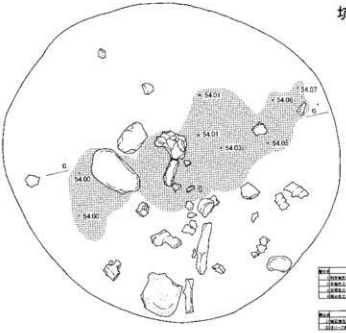
P-13



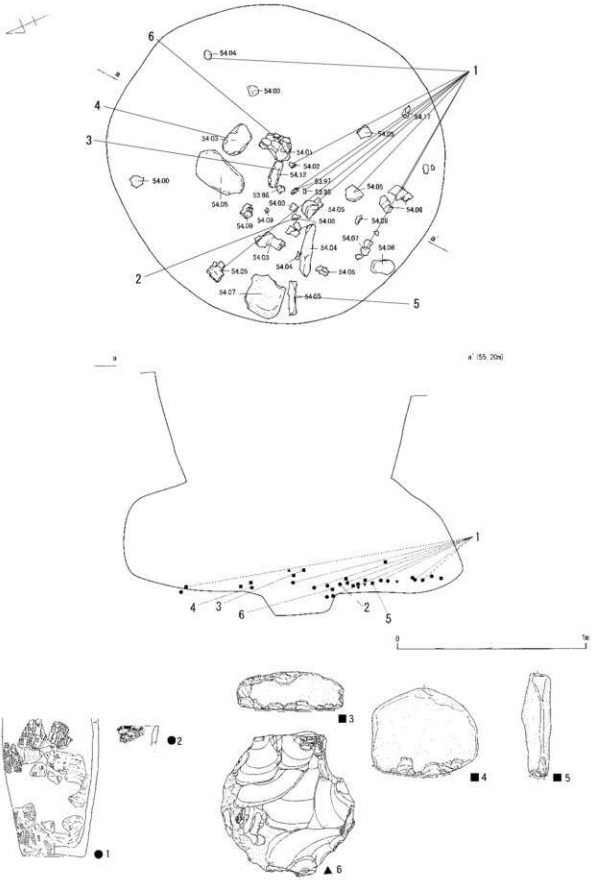
図Ⅲ－46　P－12・13

P−14





図Ⅲ−47　P−14(1)


a
a'
a' (55.20m)
1
2
3
4
5
6
54.04
54.03
54.11
54.00
54.01
54.07
54.12
53.97
53.98
53.96
54.05
54.06
54.08
54.09
54.07
54.03
54.04
54.08
54.05
54.07
0
1m
●1
●2
■3
■4
■5
▲6

図Ⅲ－48　P－14(2)

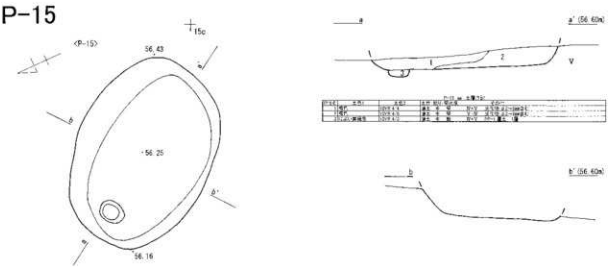
確認・調査：Ⅴ層上面を精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形である。坑底は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。PP－1は坑底にある浅い小土坑である。
覆　　土：埋め戻しの可能性がある。
遺物出土状況：2点出土した。
時　　期：覆土出土のⅢ群a類土器とⅣ群a類土器から縄文時代中期前半または後期前葉の可能性がある。（佐藤）

P－16（図Ⅲ－49　図版68）
位置・立地：17S区　調査区中央沢状地形の南西側、標高54.7m付近。
確認・調査：包含層調査でⅤ層土を掘り下げていたところ、灰黄褐色～にぶい黄褐色土の落ち込みを確認した。土坑であることが想定されたため半截したところ、平坦な坑底と急で明瞭な壁の立ち上がりを検出し土坑と認定した。
覆　　土：Ⅴ層ローム質土が多く含まれる、にぶい黄褐色～黄褐色が主体の土である。先に調査を行ったP－12に近似しており、埋め戻しと考えられる。この上面から焼土（PF－1）が検出されている。
遺　　物：フレイク28点出土している。内訳は坑底から4点、覆土から14点、覆土中の焼土から10点である。床面のフレイクは頁岩3点、メノウ1点である。
時　　期：時期を判断できる遺物はないが、覆土にⅢ層由来の黒色土が縄文時代中期前半の遺構に比べて含まれる量が少ない。また周辺の遺物などから縄文時代前期後半のものと考えられる。（袖岡）

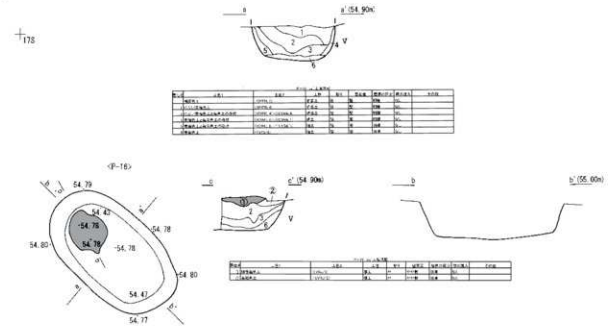
P－17（図Ⅲ－49　図版69）
位置・立地：16・17a　調査区南側の斜面
確認・調査：Ⅴ層上面を精査中ににぶい黄褐色土の落ち込みを確認した。平面形は円形である。坑底は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。
覆　　土：埋め戻しの可能性がある。
遺物出土状況：38点出土した。覆土中には主に土器片が散在する。
時　　期：覆土出土のⅡ群b類土器から縄文時代前期後半である。（佐藤）

P－18（図Ⅲ－50　図版69）
位置・立地：16T区　調査区中央の沢状地形南西側、標高55.2m付近。
確認・調査：包含層調査で、Ⅴ層上面において黒～黒褐色土の落ち込みとして確認した。土坑であることが想定されたため半截したところ、平坦な坑底と急で明瞭な壁の立ち上がりを検出し土坑と認定した。
覆　　土：Ⅲ層由来の黒～黒褐色土が主体である。自然埋没によるものである。
遺　　物：26点出土した。内訳は覆土から18点、坑底から8点で、坑底からのものはすべて頁岩のフレイクである。
時　　期：時期を判断できる遺物はないが、周辺の遺物などから縄文時代前期後半～中期前半にかけての土坑と考えられる。（袖岡）

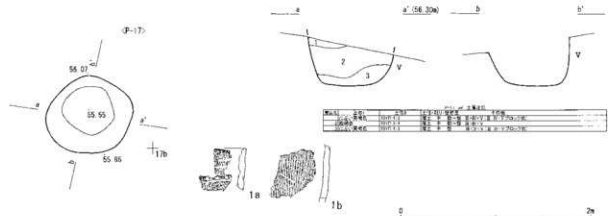
P−15



P−16

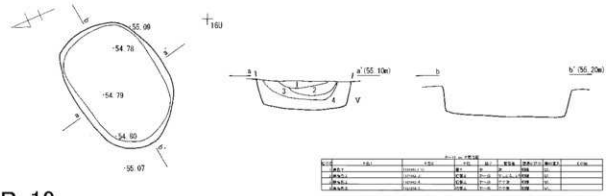


P−17

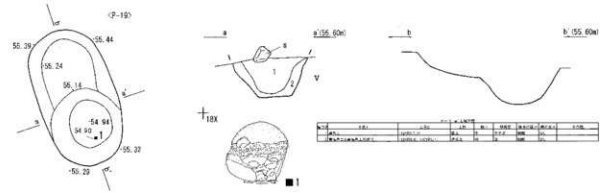


図Ⅲ−49　P−15・16・17

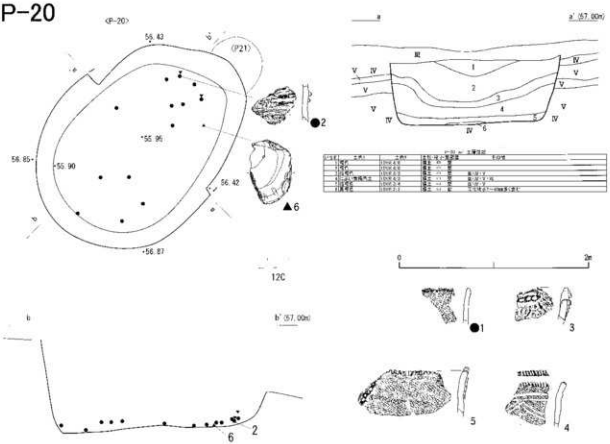
P−18



P−19



P−20



図Ⅲ−50　P−18・19・20

Ｐ－19（図Ⅲ－50　図版69）

位置・立地：17・18W区　調査区南西側の平坦面から斜面にかけての標高55.4m付近。

確認・調査：包含層調査で、Ⅴ層上面において黒色土の落ち込みとして確認した。土坑であることが想定されたため半截したところ、平坦な坑底と急で明瞭な壁の立ち上がりを検出し土坑と認定した。

覆　　土：自然埋没によるものである。

遺　　物：坑底より北海道式石冠が１点、覆土中よりフレイク１点、礫片１点の合計３点出土している。

時　　期：坑底から出土した遺物から縄文時代縄文時代前期後半～中期前半にかけてのものと判断する。（袖岡）

Ｐ－20（図Ⅲ－50　図版70）

位置・立地：11ｂ　調査区南側の緩斜面

確認・調査：Ⅲ層中位を精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形である。坑底は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。土層の観察により、Ｐ－21より新しい。

覆　　土：自然堆積である。坑底に炭化物を含む層（６層）を確認した。

遺物出土状況：606点出土した。坑底と覆土の下位から主にⅡ群ｂ類が出土した。

時　　期：坑底と覆土の下位出土のⅡ群ｂ類土器から縄文時代前期後半である。（佐藤）

Ｐ－21（図Ⅲ－51　図版70）

位置・立地：11ｂ　調査区南側の緩斜面

確認・調査：Ⅲ層中位を精査中に黒褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形である。坑底は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。土層の観察により、Ｐ－20より古い。

覆　　土：埋め戻しの可能性がある。

遺物出土状況：４点出土した。

時　　期：覆土出土のⅡ群ｂ類土器から縄文時代前期後半である。（佐藤）

Ｐ－23（図Ⅲ－51　図版70）

位置・立地：19Ｐ区

確認・調査：Ⅳ層上位を精査し、検出した。北側にＰ－24があり形態が類似することから、対を成すようである。

覆　　土：覆土は褐色シルト質壌土の単層で埋め戻されている。

構　　造：東西に長い楕円形を呈し、坑底は平坦である。壁は丸みを持って立ち上がる。

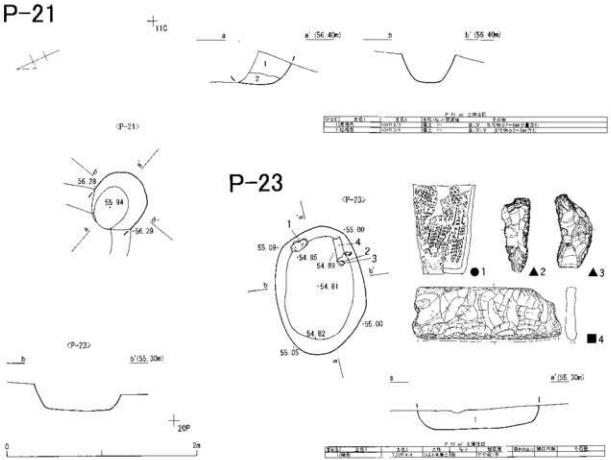
遺物出土状況：覆土の東側に偏り、Ⅱ群ｂ類土器とスクレイパー、Ｒフレイク、扁平打製石器が出土している。

時　　期：出土した遺物から縄文時代前期Ⅱ群ｂ類土器期の土坑と考えられる。（谷島）

Ｐ－24（図Ⅲ－52　図版71）

位置・立地：19Ｏ・Ｐ区

確認・調査：Ⅳ層上位を精査し、検出した。南側にＰ－23があり形態が類似することから、対を成すようである。



図Ⅲ−51　P−21・23

覆　　土： 坑底に粘質の明褐色土があり、その上に遺物が出土した。これを土坑に伴う遺物とし、土坑と同様にとらえる。上は黒褐色シルト質壌土の単層で埋め戻されている。

構　　造：東西に長い楕円形を呈し、坑底は平坦である。壁は斜めに立ち上がる。西側壁の一部は抜根により壊されている。

遺物出土状況：中央部北側の覆土下位（坑底）から横倒しになって潰れた1個体のⅡ群b類土器と扁平打製石器が、東側からフレイクが出土している。

時　　期：出土した遺物から縄文時代前期Ⅱ群b類土器期の土坑と考えられる。　（谷島）

P−25（図Ⅲ−52　図版72）

位置・立地：20O区

確認・調査：Ⅲ層下位を精査し、検出した。

覆　　土：覆土は坑底に接し明褐色壌土、その上に極暗褐色壌土で埋め戻されている。

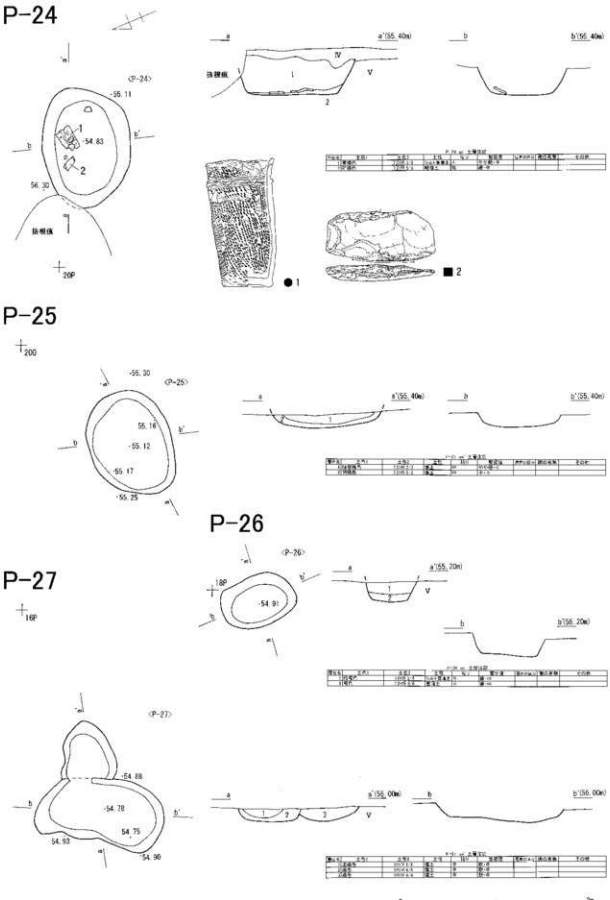
構　　造：東西に長い楕円形を呈し、坑底は平坦である。壁は丸みを持ち斜めに立ち上がる。

遺物出土状況：覆土からつまみ付きナイフ、坑底からフレイクが出土している。

時　　期：検出した層位から縄文時代前期頃の土坑と考えられる。　（谷島）

P−26（図Ⅲ−52　図版72）

位置・立地：17・18P区



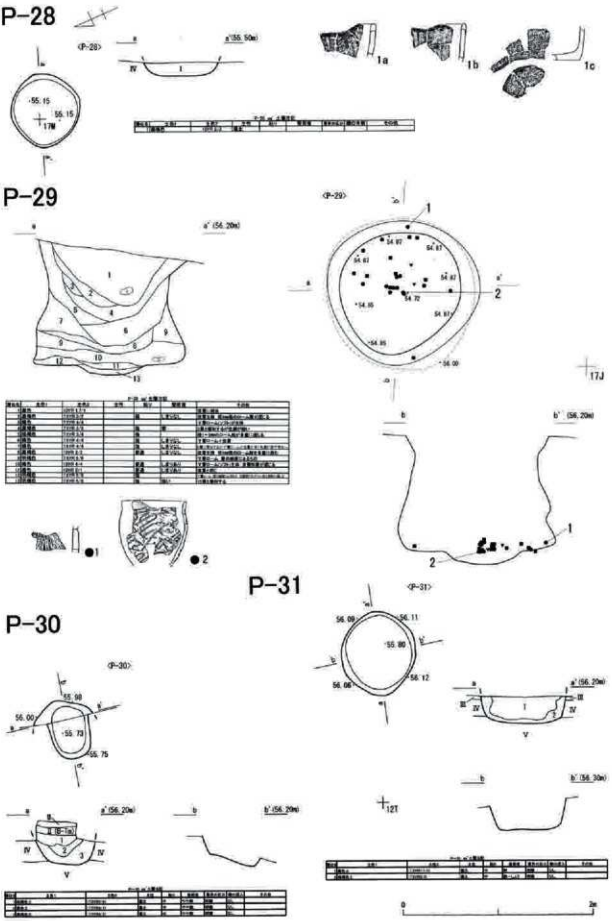
図Ⅲ−52　P−24・25・26・27

確認・調査：Ⅳ層上位を精査し、検出した。
覆　　土：覆土は坑底に接し褐色重埴土、その上に暗褐色シルト質壌土で埋め戻されている。
構　　造：南北に長い長円形を呈し、坑底は平坦である。壁は斜めに立ち上がる。
遺物出土状況：覆土からフレイクが出土している。
時　　期：形態や、検出層位、周囲の出土遺物から縄文時代前期頃と推定される。　（谷島）

Ｐ－27（図Ⅲ－52　図版72）
位置・立地：16Ｐ区
確認・調査：Ⅳ層上位を精査し、周囲より暗い色の落ち込みを検出した。平面形が不整形であったため飛び出した東西南北の長手方向をそれぞれ土層断面とし、観察した結果、２基の土坑の重複であることが判明した。東側に小さめの土坑があり、その南半を切って南北を長軸とする長円形の土坑が掘り込まれている。遺構番号は、両者ともそのままＰ－27とした。
覆　　土：東側の土坑は褐色壌土の単層で埋め戻され、西側の土坑は坑底に接し褐色壌土、その上に黒褐色壌土が埋め戻されている。
構　　造：東側に不整であるが楕円形で丸底の小型土坑が掘り込まれていたが、その西側を壊して南北方向に長軸を持つ長円形で坑底が平坦な土坑が掘り込まれている。
遺物出土状況：覆土から礫が出土している。
時　　期：形態や、検出層位、周囲の出土遺物から縄文時代前期頃と推定される。　（谷島）

Ｐ－28（図Ⅲ－53　図版72・73）
位置・立地：17M区杭の直下に位置する。
確認・調査：Ⅳ層上位を精査し、周囲より暗い色の落ち込みを検出した。
覆　　土：黒褐色壌土の単層で埋め戻されている。
構　　造：円形を呈し、坑底は平坦である。壁は丸みを帯びて立ち上がる。
遺物出土状況：覆土の上部からⅡ群ｂ類土器４点、Ⅳ群ａ類土器50点、両面調整石器、扁平打製石器、フレイクなどが出土している。
時　　期：出土した遺物から縄文時代後期Ⅳ群ａ類土器期の土坑と考えられる。　（谷島）

Ｐ－29（図Ⅲ－53　図版73）
位置・立地：16・17Ｉ　調査区北側縁辺部の標高56.4～56.0mの南方向に傾斜する緩斜面上。
確認・調査：包含層調査中、Ⅳ層上面で黒色土の拡がりを検出した。黒色土の範囲は、直径1.5m程の円形を呈する。傾斜に沿って南北方向に半截し、掘り下げた。壙底面とオーバーハングしながら立ち上がる壁を検出したため、形態からフラスコ状ピットと判断した。
覆　　土：１～５・11層は黒色土を主体とした自然堆積土、６～10・12層はⅤ層を主体とした崩落土である。
構　　造：平面形は円である。坑底面は固くしまったローム層である。坑底中央部に78×68cm、深さ17cmの卵形を呈する浅い皿状の掘り込みが見られる。掘り込みは、Ⅴ層相当のロームで蓋をするような状態で覆われていた。覆土は非常に固くしまっていた。遺物は出土していない。壁は坑底付近から大きくオーバーハングし、坑口部付近で外反するように開く。
遺物出土状況：況覆土中から縄文時代中・後期の土器片が、坑底から後期の土器片が出土している。



図Ⅲ−53　P−28・29・30・31

覆土から出土している遺物は、遺物の垂直分布から見て土坑外から流れ込んだものである。
出土遺物は覆土中より土器・石器あわせて180点、坑底からはⅡ群b類土器2点、Ⅳ群a類土器12点、フレイク2点、扁平打製石器1点、礫・礫片10点の計27点、合計207点出土した。
時　　期：坑底から出土した遺物から、縄文時代後期前葉と考えられる。（立川）

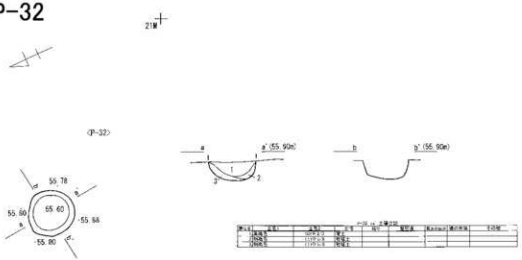
P－30（図Ⅲ－53　図版74）
位置・立地：15Ｊ区　調査区の北側、沢状地形に向かい、緩やかな斜面。56.0m付近。
確認・調査：包含層調査で、Ⅳ層上面において黒色～暗褐色土の落ち込みとして確認した。土坑であることが想定されたため半截したところ、平担な坑底と急で明瞭な壁の立ち上がりを検出し土坑と認定した。
覆　　土：自然埋没によるものである。
遺　　物：覆土中から頁岩のフレイク2点が出土した。
時　　期：土坑周辺の遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。（袖岡）

P－31（図Ⅲ－53　図版74）
位置・立地：11Ｓ・Ｔ区　調査区中央よりやや南西側、沢状地形と平担面の境、緩やかな斜面。標高56.2m付近。
確認・調査：包含層調査で、Ⅲ層下位において黒色土の落ち込みとして確認した。土坑であることが想定されたため半截したところ、平担な坑底と急で明瞭な壁の立ち上がりを検出し土坑と認定した。
覆　　土：自然埋没によるものである。
遺　　物：覆土中よりⅡ群b類土器5点、Ⅲ群a類土器1点、Ⅳ群a類土器5点、Ⅵ群土器3点、頁岩のフレイク4点、合計18点出土している。
時　　期：覆土中と周辺の遺物から縄文時代～続縄文にかけての遺構と考えられる。（袖岡）

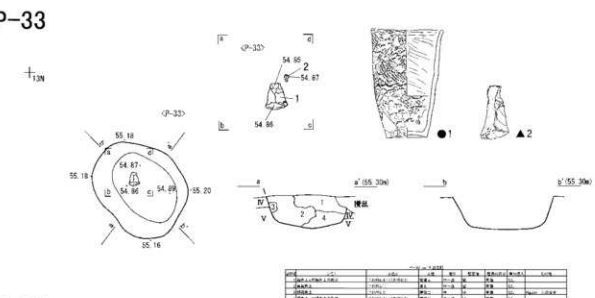
P－32（図Ⅲ－54　図版74）
位置・立地：21Ｌ区
確認・調査：Ⅴ層上位を精査し、周囲より暗い色の落ち込みを検出した。
覆　　土：坑底から壁は明褐色の重埴土で覆われ、覆土中央は黒褐色壌土があり、埋め戻されている。
構　　造：小形の円形を呈し、坑底は平担である。壁は丸みを帯びて立ち上がる。
遺物出土状況：覆土からⅡ群b類土器が出土している。
時　　期：出土した遺物から縄文時代前期Ⅱ群b類土器期の土坑と考えられる。（谷島）

P－33（図Ⅲ－54　図版75）
位置・立地：13Ｎ区　調査区中央よりやや東、沢状地形の標高55.2m付近。
確認・調査：包含層調査で、Ⅳ層中で褐色～黒褐色土の落ち込みとして確認した。土坑であることが想定されたため半截したところ平担な坑底と急で明瞭な壁の立ち上がりを検出し土坑と認定した。
覆　　土：ローム質土を主体とした褐色土と黒褐色が混濁した土である。埋め戻しによるものと考えられる。
遺　　物：坑底よりⅡ群b類土器1個体（破片数38点）、頁岩のフレイク2点、覆土中より頁岩の

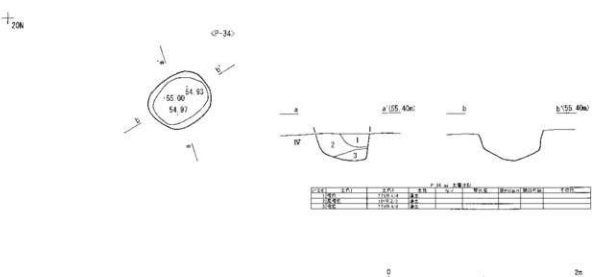
P−32



P−33



P−34



図Ⅲ−54　P−32・33・34

フレイク２点出土している。

時　　期：坑底から検出したⅡ群ｂ類土器から縄文時代前期後半、円筒土器下層ｂ式相当の土坑と判断する。（袖岡）

Ｐ－34（図Ⅲ－54　図版75）

位置・立地：20Ｎ区

確認・調査：Ⅴ層上位を精査し、周囲より暗い色の落ち込みを検出した。

覆　　土：坑底の東側は褐色壌土、その上から西側は黒褐色壌土で覆われ、東側は褐色壌土で覆われている。堆積状況から埋戻しと推定される。

構　　造：南北が長軸の小形の楕円形を呈し、坑底は中央部から東側がくぼむ。壁は急角度に立ち上がる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時　　期：形態や、検出層位、周囲の出土遺物から縄文時代前期頃と推定される。（谷島）

Ｐ－35（図Ⅲ－55　図版75）

位置・立地：15Ｏ区　調査区中央よりやや東、沢状地形の標高55.0m付近。

確認・調査：包含層調査で、Ⅴ層中でにぶい褐色～褐灰色土の落ち込みとして検出した。土坑であることが想定されたため半截したところ平坦な坑底と急で明瞭な壁の立ち上がりを検出し土坑と認定した。

覆　　土：にぶい褐色～褐灰色土の混濁した土である。埋め戻しによるものと考えられる。

遺　　物：覆土中よりⅡ群ｂ類土器２点出土している。

時　　期：覆土の堆積状況からＰ－33と近似した土坑と考えられ、縄文時代前期後半の土坑と思われる。（袖岡）

Ｐ－36（図Ⅲ－55　図版76）

位置・立地：15Ｏ区　調査区中央よりやや東、沢状地形の標高55.0m付近。

確認・調査：包含層調査で、Ⅴ層中で褐灰色土の落ち込みとして検出した。土坑であることが想定されたため半截したところ平坦な坑底と急で明瞭な壁の立ち上がりを検出し土坑と認定した。本来の構築面は検出面より上部にあり、坑底付近の検出である。

覆　　土：Ｐ－35と同様で、埋め戻しによるものと考えられる。

遺　　物：出土しなかった。

時　　期：Ｐ－33・35と同様の縄文時代前期後半の土坑と思われる。（袖岡）

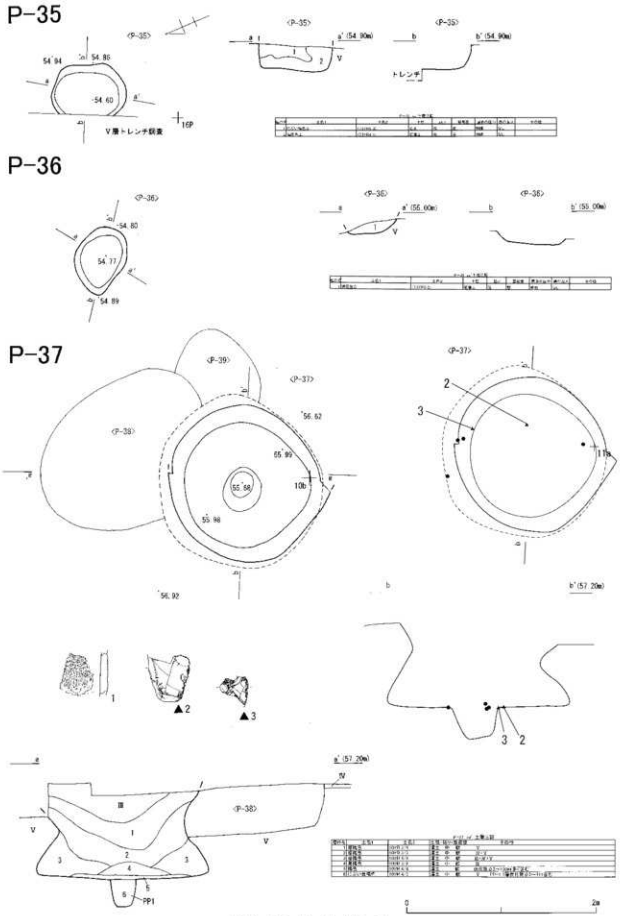
Ｐ－37（図Ⅲ－55　図版76）

位置・立地：10・11Ｚ・ａ　調査区南側の緩斜面

確認・調査：Ⅳ層上面を精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。平面形は円形である。坑底は平坦で、壁は緩やかに立ち上がったあとオーバーハングするフラスコ状である。PP－１は坑底にある柱穴様の土坑である。土層の観察により、Ｐ－38・39より新しい。

覆　　土：自然堆積である。坑底に炭化物を含む層（５層）を確認した。

遺物出土状況：305点出土した。



図Ⅲ−55　P−35・36・37

時　　期：P－37より古いP－38・39の覆土中からⅢ群a類土器が出土していることから、縄文時代中期前半の可能性が高い。（佐藤）

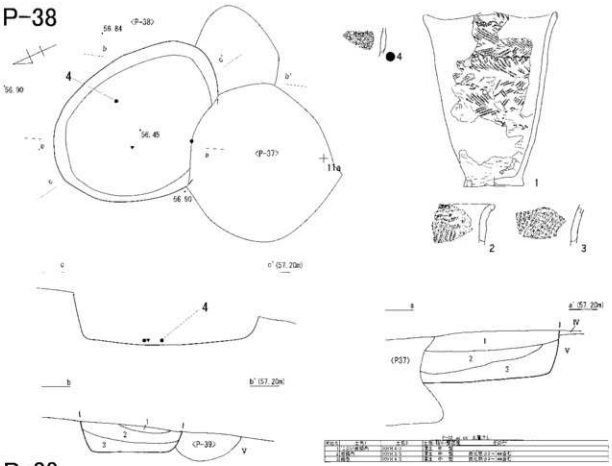
P－38（図Ⅲ－56　図版77）
位置・立地：10Z　調査区南側の緩斜面
確認・調査：Ⅳ層上面を精査中ににぶい黄褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形である。坑底は平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。土層の観察により、P－37より古くP－39より新しい。
覆　　土：自然堆積である。
遺物出土状況：176点出土した。
時　　期：P38より古いP39の覆土中からⅢ群a類土器が出土していることから、縄文時代中期前半の可能性が高い。（佐藤）

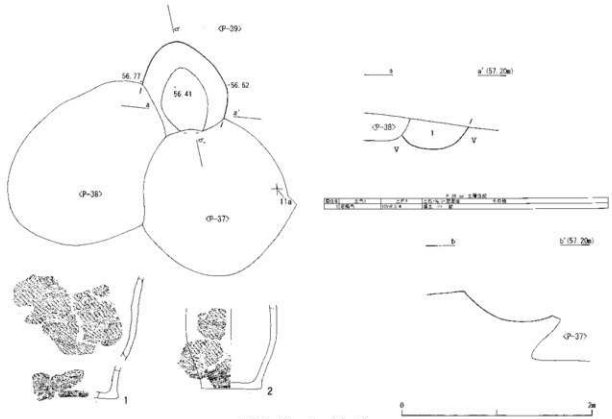
P－39（図Ⅲ－56　図版77）
位置・立地：10・11Z　調査区南側の緩斜面
確認・調査：Ⅳ層上面を精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。平面形は不明である。坑底は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。土層の観察により、P－37・38より古い。
覆　　土：自然堆積である。
遺物出土状況：125点出土した。
時　　期：覆土出土のⅢ群a類土器から縄文時代中期前半の可能性が高い。（佐藤）

P－40（図Ⅲ－57　図版77・78）
位置・立地：11・12Z　調査区南側の平坦面
確認・調査：Ⅴ層上面を精査中に暗赤褐色土とにぶい黄褐色土の落ち込みを確認した。平面形は円形である。坑底は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。PF－1は焼成部分の確認状況から、覆土上面において焚かれたものである。PP－1は坑底にある柱穴様の土坑である。土層の観察により、H－16より古い。
覆　　土：埋め戻しの可能性がある。
遺物出土状況：43点出土した。
時　　期：覆土出土のⅢ群a類土器から縄文時代中期前半である。（佐藤）

P－41（図Ⅲ－57　図版78）
位置・立地：12Y・Z　調査区南側の平坦面
確認・調査：Ⅴ層上面を精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。平面形は円形である。坑底はやや丸みがあり、壁は緩やかに立ち上がる。
覆　　土：自然堆積である。
遺物出土状況：2点出土した。
時　　期：覆土出土のⅣ群a類土器から縄文時代後期前葉の可能性がある。（佐藤）

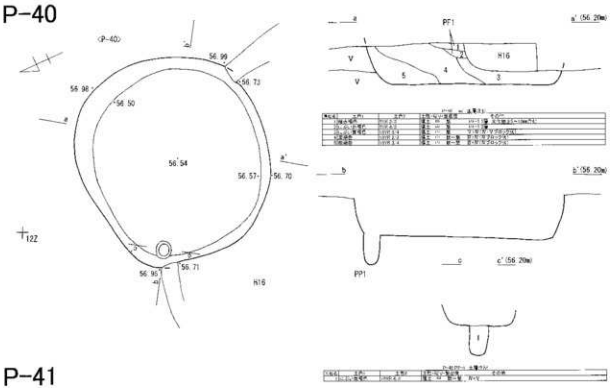
P－42（図Ⅲ－57　図版7・8）
位置・立地：12O区　調査区中央よりやや東、沢状地形の標高54.9m付近。


P-38
56.84
(P-38)
56.90
56.45
(P-37)
56.50
11a
57.20m
4
1
2
3
(P37)
IV
V
(P-39)

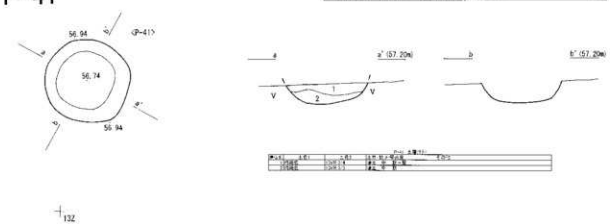

P-39
(P-39)
56.77
56.41
56.62
(P-38)
(P-37)
11a
57.20m
1
2
V
0
2m

図Ⅲ－56　P－38・39

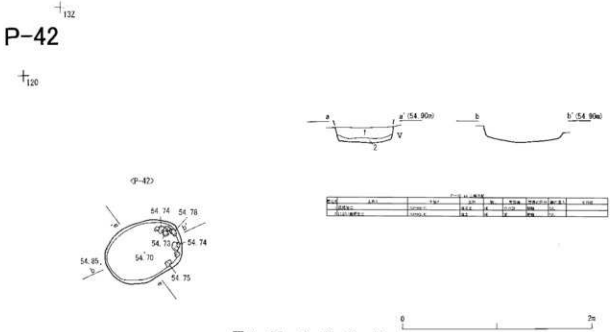
P−40



P−41

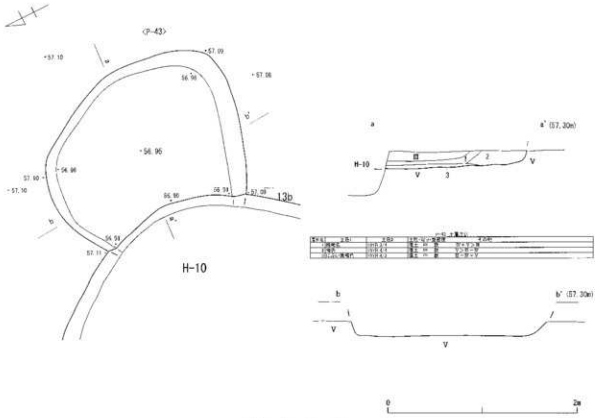


P−42



図Ⅲ−57　P−40・41・42

P−43



図Ⅲ−58　P−43

確認・調査：包含層調査で、Ⅴ層中で灰黄褐色土の落ち込みとして検出した。土坑であることが想定されたため半截したところ平坦な坑底と急で明瞭な壁の立ち上がりを検出し土坑と認定した。

覆　　土：P−33・35・36と同様で、埋め戻しによるものと考えられる。

遺　　物：坑底に近いところより、手の中に納まるほどの亜円～円礫が11点出土した。

時　　期：P−33・35・36と同様の縄文時代前期後半の土坑と思われる。（袖岡）

P−43（図Ⅲ−58）

位置・立地：12・13−a　調査区南側の平坦面

確認・調査：H−10周辺のⅤ層上面を精査中に暗褐色の落ち込を確認した。平面形は不明である。坑底はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。確認状況から、H−10より古い。

覆　　土：自然堆積である

遺物出土状況：16点出土した。

時　　期：覆土出土のⅢ群a類土器から縄文時代中期後半の可能性がある。（佐藤）

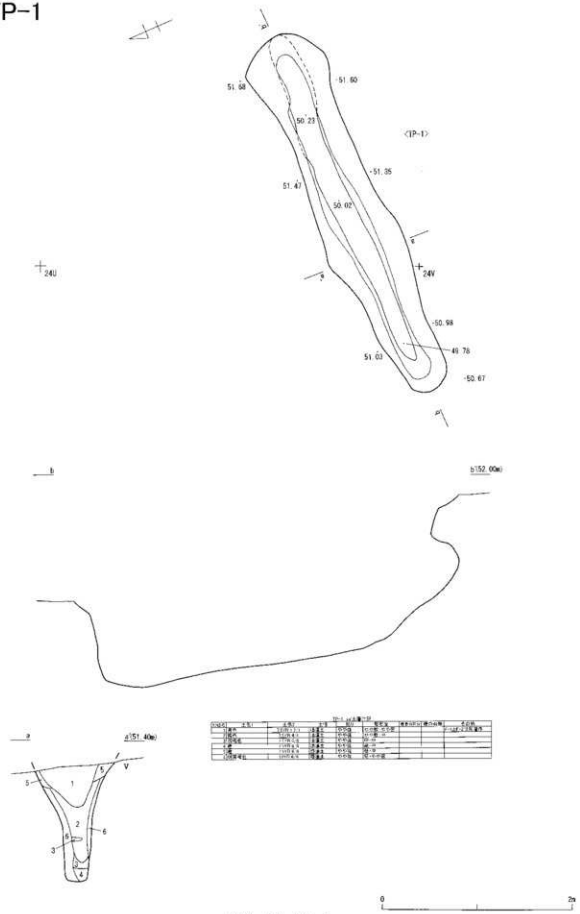
(3)　Tピット

TP−1（図Ⅲ−59　図版97）

位置・立地：23・24U、24V、東側の高い斜面に位置する。

確認・調査：排水路を設置するため先行して調査を行った。24ラインを調査中にⅤ層上面で西側半分

TP−1


51.60
51.58
50.23
51.35
51.47
50.02
24U
24V
50.98
49.78
51.03
50.67
b
b'(52.00m)
a
a'(51.40m)
1
2
3
4
5
6
V
0
2m

図Ⅲ−59 TP−1

を検出した。東側に表土が残っていたため、これを除去した後に調査を行った。

覆　　土：上部と溝状の壁の両側は、風化による地山の変化が現れ覆土の短軸幅が広くなり、上部で崩落痕が確認される。溝の中央部は崩落堆積が順に堆積している。

構　　造：出土例の多い溝状のＴピットであるが、東側の高い傾斜地に構築されたため坑底は地表の傾斜に沿って長軸方向が傾いている。東側端の壁はオーバーハングする。

遺物出土状況：覆土からⅡ群ｂ類土器とフレイクが出土している。

時　　期：掘り込みはⅢ層下位にあることと、出土した遺物から縄文時代前期Ⅱ群ｂ類土器期と考えられる。（谷島）

TP－２（図Ⅲ－60　図版97）

位置・立地：19・20Ｒ区　調査区中央沢状地形の南西側、標高54.9m付近。

確認・調査：包含層調査でⅤ層上面を精査中、黒色～暗褐色土で溝状の落ち込みを確認した。Ｔピットであることが想定されたため、長軸に直交するように半截したところ、溝になる底と開口部に向かい、わずかずつ開いて立ち上がる壁を検出しＴピットと判断した。検出面から深さ30cm前後の開口部付近は壁面の崩落により広がっている。

覆　　土：自然埋没によるものである。

遺　　物：覆土中より土器・石器併せて30点出土している。

時　　期：時期を特定できる遺物の出土はないが、周辺の遺物から縄文時代前期後半～中期前半と考えられる。（袖岡）

TP－３（図Ⅲ－60　図版97・98）

位置・立地：21Ｔ区　調査区南西側、標高54.0mの斜面。

確認・調査：Ⅴ層上面を精査中、黒褐色～褐色土の落ち込みを検出した。土坑であることが想定されたため、この落ち込みの長軸と直交するところで半截したところ、平坦な坑底と急で明瞭な壁の立ち上がりを確認した。調査の結果、平面の形状と土層の堆積状況、斜面部に遺構が構築されていることなどから小判形のＴピットと考えられる。

覆　　土：自然埋没によるものである。

遺　　物：出土しなかった。

時　　期：時期を特定できる遺物の出土はないが、周辺の遺物から縄文時代前期後半～中期前半と考えられる。（袖岡）

TP－４（図Ⅲ－61　図版98）

位置・立地：17Ｎ・Ｏ　調査区中央部やや北側、標高55.0～55.2mの平坦部。

確認・調査：包含層調査中、Ⅳ上面で溝状の黒色土の拡がりを検出した。遺構確認のため短軸方向で半截し掘り下げたところ、坑底面と壁の立ち上がりを検出し、Ｔピットであることが判明した。

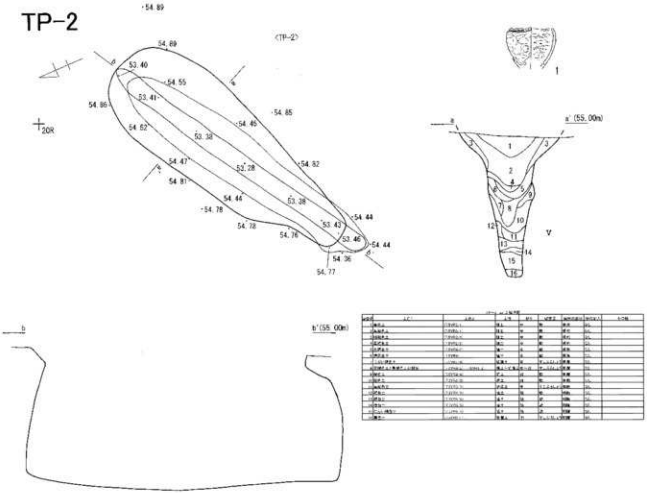
覆　　土：覆土１～３は黒色土が主体の自然堆積土、４～６はⅤ層が主体の崩落土である。

構　　造：平面形は長楕円形（溝状）である。底部は幅10cm程の溝状である。

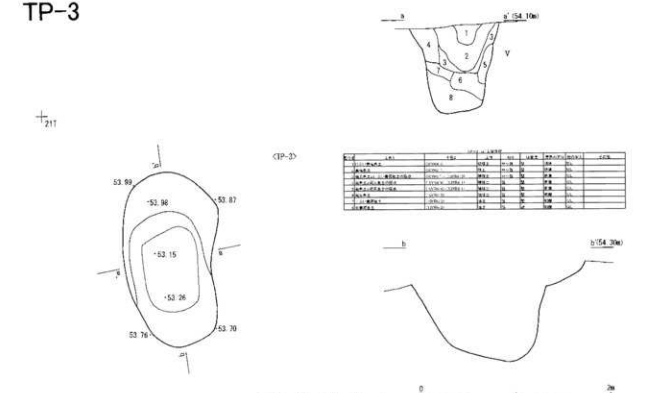
遺物出土状況：覆土中より、土器・石器あわせて10点出土している。

時　　期：遺構周辺包含層から縄文時代縄文時代中期、後期の遺物が出土していることから、この時期に属すると考えられる。（立川）

TP-2

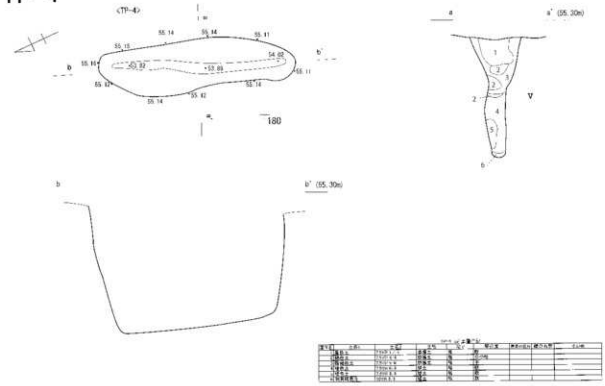


TP-3

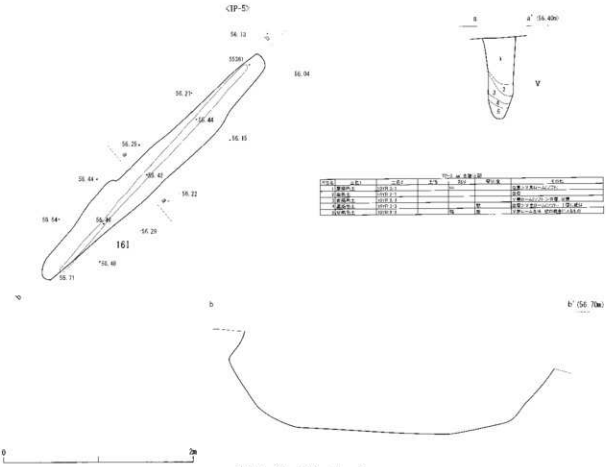


図Ⅲ－60 TP－2・3

TP-4



TP-5



図Ⅲ－61　TP－4・5

TP－5（図Ⅲ－61　図版98）

位置・立地：15H・Ⅰ、16H　調査区北側縁辺部、標高56.6～56.0mの南西方向に傾斜する緩斜面上。

調　　査：包含層調査中、Ⅳ上面で溝状の黒褐色土の拡がりを検出した。遺構確認のため短軸方向で半截し掘り下げたところ、坑底面と壁の立ち上がりを検出し、Tピットであることが判明した。

覆　　土：覆土1・2・4は黒色土が主体の自然堆積土、3・5はⅤ層が主体の崩落土である。

構　　造：平面形は、長楕円（溝状）である。遺構中央部から北西側端部にかけて重複する2本の底部が検出された。土層断面での観察では、切り合いは見られなかった。一方が溝状でほぼ平坦な底面を持つのに対し、もう一方は中央部でくぼみ北側端部にかけて反り上がっている。これらのことから、Tピット同士の重複ではなく、掘りなおしによるものと考えられる。

遺物出土状況：覆土中より土器・石器あわせて3点出土した。

時　　期：出土遺物から縄文時代前期と考えられる住居跡（H－1）が北西側に近接する。また、周辺包含層から縄文時代中期、後期の遺物が出土していることから、これらの時期に属すると考えられる。（立川）

(4) 焼土跡

F－1（図Ⅲ－62　図版79）

位置・立地：17L・M区

確認・調査：Ⅲ層上位を精査し検出した。同一平面上の西側にF－2を検出した。

土　　層：F－1とF－2の土質と土色はほぼ同じである。焼土上で炭化物は検出できなかった。焼土は2層に別れ、東側が被熱を強く受けていることがわかる。焼土層の下部層界は漸移することからここで焚かれたと考えられる。

遺物出土状況：焼土からⅡ群b類土器12点、フレイクが出土している。Ⅳ群a類土器1点とⅥ群土器3点が出土しているが混入と考えられる。

時　　期：出土した遺物から縄文時代前期Ⅱ群b類土器期と考えられる。また、検出層位や位置からF－2と関連するものと推定される。（谷島）

F－2（図Ⅲ－62　図版79）

位置・立地：17M区

確認・調査：Ⅲ層上位を精査し検出した。同一平面上の東側にF－1を検出した。

土　　層：F－1とF－2の土質と土色はほぼ同じである。焼土上で炭化物は検出できなかった。東側に焼土粒がみられ掻き回されたのではないかと推定され、焼土層の下部層界は漸移することからここで焚かれたと考えられる。

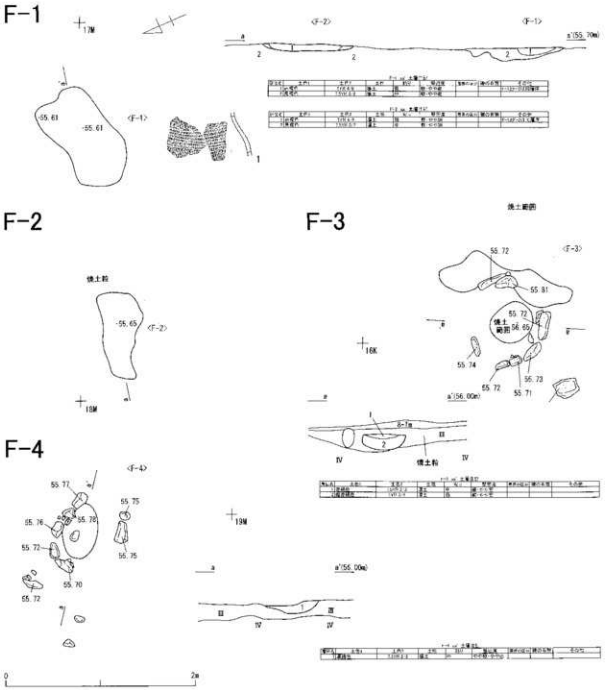
遺物出土状況：焼土からⅡ群b類土器2点と被熱礫が出土している。

時　　期：出土した遺物から縄文時代前期Ⅱ群b類土器期と考えられる。また、検出層位や位置からF－1と関連するものと推定される。（谷島）

F－3（図Ⅲ－62　図版79）

位置・立地：15・16K区

確認・調査：16K区を調査中に礫が半円状に回るのを確認し、16ラインに土層観察用の土手を残し周



図Ⅲ－62　F－1・2・3・4

囲を掘り下げた。Ⅲ層上位からやや下に焼土上面があり、周囲は礫石器や礫で囲まれほぼ円形を呈し、直径は礫の外側で約１mである。この石囲い炉の東外側に南北に長く焼土がある。石囲い炉と同一と思われるが、外側にも焼土がある理由は不明である。

土　　層：Ⅲ層上位からやや下に焼土上面があり、焼土は２枚認められ上方がやや暗い。上部に炭化物は認められなかった。焼土の下層界は漸移している。

遺物出土状況：焼土からⅢ群ａ類土器と扁平打製石器、石鋸、フレイク、被熱礫が出土している。

時　　期：出土した遺物から縄文時代前期Ⅱ群ａ類土器期と考えられる。（谷島）

Ｆ－４（図Ⅲ－62　図版79）

位置・立地：18・19Ｌ区

確認・調査：Ⅲ層上位を調査中、礫がまとまって出土した。掘り下げると焼土が検出されたため長軸方向の南東から北西方向に土層断面を設定した。この線より北側は礫が半楕円形に配されて焼土を囲み、南側は礫２個が焼土の回りから出土したが他は動いている。焼土上から炭化物は検出されなかった。

土　　層：石囲いの中に黒褐色の焼土を確認した。焼土の下側層界は漸移している。

遺物出土状況：焼土からフレイクと焼土周囲から被熱礫が出土している。

時　　期：出土層位やＦ－３と類似することから縄文時代前期と考えられる。（谷島）

Ｆ－５（図Ⅲ－63　図版79）

位置・立地：20Ｒ区　調査区中央沢状地形の南西端、標高54.8m付近。

確認・調査：包含層のⅢ層下位を調査中ににぶい赤褐色土の広がりを検出した。半截したところ、検出した面の下から明赤褐色土の焼成を受けた土層を確認し、この場で焼かれた焼土跡であると判断した。

遺　　物：頁岩のフレイク９点が出土した。

時　　期：時期を特定できる遺物の出土はないが、周辺の遺物から縄文時代前期後半～中期前半と考えられる。（袖岡）

Ｆ－６（図Ⅲ－63　図版79）

位置・立地：16Ｒ区　調査区の沢状地形のほぼ中央、標高55.0m付近。

確認・調査：Ｐ－４の調査で覆土中より確認した。半截したところ赤褐色～暗赤褐色の断面を確認し焼土と判断した。

遺　　物：頁岩のＲフレイク１点、フレイク23（メノウ１、頁岩23）点が出土した。

時　　期：周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半と思われる。（袖岡）

Ｆ－７（図Ⅲ－63　図版80）

位置・立地：16Ｒ区　調査区の沢状地形のほぼ中央、標高55.0m付近。

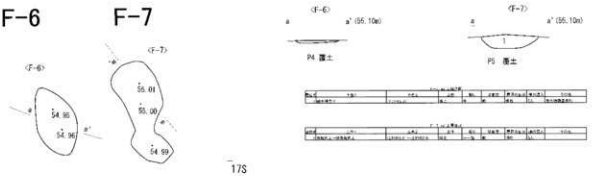
確認・調査：Ｆ－６に隣接し検出した。半截したところ薄い暗赤褐色土の堆積を確認した。Ｆ－６に近いこと、色調が近い土の不整な広がりであることからＦ－６由来の焼土であると思われる。

遺　　物：頁岩のフレイク60点が出土した。

時　　期：周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半と思われる。（袖岡）

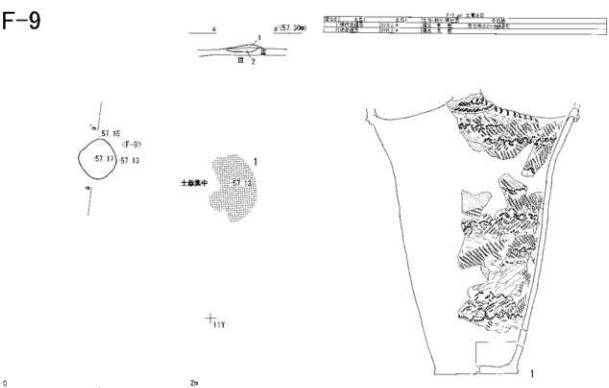
F−5

F−6　F−7



F−8

F−9



図Ⅲ−63　F−5・6・7・8・9

F－8（図Ⅲ－63）
位置・立地：10Ⅴ　調査区南側の斜面にあるH－9内の窪地
確認・調査：H－9内の窪地のⅢ層中位相当を精査中に焼土を確認した。焼成部分の確認状況から、その場で焚かれた焼土である。
覆　　土：下限が漸移的な焼成部分を確認した。
遺物出土状況：2点出土した。
時　　期：確認状況と出土遺物から縄文時代前期後半の可能性がある。（佐藤）

F－9（図Ⅲ－63　図版80）
位置・立地：10X　調査区南側の平坦面
確認・調査：Ⅲ層中位を精査中に焼土を検出した。焼成部分の確認状況から、その場で焚かれた焼土である。
土　　層：下限が漸移的な焼成部分を確認した。
遺物出土状況：121点出土した。近接して一個体の土器（図Ⅲ－136－F－9）がつぶれた状態で出土した。
時　　期：近接して出土した遺物から縄文時代中期前半である。（佐藤）

F－10（図Ⅲ－64　図版80）
位置・立地：10Ⅴ・W　調査区南側の平坦面
確認・調査：Ⅲ層中位を精査中に焼土を検出した。焼成部分の確認状況から、その場で焚かれた焼土である。
土　　層：下限が漸移的な焼成部分を確認した。
遺物出土状況：5点出土した。
時　　期：出土遺物から縄文時代中期前半である。（佐藤）

F－11（図Ⅲ－64　図版80）
位置・立地：10・11Y　調査区南側の平坦面
確認・調査：風倒木痕内のⅢ層中位を精査中に焼土を検出した。焼成部分の確認状況から、その場で焚かれた焼土である。
土　　層：下限が漸移的な焼成部分を確認した。
遺物出土状況：出土しなかった。
時　　期：確認状況と周辺の出土遺物から縄文時代中期前半の可能性が高い。（佐藤）

F－12（図Ⅲ－64　図版81）
位置・立地：16S区　調査区の沢状地形のほぼ中央、標高55.0m付近。
確認・調査：包含層のⅣ層下位を調査中に暗赤褐色土の広がりを検出した。半截したところ暗赤褐色土を呈する焼土の堆積を確認した。
遺　　物：頁岩のフレイク50点が出土した。
時　　期：検出した層位から縄文時代早期～中期前半の焼土と考えられる。（袖岡）

F−10

F−11

F−12

F−13

F−14

F−15

図Ⅲ−64　F−10・11・12・13・14・15

F－13（図Ⅲ－64　図版81）

位置・立地：16Ｓ区　調査区の沢状地形のほぼ中央、標高55.0m付近。

確認・調査：Ｆ－12の検出と共に確認した。半截したところ薄い暗赤褐色土の堆積を確認した。Ｆ－12に近いこと、色調が近い土の不整な広がりであることからＦ－12由来の焼土であると思われる。

遺　　物：頁岩のフレイク２点が出土した。

時　　期：検出した層位から縄文時代早期～中期前半の焼土と考えられる。（袖岡）

F－14（図Ⅲ－64　図版81）

位置・立地：16Ｒ区　調査区の沢状地形のほぼ中央、標高55.10m付近。

確認・調査：包含層のⅣ層下位を調査中に暗赤褐色土の広がりを検出した。半截したところ暗赤褐色土を呈する焼土の堆積を確認した。

遺　　物：出土しなかった。

時　　期：検出した層位から縄文時代早期～中期前半の焼土と考えられる。（袖岡）

F－15（図Ⅲ－64　図版81）

位置・立地：10Ｖ　調査区東側の平坦面

確認・調査：Ⅲ層下位を精査中に焼土を検出した。焼成部分の確認状況から、その場で焚かれた焼土である。

土　　層：下限が漸移的な焼成部分を確認した。

遺物出土状況：出土しなかった。

時　　期：確認状況と周辺の出土遺物から縄文時代前期後半の可能性がある。（佐藤）

F－16（図Ⅲ－65　図版81）

位置・立地：19Ｎ区

確認・調査：Ⅲ層下位を精査し検出した。不整形を呈し、南側１ｍにＦ－17があり、検出層位や形態から、同一時期で関連するものと推定される。焼土上から炭化物は検出されなかった。

土　　層：上は赤褐色壌土、下は暗褐色シルト質壌土でⅢ層下位の被熱変色である。焼土の下側層界は漸移していることからここで火が焚かれたものと考えられる。

遺物出土状況：焼土からフレイクが出土している。

時　　期：検出層位や周囲の出土遺物から縄文時代前期と推定される。（谷島）

F－17（図Ⅲ－65　図版81）

位置・立地：19Ｎ区

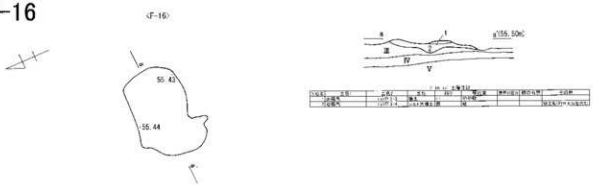
確認・調査：Ⅲ層下位を精査し検出した。不整形を呈し、北側１ｍにＦ－16があり、検出層位や形態から、同一時期で関連するものと推定される。焼土上から炭化物は検出されなかった。

土　　層：暗褐色シルト質壌土でⅢ層下位の被熱変色である。焼土の下側層界は漸移していることからここで火が焚かれたものと考えられる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

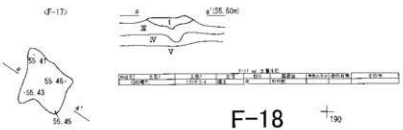
時　　期：検出層位や周囲の出土遺物から縄文時代前期と推定される。（谷島）

F−16



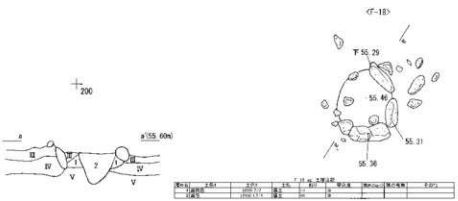
20N

F−17

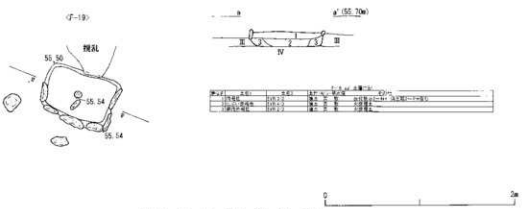


F−18

90



F−19



図Ⅲ−65　F−16・17・18・19

F－18（図Ⅲ－65　図版82）
位置・立地：19O区
確認・調査：Ⅲ層下位を調査中、礫がまとまって出土した。北東側1／3は動いて抜けているが他は半円形を成す。南側に動いた石が多く出土している。石囲いの中は抜根痕で焼土は検出できなかった。
土　　層：石囲いの中央部は抜根痕で焼土は周囲に残っていない。石囲いに接する内側は黒褐色壌土がある。2とした層はⅢ層下位である。
遺物出土状況：焼土の周りから台石・石皿片7点、加工礫、被熱礫が出土している。
時　　期：検出層位や形態、周囲の出土遺物から縄文時代前期と推定される。（谷島）

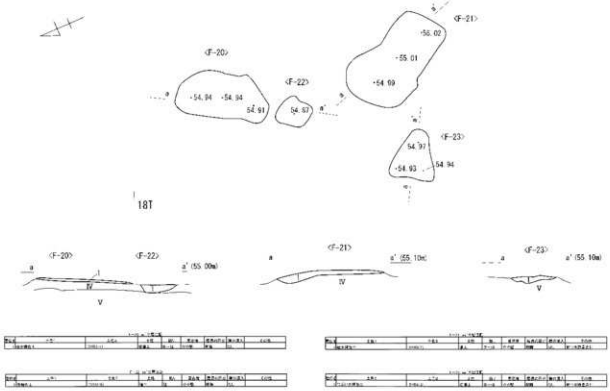
F－19（図Ⅲ－65　図版82）
位置・立地：11K・L　調査区東側の平坦面
確認・調査：Ⅲ層中位を精査中に石組み炉を検出した。石組みは、長軸側の一辺と短軸側の一部が欠落しており、抜き取られたものと考える。土層の観察から、はじめに地面を長方形に掘り込み、次に内部を半分ほど埋め戻した後に周囲に石を組み、その上面を利用していたと考える。
土　　層：1層は灰層、2・3層は埋め戻しである。
遺物出土状況：被熱礫10点が出土した。
時　　期：確認面と周辺の出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性がある。（佐藤）

F－20（図Ⅲ－66　図版82）
位置・立地：17T区　調査区沢状地形の南西側、標高55.0m付近。
確認・調査：包含層のⅣ層下位を調査中に暗赤褐色土の広がりを検出した。半截したところ暗赤褐色土を呈する焼土の堆積を確認した。
遺　　物：頁岩のフレイク6点が出土した。
時　　期：周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半～中期前半と思われる。（袖岡）

F－21（図Ⅲ－66　図版82）
位置・立地：17T区　調査区沢状地形の南西側、標高55.0m付近。
確認・調査：F－20の検出と共に確認した。半截したところ暗赤褐色土を呈する焼土の堆積を確認した。
遺　　物：Ⅱ群b類土器1点、頁岩のフレイク91点、合計92点出土した。
時　　期：周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半～中期前半と思われる。（袖岡）

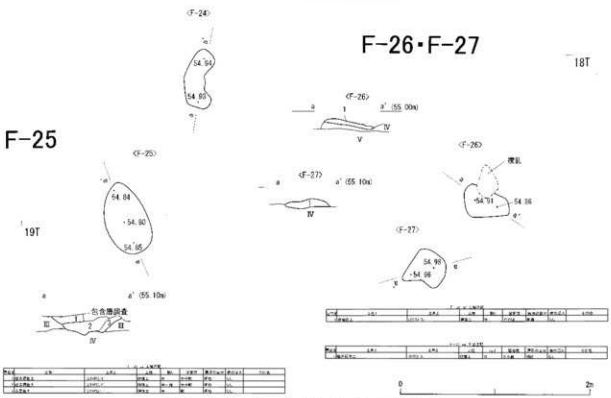
F－22（図Ⅲ－66　図版83）
位置・立地：17T区　調査区沢状地形の南西側、標高55.0m付近。
確認・調査：F－20・21の検出と共に確認した。半截したところ暗赤褐色土を呈する焼土の堆積を確認した。
遺　　物：フレイク13（黒曜石1、頁岩12）点出土している。
時　　期：周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半～中期前半と思われる。（袖岡）

F-20・F-21・F-22・F-23



F-24

F-26・F-27



F-25

図Ⅲ－66　F－20・21・22・23・24・25・26・27

F－23（図Ⅲ－66　図版83）
位置・立地：17T区　調査区沢状地形の南西側、標高55.0m付近。
確認・調査：F－20・21・22の検出と共に確認した。半截したところ暗赤褐色土を呈する焼土の堆積を確認した。
遺　　物：頁岩のフレイク76点が出土した。
時　　期：周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半～中期前半と思われる。（袖岡）

F－24（図Ⅲ－66　図版83）
位置・立地：18T区　調査区沢状地形の南西側、標高55.0m付近。
確認・調査：包含層のⅣ層を調査中に暗赤褐色土の広がりを検出した。半截したところ極暗赤褐～にぶい赤褐色土を呈する焼土の堆積を確認した。
遺　　物：頁岩のフレイク８点が出土した。
時　　期：周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半～中期前半と思われる。（袖岡）

F－25（図Ⅲ－66　図版83）
位置・立地：18、19T区　調査区沢状地形の南西側、標高54.9m付近。
確認・調査：包含層のⅢ層下位～Ⅳ層を調査中に暗赤褐色土の広がりを検出した。半截したところ暗赤褐～赤黒色土を呈する焼土の堆積を確認した。
遺　　物：頁岩のフレイク10点が出土した。
時　　期：周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半～中期前半と思われる。（袖岡）

F－26（図Ⅲ－66　図版83）
位置・立地：18S区　調査区沢状地形の南西側、標高55.0m付近。
確認・調査：包含層のⅢ層下位～Ⅳ層を調査中に赤褐色土の広がりを検出した。半截したところ赤褐色土を呈する焼土の堆積を確認した。
遺　　物：頁岩のフレイク４点が出土した。
時　　期：周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半～中期前半と思われる。（袖岡）

F－27（図Ⅲ－66　図版83）
位置・立地：18S区　調査区沢状地形の南西側、標高55.0m付近。
確認・調査：F－26の検出と共に確認した。半截したところ暗赤褐色土を呈する焼土の堆積を確認した。
遺　　物：出土しなかった。
時　　期：周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半～中期前半と思われる。（袖岡）

F－28（図Ⅲ－67　図版84）
位置・立地：16Q区　調査区沢状地形のほぼ中央、標高55.2m付近。
確認・調査：包含層のⅢ層上位を調査中に赤褐色土の広がりを検出した。半截したところ赤褐色土を呈する焼土の堆積を確認した。
遺　　物：出土しなかった。

時　　期：検出した層位から縄文時代と考えられる。（袖岡）

Ｆ－29（図Ⅲ－67　図版84）
位置・立地：19Ｑ区　調査区西側斜面の急な沢地形の沢頭付近、標高54.9m。
確認・調査：包含層のⅢ層を調査中に赤褐色土の広がりを検出した。半截したところ暗赤褐色～赤褐色土を呈する焼土の堆積を確認した。
遺　　物：頁岩のフレイク２点出土した。
時　　期：周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半～縄文時代と考えられる。（袖岡）

Ｆ－30（図Ⅲ－67　図版84）
位置・立地：17Ｓ区　調査区の沢状地形のほぼ中央、標高55.0m付近。
確認・調査：包含層のⅣ～Ⅴ層を調査中ににぶい赤褐色土の広がりを検出した。半截したところにぶい赤褐色土を呈する焼土の堆積を確認した。
遺　　物：頁岩のフレイク６点が出土した。
時　　期：周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半と考えられる。（袖岡）

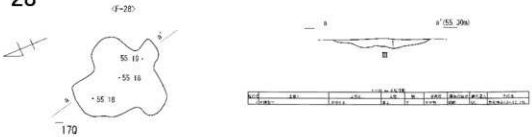
Ｆ－31（図Ⅲ－67　図版84）
位置・立地：10・11Ｍ　調査区東側の平坦面
確認・調査：Ⅲ層下位を精査中に焼土を検出した。焼成部分の確認状況から、その場で焚かれた焼土である。近接してフレイク集中を確認した。
土　　層：下限が漸移的な焼成部分を確認した。
遺物出土状況：117点出土した。
時　　期：出土遺物から縄文時代前期前半である。（佐藤）

Ｆ－32（図Ⅲ－68　図版85）
位置・立地：11・12Ｋ　調査区東側の平坦面
確認・調査：Ⅲ層中位を精査中に焼土を検出した。焼成部分の確認状況から、動かされた焼土である。
土　　層：炭化物粒と焼土粒を含み、層境は明瞭である。
遺物出土状況：２点出土した。
時　　期：確認状況と出土遺物から縄文時代中期前半の可能性が高い。（佐藤）

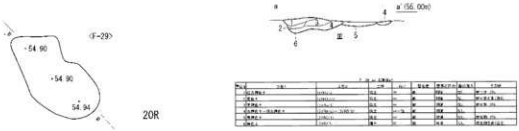
Ｆ－33（図Ⅲ－68　図版85）
位置・立地：15Ｒ区　調査区の沢状地形のやや北寄り、標高55.4m付近。
確認・調査：包含層のⅢ層を調査中に暗赤褐色土の広がりを検出した。半截したところ暗赤褐色土を呈する焼土の堆積を確認した。
遺　　物：出土しなかった。
時　　期：周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半～中期前半と思われる。（袖岡）

Ｆ－34（図Ⅲ－68　図版85）
位置・立地：15・16ｄ　調査区南西側の急斜面

F−28

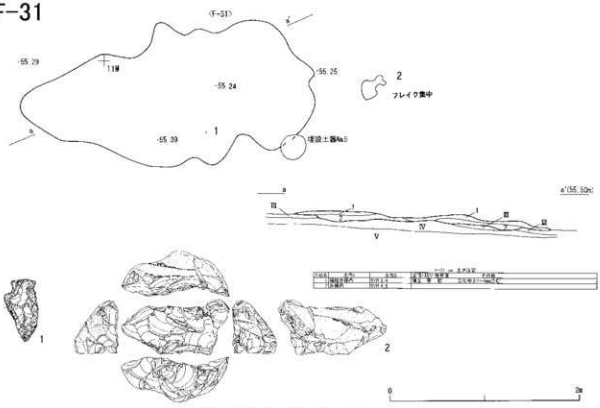


F−29

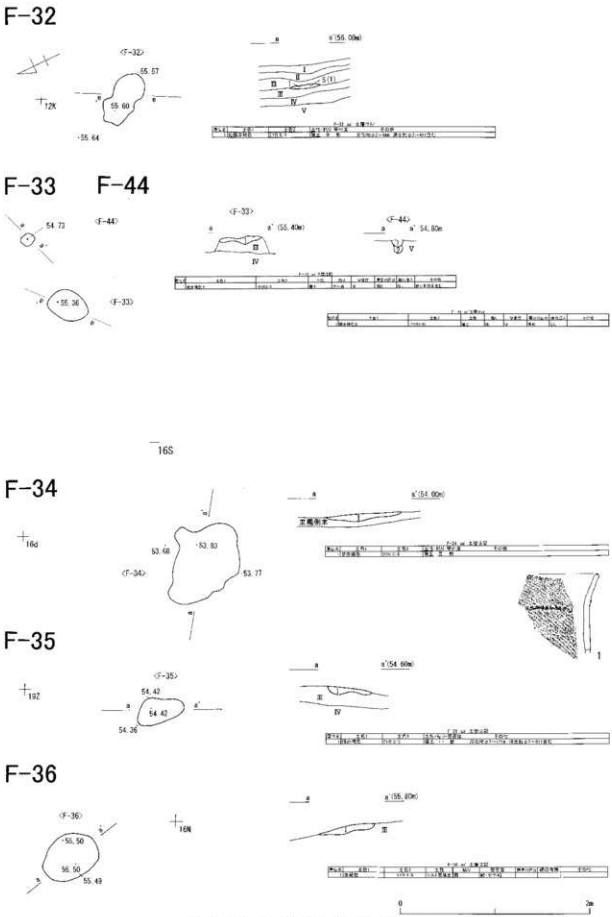


F−30

F−31



図Ⅲ−67　F−28・29・30・31



図Ⅲ－68　F－32・33・34・35・36・44

確認・調査：風倒木痕内のⅢ層中位相当を精査中に焼土を検出した。焼成部分の確認状況から、その場で焚かれた焼土である。
土　　層：下限が漸移的な焼成部分を確認した。
遺物出土状況：14点出土した。
時　　期：確認状況と出土遺物から縄文時代中期前半の可能性が高い。　（佐藤）

Ｆ－35（図Ⅲ－68　図版85）
位置・立地：19Ｚ　調査区南西側の急斜面
確認・調査：Ⅲ層中位を精査中に焼土を検出した。焼成部分の確認状況から、動かされた焼土である。
土　　層：炭化物粒と焼土粒を含み、層境は明瞭である。
遺物出土状況：出土しなかった。
時　　期：確認状況と周辺の出土遺物から縄文時代中期前半の可能性が高い。　（佐藤）

Ｆ－36（図Ⅲ－68　図版85）
位置・立地：16M区
確認・調査：Ⅲ層上位を精査し検出した。南北に長い楕円形を呈する。焼土上から炭化物は検出されなかった。
土　　層：Ⅲ層の被熱変色した赤褐色シルト質壌土で、焼土の下側層界は漸移していることからここで火が焚かれたものと考えられる。
遺物出土状況：遺物は出土していない。
時　　期：検出層位や形態、周囲の出土遺物から縄文時代後期頃と推定される。　（谷島）

Ｆ－37（図Ⅲ－69　図版86）
位置・立地：19O区
確認・調査：Ⅲ層上位の風倒木痕の中に焼土を検出した。風倒木痕でドーナツ状になった中央の窪みを利用したと推定される。焼土上から炭化物は検出されなかった。
土　　層：風倒木痕の被熱変色した赤褐色シルト質壌土で、焼土の下側層界は漸移していることからここで火が焚かれたものと考えられる。
遺物出土状況：遺物は出土していない。
時　　期：南東側下位の層に縄文時代前期Ⅱ群ｂ類土器期の土坑Ｐ－24があるが、焼土はこれより上の層で検出されていることや形態、周囲の出土遺物から縄文時代後期頃と推定される。　（谷島）

Ｆ－38（図Ⅲ－69　図版86）
位置・立地：17N区
確認・調査：Ⅲ層中位を精査し検出した。東西にやや長い括れた形をし、焼土上から炭化物は検出されなかった。
土　　層：Ⅲ層の被熱変色した暗赤褐色シルト質壌土で、焼土の下側層界は漸移していることからここで火が焚かれたものと考えられる。
遺物出土状況：遺物は出土していない。
時　　期：検出層位や形態、周囲の出土遺物から縄文時代前期頃と推定される。　（谷島）

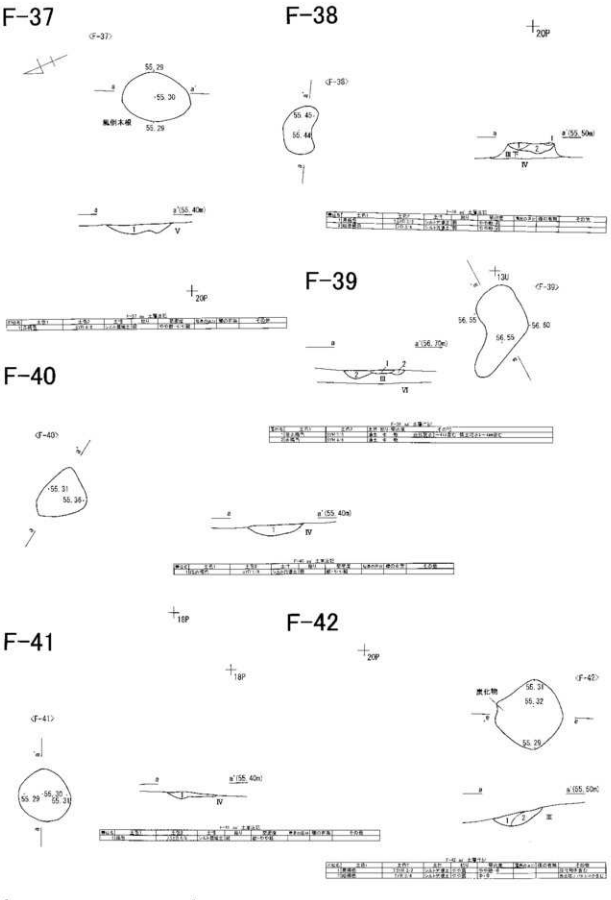
Ｆ－39（図Ⅲ－69　図版86）
位置・立地：13Ｔ・Ｕ　調査区中央東側の緩斜面
確認・調査：Ⅲ層中位を精査中に焼土を検出した。焼成部分の確認状況から、その場で焚かれた焼土である。
土　　層：炭化物粒を含み、下限が漸移的な焼成部分を確認した。
遺物出土状況：出土しなかった。
時　　期：確認状況と周辺の出土遺物から縄文時代中期前半の可能性が高いである。　（佐藤）

Ｆ－40（図Ⅲ－69　図版86）
位置・立地：17Ｏ区
確認・調査：Ⅲ層下位を精査し検出した。円形を呈する。焼土上から炭化物は検出されなかった。
土　　層：Ⅳ層の被熱変色した明赤褐色シルト質壌土で、焼土の下側層界は漸移していることからここで火が焚かれたものと考えられる。
遺物出土状況：遺物は出土していない。
時　　期：検出層位や形態、周囲の出土遺物から縄文時代前期頃と推定される。　（谷島）

Ｆ－41（図Ⅲ－69　図版86）
位置・立地：18Ｏ区
確認・調査：Ⅲ層下位を精査し検出した。三角形を呈する。焼土上から炭化物は検出されなかった。
土　　層：Ⅳ層の被熱変色した褐色シルト質壌土で、焼土の下側層界は漸移していることからここで火が焚かれたものと考えられる。
遺物出土状況：遺物は出土していない。
時　　期：検出層位や形態、周囲の出土遺物から縄文時代前期頃と推定される。　（谷島）

Ｆ－42（図Ⅲ－69　図版86）
位置・立地：20Ｐ区
確認・調査：Ⅲ層上位を精査し検出した。やや丸い不整形を呈する。
土　　層：中央と北側では炭化物層が焼土上面を覆っている。焼土はⅢ層の被熱変色したもので明褐色シルト質壌土を挟み南に黒褐色シルト質壌土がある。
遺物出土状況：炭化物層からⅡ群ｂ類土器とフレイクが出土している。
時　　期：出土した遺物や検出した層位から縄文時代前期Ⅱ群ｂ類土器期と考えられる　（谷島）

Ｆ－43（図Ⅲ－70　図版87）
位置・立地：12Ｋ　調査区中央東側の緩斜面
確認・調査：Ⅲ層中位を精査中に焼土を検出した。焼成部分の確認状況から、その場で焚かれた焼土である。１層では小礫の集中する範囲を確認した。
土　　層：下限が漸移的な焼成部分を確認した。１・２層は小礫を含む。
遺物出土状況：584点出土した。
時　　期：出土遺物から縄文時代前期後半である。　（佐藤）



図Ⅲ－69　F－37・38・39・40・41・42

Ｆ－44（図Ⅲ－68　図版87）
位置・立地：15Ｒ区　調査区の沢状地形のほぼ中央、標高54.8m付近。
確認・調査：包含層のⅤ層上面を調査中に暗赤褐色土の広がりを検出した。半截したところ赤褐色を呈する焼土の堆積を確認した。
遺　　物：出土しなかった。
時　　期：検出した層位から縄文時代早期～前期後半と思われる。（袖岡）

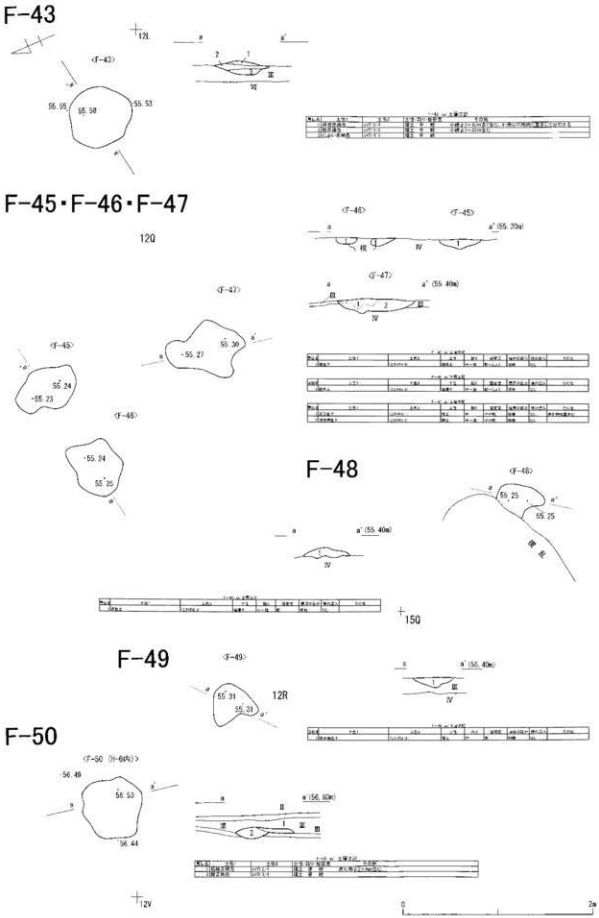
Ｆ－45（図Ⅲ－70　図版87）
位置・立地：12Ｐ区　調査区沢状地形の東側、標高55.3m付近。
確認・調査：包含層のⅣ層上面を調査中に橙色土の広がりを検出した。半截したところ橙色を呈する焼土の堆積を確認した。
遺　　物：フレイク10（メノウ２、頁岩８）点出土した。
時　　期：検出した層位から縄文時代早期～前期後半と思われる。（袖岡）

Ｆ－46（図Ⅲ－70　図版87）
位置・立地：12Ｐ区　調査区沢状地形の東側、標高55.3m付近。
確認・調査：Ｆ－45の確認と共に検出した。半截したところ橙色を呈する焼土の堆積を確認した。
遺　　物：頁岩のフレイク10点出土した。
時　　期：検出した層位から縄文時代早期～前期後半と思われる。（袖岡）

Ｆ－47（図Ⅲ－70　図版87）
位置・立地：12Ｑ区　調査区沢状地形の東側、標高55.3m付近。
確認・調査：Ｆ－45・46・47の確認と共に検出した。半截したところ橙色を呈する焼土の堆積を確認した。
遺　　物：頁岩のフレイク９点出土した。
時　　期：検出した層位から縄文時代早期～前期後半と思われる。（袖岡）

Ｆ－48（図Ⅲ－70　図版87）
位置・立地：14Ｑ区　調査区沢状地形の中央よりやや東側、標高55.3m付近。
確認・調査：包含層のⅣ層上面を調査中に橙色土の広がりを検出した。半截したところ橙色を呈する焼土の堆積を確認した。
遺　　物：フレイク15（メノウ１、頁岩14）点出土した。
時　　期：検出した層位から縄文時代早期～前期後半と思われる。（袖岡）

Ｆ－49（図Ⅲ－70　図版88）
位置・立地：12Ｑ区　調査区沢状地形の東側、標高55.3m付近。
確認・調査：包含層のⅢ層を調査中に暗赤褐色土の広がりを検出した。半截したところ暗赤褐色土を呈する焼土の堆積を確認した。
遺　　物：頁岩のフレイク９点出土した。
時　　期：検出した層位と周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半と考えられる。（袖岡）



図Ⅲ－70　F－43・45・46・47・48・49・50

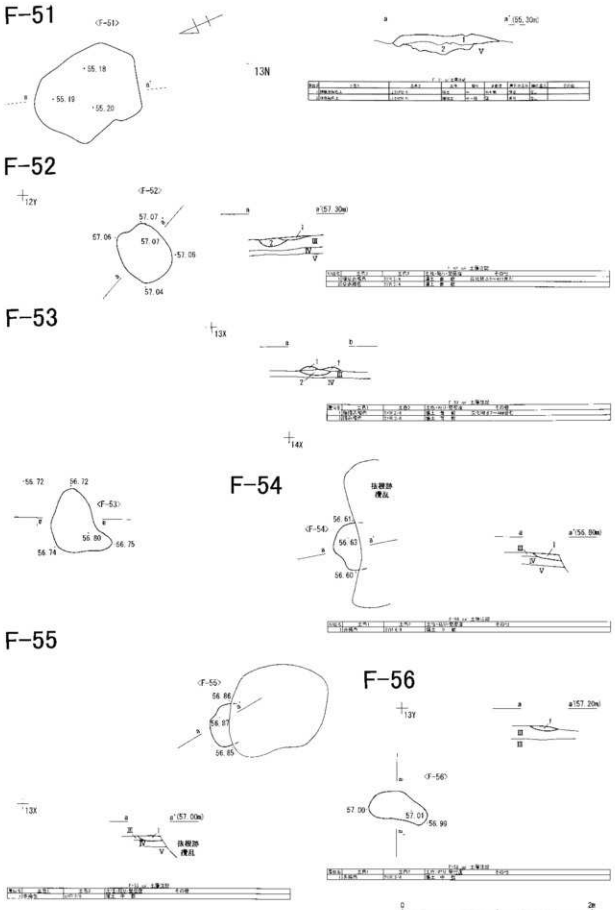
Ｆ－50（図Ⅲ－70　図版88）
位置・立地：11Ｕ・Ｖ　調査区南側の平坦面から緩斜面にあるＨ－６内の窪地
確認・調査：Ｈ－６内の窪地のⅢ層中位相当を精査中に焼土を検出した。焼成部分の確認状況から、その場で焚かれた焼土である。
土　　層：下限が漸移的な焼成部分を確認した。
遺物出土状況：７点出土した。
時　　期：出土遺物から縄文時代前期後半の可能性がある。　（佐藤）

Ｆ－51（図Ⅲ－71　図版88）
位置・立地：13M区　調査区沢状地形の東側、標高55.2m付近。
確認・調査：包含層のⅣ層下位～Ⅴ層を調査中、極暗赤褐色土の広がりを検出した。半截したところ極暗赤褐色～明赤褐色土の焼土の堆積を確認した。
遺　　物：頁岩の石核１点、頁岩のフレイク19点、合計20点出土した。
時　　期：検出した層位と周辺の遺構・遺物から縄文時代早期～前期後半と思われる。　（袖岡）

Ｆ－52（図Ⅲ－71）
位置・立地：12Ｙ　調査区南側の平坦面
確認・調査：Ⅲ層中位を精査中に焼土を検出した。焼成部分の確認状況から、その場で焚かれた焼土である。
土　　層：下限が漸移的な焼成部分を確認した。
遺物出土状況：出土しなかった。
時　　期：確認状況と周辺の出土遺物から縄文時代中期前半の可能性が高い。　（佐藤）

Ｆ－53（図Ⅲ－71　図版88）
位置・立地：13W　調査区南側の平坦面
確認・調査：Ⅲ層下位を精査中に焼土を検出した。焼成部分の確認状況から、その場で焚かれた焼土である。
土　　層：下限が漸移的な焼成部分を確認した。
遺物出土状況：２点出土した。
時　　期：出土遺物から縄文時代中期前半である。　（佐藤）

Ｆ－54（図Ⅲ－71　図版88）
位置・立地：14Ｘ　調査区南側の平坦面
確認・調査：Ⅲ層下位を精査中に焼土を確認した。焼成部分の確認状況から、その場で焚かれた焼土である。
土　　層：下限が漸移的な焼成部分を確認した。
遺物出土状況：出土しなかった。
時　　期：確認状況と周辺の出土遺物から縄文時代前期後半の可能性がある。　（佐藤）



図Ⅲ−71　F−51・52・53・54・55・56

Ｆ－55（図Ⅲ－71　図版89）
位置・立地：12Ｘ　調査区南側の平坦面
確認・調査：Ⅲ層下位を精査中に焼土を検出した。焼成部分の確認状況から、その場で焚かれた焼土である。
土　　層：下限が漸移的な焼成部分を確認した。
遺物出土状況：出土しなかった。
時　　期：確認状況と周辺の出土遺物から縄文時代前期後半の可能性がある。　（佐藤）

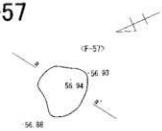
Ｆ－56（図Ⅲ－71　図版89）
位置・立地：13Ｘ・Ｙ　調査区南側の平坦面
確認・調査：Ⅲ層下位を精査中に焼土を検出した。焼成部分の確認状況から、その場で焚かれた焼土である。
土　　層：下限が漸移的な焼成部分を確認した。
遺物出土状況：出土しなかった。
時　　期：確認状況と周辺の出土遺物から縄文時代中期前半の可能性がある。　（佐藤）

Ｆ－57（図Ⅲ－72　図版89）
位置・立地：13Ｙ　調査区南側の平坦面
確認・調査：Ⅲ層下位を精査中に焼土を検出した。焼成部分の確認状況から、その場で焚かれた焼土である。
土　　層：下限が漸移的な焼成部分を確認した。
遺物出土状況：出土しなかった。
時　　期：確認状況と周辺の出土遺物から縄文時代中期前半の可能性がある。　（佐藤）

Ｆ－58（図Ⅲ－72　図版89）
位置・立地：14Ｕ　調査区中央南側の緩斜面
確認・調査：Ⅲ層中位を精査中に焼土を検出した。焼成部分の確認状況から、その場で焚かれた焼土である。
土　　層：下限が漸移的な焼成部分を確認した。
遺物出土状況：16点出土した。
時　　期：出土遺物から縄文時代中期前半の可能性が高い。　（佐藤）

Ｆ－59（図Ⅲ－72・73　図版89）
位置・立地：13Ｊ・Ｋ区　調査区北東側の平坦面から沢状地形にかけての緩斜面、標高55.7m付近。
確認・調査：Ｈ－14の覆土中より検出した。Ｈ－14とこの焼土にかかる土層確認のベルトを設定、トレンチ調査を行った。調査の結果、Ｈ－14の覆土中に構築された、住居跡の窪みを利用した石組炉であると判断した。石組を構成している礫は厚さ５㎝、幅30㎝前後で砂岩や安山岩の扁平な亜角礫を土中に立てて円形に区切るように埋設してあった。
遺　　物：石組炉を構成している礫を含め焼土中から土器・石器・礫等221点出土した。石組炉に用いられている礫の石質・重量・形状は表Ⅲ－４に示した。またこの焼土を、フローテーション法に

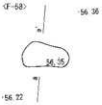
F-57



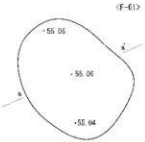
142

F-58

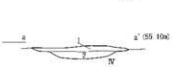
142

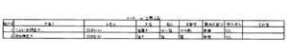


F-61

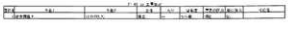


120





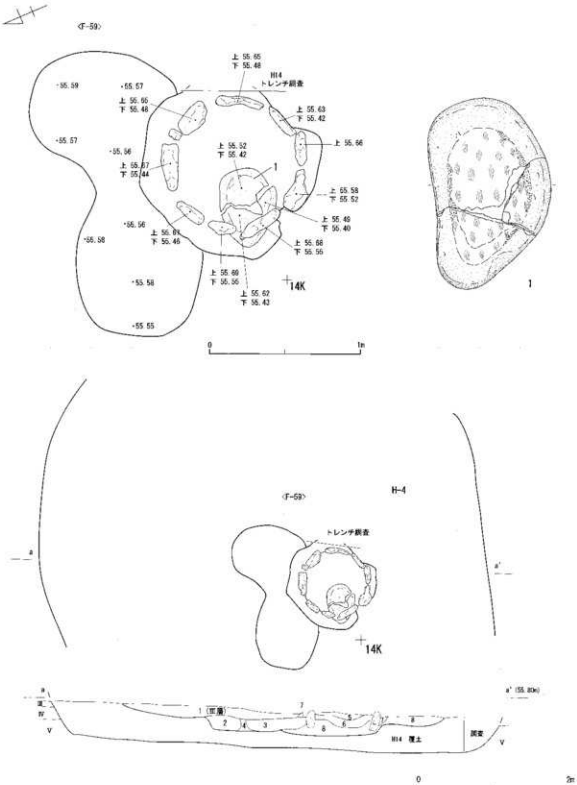
F-62



0 2m

図Ⅲ－72　F－57・58・61・62

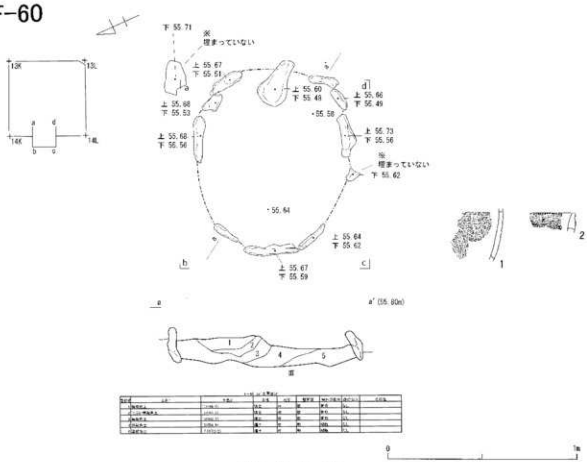
F−59



遺構名	出土位置	土層	種別	器種名	個体数(点数)	重量(g)	出土状態	その他
1	覆土上	1(10YR3/3.5)	縄文	土器	深鉢	〔〕	〔〕	
2	覆土上	1(10YR3/3)	縄文	土器	深鉢	〔〕	〔〕	
3	覆土中間付近	2(7.5YR3/3)	縄文	石器	剥片	〔〕	〔〕	黒曜石 2.5cm×1.5
4	覆土中央	2(7.5YR3/3)	縄文	石器	石核	〔〕	〔〕	
5	覆土中間付近上	2(7.5YR3/3)	縄文	土器	深鉢	〔〕	〔〕	
6	覆土中間付近上	2(7.5YR3/3)	縄文	土器	深鉢	〔〕	〔〕	
7	覆土第二層検出面直上の側面	2(7.5YR3/3)+3(7.5YR4/4)	縄文	土器	深鉢	〔〕	〔〕	
8	覆土上	1(10YR3/3)	縄文	土器	深鉢	〔〕	〔〕	
9	覆土上	1(10YR3/3)	縄文	土器	深鉢	〔〕	〔〕	

図Ⅲ−73　F−59

F−60



番号	出土	平面図	出土	出土	種別	石材	長さ(mm)×幅(mm)×厚さ(mm)	重さ(g)	出土地点
1	1号焼土	13K-G	焼土	中	礫	安山岩	90×70×40	500	
2	1号焼土 礫集中	13K-G	焼土	中	礫	安山岩	80×70×40	500	
3	1号焼土	13K-G	焼土	中	礫	安山岩	80×70×40	500	
4	1号焼土	13K-G	焼土	中	礫	安山岩	90×70×40	500	
5	1号焼土	13K-G	焼土	中	礫	安山岩	90×70×40	500	

図Ⅲ−74　F−60

より選別し、ここから得られた炭化物で放射性炭素年代測定（AMS 法）と樹種同定を行なった（第Ⅳ章１・２）。放射性炭素年代測定は4,410±30yrBP という結果が得られた。想定した時代より古い値であるが、調査区のなかでも遺構・遺物が多い縄文時代中期前半である可能性も否めない。樹種についてはコナラ属コナラ節という結果が得られた。

時　　期：前期後半の住居跡覆土中に構築していることと、周辺からⅣ群ａ類土器が出土していることから縄文時代後期前葉の遺構と考えられる。（袖岡）

Ｆ−60（図Ⅲ−72・74　図版90）

位置・立地：13・14Ｋ区　調査区北東側の平坦面から沢状地形にかけての緩斜面、標高55.7m付近。

確認・調査：包含層のⅢ層を調査中に検出した。位置はＦ−59に近い。半截したところ、砂岩や安山岩の扁平な亜角礫を土中に立てて楕円形に区切るように埋設してあり、その中に焼土の堆積を確認し石組炉であると判断した。

遺　　物：石組炉を構成している礫を含め土器・石器・礫等87点出土した。石組炉に用いられている礫の石質・重量・形状は表Ⅲ−４に示した。

時　　期：Ｆ−59と同様、縄文時代後期前葉の遺構と判断する。（袖岡）

Ｆ−61（図Ⅲ−72　図版90）

位置・立地：11Ｐ区　調査区沢状地形の東側、標高55.1m付近。

確認・調査：包含層のⅣ層を調査中、にぶい赤褐色土の広がりを検出した。半截したところにぶい赤褐色～明赤褐色土の焼土の堆積を確認した。
遺　　物：頁岩のフレイク104点出土した。
時　　期：検出した層位と周辺の遺構・遺物から縄文時代早期～前期後半と思われる。　（袖岡）

F－62（図Ⅲ－72　図版90）
位置・立地：15L・M区　調査区沢状地形の北東側、標高55.3m付近。
確認・調査：包含層のⅣ層を調査中、暗赤褐色土の広がりを検出した。半截したところ暗赤褐色土の焼土の堆積を確認した。
遺　　物：出土しなかった。
時　　期：検出した層位と周辺の遺構・遺物から縄文時代早期～前期後半と思われる。　（袖岡）

(5)　フレイク集中
FC－1（図Ⅲ－75　図版99）
位置・立地：16S区　調査区の沢状地形のほぼ中央、標高55.3m付近。
確認・調査：包含層のⅢ層を調査中、フレイク（頁岩）のまとまりとその周辺から石槍・石鏃・石斧・つまみ付きナイフ・扁平打製石器・北海道式石冠などを検出した。一部調査のための抜根により撹乱を受けるが、遺物の位置は大きく変動はしていない。
遺　　物：Ⅱ群b類土器2点、石鏃1点、石槍2点、つまみ付きナイフ2点、Rフレイク3点、フレイク144（頁岩143、凝灰岩1）点、石斧3点、たたき石1点、扁平打製石器7点、北海道式石冠1点、礫・礫片5点、合計171点出土した。
時　　期：Ⅱ群b類土器が出土していることから縄文時代前期後半の可能性がある。　（袖岡）

FC－2（図Ⅲ－75　図版99）
位置・立地：10S　調査区中央南側の緩斜面
確認・調査：風倒木痕内のⅢ層中位を調査中にフレイクの集中を確認した。北西側から土器片がまとまって出土した。
遺物出土状況：1,067点出土した。内訳はⅡ群b類土器1点、Ⅲ群a類土器3点、Ⅵ群土器11点、両面調整石器1点、石核1点、フレイク1,049（頁岩1,046、黒曜石2、メノウ1）点、礫・礫片1点である。
時　　期：確認状況と出土遺物から縄文時代中期前半の可能性が高い。　（佐藤）

FC－3（図Ⅲ－75　図版99）
位置・立地：15・16O区
確認・調査：Ⅲ層を精査し検出した。南北約1.5m、東西約1mの不整形を呈する範囲からフレイクが出土した。
覆　　土：Ⅲ層に遺物が含まれ、掘り込みは確認されていない。
遺物出土状況：Ⅵ群土器24点と扁平打製石器1点、フレイク518（石材は全て頁岩）点、ほかに礫など出土している。
時　　期：出土した遺物や検出した層位から続縄文時代と考えられる。　（谷島）

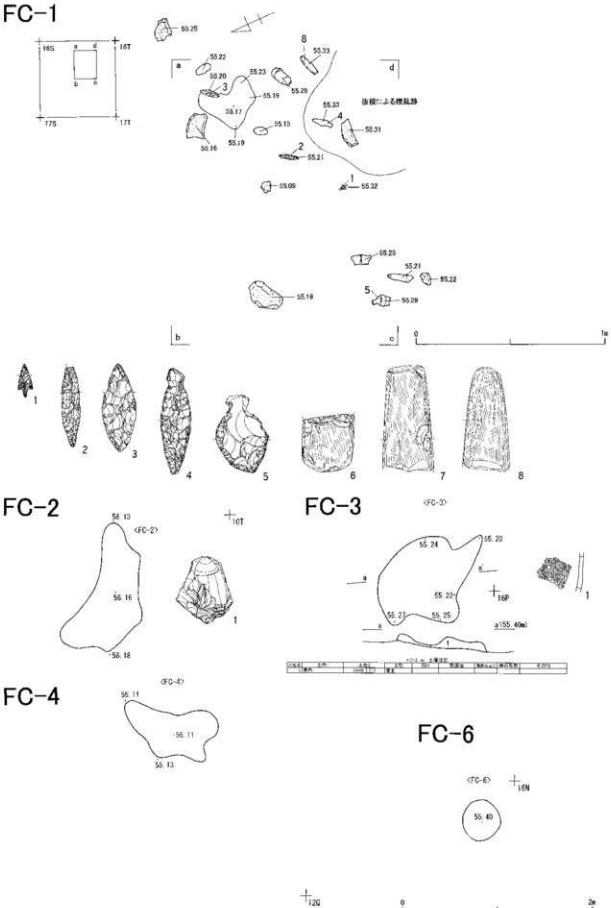
FC－4（図Ⅲ－75　図版99）
位置・立地：11P　調査区中央の平坦面
確認・調査：Ⅲ層下位を調査中にフレイクの集中を検出した。
遺物出土状況：3,588点出土した。内訳は石錘1点、フレイク3,587（頁岩3,554、黒曜石29、メノウ4）点である。
分　　析：出土した黒曜石製のフレイクについて原産地分析（Ⅳ章3参照）を行った。原産地分析では赤井川産と判定された。肉眼観察による推定と一致する。
時　　期：確認状況と周辺の出土遺物から縄文時代前期後半の可能性がある。（佐藤）

FC－5（図Ⅲ－75・76　図版99）
位置・立地：19X・20W・X　調査区西側の斜面
確認・調査：Ⅲ層中位を調査中にフレイクの集中を検出した。
遺物出土状況：96点出土した。内訳はⅡ群b類土器32点、たたき石1点、扁平打製石器1点、フレイク62点である。フレイクの石材はすべて頁岩である。
時　　期：出土遺物から縄文時代前期後半である。（佐藤）

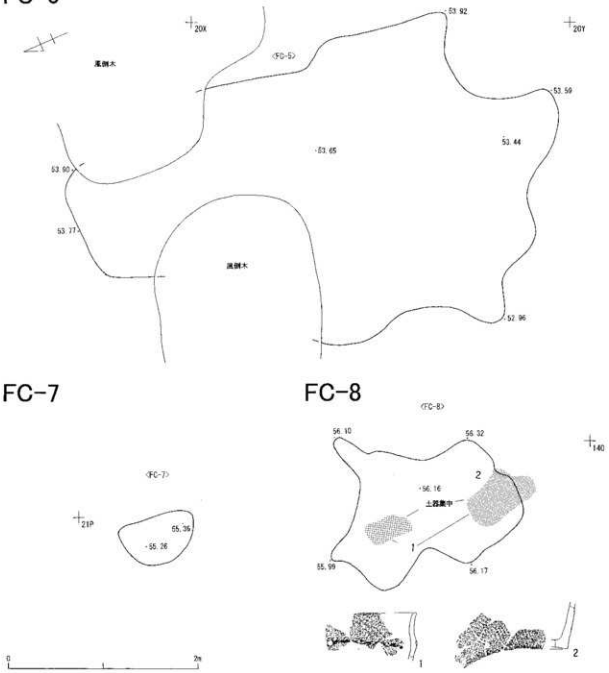
FC－6（図Ⅲ－75）
位置・立地：16M区
確認・調査：Ⅲ層上面を精査し検出した。直径約0.8mの円形を呈する範囲からフレイクが出土した。
覆　　土：Ⅲ層に遺物が含まれ、掘り込みは確認されていない。
遺物出土状況：すべて頁岩のフレイク429点のほか混入のⅡ群b類土器1点が出土している。土器は撹乱で下位から出たものと考えられる。
時　　期：検出層位から縄文時代と推定される。（谷島）

FC－7（図Ⅲ－76　図版100）
位置・立地：20・21P区
確認・調査：Ⅲ層中位を精査し検出した。南北約0.8m、東西約0.5mの楕円形に近い形の範囲からフレイクが出土した。
覆　　土：Ⅲ層に遺物が含まれ、掘り込みは確認されていない。
遺物出土状況：すべて頁岩のフレイク429点のほか混入のⅡ群b類土器1点が出土している。
時　　期：検出層位や周囲から出土した遺物から縄文時代前期と推定される。（谷島）

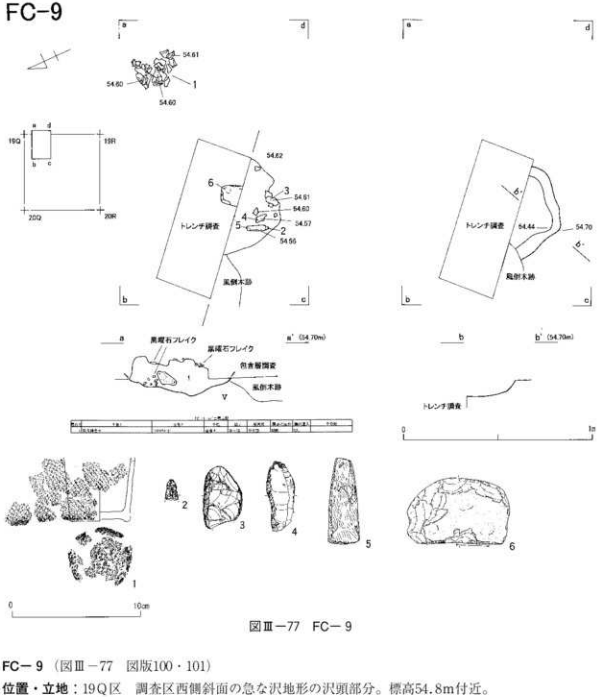
FC－8（図Ⅲ－76　図版100）
位置・立地：13・14T　調査区中央南側の緩斜面
確認・調査：Ⅲ層中位を調査中にフレイクの集中を検出した。南側と北側の2ヶ所から土器片がまとまって出土した。
遺物出土状況：597点出土した。内訳はⅡ群b類土器127点、フレイク468（頁岩352、メノウ116）点、礫・礫片2点である。
時　　期：出土遺物から縄文時代前期後半である。（佐藤）



図Ⅲ−75　ＦＣ−１・２・３・４・６


FC-5
20X
20Y
風倒木
53.92
53.59
53.44
53.65
53.80
53.77
52.96
FC-7
21P
55.36
55.26
FC-8
56.10
56.32
56.16
土器集中
55.99
56.17
140
0
1
2m

図Ⅲ－76　FC－5・7・8



図Ⅲ－77　FC－9

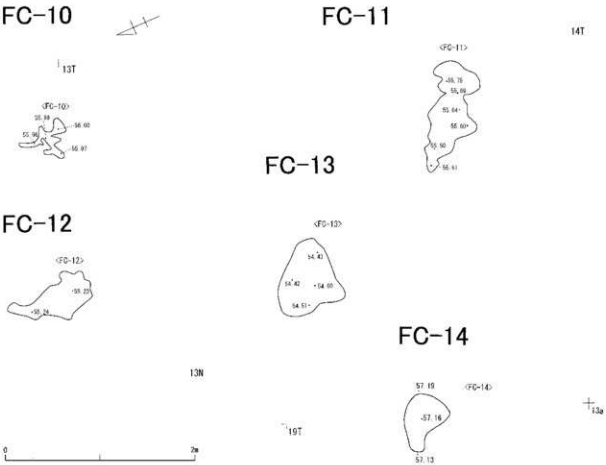
FC－9（図Ⅲ－77　図版100・101）

位置・立地：19Q区　調査区西側斜面の急な沢地形の沢頭部分。標高54.8m付近。

確認・調査：包含層調査でⅢ層下位～Ⅴ層上面を精査中、黒曜石のフレイクのまとまりと、それに混じりメノウのフレイク、石斧などが小規模なまとまりをもって検出した。石器類の堆積状況を観察するため、トレンチ調査を行った。調査の結果、浅い落ち込みに灰黄褐色土が堆積し、このなかに黒曜石のフレイクと扁平打製石器が混入していることが判った。

遺　　物：326点の遺物が出土した。Ⅱ群ｂ類土器77点、頁岩製のスクレイパー２点、つまみ付きナイフ１点、石斧１点、扁平打製石器１点、フレイクは黒曜石が222点、メノウ17点、頁岩５点である。ここから出土した黒曜石について、自然科学的分析により原産地分析を行った（Ⅳ章３参照）。このことにより原産地は出来島（青森県つがる市木造）との結果が得られた。

時　　期：出土した石器類と周辺から円筒土器下層ｂ式相当の土器が出土していることから縄文時



図Ⅲ−78　FC−10・11・12・13・14

代前期後半の遺構と判断する。　（袖岡）

FC−10（図Ⅲ−78　図版101）

位置・立地：13Ｓ・Ｔ区　調査区中央よりやや南西側、沢状地形と平坦面の境、緩やかな斜面。標高56.0m付近。

確認・調査：包含層Ⅲ層を調査中にフレイクの集中を検出した。

遺　　物：Ⅱ群ｂ類土器３点、頁岩のフレイク57点、合計60点が出土した。

時　　期：出土した遺物と周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半～中期前半と考えられる。

（袖岡）

FC−11（図Ⅲ−78　図版101）

位置・立地：14Ｓ区　調査区中央よりやや南西側、沢状地形と平坦面の境、緩やかな斜面。標高55.7m付近。

確認・調査：包含層Ⅲ層を調査中にフレイクの集中を検出した。

遺　　物：Ⅱ群ｂ類土器２点、頁岩のフレイク119点、合計121点出土した。

時　　期：出土した遺物と周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半～中期前半と考えられる。

（袖岡）

FC－12（図Ⅲ－78）
位置・立地：12M区　調査区中央の沢状地形北側、標高55.2m付近。
確認・調査：包含層Ⅲ層を調査中にフレイクの集中を検出した。
遺　　物：Ⅱ群ｂ類土器３点、頁岩のフレイク29点、凝灰岩のフレイク１点、合計33点出土した。
時　　期：出土した遺物と周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半と考えられる。　（袖岡）

FC－13（図Ⅲ－78　図版101）
位置・立地：18T区　調査区中央の沢状地形西側、標高55.5m付近。
確認・調査：包含層Ⅲ層を調査中にフレイクの集中を検出した。
遺　　物：頁岩のフレイク52点、メノウのフレイク１点、小礫18点、合計71点出土した。
時　　期：出土した遺物と周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半と考えられる。　（袖岡）

FC－14（図Ⅲ－78　図版101）
位置・立地：12・13Z　調査区南側の平坦面
確認・調査：風倒木痕内のⅢ層中位を調査中にフレイクの集中を検出した。
遺物出土状況：32点出土した。内訳はUフレイク１点、フレイク31点、石材はすべて頁岩である。
時　　期：確認状況と周辺の出土遺物から縄文時代中期前半の可能性がある。　（佐藤）

(6)　埋設土器

埋設土器１（図Ⅲ－79）
位置・立地：20S区　調査区中央沢状地形の南西側、標高54.8m付近。
確認・調査：包含層のⅢ層下位を調査中に、土器が埋まっている状態で検出した。周囲を精査したが土坑のような落ち込みは確認しなかったので、土器が中心にかかるようトレンチを設定し掘り下げた。調査の結果、土器の大きさ程度にⅢ層下位～Ⅴ層まで掘り込み、土器を埋設した遺構であると判断した。掘り込んだ穴と土器の間を充填している土はⅤ層を主体としたにぶい黄褐色土の堅く締まった土で、これにより正立状態を固定したと考えられる。
遺　　物：Ⅱ群ｂ類土器の体部～底部にかけての１個体（破片数200）と、土器に入っていた土の中から頁岩フレイク１点、メノウの原石１点、合計202点が出土した。
時　　期：縄文時代前期後半、円筒土器下層ｂ式相当の埋設土器と判断する。　（袖岡）

埋設土器２（図Ⅲ－79　図版103）
位置・立地：18U区　調査区中央の沢状地形西側、標高55.0m付近。
確認・調査：包含層のⅢ層下位を調査中に、土器が埋まっている状態で検出した。周囲を精査したが土坑のような落ち込みは確認しなかったので、土器が中心にかかるようトレンチを設定し掘り下げた。調査の結果、土器の大きさ程度にⅢ層下位～Ⅴ層まで掘り込み、土器を埋設した遺構であると判断した。掘り込んだ穴と土器の間を充填している土はⅤ層土とⅢ層土が斑状に混じり堅く締まった土で、これにより正立状態を固定したと考えられる。
遺　　物：Ⅱ群ｂ類土器の体部～底部にかけて１個体（破片数141）と、土器に入っていた土の中から頁岩フレイク30点、合計171点が出土した。
時　　期：縄文時代前期後半、円筒土器下層ｂ式相当の埋設土器と判断する。　（袖岡）

埋設土器 3（図Ⅲ－79　図版104）

位置・立地：16R区　調査区の沢状地形のほぼ中央、標高55.1m付近。

確認・調査：包含層のⅢ層下位を調査中に、土器が埋まっている状態で検出した。周囲を精査したが土坑のような落ち込みは確認しなかったので、土器が中心にかかるようトレンチを設定し掘り下げた。調査の結果、土器の大きさ程度にⅢ層下位～Ⅴ層まで掘り込み、土器を埋設した遺構であると判断した。土器の外側には土器を埋設するための明瞭な掘り込みは無い。ほぼ土器とおなじ大きさを掘り込み埋設したものと考えられる。

遺　　物：Ⅱ群ｂ類土器の体部～底部にかけて１個体（破片数58）。

時　　期：縄文時代前期後半、円筒土器下層ｂ式相当の埋設土器と判断する。（袖岡）

埋設土器 4（図Ⅲ－79　図版104）

位置・立地：17T区　調査区中央の沢状地形西側、標高54.8m付近。

確認・調査：包含層のⅢ層下位を調査中に、土器が埋まっている状態で検出した。周囲を精査したが土坑のような落ち込みは確認しなかったので、土器が中心にかかるようトレンチを設定し掘り下げた。調査の結果、土器の大きさ程度にⅢ層下位～Ⅴ層まで掘り込み、土器を埋設した遺構であると判断した。掘り込んだ穴と土器の間を充填している土はⅤ層土とⅢ層土の堅く締まった土で、これにより正立状態を固定したと考えられる。

遺　　物：Ⅱ群ｂ類土器の体部～底部にかけて１個体（破片数107）、土器に入っていた土の中かから頁岩のフレイク８点、合計115点出土した。またこの土をフローテーション法で選別し、そこから得られた炭化物で放射性炭素年代測定（AMS 法）と樹種同定を行なった（第Ⅳ章１・２）。放射性炭素年代測定については4,880±30yrBP という測定結果が得られ、調査で判断した年代観とほぼ一致する。樹種についてはバラ属との結果が得られた。

時　　期：縄文時代前期後半、円筒土器下層ｂ式相当の埋設土器と判断する。（袖岡）

埋設土器 5（図Ⅲ－80　図版104）

位置・立地：11M　調査区東側の平坦面

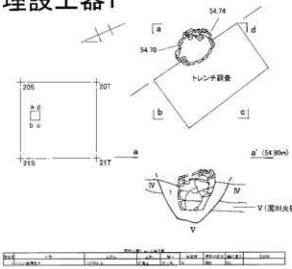
確認・調査：Ⅲ層中位を調査中に立位の土器を検出した。土器よりも少し大きめの土坑に土器を埋設している。出土した扁平打製石器が覆土の上位で平坦部分を水平に保っていること、フレイク類が上位にまとまっていることから、土器内部には有機質が入っていた可能性が高い。土層の観察によりＦ－31を掘り込んでおり、Ｆ－31より新しい。

覆　　土：土器内部の土は周囲から流入したものと考える。

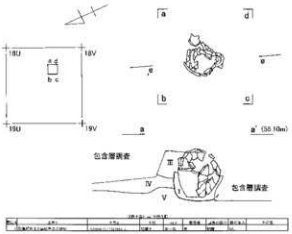
遺物出土状況：Ⅱ群ｂ類土器を中心に120点出土した。土器のなかからは扁平打製石器２点、石皿片４点、フレイク６点が出土した。

時　　期：出土遺物から縄文時代前期後半である。（佐藤）

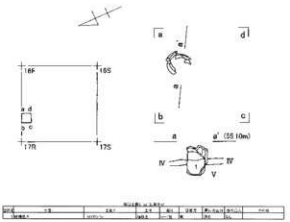
埋設土器1



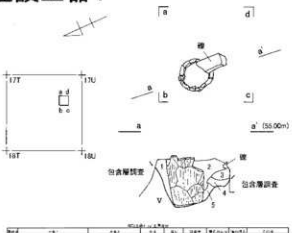
埋設土器2



埋設土器3

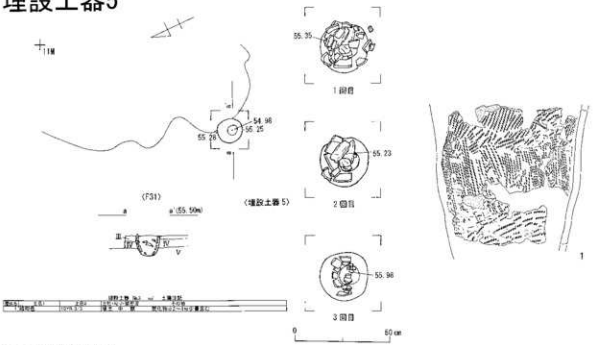


埋設土器4

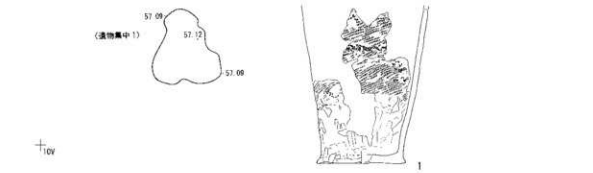


図Ⅲ－79　埋設土器1・2・3・4

埋設土器5

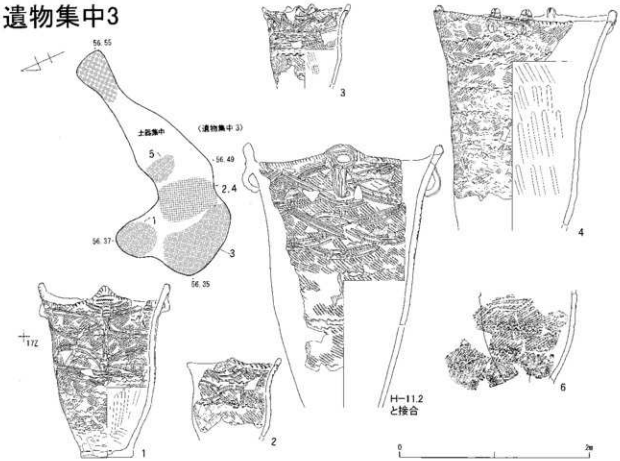


遺物集中1



遺物集中2

図Ⅲ－80　埋設土器5・遺物集中1・2



図Ⅲ−81　遺物集中３

(7)　遺物集中

遺物集中１（図Ⅲ−80　図版102）

位置・立地：９Ｖ　調査区南側の平坦面

確認・調査：Ⅲ層中位を調査中に遺物の集中を検出した。土器片がまとまって出土し、周辺にフレイクと礫が散在する。

遺物出土状況：186点出土した。内訳はⅢ群ａ類土器184点、フレイク１点、礫・礫片１点である。

時　　期：出土遺物から縄文時代中期前半である。（佐藤）

遺物集中２（図Ⅲ−80　図版102）

位置・立地：10・11Ｊ　調査区中央北側の緩斜面

確認・調査：Ⅲ層中位を調査中に遺物の集中を検出した。東側に土器片がややまとまり、その他は散在する。

遺物出土状況：65点出土した。内訳はⅡ群ｂ類土器53点、Ⅲ群ａ類土器４点、Ｕフレイク１点、たたき石１点、フレイク４点、扁平打製石器片１点、礫１点である。

時　　期：出土遺物から縄文時代前期後半である。（佐藤）

遺物集中３（図Ⅲ−81　図版102・103）

位置・立地：16Ｚ　調査区中央北側の緩斜面にあるＨ−11内の窪地

確認・調査：H－11内の窪地のⅢ層中位を調査中に遺物の集中を確認した。土器片のまとまりが5ヶ所あり、その他は散在する。土器片のまとまりのうち、(図Ⅲ－142－1）は一個体の土器がつぶれたものである。
遺物出土状況：564点出土した。内訳はⅢ群a類土器556点、Uフレイク1点、フレイク6点、礫・礫片1点である。
時　　期：出土遺物から縄文時代中期前半である。（佐藤）

遺物集中4（図Ⅲ－82～84　図版103）
位置・立地：21・22L・M区
確認・調査：Ⅲ層下位の調査中、竪穴式住居跡とみられる落ち込みの確認（H－13）と、それに伴い土器を主体とした遺物を多量に検出した。これは、H－13の窪みを利用した廃棄場と考えられ、現地では土器のまとまりとして10個体以上が確認できた。
時　　期：出土した遺物から縄文時代前期Ⅱ群b類土器期と考えられる。（谷島）

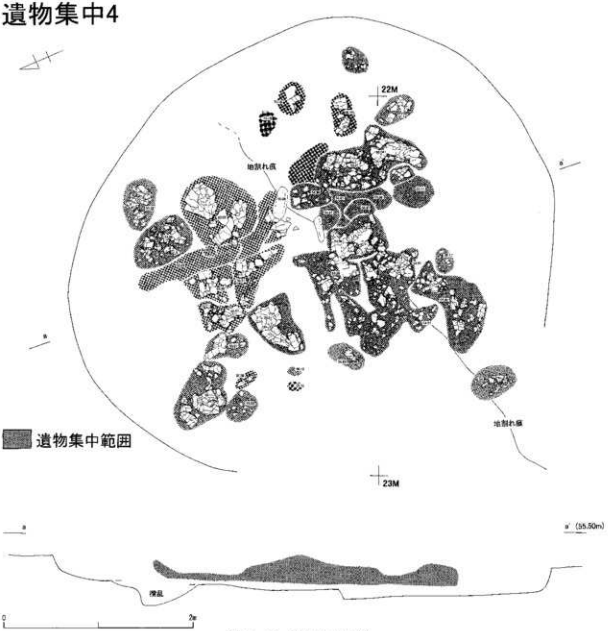
遺物集中5（図Ⅲ－85）
位置・立地：10a・b　調査区南側の斜面
確認・調査：Ⅲ層中位を調査中に遺物の集中を確認した。土器片のまとまりが4ヶ所あり、その他は散在する。
遺物出土状況：112点出土した。内訳はⅡ群b類土器96点、スクレイパー1点、Uフレイク1点、たたき石1点、扁平打製石器片5点、フレイク7点、礫・礫片1点である。
時　　期：出土遺物から縄文時代前期後半である。（佐藤）

遺物集中6（図Ⅲ－85　図版103）
位置・立地：13S　調査区中央南側の緩斜面
確認・調査：Ⅲ層中位を調査中に遺物の集中を確認した。中央に土器片のまとまりがあり、その他は散在する。
遺物出土状況：128点出土した。内訳はⅢ群a類土器122点、つまみ付ナイフ1点、Rフレイク1点、石核2点、礫・礫片2点である。
時　　期：出土遺物から縄文時代中期前半である。（佐藤）

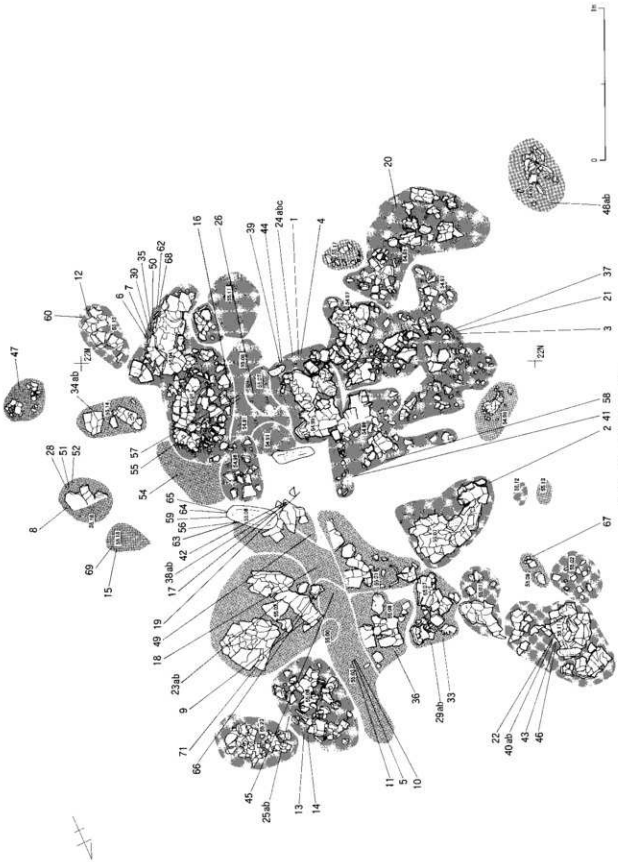
遺物集中7（図Ⅲ－85　図版103）
位置・立地：20・21N区
確認・調査：Ⅲ層を精査し土器・礫がまとまって出土した。
覆　　土：Ⅲ層からの出土で、掘り込みは認められない。
遺物出土状況：それぞれの遺物がまとまって出土している。
時　　期：出土した遺物から縄文時代前期Ⅱ群b類土器期と考えられる。（谷島）

遺物集中8（図Ⅲ－85　図版103）
位置・立地：13・14T・14U　調査区中央南側の緩斜面
確認・調査：Ⅲ層中位を調査中に遺物の集中を確認した。土器片のまとまりが5ヶ所あり、フレイク

遺物集中4

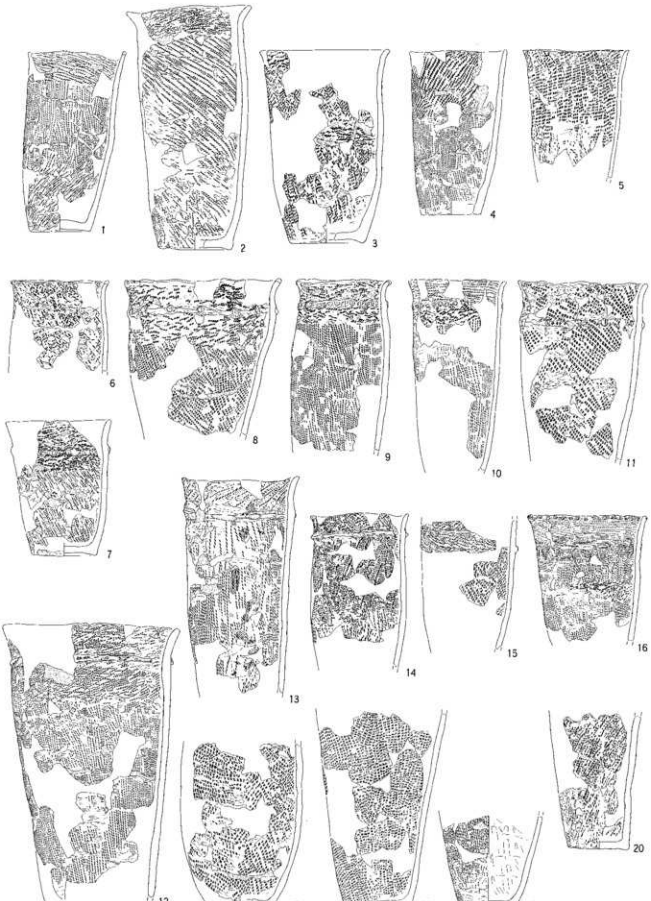


図Ⅲ－82　遺物集中4（1）

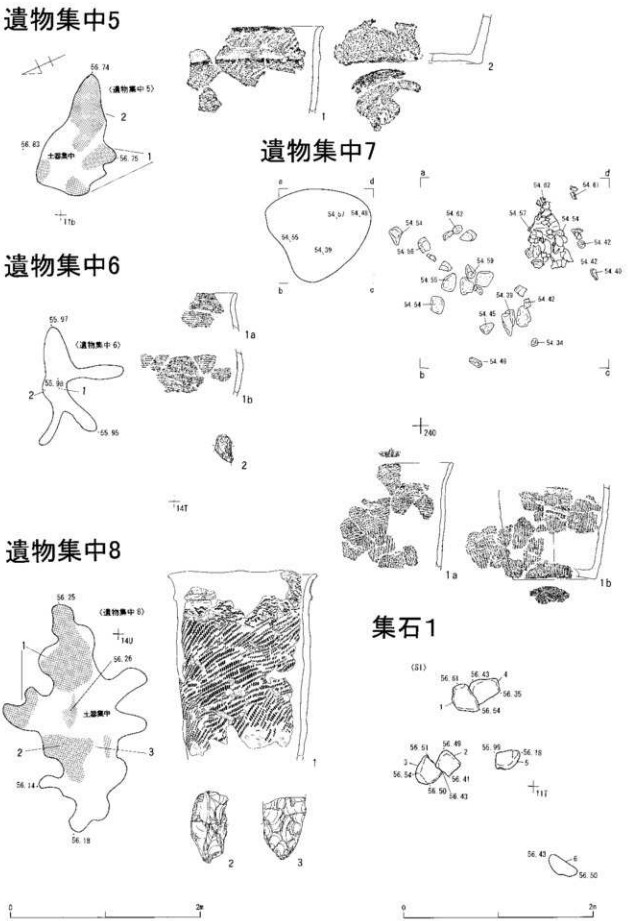

0
1m
48ab
20
16
26
39
44
24abc
1
4
12
60
6
7
30
35
50
62
68
37
21
3
22N
47
34ab
28
51
52
8
55
57
54
58
2
41
65
64
59
56
63
42
38ab
17
19
49
18
23ab
9
71
66
69
15
67
36
29ab
33
22
40ab
43
46
45
25ab
13
14
11
5
10

図Ⅲ－83 遺物集中4(2)

遺物集中4

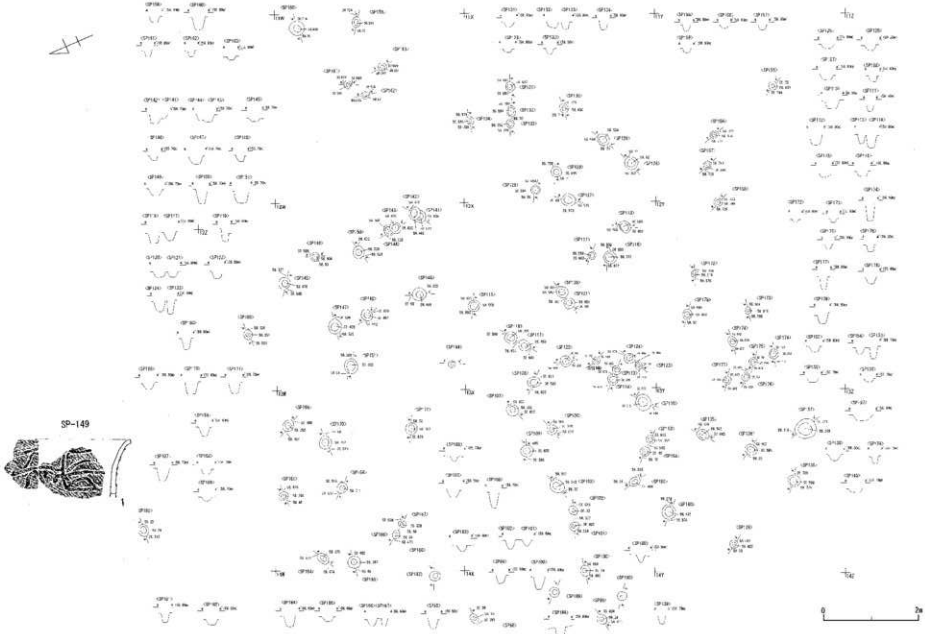


図Ⅲ－84　遺物集中4（3）



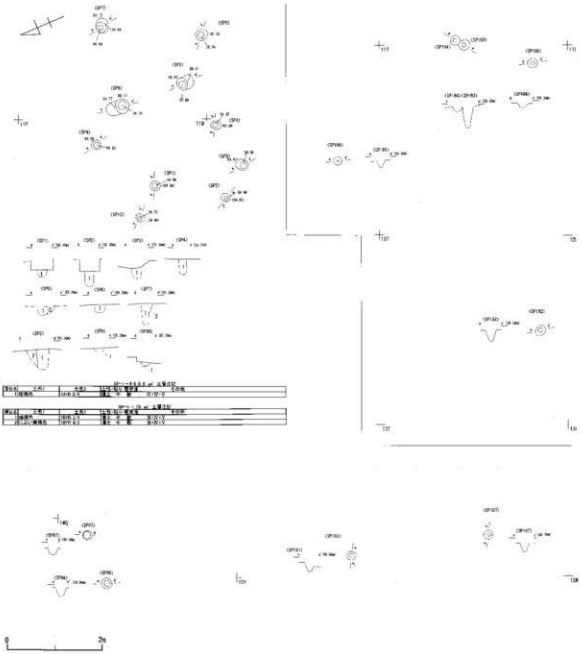
図Ⅲ－85 遺物集中5・6・7・8 集石1

柱穴状の小土坑(1)



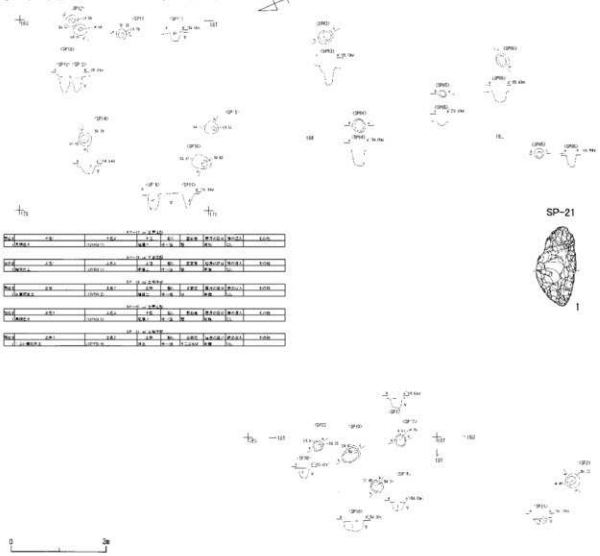
図Ⅲ－86　柱穴状の小土坑(1)

柱穴状の小土坑(2)



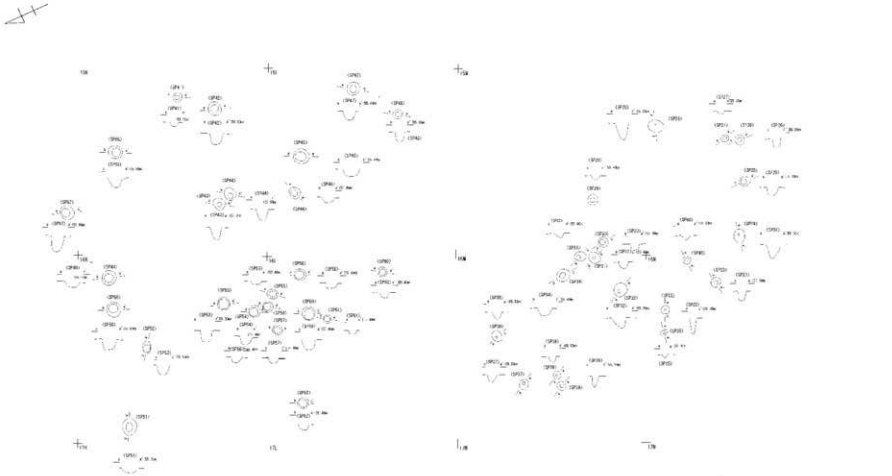
図Ⅲ－87　柱穴状の小土坑(2)

柱穴状の小土坑(3)



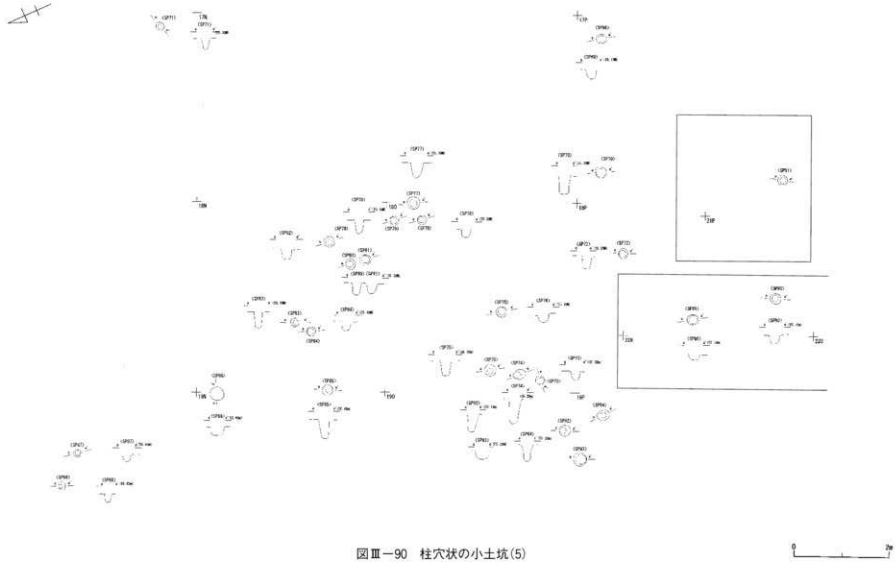
図Ⅲ－88　柱穴状の小土坑(3)

柱穴状の小土坑(4)



図Ⅲ－89 柱穴状の小土坑(4)

柱穴状の小土坑(5)



図Ⅲ－90　柱穴状の小土坑(5)

と礫が散在する。

遺物出土状況：354点出土した。内訳はⅡ群ｂ類土器273点、Ⅲ群ａ類土器６点、Ⅳ群ａ類土器１点、石槍１点、両面調整石器１点、Ｒフレイク１点、石核１点、フレイク58点、礫・礫片12点である。

時　　期：出土遺物から縄文時代前期後半である。（佐藤）

(8) 集石

Ｓ－１（図Ⅲ－85　図版102）

位置・立地：10・11Ｓ・Ｔ　調査区中央南側の緩斜面

確認・調査：風倒木痕内のⅢ層中位を調査中に礫のまとまりを検出した。明瞭な配置は確認できなかったが、大型の礫がまとまっているため、配石または集石が風倒木により動かされたものと判断した。

遺物出土状況：10点出土した。

時　　期：確認状況と周辺の出土遺物から縄文時代前期後半の可能性がある。（佐藤）

(9) 柱穴状の小土坑群（図Ⅲ－86～90　図版91～96）

位置・立地：多くがⅤ層上面からの検出である。全体では191ヶ所検出しており、調査区内で大きく３つの分布域に分かれる。①調査区北側の縄文前期後半の遺構・遺物の分布域、②調査区南西側の縄文時代中期前半の遺構・遺物の分布域、③調査区中央の沢状地形、縄文時代早期～前期後半と考えられるものとに分けられるが、いずれのところも平面形や深さから建物跡を示すような規則性は見られない。しかし、各々の遺構分布に重複するため、縄文時代の遺構とし掲載した。（袖岡）

2．遺構出土の遺物

遺構から出土した遺物は土器22,612点、石器等21,074点、合計43,686点である。Ⅲ章１項で述べたとおり、多くは縄文時代前期後半、円筒土器下層ｂ式期のものが多く、次いで中期前半、サイベ沢Ⅶ式期のものである。

調査区で出土数が最も多いⅡ群ｂ類土器について、文様帯・体部文様・底部の形状・底面への施文及び調整・内面調整・肉眼で観察できる胎土への混入物について、巻末の一覧表に付した。

(1)　住居跡

Ｈ－１出土　掲載遺物（図Ⅲ－91・92　図版106）

土　器

１・２は復元したもの。

１はⅡ群ｂ類。口縁はやや外反し、器高が高いもの。口頸部文様体には横走する条痕が施されている。隆帯上には指頭による刺突が施されている。体部は単節斜行縄文施文後に浅いナデと、体部中央に口頸部と同様の条痕が数条横走している。底部は上げ底である。内面は磨かれているが、胎土に多く含まれる繊維痕により、筋状の剥離が顕著である。下層ｂ式相当。**２**はⅢ群ａ類の台付土器。皿状で、口唇部には棒状工具により刺突が施されている。胴部には結節のある縄文が施文、台の側面にはナデ調整され、底面がやや張り出している。サイベ沢Ⅶ式相当。

３は破片でⅡ群ｂ類。体部は複節縄文施文後、ナデられている。内面は磨かれており、一部に条痕が観察できる。底部は上げ底、底面は磨かれている。胎土には繊維のほか、小円礫が含まれている。下層ｂ式相当。（袖岡）

石　器

４は頁岩製のＲフレイクである。不定形で主に右側縁に不規則な剥離がある。（佐藤）

Ｈ－２出土　掲載遺物（図Ⅲ－93・94　図版106・107）

土　器

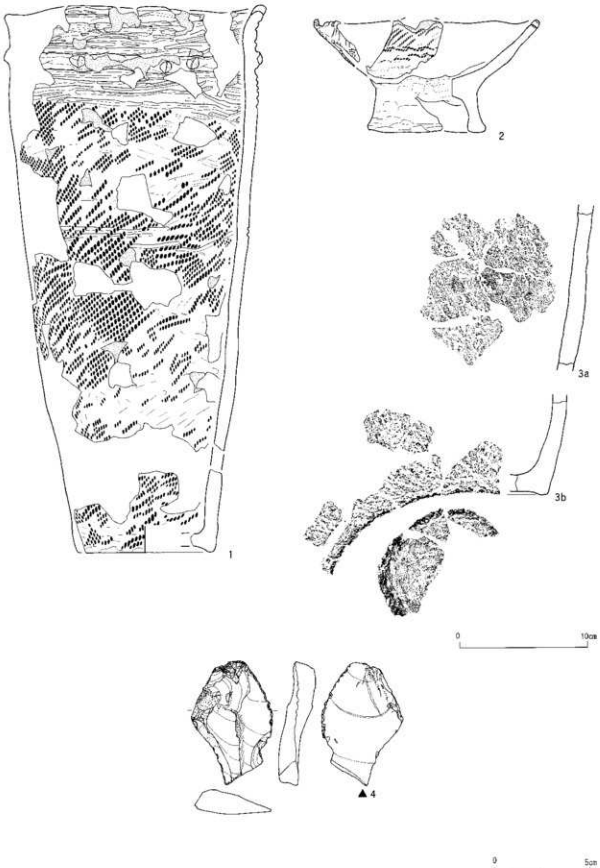
１・２は復元したもの。

１はⅡ群ｂ類。口唇部がやや外反し、直下に浅い沈線が２本観察される。口頸部は２条の撚糸と無文帯によって区画されている。口縁部文様帯内と頸部直下には結束第１種羽状縄文と、体部には単軸絡条体第１種の撚糸文が施されている。底部はわずかに張り出し、上げ底気味、底面には撚糸文施文後、ナデられ、内面は磨かれている。下層ｂ式に相当。**２**はⅢ群ａ類。口縁は外反せず、口縁から頸部にかけ、急角度で窄まる。突起部分と口唇部に粘土紐の粘付と、口唇上には縄による刻みが施されている。胴部には単節斜行縄文のみが施文されている。サイベⅦｂ式～見晴町式の範疇に相当。

３～８は破片、Ⅱ群ｂ類。

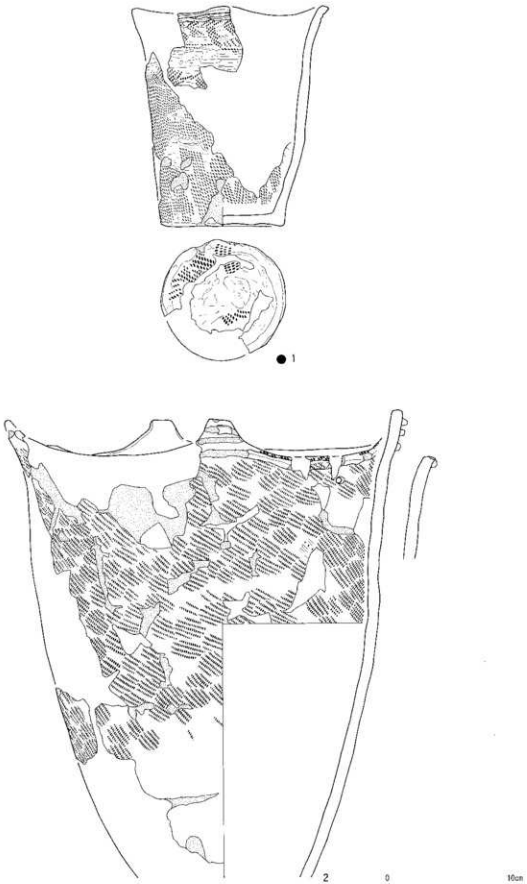
３は口縁がやや外反し、隆帯は持たない。口頸部文様帯には不整綾絡文、体部には附加条文が施されている。内面は磨かれている。下層ｂ式相当。**４**は口縁部に横走、体部に縦行する単軸絡条体第１種の撚糸文が施されている。内面は胎土に含まれる繊維痕が筋状となって剥落している。下層ｂ式相当。**５**は口頸部文様帯に不整綾絡文と沈線が施されているもの。体部には撚糸文が施され、内面は磨かれている。下層ｂ式相当。**６**は波状口縁のもの。表、裏面共に表面風化が著しい。口縁部文様帯内には結束第１種羽状縄文が施されている。下層ｂ式相当。

H-1

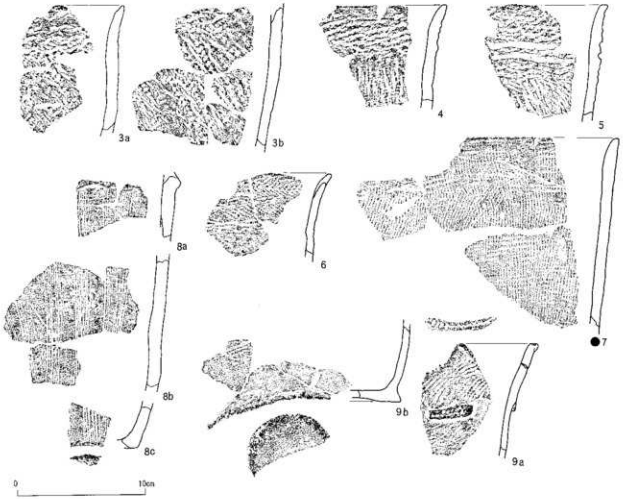


図Ⅲ－91　H－1出土遺物

H-2



図Ⅲ－92　Ｈ－２出土遺物(1)



図Ⅲ－93　Ｈ－２出土遺物(2)

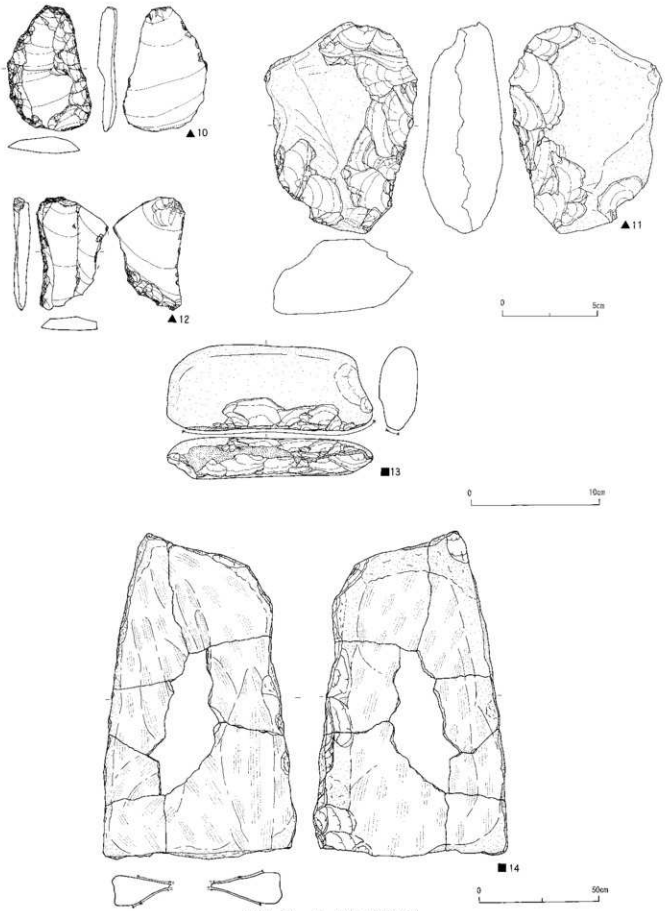
7は口縁が直立し、口唇が尖っている。口唇部直下は幅１cmの無文帯があり、体部には２段の細い自縄自巻縄文が施されている。内面は滑択に磨かれている。下層ｄ１式相当。

8は櫛状工具による条痕が施されている。８ａで頸部の段状の括れが観察できる。内面は磨かれている。下層ｄ２式相当と思われる。

9は破片、Ⅲ群ａ類。９ａの波状口縁、突起部分には撚糸の圧痕、口唇には撚糸による刻みが施されている。貼付帯が１条あり中央には撚糸の圧痕、胴部には単節斜行縄文が施されている。９ｂは底部でナデられており、底面との境が張り出している。サイベ沢Ⅶ式相当。　（袖岡）

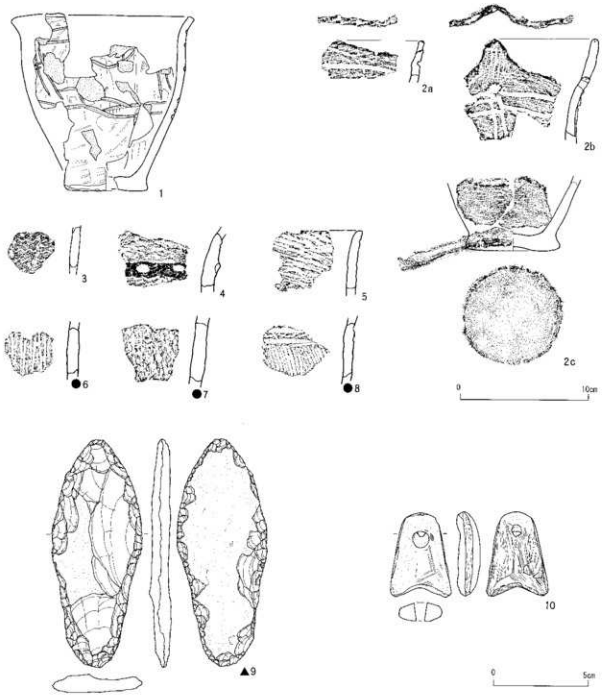
石　器

10は頁岩製のスクレイパーである。縦長のもので、片側縁に外湾する連続的な調整剥離がみられる。11は頁岩製の両面調整石器である。荒い両面加工により側縁を調整する。12は頁岩製のＲフレイクである。不定形で主に左側縁に不規則な剥離がある。先端側の複面に荒い剥離がある。13は閃緑岩製の偏平打製石器である。擦痕は全体に亘る明瞭なものである。周縁に調整は無く、形状を変更していない。14は砂岩製の砥石。両面に明瞭な使用痕がみられる。周縁は敲打により整形しているが、一部に礫面が残る。　（佐藤）



図Ⅲ－94　Ｈ－２出土遺物(3)

H-3



図Ⅲ－95　H－3出土遺物

Ｈ－３出土　掲載遺物（図Ⅲ－95　図版108）

土　器

1 は復元のものでⅣ群ａ類。無文地に沈線が施されている。

2～**8** は破片のもの。

2 はⅢ群ａ類、サイベ沢Ⅶ式相当。波状口縁の突起部（２ａ）、口縁（２ｂ）、底部付近（２ｃ）にニシンタイプの魚骨回転文が施されている。

3 はⅠ群ｂ類。結節回転文が施されている。東釧路Ⅳ式相当。

4～**8** までⅡ群ｂ類、下層ｂ式相当。

4 は頸部破片で隆帯上に刺突、文様帯内には不整綾絡文が施されている。**5** は口縁部の破片で、単軸絡条体第１類の撚糸文が斜位に施されている。**6** は体部破片に撚糸文、**7** は体部に複節縄文、**8** は体部に単軸絡条体第１類の撚糸文と沈線が施されている。（袖岡）

石　器

9 は凝灰岩製の両面調整石器である。加工は一部で器体中央まで及ぶものがあるものの、主に周縁を行っている。Ｈ－12から出土している凝灰岩製の石製品（図Ⅲ－121－18）と包含層から出土している凝灰岩製の石槍（図Ⅲ－186－37）に類似するが、基部が不明瞭なため、両面調整石器とした。**10**は凝灰岩製の石製品である。平面形は鐸形で、孔が１つみられる偏平な垂飾である。側縁と裏面を中心に、研磨による擦痕がみられる。穿孔は片面から行っており、内部には主に横方向の擦痕がみられる。（佐藤）

Ｈ－４出土　掲載遺物（図Ⅲ－96　図版108）

土　器

1～**5** は破片でⅡ群ｂ類、下層ｂ式相当。

1 は口頸部文様帯を持たないもの。口唇は歪に肥厚し、体部～口縁部にかけあまり屈曲はなく、複節縄文が施されている。内面は胎土に含まれる繊維から筋状となり剥落している。**2** は１と同様、複節縄文が施文されている。**3**、**4** は隆帯を持ち、口頸部文様帯に不整綾絡文が施されているもの。**3** は隆帯の上下に並行する沈線、体部には複節縄文が施されている。内面はやや光沢のあるミガキである。**4** は口頸部文様帯内と胴部上半に鋸歯状の沈線が施されている。体部上半には複節縄文、下半には撚糸文が施文されている。**5** は比較的幅の狭い口頸部文様帯内に沈線が施文されているもの。口縁はあまり外反せず、体部中央には不整綾絡文が観察できる。内面は磨かれている。（袖岡）

Ｈ－５出土　掲載遺物（図Ⅲ－97・98　図版109）

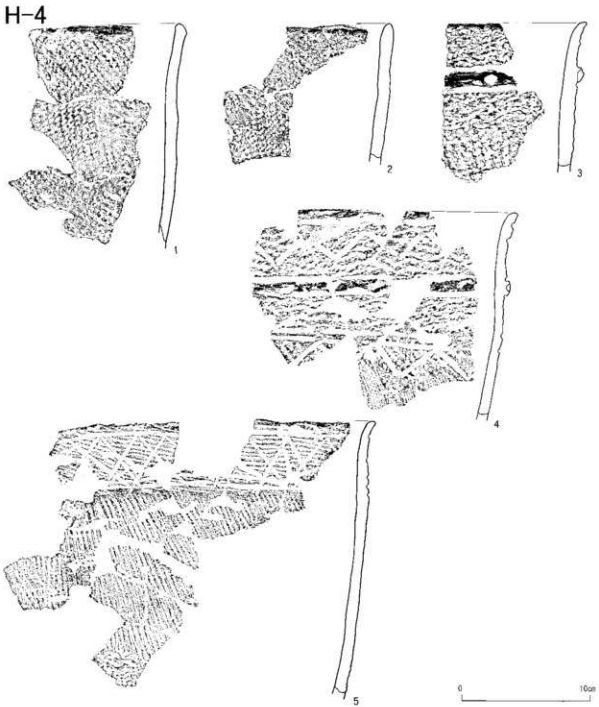
土　器

1～**5** までⅢ群ａ類、サイベ沢Ⅶ式相当。**1**・**2** は復元、**3**～**5** は破片のもの。

1 は小型で深鉢形のもの。突起と底部を欠損する。口縁は外反し、胴部が張り出す。胴部には結節のある縄文のみが施されている。**2** は大型の深鉢形。突起部にのみ貼り付けが施されている。胴部には結節のある縄文のみが施されている。**3**、**4** は結節のある縄文のみが施文されているもの。**4** は突起部から下垂する貼り付けがあったとみられ、剥落の痕跡がみられる。**5** は突起部で、貼付を持つ。（袖岡）

石　器

6 は頁岩製のＲフレイクである。主に左側縁に不規則な剥離がある。スクレイパーの可能性もある



図Ⅲ－96　H－4出土遺物

が、欠損部が不明のため、Rフレイクとした。7は安山岩製のすり石である。擦面が二面みられるもので、幅の狭いものと広いものがある。厚みのある円礫を素材としている。断面は三角形である。

（佐藤）

H－6出土　掲載遺物（図Ⅲ－99～106　図版110～113）

土　器

1～13まで復元、14～18まで破片。1～17までⅢ群a類でサイベ沢Ⅶ式相当、18はⅣ群a類。

1～3は貼付が施されているもの。1は波状口縁の深鉢形土器。口縁は外反、胴部下半が張り出し、底部で急角度に窄まり底面が張り出している。結節のある縄文地に細い貼付が突起部～胴部中央まで施されている。貼付帯上には2本一組の撚糸圧痕が付されている。底部付近は磨かれ、無文となっている。2は深鉢形土器の上部を欠損しているもの。胴部は張り出さず、底部で窄まる。底面はわずかに張り出す。結節のある複節縄文地に細い貼付が施されている。貼付上には2本一組の撚糸圧痕が付されている。底部付近は磨かれ、無文となっている。3は大型の深鉢形で器形に屈曲が無い円筒形のもの。結節のある羽状縄文地に貼付が施されている。

4～7まで沈線を持つもの。4は二種二対の突起を持つもの。口縁は外反し、胴部下半がわずかに張り出す。底部付近で窄まり、底面が張り出している。突起部には縄の圧痕、口唇に縄の刻みが施されている。結節のある縄文地に円形の棒状工具で沈線が施文されている。5は底部を欠損している深鉢形のもの。口縁はやや外反し胴部が張り出している。口唇には縄の刻み、突起と突起下にある貼付、把手状の貼付には縄の圧痕が施され、口縁から胴部上半には結節のある縄文地には平たい棒状工具による沈線が施文されている。6は小型の深鉢形のもの。結節のある縄文地に胴部下半まで沈線が施されている。突起を含む口唇には縄の刻みが施されている。底部付近で窄まる部分はほかの土器と同様、無文であるが、底面は張り出さない。7は深鉢形土器の上部を欠損しているもの。胴部下半で丸みを帯びて張り出し、底部付近で窄まり無文、底面は張り出す。結節のある縄文地に沈線が施されている。

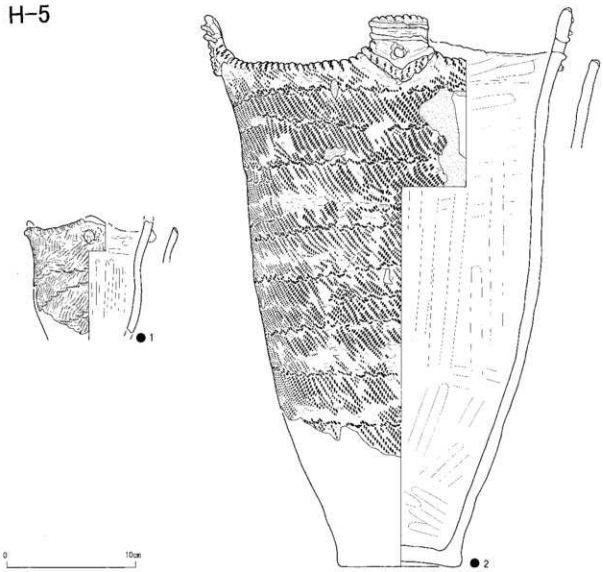
8～11まで突起部を除き、文様が縄文のみ施されているもの。8は突起部に同じ貼付が施されている。突起の上端と下部の貼付には縄の圧痕、口唇には縄の刻みが施されている。胴部は結節のある縄文が施されている。9は口縁から窄まる底部にかけ、直線的になっている。10は裏面に網代痕がみられる。11は突起が肥厚し棒状のもの。

12は結節を有する羽状縄文のもの。突起の形状が異なっている。13は体部上半に羽状縄文、下半に斜行縄文が施されている。14は波状口縁で口縁は外反、胴部は張り出している。結節のある羽状縄文地に細い貼付が施されている。貼付帯上には2条の撚糸圧痕が施文される。15は突起部で焼成前に孔が開けられているもの。細い貼付が施され貼付上には撚糸の圧痕が1条施されている。16は口縁が強く外反し胴部が張り出すもの。突起部に貼付などの施文は見られない。17は底部の張り出しが比較的弱い。

18は無文地に沈線が施されている。トリサキ式相当。　（袖岡）

石　器

19は頁岩製の石鏃である。有茎鏃で凸基のものである。20はガラス質の安山岩製の両面調整石器である。木葉形で、荒い両面加工により側縁を調整する。21は頁岩製のスクレイパーである。縦長のもので、右側縁の一部と左側縁に連続的な調整剥離がみられる。22は頁岩製のつまみ付きナイフである。縦長のもので、片面のみに調整を行うものである。先端は尖る。23は粘板岩製の石斧である。大型の磨製石斧の基部である。24・25は偏平打製石器である。24は安山岩製で、機能部に使用の際の敲打に



図Ⅲ－97　H－5出土遺物(1)

よると考える剥離痕がみられる。擦痕は無い。周縁に調整は無く、形状を変更していない。**25**は凝灰岩製で、擦痕は全体に亘る明瞭なものである。周縁に調整は無く、形状を変更していない。**26**は砂岩製のたたき石である。長軸に敲打痕のみられるものである。厚みのある礫を素材とする。**27**は閃緑岩製の北海道式石冠である。機能部に使用の際の敲打によると考える剥離痕がみられる。　（佐藤）

H－7出土　掲載遺物（図Ⅲ－107　図版114）

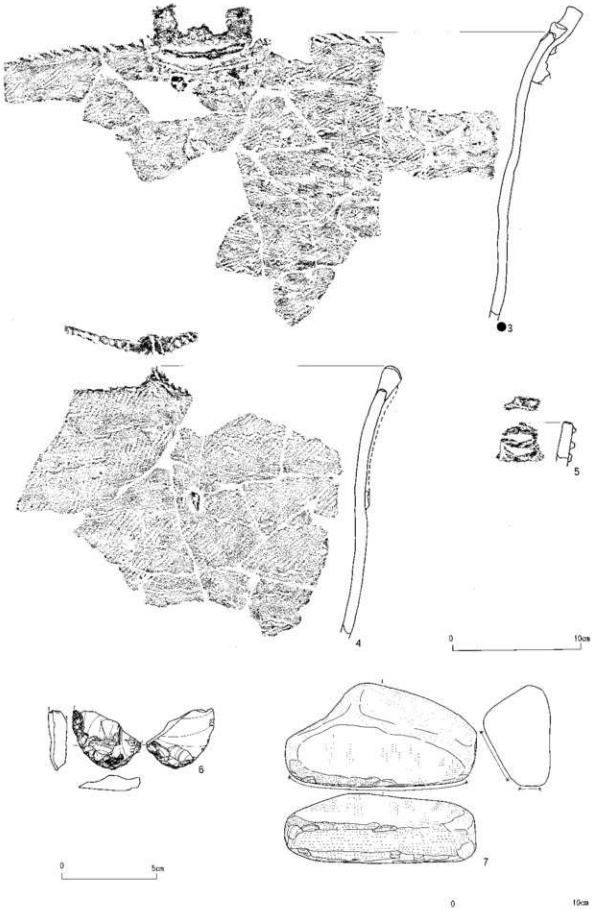
土　器

1はⅡ群b類の体部破片。内面が滑択に磨かれている。　（袖岡）

H－8出土　掲載遺物（図Ⅲ－107　図版114）

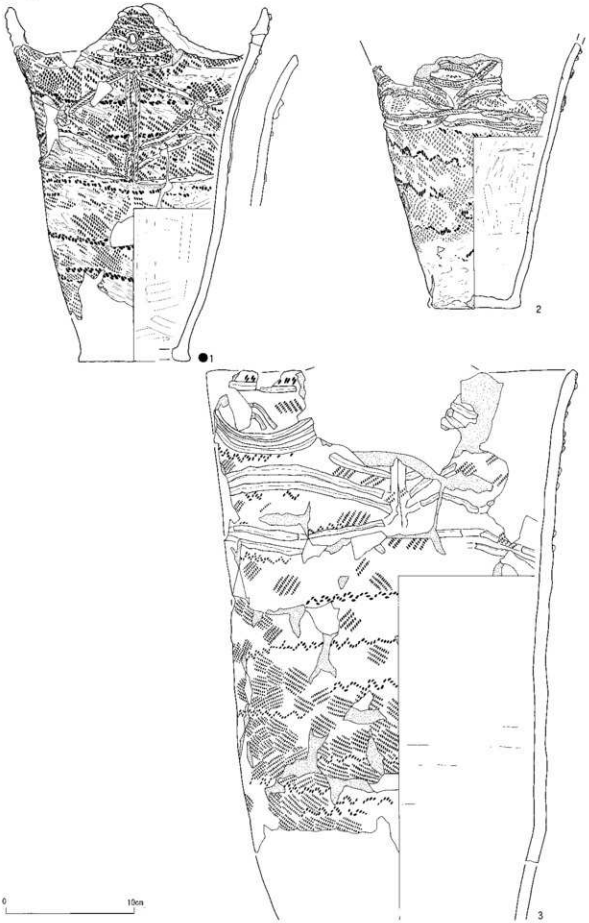
土　器

1は復元したものでⅡ群b類。やや歪なバケツ形のもの。口縁は外反、口唇直下2㎝程の幅で条痕が施されている。体部には単節の斜行縄文が施文されている。内面はよく磨かれているが、凹凸が目

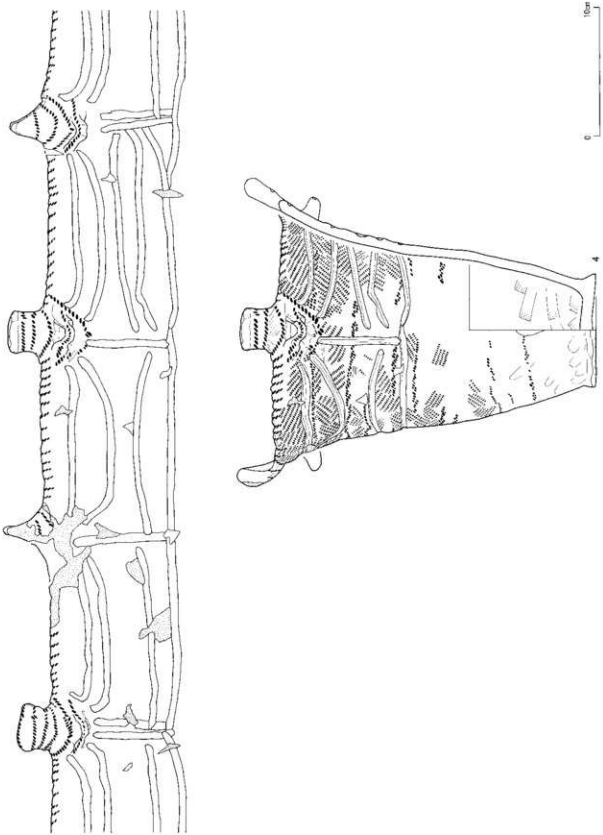


図Ⅲ－98　Ｈ－５出土遺物(2)

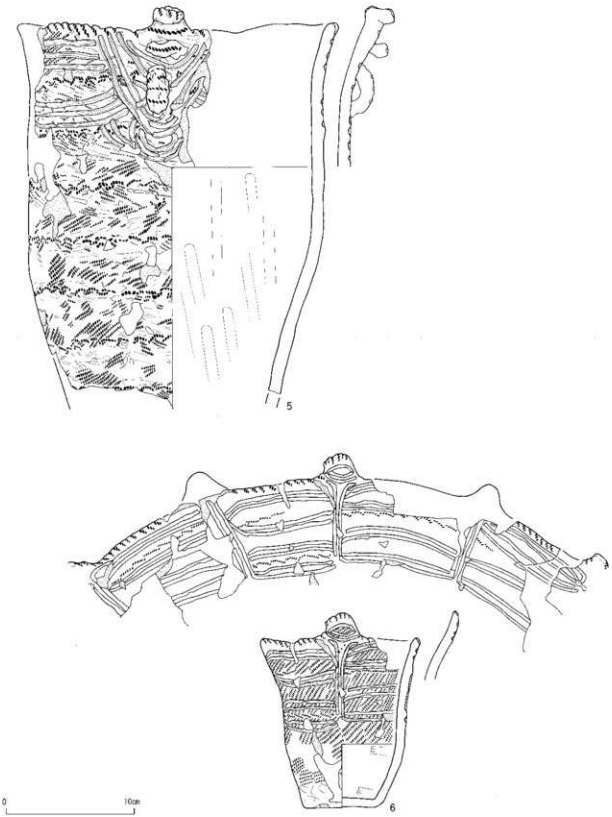
H-6



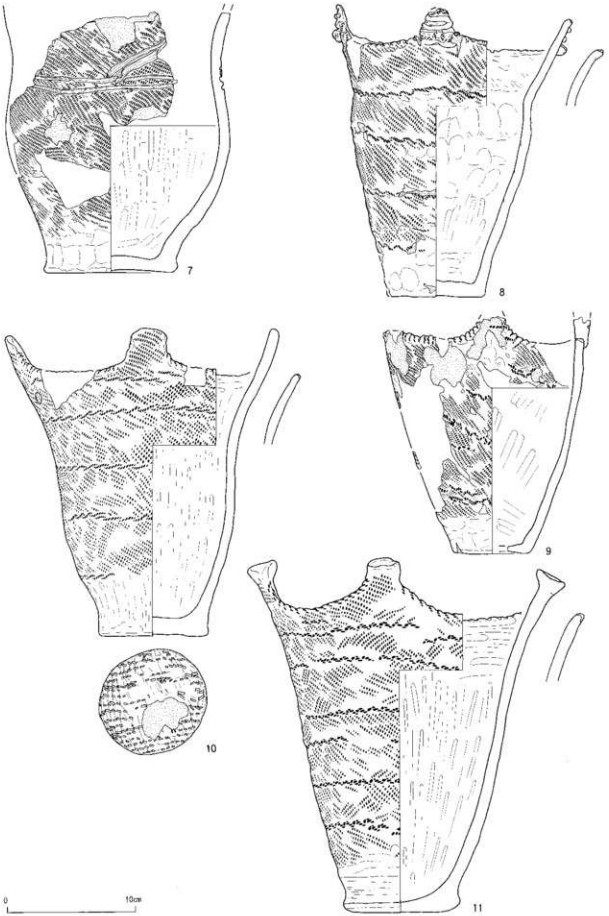
図Ⅲ－99　H－6出土遺物(1)



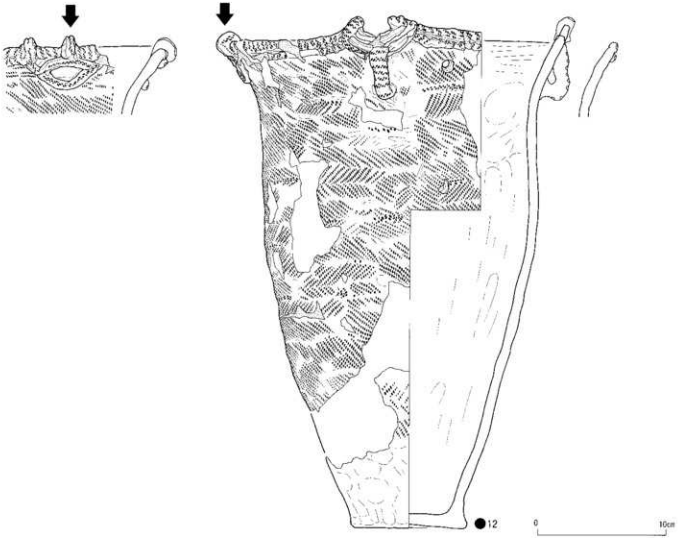
図Ⅲ-100　H-9出土遺物(2)



図Ⅲ－101　H－6出土遺物(3)



図Ⅲ－102　H－6出土遺物(4)



図Ⅲ－103　H－6出土遺物(5)

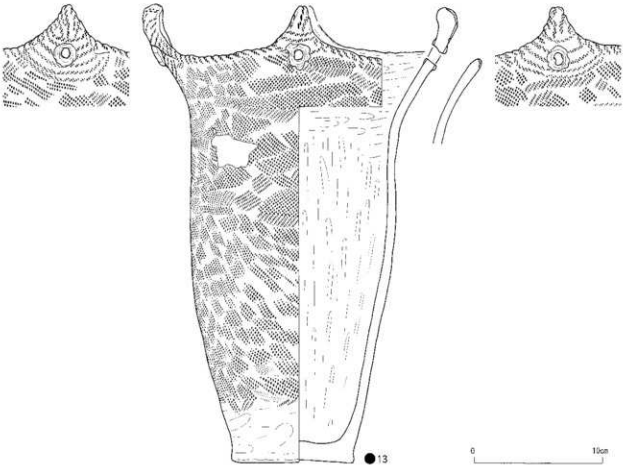
立つ。底部は上げ底で底面はよく磨かれている。胎土には繊維が多く含まれている。下層ｂ式相当。

2～13まで破片。**2**はⅠ群ｂ類で東鋼路Ⅳ式相当のもの。

3～12までⅡ群ｂ類、下層ｂ式相当。

3、**4**は単節の斜行縄文が施されているもの。**4**は薄手で小型のもの。**5**は外反する口縁部。不整綾絡文が施文される。**6**は低い隆帯を持つもの。隆帯上には棒状工具による刺突と、隆帯下部にも不整綾絡文が施されている。**7**は幅の広い隆帯に指頭による刺突があり、文様帯内には不整綾絡文が施されている。**8**は隆帯の上下に不整綾絡文が施され、隆帯より上部には沈線が施されている。**9**は体部に単軸絡条体第１種の撚糸文が施されている。内面には条痕により調整されている。**10**、**11**は底部。**10**は単軸絡条体第１種の撚糸文が横走している。上げ底で、縄文がみられる。**11**は上げ底で、底面に複節縄文が施されている。**12**は口縁部の文様帯の幅が３㎝程度と狭い。直立気味の口縁で、文様帯内には不整綾絡文が施されている。文様帯と体部の境を示す単軸絡条体第１種の原体の圧痕があり、体部には同じ原体によるものと見られる撚糸文が施されている。内面の調整は粗く、胎土に含まれる繊維が筋状に見られる。

13は口縁部が外反し、斜行する複節縄文地に同じ原体を用いた縄の圧痕が施されている。内面の調整は粗く、胎土に含まれる繊維が筋状に見られる。下層ｂ２式に相当するものと考えられる。(袖岡)



図Ⅲ－104　Ｈ－６出土遺物(6)

Ｈ－９出土　掲載遺物（図Ⅲ－108　図版114）

土　器

１はⅡ群ｂ類のもの。口縁はやや外反し、体部は張り出さない。隆帯は低く、隆帯の上下を沈線が施され、体部との境は目立たない。口縁から隆帯、隆帯の下位５cmほど下まで撚糸文が斜位に施され、隆帯を境に上下に鋸歯状の沈線が施されている。体部には単節の縄文が縦行して施文されている。胎土には砂礫が多く含まれている。内面は滑択に磨かれている。下層ｂ式に相当。

２はⅢ群ａ類のもの。結節のある縄文が施されている。サイベ沢Ⅶ式相当。（袖岡）

石　器

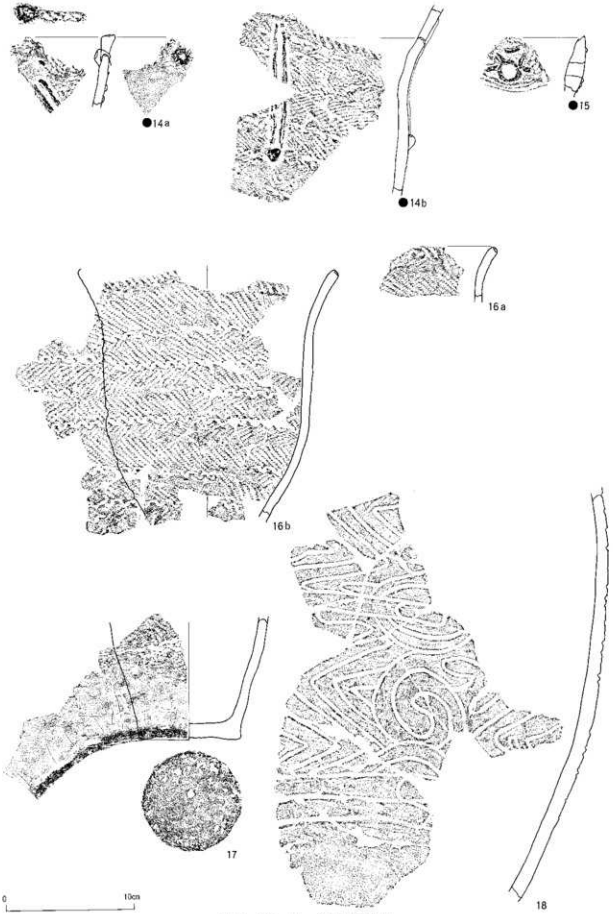
３は安山岩製の台石・石皿である。平坦面の全体に擦痕がみられ、一部に敲打痕がみられるものである。擦面は平坦である。（佐藤）

Ｈ－10出土　掲載遺物（図Ⅲ－109～115　図版115～117）

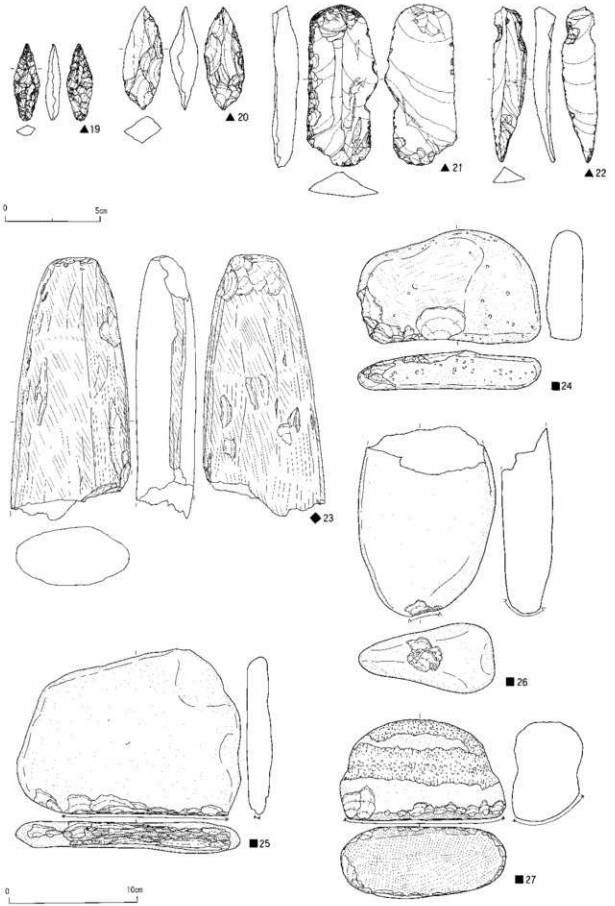
土　器

１～12まで復元のもので、Ⅲ群ａ類。

１、２は胴部上半に貼付文が施されているもの。１は４波状のものとみられ、口縁が外反する。胴部下位で張り出し、底部に向け緩やかに窄まる。結束羽状縄文地に細い貼付が胴部下半まで施されている。貼付帯上にも縄の圧痕がみられる。２は縄文地に貼付文が施されている。

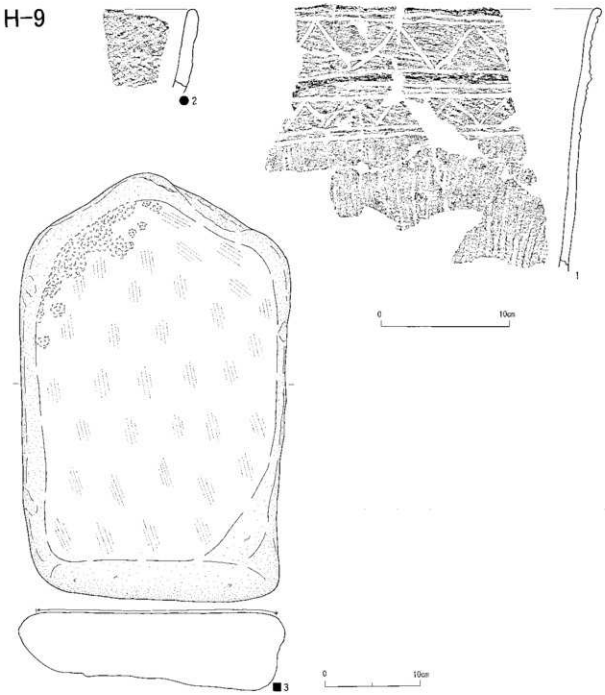


図Ⅲ－105　H－6出土遺物(7)

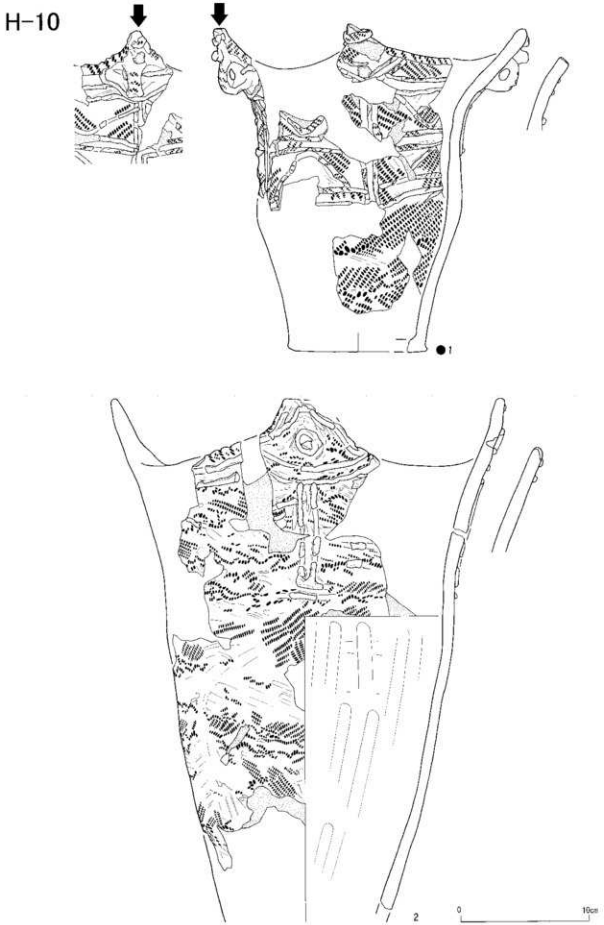


図Ⅲ－106　H－6出土遺物(8)

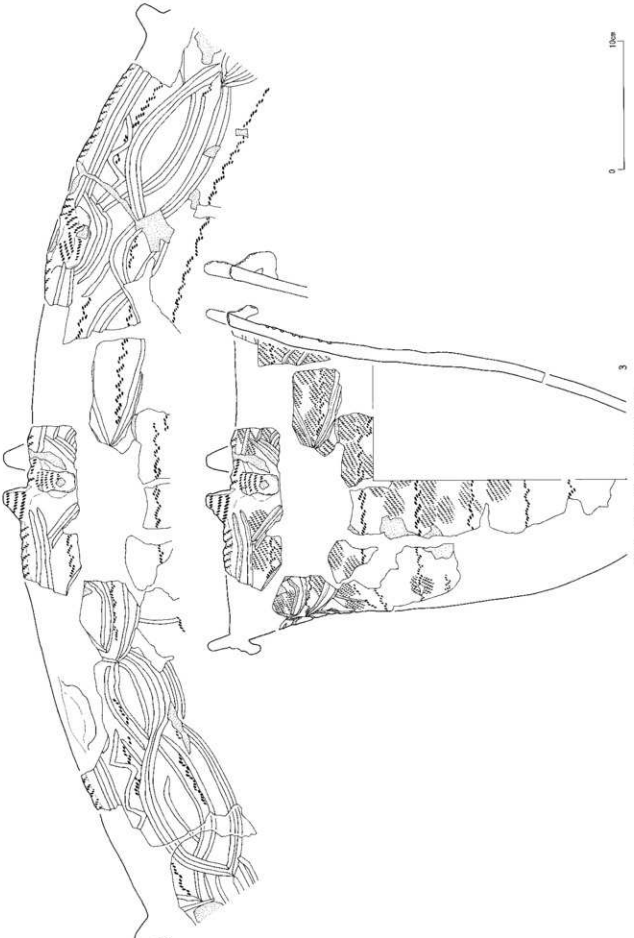
図Ⅲ－107　H－7・8出土遺物



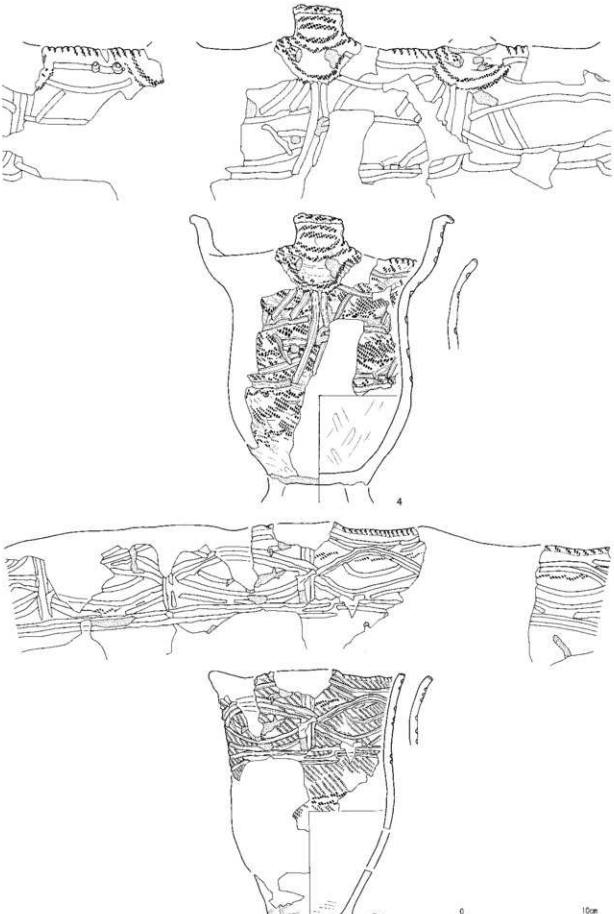
図Ⅲ－108　Ｈ－９出土遺物



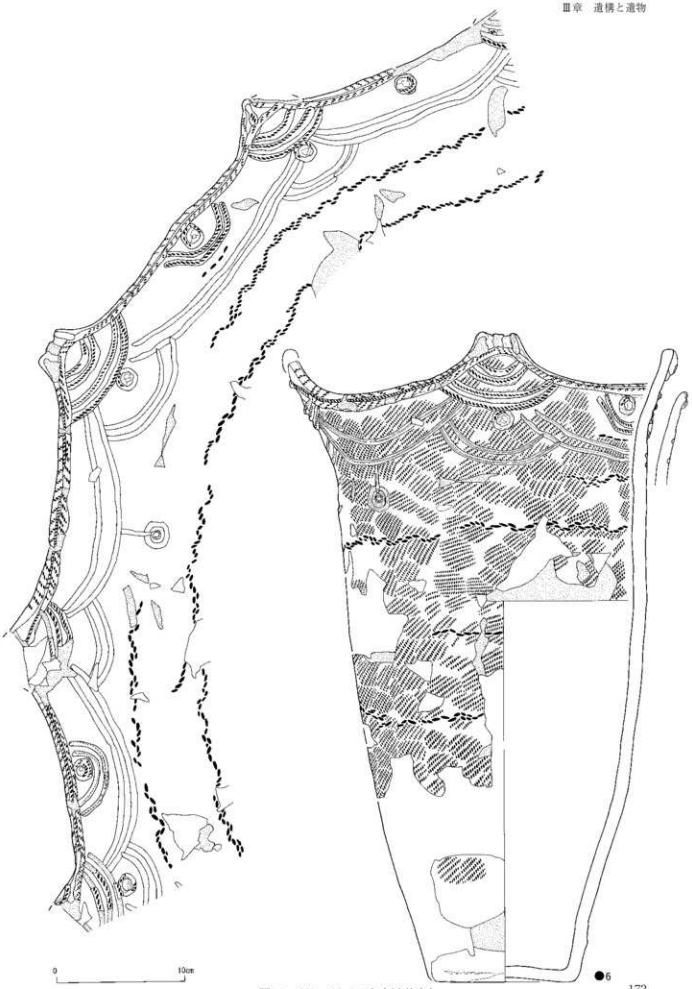
図Ⅲ－109　H－10出土遺物(1)



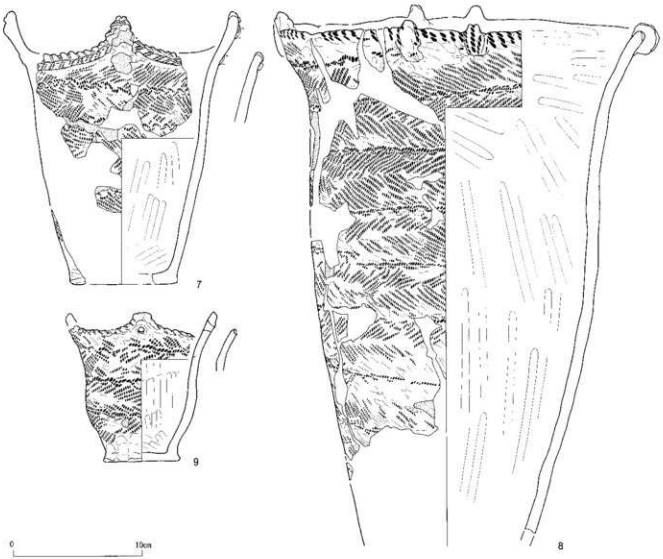
図Ⅲ-110　H-10出土遺物(2)



図Ⅲ－111　H－10出土遺物(3)



図Ⅲ－112　H－10出土遺物(4)

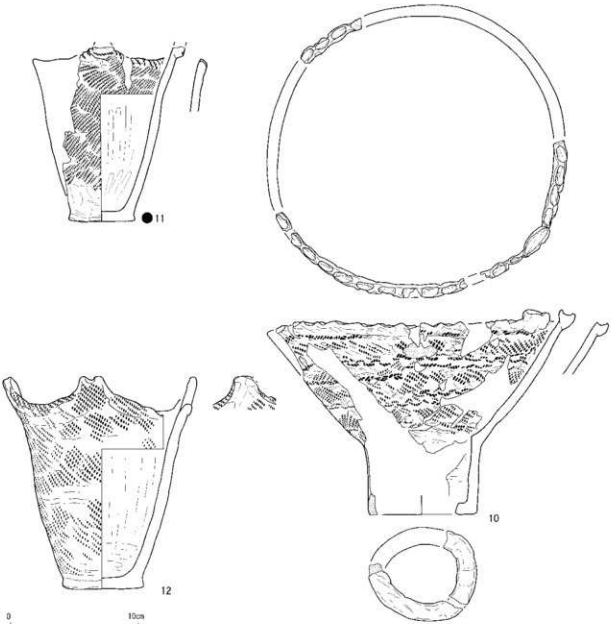


図Ⅲ－113　H－10出土遺物(5)

3～**6** まで、結節のある縄文地に沈線が施されているもの。**3** は４波状の土器と考えられ、復元で確認できたのは２か所で、それぞれ突起下に付く貼付の形状が異なる。結節のある縄文地に鋭角の棒状工具により沈線が施されている。**4** は台付と考えられる深鉢形のもの。口縁が強く外反、胴部下半で強く張り出し丸みを帯び、底部に急角度に窄まる。底部には台のようなものが付いていた痕跡があり、円形に剥落している。**5** は小型で深鉢形のもの。結節のある縄文地に、胴部上半まで沈線が施されている。**6** は大型で深鉢形のもの。４波状の口縁で、突起の１か所が他と異なる形である。

7～**10**は胴部が結節のある縄文地のみのもの。**7** は口唇直下に細い貼付を持ち、口唇上と貼付帯上に縄の刻みが施されている。突起には把手状の貼付が施されていたと考えられるが、剥落している。**8** は大型の深鉢形のもの。山形の突起は持たず、平縁に２個一組で幅広の貼付帯が施されている。口唇と貼付帯上には縄の刻みが施されている。**9** は小型のもの。突起には焼成前の穿孔がみられる。**10** は台付のもの。漏斗状で、台と鉢状の中央が空洞になっている。口唇部は指頭による刺突で、爪跡が明瞭に残っている。

11、**12**は胴部が単節斜行縄文のみが施されているもので、共に小型。**11**は突起部に貼付と縄線があ



図Ⅲ－114　H－10出土遺物(6)

り、口唇に縄の刻みが施されている。**12**は口唇をやや肥厚させ、断面が切り出し状になっている。地文の斜行縄文以外の文様は持たない。

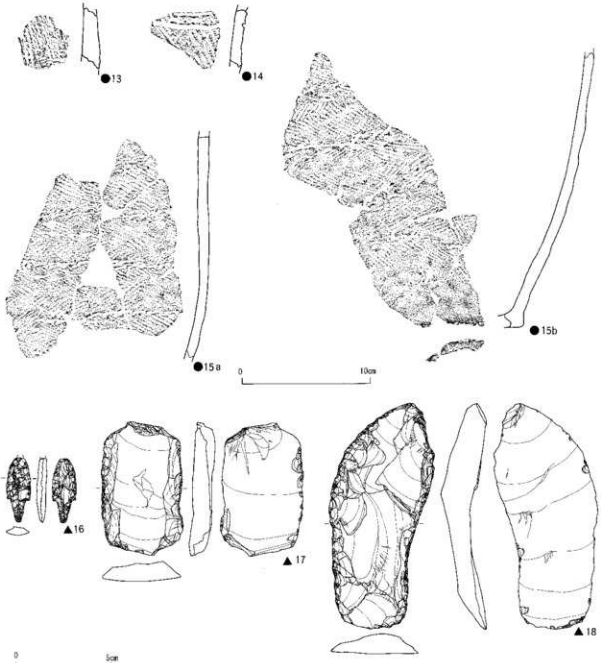
13〜**15**は破片、**13**はⅡ群ｂ類、**14**・**15**はⅢ群ａ類のもの。

13は体部破片で、単軸絡条体第１種の撚糸文に綾絡文が施されている。下層ｂ式相当。

14は単節斜行縄文地に沈線が施されている胴部破片。**15ａ**、**ｂ**は同一個体破片。共にサイベⅦ式相当。（袖岡）

石　器

16は頁岩製の石鏃である。三角形有茎鏃である。先端は欠損している。**17**・**18**は頁岩製のスクレイパーである。ともに縦長のものである。**17**は平行する両側縁に連続的な調整剥離がみられる。**18**は左側縁に外湾する、右側縁に内湾する連続的な調整剥離がみられる。（佐藤）



図Ⅲ－115　H－10出土遺物(7)

H－11出土　掲載遺物（図Ⅲ－116～120　図版118～120）

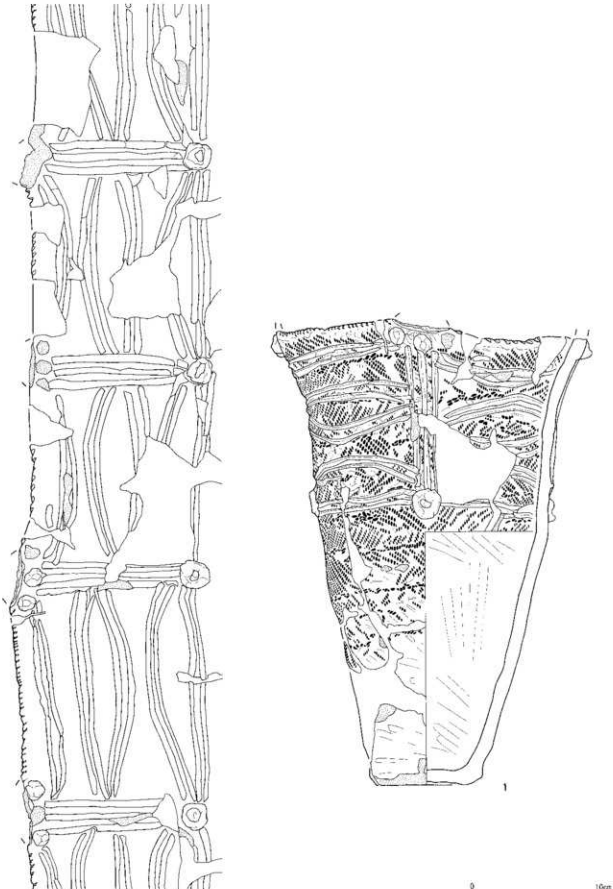
土　器・土製品

1～**9**まで復元、**10**は破片のもの。すべてⅢ群ａ類、サイベ沢Ⅶ式相当のもの。

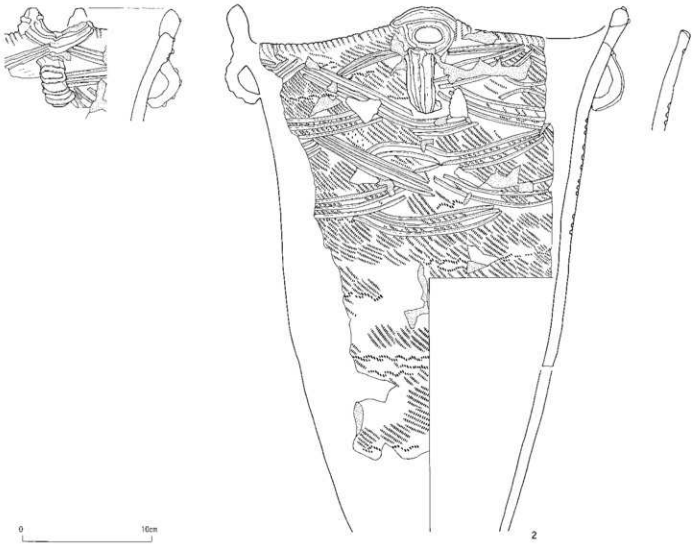
1～**4**・**10**は縄文地に沈線が施されているもの。**1**は４波状口縁の頂部を欠損しているもの。結節のある縄文地に胴部中央まで沈線が施され、突起の付け根とその下部に貼付が施されている。**2**は波状口縁の突起部が非対称となっている。**3**は単節縄文地に胴部下半まで沈線が施されている。**4**は鋸歯状の沈線を持つ。

5・**6**は小型で結節のある縄文のみが施されているもの。**5**は波状口縁の突起部を欠損している。器形は屈曲が無く、口縁から底部に向かい直線的に窄まる。**6**は口縁が外反し、胴部が張り出し丸み

H−11



図Ⅲ−116　H−11出土遺物(1)



図Ⅲ－117　H－11出土遺物(2)

を帯びる。

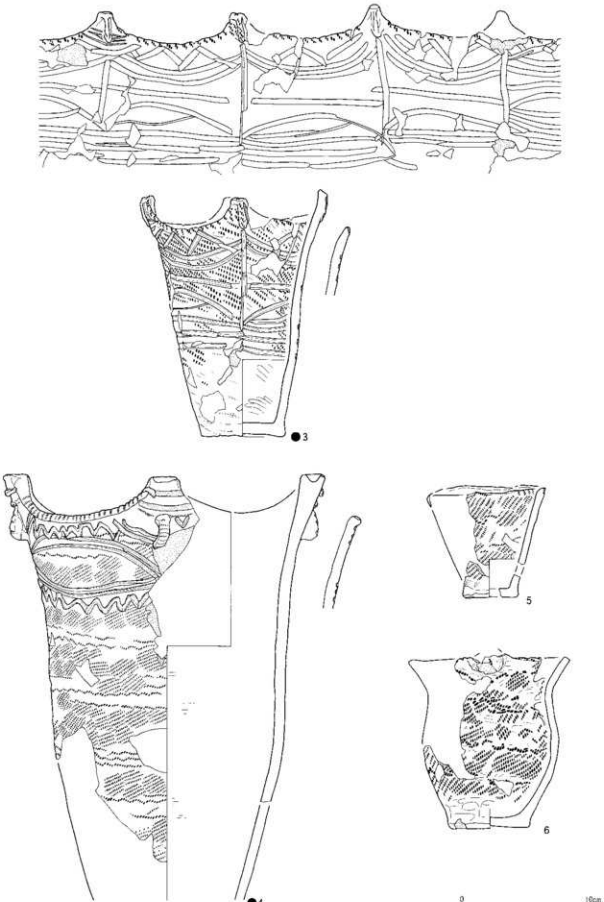
8・9は小型で無文のもの。大きさに若干差があるだけで、作りは同じである。欠損部分はあるものの、平縁に棒状の突起を4か所もつものと見られる。器表面はやや粗いナデ調整で、黒色の煤状物質が付着している。内面は丁寧に磨かれている。**9**の底面は丸みを帯びており、据わりの悪いものである。**10**は深鉢形で波状口縁。結節のある縄文地に沈線が施されている。

11・12は土製品及びその可能性があるもの。

11は鍔状の口縁部。貫通する孔があり、撚糸の圧痕がある細い貼付と棒状工具による刺突が施文されている。割れ口が磨耗しており、土器片を利用した土製品の可能性もある。Ⅲ群a類、サイベ沢Ⅶ式相当。**12**は土製品。粘土を指でつまみだし、形が作られている。（袖岡）

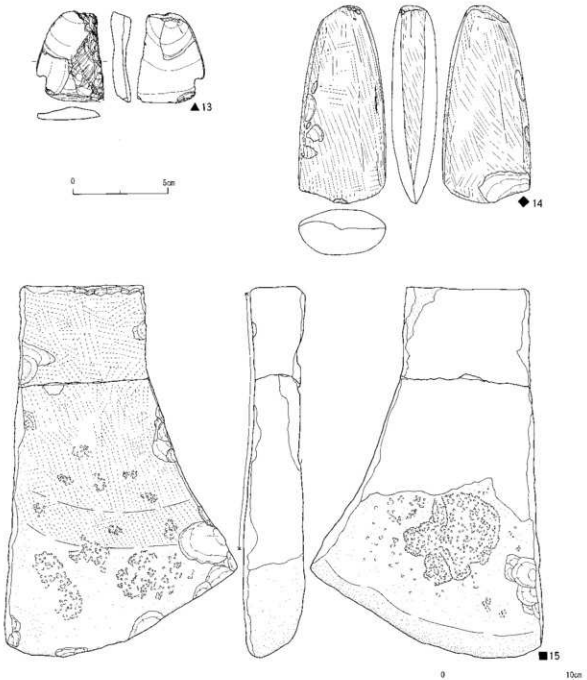
石　器

13は頁岩製のRフレイクである。不定形で右側縁に不規則な剥離がある。**14**は緑色泥岩製の石斧である。両刃の磨製石斧である。**15**は砂岩製の台石・石皿片である。残存部では、片側の平坦面の全体に擦痕がみられ、一部に敲打痕がみられるものである。擦面はやや凹む平坦なものである。裏面にも一部に敲打痕がみられる。（佐藤）



図Ⅲ－118　H－11出土遺物(3)

図Ⅲ－119　H－11出土遺物(4)



図Ⅲ－120　Ｈ－11出土遺物(5)

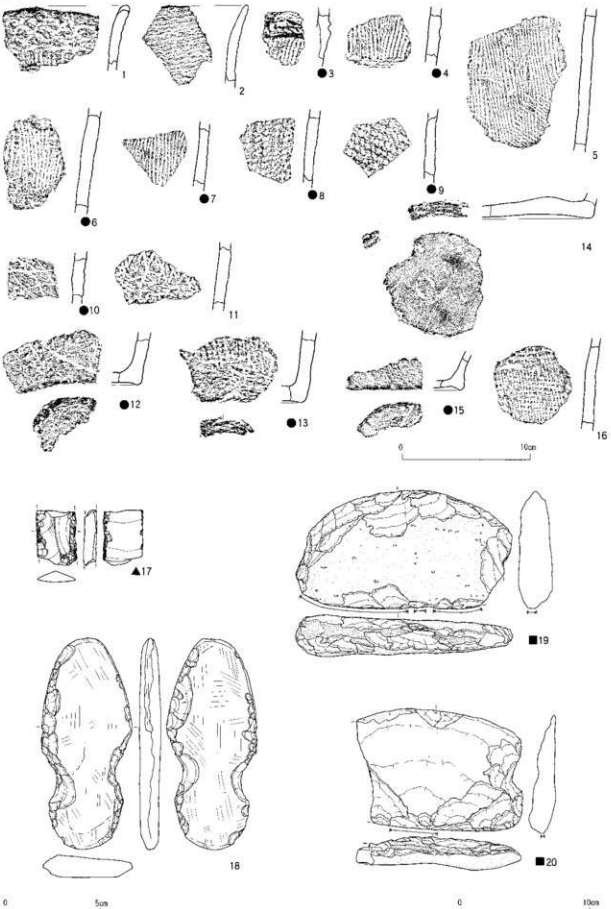
Ｈ－12出土　掲載遺物（図Ⅲ－121・122　図版120）

土　器

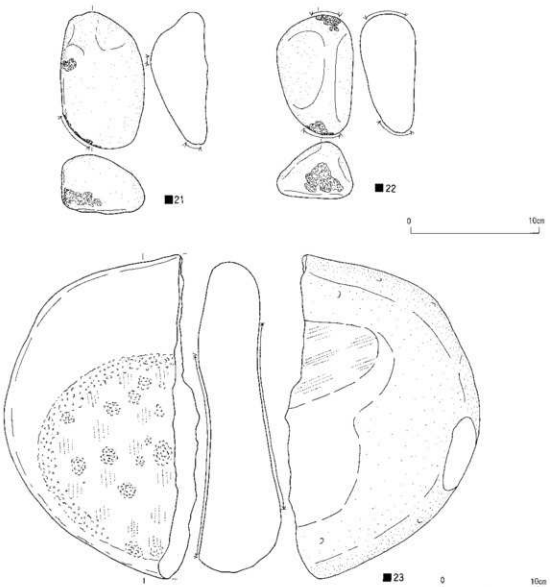
1～16は破片、すべてⅡ群ｂ類。１～15まで下層ｂ式相当、16は下層ｃ～ｄ式相当。

1は隆帯を持たない口縁部破片。幅３㎝の口縁部文様帯には不整綾絡文、体部には単軸絡条体第１種の撚糸文が施されている。**2**は単軸絡条体第１類が横走する。**3**は隆帯があるもの。表面は風化しているが、隆帯上には縄の圧痕が施されているものとみられる。**4～7**は単軸絡条体第１類の撚糸文が施されている胴部破片。**8・9**は複節縄文が施されている体部破片。**10**は単軸絡条体第５類の網目状撚糸文が施されているもの。**11**は体部に不整綾絡文が施されているもの。**12・13・15**は上げ底の底

H-12



図Ⅲ－121　H－12出土遺物(1)



図Ⅲ－122　H－12出土遺物(2)

部破片。14は底面が磨かれている。16は多軸絡条体の回転施文が施されている体部破片。明瞭な加工等はみられないが、土器片を再利用した円盤形土製品の可能性もある。（袖岡）

石　器

17は頁岩製のスクレイパーである。縦長のもので、平行する両側縁に連続的な調整剥離がみられる。

18は凝灰岩製の石製品である。丸みのある基部を明瞭に作り出し、両面全体と側縁の一部に研磨による擦痕がみられる。両面は研磨により平坦である。H－9から出土している凝灰岩製の両面調整石器（図Ⅲ－121－18）と包含層から出土している凝灰岩製の石槍（図Ⅲ－186－37）に類似するが、全体に研磨により成形していることから石製品とした。19・20は偏平打製石器である。19は流紋岩製で、擦痕は全体に亘る明瞭なものである。周縁全体に荒い調整がみられる。20は凝灰岩製で、擦痕は一部に摩滅のような痕跡で残る不明瞭なものである。周縁にあまり調整が無く、偏平な礫素材の形状を変更していない。正面には礫面がみられないが、使用の際の敲打によると考える剥離痕が正面全体に及んでいるためである。21・22は砂岩製のたたき石である。長軸に敲打痕のみられるものである。23は

図Ⅲ－123　Ｈ－13出土遺物

安山岩製の台石・石皿である。残存部では、正面の平坦面の２／３に擦痕と敲打痕がみられ、裏面の平坦面には擦痕がみられるものである。擦面はやや凹む平坦なものである。　（佐藤）

Ｈ－13出土　掲載遺物（図Ⅲ－123　図版121）

土　器

１～３までⅡ群ｂ類で、下層ｂ式に相当するもの。**１ａ**、**ｂ**は同一個体と考えられるもの。１ａは口縁部付近～体部下半にかけての破片である。口縁はやや外反する。口頸部文様帯に隆帯を持たず、比較的幅の狭い不整綾絡文と、体部には単軸絡条体第１類の撚糸文が施されている。１ｂの底部は上

げ底のものと見られ、底面には縄文が施されている。内面は磨かれている。**2**は体部には単軸絡条体第１類の撚糸文が施されている体部破片。**3**は体部に単軸絡条体第１種の撚糸文が斜位に施文され、その上から沈線が施されている。（袖岡）

石　器

4は頁岩製のスクレイパーである。縦長で、右側縁に内湾する連続的な調整剥離がみられるものである。（佐藤）

Ｈ－14出土　掲載遺物（図Ⅲ－124・125　図版121・122）

土　器・土製品

1は復元、**2**～**5**まで破片で、すべてⅡ群ｂ類、下層ｂ式相当。

1はやや小型のもの。口縁は強く外反し、頸部で括れ、肩のようなところが若干張り出し、底部に向かい緩やかに窄まる。口唇直下～わずかな張り出しにかけて複節斜行縄文、体部には単節斜行縄文が施されている。内面の調整は表面に凹凸がある。底部は上げ底気味、底面は表面が風化しているが縄文は無い。**2**は不整綾絡文が施されている口縁部破片。口縁はやや外反する。器壁は薄く、内面は磨かれている。**3**は附加条文が施されている体部破片。内面は磨かれている。**4**は隆帯の上に指頭による刺突が施され、口縁部に不整綾絡文、体部に附加条文が施されているもの。**5**は底部破片。上げ底で底面には縄文が施されている。

6は土製品。頭部が無い人の形で、無文地に極細の沈線で施文されている。土偶の類と考えられる。（袖岡）

石　器

7は頁岩製のスクレイパーである。縦長で、平行する両側縁に連続的な調整剥離がみられるものである。**8**は砂岩製の扁平打製石器である。擦痕は全体に亘る明瞭なものである。周縁に荒い調整がみられる。**9**は粘板岩製の石鋸である。全面に調整を行い、薄く加工している。両方の側縁に幅の広い擦痕がみられる。**10**～**12**は台石・石皿である。**10**は砂岩製で、両面に擦痕がみられるものである。擦面は平坦である。**11**・**12**は安山岩製で、片面に擦痕がみられるものである。**11**は片面全体の１／３に、**12**は片面のほぼ全面にみられる。擦面は平坦である。（佐藤）

Ｈ－15出土　掲載遺物（図Ⅲ－126　図版122）

土　器

1・**2**は復元したものでⅢ群ａ類、サイベ沢Ⅶ式相当のもの。

1は４波状の突起１か所に３本一組の沈線が施され、文様が非対称になっているもの。**2**は口唇に縄の刻み、胴部に単節斜行縄文が施されているもの。屈曲の無い器形で、口縁から底部に向かい直線的に窄まっている。（袖岡）

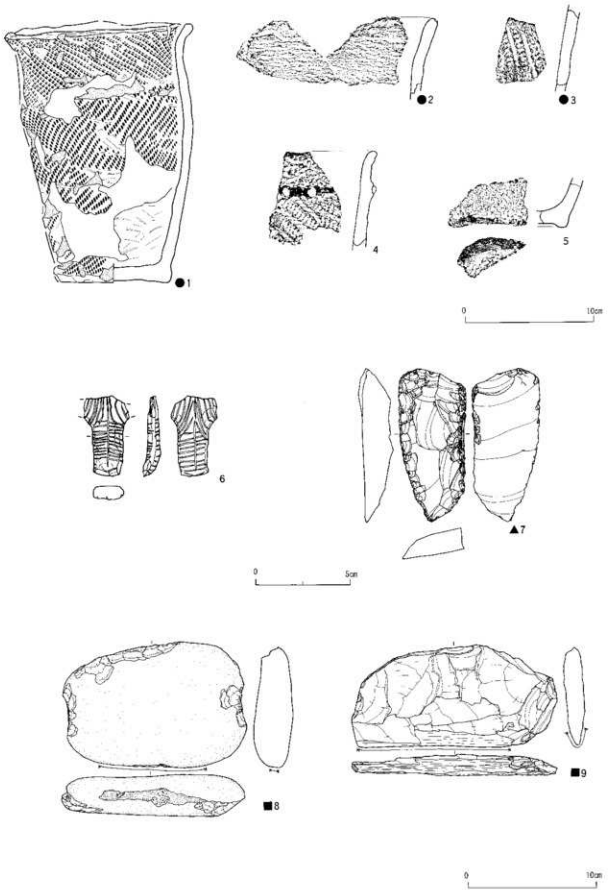
Ｈ－16出土　掲載遺物（図Ⅲ－127・128　図版122）

土　器

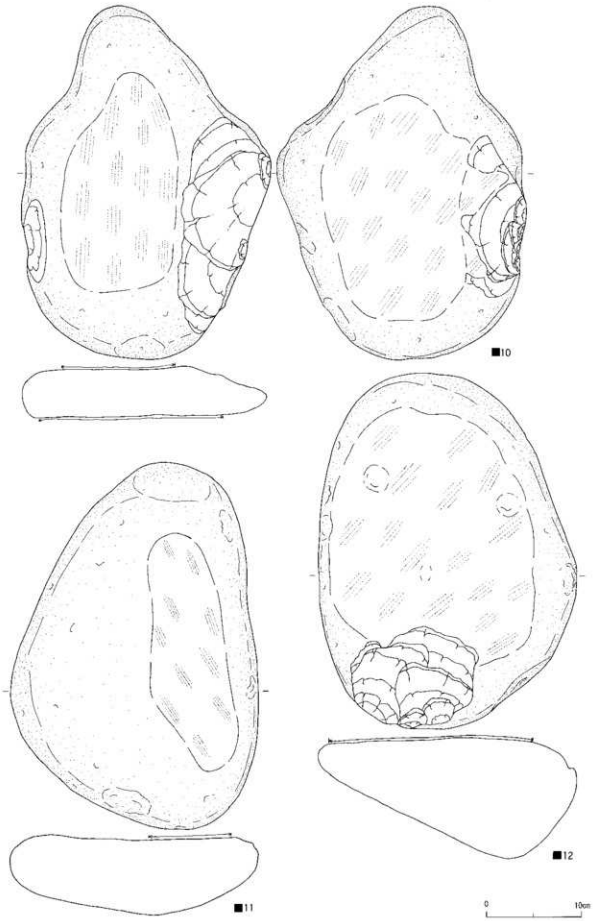
1は復元、**2**～**4**まで破片で、**1**・**3**・**4**はⅢ群ａ類、**2**はⅡ群ｂ類のもの。

1は大型の深鉢形で、突起部に貼付、胴部には結節のある縄文のみが施文されている。サイベ沢Ⅶ式相当。**2**は底部付近の破片。体部の文様は複節縄文とみられる。下層ｂ式相当。**3**・**4**共に結節のある縄文地に沈線が施されている。サイベ沢Ⅶ式相当。（袖岡）

H-14

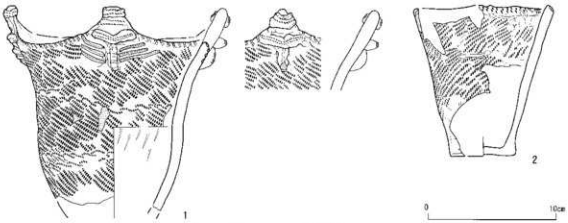


図Ⅲ－124　H－14出土遺物(1)



図Ⅲ－125　H－14出土遺物(2)

H-15



図Ⅲ－126　Ｈ－15出土遺物

石　器

5・6は頁岩製の石鏃である。三角形有茎鏃である。**7**は頁岩製のつまみ付きナイフである。縦長のもので、片面のみに調整を行うものである。**8**は頁岩製のスクレイパーである。縦長のもので、片側縁に外湾する連続的な調整剥離がみられる。**9**は頁岩製の両面調整石器である。欠損により全体の形状は不明である。荒い両面加工により側縁を調整する。左側縁は不規則に連続的な調整剥離がみられる。**10**は緑色泥岩製の石斧である。両刃の磨製石斧である。**11**は砂岩製のたたき石である。長軸に敲打痕のみられるものである。（佐藤）

Ｈ－17出土　掲載遺物（図Ⅲ－129　図版122）

土　器

1は復元したものでⅢ群ａ類、サイベ沢Ⅶ式相当のもの。平縁もしくは突起部が１か所のみのものである。屈曲の無い器形で、口縁から底部に向かい直線的に窄まる。胴部は結節のある縄文のみで、底部付近が磨かれている。（袖岡）

(2)　土坑

Ｐ－４出土　掲載遺物（図Ⅲ－130　図版123）

1は破片で表面摩滅が著しい。僅かに撚糸圧痕の痕跡がみられる。Ⅰ群ｂ類、東釧路Ⅳ式相当と思われる。

Ｐ－11出土　掲載遺物（図Ⅲ－130　図版123）

土　器

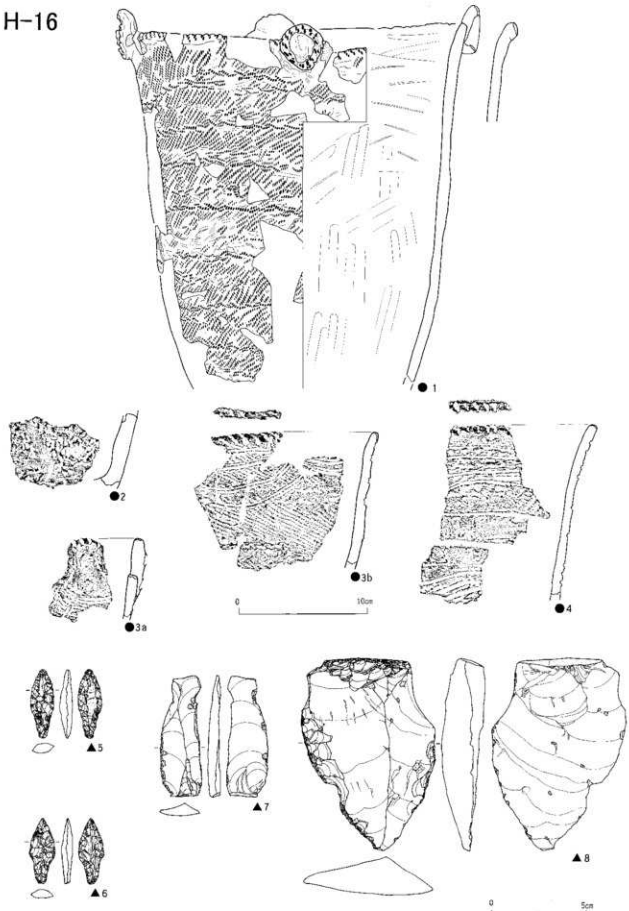
1は破片でⅡ群ｂ類、下層ｂ式相当。単軸絡条体第５類の網目状撚糸文が施されている。（袖岡）

Ｐ－13出土　掲載遺物（図Ⅲ－130　図版123）

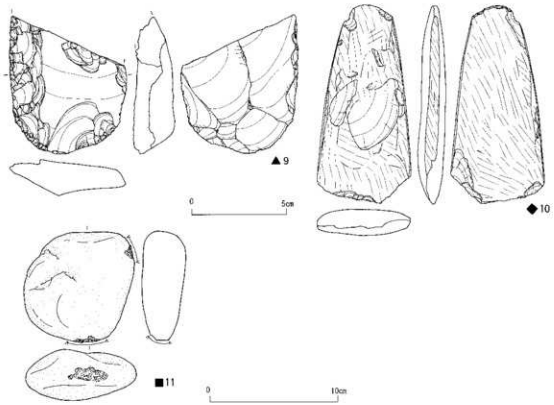
土　器

1・**2**はⅡ群ｂ類、下層ｂ式相当。

1は隆帯を境に口縁には不整な斜位の撚糸文、体部には附加条文が縦位に施文されている。底面は

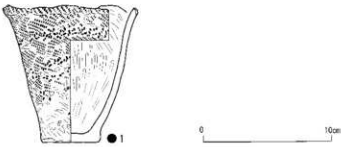


図Ⅲ－127　H－16出土遺物(1)

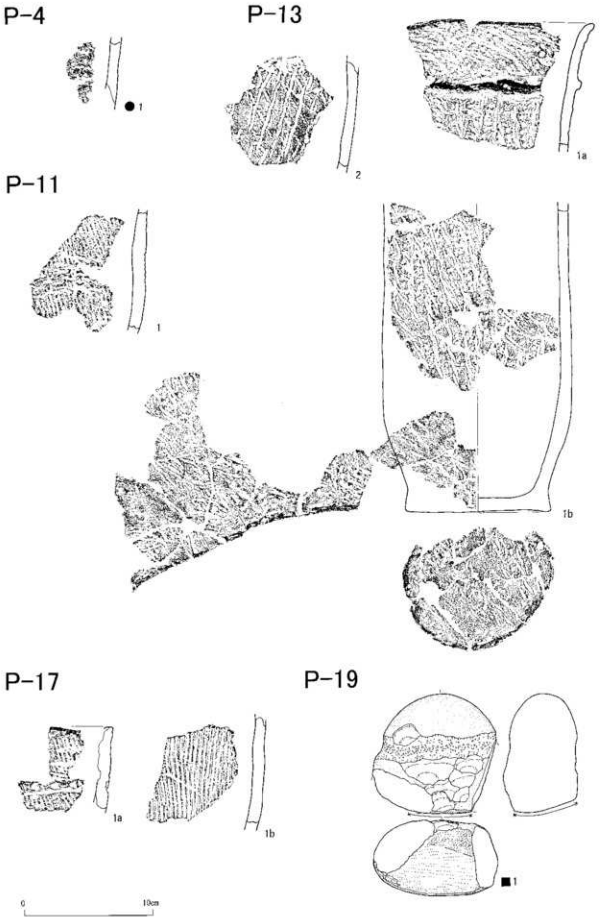


図Ⅲ－128　H－16出土遺物(2)

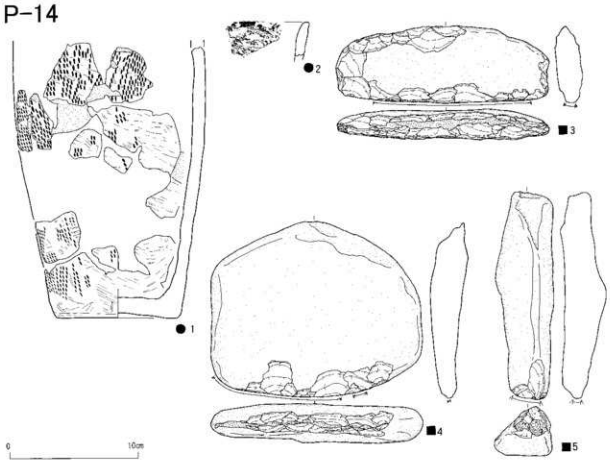
H-17



図Ⅲ－129　H－17出土遺物



図Ⅲ－130　P－4・11・13・17・19出土遺物



図Ⅲ－131 P－14出土遺物(1)

上げ底、縄文が施されている。2は体部破片で、単軸絡条体第1類の縦行する撚糸文に横走する不整綾絡文が施されている。 (袖岡)

P－14出土 掲載遺物(図Ⅲ－131・132 図版124)

土 器

1・2はⅡ群b類、下層b式相当。

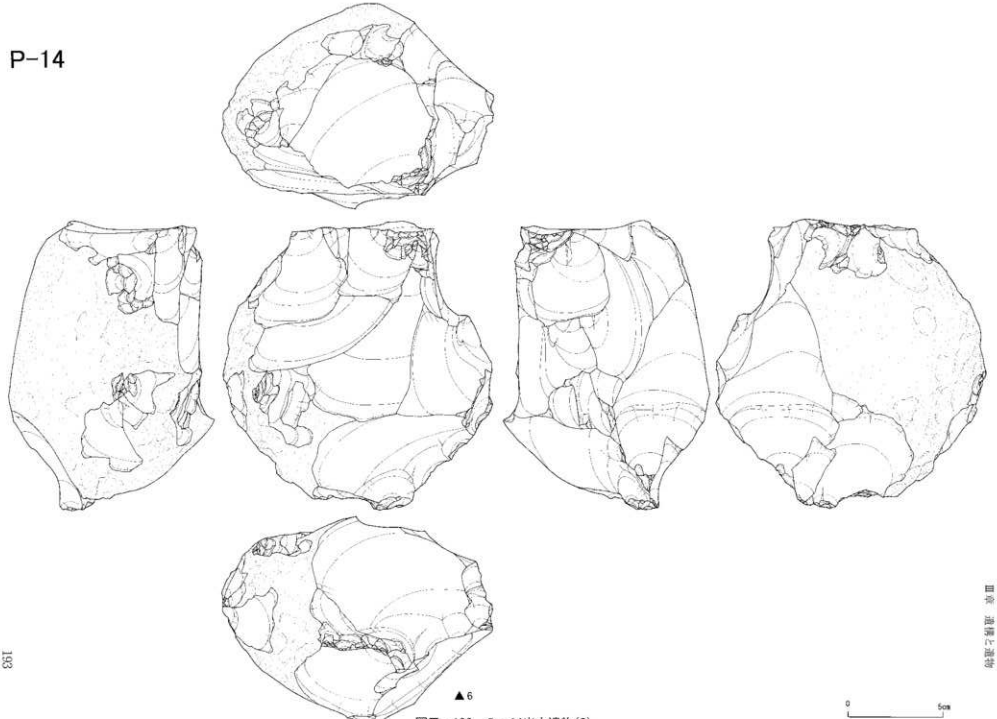
1は体部～底部にかけて復元できたもの。2は口縁部破片で、共にⅡ群b類、下層b式相当のもの。

1は表・内面共に風化が著しい。体部には縦行する単軸絡条体第1類の撚糸文施文後、表面がナデられている。体部はあまり張り出さない。底部は上げ底気味で底面は磨かれている。2はやや外反する口縁。表面の文様が剥落している。 (袖岡)

石 器

3・4は凝灰岩製の偏平打製石器である。擦痕は全体に亘る明瞭なものである。3は周縁に加工がある。4は周縁に加工があまり無く、扁平な礫素材の形状を変更していない。5は砂岩製のたたき石である。長軸の下端に敲打痕がみられる。6は頁岩製の石核。背面を平坦に整形し、そこから主に剥離を行なうもの。最終形態では階段状の剥離が発生している。 (佐藤)

P−14



図Ⅲ−132　P−14出土遺物(2)

Ｐ－17出土　掲載遺物（図Ⅲ－130　図版123）

土　器

１ａ、ｂは破片でⅡ群ｂ類、下層ｂ式相当。隆帯を持たず、横走する２本の沈線の間に竹管状工具で斜位の刺突が加えられている。口縁部と体部には単軸絡条体第１類の撚糸文が縦行している。

（袖岡）

Ｐ－19　掲載遺物（図Ⅲ－130　図版123）

石　器

１は安山岩製の北海道式石冠である。機能部から鉢巻状の作り出しにかけて、使用の際の敲打によると考える剥離痕がある。（佐藤）

Ｐ－20出土　掲載遺物（図Ⅲ－133　図版123）

土　器・土製品

１～５は破片、１・２はⅡ群ｂ類で下層ｂ式相当、３～５はⅢ群ａ類、サイベ沢Ⅶ式相当。

１は口縁部破片。単節斜行縄文が施されている。２は隆帯を持つもの。隆帯上と隆帯直下に沈線が施されている。表面の風化が著しい。

３は波状口縁の突起部。無文地に細い貼付が施されている。突起頂部の貼付上には爪による刺突が加えられる。４は縄文地に沈線が施されているもの、５は結節のある縄文地に爪による刺突が加えられた細い貼付を持つ。７は土偶。土坑覆土から出土した上半部（７ａ）と、12Ｙ区から出土した下半部（７ｂ）は同一個体と考えられるもの。腕の付け根部分、肩から脇に貫通する細い空洞がある。文様は２本一組の撚糸によって施されている。胸に貼付の痕跡がみられ、剥落している。（袖岡）

石　器

６は頁岩製のＲフレイクである。不定形で左側縁に不規則な剥離がある。（佐藤）

Ｐ－23出土　掲載遺物（図Ⅲ－133　図版123）

土　器

１は復元したものでⅡ群ｂ類。小型で口径と底径の差が無い円筒形。口縁はわずかに外反、附加条文が口縁部より３㎝前後下部まで斜位に施文、体部では縦行気味に重複して施されている。底部は平坦で、縄文が施されている。（袖岡）

石　器

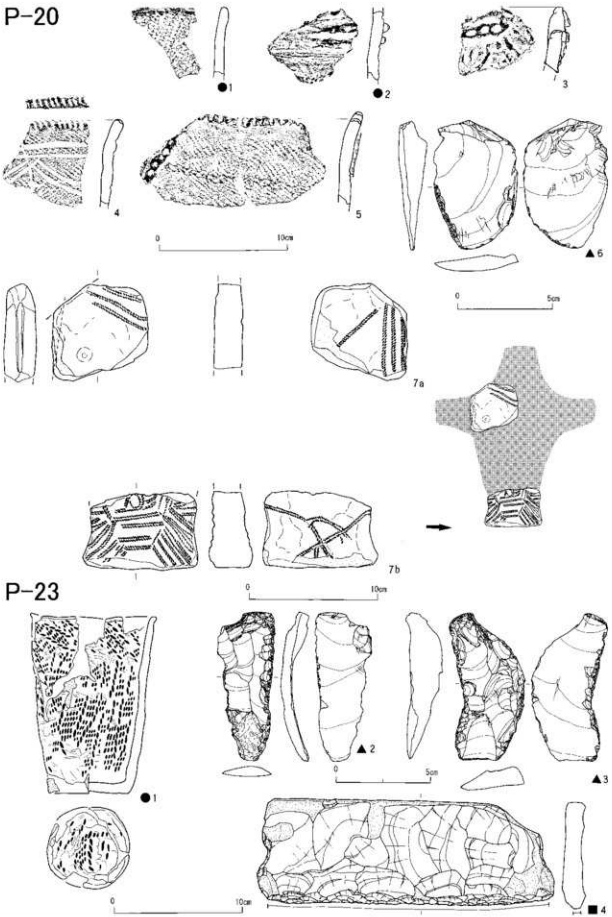
２・３は頁岩製のスクレイパーである。縦長のものである。２は片側縁に直線的で連続的な調整剥離がみられるものである。３は片側縁に内湾する連続的な調整剥離がみられるものである。（佐藤）

４は扁平打製石器で凝灰岩製。縦長で扁平な礫を用い、長軸方向の端部に抉りと、片面と側縁の１辺の両面に調整が加えられている。擦り面の幅は狭い。（袖岡）

Ｐ－24出土　掲載遺物（図Ⅲ－134　図版125）

土　器

１はⅡ群ｂ類の復元土器。小型で口径と底径の差があまり無い、円筒形のもの。隆帯を持ち、隆帯の上下に沈線が施されている。口縁部と体部には単軸絡条体第１種の撚糸文が斜行気味に施されている。底部は上げ底、底面は磨かれている。下層ｂ式相当。（袖岡）



図Ⅲ−133　P−20・23出土遺物

石　器

2 は砂岩製の偏平打製石器である。擦痕は全体に亘る明瞭なものである。周縁に加工がある。

（佐藤）

Ｐ－28出土　掲載遺物（図Ⅲ－134　図版125）

土　器

1 はⅣ群ａ類の同一個体破片。波状口縁で底部は平胆、胎土には砂礫が含まれている。　（袖岡）

Ｐ－29出土　掲載遺物（図Ⅲ－134　図版125）

土　器

1 は復元したものでⅣ群ａ類。小形で、無文地に沈線が施されている。トリサキ式相当。

2 はⅡ群ｂ類の破片。単軸絡条体第１種の撚糸文が縦行する。下層ｂ式相当。　（袖岡）

Ｐ－33出土　掲載遺物（図Ⅲ－134　図版125）

土　器

1 は完形で出土したもので、Ⅱ群ｂ類。小型で口径と底径の差があまり無い、円筒形のもの。口唇がわずかに外反、羽状を構成すると思われる単節縄文地が体部上半に施され、体部中央よりその下には不整綾絡文が施され、その後に全体にナデられている。底面は上げ底で滑沢に磨かれている。内面も磨かれている。下層ｂ式相当。　（袖岡）

石　器

2 は頁岩製のフレイクである。加工や使用痕はない。　（佐藤）

Ｐ－37出土　掲載遺物（図Ⅲ－134　図版125）

土　器

1 はⅡ群ｂ類。体部破片で、多段の不整綾絡文と単軸絡条体第１類の撚糸文が縦行する。下層ｂ式相当。　（袖岡）

石　器

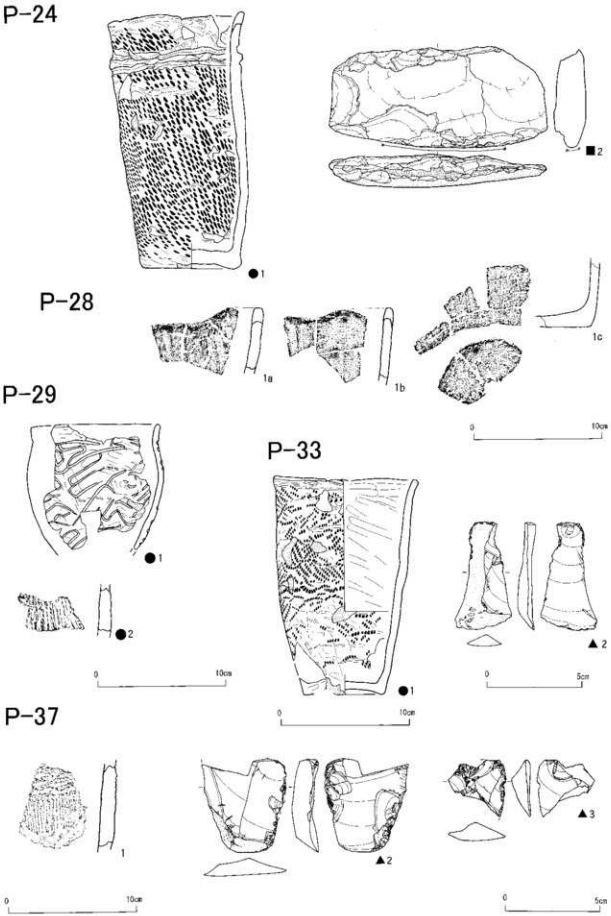
2 は頁岩製のＲフレイクである。不定形で両側縁の表・裏面に不規則な剥離がある。**3** は頁岩製のＵフレイクである。側縁の一部に微細剥離痕がみられる。　（佐藤）

Ｐ－38出土　掲載遺物（図Ⅲ－135　図版125）

土　器

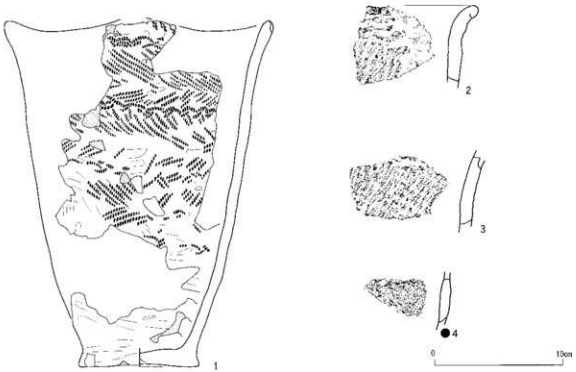
1 は復元、Ⅲ群ａ類のもの。波状口縁で結束のある羽状縄文が施されている。サイベ沢Ⅶ式相当。**2**～**4** まで破片、**2**・**3** はⅡ群ｂ類、**4** はⅢ群ａ類。

2 は口縁部が強く外反するもの。口唇下に２条の不整綾絡文が施され、その下にやや斜行する撚り戻しの縄文が施されている。**3** は体部破片。体部に撚り戻しの縄文が施されている。共に下層ｂ式相当。**4** は表面の摩滅が著しい。サイベ沢Ⅶ式相当。　（袖岡）

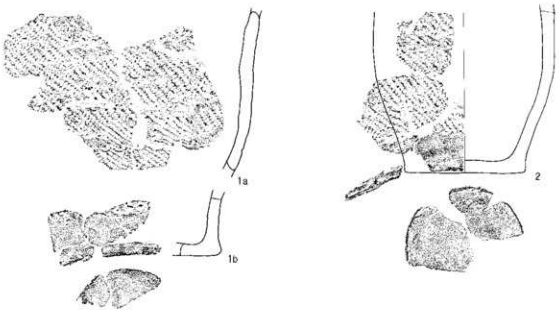


図Ⅲ−134　P−24・28・29・33・37出土遺物

P−38



P−39



TP−2

図Ⅲ−135　P−38・39・TP−2出土遺物

Ｐ－39出土　掲載遺物（図Ⅲ－135　図版125）

土　器

1はⅢ群ａ類の同一個体破片。胴部に結節のある斜行縄文が施されている。サイベ沢Ⅶ式相当のもの。（袖岡）

(3)　Ｔピット

TP－２出土　掲載遺物（図Ⅲ－135　図版125）

土　器

1は小型で、Ⅳ群ａ類のものと思われる。内傾している口縁に浅い沈線が施されている。胴部はナデミガキにより無文となっている。（袖岡）

(4)　焼土跡

Ｆ－１出土　掲載遺物（図Ⅲ－136　図版126）

土　器

1はⅥ群のもの。深鉢か、壺形の頸部破片。縄文地に沈線が施されている。（袖岡）

Ｆ－９出土　掲載遺物（図Ⅲ－136　図版126）

土　器

1は大型で深鉢形のもの。波状口縁の波頂部を欠損している。突起下部に縄線と、口唇に縄の刻みが施されている。胴部は結節のある縄文のみが施文されている。サイベ沢Ⅶ式相当。（袖岡）

Ｆ－31出土　掲載遺物（図Ⅲ－137　図版126）

石　器

1は頁岩製のつまみ付きナイフである。縦長のもので、片面のみに調整を行うものである。**2**は頁岩製の石核の接合資料である。原石の形状を変更していないもの。主に自然面を打面とする。**2**から**2－2～4**を剥離し、最終形態は**2－1**となる。（佐藤）

Ｆ－34出土　掲載遺物（図Ⅲ－136　図版126）

土　器

1はⅢ群ａ類の口縁部破片。口縁部は外反している。口唇には縄の刻み、胴部には結節のある複節縄文が施されている。サイベ沢Ⅶ式相当。（袖岡）

Ｆ－59出土　掲載遺物（図Ⅲ－138　図版126）

石　器

1は安山岩製の台石・石皿である。片面に擦痕がみられるものである。擦面はほぼ平坦である。（佐藤）

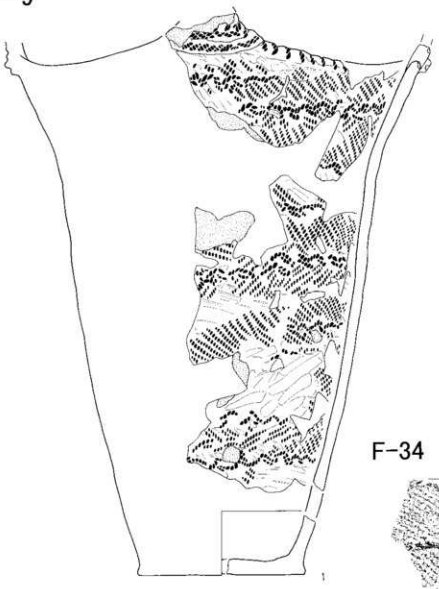
Ｆ－60出土　掲載遺物（図Ⅲ－138　図版126）

土　器

1・2は破片でⅣ群ａ類のもの。1は口縁部破片。口唇直下に沈線が施されている。**2**は胴部破片。

F-1

F-9

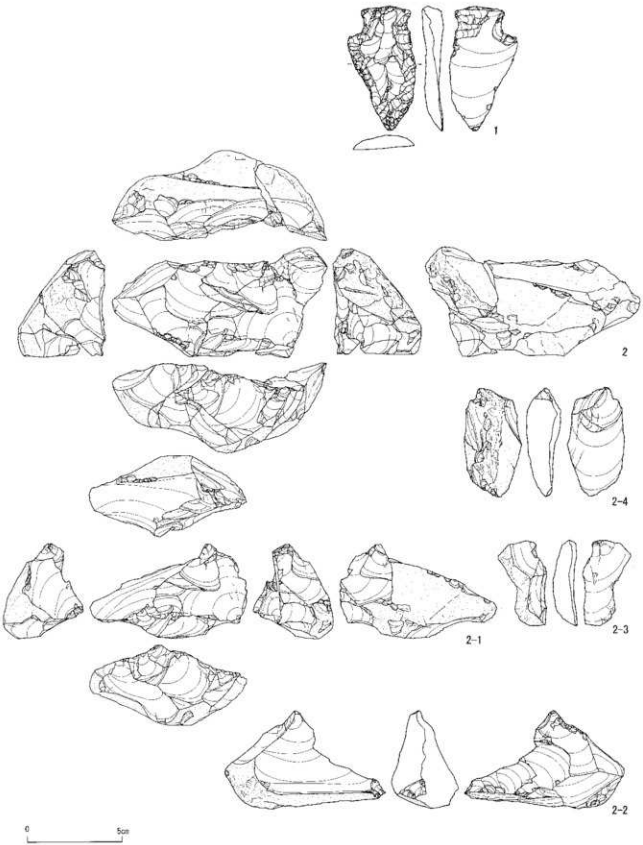


F-34

0　10cm

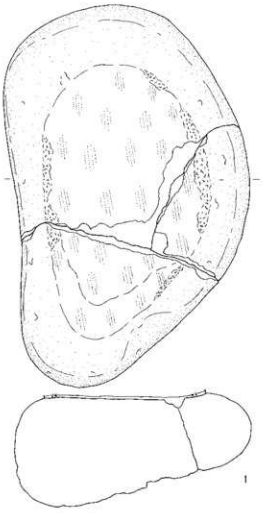
図Ⅲ－136　F－1・9・34出土遺物

F-31

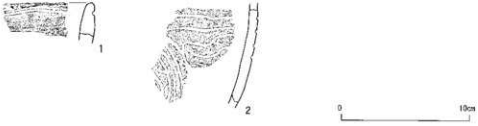


図Ⅲ－137　F－31出土遺物

F-59



F-60



図Ⅲ－138　F －59・60出土遺物

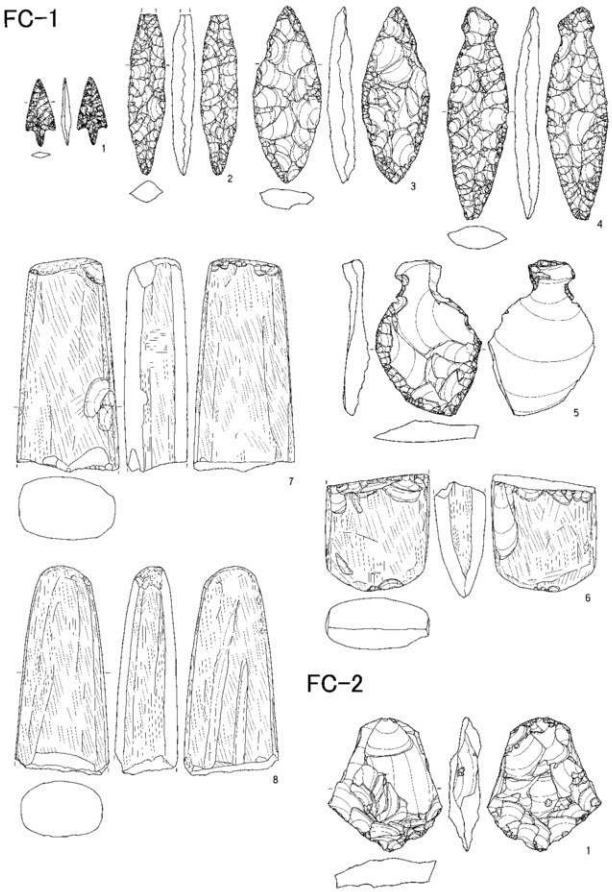
無文地に沈線が施されているもの。　（袖岡）

(5) フレイク・チップ集中

FC－1 出土　掲載遺物（図Ⅲ－139　図版127）

石　器

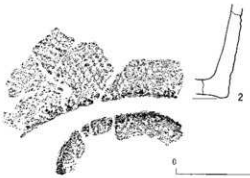
1 は頁岩製の石鏃である。三角形有形鏃である。**2**・**3** は頁岩製の石槍である。**2** は柳葉形のもので、**3** は木葉形のものである。**4**・**5** は頁岩製のつまみ付きナイフである。縦長のものである。**4** は両面全体に調整を行うものである。**5** は片面のみに調整を行うものである。**6**～**8** は緑色泥岩製の石斧である。**6** は刃部のみの磨製石斧片である。**7**・**8** は基部が残る磨製石斧である。　（佐藤）



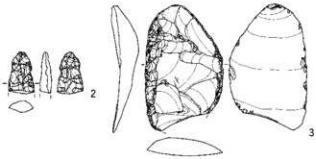
図Ⅲ−139　FC−1・2出土遺物

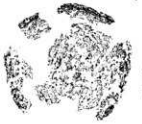
FC-3

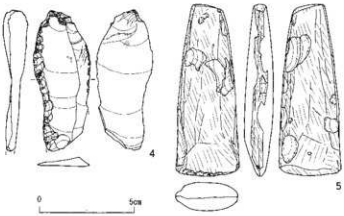
FC-8

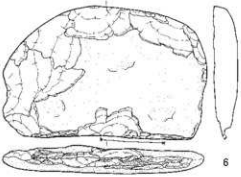


FC-9









FC－9出土　黒曜石フレイクの計測値と集計

資源	点数
有り	65
無し	157
合計	222

データ	集計
最長/平均 (cm)	1.51
最長/最大値 (cm)	3.96
最長/最小値 (cm)	0.32
幅/平均 (cm)	1.01
幅/最大値 (cm)	2.51
幅/最小値 (cm)	0.19
厚さ/平均 (cm)	0.28
厚さ/最大値 (cm)	0.95
厚さ/最小値(cm)	0.03
重さ/平均 (g)	0.49
重さ/最大値 (g)	4.30
重さ/最小値 (g)	0.00

長幅比/平均	1:0.67

接合	研磨有り	研磨無し	年数
7点接合	3	5	8
5点接合	2	2	4
合計	5	7	12

図Ⅲ－140　FC－3・8・9出土遺物

FC－2出土　掲載遺物（図Ⅲ－140　図版127）

石　器

1は頁岩製の両面調整石器である。木葉形のものである。荒い両面加工により側縁を調整する。調整は下端に集中する。（佐藤）

FC－3出土　掲載遺物（図Ⅲ－140　図版127）

土　器

1はⅥ群のもの。縞縄文が施されている。（袖岡）

FC－8出土　掲載遺物（図Ⅲ－140　図版127）

土　器

1・2はⅡ群ｂ類のもの。1は隆帯を持つ口縁部破片。口縁部と隆帯下部には複節縄文が斜位に施文されている。隆帯上には指先による刺突で爪形の刻みが施文されている。下層ｂ式相当。2は体部に複節縄文が施されている。底部は上げ底、底面には縄文が施されている。下層ｂ式相当。（袖岡）

FC－9出土　掲載遺物（図Ⅲ－140　図版127）

土　器

1は体部下半～底部にかけてのもの。Ⅱ群ｂ類。体部には複節縄文、底部は上げ底、底面には縄文が施されている。内面は磨かれている。下層ｂ式相当。（袖岡）

石　器

2は頁岩製のつまみ付きナイフである。両面全体に調整を行うもので、つまみ部である。3・4は頁岩製のスクレイパーである。3は平行する両側縁に、4は片側縁に内湾する連続的な調整剥離がみられるものである。5は泥岩製の石斧である。両刃の磨製石斧である。6は凝灰岩製の偏平打製石器である。擦痕は一部に摩滅のような痕跡で残る不明瞭なものである。周縁に加工のあるものである。

黒曜石製のフレイクが222点出土しており、計測を行った（図Ⅲ－140）。これらのフレイクは、肉眼観察上では明瞭な違いがなかったため、同一母岩から剥離したものと想定して計測した。

礫面の有るものは65点、無いものは157点である。長さの平均は1.51cm、最大値は3.86cm、最小値は0.32cmである。幅の平均は1.01cm、最大値は2.51cm、最小値は0.19cmである。厚さの平均は0.28cm、最大値は0.96cm、最小値は0.03cmである。重さの平均は0.49ｇで、最大値は4.3ｇ、最小値は0.00（計測不能）である。これらの計測から、遺跡への搬入は礫面が残る小型の礫の状態で持ち込まれたものと考える。さらに、長幅比は1：0.67であり、観察による形状が微細もしくは小型の翼状であることと一致する。これらのことから、遺跡では小型の礫から素材を得て、さらに調整・加工を行ったと考える。また製品は遺跡内では確認できなかったため、遺跡外に持ち出された可能性がある。

接合したものは、折れ接合を含まずに、2点接合したものが8件、3点接合したものが4件の合計12件である。2点接合したもののうち、礫面が有るものが3件、礫面の無いものが5件である。3点接合したもののうち、礫面が有るものが2件、礫面の無いものが2件である。件数は少ないものの、これらのことから、同一母岩から剥離した可能性が高い。（佐藤）

(6) 埋設土器

埋設土器１　掲載遺物（図Ⅲ－141　図版128）

土　器

１は体部上半～底部にかけてのもの。Ⅱ群ｂ類。単軸絡条体第５類の網目状撚糸文が重複して施されている。下層ｂ式相当。（袖岡）

埋設土器２　掲載遺物（図Ⅲ－141　図版128）

土　器

１は体部上半～底部にかけてのもの。Ⅱ群ｂ類。体部には単節絡条体第１類の撚糸文が縦行している。底面は上げ底である。下層ｂ式相当。（袖岡）

埋設土器３　掲載遺物（図Ⅲ－141　図版128）

土　器

１は体部上半～底部にかけてのもの。Ⅱ群ｂ類。体部には単節絡条体第１類の撚糸文が縦行している。底面は僅かに上げ底、底面には体部と同じ撚糸文が施されている。下層ｂ式相当。（袖岡）

埋設土器４　掲載遺物（図Ⅲ－141　図版128）

土　器

１は体部～底部にかけてのもの。Ⅱ群ｂ類。体部には体部には単節絡条体第１類の撚糸文が縦行している。底面は上げ底、底面は滑沢に磨かれている。下層ｂ式相当。（袖岡）

埋設土器５　掲載遺物（図Ⅲ－142　図版128）

土　器

１は口縁～体部下半にかけてのもの。Ⅱ群ｂ類。口縁は外反し幅広の隆帯に、指頭による刺突が施されている。口縁～隆帯、隆帯の下部５㎝内外のところでは不整綾絡文が多段施文、体部には複節斜縄文が施されている。下層ｂ式相当。（袖岡）

(7) 遺物集中

遺物集中１　掲載遺物（図Ⅲ－142　図版129）

土　器

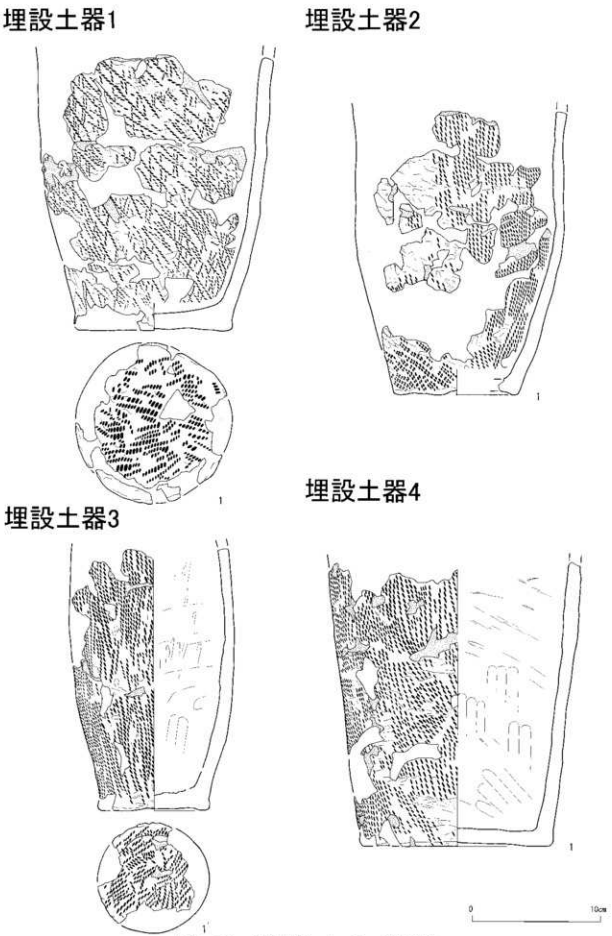
１は体部下半～底部にかけてのもの。Ⅲ群ａ類。結節のある斜行縄文が施されている。サイベ沢Ⅶ式相当。（袖岡）

遺物集中３　掲載遺物（図Ⅲ－143・144　図版129）

土　器

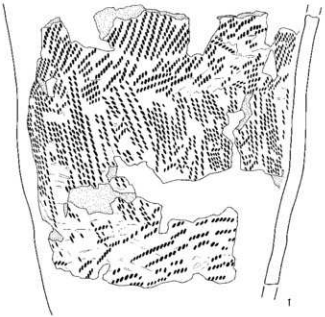
１～４は復元、**５**は破片で、すべてⅢ群ａ類、サイベ沢Ⅶ式相当。

１～３・５は結節のある縄文地に沈線が施されているもの、**４**は縄文のみのもの。１は４波状口縁の突起部を２か所欠損している。残存する２か所は施文が異なり非対称となっている。**２**は小型のもの。胴部が丸く張り出す。**４**は平縁に２個一対の貼付を施し突起部としているもの。（袖岡）

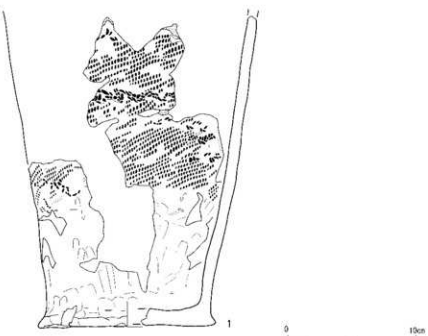


図Ⅲ－141　埋設土器1・2・3・4出土遺物

埋設土器5

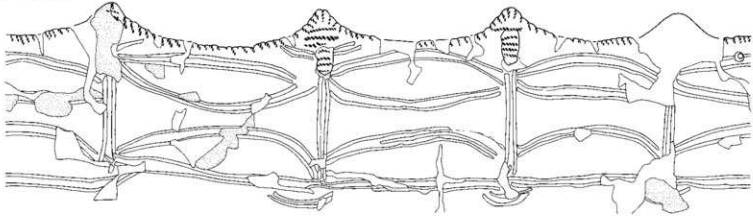


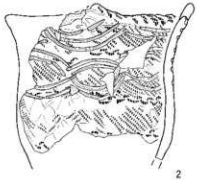
遺物集中1



図Ⅲ－142 埋設土器5・遺物集中1出土遺物

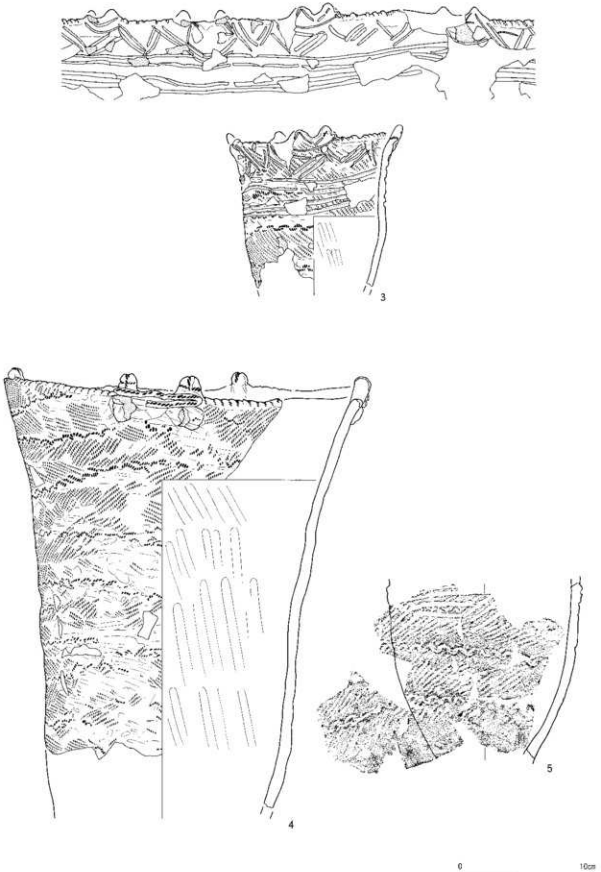
遺物集中3





0　10cm

図Ⅲ－143　遺物集中3出土遺物(1)



図Ⅲ－144 遺物集中３出土遺物(2)

遺物集中４　掲載遺物（図Ⅲ－145～159　図版129～135）

土　器

１～20まで復元したもので、すべてⅡ群ｂ類、下層ｂ式相当。

１～６まで隆帯を持たないもの。

１は幅５㎝前後の口縁部文様帯に単軸絡条体第１種の撚糸文が横走、それより下位に同じ撚糸文を縦行させ、体部の下部10㎝前後のところでは単節斜行縄文が施されている。口縁が僅かに外反、口径と底径の差はあまり無い。底面は上げ底、底面には撚糸文が施されている。２は口縁部文様帯には不整綾絡文が多段施され、体部には単軸絡条体第１類の撚糸文が斜行して施文されている。幅が４㎝前後の狭い口縁部文様帯が強く外反し、体部は底径との差が無い円筒形。底部は上げ底、底面には縄文が施されている。３は口縁部文様帯と体部の中央に不整綾絡文が多段施されているもの。体部には附加条文が施文されている。口縁は文様帯がやや外反、体部下部でやや張り出す。底部は上げ底、底面は縄文施文後に磨かれている。４は口縁部文様帯に単節斜行縄文、体部に単軸絡条体第１種の撚糸文が縦行しているもの。口径と底径の差があまり無い円筒形。底面を欠損している。５は口縁～体部上半にかけ単節縄文、下位に附加条文が縦位に施されている。口縁部がやや外反している。６は附加条文が斜行して施文されている。口縁部が窄まり、体部が張り出している。

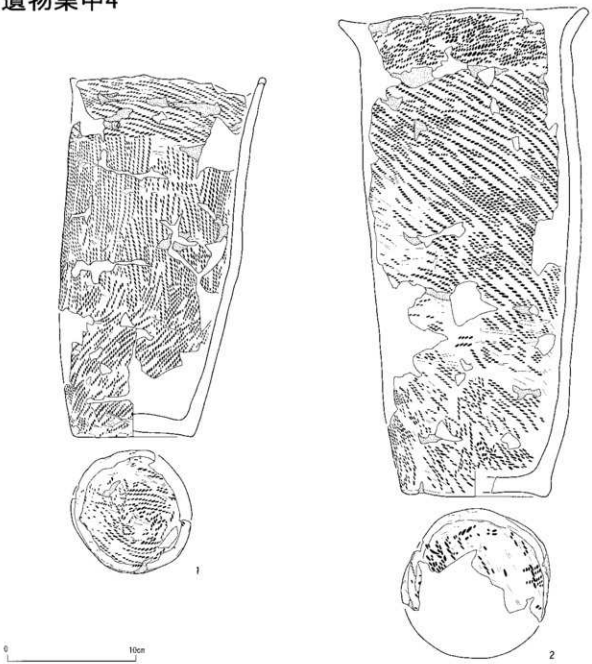
７～15まで隆帯を持つもの。

７～10まで、口頸部文様帯に綾絡文が施されているもの。７はやや小型で、口縁はやや外反、口径と底径の差があまり無い。隆帯上には指頭による刺突が施され、口縁部文様帯と隆帯下部の３㎝前後まで不整綾絡文が施されている。体部には撚り戻しの縄文が施されている。底部は上げ底、底面には縄文が施されている。８は小波状口縁のもの。７と同様、隆帯下部にも不整綾絡文が施され、隆帯上には指頭による刺突が加えられている。体部には複節縄文が施され、内面は磨かれている。９は頸部が窄まっているもの。口縁が外反、隆帯直上で窄まり、体部上半がやや張り出し、胴部下半まで直線的である。隆帯を除き、隆帯下部の２㎝前後のところまで不整綾絡文が施されている。隆帯上には単軸絡条体第１類の撚糸文が縦行している。内面は磨かれているが、繊維痕が目立つ。10は低い隆帯に竹管状工具による連続した刺突が施されているもの。口縁から隆帯まで単軸絡条体第１類の撚糸文が横走、隆帯より下部２㎝前後では不整綾絡文、それより下は単軸絡条体第１類の撚糸文が縦行している。内面は磨かれているが、繊維の痕跡が著しい。11は口縁から胴部下半まで複節縄文が施されている。隆帯は低く、体部との境目は明瞭ではない。隆帯には縄文のほか、指頭による刺突が施されている。内面の調整は丁寧であるが、胎土中の繊維痕が目立つ。12は大型のもの。口縁はやや外反、体部はあまり張り出さない。口頸部文様帯から隆帯下位まで単軸絡条体第５類の重複施文がみられる。隆帯上には縄による刺突と、体部には単軸絡条体第１類の撚糸文が縦行している。内面は磨かれている。

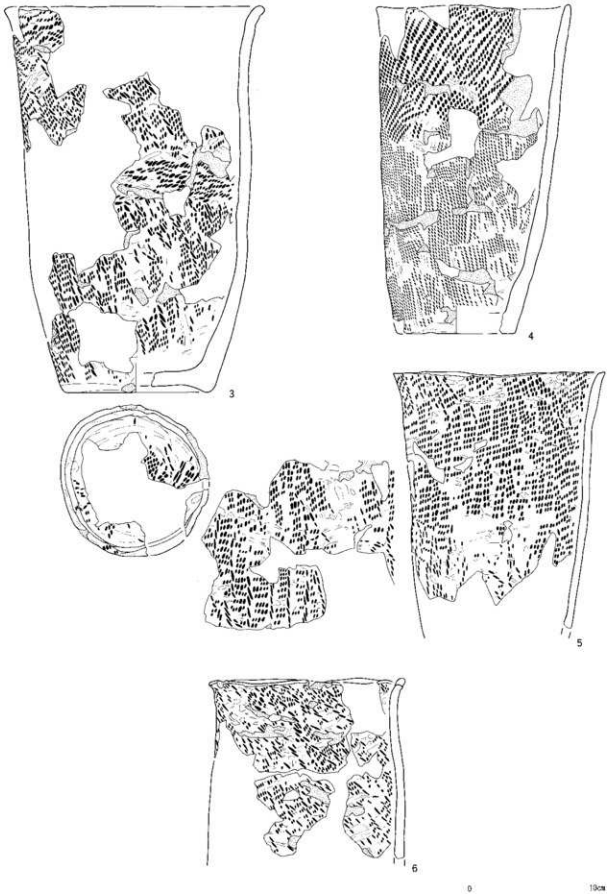
13～15まで沈線が施されているもの。13は口唇部分がやや強く外反、口径に対し器高が高い。口頸部文様帯には斜位の附加条文、低い隆帯の上下には沈線が横走、体部には撚り戻しの原体による縄文と、単軸絡条体第１類の撚糸文かと思われるが、被熱によるものと見られる、表面の風化・赤褐色化が著しい。内面の調整は粗い。14は口縁部文様帯の縄文地に鋸歯状の沈線が施されているもの。隆帯の上下を沈線が横走し、隆帯が突出したようになっている。隆帯には指によるものと見られる刺突が施されている。体部上半には附加条文、下半には撚糸文が施されている。内面は磨かれている。15は撚りの異なる単軸絡条体第１類の斜位の施文によって羽状風になる中央に沈線が横走する。隆帯上には縄の圧痕、体部には複節縄文が施されている。内面はミガキがやや粗く、繊維の痕跡が目立つ。

16は隆帯を持たず、撚糸文地に沈線が施されているもの。口唇には竹管状工具により刺突が施され

遺物集中4

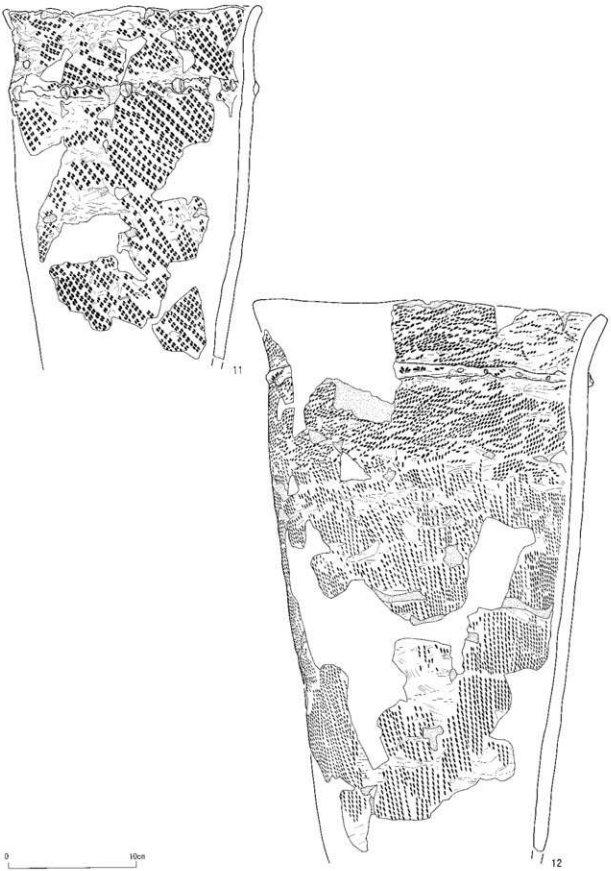


図Ⅲ－145 遺物集中4出土遺物(1)

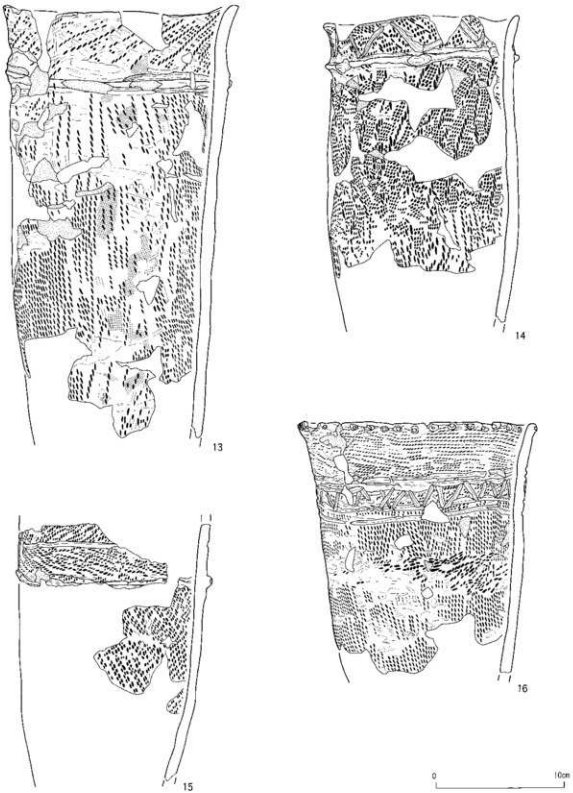


図Ⅲ－146　遺物集中４出土遺物(2)

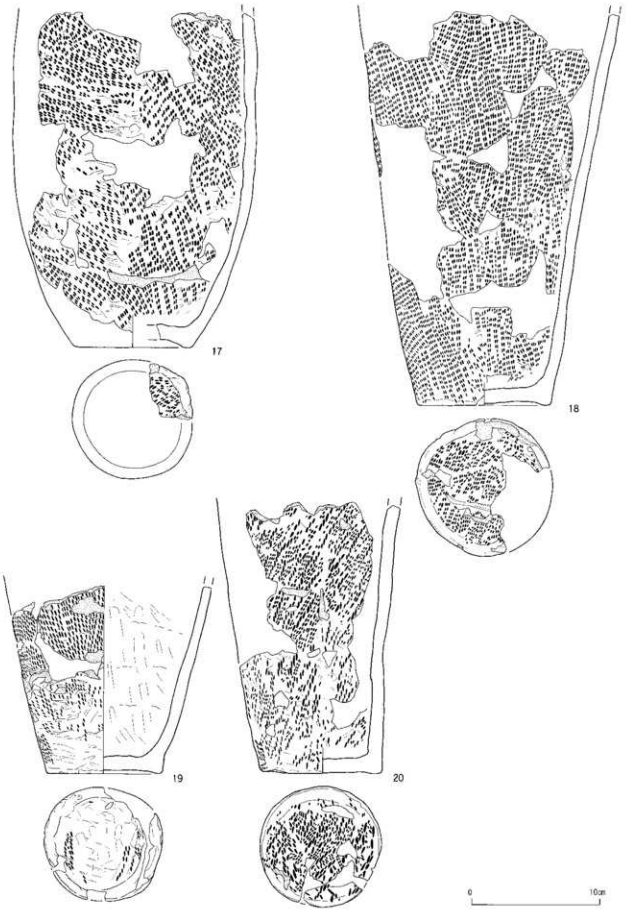
図Ⅲ－147 遺物集中4出土遺物(3)



図Ⅲ－148　遺物集中４出土遺物(4)



図Ⅲ－149 遺物集中4出土遺物(5)

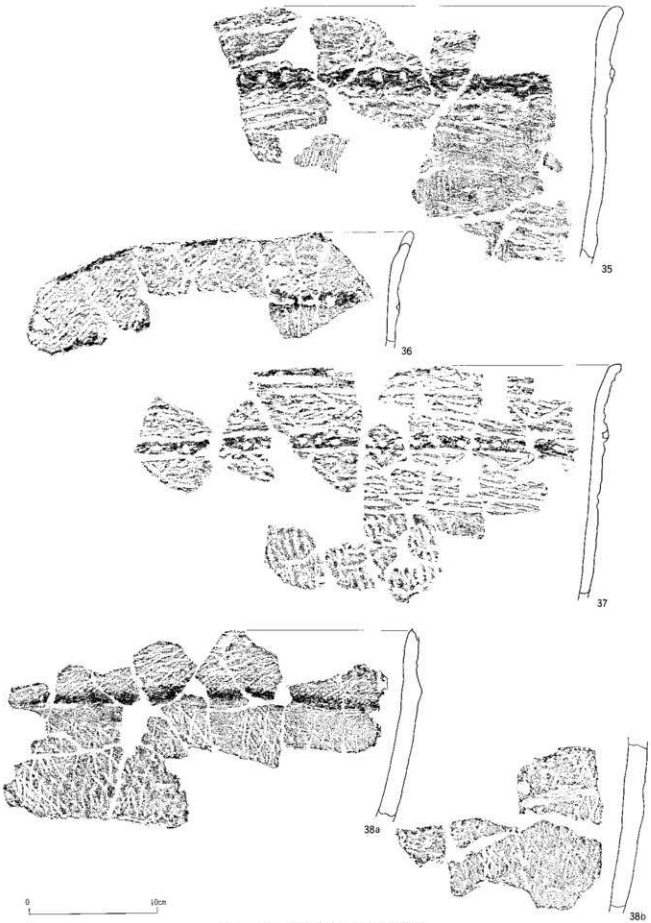


図Ⅲ－150　遺物集中４出土遺物(6)

図Ⅲ－151 遺物集中4出土遺物(7)

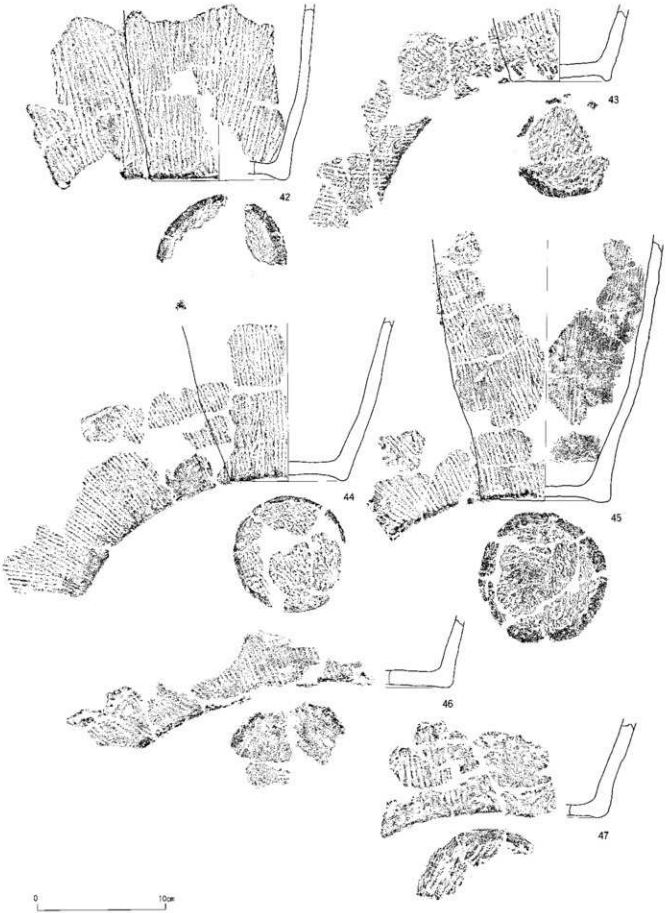
図Ⅲ－152　遺物集中４出土遺物(8)

図Ⅲ－153 遺物集中４出土遺物(9)

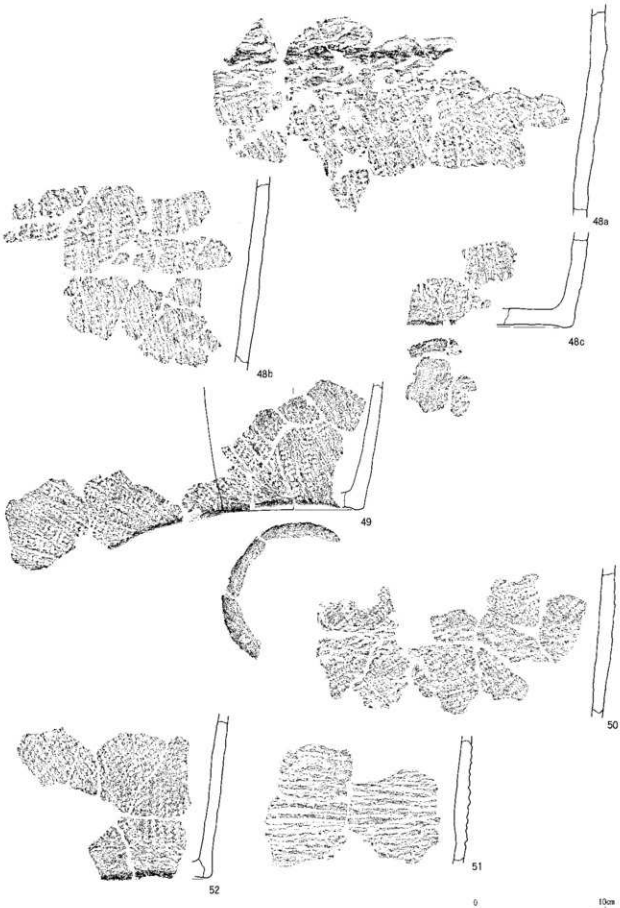


図Ⅲ－154　遺物集中４出土遺物(10)

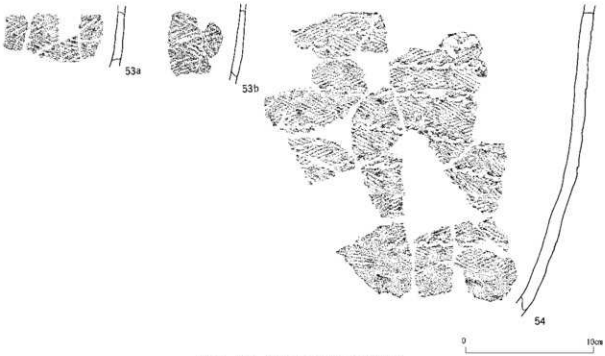
図Ⅲ－155　遺物集中４出土遺物(11)



図Ⅲ－156　遺物集中４出土遺物(12)



図Ⅲ－157 遺物集中4出土遺物(13)



図Ⅲ－158　遺物集中４出土遺物(14)

ている。口頸部文様体は横走する沈線と、横走する沈線間に鋸歯状に施されている沈線により区切られている。口唇～沈線までが単軸絡条体第１類の撚糸文の横走、それより下位は撚糸文の縦行である。体部中央付近には不整綾絡文が施されている。内面は繊維の痕跡が著しい。

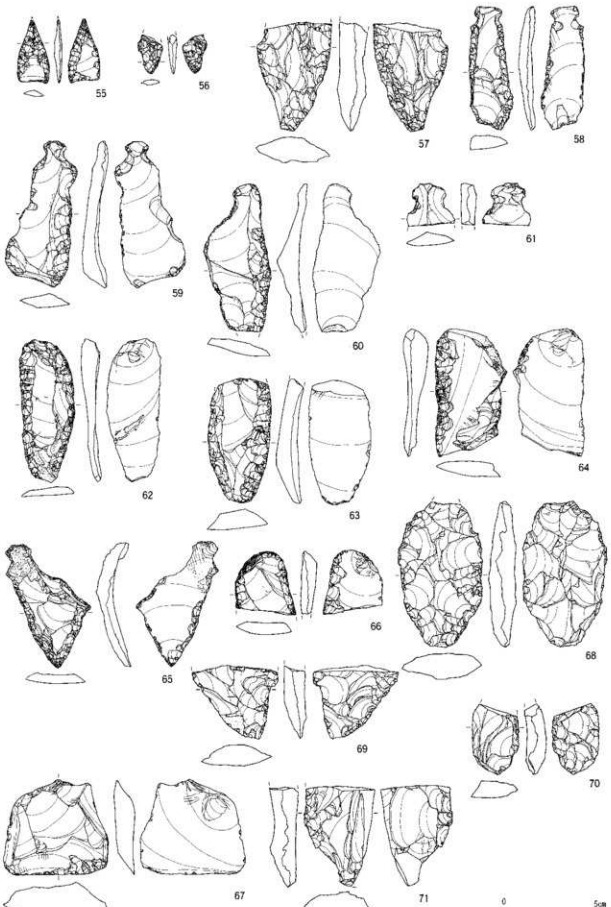
17～20まで、体部から底部にかけて復元できたもの。**17**は体部に複節縄文が施されているもの。底部下半に膨らみがあり、径の小さい底部に向かいやや急角度に窄まるもの。底部は上げ底、底面には縄文が施されている。内面は磨かれている。**18**は体部が張り出さず、底部に向かい直線的になっているもの。体部には複節縄文が縦位に施されている。内面は磨かれている部分が観察されるが、大部分は繊維の痕跡が目立つ。底部は上げ底、底面は縄文が施されている。**19**は体部に単軸絡条体第１類の撚糸文が施されているもの。内面は繊維の痕跡が目立つ。底部は上げ底、底面は縄文施文後、ナデられている。**20**は体部に斜位の附加条文が施されているもの。体部と底部の径に大きな差の無い円筒形。内面は磨かれているが、やや粗い。

21～54まで破片のもの。１～**52**までⅡ群ｂ類、下層ｂ式相当。

21～28まで隆帯を持たず、不整綾絡文が施されているもの。

21・22は幅の狭い口頸部文様帯に不整綾絡文、体部に斜行縄文が施されている。**23ab・24**は幅の狭い口頸部文様帯内に不整綾絡文、体部に附加条文が施されている。**23**は口縁がやや外反し、頸部で括れ、体部上半が張り出している。内面は磨かれている。**25**は口唇から２㎝のところが粗いナデにより無文で、外反している。体部には附加条文と不整綾絡文が施されている。内面の調整は丁寧であるが、胎土には繊維のほか砂が多く含まれ、ざらついている。**26**は小型のもの、**27**は波状口縁でやや外反している。**28**は起伏の弱い波状口縁のものと考えられ、幅の狭い文様帯内に不整綾絡文、体部に複節縄文が施されている。

29は隆帯を持たず、単軸絡条体第１類の撚糸文が施されているもの。口頸部文様体は撚糸文が横走、体部は縦行している。内面は磨かれているが、繊維の痕跡が目立つ。



図Ⅲ－159 遺物集中４出土遺物(15)

30〜38まで、隆帯を持つもの。

30・32は口頸部文様帯に不整綾絡文が施されているもの。隆帯上には指頭による刺突が施されている。内面は磨かれている。31は口頸部に羽状縄文、隆帯には縄の圧痕が施されている。33は体部の上部に条痕が横走している。34は口縁〜体部に単軸絡条体第１類の撚糸文が縦行する。内面は条痕の調整後、磨かれている。35・37は沈線が施されているもの。35は口縁部文様帯に横走する沈線が施されている。内面は磨かれている。表面の風化が著しい。37は隆帯下位まで単軸絡条体第１類と見られる、横走した撚糸文地に沈線、隆帯上には竹管状工具による刺突が施されている。内面は磨かれている。36は低い隆帯上に爪の形が明瞭な、指頭の刺突が施されている。内面は磨かれている。

38は網目状撚糸文が施されているもの。38は体部との境目が不明瞭な隆帯。口縁部には不整綾絡文、体部には単軸絡条体第５類の撚糸文が施されている。胎土には繊維のほか、砂礫が多く含まれている。

40は体部に単軸絡条体第４類の撚糸文、底部にも縄文がみられる。内面は条痕による調整後、磨かれている。

41〜47まで体部〜底部にかけてのもの。41・46は上げ底で底面は磨かれている。内面は磨かれているが、繊維の痕跡が目立つ。42〜45・47は体部に単軸絡条体第１類の撚糸文が縦行、底面の外周５〜８㎜幅を平にし、それより内側に縄文を施し上げ底としている。43は底部付近に不整綾絡文が施されている。45・47の内面は条痕による調整後、磨かれている。

48・49は体部に附加条文が施されているもの。48ａは体部との境目が殆どわからない隆帯様の隆起がある。文様帯内には不整綾絡文が施されている。49は内面が磨かれている。

53はⅠ群ｂ類、東鋼路Ⅳ式相当、54はⅢ群ａ類、サイベ沢Ⅶ式相当。（袖岡）

石　器

55・56は石鏃である。55は頁岩製の三角形鏃で、平基無茎である。56は黒曜石製の有茎鏃の欠損品。凸基の可能性が高い。57は頁岩製の石槍である。木葉形の可能性が高い。58〜61は頁岩製のつまみ付きナイフである。片面のみに調整を行うものである。58・59は側縁が内湾するものである。60は側縁が外湾するもので、刃部には丸みがある。61はつまみ部である。62〜67は頁岩製のスクレイパーである。62・63は平行する両側縁に連続的な調整剥離がみられるものである。66はその可能性がある欠損品。64は片側縁に連続的な調整剥離がみられるものである。65は両側縁への連続的な調整剥離により先端が尖るものである。67は横長のもので、片側縁に直線的で連続的な調整剥離がみられるものである。68〜71は頁岩製の両面調整石器である。68は木葉形のもので、69〜71はその可能性が高いもの。荒い両面加工により側縁を調整する。70は小型のものである。（佐藤）

遺物集中５　掲載遺物（図Ⅲ－160　図版136）

土　器

１・２はⅡ群ｂ類で下層ｂ式相当。

１は低い隆帯を持つもの。口縁～隆帯まで、縄文施文後ナデられている。体部には単節縄文が施されている。２は底部で上げ底、底面には縄文が施されている。（袖岡）

遺物集中６　掲載遺物（図Ⅲ－160　図版136）

土　器

１はⅣ群ａ類のもの。口縁が外反、胴部には無節の縄文が施されている。（袖岡）

石　器

２は頁岩製のつまみ付きナイフである。つまみ部のみで、全体の形状と調整は不明である。（佐藤）

遺物集中７　掲載遺物（図Ⅲ－160　図版136）

土　器

１はⅡ群ｂ類、下層ｂ式相当。口縁がやや外反し、単軸絡条体第１類の撚糸文の施文方向で口頸部文様体と体部が分けられている。底部は上げ底、内面調整は粗く、繊維の剥落痕が目立つ。（袖岡）

遺物集中８　掲載遺物（図Ⅲ－161　図版136）

土　器

１はⅡ群ｂ類、下層ｂ式相当。口縁がやや外反し、隆帯には爪の刺突が見られる。文様帯には沈線が施されている。隆帯より下３㎝前後には不整絞絡文、体部には単節縄文が施されている。（袖岡）

石　器

２は頁岩製の石槍である。木葉形の可能性が高い、欠損しているもの。３は頁岩製の両面調整石器である。木葉形のもので、荒い両面加工により側縁を調整する。（佐藤）

(8) 柱穴状の小土坑

SP－21　掲載遺物（図Ⅲ－161　図版136）

石　器

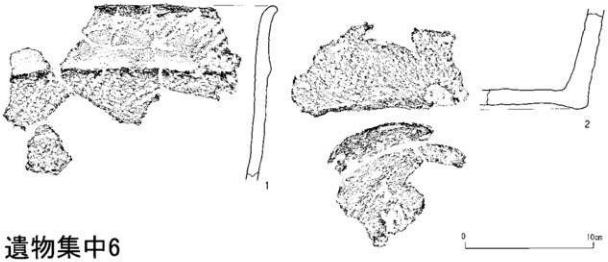
１は頁岩製のつまみ付きナイフである。縦長のもので、片面のみに調整を行うものである。側縁が外湾するものである。（佐藤）

SP－149　掲載遺物（図Ⅲ－161　図版136）

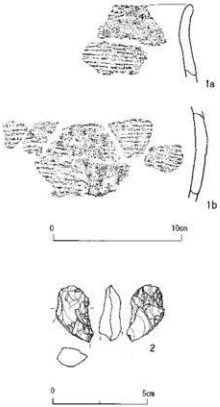
土　器

１はⅢ群ａ類、サイベ沢Ⅶ式相当。縄文地に貼付文と、貼付上にも縄文が施されている。（袖岡）

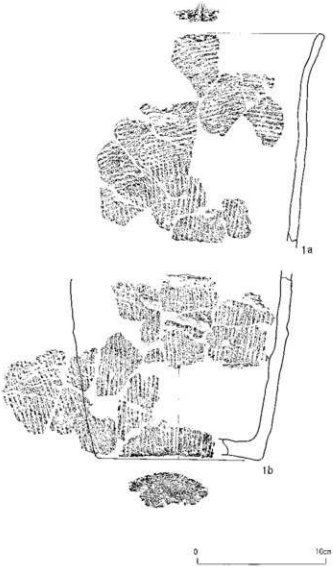
遺物集中5



遺物集中6

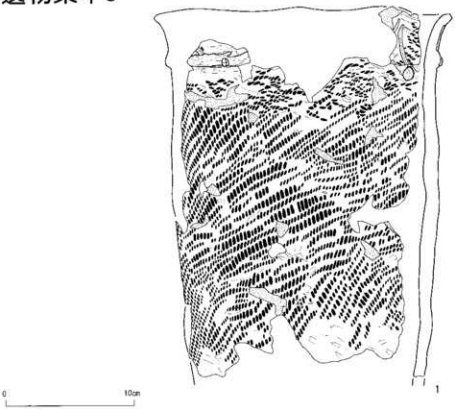


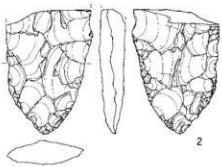
遺物集中7

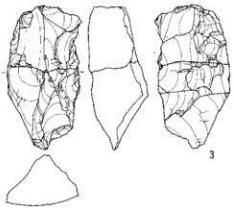


図Ⅲ－160　遺物集中５・６・７出土遺物

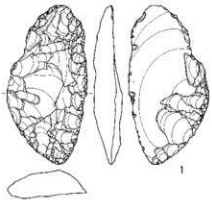
遺物集中8



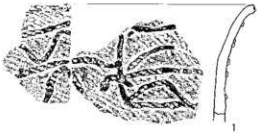




SP−21



SP−149



0　5cm　　0　10cm

図Ⅲ−161　遺物集中８・SP−21・149出土遺物

3．包含層出土の遺物

(1)　土　器

包含層出土の土器は全体で49,585点である。層位別に見ていくと最も多いのは遺物包含層であるⅢ層で、35,484点である。次いで、Ⅱ層からの出土が10,390点、Ⅰ層2,279点、Ⅳ層428点、Ⅴ層25点、撹乱・その他979点である。Ⅰ層・Ⅱ層から出土が多いのは、植林による撹乱と考えられる。

分類毎に見ていくと、Ⅱ群ｂ類が最も多く、38,010点出土している。以下はⅢ群ａ類、8,670点、Ⅵ群1,426点、Ⅳ群ａ類1,242点、Ⅰ群ａ類143点、Ⅰ群ｂ類72点、Ⅴ群８点、土製品11点の出土である。

Ⅰ群土器

Ⅰ群ａ類（図Ⅲ－167　図版139）

Ⅰ群ａ類に相当するものは143点出土している。分布を見ていくと、調査区中央の沢状地形を境に北東側と南西側に分かれるが、多いのは調査区南西側、縄文時代中期前半の遺構が集中するところである。出土層位を見ていくと、Ⅲ層からのものが殆どで、本来この遺物が包含されていると考えるⅣ層～Ⅴ層上面からは２点のみである。縄文時代中期前半の住居跡の構築などで、遺物が撹乱を受けⅢ層中から出土していることが考えられる。

復元個体が得られず、破片も小片で全体的に量が少ないため、文様・器形の全容を掴むのは困難であるが、断片的ながら次の特徴が挙げられる。①口縁部に低い隆帯があること、②沈線様の浅い文様、調整あるいは文様効果のある条痕が認められること、③無文のものがあること、④乳房状尖底土器と平底のものがあること、⑤繊維を含まず砂が含まれている胎土である、の５点である。大沼忠春氏にこの土器を見て頂いたところ、松前町の高野遺跡Ⅰ群土器（松前町郷土資料館　1985）に相当するものとご教示頂いた。縄文時代早期前半のなかでも虎杖浜式併行ではないかと思われる。

12は口縁部。口唇から２㎝下に低い隆帯があり、口唇と隆帯間を隆帯が縦方向に施されている。貼付の間には先端の細い工具で縦・斜方向の沈線様の浅い文様が施されている。口唇は角形で、縦の貼付を含む断面形は高野Ⅰ群土器と似る。12ａの器表面の条痕は幅広で文様効果をもつ。内面は粗く調整されている。**13**・**14**・**15**は無文の口縁部。**16**・**17**は無文の体部。**18**・**19**は無文で乳房状の尖底部。共に砂を多く含んでいる。**20**～**24**まで無文で平底のもの。**20**は内面に横方向の調整が見られ、**21**は表面に縦方向の調整が施されている。

Ⅱ群土器

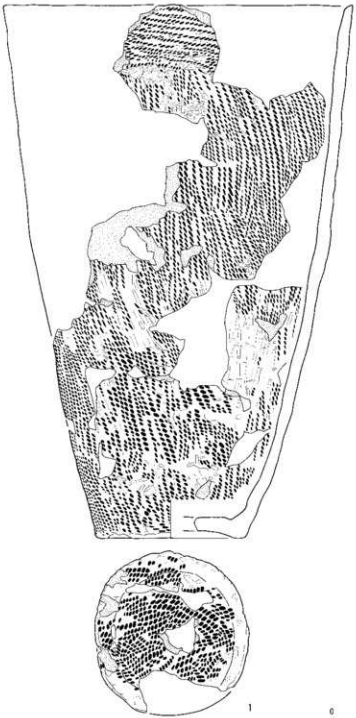
Ⅱ群ｂ類（図Ⅲ－162～164・168～176　図版137～143）

Ⅱ群ｂ類土器は30,810点出土している。調査区の沢状地形を挟んで北側、縄文時代前期後半の遺構分布と重なる。概ね円筒土器下層ｂ式のもので、下層ｃ・ｄ１・ｄ２式に相当する破片が少量出土した。

調査区から出土したⅡ群ｂ類は文様帯・体部文様・底部の形状・底面の文様及び調整・内面調整・肉眼で観察できる胎土の混入物について、巻末の一覧表に付した。

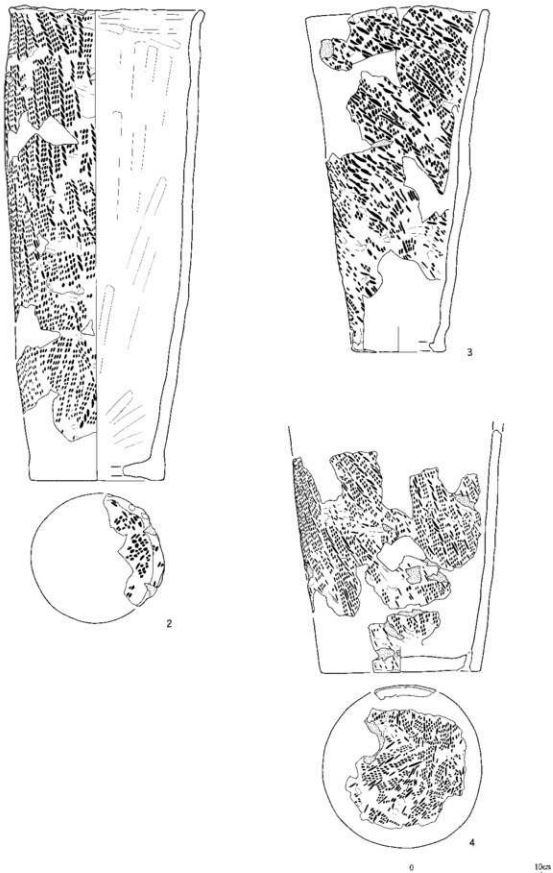
復元土器（図Ⅲ－162～164　図版137・138）下層ｂ式相当。

1は口縁部文様体に単軸絡条体第１類の撚糸文が横走、体部は同じ撚糸文が縦行している。口縁は直立気味、底部は上げ底、底面は縄文が施されている。内面は磨かれている。**2**は口縁～体部まで、附加条文が縦行しているもの。体部下半には複節縄文が施されている。口唇部が僅かに外反、頸部が



図Ⅲ－162　包含層出土の土器(1)

やや窄まり、体部は張り出さず、器高が高い。底部は上げ底、底面には縄文が施され、内面は磨かれている。**3・4**は附加条文が斜行して施文されているもの。**3**は小形のもの。やや波を打つ平縁。口径に対し器高が高い。**4**は底面にも縄文が施されている。内面は磨かれているが、やや粗い。**5・6**は体部に単軸絡条体第1類の撚糸文が施されているもの。**5**は体部に単軸絡条体第1類の撚糸文が斜行気味に施され、その表面がナデミガキにより節が不明瞭になっているもの。体部下半～底面との境が顕著である。底部は上げ底、底面は縄文施文後に磨かれている。**6**は一部に不整綾絡文が観察できる。内面には胎土に含まれている繊維の痕跡が目立つ。**7**は体部に複節縄文が施されているもの。底



図Ⅲ－163　包含層出土の土器(2)

図Ⅲ－164　包含層出土の土器(3)

部は上げ底と思われ、底面には縄文が施されている。内面は滑沢に磨かれている。

破片のもの（図Ⅲ－168～176　図版139～143）

隆帯を持たないもの（図Ⅲ－168）下層ｂ式相当。

25～29まで隆帯を持たず、口頸部文様帯に不整綾絡文が施されているもの。

25は幅の狭い口頸部文様帯に不整綾絡文、体部に附加条文が施されている。口縁は外反、底部は上げ底、底面には縄文が施されている。内面は磨かれているが、胎土に含まれている繊維の痕跡が目立つ。**26**は幅の狭い口頸部文様帯に不整綾絡文、体部に単節斜行縄文が施されているもの。口縁は直立気味である。**27**は波状口縁で強く外反している。**28・29**は体部に撚り戻しの縄文が施されているもの。**28**は口縁部がやや外反している。内面は磨かれている。29ｂは口唇に指頭の痕跡が観察できる。内面は胎土中に含まれている繊維の痕跡が目立つ。

30・31は縄文の施文方向を変えて口頸部文様帯を施文しているもの。

30は口縁部がやや外反し、口唇から下へ４㎝ほどの狭い幅で複節縄文が斜位に施され、体部には同じ縄文が縦位に施されている。**31**は口縁部文様帯に撚り戻しの縄文が斜位に施されている。

32は小型のもので、複節縄文が施されているもの。**33**はやや外反する口縁で、波状のもの。単節縄文地に網目状撚糸文が施されている。内面は磨かれている**34**は小型のもので波状口縁のもの。単軸絡条体第１類の撚糸文が横走して施文されている。内面は胎土中に含まれている繊維の痕跡が目立つ。**35**は外反する口縁部に単節斜行縄文が施されているもの。内面は磨かれている。

36～40まで、主に単軸絡条体第１類の撚糸文によって文様が施されているもの。

36は幅の狭い口頸部文様帯に撚糸文が横走して施文されている。**37**には口唇直下に不整綾絡文が施されている。**38**は幅の狭い文様帯に撚糸文が横走している。内面は胎土に含まれている繊維の痕跡が目立つ。**39**は波状口縁のものと考えられる。内面は磨かれている。

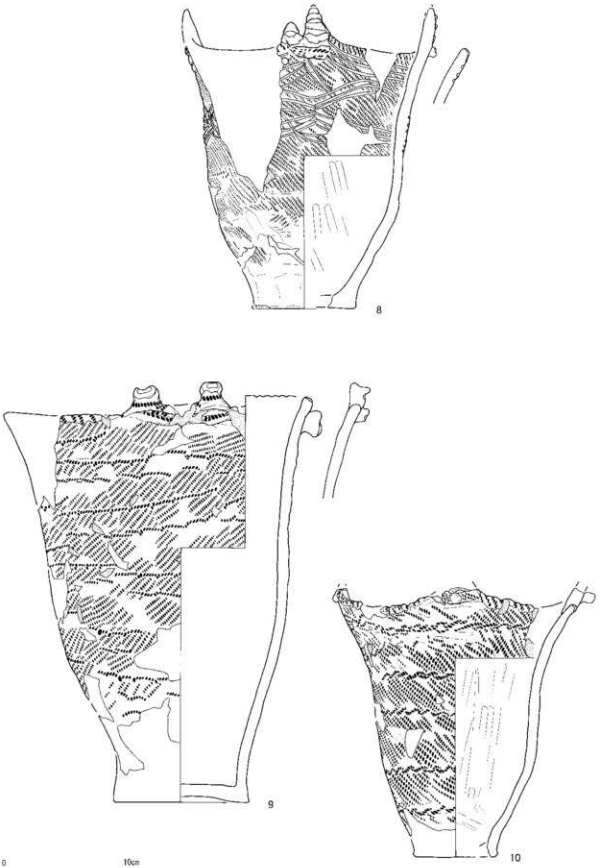
隆帯をもつもの（図Ⅲ－169）下層ｂ式相当。

41～44は口縁部文様帯に不整綾絡文が施されているもの。**41**は波状口縁のもの。口縁はやや外反し、体部が張り出している。口頸部文様帯には不整綾絡文が施され、体部には複節縄文が施文されている。**42**は内面が磨かれている。**43**は体部に単節縄文が縦行して施されている。内面は胎土に含まれている繊維の痕跡が顕著である。**44**は縦行する撚糸文地に綾絡文が施されている。

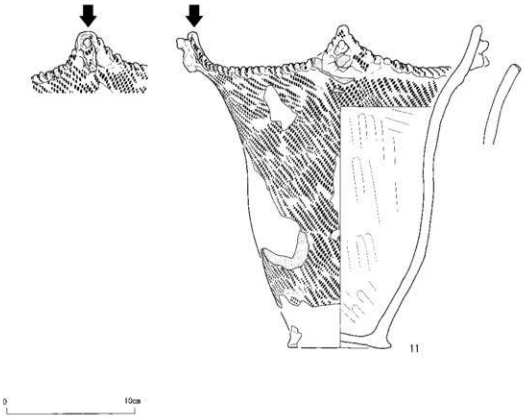
45は単節の縄文地に撚糸が不規則に施文されている。内面は磨かれている。**46**は縄の圧痕が施されている。**47・48**は単軸絡条体第１類の撚糸文が横走しているもの。**47**は低い隆帯で内面は滑沢に磨かれている。**49・50**は口頸部文様帯に条痕文が横走しているもの。**49**は体部に複節縄文が施されている。内面は繊維の痕跡が目立つ。**50**は体部に単軸絡条体第１類の撚糸文が施文されている。胎土には繊維のほか砂も含まれており、内面の調整は丁寧であるが、ざらざらしている。

隆帯を持ち、隆帯上に刺突が施されているもの（図Ⅲ－170）下層ｂ式相当。

51は直立気味の口縁で、隆帯下部まで不整綾絡文が施されている。隆帯上には縄による刻みと、体部には附加条文が施されている。**52**は隆帯上に縄端による刺突が施されている。**53**は棒状工具による刺突、**54**は爪による刺突が施されている。**55**は隆帯下部まで不整綾絡文が施され、隆帯上には縄端による刺突が施されている。体部には撚り戻しによる縄文が施されている。**56**は隆帯上に爪の刺突、体部には附加条文が施されている。内面は磨かれている。**57**は口頸部文様帯に複節縄文、隆帯上には爪



図Ⅲ－165　包含層出土の土器(4)



図Ⅲ－166　包含層出土の土器(5)

によるものと思われる刺突が施文されている。**58**は縄による刻みが施されている。

59・60は低い隆帯に爪による刺突が施されているもの。**59**には単節縄文、**60**には撚糸文が施されている。**61**は小型のものと思われ、体部との境が不明瞭な隆帯に、竹管状工具による連続し、多段の刺突が施されている。**62**は低い隆帯上に棒状工具により斜方向からの刺突が施されているもの。撚糸文が縦・横にあるが、深く施文されているのは横方向である。内面は磨かれている。**63・64**は複節縄文地で低い隆帯上に、縄による刻みが施されているもの。共に内面は胎土中に含まれている繊維の痕跡が著しい。

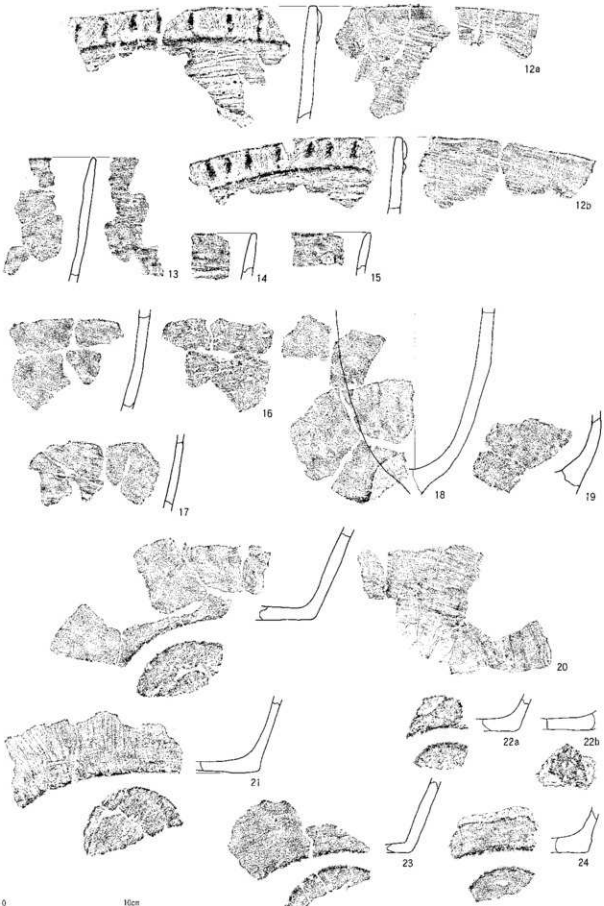
隆帯を持ち沈線が施されているもの（図Ⅲ－171）下層ｂ式相当。

65は口縁部文様帯に鋸歯状の沈線が施されているもの。不整綾絡文が隆帯下位まで施され、口唇直下と隆帯の上下、隆帯下位の不整綾絡文の下限に横走する沈線と、口唇から隆帯間、隆帯直下から不整綾絡文の下限の沈線間に鋸歯状沈線が施文されている。体部には附加条文、内面は磨かれている。

66・67は竹管状工具による刺突が施されているもの。**66**は口唇・隆帯・体部に刺突が施されている。口頸部文様帯には不整綾絡文が施文され、隆帯下部に２条の沈線が横走、この沈線間に鋸歯状の沈線が施されている。

68・69は口頸部文様帯の綾絡縄文地に横走する沈線と、隆帯には指頭による刺突が施されているもの。**69**は隆帯に刺突がある。

70・71は口頸部文様帯が複節縄文、隆帯の上下に横走する沈線が施されているもの。**71**は鋸歯状の沈線が施されている。共に口縁部は外反している。



図Ⅲ－167　包含層出土の土器(6)

口頸部文様帯の区画に沈線が施されているもの（図Ⅲ－172－73～76）下層ｂ式相当。

73は波状口縁のものとみられる。口頸部文様帯に不整綾絡文があり、上下にこれを区画した沈線が２条横走している。体部には単軸絡条体第１類の撚糸文が縦行して施文されている。**74・75**は口縁部文様帯に不整綾絡文が施され、この上に沈線が横走している。**76**は複節縄文地に沈線が施されている。

口唇部に刻み・刺突・撚糸文が施されているもの（図Ⅲ－171－77～80）下層ｂ式相当。

77は口唇が角形で、口唇上には棒状工具による刻みが施されている。隆帯が施されていたもので、文様帯には撚糸文と沈線が施されている。**78・80**は口唇に棒状工具によって連続した刺突が施されているもの。**79**は無文地に２条の不整綾絡文かと思われる撚糸文が施されている。

口縁部に網目状撚糸文が施されているもの（図Ⅲ－171－81・82）下層ｂ式相当。

81・82は口縁部に単軸絡条体第５類の網目状撚糸文が施されている。

体部に条痕によって施文・調整されているもの（図Ⅲ－172－83～87）

83は体部に条痕文が施文されているもの。**84～87**まで、内面に条痕が見られるもの。**84**は体部に単軸絡条体第１類の撚糸文、**85**は体部に附加条文、**86・87**は体部に複節縄文が施されている。

体部に不整綾絡文が施されているもの（図Ⅲ－88～90）下層ｂ式相当。

88・89は単軸絡条体第１類の撚糸文地に不整綾絡文、**90**は単節斜行縄文地に不整綾絡文が施されている。

体部に撚糸文が横走しているもの（図Ⅲ－91）下層ｂ式相当。

91は間隔のまばらな単軸絡条体第１類の撚糸文が横走して施文されている。

体部に附加条文が施されているもの（図Ⅲ－92）下層ｂ式相当。

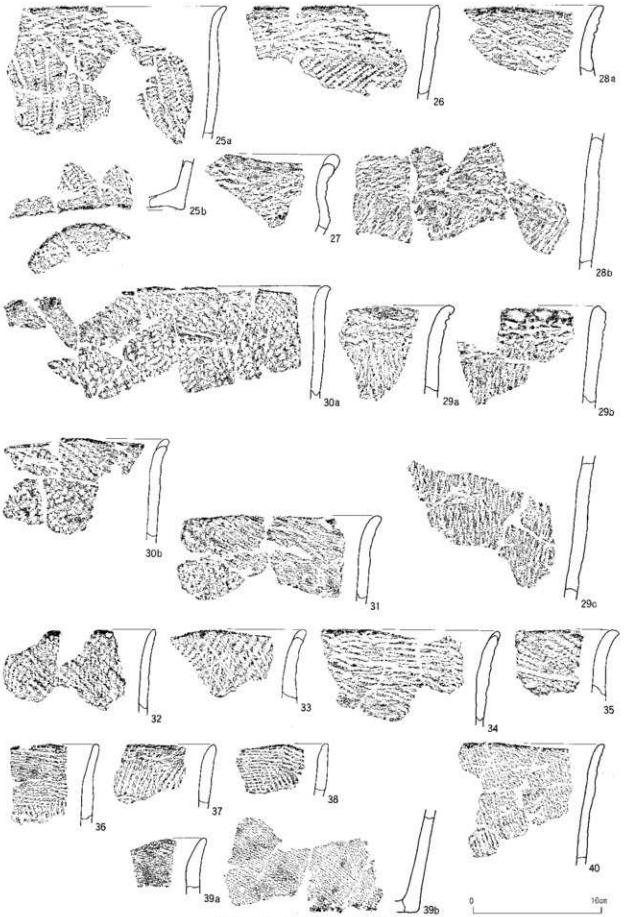
92は体部に附加条文が縦行して施文されている。

胴部下半～底部にかけてのもの（図Ⅲ－173～175）下層ｂ式相当。

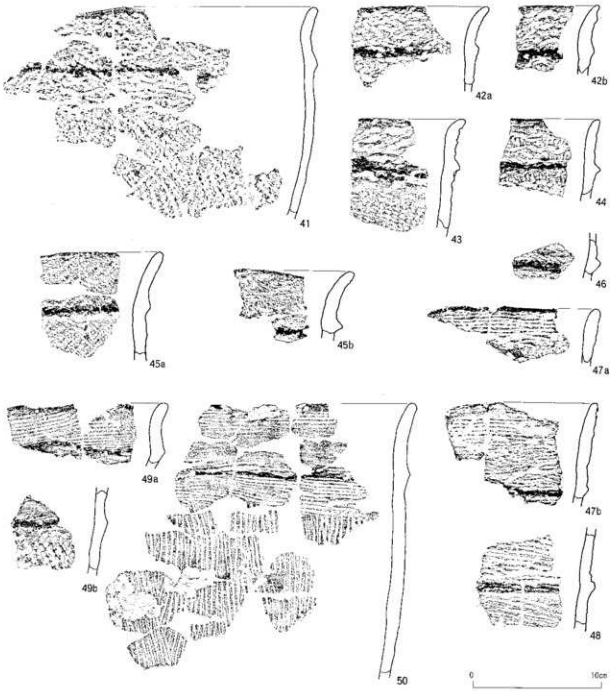
93は体部に単節の斜行縄文が施されているもの。底部は上げ底気味、底面には縄文が施されている。**94**は体部に縄文施文後、ナデミガキにより無文にされているもの。内面は条痕による調整が認められる。**95～97**まで体部に附加条文が施されているもの。**95・96**は斜行して施文、**97**は縦行して附加条文が施されている。底部は上げ底、底面には縄文が施されている。**96**は内面が磨かれている。

99～101まで単軸絡条体第５類による網目状撚糸文が施されているもの。99ｂは内面が条痕による調整後、磨かれている。

102～113まで単軸絡条体第１類の撚糸文が施文されているもの。**102**は撚糸文の施文方向が多方向に及ぶもの。底部は上げ底、底面には縄文が施されている。**103**の底部は上げ底、底面は磨かれている。**104・105**の底部は上げ底、底面は縄文施文後に磨かれている。**106**は底面に複節縄文が施されている。**107**には不整綾絡文、**108**は底面に縄文、**109・110**は底面と体部の境がナデ・ミガキで無文となっているもの。**110**の底部はやや上げ底、底面は磨かれている。**111**は細い撚糸が密に横走している上から、太い撚糸文が縦行して施文されている**112**の底面には単節の縄文、**113**は内面が磨かれている。



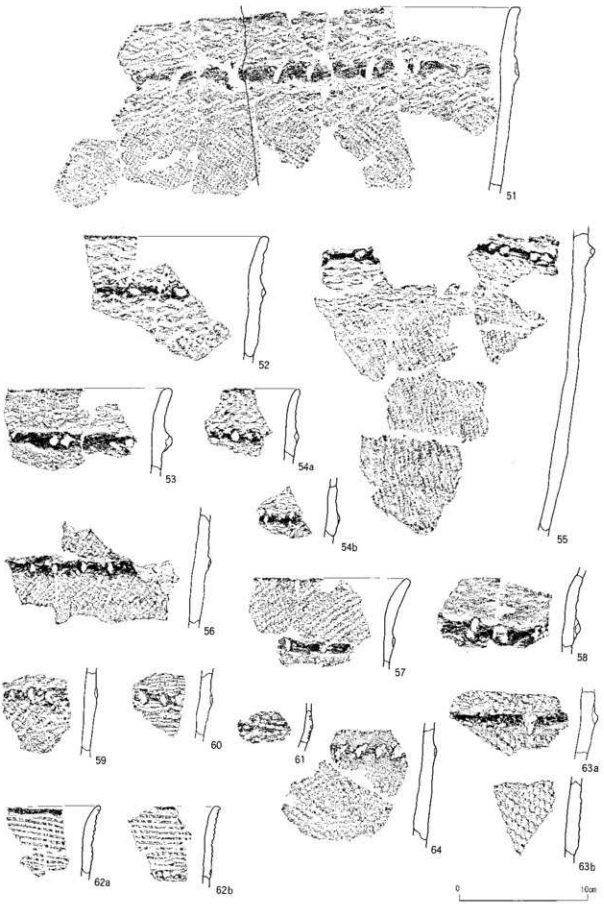
図Ⅲ－168　包含層出土の土器(7)



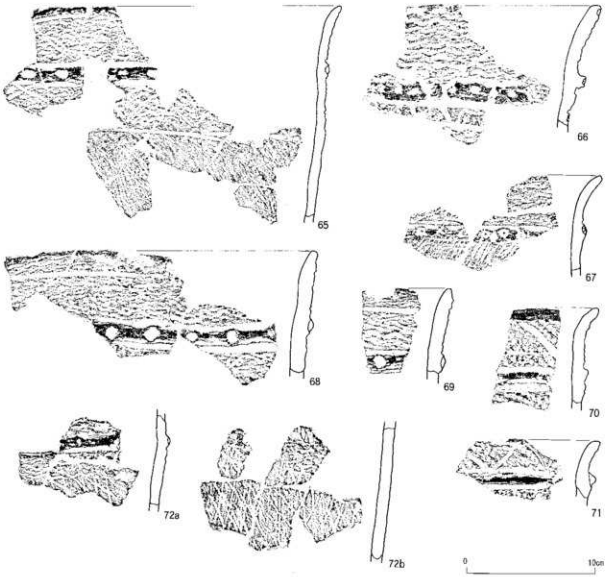
図Ⅲ－169　包含層出土の土器(8)

下層ｂ～ｃ式の範疇に相当するもの（図Ⅲ－176－114～123）

114は僅かに外反している口縁部に縄の圧痕が施されているもの。内面はやや風化している。**115**は口縁部に結束第１種の羽状縄文が施されているもの。**116・117**は口頸部文様帯に単軸絡条体第５類の網目状撚糸文が施され、この原体を縦に圧痕している。体部には単軸絡条体第１類の撚糸文が縦行し、体部との境は同じ原体を横に圧痕している。**116**には沈線が認められる。共に内面は磨かれている。**118**は口頸部文様帯に網目状撚糸文、体部には単節斜行縄文が施されている。**119～122**まで絡条体圧痕が施されているもの。**119**は口縁が外反、内面は滑沢に磨かれている。



図Ⅲ－170　包含層出土の土器(9)



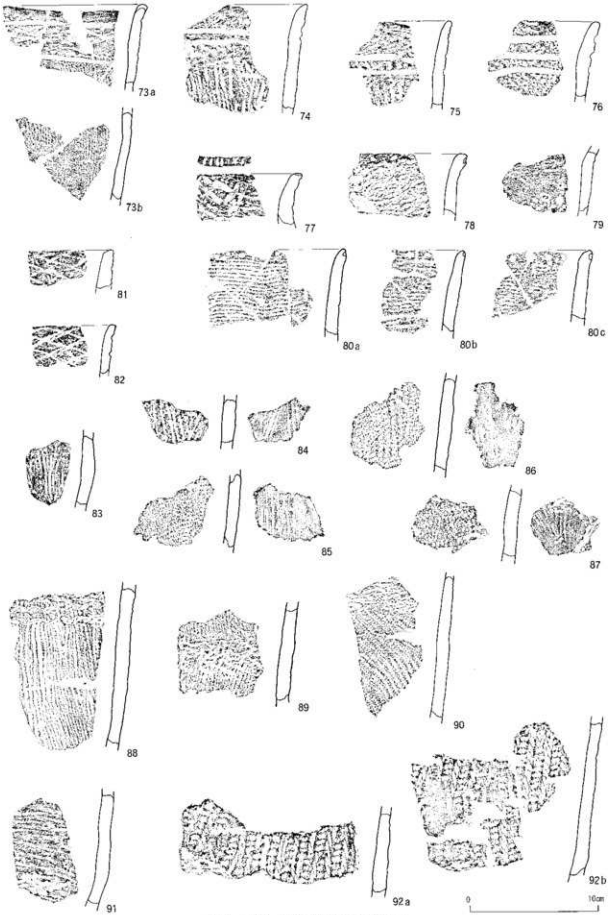
図Ⅲ－171　包含層出土の土器(10)

多軸絡条体が施されているもの（図Ⅲ－176－124～132）下層ｃ～ｄ式の範疇に相当。

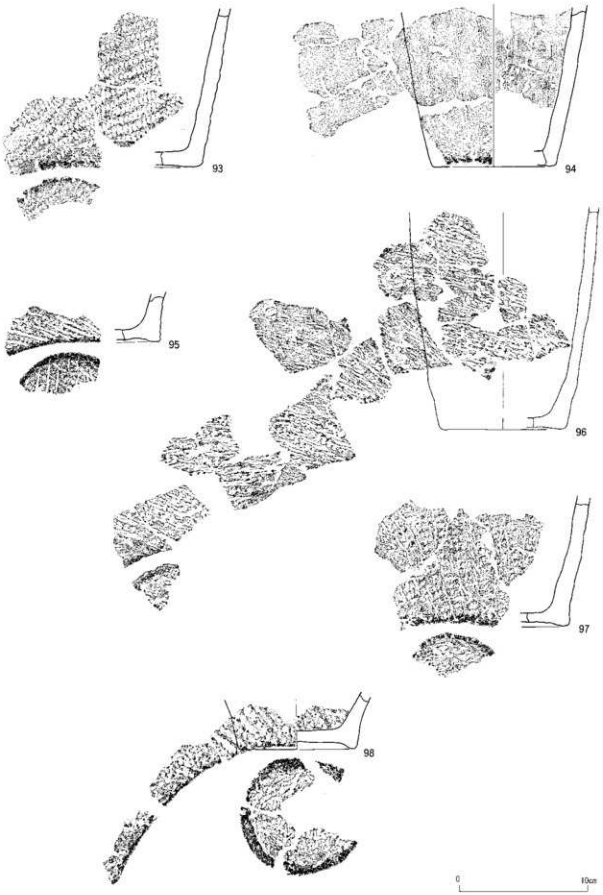
124は隆帯の剥落痕と思われる痕跡がある。内面は磨かれている。**125～127**の内面は磨かれている。**132**の底部は上げ底、底面には縄文の痕跡がある。内面は磨かれている。

下層ｄ１式に相当するもの（図Ⅲ－176－133～150）

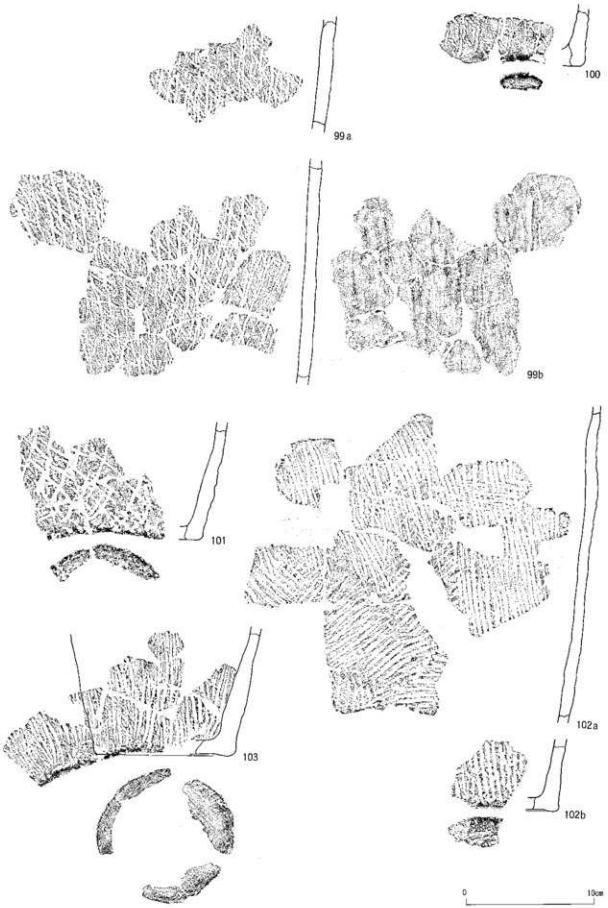
133～135まで撚糸の施文方向を異にして、幅の狭い文様帯としているもの。**136**は撚糸の圧痕が施されている。**137**は外反している口縁部。無文地に撚糸文が施されている。体部には多軸絡条体に綾絡文が施されている。**138・143**は木目状撚糸文が施されている体部破片。**139～141**まで、自縄自巻的縄文が施されている体部。**144**は自縄自巻的縄文と羽状縄文が施され、その上から綾絡文が施文されている体部。**142**は撚糸文と結束第１種の羽状縄文が施されている体部。**146～149**まで撚糸文地に綾絡文が施されている体部。**150**は自縄自巻的縄文に綾絡文が施されている体部。



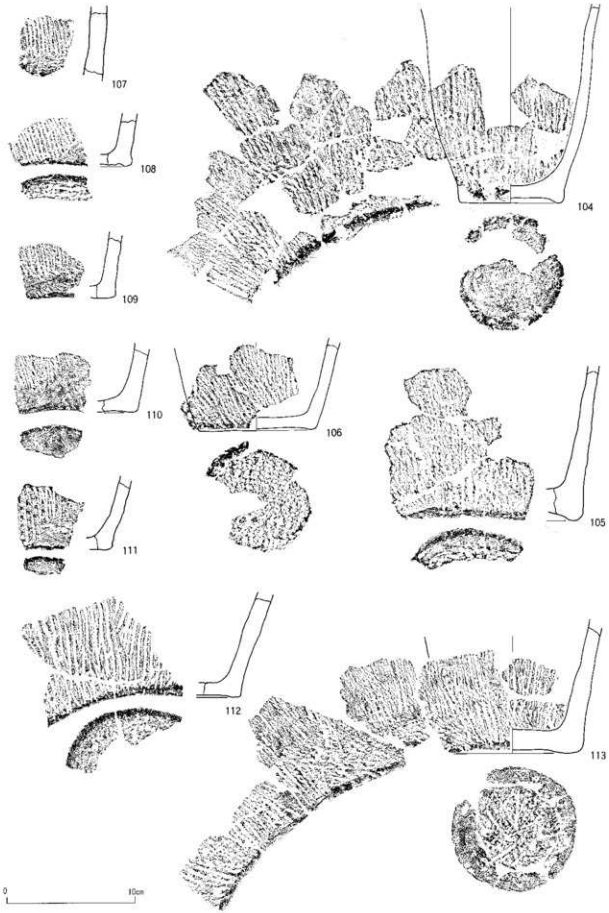
図Ⅲ－172　包含層出土の土器(11)



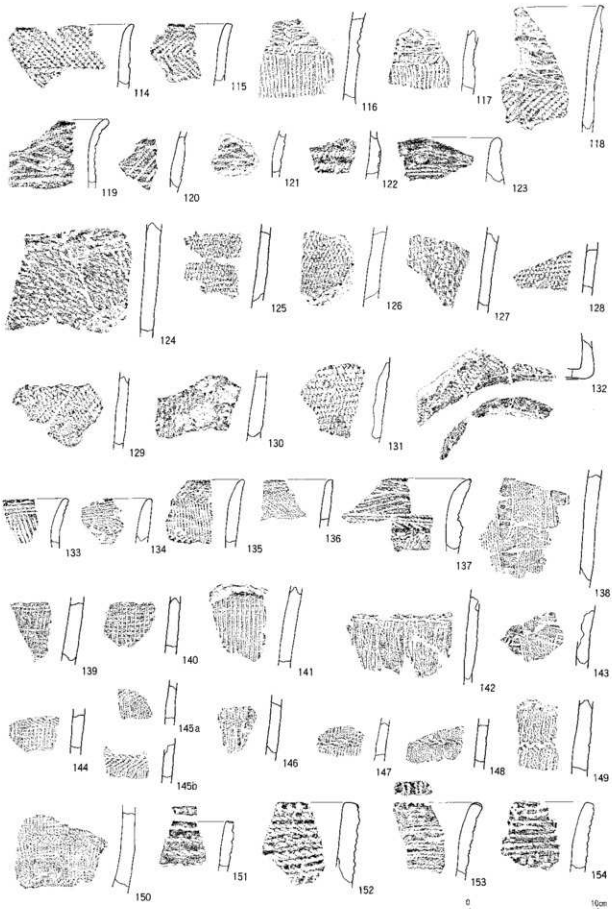
図Ⅲ－173　包含層出土の土器(12)



図Ⅲ－174　包含層出土の土器(13)



図Ⅲ－175　包含層出土の土器(14)



図Ⅲ－176　包含層出土の土器(15)

下層ｄ２式に相当するもの（図Ⅲ－176－151～154）

151～154まで、無文地に縄の圧痕が施されているもの。**151**は口唇に棒状工具による刺突、**153**は縄による刻みが施されている。

Ⅲ群土器

Ⅲ群ａ類土器（図Ⅲ－177　図版138・139・143）

Ⅲ群ａ類土器は8,670点出土している。調査区の南西～西側にかけて多く、概時期の遺構分布とほぼ重なる。

円筒土器上層ａ式に相当するもの（図Ⅲ－177－155～158）

155は波状口縁で、貼付があったものとみられるが、剥落している。無文地に絡条体と縄の圧痕により文様が施されている。**156～158**まで、無文地に撚糸と縄の圧痕が施されているもの。

円筒土器上層ｂ式に相当するもの（図Ⅲ－177－159）

159は口頸部文様帯の一部。無文地に４本一組の撚糸と、先端が二股に分かれた棒状工具による連続した刺突が施されている。貼付が施され、貼付上にも撚糸文が施されている。

サイベ沢Ⅶ式に相当するもの（図Ⅲ－177－160～171）

160・164は貼付帯を施文後、縄文が施されているもの。**160**は波状口縁で波頂部を欠損している。口唇には貼付が鋸歯状に施されている。**161**は把手状の貼付部分。縦に数条の撚糸文が施されている。**162**は細い貼付帯上に２条の撚糸文が施文されている。**163**は体部に結節の回転が施されているもの。**164**は波状口縁の突起下に“の”の字を描く貼付が施されているもの。貼付上には縄の圧痕が施されている。波頂部の内面にも貼付が施され、内面調整と同じに磨かれている。**166**は結節の回転文が縦行して施文されているもの。**167・168**は沈線が施されているもの。**167**は鋸歯状の沈線が施されている。**168**は小形のもの。**169**は単節の斜行縄文地に結節の回転文が施文されている。**170・171**は底部。底面は磨かれているが、網代痕の痕跡が残っている。

Ⅳ群土器

Ⅳ群ａ類土器（図Ⅲ－178・179　図版143・144）

Ⅳ群ａ類土器破1,242点出土している。調査区中央～北西にかけて多く分布している。概ね縄文時代後期前葉、トリサキ式相当・併行のものと考えられる。

172は小形で深鉢形のもの。波状口縁で、頸部が括れ、体部が張り出している。口縁部には２本一組の沈線が施されている。頸部と胴部には浅い斜行縄文が施され、境目には沈線が１条施文されている。**173・174**は大形で深鉢形のもの。口縁部に幅の狭い無文帯があり、沈線が並行し施文されている。この間には円形の沈線も施されている。体部には撚り戻しの縄文が横走している。

174～180まで折り返し口縁を持つもの。

174は折り返しの口縁部に沈線が施されている。胴部は無文である。**175**は無文地で、折り返し口縁の中央に１条の沈線と、胴部に沈線が施されている。**176**は体部に撚糸文が施されている。**177**は口縁～胴部にかけて不規則な沈線が施されている。**179**は縄文が施されている。**178**は波状口縁に８の字の貼り付けが施されていたと見られるもの。**180**は折り返し口縁に８の字の貼付を持つ。

181・182は８の字の貼付を持つもの。波状口縁に沈線が施され、貼付が施文されている。**183～190**まで、無文地に沈線が施されているもの。**191**は無文の底部、**192～194**まで小形の底部。

Ⅴ群土器

調査区からⅤ群と思われる土器は８点出土している。なかでも特徴の明瞭なものが２点接合しており、掲載した。

Ⅴ群ｂ類土器（図Ⅲ－180－195　図版144）

195は鉢形のもの。波状口縁で小突起を持つ。頸部は無文地に浅い三段の沈線と、胴部には縄文が縦行して施文されている。大洞Ｃ２式併行のもの。

Ⅵ群土器（図Ⅲ－180・181　図版144）

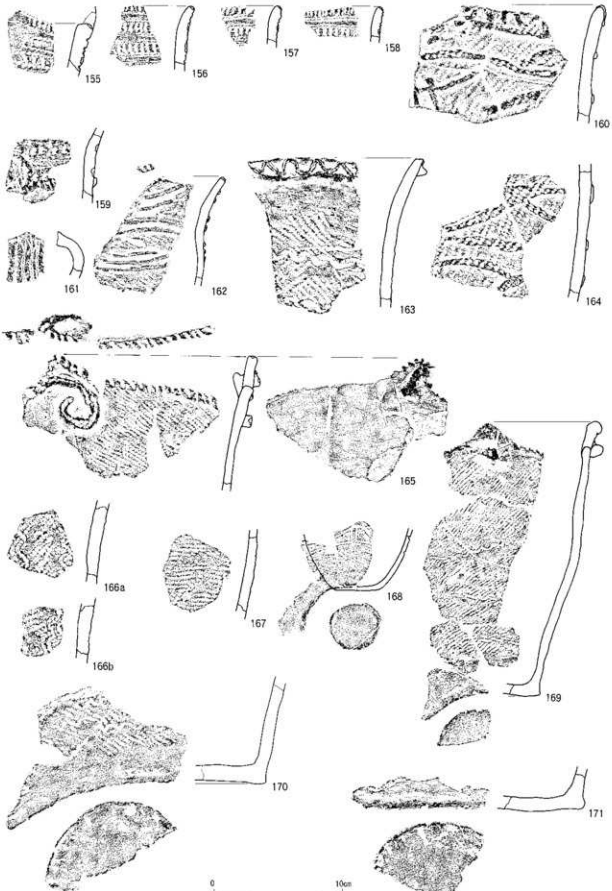
Ⅵ群土器は1,426点出土した。調査区中央よりやや北西側にまとまりがある。恵山式の中でも古手のものと考えられる。

196は長頸甕。口縁（196ａ）は外反、内面に平行する２条の沈線が施されている。頸部の上部に平行する多段の沈線、下部は無文帯で肩部が張り出している。体部には縄文が施されている。底部（196ｂ）は上げ底である。**197～200**まで、縄文地に沈線が施されている口縁部。いずれも外反し、口唇に刻みを持つ。**198・200**は内面にも平行する沈線が施されている。**201～204**まで、無文地に沈線が施されている口縁部。いずれも内面にも沈線が施されている。**202**は縄文施文後に磨かれているものとみられる。**205**は無文のもの。口唇部は捲れているように肥厚し、外反している。**206**は外反する波状口縁で、無文地に多段の沈線が施されているもの。**207**は無文地に沈線が施されている頸部、**208**は縄文地に沈線が施されている肩部の破片。張り出している。**209・210**は無文地に多段の平行する沈線が施されているもの。**209**は小形のもの。**211・212**は無文地の頸部に鋸歯状と考えられる沈線が施されているもの。**213～215**まで列点が施されている口縁部。**216・217**は縄文地に沈線が施されている口縁部。**218・219**は縄文のみで、内面に沈線が施されている口縁部。**220・221**は小波状の沈線が施されているもの。**220**は壺形のもの。**221**は内面に沈線と貼付を持つ。**222・223**は沈線によって縄文と無文が区切られているもの。**222**はボール状の器形を呈するものかと思われる。**223**は頸部。**224**は縄文が施されている壺形土器の体部破片。**225**は無文で鉢形のもの。**226～228**は底部。**226**は上げ底のもの。**227**は台付土器の台部分。**228**は小形のもので、上げ底である。**229**は把手。無文地に沈線が施されている。**230・231**は台付土器の台部分。**230**は無文地に鋸歯状の沈線、**231**は列点文が施されている。**232～234**は透かしの入った台付土器の台の破片。**232**は無文地に沈線、**233・234**は列点文が施されている。

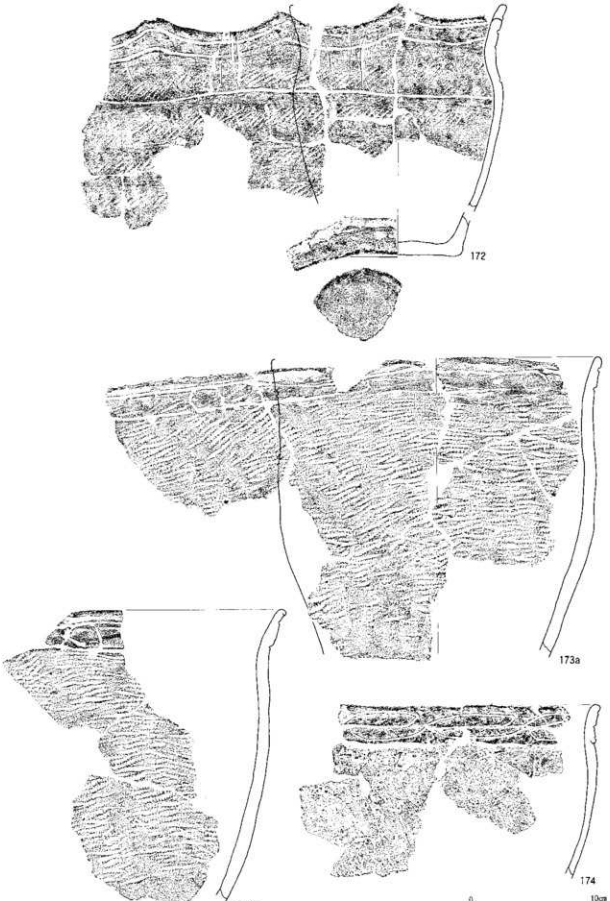
土製品（図Ⅲ－182　図版145）

土製品は調査区で11点出土している。円筒土器下層式の土器片に加工痕のあるもの、土偶の接合しもの、鐸形土製品がある。

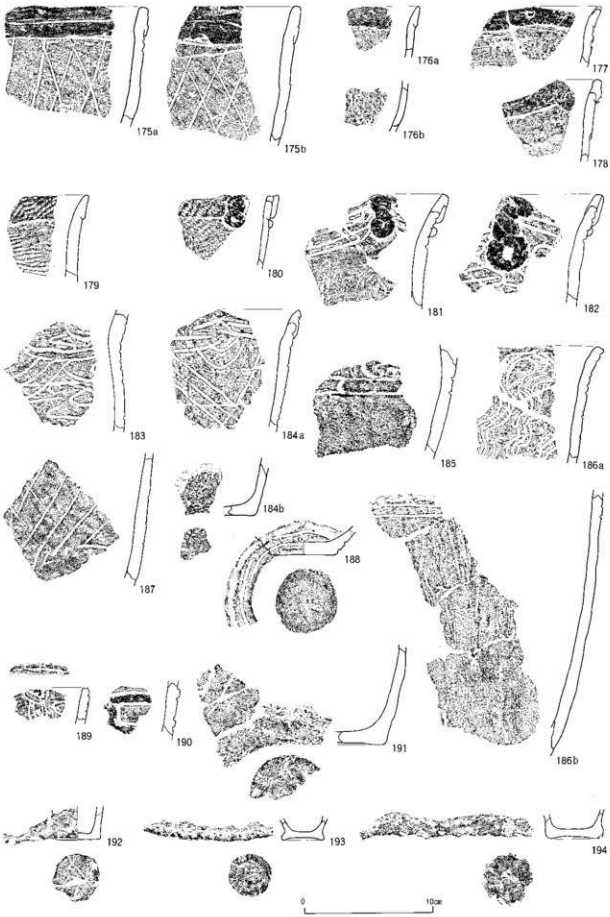
235は擦り切り痕のある土器片。単軸絡条体第１類の撚糸文が縦行する体部破片の内面に擦り切り痕がある。236は円盤状と考えられる土製品。無文である。**237**は鐸形土製品。無文地に沈線が施されている。トリサキ式併行のものと考えられる。**238**は土偶。無文地に沈線が施されている。両肩には脇の下まで貫通する孔が開けられている。（袖岡）



図Ⅲ－177　包含層出土の土器(16)

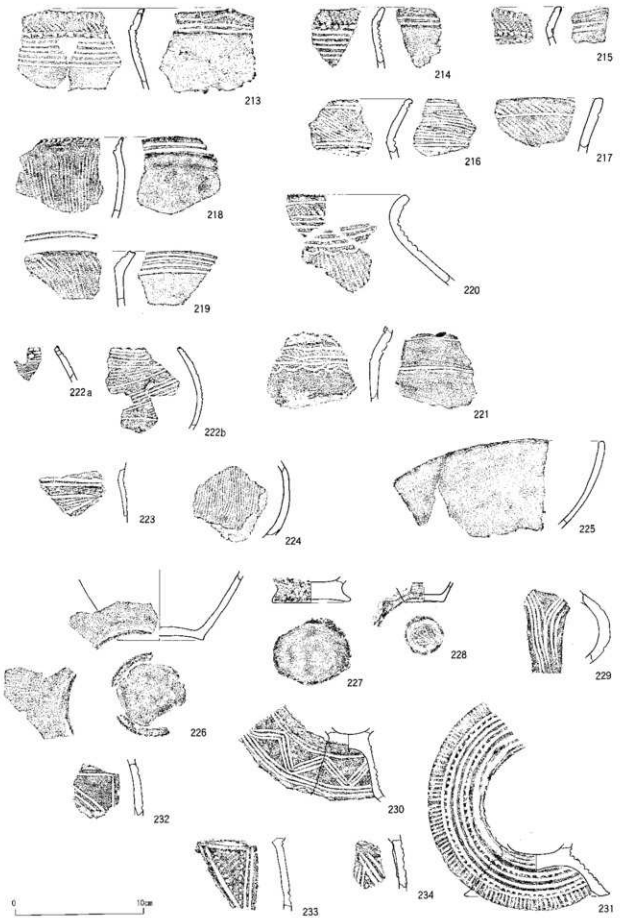


図Ⅲ－178　包含層出土の土器(17)

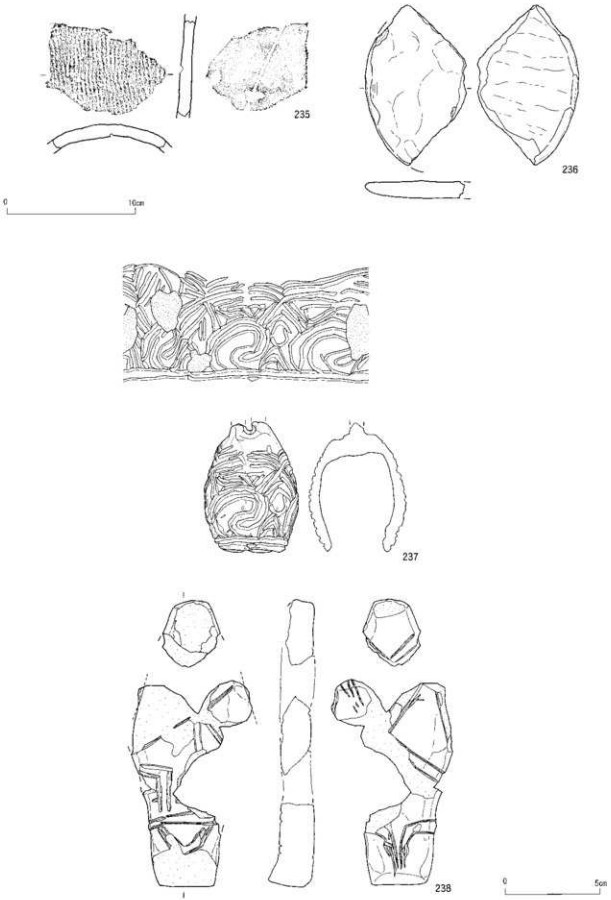


図Ⅲ－179　包含層出土の土器(18)

図Ⅲ－180　包含層出土の土器(19)

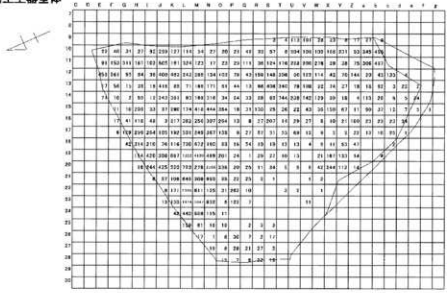


図Ⅲ－181　包含層出土の土器(20)・土製品(1)

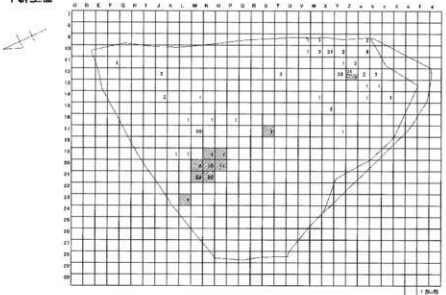


図Ⅲ－182　包含層出土の土製品(2)

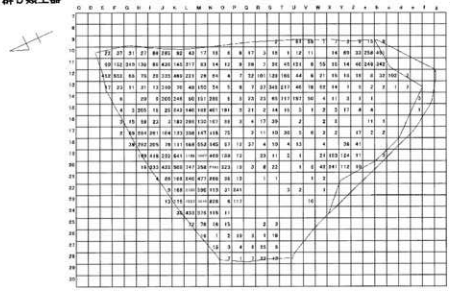
出土土器全体



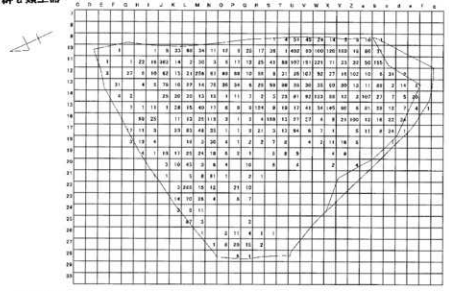
Ⅰ群土器



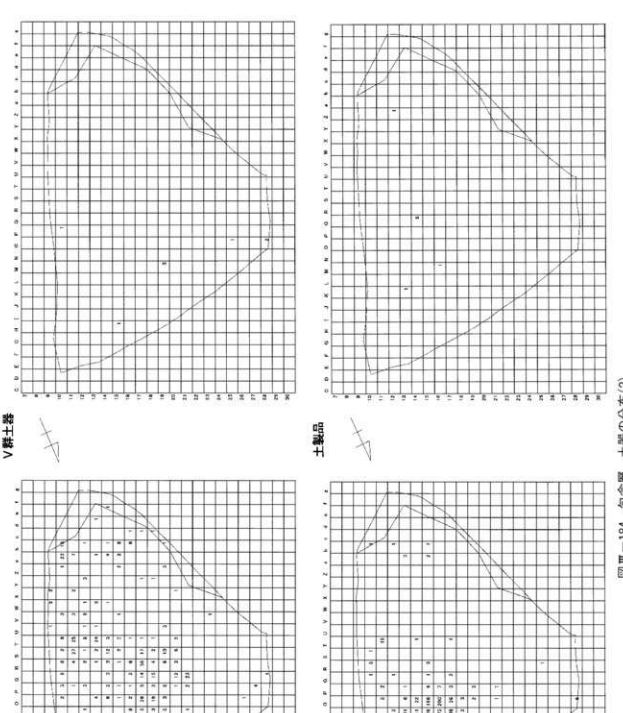
Ⅱ群b類土器



Ⅲ群a類土器



図Ⅲ－183　包含層　土器の分布(1)



図Ⅲ－184　包含層　土器の分布(2)

(2) 石　器

石器は包含層から26,191点出土した。内訳は、剥片石器1,289点、石斧・石斧片・擦り切り残片76点、礫石器536点（加工礫22点含む）、フレイク22,984点、礫・礫片1,305点である。

石材の内訳は、剥片石器は頁岩1,213点（94.1%）、メノウ49点（3.8%）、黒曜石11点（0.9%）、砂岩4点(0.3%)、凝灰岩4点(0.3%)、珪質岩3点(0.2%)、粘板岩3点(0.2%)、泥岩2点(0.2%)である。

石斧・石斧片・擦り切り残片では緑色泥岩49点(64.5%)泥岩15点(19.7%)、粘板岩5点(6.6%)、砂岩4点（5.3%）、凝灰岩2点（2.6%）、頁岩1点（1.3%）である。

礫石器では砂岩237点(44.2%)、凝灰岩145点(27.1%)、安山岩110点(20.5%)、泥岩23点(4.3%)、珪質岩5点（0.9%）、粘板岩4点（0.7%）、頁岩2点（0.4%）、珪化木2点（0.4%）、ひん岩2点（0.4%）、デイサイト2点(0.4%)、片麻岩1点(0.2%)、花崗岩1点(0.2%)、石英岩1点(0.2%)、閃緑岩1点（0.2%）である。

フレイクでは頁岩22,653点（98.6%）、メノウ197点（0.9%）、黒曜石51点（0.2%）、粘板岩33点（0.1%）、チャート20点（0.1%）、珪質岩11点（0.0%）、砂岩7点（0.0%）、凝灰岩6点（0.0%）、緑色泥岩6点（0.0%）である。

礫・礫片では砂岩1,013点(77.6%)、安山岩84点(6.4%)、凝灰岩102点(7.8%)、泥岩52点(4.0%)、珪質岩15点(1.1%)、礫岩13点(1.0%)、粘板岩10点(0.8%)、メノウ4点(0.3%)、頁岩3点(0.2%)、片岩3点（0.2%）、石英岩2点（0.2%）、流紋岩2点（石英を取り込むもの1点を含む）(0.2%)、花崗岩1点（0.1%）、デイサイト1点（0.1%）である。

フレイクで確認したチャートを用いた石器は確認できなかった。石器製作は行っているため、遺跡外に持ち出された可能性がある。また礫・礫片で確認した礫岩、片岩、石英岩を用いた石器は確認できなかった。これらの礫・礫片のうち、被熱しているものは礫岩2点である。

層位的な出土状況は、縄文時代の遺構を構築している層位であるⅢ層からの出土が最も多く18,906点、次いでⅡ層から5,215点が出土した。平面的な出土状況は、主に縄文時代中期前半の遺構が分布する南側の平坦面、主に縄文時代前期後半から後期前葉の遺構が分布する中央の平坦面、主に縄文時代前期後半の遺構が分布する北側の平坦面の3ヵ所に集中する傾向がみられる。南側の急斜面や南西側の斜面からの出土は少ない。

被熱しているものは各器種に記載した。

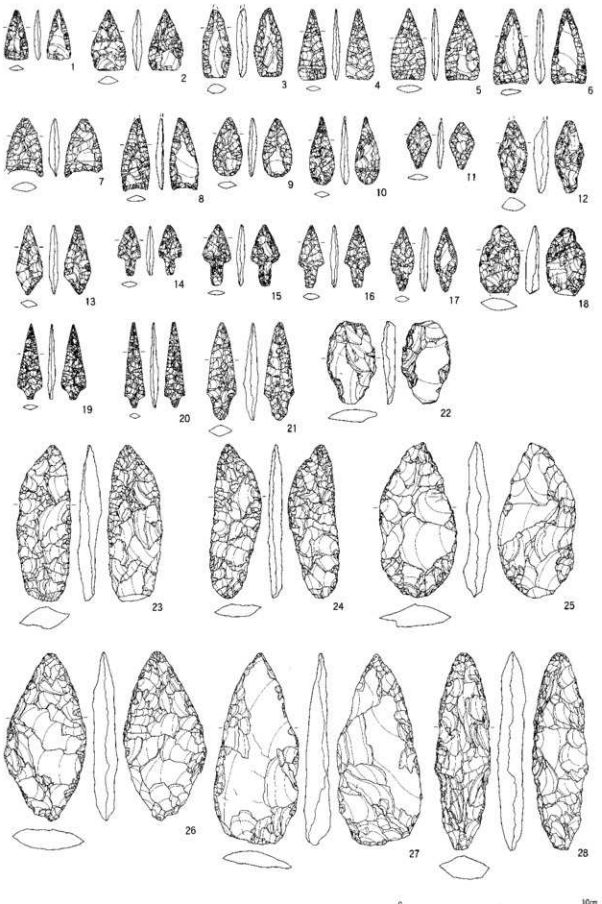
石鏃（図Ⅲ－185　1～22　図版146）

石鏃は84点出土し、22点を図示した。石材の内訳は頁岩70点（**1・3～11・13～17・19～22**）、メノウ10点（**2**）、黒曜石4点（**12・18**）である。

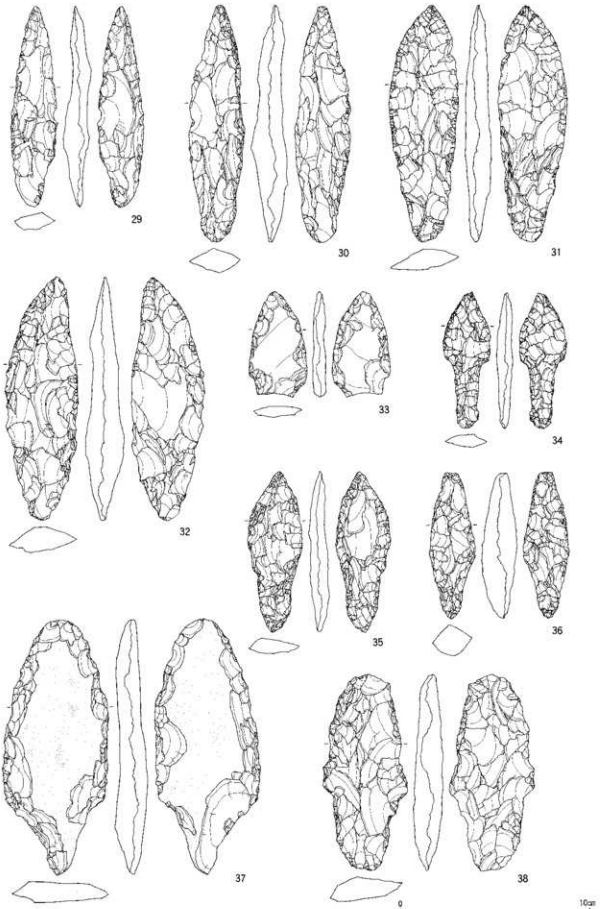
1～8は三角形鏃。平基無茎（**1～6**）と凹基無茎（**7・8**）、木葉形鏃（**9・10**）がある。**9・10**は滴形のものである。**11～22**は有茎鏃。凸基（**11～13**）と三角形有茎鏃（**14～18**）、長身鏃（**19～21**）、未成品（**22**）がある。**18**は基部が欠損しているものの幅広と推定でき、先端平面形が鈍角になる。**22**は調整が片側縁を中心とし、基部の調整もあまり行っていないため未成品とした。

石槍またはナイフ（図Ⅲ－185～186　23～38　図版146）

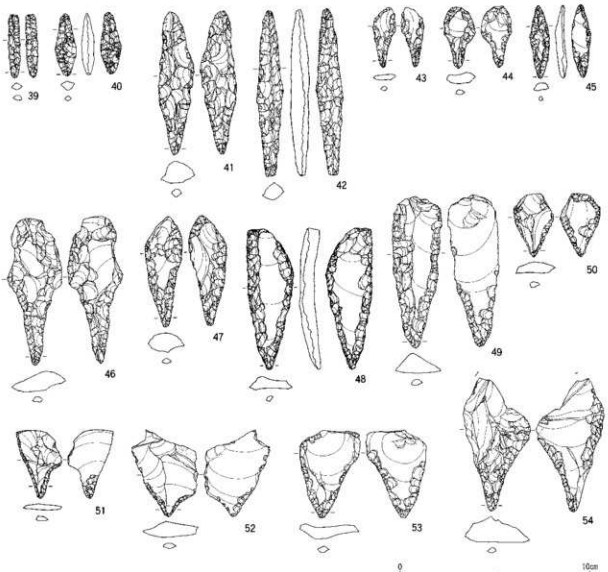
石槍またはナイフは38点出土し、16点を図示した。石材の内訳は頁岩35点(**23～32・34～36・38**)、凝灰岩2点（**33・37**）、メノウ1点である。被熱しているものは頁岩製の1点である。



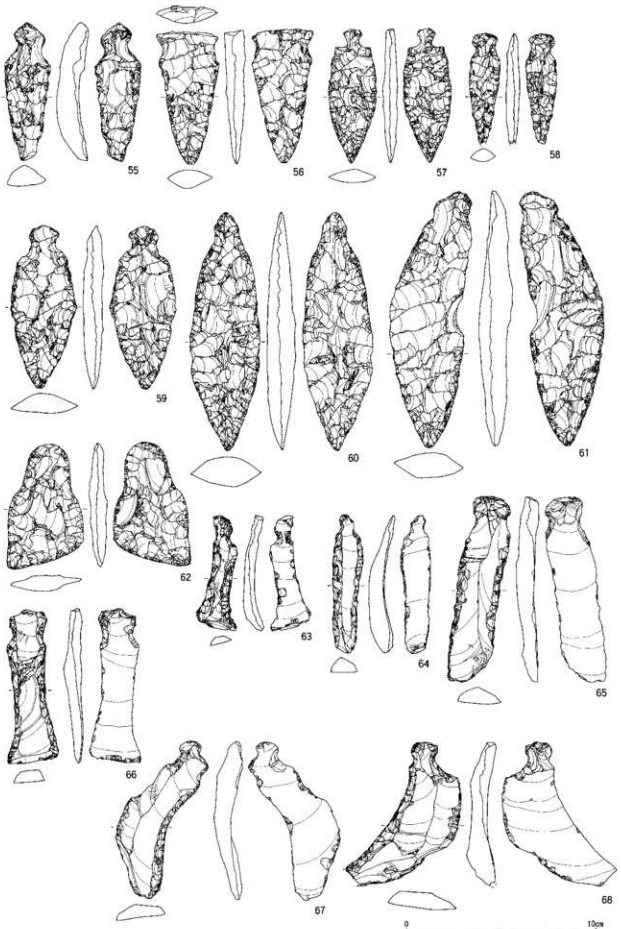
図Ⅲ－185　包含層出土の石器(1)



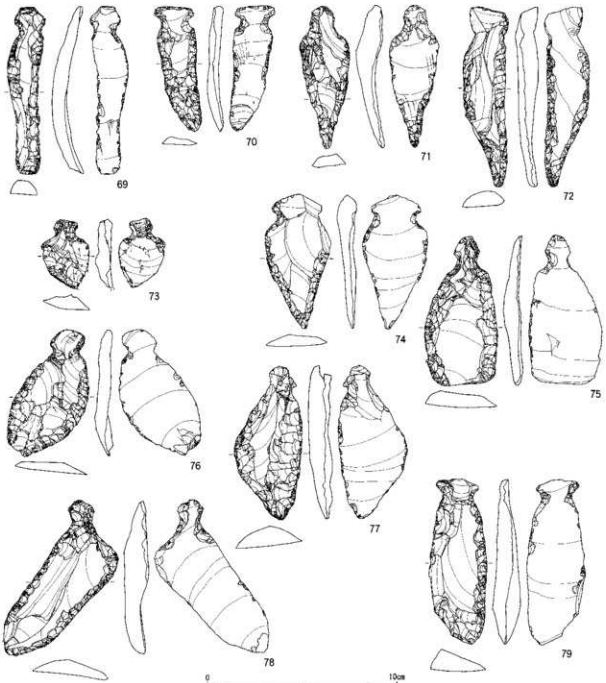
図Ⅲ－186　包含層出土の石器(2)



図Ⅲ－187　包含層出土の石器(3)

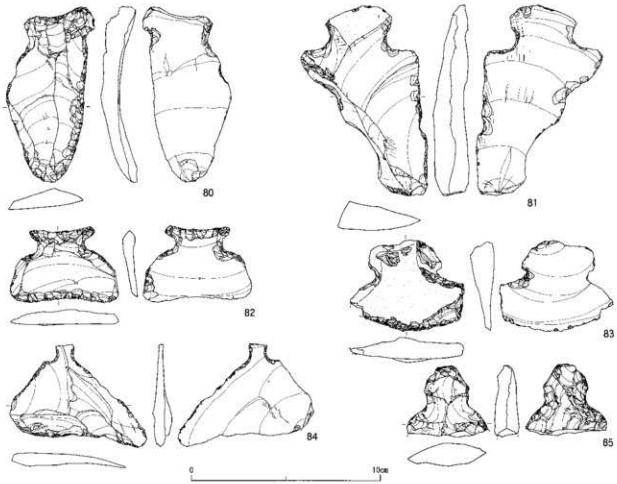


図Ⅲ－188　包含層出土の石器(4)



図Ⅲ－189　包含層出土の石器(5)

23～27は木葉形のもの。**25**は剥離の大きさが不揃いで、側縁からの微細剥離がほとんどみられない。**27**は調整が片側縁を中心としている。**28～32**は柳葉形のもの。両面全体に調整を行っている。**33～38**は有茎のもの。基部の幅が広く短いもの（**33**）と基部が長いもの（**34**）、先端の平面形が鈍角になるもの(**37～38**)がある。**33**の短い基部は欠損ではなく、もともとの素材の形状が残ったものと考える。**34**の基部の調整は整っている。**37**は周縁からの加工のみ行っており、両面ともに礫面が残る。



図Ⅲ－190　包含層出土の石器(6)

石錐（図Ⅲ－187　39～54　図版146）

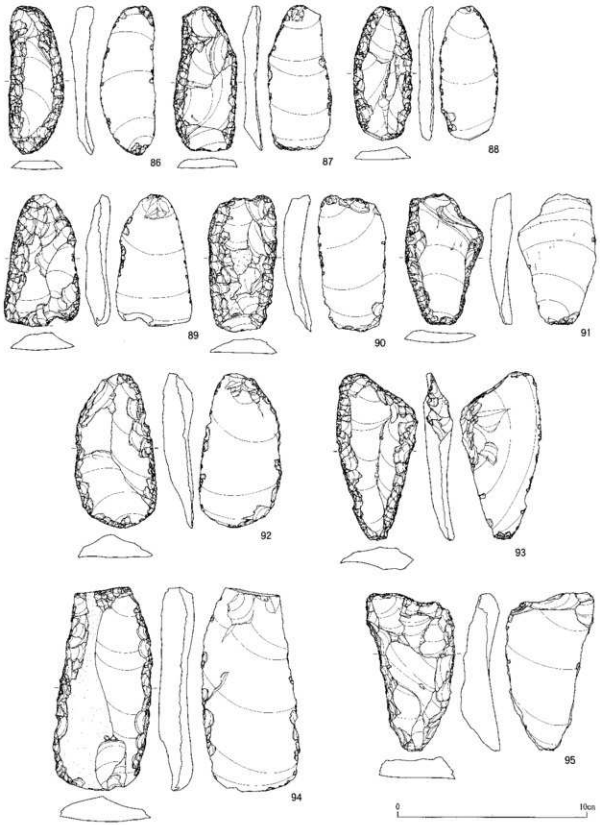
石錐は16点出土し、すべて図示した。石材の内訳は頁岩15点（**39・41～54**）、メノウ１点（**40**）である。

39～42は両面全体に調整を行うもの。石鏃や石槍またはナイフに形態が類似するが、厚みがあり、先端部に摩滅がみられる。**43～49**は片面のみに調整を行うもの。周縁からの調整を行うものの、素材面が残る。**50～54**は機能部のみ作り出すもの。

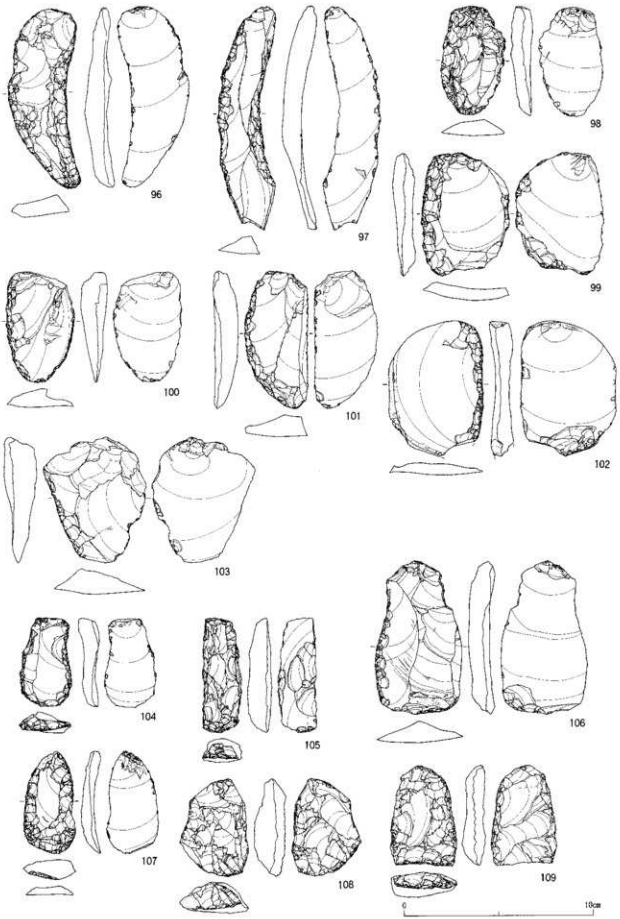
つまみ付きナイフ（図Ⅲ－188～190　55～85　図版147）

つまみ付きナイフは145点出土し、31点を図示した。石材の内訳は頁岩141点（**55～72・74～84**）、黒曜石４点（**73・85**）である。被熱しているものは黒曜石製の１点である。

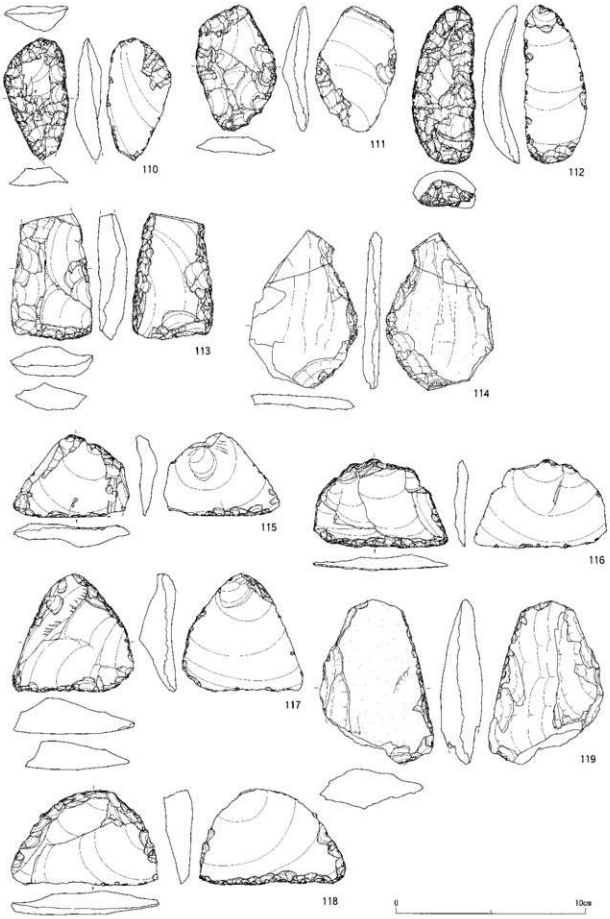
55～81は縦長のもの。両面全体に調整を行うもの（**55～62**）と片面のみに調整を行うもの（**63～81**）がある。**62**はつまみ部が幅広で丸みがあることと先端部にも直線的な刃部があることから、続縄文時代の「靴形石器」や「ナイフ状石器」の可能性がある。**63～70**は側縁が内湾するものである。**71～74**は先端が尖るものである。73の側縁は丸みがある。**75～77**は側縁が外湾するものである。**78・79**は平行する側縁があり、先端が尖るものである。**80・81**は幅広のものである。**81**は刃部の調整をほとんど行っていない。**82～84**は横長のもの。片面のみに調整を行うものである。**84**は刃部の調整をほとんど行っていない。**85**は両面全体に調整を行うもので、大型のつまみ部の欠損品。



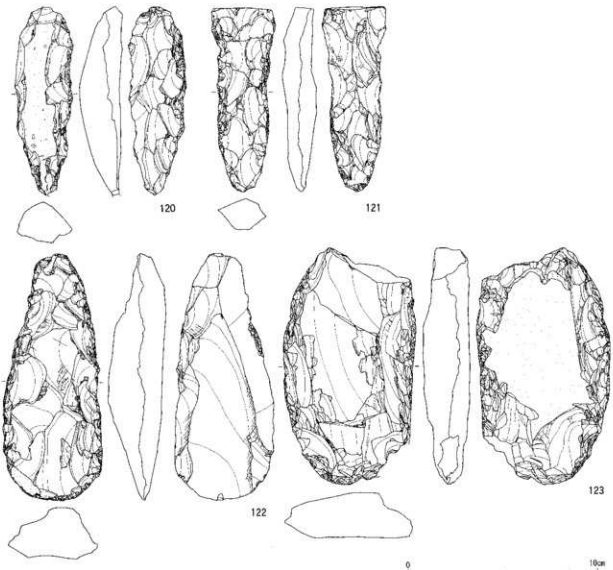
図Ⅲ－191　包含層出土の石器(7)



図Ⅲ－192　包含層出土の石器(8)



図Ⅲ－193　包含層出土の石器(9)

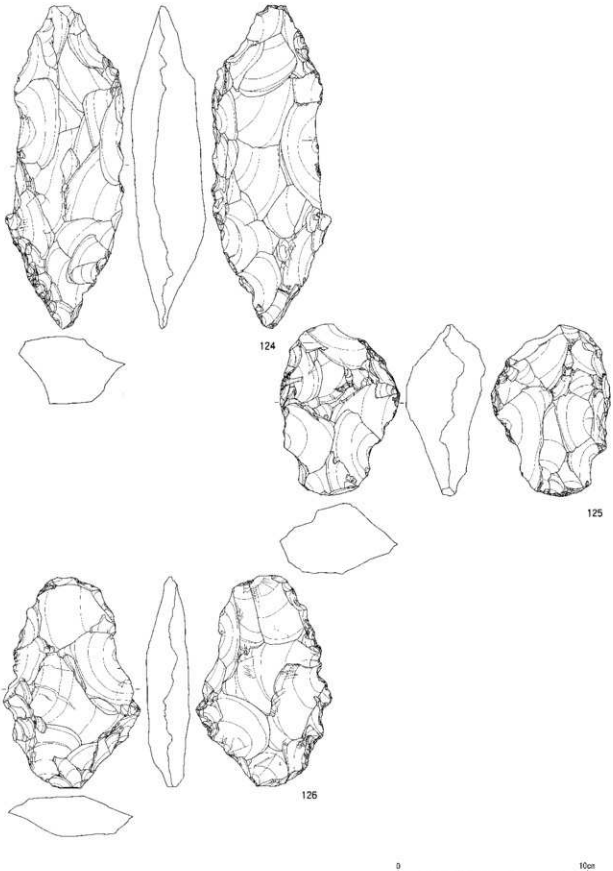


図Ⅲ－194　包含層出土の石器(10)

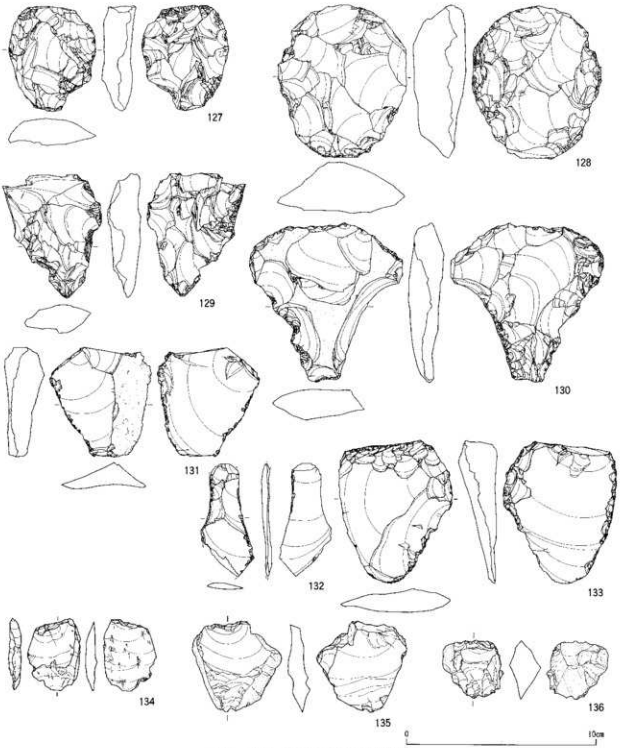
スクレイパー（図Ⅲ－191～193　86～119　図版148）

スクレイパーは225点出土し、34点を図示した。石材の内訳は頁岩218点（**86～107・109・111～113・115～117・119**）、砂岩３点（**114**）、メノウ２点（**108・110**）、粘板岩２点（**118**）である。被熱しているものは頁岩製の１点である。

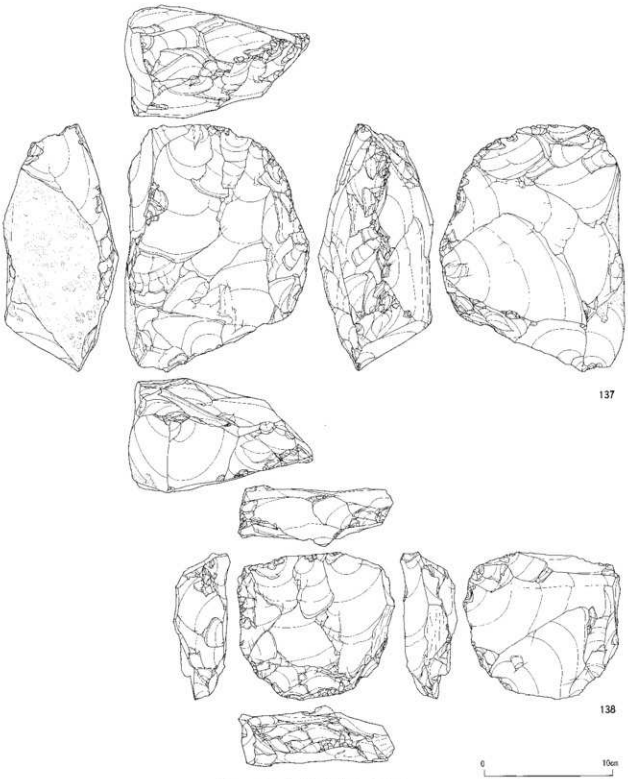
86～113は縦長のもの。平行する両側縁に連続的な調整剥離がみられるもの（**86～92・94**）、両側縁への連続的な調整剥離により先端が尖るもの（**93・95**）、片側縁に内湾する連続的な調整剥離がみられるもの（**96～97**）、片側縁に外湾する連続的な調整剥離がみられるもの（**98～103・106**）、先端部に急角度の連続的な調整剥離がみられるもの（**104～105・107～113**）がある。**114～119**は横長のもの。片側縁に外湾する連続的な調整剥離がみられるもの（**114**）と片側縁に連続的な調整剥離が直線的にみられるもの（**115～119**）がある。



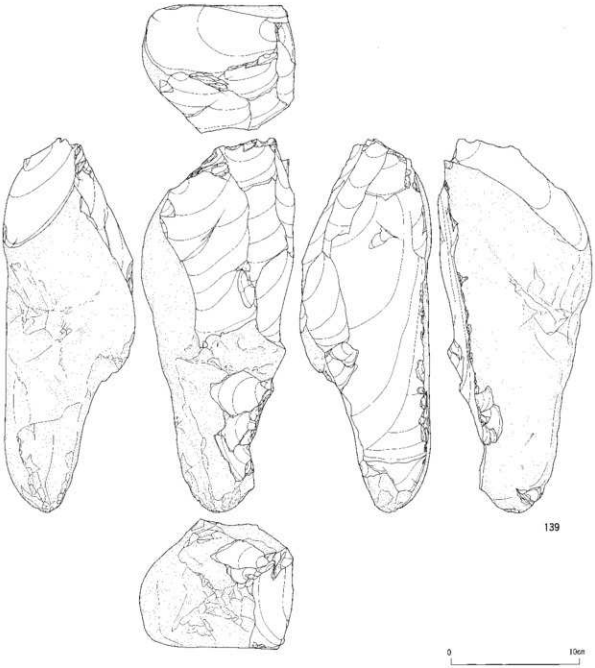
図Ⅲ－195　包含層出土の石器(11)



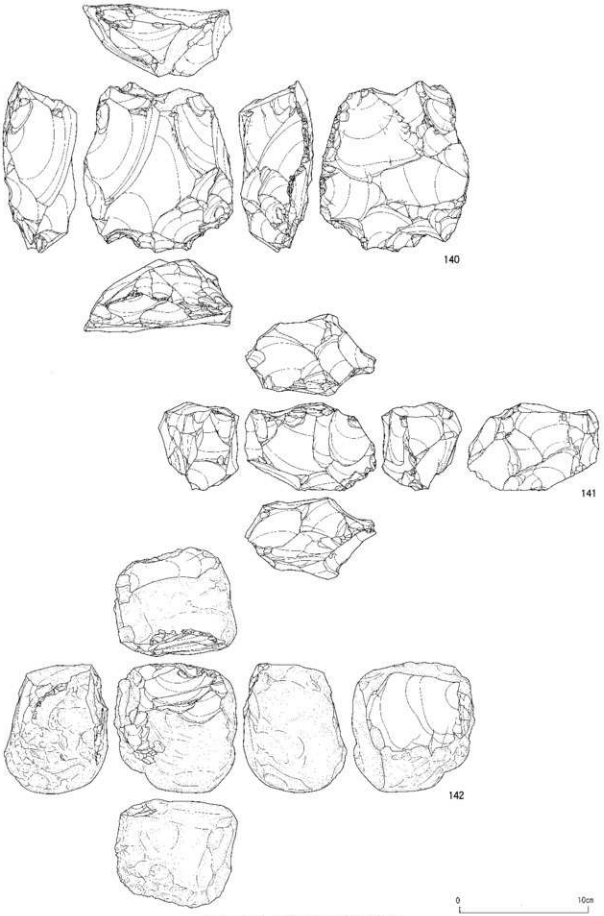
図Ⅲ－196　包含層出土の石器(12)



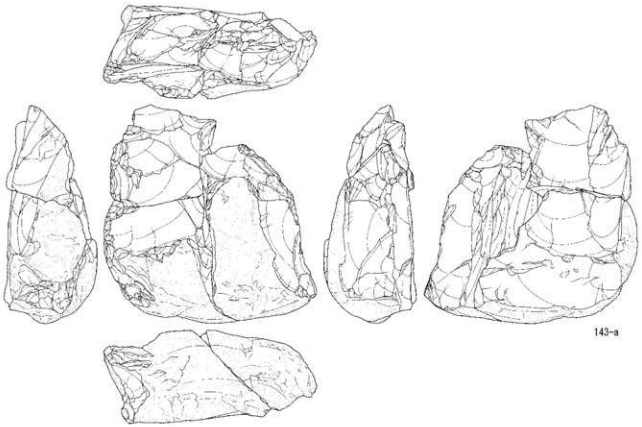
図Ⅲ－197　包含層出土の石器(13)

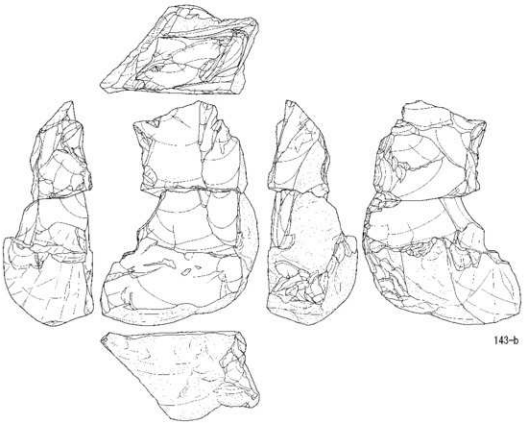


図Ⅲ－198　包含層出土の石器(14)



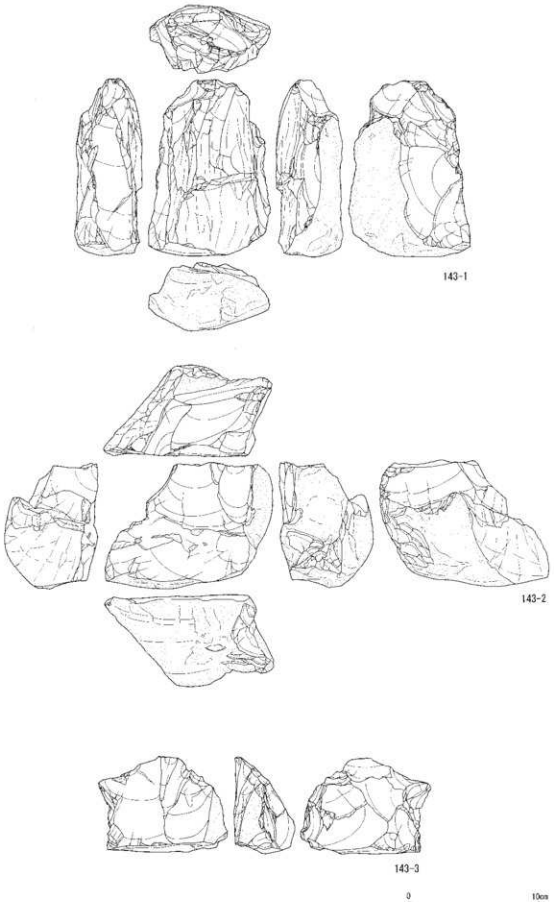
図Ⅲ－199　包含層出土の石器(15)



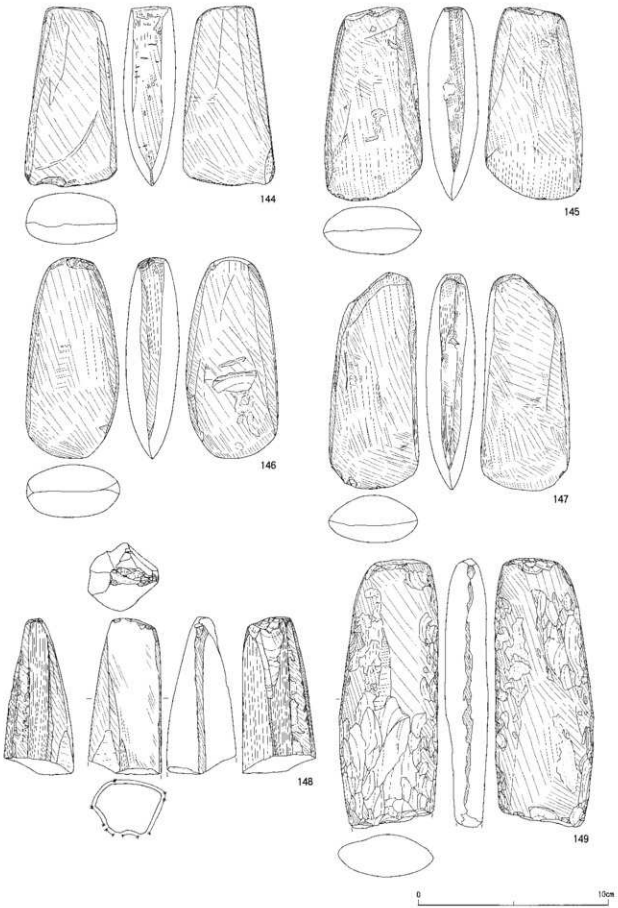


0　10cm

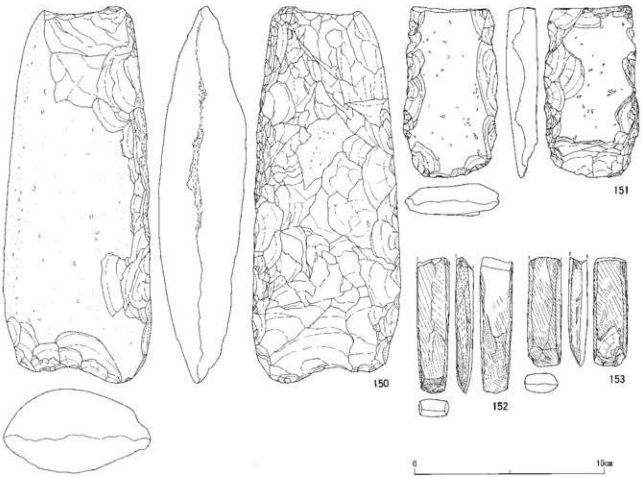
図Ⅲ－200　包含層出土の石器(16)



図Ⅲ－201　包含層出土の石器(17)



図Ⅲ－202　包含層出土の石器(18)



図Ⅲ－203　包含層出土の石器(19)

両面調整石器（図Ⅲ－194～196　120～130　図版148）

両面調整石器は99点出土し、11点を図示した。石材の内訳は頁岩93点（**120～123・125～130**）、凝灰岩２点、粘板岩１点（**124**）、メノウ１点、砂岩１点、泥岩１点である。

120～126は木葉形のもの。**120・121・124～126**は荒い両面加工により側縁を調整する。**122・123**は下端部に加工もしくは素材形状を利用してヘラ状の縁辺を設定した「ヘラ状石器」の可能性がある。**127・128**は円形のもの。荒い両面加工により側縁を調整する。側縁辺はジグザグである。**129・130**は不定形なもの。側縁にノッチ状の加工がみられる。

Ｒフレイク（図Ⅲ－196　132～133　図版148）

Ｒフレイクは315点出土し、２点を図示した。石材の内訳は頁岩311点（**132・133**）、メノウ３点、黒曜石１点である。被熱しているものは頁岩製の１点である。

132・133は側縁の一部にのみ荒い調整がみられるもの。

Ｕフレイク（図Ⅲ－196　131　図版148）

Ｕフレイクは182点出土し、１点を図示した。石材の内訳は頁岩180点（**131**）、メノウ１点、黒曜石１点である。

131は礫面が残るもの。側縁の一部に微細剥離痕がみられる。

楔形石器（図Ⅲ－196　134～136　図版148）

楔形石器は３点出土し、すべて図示した。石材の内訳は頁岩１点（**136**）、メノウ１点（**134**）、黒曜石１点（**135**）である。

134～136は一部に礫面を残す、一対の両極剥離痕がみられるもの。**134・135**は背面に、**136**は腹面にみられる。

石核（図Ⅲ－197～201　137～143　図版149・150）

石核は136点出土し、単体のもの６点と接合資料１点（２点の石核を含む）を図示した。石材の内訳は頁岩128点（**137～143**）、メノウ５点、珪質岩３点である。

137・138は背面を平坦に整形し、目的的な剥離を正面で行うもの。主に縦長の剥片を剥離している。上下から打面調整の剥離を行い、裏面の大型の剥離は打面再生を行っている。**137**は右側縁に連続的な調整剥離が残されている。**139・142・143**は原石の形状を変更していないもの。**139**は平坦な打面から、連続する縦長を指向する剥片を剥離するもの。**142**は自然面を打面とするもの。１回の剥離により階段状の剥離が生じて、そのまま遺棄される。Ｐ－14の坑底出土遺物（図Ⅲ－132－６）と最終剥離の形態が類似する。**143**は接合資料。**143－ａ**は側縁から縦長を指向する剥片を剥離している。その過程で**143－ｂ**と**143－１**となり、**143－ｂ**からはさらに２枚以上の縦長の剥片を剥離している。最終形態は**143－２**となる。**140**は周囲から求心的な剥離を行うもの。**141**は打面と作業面を入れ替えて不定形な剥片を剥離するもの。

フレイク

フレイクは22,984点出土し、図示したものはない。石材の内訳は概要に示した。被熱しているものは頁岩の73点、黒曜石の１点、砂岩の１点である。

石斧（図Ⅲ－202～203　144～153　図版151）

石斧は基部が残る石斧が40点、刃部や体部のみの石斧片が26点、合計66点出土し、10点を図示した。石材の内訳は緑色泥岩41点（**144・145・147・148・153**）、泥岩13点、砂岩４点（**146・149・150・152**）、粘板岩５点、凝灰岩２点（**151**）、頁岩１点である。被熱しているものは基部が残る石斧で、緑色泥岩製の２点（**145・147**）、泥岩製の１点である。なお、たたき石には石斧を転用したひん岩製のものが２点ある。

144～147は両刃の磨製石斧。**149**は磨製石斧の欠損品。敲打痕が明瞭に残る。**148**は擦り切り石斧の欠損品。**150・151**は未成品。**150**は厚みのある素材、**151**は薄い素材を利用する。**150**の片側縁には擦痕がある。**150・151**は偏平打製石器の可能性もある。**152・153**は小型で幅の狭い長めのもので、石鑿。

擦り切り残片

擦り切り残片は10点出土し、破片資料のため図示したものはない。石材の内訳は緑色泥岩７点、泥岩３点である。

偏平打製石器（図Ⅲ－204～205　154～164　図版151）

偏平打製石器は259点出土し、11点を図示した。石材の内訳は凝灰岩119点（158・161・163・164）、安山岩75点（154・155・160）、砂岩51点（156・157・159・162）、泥岩13点、デイサイト１点である。

被熱しているものは砂岩製の２点である。

すべての機能部には剥離痕が顕著にみられる。**154～160**は周縁に加工のあるもの。**154**は周縁全体に荒い調整がみられる。**160**は長方形に割られた素材を用いる。**161～164**は周縁に調整があまり無く、偏平な礫素材の形状を変更していないもの。擦痕は全体に亘る明瞭なもの（**154～156・162・164**）と一部に摩滅のような痕跡で残る不明瞭なもの（**157～161・163**）がある。

すり石（図Ⅲ－205　165～170　図版151）

すり石は46点出土し、６点を図示した。石材の内訳は砂岩32点（**166・167・170**）、安山岩７点（**165**）、凝灰岩６点（**169**）、閃緑岩１点（**168**）である。被熱しているものは砂岩製の１点である。

165～167・169は偏平な礫を素材とするもの。擦面の幅が狭いものである。**165・166**の断面は三角形で、「断面三角形すり石」に似る。**168・170**は厚みのある円礫を素材とするもの。**170**は擦面の幅が広いものである。**168**は凸面を擦るものである。擦面は２面みられる。

北海道式石冠（図Ⅲ－205　171～174　図版151）

北海道式石冠は５点出土し、４点を図示した。石材の内訳は砂岩４点（**171～174**）、安山岩１点である。

171は機能部に細かい敲打痕がある。**172・173**は機能部に使用の際の敲打によると考える剥離痕がある。**174**は両側縁からの打ち欠きがあることと厚みのある原石であることから未成品と考える。

砥石

砥石は３点出土し、破片資料のため図示したものはない。石材の内訳は泥岩２点、凝灰岩１点である。被熱しているものは凝灰岩製の１点である。

石鋸（図Ⅲ－206　175　図版152）

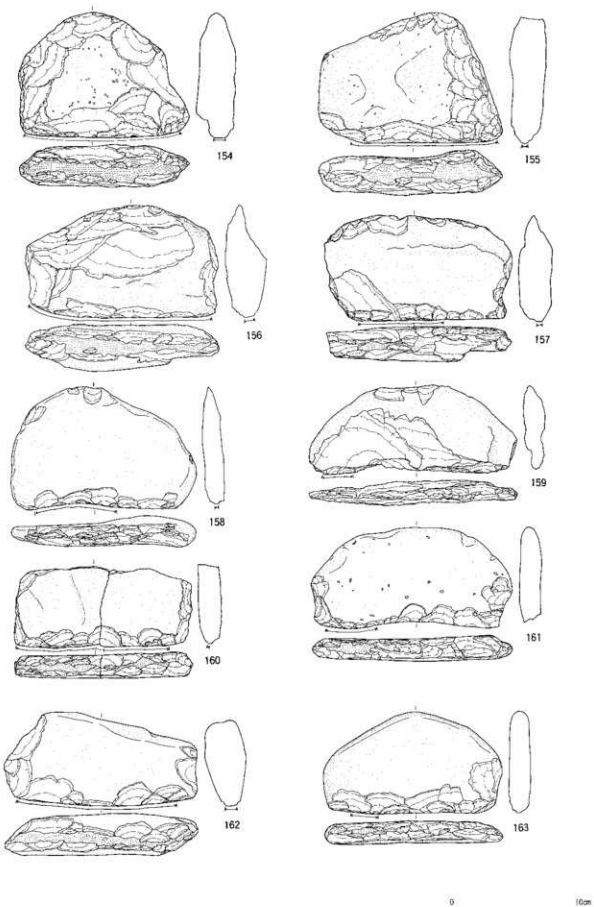
石鋸は３点出土し、１点を図示した。石材の内訳はすべて安山岩（**175**）である。

175は薄手の板状礫を素材とするもの。縁辺に幅の広い擦痕がみられることから、石斧の擦り切り作業に用いた可能性がある。

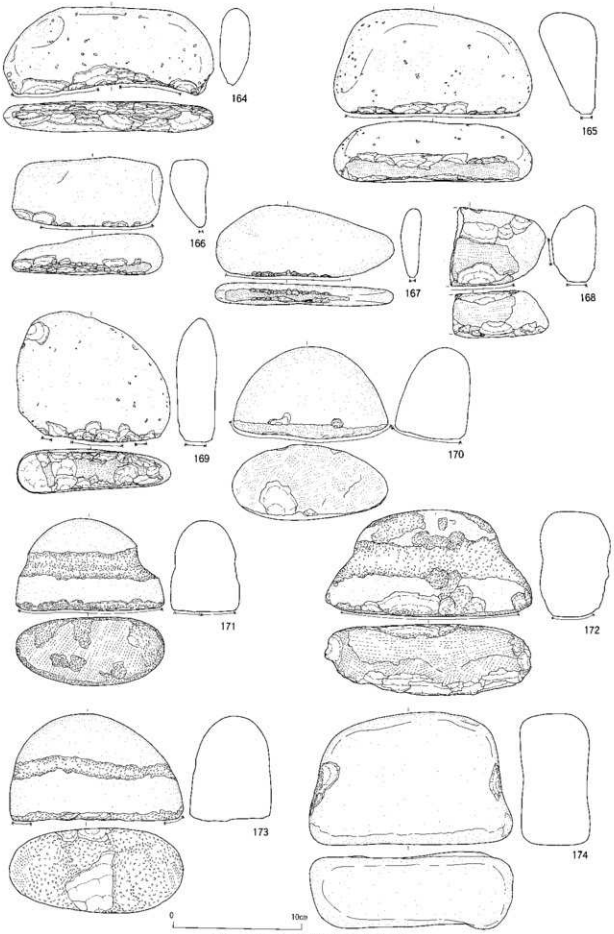
たたき石（図Ⅲ－206　176～184　図版152）

たたき石は148点出土し、９点を図示した。砂岩116点（**176・177・180～182**）、安山岩10点（**184**）、凝灰岩５点、珪質岩５点、泥岩４点、頁岩２点（**179**）、ひん岩２点（**178**）、粘板岩１点（**183**）、珪化木１点、花崗岩１点、石英岩１点である。ひん岩製の２点は石斧から転用したものである。被熱しているものは砂岩製の１点、安山岩製の１点である。

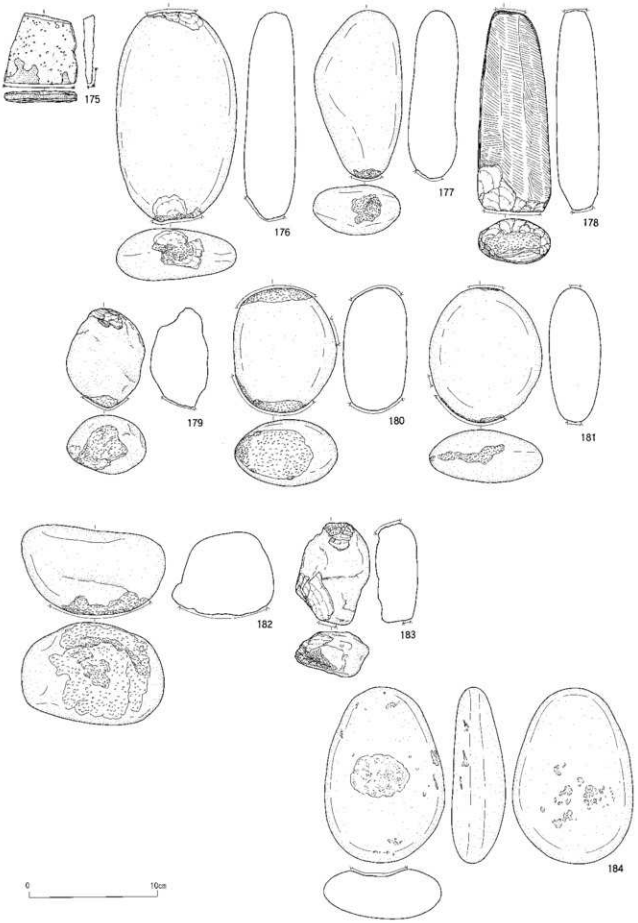
176～181・183は長軸に敲打痕のみられるもの。**176・177**は長軸方向に長い偏平な礫を素材とする。**178**は磨製石斧を転用する。**179・180・183**は厚みのある礫を素材とする。**181**は円形の偏平な礫を素材とする。**183**は長軸の一端にある明瞭な剥離の端部から礫面にかけての部分を敲打する。**182**は短軸に敲打痕のみられるもの。痕跡は顕著である。厚みのある礫を素材とする。**184**は幅の広い平坦面に敲打痕のみられるもの。楕円形礫の中心部付近に敲打痕がみられる。厚みのある礫を素材とする。



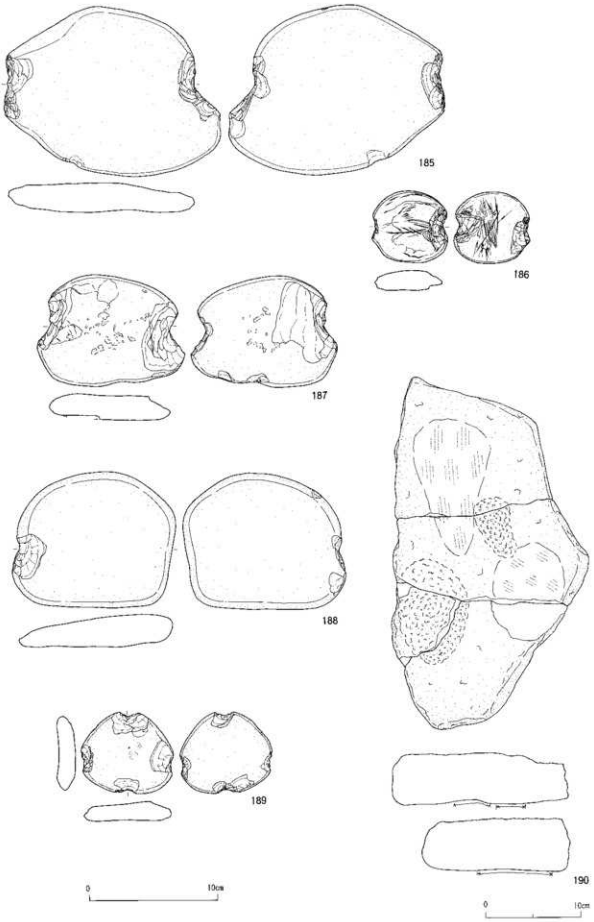
図Ⅲ－204　包含層出土の石器(20)



図Ⅲ－205　包含層出土の石器(21)



図Ⅲ－206　包含層出土の石器(22)



図Ⅲ－207　包含層出土の石器(23)

石錘（図Ⅲ－207　185～189　図版152）

石錘は23点出土し、5点を図示した。石材の内訳は砂岩9点（**187**）、凝灰岩8点（**185・188**）、泥岩2点（**189**）、安山岩1点、粘板岩1点（**186**）、珪化木1点、片麻岩1点である。被熱しているものは凝灰岩製の1点である。

185～187は長軸側の両端を打ち欠くもの。**186**は幅の広い平坦面の両側に線状の痕跡がみられる。**188**は長軸側の一端を打ち欠くもの。**189**は四方を打ち欠くもの。

台石・石皿（図Ⅲ－207　190　図版152）

台石・石皿は27点出土し、1点を図示した。石材の内訳は砂岩13点（**190**）、安山岩12点、凝灰岩1点、デイサイト1点である。被熱しているものは砂岩製の9点、安山岩製の2点である。

190は擦痕と敲打痕の両者がみられるもの。擦痕と敲打痕は幅の広い平坦面の一面に2ヵ所ずつみられる。擦面と敲打面は凹むものである。

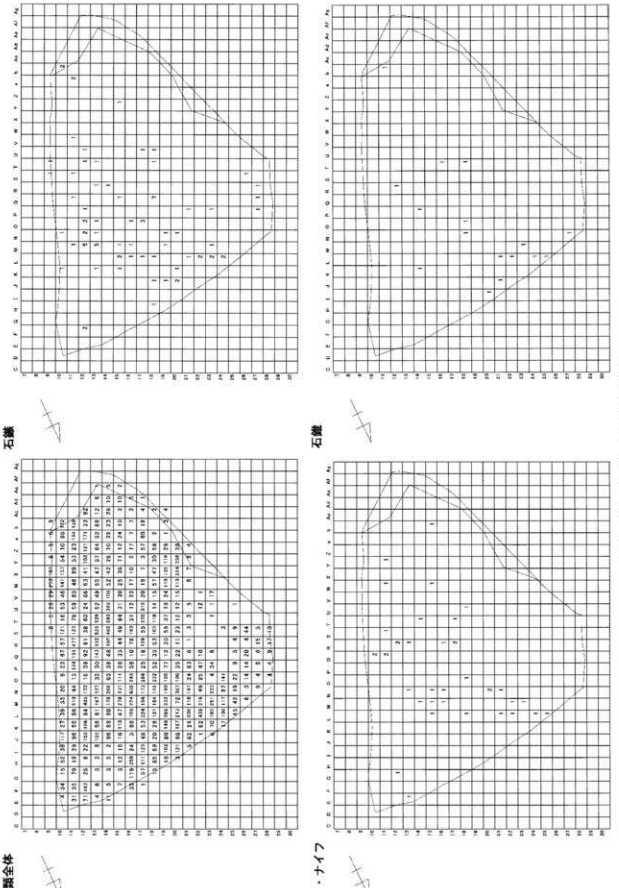
加工礫

加工礫は22点出土し、図示したものはない。石材の内訳は砂岩11点(50.0%)、凝灰岩5点(22.7%)、泥岩3点（13.6%）、粘板岩2点（9.1%）、安山岩1点（4.6%）である。被熱しているものは凝灰岩製の1点、安山岩製の1点である。

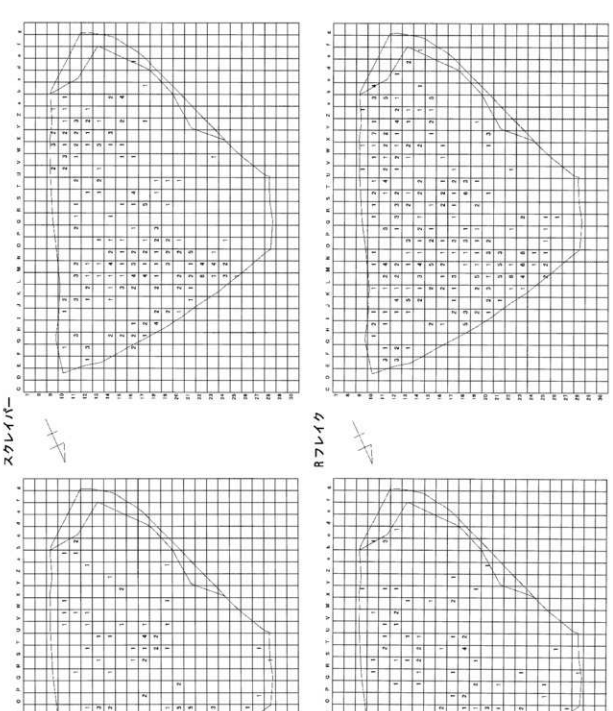
礫・礫片

礫・礫片は1,305点出土し、図示したものはない。石材の内訳は概要に示した。被熱しているものは623点（47.7%）である。以下に大きさ別でも示した。

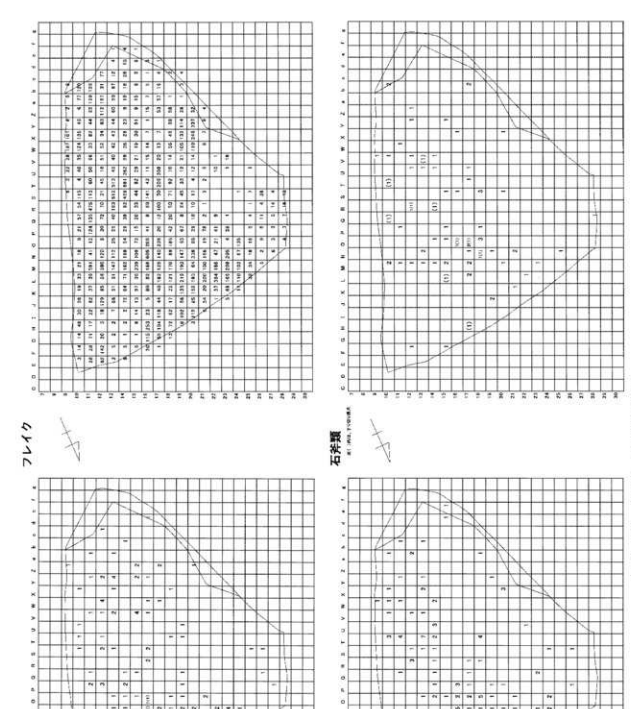
礫・礫片は、大きさにより、おおむね人頭大（30～40cm程度）の中型、それ以上の大型とそれ以下の小型に分けることができた。内訳は、小型の礫・礫片1,293点、中型の礫5点、大型の礫・礫片7点である。内訳では、中型の礫の破片（礫片）は小型の礫・礫片に含まれる。また、大きさ別で被熱しているものは小型の礫・礫片614点、中型の礫5点すべて、大型の礫4点である。このうち小型の礫10点、中型の礫1点は直線的な被熱痕跡があり、石組炉に用いられたものである。　（佐藤）



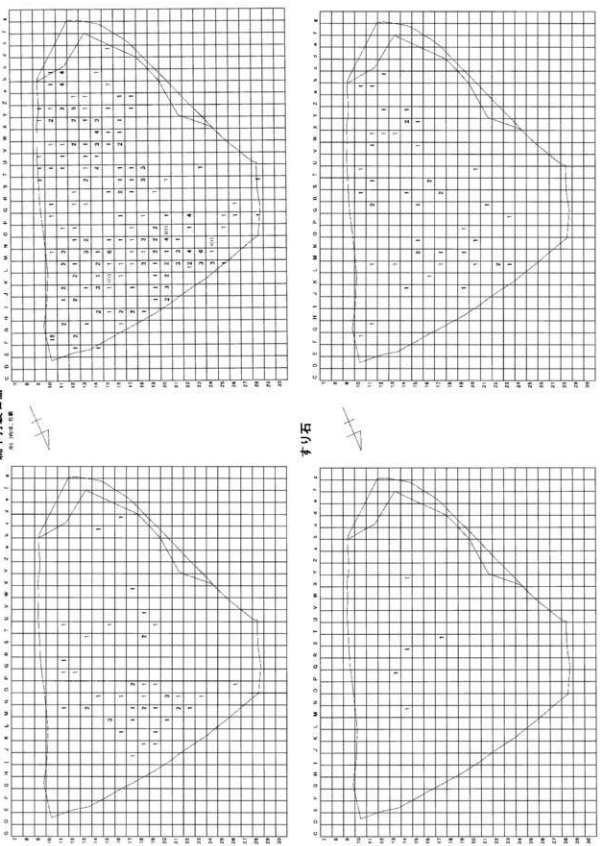
図Ⅲ－208 包含層 石器の分布(1)



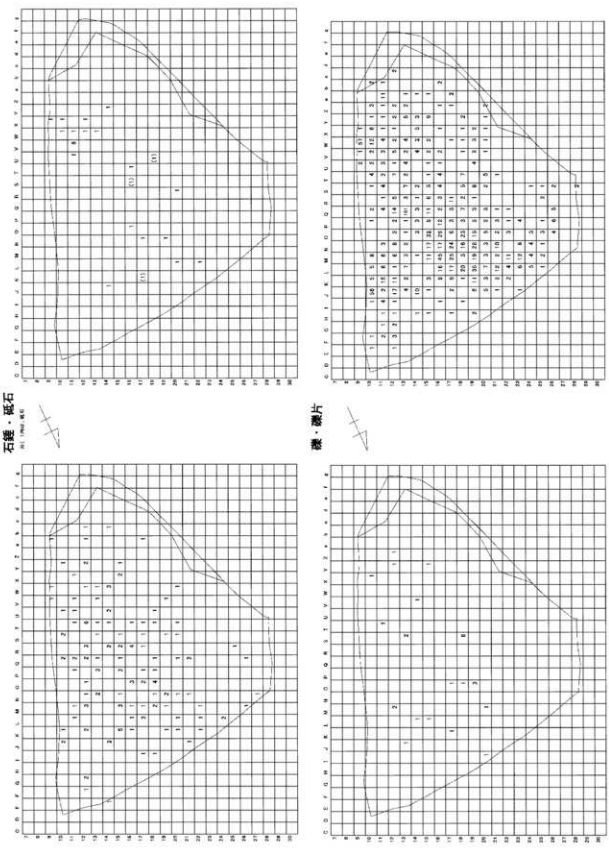
図Ⅲ－209　包含層　石器の分布(2)



図Ⅲ－210 包含層 石器の分布(3)



図Ⅲ－211　包含層　石器の分布(4)



図Ⅲ－212 包含層 石器の分布(5)

表Ⅲ－１　検出遺構規模一覧(1)

遺構名	調査面	位置	規模（m） 長軸 確認面／床面	短軸 確認面／床面	深さ	時期	備考
H－1	台地	16H－I・17H	5.10	5.30	0.26	縄文時代前期後半	
H－2	台地	21－25・N－O	6.49	5.27	0.26	縄文時代前期後半	
H－3	台地	21－25・N－O	5.67	4.56	0.32	縄文時代前期後半	
H－4	台地	9－10・V－Z	4.47	4.36	0.32	縄文時代中期末	
H－5	低湿域	9－10・V－Z	5.02	2.57	0.20	縄文時代中期末	
F－6	低湿域	10Gf・U－12・U・V	7.49	5.99	0.34	縄文時代中期末	
F－7	低湿域	9－10・a－12・b	6.48	4.10	0.26	縄文時代前期後半	
H－8	台地	9－10・L－N	6.30	4.47	0.46	縄文時代前期後半	
H－9	低湿域	9－10・U－V	2.75	2.75	0.32	縄文時代前期後半	
F－10	低湿域	10－15・a－b・14－15・Z	6.86	5.86	0.38	縄文時代前期後半	
H－11	低湿域	10・V－Z	5.10	3.53	0.30	縄文時代前期後半	
H－12	台地	21－25・N－O	6.10	5.95	0.37	縄文時代前期後半	
H－13	台地	21－25・L－M	5.19	4.70	0.42	縄文時代前期後半	
H－14	無河	10－11・Z－X	5.69	4.79	0.28	縄文時代前期後半	
H－15	低湿域	12－15・a－b	5.50	6.93	0.36	縄文時代前期後半	
H－16	低湿域	12－15・Z－b	5.60	6.56	0.36	縄文時代前期後半	
H－17	低湿域	12－13・Z	2.60	2.37	0.27	縄文時代中期末	
F－1	台地	10－11・G	5.60	0.80	0.64	縄文時代前期後半	
F－2	台地	10－11・G－	5.20	1.97	0.36	縄文時代前期後半	
F－3	低湿域	9－10・X－Y	1.52	1.29	0.84	縄文時代及川原	
F－4	無河	10－12・H	2.68	(1.36)	0.36	縄文時代早期	
F－5	無河	10－12・H	2.60	2.04	0.40	縄文時代早期	
F－6	低湿域	10・W－Z	0.60	0.54	0.16	縄文時代中期末	
F－7	低湿域	10・Y－Z	2.00	1.83	0.20	縄文時代中期末	
F－8	台地	20－G	1.37	0.83	0.35	縄文時代前期後半	
F－9	低湿域	10－a	1.43	0.40	0.20	縄文時代前期後半	柔片は　中期前半
F－10	低湿域	10－a	0.70	0.60	0.34	縄文時代前期後半	
F－11	無河	10－a	0.80	0.60	0.42	縄文時代前期後半	
F－12	無河	10－b	2.21	1.56	0.42	縄文時代前期後半	
F－13	台地	21－M	1.20	(0.63)	0.40	縄文時代前期後半	
F－14	無河	17－U	1.60	1.67	1.04	縄文時代前期後半	
F－15	低湿域	15－c	0.50	1.43	0.18	縄文時代中期末	柔片は　後期前葉
F－16	無河	17－b	1.53	0.87	0.36	縄文時代前期後半	
F－17	低湿域	9－a	0.93	0.81	0.44	縄文時代前期後半	
F－18	無河	16－T	1.40	0.96	0.30	縄文時代前期後半	― 中期前半
F－19	無河	17－W・W	1.65	0.81	0.42	縄文時代前期後半	― 中期前半
F－20	低湿域	11－b	2.50	1.84	0.38	縄文時代前期後半	
F－21	低湿域	11－b	0.64	0.56	0.36	縄文時代前期後半	
F－22	低湿域						
F－23	台地	19－P	1.35	0.82	0.40	縄文時代前期後半	
F－24	台地	20－O・P	1.27	0.93	0.42	縄文時代前期後半	
F－25	台地	21－L	1.15	0.83	0.34	縄文時代前期後半	
F－26	台地	17・18－P	0.78	0.55	0.24	縄文時代前期後半	
F－27	台地	20－L	0.79	0.70	0.12	縄文時代前期後半	
F－28	台地	20・21－L・M	0.79	0.70	0.12	縄文時代前期後半	
F－29	無河	9－U	1.62	0.94	1.32	縄文時代早期	
F－30	無河	9－U	0.62	(0.31)	0.30	縄文時代及川原	
F－31	無河	11－Z・Y	0.66	0.79	0.18	縄文時代　　縄調文	
F－32	台地	9－O	0.50	0.48	0.18	縄文時代前期後半	
F－33	無河	13－N	1.03	0.96	0.32	縄文時代前期後半	
F－34	台地	20－N	0.64	0.54	0.26	縄文時代前期後半	
F－35	無河	15－O	0.70	(0.55)	0.26	縄文時代前期後半	
F－36	無河	16－O	0.71	0.54	0.12	縄文時代前期後半	
F－37	低湿域	10－11・Z－a	1.66	1.38	0.30	縄文時代中期末	
F－38	低湿域	10－11・Z	1.97	1.24	0.30	縄文時代中期末	
F－39	低湿域	10－Z	(0.98)	0.79	0.20	縄文時代中期末	
F－40	低湿域	11－12・Z	2.18	1.88	0.42	縄文時代中期末	
F－42	低湿域	12－T・Z	0.90	0.88	0.30	縄文時代及川原	
F－42	無河	9－Z	0.82	0.61	0.36	縄文時代前期後半	
F－43	低湿域	12－13・a	2.29	(1.60)	0.39	縄文時代前期後半	
F－1	台地	17－M	1.12	0.96	0.14	縄文時代前期後半	
F－2	台地	17－M	0.91	0.44	0.06	縄文時代前期後半	
F－3	台地	15－16・K	1.52	0.84	0.36	縄文時代前期後半	
F－4	台地	18－19・L	1.62	0.75	0.32	縄文時代前期後半	
F－5	無河	16－K	0.99	0.46	0.07	縄文時代前期後半	― 中期前半
F－6	無河	16－K	0.76	0.42	0.15	縄文時代前期後半	
F－7	無河	16－L	1.18	0.45	0.08	縄文時代前期後半	
F－8	低湿域	10－V	0.72	0.64	0.08	縄文時代中期末	
F－9	低湿域	10－W	0.43	0.43	0.07	縄文時代中期末	
F－10	低湿域	10・V－W	1.51	0.63	0.07	縄文時代中期末	
F－11	低湿域	10－11・Z	0.70	0.58	0.15	縄文時代中期末	
F－12	無河	16－L	0.51	0.38	0.12	縄文時代早期	― 中期前半
F－13	無河	16－K	0.48	0.30	0.06	縄文時代早期	― 中期前半
F－14	無河	16－K	0.42	0.29	0.06	縄文時代早期	― 中期前半
F－15	低湿域	10－V	0.77	0.60	0.10	縄文時代前期後半	
F－16	台地	19－N	0.97	0.60	0.10	縄文時代前期後半	
F－17	台地	19－N	0.72	0.58	0.12	縄文時代前期後半	
F－18	台地	19－O	1.30	1.19	0.22	縄文時代前期後半	
F－19	低湿域	11－K・L	1.92	(1.11)	0.34	縄文時代及川原	
F－20	無河	17－L	0.99	0.50	0.03	縄文時代前期後半	― 中期前半
F－21	無河	17－L	1.30	0.46	0.11	縄文時代前期後半	― 中期前半
F－22	無河	17－L	0.34	0.32	0.08	縄文時代前期後半	― 中期前半
F－23	無河	17－L	0.34	0.43	0.07	縄文時代前期後半	― 中期前半
F－24	無河	18－O	0.64	0.22	0.12	縄文時代前期後半	― 中期前半
F－25	無河	18・19－T	0.75	0.40	0.12	縄文時代前期後半	― 中期前半
F－26	無河	18－T	0.50	0.40	0.12	縄文時代前期後半	― 中期前半
F－27	無河	18－T	0.43	0.31	0.08	縄文時代前期後半	― 中期前半
F－28	無河	19－Q	1.02	0.96	0.09	縄文時代早期	
F－29	無河	19－Q	1.24	0.59	0.15	縄文時代前期後半	
F－30	無河	20－L	0.41	0.32	0.06	縄文時代前期後半	
F－31	低湿域	10・11－M	1.31	1.12	0.12	縄文時代前期後半	
F－32	低湿域	11・12－K	0.80	0.21	0.02	縄文時代中期末	
F－33	無河	12－K	0.44	0.30	0.18	縄文時代前期後半	― 中期前半
F－34	低湿域	11・14－J	0.90	0.74	0.07	縄文時代前期後半	
F－35	低湿域	18－P	0.52	0.36	0.08	縄文時代中期末	
F－36	台地	19－O	0.61	0.46	0.08	縄文時代及川原	
F－37	台地	19－O	0.70	0.51	0.10	縄文時代及川原	
F－38	台地	19－O	0.40	0.29	0.12	縄文時代前期後半	
F－39	低湿域	12・7－U	1.00	0.56	0.09	縄文時代中期末	
F－40	台地	17－O	0.60	0.44	0.10	縄文時代前期後半	
F－41	台地	18－O	0.50	0.32	0.07	縄文時代前期後半	
F－42	台地	18－O	0.73	0.70	0.12	縄文時代前期後半	
F－43	低湿域	12－K	0.70	0.63	0.14	縄文時代前期後半	
F－44	無河	9－U	0.18	0.12	0.13	縄文時代早期	― 前期後半
F－45	無河	12－P	0.70	0.40	0.10	縄文時代早期	― 前期後半
F－46	無河	12－O	0.65	0.50	0.08	縄文時代早期	― 前期後半
F－47	無河	12－O	0.80	0.57	0.13	縄文時代早期	― 前期後半
F－48	無河	12－O	0.90	0.51	0.09	縄文時代早期	― 前期後半
F－49	無河	12－O	0.47	0.45	0.10	縄文時代早期	
F－50	低湿域	13－M	0.70	0.66	0.12	縄文時代前期後半	
F－51	無河	13－M	1.17	0.99	0.20	縄文時代早期	前期後半
F－52	低湿域	13－W	0.64	0.50	0.08	縄文時代中期末	
F－53	低湿域	13－W	0.67	0.49	0.09	縄文時代中期末	
F－54	低湿域	14－X	0.48	0.36	0.05	縄文時代前期後半	
F－55	低湿域	12－X	0.45	0.10	0.05	縄文時代前期後半	
F－56	低湿域	13－X・Y	0.92	0.59	0.04	縄文時代中期末	
F－57	低湿域	13－Y	0.57	0.50	0.04	縄文時代中期末	
F－58	低湿域	14－Y	0.40	0.27	0.03	縄文時代中期末	
F－59	無河	13－J・K	3.14	2.86	0.27	縄文時代及川前葉	
F－60	無河	13・14－K	(0.90)	(0.62)	0.17	縄文時代早期	― 前期後半
F－61	無河	11－P	1.31	0.99	0.13	縄文時代早期	― 前期後半
F－62	無河	11－M	0.40	0.30	0.10	縄文時代早期	― 前期後半
FC－1	無河	16－N	0.32	0.32	―	縄文時代前期後半	
FC－2	無河	16－O	0.27	0.26	―	縄文時代中期末	
FC－3	台地	15・16－O	1.31	0.78	0.03	縄文時代	縄調文時代

表Ⅲ－1　検出遺構規模一覧(2)

遺構名	調査者	位置	規模（m） 長軸 確認面／床面	短軸 確認面／床面	深さ	時期	備考
FC－4	佐藤剛	11－P	3.93	0.84	—	縄文時代前期後半	
FC－5	佐藤剛	20－W・X	5.22	3.30	—	縄文時代前期後半	
FC－6	佐藤剛	20－Y	3.22	2.80	—	縄文時代	
FC－7	佐藤	19－Q	0.78	0.42	—	縄文時代前期後半	
FC－8	佐藤剛	13－M・T	2.93	1.34	—	縄文時代前期後半	
FC－9	柳田	19－Q	0.52	(0.26)	0.22	縄文時代前期後半	
FC－10	柳田	13－S・T	0.41	—	—	縄文時代前期後半	←中期前半
FC－11	柳田	13－S	1.18	0.52	—	縄文時代前期後半	←中期前半
FC－12	柳田	12－M	0.73	0.41	—	縄文時代前期後半	
FC－13	佐藤剛	12－J・K	0.86	0.79	—	縄文時代前期後半	
FC－14	佐藤剛	12－J・K	0.62	0.45	—	縄文時代前期後半	
TP－1	佐藤	19－N・O	4.07	0.86	1.22	縄文時代前期後半	
TP－2	柳田	19－P・R	3.21	1.06	1.46	縄文時代前期後半	←中期前半
TP－3	柳田	19－R	1.84	1.00	1.90	縄文時代前期後半	←中期前半
TP－4	石井	17－N・O	2.40	0.62	1.34	縄文時代中期－後期	
TP－5	石井	15－J・H・I	3.26	0.37	0.46	縄文時代中期－後期	
TP－6	佐藤加藤	15－J	3.80	1.35	—	縄文時代	
遺物集中1	佐藤剛	9－V	0.79	0.52	—	縄文時代前期後半	
遺物集中2	佐藤剛	10－U・J	2.05	0.67	—	縄文時代前期後半	
遺物集中3	佐藤剛	10－Z	2.41	0.82	—	縄文時代中期前半	
遺物集中4	石井	10－Z・L・M	3.60	3.45	0.22	縄文時代前期後半	
遺物集中5	佐藤剛	10－a・b	1.26	0.71	—	縄文時代前期後半	
遺物集中6	佐藤剛	12－L	1.10	0.35	—	縄文時代中期前半	
遺物集中7	石井	22N	2.99	2.06	—		
遺物集中8	佐藤剛	10－U・V・Y・Z・U	4.08	0.61	—	縄文時代	
埋甘1群1	柳田	20－T	0.23	0.17	0.26	縄文時代前期後半	
埋甘1群2	柳田	20－U	0.19	0.15	0.26	縄文時代前期後半	
埋甘1群3	柳田	20－R	0.13	0.12	0.12	縄文時代前期後半	
埋甘1群4	柳田	19－P	0.16	0.15	0.37	縄文時代前期後半	
埋甘1群5	佐藤剛	11－M	0.20	0.25	0.20	縄文時代前期後半	
SP－1	佐藤剛	11－Q	0.23	0.21	0.16	縄文時代早期	←中期前半
SP－2	佐藤剛	11－Q	0.19	0.18	0.32	縄文時代早期	←中期前半
SP－3	佐藤剛	11－Q	0.07	0.12	0.32	縄文時代早期	←中期前半
SP－4	佐藤剛	11－Q	0.23	0.20	0.32	縄文時代早期	←中期前半
SP－5	佐藤剛	10－P	0.37	0.35	0.16	縄文時代早期	←中期前半
SP－6	佐藤剛	10－P・Q	0.27	0.23	0.12	縄文時代早期	←中期前半
SP－7	佐藤剛	10－P	0.52	0.26	0.45	縄文時代早期	←中期前半
SP－8	佐藤剛	10－P	0.30	0.30	0.44	縄文時代早期	←中期前半
SP－9	佐藤剛	11－P	0.21	0.10	0.07	縄文時代早期	←中期前半
SP－10	佐藤剛	11－P	0.20	0.12	0.10	縄文時代早期	←中期前半
SP－11	柳田	19－S	0.23	0.15	1.82	縄文時代早期	←中期前半
SP－12	柳田	19－S・R	0.28	0.25	0.32	縄文時代早期	←中期前半
SP－13	柳田	19－S	0.32	0.27	0.36	縄文時代早期	←中期前半
SP－14	柳田	19－S	0.32	0.27	0.36	縄文時代早期	←中期前半
SP－15	柳田	19－S・T	0.41	0.29	0.36	縄文時代早期	←中期前半
SP－17	柳田	17－M・N	0.26	0.25	0.23	縄文時代早期	←中期前半
SP－18	柳田	18－S	0.26	0.24	0.46	縄文時代早期	←中期前半
SP－19	柳田	18－S	0.41	0.27	0.32	縄文時代早期	←中期前半
SP－20	柳田	18－S	0.24	0.22	0.23	縄文時代早期	←中期前半
SP－21	柳田	18－T	0.31	0.29	0.31	縄文時代早期	←中期前半
SP－22	柳田	18－T	0.19	0.18	0.26	縄文時代早期	←中期前半
SP－23	柳田	18－N	0.22	0.18	0.23	縄文時代早期	←中期前半
SP－24	柳田	18－O	0.20	0.23	0.32	縄文時代早期	←中期前半
SP－25	柳田	18－N	0.25	0.23	0.17	縄文時代早期	←中期前半
SP－26	柳田	18－N	0.22	0.20	0.48	縄文時代早期	←中期前半
SP－27	柳田	18－N	0.18	0.15	0.07	縄文時代早期	←中期前半
SP－28	柳田	18－M	0.33	0.27	0.26	縄文時代早期	←中期前半
SP－29	柳田	18－M	0.23	0.20	0.09	縄文時代早期	←中期前半
SP－30	柳田	18－M	0.23	0.20	0.12	縄文時代早期	←中期前半
SP－31	柳田	18－M	0.24	0.24	0.42	縄文時代早期	←中期前半
SP－32	柳田	18－M	0.29	0.28	0.30	縄文時代早期	←中期前半
SP－33	柳田	18－M	0.26	0.19	0.26	縄文時代早期	←中期前半
SP－34	柳田	18－M	0.30	0.27	0.46	縄文時代早期	←中期前半
SP－35	柳田	18－N	0.16	0.13	0.06	縄文時代早期	←中期前半
SP－36	柳田	18－M	0.18	0.09	0.42	縄文時代早期	←中期前半
SP－37	柳田	18－M	0.22	0.18	0.16	縄文時代早期	←中期前半
SP－38	柳田	18－M	0.17	0.15	0.13	縄文時代早期	←中期前半
SP－39	柳田	18－M	0.19	0.17	0.24	縄文時代早期	←中期前半
SP－40	柳田	18－M	0.16	0.16	0.08	縄文時代早期	←中期前半
SP－41	柳田	18－N	0.20	0.20	0.09	縄文時代早期	←中期前半
SP－42	柳田	18－N	0.30	0.26	0.18	縄文時代早期	←中期前半
SP－43	柳田	18－N	0.27	0.23	0.26	縄文時代早期	←中期前半
SP－44	柳田	18－N	0.26	0.21	0.18	縄文時代早期	←中期前半
SP－45	柳田	18－N	0.35	0.32	0.16	縄文時代早期	←中期前半
SP－46	柳田	18－N	0.27	0.22	0.12	縄文時代早期	←中期前半
SP－47	柳田	18－N	0.28	0.26	0.10	縄文時代早期	←中期前半
SP－48	柳田	18－N	0.20	0.18	0.15	縄文時代早期	←中期前半
SP－49	柳田	18－N	0.33	0.29	0.12	縄文時代早期	←中期前半
SP－50	柳田	18－N	0.34	0.30	0.34	縄文時代早期	←中期前半
SP－51	柳田	18－N	0.36	0.30	0.08	縄文時代早期	←中期前半
SP－52	柳田	18－N	0.27	0.18	0.12	縄文時代早期	←中期前半
SP－53	柳田	18－N	0.28	0.26	0.23	縄文時代早期	←中期前半
SP－54	柳田	18－N	0.25	0.23	0.16	縄文時代早期	←中期前半
SP－55	柳田	18－N	0.22	0.20	0.06	縄文時代早期	←中期前半
SP－56	柳田	18－T・U	0.23	0.21	0.12	縄文時代早期	←中期前半
SP－57	柳田	18－U	0.22	0.21	0.12	縄文時代早期	←中期前半
SP－58	柳田	18－U	0.26	0.24	0.12	縄文時代早期	←中期前半
SP－59	柳田	18－U	0.28	0.26	0.22	縄文時代早期	←中期前半
SP－60	柳田	18－U	0.22	0.20	0.12	縄文時代早期	←中期前半
SP－61	柳田	18－U	0.18	0.16	0.08	縄文時代早期	←中期前半
SP－62	柳田	18－U	0.24	0.22	0.12	縄文時代早期	←中期前半
SP－63	柳田	17－S	0.33	0.28	0.36	縄文時代早期	←中期前半
SP－64	柳田	17－R	0.29	0.27	0.34	縄文時代早期	←中期前半
SP－65	柳田	17－R	0.18	0.15	0.08	縄文時代早期	←中期前半
SP－66	柳田	17－R	0.30	0.25	0.22	縄文時代早期	←中期前半
SP－67	柳田	17－U	0.30	0.28	0.36	縄文時代早期	←中期前半
SP－68	柳田	15－N	0.30	0.27	0.10	縄文時代早期	←中期前半
SP－69	柳田	17－T	0.41	0.30	0.46	縄文時代早期	←中期前半
SP－70	柳田	17－T	0.25	0.24	0.40	縄文時代早期	←中期前半
SP－71	柳田	17－M	0.10	0.27	0.24	縄文時代早期	←中期前半
SP－72	柳田	18－P	0.23	0.20	0.22	縄文時代早期	←中期前半
SP－73	柳田	18－Q	0.19	0.18	0.18	縄文時代早期	←中期前半
SP－74	柳田	18－Q	0.27	0.20	0.32	縄文時代早期	←中期前半
SP－75	柳田	18－Q	0.26	0.24	0.32	縄文時代早期	←中期前半
SP－76	柳田	18－Q	0.32	0.02	0.16	縄文時代早期	←中期前半
SP－77	柳田	18－Q	0.37	0.26	0.36	縄文時代早期	←中期前半
SP－78	柳田	18－Q	0.19	0.18	0.12	縄文時代早期	←中期前半
SP－79	柳田	18－Q	0.20	0.18	0.26	縄文時代早期	←中期前半
SP－80	柳田	18－S	0.22	0.19	0.25	縄文時代早期	←中期前半
SP－81	柳田	18－S	0.24	0.22	0.32	縄文時代早期	←中期前半
SP－82	柳田	18－S	0.24	0.22	0.23	縄文時代早期	←中期前半
SP－83	柳田	18－S	0.18	0.17	0.36	縄文時代早期	←中期前半
SP－84	柳田	18－S	0.20	0.19	0.16	縄文時代早期	←中期前半
SP－85	柳田	18－U・N	0.35	0.32	0.40	縄文時代早期	←中期前半
SP－86	柳田	18－P・N	0.30	0.28	0.16	縄文時代早期	←中期前半
SP－87	柳田	19－M	0.18	0.16	0.12	縄文時代早期	←中期前半
SP－88	柳田	19－M	0.18	0.16	0.10	縄文時代早期	←中期前半
SP－89	柳田	21－N	0.35	0.32	0.12	縄文時代早期	←中期前半
SP－90	柳田	21－N	0.24	0.22	0.10	縄文時代早期	←中期前半
SP－91	柳田	19－P	0.22	0.19	0.12	縄文時代早期	←中期前半
SP－92	柳田	19－Q	0.24	0.23	0.36	縄文時代早期	←中期前半
SP－93	柳田	19－Q・P	0.46	0.38	0.36	縄文時代早期	←中期前半
SP－94	柳田	19－P	0.24	0.22	0.32	縄文時代早期	←中期前半

表Ⅲ－1　検出遺構規模一覧(3)

遺構名	調査者	位置	規模（m） 長軸 確認面／床面	短軸 確認面／床面	深さ	時期	備考
SP－95	佐藤和雄	18　L	0.22	0.19	0.26	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－96	佐藤和雄	18　Q	0.22	0.20	0.21	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－97	佐藤和雄	18　Q	0.22	0.19	0.26	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－98	佐藤和雄	18　Q	0.22	0.18	0.26	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－99	和田	14　X	0.22	0.20	0.17	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－100	和田	14　X	0.24	0.23	0.26	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－101	和田	13　X	0.21	0.18	0.22	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－102	和田	13　X	0.21	0.18	0.26	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－103	和田	13　X	0.30	0.26	0.20	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－104	―	欠番	―	―	―	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－105	―	欠番	―	―	―	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－106	和田	13　X	0.23	0.21	0.22	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－107	和田	13　X	0.26	0.23	0.27	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－108	和田	13　X	0.27	0.22	0.12	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－109	和田	13　X	0.18	0.16	0.10	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－110	和田	13　X	0.35	0.33	0.26	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－111	和田	12　X	0.16	0.15	0.11	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－112	和田	12　X	0.27	0.23	0.20	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－113	和田	12　X	0.20	0.17	0.19	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－114	和田	12　X	0.24	0.23	0.27	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－115	和田	12　X	0.24	0.23	0.07	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－116	和田	12　X	0.27	0.26	0.11	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－117	和田	12　X	0.26	0.23	0.18	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－118	和田	12　X	0.26	0.24	0.22	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－119	和田	12　X	0.17	0.15	0.22	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－120	和田	12　X	0.26	0.24	0.12	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－121	和田	12　X	0.24	0.22	0.12	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－122	和田	12　X	0.23	0.21	0.15	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－123	和田	12　X	0.17	0.15	0.32	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－124	和田	12　X	0.25	0.22	0.22	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－125	和田	12　X	0.29	0.27	0.09	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－126	和田	11　X	0.26	0.24	0.11	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－127	和田	11　U　X	0.30	0.26	0.12	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－128	和田	11　X	0.20	0.18	0.24	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－129	和田	11　X	0.22	0.21	0.07	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－130	和田	11　X	0.25	0.20	0.13	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－131	和田	11　X	0.22	0.20	0.11	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－132	和田	11　X	0.24	0.18	0.22	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－133	和田	11　X	0.18	0.16	0.15	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－134	和田	11　X	0.19	0.15	0.16	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－135	和田	13　V	0.20	0.22	0.12	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－136	和田	13　V	0.26	0.23	0.07	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－137	和田	13　V	0.45	0.40	0.12	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－138	和田	13　V	0.26	0.22	0.12	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－139	和田	13　V	0.18	0.17	0.16	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－140	和田	13　V	0.27	0.20	0.06	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－141	和田	12　W	0.27	(0.15)	0.08	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－142	和田	12　W	0.20	0.19	0.12	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－143	和田	12　W	0.20	0.22	0.16	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－144	和田	12　W	0.20	(0.15)	0.12	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－145	和田	12　W	0.25	0.24	0.07	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－146	和田	12　W	0.20	0.18	0.10	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－147	和田	12　W	0.22	0.17	0.17	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－148	和田	12　W	0.16	0.13	0.12	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－149	和田	12　W	0.30	0.27	0.14	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－150	和田	12　W	0.27	0.24	0.30	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－151	和田	12　W	0.32	0.28	0.22	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－152	和田	13　X	0.24	0.18	0.12	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－153	和田	13　X	0.20	0.17	0.26	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－154	和田	13　X	0.21	0.20	0.14	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－155	和田	11　V	0.17	0.17	0.16	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－156	和田	11　V	0.17	0.15	0.06	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－157	和田	11　V	0.18	0.15	0.10	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－158	和田	11・12　V	0.19	0.18	0.08	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－159	和田	11　W	0.22	0.18	0.13	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－160	和田	11　W	0.32	0.31	0.20	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－161	和田	11　W	0.18	0.16	0.13	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－162	和田	11　W	0.17	0.14	0.13	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－163	和田	11　W	0.10	0.15	0.07	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－164	和田	13　W	0.20	0.19	0.22	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－165	和田	13　W	0.27	0.26	0.22	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－166	和田	13　W	0.20	0.15	0.14	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－167	和田	13　W	0.17	0.14	0.16	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－168	和田	13　W	0.24	0.23	0.19	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－169	和田	13　W	0.26	0.24	0.13	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－170	和田	13　W	0.19	0.26	0.26	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－171	和田	13　W	0.25	0.25	0.23	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－172	和田	12　V	0.15	0.14	0.07	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－173	和田	12　V	0.16	0.15	0.06	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－174	和田	12　V	0.21	0.20	0.36	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－175	和田	12　V	0.19	0.17	0.22	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－176	和田	12　V	0.19	0.17	0.14	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－177	和田	12　V	0.18	0.17	0.27	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－178	和田	12　V	0.24	0.17	0.14	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－179	和田	12　V	0.20	0.19	0.26	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－180	和田	12　V	0.21	0.19	0.23	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－181	和田	12　W	0.20	0.17	0.18	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－182	和田	12　V	0.26	0.23	0.12	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－183	佐藤和雄	14　W	0.23	0.22	0.15	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－184	―	欠番	―	―	―	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－185	―	欠番	―	―	―	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－186	―	欠番	―	―	―	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－187	佐藤和雄	16　V	0.10	0.18	0.18	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－188	佐藤和雄	12　W	(0)2	0.14	0.12	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－189	佐藤和雄	14　X	0.22	0.19	0.26	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－190	佐藤和雄	14　X	0.20	0.18	0.16	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－191	佐藤和雄	16　Z	0.20	0.18	0.14	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－192	佐藤和雄	12　Y	0.23	0.20	0.26	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－193	佐藤和雄	10・11　Y	0.23	0.22	0.44	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－194	佐藤和雄	10　Y	(0.20)	(0.20)	0.35	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－195	佐藤和雄	11　U	0.18	0.17	0.13	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－196	佐藤和雄	13　V	0.21	0.20	0.10	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－197	佐藤和雄	13　V	0.22	0.21	0.10	縄文時代早期 ― 中世前半	
SP－198	佐藤和雄	11　V	0.21	0.19	0.13	縄文時代早期 ― 中世前半	

表Ⅲ－２　遺構出土遺物一覧表

| 遺構番号 | 種別 | 土師 | 須恵 | 須恵 | 灰釉 | 灰釉 | 緑釉 | 赤彩 | 赤彩 | 石製品 | 石製品 | 石製品

表Ⅲ－３　遺構別出土遺物一覧(2)

| 遺構 | 種別 | 土師 | | 須恵 | | 瓦質 | | 陶磁器 | | 石製品 | 石器 | | 土製品 | | 鉄製品 | | |

表Ⅲ－3　遺構別出土遺物一覧(3)

| 年度 | 遺跡 | 弥生 | | | | | | | | 古墳 | 須恵器 | | | | | | | |

表Ⅲ－３　遺構別出土遺物一覧(4)

| 遺構 | 種別 | 土師 | 須恵 | 瓦器 | 陶磁器 | 不明 | 石器・石製品 | 石錘 | 石鏃 | 石器 | 石核 | 剥片 | 砥石 | 凝灰岩石製品 | ガラス石製品 | 鉄製品 | 銅製品 | 金属製品 | 不明 | 土錘 | 紡錘車 | 石製品 | 石製品 | 石製品

表Ⅲ－３　遺構別出土遺物一覧(5)

| 遺構 | 種別 | 土師 | 須恵 | 瓦器 | 磁器 | 陶器 | 写真 | 種別 | 石製品 | 土錘 | 石器 | 石器 | 石器 | 石器 | 中国 | 朝鮮 | ベトナム | 和歌山 | ベトナム | ベトナム | フレコ | 石製 | 瓦製 | 瓦器 | 石製 | 石製 | 石製

表Ⅲ－4　遺構　石組炉の構成礫一覧

遺構名	取上げ番号	分類	円摩度による形状	石質	重量(kg)	備考	時期
H－15　HF－1	224	礫	円礫	安山岩	3.25		縄文時代中期前半
H－15　HF－1	225	礫	円礫	砂岩	2.20	被熱	
H－15　HF－1	226	礫	円礫	砂岩	1.90		
H－15　HF－1	227	礫	円礫	安山岩	1.60	被熱	
H－15　HF－1	228	礫	円礫	砂岩	0.80		
H－15　HF－1	229	礫	円礫	砂岩	0.95	被熱	
H－15　HF－1	230	—	—	—	—	欠番	
H－15　HF－1	231	礫	円礫	砂岩	0.35		
H－15　HF－1	232	礫	円礫	砂岩	0.90		
H－15　HF－1	233	礫	円礫	砂岩	0.35		
H－15　HF－1	234	礫	円礫	安山岩	3.00		
F－3	5	礫	円礫	安山岩	20.50	被熱	縄文時代前期後半
F－3	7	礫	円礫	砂岩	9.70	被熱	
F－3	10・11	10礫・11礫片	円礫	砂岩	5.90	被熱	
F－3	12	礫	円礫	安山岩	13.00	被熱	
F－3	14	礫	円礫	安山岩	15.50	被熱	
F－3	15	礫	円礫	安山岩	2.80	被熱	
F－4	6	礫片	円礫	砂岩	2.95	被熱	縄文時代前期後半
F－4	9	礫	円礫	安山岩	3.80	被熱	
F－4	11	礫片	円礫	砂岩	3.50	被熱	
F－4	13・14	13礫・14礫	円礫	凝灰岩	2.60	被熱	
F－4	15	礫	亜円礫	泥岩	6.20	被熱	
F－4	16	礫	亜円礫	砂岩	9.95	被熱	
F－4	17	礫	円礫	砂岩	0.55	被熱	
F－18	3	台石片	円礫	砂岩	3.20	被熱	縄文時代前期後半
F－18	5	礫	円礫	砂岩	18.00	被熱	
F－18	6	礫	円礫	砂岩	13.60	被熱	
F－18	14	礫	円礫	安山岩	19.50		
F－19	4	礫	円礫	礫岩	2.15	被熱	縄文時代後期前葉
F－19	5	礫	円礫	砂岩	3.05	被熱	
F－19	6	礫	円礫	安山岩	2.95	被熱	
F－19	7	礫	円礫	砂岩	6.55	被熱	
F－19	8	礫	円礫	安山岩	3.10	被熱	
F－19	9	礫	円礫	砂岩	2.90	被熱	
F－59	13	礫	円礫	砂岩	7.60	被熱	縄文時代後期前葉
F－59	14	礫	円礫	安山岩	8.90	被熱	
F－59	15	礫	円礫	砂岩	2.70	被熱	
F－59	16	礫	円礫	安山岩	6.30	被熱	
F－59	17	礫	円礫	砂岩	6.10	被熱	
F－59	18	礫片	円礫	砂岩	2.40	被熱	
F－59	19	礫	円礫	砂岩	0.25	被熱	
F－59	20	礫	円礫	砂岩	5.50	被熱	
F－59	21	礫	円礫	砂岩	3.20	被熱	
F－59	22	礫片	円礫	安山岩	5.65	被熱	
F－60	14	礫	円礫	砂岩	4.80	被熱	縄文時代後期前葉
F－60	15	礫	円礫	砂岩	2.25	被熱	
F－60	17	礫	円礫	砂岩	2.85	被熱	
F－60	18	礫	円礫	砂岩	2.15	被熱	
F－60	19	礫	円礫	安山岩	2.25	被熱	
F－60	20	礫	円礫	安山岩	4.40	被熱	
F－60	21	礫	円礫	砂岩	4.00	被熱	
F－60	22	礫	円礫	砂岩	1.70	被熱	
F－60	23	礫	円礫	砂岩	2.50	被熱	
F－60	24	礫	円礫	砂岩	3.05	被熱	

※重量：15kg未満は0.05kg単位、15kg以上は0.5kg単位で計測

表Ⅲ－5　遺構掲載土器一覧(1)

掲載番号	遺構名	出土・焼成・破片					出・焼成未現存破片				分類	復元径(cm)			調査	口唇部(胴部)					体部(胴部)				底部(胴部)			他(胴部)	比較する型式
		調査区・地種	種別	器形	遺物番号	点数	調査区・遺構	種別	器形	遺物番号	点数		口径	底径	器高		形状	厚さの変化	除痕による軟化	口唇の装飾	略文・施文	略文・施文	円盤模様	略文・施文	形状	厚さ	円盤模様		
図Ⅲ－95－1	H－1	M－1	縄土土	26	1	H－1	縄土中	52	9	Db	(20.3)	(10.7)	(43.0)	開反	やや外反	有	除痕による軟化	有	条痕	早期沿行縄文→ナデ 体部中央条痕文	1ガキ 横	—	上げ底	縄痕 海綿骨針				円筒土器下層B式(和台下)下層B式(八ヶ岳相)
		M－1	縄土土	25	5	H－1	縄土中	52	1																				
		M－1	縄土土	26	2																								
		M－1	縄土土	52	58																								
		M－1	縄土中	52	43																								
図Ⅲ－95－2	H－1	M－1	縄土土	1	1	10H	工短		6	Ma	(17.8)	(9.2)	(8.8)	開反	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイハ様式	
		M－1	縄土土	2	1	10H	縄短		13																				
		10H	工短	3	1	12H	縄短		1																				
		10H	工短		7	表採			2																				
		10H	縄短		2																								
図Ⅲ－95－3a	H－1	M－1	縄土土	53	1	H－1	縄土土	28	1	Db	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	複段沿行縄文施ナデ	1ガキ（条痕有）	—	—	縄痕多 ※2mm前後 円盤 1～2％				下層B式
		M－1	縄土土	52	4	H－1	縄土土	43	1																				
		M－1	縄土中	52	4	H－1	縄土中	43	1																				
						H－1	縄土土	53	7																				
図Ⅲ－95－3b	H－1	M－1	縄土土	53	3	H－1	縄土土	57	2		—	—	—	底部	—	—	—	—	—	複段沿行縄文	1ガキ	1ガキ	上げ底	縄痕多 ※2mm前後 円盤 1～2％				
		M－1	縄土土	57	4	H－1	縄土中	224	1																				
							縄土土	269	1																				
図Ⅲ－95－1	H－2	M－2	縄	42	9	H－2	縄土中	73－1	4	Db	(15.5)	(9.8)	17.3	開反	やや外反	無	—	有	結束第1種沿沿縄文	熱点文の線行	1ガキ	縄文→ナデ	上げ底	縄痕多 海綿骨針 皮膜				下層B式
		M－2	縄土	44－1	3	M－2	HP－5	縄土	44－1	1																			
		M－2	縄土	44－2	3																								
図Ⅲ－95－2	H－2	M－2	縄土下	13	66	H－2	縄土下	13	38	Ma	(31.4)	—	(36.75)	開反（底部）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイハ様式	
		M－2	縄土土	66－2	5	H－2	縄土	66－2	2																				
		M－2	縄土下	62－2	1	H－2	縄土	62－2	1																				
		M－2	未採記		2	H－2	縄土下	62－2	1																				
		M－2	未採記	1	1	未採記		13	18																				
							縄土下	13	18																				
図Ⅲ－95－3a	H－2	25K	縄			H－2	縄土中	73－1	1	Db	—	—	—	口縁	やや外反	無	—	有	不規則沿文	附加条文	1ガキ	—	—	縄痕 海綿骨針 皮膜				下層B式
						25K	縄		5																				
						25M	縄		4																				
図Ⅲ－95－3b	H－2	M－2	縄土	66－1	4						—	—	—	体部	—	無	—	有	不規則沿文	附加条文	1ガキ	—	—	縄痕 海綿骨針 皮膜				
図Ⅲ－95－4	H－2	M－2	縄土下	92－1	2					Db	—	—	—	口縁	やや外反	無	—	有	不規則条 結束1類	熱点文の線行	縄痕による線条	—	—	縄痕多 海綿骨針				下層B式
図Ⅲ－95－5	H－2	M－2	縄土土	114	1					Db	—	—	—	口縁	やや外反	無	—	有	不規則沿三沿縄	附加条文	1ガキ	—	—	縄痕多 ※1mm前後1％ 海綿骨針				下層B式
		M－2	縄中中	117	1																								
図Ⅲ－95－6	H－2	M－2	縄土中	45－1	2					Db	—	—	—	口縁	やや外反	無	—	有	結束第1種沿沿縄文	—	縄痕による線条	—	—	縄痕多 海綿骨針				下層B式
図Ⅲ－95－7	H－2	M－2	縄	35	3	H－2	縄土中	73－1	11	Db	—	—	—	口縁～体部	直立	無	—	有（狭い無文帯有）	無文	自縄沿巻縄文	沿沿分1ガキ	—	—	縄痕 海綿骨針				下層d1式
		M－2	縄土土	96－1	2	H－2	縄土中	81－1	1																				
						H－2	縄土下	84－1	1																				
						H－2	縄土土	66－1	7																				
						H－2	縄	11	1																				
図Ⅲ－95－8a	H－2	26Q	縄		3	17Z	縄		1	Db	—	—	—	底部	—	有	—	有	—	横状条痕	1ガキ	—	—	縄痕多 海綿骨針 ※1mm 縄痕多				下層d2式
図Ⅲ－95－8b	H－2	26P	縄		4	25O	縄		1	Db	—	—	—	体部	—	—	—	—	—		—	—	—					
		25O	縄		1	26P	縄		5																				
図Ⅲ－95－8c	H－2	M－2	縄土	66－1	1						—	—	—	底部	—	—	—	—	—		—	—	—					
図Ⅲ－95－9a	H－2	M－2	縄土	66－2	2	H－2	縄土	66－2	32	Ma	—	—	—	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				サイハ様式
図Ⅲ－95－9b		M－2	縄土	96－2	3	H－2	縄土	62－2	1					底部															
		M－2	縄土下	13	1	H－2	縄土	69－2	1																				
						H－11	縄土土	1－1	2																				
						H－11	縄土	63	1																				
						H－2	縄土下	13	1																				
図Ⅲ－95－1	H－3	M－3	縄土中	89－1	5	H－3	縄土中	89－1	2	Na	(14.4)	(6.5)	13.8	開反	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式	
		M－8	縄土土	260－2	3	H－8	縄土土	260－2	2																				
		M－8	縄土中	263－2	1																								
		M－8	縄土土	265－2	1																								
図Ⅲ－95－2a	H－3	28K	縄		2	11u	縄		1	Ma	—	—	—	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイハ様式	
図Ⅲ－95－2b		M－3	縄中中	147－2	1	18	縄		1		—	—	—	口縁～胴部	—	—	—	—	—		—	—	—						
		28K	縄		1	28K	縄		10																				
図Ⅲ－95－2c					3	28K	縄		6		—	—	—	底部	—	—	—	—	—		—	—	—						
						28L	縄		1																				

表Ⅲ－5　遺構掲載土器一覧(2)

掲図番号	遺構名	出土・現存・破片			出土・現存・破片の続き		出土・現存・未現存破片			分類	焼成			器形	口縁部			体部				底部		胎土	比定する型式
		遺物番号	遺物名・種類	破片	遺物番号	点数	遺物名・種類	破片	遺物番号	点数		口縁	胸部	底部	器高	形式	形式の変化	特徴	口径の比率	底・胸文	胸文	胸部	形式	粗砂	細砂含む	縄線羽文
図第－95－3	H－3	H－3	須土下	121－1	1						Ⅰb	—	—	—	無底	—	—	—	—	—	縄文	—	—	—	砂含む	縄線羽文
図第－95－4	H－3	H－3	須土中	147－1	1						Ⅱb	—	—	有	鉢型文	—	—	—	—	—	—	—	—	縄線	海綿骨針	下駄ｂ式
図第－95－5	H－3	H－3	須土上	115	1						Ⅱb	—	—	—	口縁底	直文	—	—	—	単軸縄条	体第1類	縄線網目	—	—	縄線 海綿骨針	下駄ｂ式
図第－95－6	H－3	H－3	埋	38	1						Ⅱb	—	—	—	底底	—	—	—	—	—	黒色芯の縁行	ナデ	—	—	縄線 海綿骨針	下駄ｂ式
図第－95－7	H－3	H－3	埋	51	1	H－2	埋	51	1	Ⅱb	—	—	—	無底	—	—	—	—	—	複線縄文	縄線網目	上ガキ	—	—	縄線 海綿骨針	下駄ｂ式
図第－95－8	H－3	H－3	埋	15	1						Ⅱb	—	—	—	無底	—	—	—	有	流線	黒色芯の縁行	縄線網目	—	—	縄線 海綿骨針	下駄ｂ式
図第－96－1	H－4	H－4 H－4	須土下 須土上	10 52－1	1 2						Ⅱb	—	—	—	口縁 ／ 体底	直文	無	—	無	—	複線縄文	ナデ 縄線による網目	—	—	縄線 海綿骨針	下駄ｂ式
図第－96－2	H－4	H－4 H－4	須土中 須土上	36 42－1	4 3	H－4	須土	56	3		Ⅱb	—	—	—	口縁 ／ 体底	直文	無	—	無	—	複線縄文	ナデ，縄線による網目	—	—	縄線 海綿骨針	下駄ｂ式
図第－96－3	H－4	H－4	須土上	42－1	3						Ⅱb	—	—	—	口縁 ／ 体底	やや外反	有	鉢型文	有	不整縄条と三叉線	複線縄文	上ガキ	—	—	縄線 海綿骨針	下駄ｂ式
図第－96－4	H－4	H－4 16M	須土中 黒	64 11	2 1	H－4 16M 16N 16O 16Q	須土中 黒 I 黒 黒	64	3 6 1 3 1		Ⅱb	—	—	—	口縁 ／ 体底	やや外反	有	縄による鉢型文	有	不整縄条と三叉線	上下：複線文と三叉線 下下：鉢型文に混線	ナデ調整	—	—	縄線 海綿骨針	下駄ｂ式
図第－96－5	H－4	H－4 H－4	須土上 須土上	1 4－1	22 1	H－4 H－4 H－4 H－4 H－4 H－4	須土上 須土 須土上 須土上 須土上 須土上	1 24 25 42－1 47－1 49－1	6 1 1 5 1 1		Ⅱb	—	—	—	口縁 ／ 体底下半	やや外反 小底底？	無	—	有	単軸縄条体第1類 小横行 流線	単軸縄条体第1類 ＋ 不整縄線文	上ガキ	—	—	縄線 海綿骨針 少量	下駄ｂ式
図第－97－1	H－5	H－5 H－5	須土下 須土上	34 34	3 3	H－5 H－5	須土下 須土下	5 34	1 1	Ⅲa	(9.0)	(—)	(8.6)	現元 （体底欠）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ類式
図第－97－2	H－5	H－5 H－6 ＋4 HP－1 H－5	埋 須土上2 須土1 埋	38－2 272 558 42	3 29 23 2	H－11 H－6 6区 6区	須土1 須土上1 表採 表採	54 272 表採 表採	1 1 1 11	Ⅲa	28.8	(9.2)	44.1	現元	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ類式
図第－98－3	H－5	H－5 H－6 H－6 H－6 H－6 H－6 12E 12W	埋 須土2 須土2 須土2 須土2 須土2上 黒 黒	60 171 177 176 179 267	6 1 2 1 1 1 1	H－3 H－6 H－10 H－10 H－10

表Ⅲ－5　遺構掲載土器一覧(3)

遺構番号	遺構名	掲載土器番号	器種	器形	遺物番号	点数	接合土器番号	器種	器形	遺物番号	点数	分類	土器法量(cm) 口径	底径	器高	備考	口縁部 形状	口縁部 角度の変化	口縁部 口唇の加工	口縁部 口唇の変化	口縁部 施文	体部(底部を除く) 施文・施文	体部(底部を除く) 内面調整	底部(底部を除く) 調整	底部(底部を除く) 形状	脚台(底部を除く)	出土する型式
図Ⅲ－101－5	H－6	H－6	鉢		121	1	H－6	鉢	土	285	1	Ⅲa	(26.8)	(－)	(21.5)	復元	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ様式
		H－6	鉢	土2.1	223	46	H－6	鉢	土1.	223	52																
		H－6	鉢	土3.1	271	7	未出記	鉢	土3.1.	223	12																
							H－6	鉢	土1.1.	224	1																
							H－6	鉢	土3.1.	271	15																
							未出記	鉢	土2.1.	271	16																
							H－6	鉢	土1.1.	368	1																
							11W				2																
							1W				5																
							11Z				1																
							12W				2																
							19W				1																
図Ⅲ－101－6	H－6	H－6	鉢	土3.1.	225	27						Ⅲa	(12.6)	6.2	15.3	復元	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ様式
図Ⅲ－102－7	H－6	H－6	鉢	土2.1.	224	19	11W	器			3	Ⅲa	(－)	10.3	(20.4)	復元(脚部・底部)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ様式
		H－6	鉢	土1	106	1																					
		12W	器			4																					
		13W	器			3																					
図Ⅲ－102－8	H－6	H－6	鉢	土1.1	62	2						Ⅲa	26.3	(7.5)	22.9	復元	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ様式
		H－6	鉢	土1.2	142	1																					
		H－6	鉢	土1.2	142	1																					
		H－6	鉢	土1.2	148	5																					
		H－6	鉢	土2.2	150	1																					
		12W	器			20																					
図Ⅲ－102－9	H－6	H－6	鉢	土1.1	99	1	H－6	鉢	土1	105	2	Ⅲa	(16.2)	5.9	(18.5)	復元	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ様式
		H－6	鉢	土1.1	105	1	H－6	鉢	土3.1.	228	2																
		H－6	鉢	土2.2	208	2	F－50	器		6	1																
		H－6	鉢	土3.1.	221－1	3	12W	器			1																
		H－6	鉢	土3.1.	224	2																					
		H－6	鉢	土3.1.	225	1																					
		H－6	鉢	土3.1.	228	25																					
		H－6	鉢	土3.1.	260	1																					
		H－15	鉢	土3.1.	121	1																					
		F－31	器		4	1																					
		13W	器			1																					
		15W	器			5																					
図Ⅲ－102－10	H－6	H－6	鉢	土3.1.	222	29	H－6	鉢	土3.1	222	3	Ⅲa	21.5	6.6	24.1	復元	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ様式
図Ⅲ－102－11	H－6	H－6	鉢	土3.1.	271	3						Ⅲa	25.9	9.2	27.8	復元	—	—	—	—	—	—	—	—	—		サイベ様式
図Ⅲ－103－12	H－6	H－6	鉢	土1.1	34	7	H－6	壺		280	9	Ⅲa	(27.4)	8.9	40.2	復元	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ様式
		H－6	鉢	土2.2	196	1	H－6	壺		458	1																
		H－6	壺		280	66	H－6	壺		490	1																
		H－6	壺		494	9	H－6	壺		540	1																
		H－6	壺		490	2																					
図Ⅲ－104－13	H－6	H－6	鉢	土2.2	192	1	H－6	壺		261	3	Ⅲa	24.7	9.6	36.0	復元	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ様式
		H－6	鉢	土2.2	197	7	H－6	鉢	土2	197	1																
		H－6	鉢	土2.2	198	3	H－6	未出記		261	8																
		H－6	壺		261	68																					
		H－6	壺		458	1																					
図Ⅲ－105－14a	H－6	H－6	壺		473	1	H－6	壺		442	1	Ⅲa	—	—	—	受給部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ様式
図Ⅲ－105－14b		H－6	壺		480	7	H－6	壺		173	1					口縁											
							未出記				7																
図Ⅲ－105－15	H－6	H－6	壺		308	1						Ⅲa	—	—	—	受給部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ様式
図Ⅲ－105－16a	H－6	H－6	鉢	土3.1.	247	9	H－6	鉢	土3.1.	247	10	Ⅲa	—	—	—	受給部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ様式
		H－6	鉢	土3.1.	251	16	H－6	鉢	土3.1.	251	2																
		H－6	鉢	土3.1.	306	3	H－6	鉢	土3.1.	261	1																
		H－6	鉢	土3.1.	347	4																					
図Ⅲ－105－16b		H－6	鉢	土3.1.	251	1										口縁											
図Ⅲ－105－17	H－6	F－6 M－1	器	土1.	438							Ⅲa	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ様式
		H－6	鉢	土3.1.	365	2																					

表Ⅲ－5　遺構掲載土器一覧(4)

地区・層序・遺序						胎・製作未現合破片				分類	焼成製作(mm)				調査	口縁部(首部を含む)					体部(首部を除く)			底部(首部を除く)		脚(土製品を除く)	出土する型式
検討番号	遺構名	調査区・層種	層位	遺物番号	点数	調査区・遺種	層位	遺物番号	点数		口径	底径	器高	形態		形式	器形の変化	特徴	口唇部の変化	胎土・施文	形式・施文	内面調整	形式	胎土	形式		
図Ⅲ－105－18	H－6	H－6	覆土1	46	13	H－3	覆土1	141－2	2	Ea	—	—	—	鉢底		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
		H－6	覆土1	47	3	H－8	覆土1	47	4																		
		11T	8		1	H－15	覆土1	23	2																		
		12W	覆		3	P－20	覆土2	21	1																		
						P－20	覆土2	29	1																		
						P－20	覆土3	34－1	5																		
						11S	8		11																		
						11S	覆		2																		
						11T	8		10																		
						12W	覆		1																		
						13T	撹乱		2																		
						17M	覆		1																		
図Ⅲ－107－1	H－7	H－7	覆土1	6	1	H－7	覆土1	1－1	1	Db	—	—	—	体部		—	—	—	—	—	熱点文の線行	ミガキ	—	—	縄痕	海綿骨針	下層系式
		H－7	覆土1	7	1																						
図Ⅲ－107－1	H－8	H－8	覆土下	210	1	H－8　HP－2	覆土	261	5	Db	(19.2)	(15.1)	20.1	脚元		やや外反	無	—	有（輪積み）	条痕文	平面沿行縄文	ミガキ円点状	ミガキ	土付底	縄痕	海綿骨針	下層系式
		H－8　HP－1	覆土	261	52	H－8　HP－2	覆土下	262	2																		
		H－8　HP－2	覆土下	262	23	H－8　HP－2	覆土	261	2																		
		H－8　HP－2	覆土	261	9	未注記			6																		
図Ⅲ－107－2 a	H－8	H－8	覆土下	256	1					Ib	—	—	—	鉢底		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		東洞遺跡式
図Ⅲ－107－2 b		H－8	覆土下	265	1						—	—	—			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
図Ⅲ－107－2 c		覆	覆								—	—	—			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
図Ⅲ－107－2	H－8	H－8	覆土中	228	2					Db	—	—	—	口縁部		やや外反	—	—	—	平面沿行縄文	—	ミガキ	—	—	縄痕	海綿骨針	下層系式
		H－8	覆土中	232	2																					骨	
図Ⅲ－107－4 a	H－8	H－8	覆土	196	3					Db	—	—	—	口縁部		直立	—	—	—	平面沿行縄文	—	平面沿行縄文	縄痕による調整	—	縄痕	海綿骨針	下層系式
図Ⅲ－107－4 b		H－8	覆土	196	3						—	—	—			—	—	—	—	—	—	平面沿行縄文		—	縄痕	海綿骨針	
図Ⅲ－107－5	H－8	H－8	覆土中	202－1	2					Db	—	—	—	口縁部		外反	—	—	有	不整縄文	縄痕による調整		—	—	縄痕	海綿骨針	下層系式
図Ⅲ－107－6	H－8	H－8　HP－1	覆土	264	2					Db	—	—	—	脚部		直立	有（乱）	鉢型文	有	不整縄文	不整縄文	縄痕による調整	—	—	縄痕	海綿骨針	下層系式
図Ⅲ－107－7	H－8	H－8	覆土	156	2					Db	—	—	—	口縁部		やや外反	有	沒線による鉢型文	有	不整縄縄文	—	ミガキ	—	—	縄痕	海綿骨針	下層系式
		H－8	覆土中	223	1																						
図Ⅲ－107－8	H－8	H－8	覆土上	280－1	3					Db	—	—	—	口縁部		外反	有	沒線による鉢型文	有	不整縄縄縄文痕に流線	—	縄痕による調整	—	—	縄痕	海綿骨針	下層系式
図Ⅲ－107－9	H－8	H－8	覆土中	232	4	H－8	覆土	158	1	Db	—	—	—	体部		—	—	—	—	—	熱点文の線行	角板による円点状調整	—	—	縄痕	海綿骨針	下層系式
		H－8	覆土中	246	1	H－8	覆土中	263－1	1																		
						H－8	覆土中	262－1	1																		
図Ⅲ－107－10	H－8	H－8	覆土下	237	2	H－8	覆土下	237	1	Db	—	—	—	底部		—	—	—	—	—	熱点文の線行	ミガキ	縄文	—	縄痕		下層系式
図Ⅲ－107－11	H－8	H－8	覆土上	280－1	3					Db	—	—	—	底部		—	—	—	—	—	—	—	縄文・ケズ	土付底	縄痕	海綿骨針	下層系式
図Ⅲ－107－12a	H－8	28L	8		2	H－9	覆土上	168－1	1	Db	—	—	—	口縁体部		直立	無	—	有（平軸赤色帯1型原始の例）	不整縄縄文	熱点文の線行	縄痕による調整	—	—	縄痕	海綿骨針 微量	下層系式
		29L	8		2	19L	8		1																		
		30M	覆		3	19L	覆		4																		
						19L	覆		1																		
図Ⅲ－107－12b		H－8	覆土中	250	1				2		—	—	—	脚部		—	無	—	有（平軸赤色帯1型原始の例）	不整縄縄文	熱点文の線行	ナデ？	—	—	＋		
図Ⅲ－107－13	H－8	H－8	覆土中	28	6	H－9	覆土上	28	1	Db	—	—	—	口縁・頸部		外反	—	—	有	縄の圧痕	隆沒線文	縄痕による調整	—	—	縄痕	海綿骨針	下層系式？
図Ⅲ－108－1	H－8	H－1　HP－1	覆土1	18	3	H－9　HP－1	覆土1	12	1	Db	—	—	—	口縁部～体部		やや外反	有（乱）	無	有	平軸赤色帯第1型施文痕に流線	熱点文の線行	ミガキ（磨沒）	—	—	＋1～3mm 円～角礫 3～5％ 縄痕	海綿骨針	下層系式
		H－1　HP－1	覆土1	19	1	H－8　HP－1	覆土1	17	1																		
		H－1　HP－1	覆土1	17	1	H－9　HP－1	覆土1	23	4																		
		H－1　HP－1	覆土1	13	1	H－9　HP－1	覆土1	24	1																		
		H－1　HP－1	覆土1	16	1	H－9	床	10	1																		
		H－1　HP－1	覆土1	14	1	H－9	床	3	2																		
		H－1　HP－1	覆土1	21	1	H－9	床	2－1	1																		
		H－1　HP－1	覆土1	24	4																						
		H－1　HP－1	覆土1	20	1																						
図Ⅲ－108－2	H－9	H－9	床	5	1					Ba	—	—	—	口縁		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		オイ〇類式

表Ⅲ－5　遺構掲載土器一覧(5)

取上・現存・破片							照・復原未現存破片				分類	復元個体(cm)			図版	口唇部(重郎太類)					体部(重郎太類)			底部(重郎太類)		粘土(重郎太類)	出土する型式
掲図番号	遺構名	調査区・遺構	層位	遺物番号	点数		調査区・遺構	層位	遺物番号	点数		口径	底径	器高		形状	指形の有無	指整	口唇の加飾	縦文・施文	縦文・施文	円筒構造	指紋	形状	指紋		
		M－10	層土２	500	2		M－10	層土２上	383	1																	
		M－10	層土２	201	4		M－10	層土２	537	2																	
		M－10	層土２上	207	4		M－10	層土２	547	1																	
		M－10	層土２	498	1		未出記	層土２	561	1																	
		M－10	層土２	499	1		M－10	層土２	500	8																	
		M－10	層土２	524	3		M－10	層土２	498	2																	
		M－10	層土２	537	1		M－10	埋	613	1																	
		M－10	埋	609	1																						
図Ⅲ－100－1	M－10	M－10	埋	611	1						類a	(23.1)	(11.0)	(25.7)	復元	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ様式
		M－10	埋	612	1																						
		M－10	埋	613	2																						
		M－10	埋	614	1																						
		M－10	埋	615	1																						
		M－10	埋	629	1																						
		M－10	埋	630	1																						
		M－10	埋	638	1																						
		M－10	層土１	43	1		M－10	層土２	66	1																	
		M－10	層土１	56	1		M－10	層土２上	413	1																	
		M－10	層土１	65	7		M－10	層土２上	427	1																	
		M－10	層土１	66	1		M－10	層土２	525	1																	
		M－10	層土２上	408	2		M－10	層土２	565－1	4																	
		M－10	層土２上	413	6		M－10	層土２	562	1																	
		M－10	層土２上	443	1		14a	層		3																	
		M－10	層土２上	442	1		14b	層		1																	
		M－10	層土２上	443	4		14f	層		3																	
		M－10	層土２	444	3																						
		M－10	層土２	523	1																						
		M－10	層土２	524	1																						
		M－10	層土２	525	1																						
		M－10	層土２	562	1																						
		M－10	層土２	565－1	12																						
		M－15	層土１	43	1																						
		M－15	層土２上	198	2																						
		M－15	層土２	216	1																						
		14a	層		3																						
		M－10	層土１	47	3		M－10	層土１	99	1																	
		M－10	層土１	48	3		M－10	層土１	108	1																	
		M－10	層土１	86－1	4		M－15	層土２上	235	2																	
		M－10	層土１	99	14		M－15	層土２上	196－1	1																	
		M－10	層土１	106	1		M－15	層土２上	198	1																	
		M－10	層土１	107	2																						
		M－10	層土１	108	2																						
		M－10	層土１	132	1																						
		M－10	層土１	133	1																						
図Ⅲ－110－3	M－10	M－10	層土１	134	3						類a	(26.7)	—	(33.2)	復元	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ様式
		M－10	層土１	135	2																						
		M－10	層土１	136	2																						
		M－10	層土１	139	2																						
		M－10	層土１	141	1																						
		M－10	層土２上	425	1																						
		M－15	層土１	32	1																						
		M－15	層土２上	135	10																						
		M－15	層土２上	147	1																						
		M－15	層土２上	199	9																						

表Ⅲ－5　遺構掲載土器一覧(6)

地区・現存・破片							同一個体未現存破片				分類	焼成個体(kg)			調査	石器(石製品類)					骨角(骨製品類)			貝殻(貝製品類)		粘土(粘製品類)	出土する型式
掲載番号	遺構名	調査区・遺構	層位	遺物番号	点数	調査区・遺構	層位	遺物番号	点数		平均値	最大値	最小値	形式	形式	原石の重量	除去量	付着の有無	敲石・砥石	石錘	角・骨・牙	戸山機関	貝殻	形式			
図Ⅲ－111－4	H－10	H－10	第Ⅰ層	144	8	H－10	第Ⅰ層	144	4	Ⅲa	(20.7)	(－)	(23.8)	復元	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	サイペ様式
		H－10	第Ⅰ層	145	1	H－10	第Ⅰ層	192	1																		
		H－10	第Ⅰ層	154	1	H－10	第Ⅰ層	242	1																		
		H－10	第Ⅰ層	155	1	H－10	第Ⅰ層	259	1																		
		H－10	第Ⅰ層	220	1	未出土			1																		
		H－10	第Ⅰ層	229	2																						
		H－10	第Ⅰ層	227	1																						
		H－10	第Ⅰ層	228	1																						
		H－10	第Ⅰ層	223	1																						
		H－10	第Ⅰ層	257	1																						
		H－10	第Ⅰ層	260	2																						
		H－10	第Ⅰ層	261	1																						
		H－10	第Ⅰ層	262	1																						
		H－10	第Ⅰ層	264	2																						
		H－10	第Ⅰ層	272	1																						
		H－10	第Ⅰ層	287	1																						
		H－10	第Ⅰ層	306	1																						
		H－15	第Ⅰ層	44	1																						
		13a	覆		1																						
図Ⅲ－111－5	H－10	H－10	第Ⅰ・2上	382	8	H－10	第Ⅰ・2	335	2	Ⅲa	(15.4)	6.5	26.0	復元	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	サイペ様式
		H－10	第Ⅰ・2上	384	1	未出土			1																		
		H－10	第Ⅰ・2上	385	1																						
		H－10	第Ⅰ・2上	387	1																						
		H－10	第Ⅰ・2上	391	2																						
		H－10	第Ⅰ・2	532	10																						
		H－10	埋	605	4																						
		H－10	埋	606	5																						
図Ⅲ－112－6	H－10	H－10	第Ⅰ・2上	339	44	H－10	第Ⅰ	99	1	Ⅲa	(31.1)	(11.4)	51.1	復元	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	サイペ様式
		H－10	第Ⅰ・2上	340	1	H－10	第Ⅰ	136	2																		
		H－10	第Ⅰ・2	455	1	H－10	第Ⅰ	136	2																		
		H－10	第Ⅰ・2	542	2	H－10	第Ⅰ・2上	339	19																		
		H－10	埋	600－1	1	13b																					
		H－10	埋	610	1	13b	覆		2																		
		H－10	埋	620	2																						
		13b	1		36																						
		13b	覆		4																						
図Ⅲ－113－7	H－10	H－10	第Ⅰ	67－1	32	H－10	第Ⅰ	67－1	2	Ⅲa	(16.3)	(8.5)	21.5	復元	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	サイペ様式
		H－10	第Ⅰ	8	14	H－10	第Ⅰ	8	1																		
		H－10	第Ⅰ	9	10	H－10	第Ⅰ・2上	9	2																		
		H－10	第Ⅰ・2	10	1	H－10	第Ⅰ・2	340	1																		
		H－10	第Ⅰ・2上	340	10	H－10	第Ⅰ・2	139	2																		
		H－10	第Ⅰ・2	355	1	H－15	第Ⅰ・2	132	3																		
		H－10	第Ⅰ・2上	360	1	H－15	第Ⅰ・2上	196－1	4	Ⅲa	(28.7)	(－)	(41.7)	復元	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	サイペ様式
		H－10	第Ⅰ・2上	455	2																						
		H－15	第Ⅰ・2	152	2																						
		H－15	第Ⅰ・2上	157	8																						
		H－15	第Ⅰ・2上	159	1																						
		H－15	第Ⅰ・2上	196－1	46																						
		H－15	埋	222	1																						
図Ⅲ－113－9	H－10	H－10	第Ⅰ	1	11					Ⅲa	(11.9)	4.0	11.7	復元	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	サイペ様式
図Ⅲ－114－10	H－10	H－10	第Ⅰ	64	6	H－10	第Ⅰ	64	1	Ⅲa	(24.4)	8.5	36.1	復元	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	サイペ様式
		H－10	第Ⅰ	65	1	H－10	第Ⅰ	65	1																		
		H－10	第Ⅰ	66	5	H－10	第Ⅰ	66	1																		
		H－10	第Ⅰ	77	1	14a	覆		4																		
		H－10	第Ⅰ・2	126	1																						
		H－15	第Ⅰ・2上	127	2																						
		14a	覆		15																						
		14b	覆		2																						
図Ⅲ－114－11	H－10	H－10	第Ⅰ・2	569	12	H－10	第Ⅰ・2	569	1	Ⅲa	(12.0)	5.3	(13.7)	復元	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	サイペ様式
		H－10	埋	600－1	1																						
図Ⅲ－114－12	H－10	H－10	第Ⅰ・2	570	23	H－10	第Ⅰ・2	570	1	Ⅲa	(5.9)	6.4	16.6	復元	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	サイペ様式
図Ⅲ－115－13	H－10	H－10	埋	624	1					Ⅱb	－	－	－	体部	－	－	－	－	－	－	熱水堂の銀行	ミガキ(研ぎ)	－	－	磨擦	渦巻状	Y字を次
図Ⅲ－115－14	H－10	H－10	埋	642	1					Ⅲa	－	－	－	体部	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	サイペ様式

表Ⅲ－5　遺構掲載土器一覧(7)

掲載番号	遺構名	出土・焼成・破片 遺物	層位	遺物番号	点数	接・一致・未接合破片 遺物	層位	遺物番号	点数	分類	胎土	焼成	色調	器種	口縁部 形状	口縁部 器形の変化	口縁部 特徴	口縁部 口径の変動	頸部 施文	体部(底部を除く) 施文	体部(底部を除く) 内面調整	底部(底部を除く) 表面	底部(底部を除く) 裏面	脚(底部を除く)	比定される型式
				口径	底径	器高																			
図Ⅲ－115－15a	H－10	H－10	床	2	9	H－10	床	574	1	Ⅲa	—	—	—	無頸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ埋式
		H－10	床	583	1	H－10	覆土1	2	1																
図Ⅲ－115－15b		H－10	覆土1	2	11	H－10	覆土1	4	1		—	—	—	底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
図Ⅲ－116－1	H－11	H－11	覆土1	51－1	59	H－11	覆土1	51－1	5	Ⅲa	24.3	(7.1)	(36.8)	傾立	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ埋式
		H－11	覆土1	34	7	未注記	覆土1	51－1	14																
						H－11	覆土1	24	5																
						未注記	覆土1	24	2																
図Ⅲ－117－2	H－11	遺物集中3	層	5－1	27	遺物集中3	層	5－1	11	Ⅲa	(21.2)	—	(41.7)	傾立	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ埋式
		H－11	覆土1	9	1	H－11	覆土1	10	5																
		H－11	覆土1	10	7	H－11	覆土1	10	2																
		H－11	覆土1	11	1	H－11	覆土1	54	2																
		H－11	覆土1	17	6	162	層		16																
		H－11	覆土1	20	3	未注記			3																
		H－11	覆土1	30	22																				
		H－11	覆土1	54	9																				
		H－11	覆土1	57	1																				
		162	層		11																				
図Ⅲ－118－3	H－11	H－11	床	74	49	H－11	床	74	2	Ⅲa	34.7	6.5	18.3	傾立	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ埋式
		H－11	床	未注記	8	H－11	床	未注記	7																
図Ⅲ－118－4	H－11	遺物集中3	層	1	42	遺物集中3	層	1	24	Ⅲa	(25.3)	—	(33.5)	傾立	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ埋式
		H－11	床	70	2	未注記			1																
		162	層		2																				
		未注記			1																				
図Ⅲ－118－5	H－11	H－11	覆土1	8	7	H－11	覆土1	8	4	Ⅲa	8.3	(4.4)	8.8	傾立	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ埋式
図Ⅲ－118－6	H－11	遺物集中3	覆土	5－1	7	遺物集中3	層	5－1		Ⅲa	(12.7)	6.3	(13.8)	傾立	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ埋式
		8－11 4P－2	覆土2	75	38	H－11 HP－12	覆土2	75	54																
		未注記			2	未注記			29																
図Ⅲ－119－7	H－11	8－11 4P－2	見底	82	54	H－11 HP－12	見底	82	28	Ⅲa	(—)	(7.7)	(11.2)	底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ埋式
図Ⅲ－119－8	H－11	H－11	床	72	42					Ⅲa	(35.9)	6.9	14.5	傾立	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ埋式
		未注記	床	72	4																				
図Ⅲ－119－9	H－11	8－11 4P－2	見底	75	2	H－11 HP－12	見底	78	2	Ⅲa	13.3	(6.2)	16.2	傾立	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ埋式
		8－11 4P－2	見底	78	36	162	層		2																
		8－11 4P－2	見底	81	1																				
		8－11 4P－2	見底	82	2																				
図Ⅲ－119－10a	H－11	遺物集中3	層	1	11	H－11	覆土1	1－1	3	Ⅲa	—	—	—	丸底 / 底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ埋式
		8－11 4P－2	覆土	96	52	H－11	覆土1	40	2																
		8－11 4P－2	覆土	96	1	H－11	覆土1	41	1																
図Ⅲ－119－10b		8－11 4P－2	覆土	96	2	H11 HP－12	覆土	76	1																
		8－11 4P－2	覆土	97		H－11 HP－12	覆土	87	1																
						H－11 HP－12	覆土	90	1																
						H－11 HP－12	覆土	94	4																
						H－11 HP－12	覆土	96	8																
						遺物集中3	層	1	11																
図Ⅲ－119－11	H－11	8－11 4P－2	見底	78	1					Ⅲa	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
図Ⅲ－119－12	H－11	H－11	覆土1	1－2	1					土師品	7.9	3.6	8.1		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
図Ⅲ－121－1	H－12	H－12	覆土中	188	2					Ⅲb	—	—	—	口縁 / 底部	やや外反	無	—	有	不整横沿文	摩擦による消去	ミガキ	—	—	磨痕	消滅台脚型	下知主式
図Ⅲ－121－2	H－12	H－12	覆土	57	1					Ⅲb	—	—	—	口縁	やや外反	—	—	—	—	摩擦による消去	ミガキ	—	—	磨痕	消滅台	下知主式
図Ⅲ－121－3	H－12	H－12	床	157	1					Ⅲb	—	—	—	頸部	—	有	縦縄下	有	—	摩擦による消去	刷毛	—	—	磨痕		下知主式
図Ⅲ－121－4	H－12	H－12	床	108	1					Ⅲb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	摩擦による消去	ミガキ	—	—	磨痕	消滅台	下知主式
図Ⅲ－121－5	H－12	H－12	覆土	64	1					Ⅲb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	摩擦による消去	ミガキ	—	—	磨痕	消滅台	下知主式
図Ⅲ－121－6	H－12	H－12	床	122	2					Ⅲb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	摩擦による消去	ミガキ	—	—	磨痕	消滅台	下知主式
図Ⅲ－121－7	H－12	H－12	床	163	1					Ⅲb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	摩擦による消去	ミガキ	—	—	磨痕	消滅台	下知主式
図Ⅲ－121－8	H－12	H－12	床	158	1					Ⅲb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	横沿文	摩擦による消去	—	—	磨痕	消滅台	下知主式
図Ⅲ－121－9	H－12	H－12	床	159	1					Ⅲb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	横沿文	摩擦による消去	—	—	磨痕	消滅台	下知主式
図Ⅲ－121－10	H－12	H－12	床	91	1					Ⅲb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	不整横沿文	刷毛	—	—	磨痕	消滅台	下知主式
図Ⅲ－121－11	H－12	H－12	覆土	182－1	1					Ⅲb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	不整横沿文	ナデ?	—	—	磨痕	消滅台	下知主式
図Ⅲ－121－12	H－12	H－12	床	167	1					Ⅲb	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	貝殻腹圧	ナデ	縦工痕?	上げ底	磨痕	消滅台	下知主式
図Ⅲ－121－13	H－12	H－12	床	85	2					Ⅲb	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	—	摩擦による消去	ナデ	—	—	磨痕	消滅台	下知主式

表Ⅲ－5　遺構掲載土器一覧(8)

掲載番号	遺構名	出土・焼成・破片					胎・製作未報告破片				分類	焼成(単位)			混和	石材(粗・密度の有無)	砂粒(密度の有無)	雲母	角礫・亜角	石英(密度多数)	角礫・亜角	石英(密度多数)	角礫・亜角	石英(密度多数)	角礫・亜角	比較する型式
		遺構名	遺物名	層位	遺物番号	点数	遺構名	層位	遺物番号	点数		打瓦	焼瓦	焼瓦						角礫・亜角	角礫・亜角	角礫・亜角	角礫・亜角	角礫・亜角	角礫・亜角	
図第－123－14	H－12	H－12	ｊ－12 ｊｐ－1	覆土	179	1					Ｄｂ	—	—	—	底部	—	—	—	—	—			土ガキ	土ガ底	磨痕	浅鉢登録	下知ａ式
図第－123－15	H－12	H－12	同上	覆土	87	1					Ｄｂ	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	熱点文の前行	土ガキ	縄文	土ガ底	磨痕	浅鉢登録	下知ａ式
図第－123－16	H－12	H－12	同上	覆土－1	1						Ｄｂ	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	多角鉢条痕	土ガキ(潜行)	—	—	磨痕	浅鉢登録	下知ａ式
図第－123－1ａ	H－13	H－13	同上	覆土	152	1					Ｄｂ	—	—	—	口縁 / 体部	やや多及	無	—	有	不規 礫砂文	熱点文の前行	土ガキ(潜行)	—	—	磨痕	浅鉢登録	下知ａ式
		H－13	同上	覆土－1	162－1	1																				
		23Ｌ	同			1																				
		23Ｌ	同			2																				
		23M	同			2																				
図第－123－1ｂ		23W	同			4						—	—	—	底部	—	—	—	—	—	熱点文の前行	土ガキ(潜行)	縄文	土ガ底	磨痕	浅鉢登録	
図第－123－2	H－13	H－13	同		139	1					Ｄｂ	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	熱点文の前行	土ガキ	—	—	磨痕	浅鉢登録	下知ａ式
図第－123－3ａ	H－13	H－13	覆土	162－1	2	H－13	覆土	73－1	3		Ｄｂ	—	—	—	底部	—	—	—	有	泥礫	熱点文の前行	土ガキ	—	—	磨痕	浅鉢登録	下知ａ式
図第－123－3ｂ		H－13	覆土	78－1	5	H－13	覆土	78－1	1			—	—	—	体部	—	—	—	有	泥礫	熱点文の前行	土ガキ	—	—	磨痕	浅鉢登録	
		H－13	覆土	78－1	13	H－13	覆土	102	2																	
		H－13	覆土	162－2	11	H－13	覆土	162－2	2																	
図第－124－1	H－14	H－14	同	398	46	H－14	同	398	22		Ｄｂ	24.9	18.7	20.5	既	強く多及	無	—	有	粒泥礫文	平原沿行礫文	土ガキ 貝沿有	ナデテ 貝沿潜痕	土ガ底3M	磨痕	浅鉢登録	下知ａ式
				未注記						19																
図第－124－2	H－14	ｊ－14 ｊｐ－1	覆土	406	1	H－14	覆土	213	1		Ｄｂ	—	—	—	口縁	やや多及	—	—	—	多方向・連続十点三号鉢文	—	土ガキ(潜行)	—	—	磨痕	浅鉢 砂粒登	下知ａ式
		H－14	同	203	1																					
図第－124－3	H－14	H－14	同	203	1						Ｄｂ	—	—	—	体部	—	—	—	—	刺加金文	土ガキ(潜行)	—	—	磨痕	浅鉢登録	下知ａ式
図第－124－4	H－14	H－14	覆土	266	1						Ｄｂ	—	—	—	口縁 / 体部	やや多及	有	微粒による 斜行	有	不整礫砂文	刺加金文	ナデ	—	—	磨痕	浅鉢登録	下知ａ式
		H－14	覆土	203	1																					
図第－124－5	H－14	ｊ－14 ｊｐ－1	覆土	420	1						Ｄｂ	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	刺加金文？ ナデ	無	縄文	土ガ底	磨痕	サイバ類式	
図第－124－6	H－14	H－14	覆土	139	1						上製品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
図第－126－1	H－15	H－15	覆土－1	97	12	H－15	覆土－2	213	1		Ｂａ	(17.6)	—	16.5	既	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイバ類式
		H－15	覆土－1	98	2																					
図第－126－2	H－15	H－15	覆土－1	97	3	H－15	覆土－2	213	5		Ｂａ	(10.9)	6.1	11.8	既	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイバ類式
		H－15	覆土－1	213	9																					
図第－127－1	H－16	H－16	覆土－1	18	3	H－16	覆土－1	24	4		Ｂａ	28.4	(－)	(29.5)	既	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイバ類式
		H－16	覆土－1	19	4	H－16	覆土－2	78	2																	
		H－16	覆土－1	20	3	12Ｇ	覆		1																	
		H－16	覆土－1	23	2																					
		H－16	覆土－1	25	1																					
		H－16	覆土－1	26	2																					
		H－16	覆土－1	27	6																					
		H－16	覆土－1	28	3																					
		H－16	覆土－1	29	1																					
		H－16	覆土－2	29	1																					
		H－16	覆土－2	80	1																					
		H－16	同	129	2																					
		H－16	同	594	1																					
		12Ｇ	覆		42																					
図第－127－2	H－16	H－16	同	192	1						Ｄｂ	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	縄文？ナデ	土ガキ	—	—	磨痕	浅鉢登録	下知ａ式
図第－127－3ａ	H－16	H－16	同	240	1	未注記			1		Ｂａ	—	—	—	既	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイバ類式
		未注記			1																					
図第－127－3ｂ		H－16	同	242	37										口縁											
		未注記			1																					
図第－127－4	H－16	H－16	同	128	1						Ｂａ	—	—	—	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイバ類式
		H－16	同	127	1																					
図第－129－1	H－17	H－17	同前	39	9						Ｂａ	30.5	6.3	35.8	既	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイバ類式
図第－130－1ａ	P－13	P－13	覆土	1	2	P－11	覆土	1	1		Ｄｂ	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	多角多各条目種	土ガキ	—	—	磨痕	浅鉢登録	下知ａ式
図第－130－1ｂ	P－13	P－13	覆土－1	8	2	P－13	覆土－1	15	2		Ｄｂ	—	—	—	口縁	やや多及	有	熱点粒小	有	不整礫砂文	刺加金文？	土ガキ	—	—	磨痕	浅鉢登録	下知ａ式
		P－13	覆土－1	4	2	P－13	覆土－1	16	1						体部 / 底部						刺加金文	土ガキ	縄文	土ガ底	磨痕 体部登録 ※2 磨 円盤 復元	下知ａ式
		P－13	覆土－1	7	1	P－13	覆土－1	21	1																	
		P－13	覆土－1	11	3	P－13	覆土中	25	1																	
		P－13	覆土－1	16	5	P－13	覆土中	39	2																	
		P－13	覆土中	27	1	P－13	覆土下	41	2																	
		P－13	覆土中	30	1																					
		P－13	覆土中	38	4																					
		P－13	覆土下	42	6																					
		P－13	覆土下	42	8																					
		P－13	覆土下	43	1																					
		P－13	覆土下	45	4																					
		P－13	覆土上	47	1																					
		未注記																								

表Ⅲ－5　遺構掲載土器一覧(9)

検出番号	遺構名	出土位置	層位	遺物番号	点数	胎土	焼成	色調	器種	部位	遺物番号	点数	分類	口径	底径	器高	図化	形状	表面の光沢	指紋	口縁の装飾	頸文・胴文	胴文	頸文・胴文	内面調整	熱源	形状	熱源・薄膜容積	出土(遺物番号)	比定する型式
SB第－130－2	P－13	P－13	覆土上	6	3								Db	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	早期前条体第1類→不整撚糸文	ミガキ	—	—	磨痕	薄膜容積	下層b類	
SB第－130－1a	P－12	P－17	覆土1	13	1				P－17	覆土1		1		—	—	—	口縁部	わずかに残存	無	—	有	早期前条体第1類 撚糸・羽縄	熱水文の前行	刷毛	—	—	磨痕	薄膜容積	下層b類	
		P－17	覆土1	8	1				P－17	覆土1		2																		
		P－17	覆土1	20	1				P－17	覆土1		3																		
		P－17	覆土2	22	3				P－17	覆土1		4																		
SB第－130－1b									P－17	覆土1		5	Db	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	熱水文の前行	ミガキ	—	—	磨痕 薄膜容積		
									P－17	覆土1		6																		
									P－17	覆土1		10																		
									P－17	覆土1		12																		
									P－17	覆土1		14																		
									P－17	覆土1		15																		
									P－17	覆土1		16																		
									P－17	覆土1		17																		
									P－17	覆土1		18																		
									P－17	覆土1		19																		
									P－17	覆土1		28																		
									P－17	覆土1		29																		
									P－17	覆土1		30																		
									P－17	覆土1		31																		
									P－17	覆土2		21																		
									P－17	覆土2		22																		
									P－17	覆土2		23																		
									P－17	覆土2		24																		
									P－17	覆土2		26																		
									未注記			1																		
SB第－131－1	P－14								P－14	規底		18																		
		P－14	規底	15	1				P－14	規底		17																		
		P－14	規底	17	2				P－14	規底		19																		
		P－14	規底	19	1				P－14	規底		20																		
		P－14	規底	22	11				P－14	規底		21																		
		P－14	規底	23	2				P－14	規底		21																		
		P－14	規底	30	1				P－14	規底		21																		
		P－14	規底	31	2				P－14	規底		22																		
		P－14	規底	33	1				P－14	規底		22																		
		P－14	規底	34	1				P－14	規底		23																		
									P－14	規底		24																		
									P－14	規底		24																		
									P－14	規底		25																		
									P－14	規底		26																		
									P－14	規底		30																		
									P－14	規底		31																		
									P－14	規底		32																		
									P－14	規底		33																		
									P－14	規底		34																		
									P－14	規底		35																		
									P－14	規底		36																		
									P－14	規底		37																		
									P－14	規底		38																		
									P－14	規底		39																		
									P－14	規底		40																		
									P－14	規底		41																		
									P－14	規底		42																		
									P－14	規底		43																		
									P－14	規底		44																		
									P－14	規底		45																		
									P－14	規底		46																		
SB第－131－2	P－14	P－14	規底	36	1								Db	—	—	—	口縁部	やや外反	—	—	—	無文？	—	ミガキ	—	—	磨痕	薄膜容積	下層b類	
SB第－133－1	P－20	P－20	覆土3	93	5	未注記							Db	—	—	—	口縁部	やや外反	—	—	—	無節縄文	—	ミガキ	—	—	磨痕		下層b類	
SB第－133－2	P－20	P－20	柱	85	1								Db	—	—	—	頸部	—	有	沈線	有	沈線	無節縄文による結束	—	—	—	磨痕	薄膜容積	下層b類	
SB第－133－3	P－20	P－20	覆土1	1－1	1	P－20	覆土1		1－1			2	Ba	—	—	—	突起部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイパ曙式	
	P－20	P－20		1－1		未注記						84																		
SB第－133－4	P－20	P－20	覆土1	9	1								Ba	—	—	—	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイパ曙式	
		P－20	覆土2	51－1	2																									
SB第－133－5	P－20	P－20	覆土2	201	3	P－20	覆土1		1－1			41	Ba	—	—	—	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイパ曙式	
SB第－133－7	P－20	P－20	覆土3	302	1								土製品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SB第－135－1	P－23	P－23	覆土下	7	24	P－23	覆土下					2	Db	(5.5)	6.4	13.9	胴元	直立	無	—	有	結束する附加条	縄充填する附加条	ミガキ	縄文	上げ底	磨痕	薄膜容積	下層b類	
						未注記						4																		
SB第－136－1	P－28	P－28	規底	4	40	P－28	未注記					5	Db	35.7	7.9	20.2	胴元	やや外反	有	刻み？	有	早期前条体第1類→沈線	熱水文の前行	ミガキ	ミガキ	上げ底	磨痕	薄膜容積	下層b類	

表Ⅲ－5　遺構掲載土器一覧(10)

掲図番号	遺構名	出土・埋積・遺存	層位	遺物番号	点数	接合区・遺構	出土・埋積・遺存	層位	遺物番号	点数	分類	焼成窯跡(m) 口径	底径	器高	胎土	口縁部(首部を含む) 形状	形式	角度の変化	段・稜	施文・施文	体部(底部を含む) 施文・施文	内面調整	底部(底部を含む) 高台	形状	独立(底部を含む)	用途	主な文様式
図Ⅲ－134－1 a	P－28		覆土1	53	1	P－28		覆土1	11	1	Ⅲa	—	—	—	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
		江戸	覆		1	P－28		覆土1	16	1																
		江M	覆		1	P－28		覆土1	24	1																
図Ⅲ－134－2 b		P－28	覆土1	11	1	P－28		覆土2	27	1																
		P－28	覆土1	31	2	P－28		覆土2	30	1																
		P－28	覆土1	30	2	P－28		覆土2	31	1																
		P－28	覆土1	56	2	P－29		覆土2	32	1																
図Ⅲ－134－3 c		江M	覆		1	P－28		覆土1	42	1					底部											
						P－29		覆土1	49	1																
						P－29		覆土1	54	1																
						P－28		覆土1	55	1																
						P－28		覆土2	58	1																
						P－29		覆土7	59	1																
						江L		覆		1																
						江M		覆		2																
図Ⅲ－134－1	P－29	P－29	埋土	89	1	P－29		覆土7	68	1	Ⅲa	(35.1)	—	(9.8)	指定	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
		P－29	覆土7	32	2	P－29		覆土7	71	2																
		P－29	覆土7	26	2	未注記				13																
		P－29	覆土7	42	2																					
		P－29	覆土7	43	1																					
		P－29	覆土7	47	3																					
		P－29	覆土7	60	1																					
		P－29	覆土7	62	2																					
		P－29	未注記		6																					
図Ⅲ－134－2	P－29	P－29	埋土	105	1						Ⅲb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	指点 文の施行	縦横による調整	—	—	縦横 連続押付	下知a式
図Ⅲ－134－1	P－33	P－33	埋土	1	32	P－33	埋土	1	33		Ⅲb	11.4	6.5	17.3	指定	やや外反	無	—	有	ナデ調整	体部上半 回転 ナデ 体部下半 不整横位ナデ	ヘラキ	ヘラキ	上げ底	縦横 連続押付	下知a式
								未注記		14																	
図Ⅲ－134－3	P－37	P－37	覆土2	70	1	P－37	覆土2	86	1		Ⅲb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	不整横位 不規則多段 第1類	縦横による調整	—	—	縦横 連続押付	下知a式
図Ⅲ－135－1	P－38	P－37	覆土2	83	1	P－38		覆土1	35－1	4	Ⅲa	(21.2)	8.5	(27.2)	指定	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ナイベ雑式
		P－37	覆土2	86	4	P－38		覆土1	35	5																
		P－37	覆土3	108	1	P－38		覆土1	62	1																
		P－37	覆土3	202	1	未注記				3																
		P－38	覆土1	7	1																					
		P－38	覆土1	23	1																					
		P－38	覆土1	35－1	39																					
		P－39	覆土1	44	6																					
		P－38	覆土1	48－1	2																					
		P－38	覆土1	53	1																					
		P－38	覆土1	55	24																					
		P－38	覆土1	62	2																					
		P－39	覆土1	63	4																					
		未注記			4																					
図Ⅲ－135－2	P－38	P－38	覆土1	32	4	P－38		覆土1	12	3	Ⅲb	—	—	—	口縁部	外反	無	—	有	不整縦位	指ケズレ＋ナデ	ナデ	—	—	縦横 連続押付	下知a式
図Ⅲ－135－3	P－38	P－38	覆土2	32	1						Ⅲb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	指ケズレ	ナデ	—	—	縦横 連続押付	下知a式
図Ⅲ－135－4	P－38	P－38	覆	65	1						Ⅲa	—	—	—	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ナイベ雑式
図Ⅲ－135－1 a	P－39	P－39	焼広	15－1	2	P－39	焼広		15－1	44	Ⅲa	—	—	—	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ナイベ雑式
		P－39	覆土1.1	1	4	P－39	覆土1.1		1	1																
		P－39	覆土1	24	3	P－39	覆土		11	1																
図Ⅲ－135－1 b		P－39	焼広	15－1	5	未注記				5		—	—	—	底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
図Ⅲ－135－2	P－39	P－39	覆土1	3－2	12	P－39	覆土1		3－2	1	Ⅲa	—	—	—	胴部 底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ナイベ雑式
		P－39	覆土1	2	3	未注記				4																
図Ⅲ－135－1	TP－2	TP－2	覆土	1	20						Ⅵ	(6.7)	(—)	(5.6)	指定	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	須恵式土器
		未注記	覆土	3																						
図Ⅲ－136－1	F－1	F－1	焼土中	1－2	2	F－1	焼土中		1－2	1	Ⅵ	—	—	—	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	須恵式土器
図Ⅲ－136－1	F－6	F－9	覆	6	62	F－9	覆		6	52	Ⅲa	(23.6)	(13.0)	(44.1)	指定	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ナイベ雑式
		10K	覆		4	10K	覆			5																
図Ⅲ－136－1	F－34	F－34	1	3－1	3	F－34	1		3－1	7	Ⅲa	—	—	—	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ナイベ雑式
						P－39	覆土1		3－2	3																
						未注記				3																

表Ⅲ－5　遺構掲載土器一覧(11)

検出・焼成・破片						照・彫刻・実測・接合破片					分類	焼成(℃)			調査	口唇部(胴部)				体部(胴部)				底部(胴部)			胎土(胴部)	出来する型式
検出番号	遺構名	調査区・遺構	層位	遺物番号	点数	調査区・遺構	層位	遺物番号	点数			下限	最高	最低		形状	厚さの変化	沈線	刻目	形状	厚さ	沈線	刻目	形状	厚さ	沈線	刻目		
図第－138－1	F－60	F－60	覆	8	1						Ⅳa	—	—	—	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三引式
図第－138－2	F－60	F－60	覆	3	1	1H	覆			7	Ⅳa	—	—	—	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三引式
		10H	覆		1																							
図第－140－1	FC－3	FC－3		10－1	3						Ⅶ	—	—	—	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	岩出式土器
図第－140－1	FC－8	FC－8	覆	2	3	FC－8	覆	1	3		Ⅱb	—	—	—	口唇部	やや外反	有	爪による刻目	有	規矩縄文	規矩縄文	ナデ・ミガキ	—	—	繊維・海綿骨針	下知系式
図第－140－2		FC－8	覆	2	4	FC－8	覆	2	31			—	—	—	底部	—	—	—	—	—	規矩縄文	ナデ	縄文	土圧痕			
		FC－8	覆	1	1	未同定			17																			
図第－140－1	FC－9	FC－9	覆	14	29	FC－9	覆	14	29		Ⅱb	—	—	—	口唇部	—	—	—	—	—	規矩縄文	ミガキ	縄文	土圧痕	繊維・海綿骨針	下知系式
図第－141－1	埋設土器1	埋設土器1	覆下層	1－1	34	埋設土器1	覆下層	1－1	113		Ⅱb	(—)	(12.5)	(23.1)	口唇部	—	—	—	—	—	単軸縄条体第5類	ミガキ	縄文	土圧痕	繊維・海綿骨針	下知系式
						埋設土器1		未同定	48						体部下半欠損												
図第－141－1	埋設土器2	埋設土器2	覆下層	1	43	埋設土器2	覆下層	1	43		Ⅱb	(—)	8.8	(32.3)	体部下半欠損	—	—	—	—	—	撚糸文の縦行	ミガキ 繊維混合	—	土圧痕	繊維・海綿骨針	下知系式
						埋設土器2	覆下層	未同定	33																		
図第－141－1	埋設土器3	埋設土器3	覆下層	1	40	埋設土器3	覆下層	1	6		Ⅱb	(—)	(8.7)	(20.5)	体部下半欠損	—	—	—	—	—	撚糸文の縦行	撚糸痕	縄文	平滑	繊維・海綿骨針	下知系式
		10H	覆		1	埋設土器3	覆下層	未同定	17																		
図第－141－1	埋設土器4	埋設土器4	覆下層	1	46	埋設土器4	覆下層	1	22		Ⅱb	(—)	(15.2)	(22.7)	体部下半欠損	—	—	—	—	—	撚糸文の縦行	ミガキ 繊維混合	ミガキ	指ハ土圧痕	繊維・海綿骨針	下知系式
						埋設土器4	覆下層	未同定	43																		
図第－142－1	埋設土器5	埋設土器5	地土1	12	63	埋設土器5	地土1	12	35		Ⅱb	(—)	(—)	(22.3)	体部下半欠損	—	—	—	—	—	土器 単節斜行縄文 下段 単軸縄条体第1類	波状口ミガキ	—	—	繊維・砂 海綿骨針	下知系式
		10M	覆		4	埋設土器5	地土1		8																		
						10M	覆		7																		
						11M	覆		7																		
図第－143－1	遺物集中1	遺物集中1	覆	1－1	35	遺物集中1	覆	1－1	121		Ⅱa	(—)	14.0	(24.3)	胴部 (縦位行)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ類式
		7V	覆		2	H－21	覆下2	42	1																		
						9V	覆		18																		
						未同定			31																		
図第－143－1	遺物集中3	遺物集中3	覆	3	91	遺物集中3	覆	3	10		Ⅱa	20.7	8.1	27.6	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ類式
						未同定	覆	3	10																		
図第－143－2	遺物集中3	遺物集中3	覆	2	53	遺物集中3	覆	2	12		Ⅱa	(14.8)	(—)	(12.4)	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ類式
						遺物集中3	覆	1	1																		
						未同定			12																		
図第－144－2	遺物集中3	遺物集中3	覆	1	58	遺物集中3	覆	1	16		Ⅱa	(13.3)	(—)	(22.7)	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ類式
図第－144－4	遺物集中3	遺物集中3	覆	2	89	遺物集中3	覆	2	34		Ⅱa	(28.9)	(—)	(33.4)	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ類式
図第－144－5	遺物集中3	遺物集中3	覆	4	11	遺物集中3	覆	4	1		Ⅱa	—	—	—	胴部 (縦位)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ類式
		9iZ	覆		1																						
図第－145－1	遺物集中4	遺物集中4	覆土	49	45	遺物集中4	覆土	49	66		Ⅱb	(19.7)	11.6	26.4	口唇部	わずかに外反 小波状	無	—	有	単軸縄条体第1類 無文	単軸縄条体第1類 単節斜行縄文	ミガキ	指ハ土	土圧痕	繊維・海綿骨針	下知系式
図第－145－2	遺物集中4	遺物集中4	覆土中	66(2－1)	55	遺物集中4	覆土中	66(2－1)	84		Ⅱb	(20.5)	11.7	30.3	口唇部	外反	無	—	有	不整縄縄文	撚糸文の縦行	ミガキ 横	縄文	土圧痕	繊維・海綿骨針	下知系式
				113－1	3	遺物集中4	覆土	113－1	2																		
						遺物集中4	覆土	114－1	1																		
図第－146－3	遺物集中4	遺物集中4	覆土中	60－3	50	遺物集中4	覆土中	60－3	24		Ⅱb	(15.4)	(9.5)	28.4	口唇部	やや外反	無	—	有	不整縄縄文	撚糸文の縦行	ミガキ 横	縄文 ＋ ミガキ	土圧痕	繊維・海綿骨針	下知系式
		遺物集中4	覆土	62－1	1	遺物集中4	覆土	72－1	10																		
		遺物集中4	覆土	72－3	2																						
図第－146－4	遺物集中4	遺物集中4	覆土中	62－1	36	遺物集中4	覆土中	49	1		Ⅱb	(15.5)	8.4	25.9	口唇部	直立	無	—	有	単節斜行縄文	撚糸文の縦行	横	—	—	繊維・砂・礫	下知系式
		遺物集中4	覆土	1－62	58	遺物集中4	覆土中	63－1	1																		
						遺物集中4	覆土	1－92	1																		
図第－146－5	遺物集中4	遺物集中4	覆土中	1－80－1	33	遺物集中4	覆土	1－80－1	3		Ⅱb	(16.1)	(—)	(20.2)	口唇部 体部上方	やや外反	無	—	無	単節斜行縄文 ～羽加回文	撚糸文の縦行	ナデ ミガキ 横	—	—	繊維・海綿骨針	下知系式
		遺物集中4	覆土中	10		遺物集中4	覆土中	10	55																		
図第－146－6	遺物集中4	遺物集中4	覆土中	56(2－1)	36	遺物集中4	覆土中	56(2－1)	36		Ⅱb	(15.4)	(—)	(14.1)	口唇部	やや外反	無	—	無	附加縄文	撚糸文の縦行	ミガキ 横	—	—	海綿骨針 繊維	下知系式
						遺物集中4	覆土中	10	1																		
図第－147－7	遺物集中4	遺物集中4	覆土上	1－72	26	遺物集中4	覆土上	1－72	5		Ⅱb	(16.7)	10.3	25.3	口唇部	やや外反	有	指圧による刻目	有	不整縄縄文	撚糸文の縦行	ミガキ 横 ミガキ	縄文	土圧痕	繊維・海綿骨針 砂礫少量	下知系式
								未同定	1																		
図第－147－8	遺物集中4	遺物集中4	覆土中	25	28	遺物集中4	覆土中	15	1		Ⅱb	(24.7)	(—)	(24.5)	口唇部 直立	やや外反	有	指圧による刻目	有	不整縄縄文	撚糸文の縦行	ミガキ	—	—	繊維・海綿骨針	下知系式
		遺物集中4	覆土中	87－1	2			覆	1																		
		遺物集中4	覆土中	102	1			覆	2																		
		12M	覆		4																						
		13M	覆		2																						
		15A	覆		1																						
図第－147－9	遺物集中4	遺物集中4	覆土中	4－5	19	遺物集中4	覆土上	84	2		Ⅱb	(15.0)	(—)	(27.0)	口唇部 直立	外反	有	指圧による刻目	有	不整縄縄文	撚糸文の縦行	ミガキ 横	—	—	繊維・海綿骨針 砂礫少量	下知系式
		遺物集中4	覆土上	1－86	12	10W	覆土		1																		
		遺物集中4	覆土上	1－100	2																						

表Ⅲ－5　遮構掲載土器一覧(12)

地区・発掘・遺構						胎・製作未発表遺構					分類	焼成(使用)			混和	土器(胎)質的分類					外面(表面)分類		内面(裏面)分類		底面(裏面)分類		別土(裏面)分類	注記する型式
掲載番号	遺構名	調査区・遺構	層位	遺物番号	点数	調査区・遺構	層位	遺物番号	点数	器高		平均値	最高値	最低値		形状	角張の度合	厚薄さ	口唇の加工	地文・施文	地文・施文	内面調整	表面	裏面	表面	裏面		
図第－147－30	遺物集中4	遺物集中4 23A	第1層 層		20 48	遺物集中4 23A	第4層 層		10 1		Db	(15.5)	(－)	(20.7)	角礫 花崗岩	わずかに 角張	有	竹管状工具による刺突	有	単軸節条体第1類の横走＋斜縄縄文	熱水文の線行	ミガキ 刷	—	—	磨痕 清掃管材＋横ハケ→ミガキ横撫縄文	磨痕 清掃管材	下駄女式
						23M	層		2																			
図第－148－11	遺物集中4	遺物集中4	第1層	1－80－1	20	遺物集中4	第1層	1－80－1	26		Db	(20.4)	(－)	(27.7)	角礫 花崗岩	やや外反	有	強張による刺突	有	撚糸文	熱水文の線行	撚糸行	ミガキ 磨痕	—	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
		遺物集中4	第1層	10	2	遺物集中4	第1層	10	23																			
図第－148－12	遺物集中4	遺物集中4	第1層	1－90－1	5	遺物集中4	第1層	52－1	11		Db	(27.9)	(－)	(43.4)	角礫 花崗岩	やや外反	有	縄による刺突	有	単軸節条体第3類の斜向付け	熱水文の線行	ミガキ 刷	—	—	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
		遺物集中4	第1層	52－1	11	遺物集中4	第1層	54(2－1)	9																			
		遺物集中4	第1層	54(2－1)	25	遺物集中4	第1層	54(2－2)	2																			
		遺物集中4	第1層	54(2－2)	13	遺物集中4	第1層	87－1	1																			
		遺物集中4	第1層	87－1	1	遺物集中4	第1層	112－1	1																			
		遺物集中4	第1層	114－1	34	遺物集中4	第1層	114－1	2																			
図第－149－13	遺物集中4	遺物集中4	第1層	1－80－1	9	遺物集中4	第1層	1－80－1	5		Db	(18.5)	(－)	(34.0)	角礫 花崗岩	やや外反	有	表面無花	有	附加条文 ＋沉線	単軸節条体第1類＋撚り足し	刷	—	—	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
		遺物集中4	第1層	13	29	遺物集中4	第1層	13	21																			
						21 ⑪	層		2																			
						21 ⑩	1		2																			
図第－149－14	遺物集中4	遺物集中4	第1層	10	26	遺物集中4	第1層	10	2		Db	(15.4)	(－)	(24.0)	角礫 花崗岩	やや外反	有	強張による刺突	有	附加条文 ＋沉線	単軸節条体第1類＋撚り足し	ミガキ	—	—	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
		遺物集中4	第1層	42	2	遺物集中4	第1層	72－1	2											単軸節条体第1類								
		遺物集中4	第1	72－1	4																							
図第－149－15	遺物集中4	遺物集中4	第1層	1－73－1	30	遺物集中4	第1層	1－73－1	38		Db	(－)	(－)	(20.0)	角礫 花崗岩	—	有	縄による刺突	有	回転風に乏し色合成文＋沉線	熱水文の線行	ミガキ 刷	—	—	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
		遺物集中4	第1層	1－73－1	2																							
		遺物集中4	第1層	1－28－1	5																							
図第－149－16	遺物集中4	遺物集中4	第1層	1－95－1	4	遺物集中4	第1層	1－95－1	5		Db	18.8	(－)	(26.3)	角礫 花崗岩	表面第1類	無	—	—	単軸節条体第1類＋撚り足し	熱水文の線行	刷	—	—	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
		遺物集中4	第1層	1－96－1	45	遺物集中4	第1層	1－95－1	2											不整縄文								
		遺物集中4	第1層	60－1	1																							
図第－150－17	遺物集中4	遺物集中4	第1層	3－1	13	遺物集中4	第1層	3－1	2		Db	(－)	(18.4)	(26.3)	角礫 花崗岩	表面第1類	無	—	—	—	熱水文の線行	刷	縄文	工ガキ痕	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
		23A	層		25	23A	層		22																			
図第－150－18	遺物集中4	遺物集中4	第1層	1－94	51	遺物集中4	第1層	1－94	9		Db	(－)	(19.4)	(23.0)	角礫 花崗岩	表面第1類	—	—	—	—	熱水文の線行	刷	縄文	工ガキ痕	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
																								縄文地				
図第－150－19	遺物集中4	遺物集中4	第1層	2－95－1	19	遺物集中4	第1層	1－95－1	4		Db	(－)	8.3	(14.7)	角礫・花崗	—	—	—	—	—	熱水文の線行	刷	縄文	工ガキ痕	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
図第－150－20	遺物集中4	遺物集中4	第1層	57	24	遺物集中4	第1層	57	2		Db	(－)	8.7	(21.3)	角礫・花崗	—	—	—	—	—	附加条文	ミガキ	縄文	工ガキ痕	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
図第－151－21	遺物集中4	遺物集中4	第1層	60(2－1)	12						Db	—	—	—	角礫・花崗	やや外反	無	—	有	不整縄文	不良回転縄文	縄痕 清掃	—	—	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
図第－151－22	遺物集中4	遺物集中4	第1層	36－1	1	遺物集中4	第1層	36－1	11		Db	—	—	—	白雲母	やや外反	無	—	有	不整縄文	附加条文	縄痕 清掃	—	—	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
図第－151－23a		遺物集中4	第1層	13	8	遺物集中4	第1層	13	23			—	—	—	白雲・花崗	やや外反	無	—	有	不整縄文	附加条文	ミガキ	—	—	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
図第－151－23b		遺物集中4	第1層	3－1	4	遺物集中4	第1層	3－1	2			—	—	—	白雲・花崗	やや外反	無	—	有	不整縄文	附加条文	ミガキ	—	—	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
		遺物集中4	第1層	13	2	遺物集中4	第1層	90－1	1						角礫													
						23A	層		1																			
図第－151－23a		遺物集中4	第1層	63－1	3	遺物集中4	第1層	63－1				—	—	—	白雲・花崗	やや外反	無	—	有	不整縄文	附加条文	刷	—	—	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
		遺物集中4	第1層	1－112－1	1	遺物集中4	第1層	112－1																				
図第－151－23b		遺物集中4	第1層	1		遺物集中4	第1層	60(2－1)			Da	—	—	—	白雲・角礫	表面第1類	無	—	有	不整縄文	附加条文	刷・工ガキ	—	—	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
		4区記																										
図第－151－24b		遺物集中4	第1層	63－1	34							—	—	—	白雲・花崗	やや外反	無	—	有	不整縄文	附加条文	刷	—	—	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
図第－151－24c		遺物集中4	第1層	63－1	2																							
		遺物集中4	第1	113－1	1																							
図第－151－25a	遺物集中4	遺物集中4	第1層	10	8	遺物集中4	第1層	10	9		Db	—	—	—	白雲・花崗	外反	無	—	有	撚いナデ	附加条文 不整縄文	刷	—	—	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
		23A	層		1										角礫													
図第－151－25b		遺物集中4	第1層	10	2							—	—	—	角礫	—	—	—	—	—	附加条文	刷	—	—	磨痕 清掃	磨痕 清掃	下駄女式
図第－151－26		遺物集中4	第1層	88－1	2	遺物集中4	第1層	54(2－2)	2		Db	—	—	—	白雲・花崗	やや外反	—	—	—	不整縄文	—	ミガキ 刷	—	—	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
		遺物集中4	第1層	54(2－1)	8	遺物集中4	第1層	88－1	3																			
図第－151－27	遺物集中4	遺物集中4	8－12 第5層	108－1	3						Db	—	—	—	白雲・花崗	外反する部位で異	—	—	—	不整縄文	—	刷	—	—	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
図第－152－28	遺物集中4	遺物集中4	第1層	72－1	3	遺物集中4	第1層	72－1	9		Db	—	—	—	白雲・角礫	小波状	無	—	有	不整縄文	附加条文	縄痕 清掃	—	—	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
		23A	層		3	23A	層		8																			
図第－152－29a	遺物集中4	遺物集中4	第1層	42－1	8	遺物集中4	第1層	42－1	15		Db	—	—	—	白雲・花崗	波状	無	—	有	不整縄文	熱水文の線行	ミガキ 刷	—	—	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
図第－152－29b	遺物集中4	遺物集中4	第1層	42－1	18							—	—	—	白雲・花崗	小波状	無	—	有	不整縄文	熱水文の線行	ミガキ 刷	—	—	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
図第－152－30	遺物集中4	遺物集中4	第1層	54(2－1)	11	遺物集中4	第1層	54(2－1)	1		Db	—	—	—	白雲・角礫	表面第1類	有	強張による刺突	有	不整縄文	熱水文の線行	ミガキ 刷	—	—	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
		遺物集中4	第1層	54(2－2)	8	遺物集中4	第1層	87－1	1																			
		遺物集中4	第1層	87－1	10																							
図第－152－31	遺物集中4	遺物集中4	第1層	16	2	遺物集中4	第1層	16	2		Db	—	—	—	白雲・花崗	表面第1類	有	縄の結合	有	回転風	熱水文の線行	ミガキ 刷	—	—	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
図第－152－32a	遺物集中4	遺物集中4	第1層	84	3	遺物集中4	第1層	1－84	62		Db	—	—	—	雲母	やや外反	有	凸凹部形	有	不整縄文	—	ミガキ 刷	—	—	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
図第－152－32b	遺物集中4	遺物集中4	第1層	84	11	遺物集中4	第1層	84－7			Db	—	—	—	雲母・角礫	—	—	—	—	不整縄文 不整縄文 不整縄文 第1類	ミガキ	—	—	—	磨痕 清掃管材	磨痕 清掃管材	下駄女式
								84－21																				
								4区記		43																		

表Ⅲ－５　遺構掲載土器一覧(13)

地区・層序・遺序						同一個体未接合破片				分類	胎土(焼成(mm))			混和	口縁部(器群分類)			体部(器群分類)			底部(器群分類)		図化する型式
掲載番号	遺構名	調査区・遺構	層位	遺物番号	点数	調査区・遺構	層位	遺物番号	点数		石英	長石	雲母		形式	器形の特徴	特徴	口径(cm)の変動	形式	特徴	特徴	典型	形式	
図Ⅲ－152－33	遺物集中４	遺物集中４	層土中	42－1	16	遺物集中４	層土中	42－1	4	Db	—	—	—	口縁部	やや外反	有	段状による刻笹	有	平面折行 縄文＋部加縄文	附加縄文 (L 原 R 原 文)	L ボタ 刺	—	—	磨痕 海綿骨針	下駄女式
図Ⅲ－153－34a	遺物集中４	遺物集中４	層土中	87－1	8	遺物集中４	層土中	71	22	Db	—	—	—	口縁部 体部	やや外反	有	無	有	単軸斜条体 第１類	熱水文の縦行	L ボタ＋ 刺	—	上げ底	磨痕 海綿骨針 ※２－５㎜ 円錐少量含	下駄女式
		遺物集中４	層土中	87－2	8	遺物集中４	層土中	69	10																
		遺物集中４	層土中	71	14	遺物集中４	層土中	69	10																
図Ⅲ－153－34b		遺物集中４	層土中	71	11	遺物集中４	層土中	72	22																
						遺物集中４	層土上	1－80－1	1												条板＋ ボタ	—	上げ底	磨痕 海綿骨針 ※２－５㎜ 円錐少量含	
						未注記			13																
図Ⅲ－154－35	遺物集中４	遺物集中４	層土中	54(2－2)	5	遺物集中４	層土中	54(2－2)	2	Db	—	—	—	口縁部 体部	やや外反	有	段状による刻笹	有	流線 (表面風化)	熱水文の縦行	L ボタ 刺	—	—	磨痕 海綿骨針 見られず	下駄女式
		遺物集中４	層土中	1－96－1	7	遺物集中４	層土中	54(2－2)	8																
						遺物集中４	層土上	1－95－1	2																
						遺物集中４	層土上	1－96－1	32																
図Ⅲ－154－36	遺物集中４	遺物集中４	層土中	43	12	遺物集中４	層土中	43	26	Db	—	—	—	口縁部 体部	やや外反	有（低）	尖による刻笹	有	不整縄縄文 ＋	熱水文の縦行	L ボタ 刺	—	—	磨痕 海綿骨針	下駄女式
						遺物集中４	層土中	43－1	4																
						遺物集中４	層土中	1－74－1	1																
図Ⅲ－154－37	遺物集中４	遺物集中４	層土中	60－1	3	遺物集中４	層土中	60－1	3	Db	—	—	—	口縁部－胴部	やや外反	有	皆質可工法 による刻笹	有	単軸斜条１種 の横走も混在	熱水文の縦行	L ボタ 刺	—	—	磨痕 海綿骨針	下駄女式
		遺物集中４	層土中	66(2－2)	28	遺物集中４	層土中	66(2－2)	29																
図Ⅲ－154－38a	遺物集中４	遺物集中４	層土	3－1	2	遺物集中４	層土	72－1	2	Db	—	—	—	口縁－胴部	直立30㎜	有（低）	無	有	不整縄縄文	熱水文の縦行	単軸斜条体 第３類	刺	—	磨痕 砂	下駄女式
			表土	表	12	表土	表		82																
図Ⅲ－154－38b			表土	表	5	未注記			1	Db	—	—	—	底部 (底部片)	—	—	—	—	—	熱水文の縦行	単軸斜条体 第３類	刺	—	磨痕 砂 ＋砂礫	
図Ⅲ－155－39	遺物集中４	遺物集中４	層土中	60－1	29	遺物集中４	層土中	60－1	7	Db	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	熱水文の縦行	単軸斜条体 第３類	刺	—	磨痕 海綿骨針	下駄女式
						未注記			1																
図Ⅲ－155－40a	遺物集中４	遺物集中４	層土中	36－1	12	遺物集中４	層土中	56－1	32	Db	—	—	—	底部－底部	—	—	—	—	—	熱水文の縦行	単軸斜条体２種	条板＋ボタ	縦文	上げ底	磨痕 海綿骨針	下駄女式
図Ⅲ－155－40b	遺物集中４	遺物集中４	層土中	36－2	7	遺物集中４	層土中	84－1	1	Db	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	熱水文の縦行	単軸斜条体２種	条板＋ボタ	縦文	上げ底	磨痕 海綿骨針	下駄女式
図Ⅲ－156－41	遺物集中４	遺物集中４	層土上	1－92	34	遺物集中４	層土上	1－92	2	Db	—	—	—	底部－底部	—	—	—	—	—	熱水文の縦行	刺	ミガキ	上げ底	磨痕 海綿骨針	下駄女式
図Ⅲ－156－42	遺物集中４	遺物集中４	層土上	3－1	24	遺物集中４	層土	3－1	2	Db	—	—	—	底部－底部	—	—	—	—	—	熱水文の縦行	刺	—	上げ底	磨痕 海綿骨針	下駄女式
			表土	表	4	表土	表		1																
図Ⅲ－156－43	遺物集中４	遺物集中４	層土中	36－1	22	遺物集中４	層土中	36－1	31	Db	—	—	—	底部	—	—	—	—	単軸斜条体 第１類＋ 横縄文	熱水文の縦行	刺	縦文	上げ底	磨痕 海綿骨針	下駄女式
図Ⅲ－156－44	遺物集中４	遺物集中４	層土中	60－1	22	遺物集中４	層土中	60－1	14	Db	—	—	—	底部－底部	—	—	—	—	—	熱水文の縦行	ミガキ 刺	縦文	上げ底	磨痕 海綿骨針	下駄女式
		遺物集中４	層土中	42－3	5	遺物集中４	層土中	39	1																
図Ⅲ－156－45	遺物集中４	遺物集中４	層土中	43－1	10	遺物集中４	層土中	43	1	Db	—	—	—	体部 底部	—	—	—	—	—	熱水文の縦行	条板 ＋ ミガキ	縦文	上げ底	磨痕 海綿骨針	下駄女式
		遺物集中４	層土中	26	9	遺物集中４	層土中	42－1	2																
		遺物集中４	層土	76	3	遺物集中４	層土中	43－1	2																
図Ⅲ－156－46	遺物集中４	遺物集中４	層土中	36－1	6	遺物集中４	層土中	39－1	32	Db	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	熱水文の縦行	刺	ミガキ刺	上げ底	磨痕 海綿骨針	下駄女式
図Ⅲ－156－47	遺物集中４	遺物集中４	層土中	69	7	遺物集中４	層土中	69	1	Db	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	熱水文の縦行	条板＋ボタ	縦文	上げ底	磨痕 海綿骨針	下駄女式
図Ⅲ－157－48a	遺物集中４	遺物集中４	層土中	18	20	遺物集中４	層土中	18	26	—	—	—	—	胴部－底部	—	有（低）	不整縄文	有	不整縄縄文	上底 無強度	ミガキ 刺	—	—	磨痕 海綿骨針	下駄女式
図Ⅲ－157－48b	遺物集中４	遺物集中４	層土中	18	19					—	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	上底 無強度 下底 単軸斜条体第１類	上底 無強度 下底 単軸斜条体第１類	—	—	磨痕 海綿骨針	
図Ⅲ－157－48c		遺物集中４	層土中	18	5					—	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	熱水文の縦行	ミガキ 刺	縦文	上げ底	磨痕 海綿骨針	
図Ⅲ－157－49	遺物集中４	遺物集中４	層土上	1－94	8	遺物集中４	層土上	1－94	25	Db	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	附加縄文	ミガキ	縦文	上げ底	磨痕 海綿骨針	下駄女式
		遺物集中４	層土上			遺物集中４	層土上	1－80－1	4																
図Ⅲ－157－50	遺物集中４	遺物集中４	層土中	54(2－1)	9	遺物集中４	層土中	54(2－2)	6	Db	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	熱水文の縦行	平面折行縄文 不整縄縄文	ミガキ 刺	—	磨痕 海綿骨針	下駄女式
図Ⅲ－157－51	遺物集中４	遺物集中４	層土中	72－1	3	遺物集中４	層土中	49	4	Db	—	—	—	胴部 or 体部	—	—	—	—	—	熱水文の縦行	単軸斜条体 第１類 横走	刺	—	磨痕 海綿骨針	下駄女式
		遺物集中４	層土	36	2	H－2	表土	66－1	1																
図Ⅲ－157－52	遺物集中４	遺物集中４	層土	72－1	8					Db	—	—	—	体部－底部	—	—	—	—	—	熱水文の縦行	平面縄文＋ 不整縄縄文	刺	—	磨痕 海綿骨針	下駄女式
図Ⅲ－158－53a	遺物集中４	遺物集中４	層土下	1－110－2	3	DM	表		1	Ib	—	—	—	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	東海路系式
図Ⅲ－158－53b			DM	表	6	DM	表		4																
図Ⅲ－158－54	遺物集中４	遺物集中４	層土	3－1	23	遺物集中４	層土	3－1	41	Ma	—	—	—	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイパ様式
			未注記		2	未注記			5																
図Ⅲ－160－1	遺物集中５	遺物集中５	表	1	1					Db	—	—	—	口縁－体部	やや外反	有	尖による刻笹	有	縦縄文地文後 ナデ	平面折行 縄文	刺	—	—	磨痕 海綿骨針	下駄女式
		遺物集中５	表	4	9																				
図Ⅲ－160－2	遺物集中５	遺物集中５	Db	4	8					Db	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	平面折行縄文	刺	縦文	上げ底	磨痕 海綿骨針	下駄女式
図Ⅲ－160－3－a	遺物集中８	遺物集中８	表	1－1	2	遺物集中８	表	1－1	29	Na	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
図Ⅲ－160－3－b		遺物集中８	表	1－1	6									胴部											
図Ⅲ－160－3－c	遺物集中７	遺物集中７	層土	1	12	遺物集中７	層土	1	63	Db	—	—	—	口縁－体部	やや外反	無	—	有	単軸斜条体 第１類横走	平面折行 縄文	刺 胴裏	—	—	—	下駄女式
図Ⅲ－160－3－b		遺物集中７	層土	1	17	未注記			10		—	—	—	底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		遺物集中８	表	1－1	29	遺物集中８	表	1－1	23																
図Ⅲ－161－1	遺物集中８	遺物集中８	表	2	4	遺物集中８	表	3	1	Db	(25.4)	(－)	(25.0)	口縁部	やや外反	有	尖による刻笹	有	不整縄縄文 地ハジ工具	平面折行 縄文	刺	—	—	磨痕 海綿骨針	下駄女式
		未注記			1																				
図Ⅲ－161－2	XP－149	XP－149	層土	1	5					Ma	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイパ様式

表Ⅲ－6　遺構掲載石器一覧(1)

挿図番号	遺構名	付属遺構名	器種名	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	遺物番号	備考
図Ⅲ－91－4	H－1	HP	Rフレイク	床	6.55	4.30	1.36	28.29	頁岩	140－2	
図Ⅲ－94－10	H－2		スクレイパー	床	6.62	4.48	0.86	25.18	頁岩	1	
図Ⅲ－94－11	H－2		両面調整石器	床	11.13	8.09	4.18	395.00	頁岩	10	
図Ⅲ－94－12	H－2		Rフレイク	床	5.97	3.83	0.83	17.15	頁岩	7	
図Ⅲ－94－13	H－2		扁平打製石器	床	6.77	16.20	3.03	555	閃緑岩	5－2	
図Ⅲ－94－14	H－2		礫石	床	52.00	31.00	5.60	7700	砂岩	5－1	
				床						36	
				床						37	
				床						44	
				床						51	
				床						52	
				床						53	
図Ⅲ－95－9	H－3		両面調整石器	床	12.04	4.80	1.10	49.57	凝灰岩	44	
図Ⅲ－95－10	H－3		垂飾	覆土2	4.43	3.22	1.19	15.06	凝灰岩	①	石製品
図Ⅲ－98－6	H－5	HF1	Rフレイク	覆土1	(3.16)	3.69	0.97	8.69	頁岩	68	
図Ⅲ－98－7	H－5		すり石	覆土2	8.24	15.04	5.31	880	安山岩	53	
図Ⅲ－106－19	H－6		石鏃	床	4.07	1.38	0.75	3.11	頁岩	481	
図Ⅲ－106－20	H－6		両面調整石器	床	5.48	2.11	1.54	12.14	安山岩	42	ガラス質
図Ⅲ－106－21	H－6		スクレイパー	床	8.44	3.73	1.30	38.65	頁岩	459	
図Ⅲ－106－22	H－6		つまみ付ナイフ	床	8.21	1.78	1.08	10.72	頁岩	457	
図Ⅲ－106－23	H－6		石斧	床	(13.83)	6.41	3.19	500.00	粘板岩	511	
図Ⅲ－106－24	H－6		扁平打製石器	床	8.93	14.45	2.88	595	安山岩	544	
図Ⅲ－106－25	H－6		扁平打製石器	床	13.07	17.72	2.05	750	凝灰岩	550	
図Ⅲ－106－26	H－6		たたき石	床	(14.97)	10.89	3.98	1020	砂岩	531	
図Ⅲ－106－27	H－6		北海道式石冠	床	8.03	13.12	5.43	880	閃緑岩	510	
図Ⅲ－108－3	H－9		石皿	床	45.30	28.50	9.30	17,700	安山岩	7	
図Ⅲ－115－16	H－10		石鏃	床	(3.45)	1.31	0.48	2.07	頁岩	646	
図Ⅲ－115－17	H－10		スクレイパー	床	6.98	4.43	1.05	40.42	頁岩	644	
図Ⅲ－115－18	H－10		スクレイパー	床	11.87	5.48	1.78	84.27	頁岩	663	
図Ⅲ－120－11	H－11		Rフレイク	床	4.74	3.60	1.07	14.94	頁岩	58	
図Ⅲ－120－12	H－11		石斧	床	10.45	4.62	2.41	185.15	緑色泥岩	66	
図Ⅲ－120－13	H－11		石皿片	床	29.18	18.30	4.86	2555	砂岩	71	H－11・HP－12・86と接合
図Ⅲ－121－17	H－12		スクレイパー	床面	(2.92)	2.16	0.67	4.84	頁岩	88	
図Ⅲ－121－18	H－12		石刀	覆土中	11.13	4.76	1.12	64.67	凝灰岩	186－1	石製品
図Ⅲ－121－19	H－12		扁平打製石器	床面	9.32	17.11	2.72	605	流紋岩	148	
図Ⅲ－121－20	H－12		扁平打製石器	床面	9.49	(13.02)	1.85	320	凝灰岩	156	
図Ⅲ－122－21	H－12		たたき石	床面	10.75	6.65	4.49	400	砂岩	101	
図Ⅲ－122－22	H－12		たたき石	床面	9.43	6.06	4.41	340	砂岩	113	
図Ⅲ－122－23	H－12		石皿片	床面	(34.10)	(20.60)	(8.90)	7000	安山岩	173	
図Ⅲ－123－4	H－13		スクレイパー	床	(8.90)	3.37	1.57	38.99	頁岩	104	
図Ⅲ－124－7	H－14		スクレイパー	床	8.15	3.57	1.68	46.54	頁岩	339	
図Ⅲ－124－8	H－14		扁平打製石器	床	9.87	14.43	3.05	660	砂岩	402	
図Ⅲ－124－9	H－14		石剣	床	5.82	5.73	0.88	262.31	粘板岩	403	
図Ⅲ－125－10	H－14		石皿	床	37.10	26.40	5.60	7300	砂岩	396	
図Ⅲ－125－11	H－14		台石	床	38.60	26.10	9.90	11,900	安山岩	397	
図Ⅲ－125－12	H－14		台石	床	37.50	27.30	12.70	15,800	安山岩	395	
図Ⅲ－127－5	H－16		石鏃	床	3.64	1.26	0.68	2.44	頁岩	13	
図Ⅲ－127－6	H－16		石鏃	床	3.42	1.36	0.63	2.00	頁岩	16	
図Ⅲ－127－7	H－16		つまみ付ナイフ	床	6.37	2.21	0.69	8.00	頁岩	196	
図Ⅲ－127－8	H－16		スクレイパー	床	10.17	7.14	2.10	125.21	頁岩	208	
図Ⅲ－128－9	H－16		両面調整石器	床	(7.20)	6.25	2.19	73.13	頁岩	109	
図Ⅲ－128－10	H－16		石斧	床	10.37	5.02	1.46	105.58	緑色泥岩	163	
図Ⅲ－128－11	H－16		たたき石	床	8.68	8.81	3.42	360	砂岩	104	
図Ⅲ－130－1	P－19		北海道式石冠	坑底	9.48	(9.71)	5.89	795	安山岩	1	
図Ⅲ－131－3	P－14		扁平打製石器	坑底	6.07	16.72	2.04	300	凝灰岩	4	
図Ⅲ－131－4	P－14		扁平打製石器	坑底	13.75	16.72	2.61	850	凝灰岩	2	
図Ⅲ－131－5	P－14		たたき石	坑底	16.13	4.59	3.26	290.42	砂岩	9	
図Ⅲ－132－6	P－14		石棒	坑底	4.00	14.20	10.90	1960.00	頁岩	3	
図Ⅲ－133－6	P－20		Rフレイク	床	6.81	4.52	1.52	27.10	頁岩	78	
図Ⅲ－133－2	P－23		スクレイパー	坑底	7.86	3.03	1.04	15.98	頁岩	1	
図Ⅲ－133－3	P－23		スクレイパー	坑底	7.77	4.08	1.72	35.71	頁岩	2	
図Ⅲ－133－4	P－23		扁平打製石器	坑底	23.5	8.8	1.7	448.0	凝灰岩	3	

表Ⅲ－6　遺構掲載石器一覧(2)

挿図番号	遺構名	付属遺構名	器種名	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	遺物番号	備考
図Ⅲ－134－2	P－24		扁平打製石器	坑底	7.95	17.15	2.55	425	砂岩	3	
図Ⅲ－134－2	P－33		フレイク	坑底	5.70	3.06	0.79	7.72	頁岩	2	
図Ⅲ－134－2	P－37		Rフレイク	床	(4.98)	4.44	1.14	20.57	頁岩	258	
図Ⅲ－134－3	P－37		Uフレイク	床	3.04	3.08	0.99	5.38	頁岩	259	
図Ⅲ－137－1	F－31		つまみ付ナイフ	撹土1層	6.49	3.65	1.14	18.54	頁岩	3	
図Ⅲ－137－2	F－31		石核接合資料	Ⅲ層	5.77	11.27	4.62	230.30	頁岩	18	
図Ⅲ－137－2－1			石核		5.04	8.35	4.13	108.21			
図Ⅲ－137－2－2			フレイク		5.17	8.54	3.56	83.35			
図Ⅲ－137－2－3			フレイク		4.55	2.63	1.15	9.47			
図Ⅲ－137－2－4			フレイク		5.74	3.06	1.82	26.53			
図Ⅲ－137－2－5			フレイク		2.44	1.36	0.65	1.90			
図Ⅲ－137－2－6			フレイク		3.32	0.85	0.43	0.84			
図Ⅲ－138－1	F－59		石皿	Ⅲ層	40.30	26.00	11.90	15,500	安山岩	23	4点
図Ⅲ－139－1	FC－1		石鏃	Ⅲ層	3.57	1.56	0.53	1.65	頁岩	6	
図Ⅲ－139－2	FC－1		石槍	Ⅲ層	(8.35)	1.96	1.24	18.75	頁岩	44	
図Ⅲ－139－3	FC－1		石槍	Ⅲ層	9.33	3.59	1.42	41.17	頁岩	12	
図Ⅲ－139－4	FC－1		つまみ付ナイフ	撹乱	11.14	3.23	1.26	38.93	頁岩	4	
図Ⅲ－139－5	FC－1		つまみ付ナイフ	Ⅲ層	8.15	5.64	1.24	39.90	頁岩	8	
図Ⅲ－139－6	FC－1		石斧片	撹乱	(6.08)	5.52	2.78	145.16	緑色泥岩	21－3	
図Ⅲ－139－7	FC－1		石斧	撹乱	(11.27)	5.43	3.40	387.00	緑色泥岩	21－4	
図Ⅲ－139－8	FC－1		石斧	Ⅲ層	(11.01)	5.02	3.34	295.00	緑色泥岩	3	
図Ⅲ－139－1	FC－2		両面調整石器	Ⅲ層	7.07	5.98	1.66	57.63	頁岩	1－5	
図Ⅲ－140－2	FC－9		つまみ付ナイフ	Ⅲ層	(2.22)	1.35	0.62	1.56	頁岩	9	
図Ⅲ－140－3	FC－9		スクレイパー	Ⅲ層	(6.60)	4.11	1.20	26.36	頁岩	3	
図Ⅲ－140－4	FC－9		スクレイパー	Ⅲ層	(7.42)	2.95	1.27	16.06	頁岩	7	
図Ⅲ－140－5	FC－9		石斧	Ⅲ層	9.04	3.35	1.55	67.74	泥岩	8	
図Ⅲ－140－6	FC－9		扁平打製石器	Ⅲ層	10.33	15.86	1.92	420	凝灰岩	23	
図Ⅲ－159－55	遺物集中4		石鏃	覆土	(3.32)	1.66	0.39	1.50	頁岩	97－6	
図Ⅲ－159－56	遺物集中4		石鏃	覆土中	(2.05)	1.30	0.48	0.83	黒曜石	77－3	
図Ⅲ－159－57	遺物集中4		石槍	覆土	(5.78)	3.91	1.53	30.32	頁岩	97－2	
図Ⅲ－159－58	遺物集中4		つまみ付ナイフ	覆土中	6.50	2.38	0.74	10.31	頁岩	64－3	
図Ⅲ－159－59	遺物集中4		つまみ付ナイフ	覆土中	7.73	3.43	1.18	19.00	頁岩	77－2	
図Ⅲ－159－60	遺物集中4		つまみ付ナイフ	覆土中	(7.79)	3.61	1.19	16.64	頁岩	16－2	
図Ⅲ－159－61	遺物集中4		つまみ付ナイフ	覆土	(2.35)	2.56	0.82	4.25	頁岩	112－2	
図Ⅲ－159－62	遺物集中4		スクレイパー	覆土中	7.53	2.82	0.98	15.15	頁岩	55－4	
図Ⅲ－159－63	遺物集中4		スクレイパー	覆土中	(6.58)	3.27	1.17	26.63	頁岩	77－14	
図Ⅲ－159－64	遺物集中4		スクレイパー	覆土中	6.7	3.67	1.34	25.48	頁岩	77－15	
図Ⅲ－159－65	遺物集中4		スクレイパー	覆土中	6.56	4.43	0.89	13.26	頁岩	77－4	
図Ⅲ－159－66	遺物集中4		スクレイパー	覆土中	(3.31)	3.15	0.78	8.71	頁岩	78－5	
図Ⅲ－159－67	遺物集中4		スクレイパー	覆土中	5.07	5.50	1.03	34.24	頁岩	77－10	
図Ⅲ－159－68	遺物集中4		両面調整石器	覆土中	(7.69)	4.47	1.42	48.05	頁岩	35－2	
図Ⅲ－159－69	遺物集中4		両面調整石器	覆土中	(3.85)	4.53	1.12	15.59	頁岩	55－5	
図Ⅲ－159－70	遺物集中4		両面調整石器	覆土中	(3.76)	2.50	1.05	10.68	頁岩	73－2	
図Ⅲ－159－71	遺物集中4		両面調整石器	覆土中	(5.28)	3.76	1.45	26.32	頁岩	78－1	
図Ⅲ－160－2	遺物集中6		つまみ付ナイフ	Ⅲ層	(2.97)	1.99	1.18	5.11	頁岩	1－2	
図Ⅲ－161－2	遺物集中8		石槍	Ⅲ層	(6.58)	4.60	1.41	38.35	頁岩	34	
図Ⅲ－161－3	遺物集中8		両面調整石器	Ⅲ層	7.62	3.49	2.99	74.65	頁岩	47	
図Ⅲ－161－1	SP－21		つまみ付ナイフ	覆土	8.39	4.21	1.53	44.97	頁岩	1	

表Ⅲ－7　包含層出土遺物一覧表

遺構名	土器							土製品	石器																												合計
	Ⅰ群		Ⅱ群		Ⅲ群		Ⅳ群		剥片				剥片石器								磨製石器				礫石器						礫・礫片				
	a類	b類	a類	b類	a類	b類	a類		石鏃	石槍	石錐	つまみ付ナイフ	楔形石器	スクレイパー	両縁調整石器	単フレイク	縦フレイク	フレイク	石核	原石	敲石・磨石	石斧	石製品	磨り切り小角片	たたき石	すり石	北海道式石冠	編平石製石器	石鏃	砥石	石錘	凹石・平面石	加工礫	被熱礫	礫片	礫	
I類	1		1,773	264	162		91		3	2	2	10		16	2	11	3	303	4			2	2		9	1		51				2	2	18	11	6	3,315
II類	3	9	6,993	1,297	354	3	722		16	7	4	22	3	46	15	35	41	4,598	33	9		3	5	2	30	9		62	1	1	1	2	1	139	103	16	15,905
III類	137	62	27,073	6,969	639	3	566	11	62	27	8	102		146	78	223	127	16,434	49	33	1	31	17	8	109	35	5	174	2	1	16	20	17	421	430	102	54,396
IV類	2		396	17	9		6		1	2		5		5	3	13	4	271	2	2		1						3		1	6		1	7	1	1	757
V類			21	1	1		2				1	1		1		3		80					1		2			2						2	1		119
縄文風			59		1													8																1			69
埋丸			496	100	5		10		1			4		6		7	4	345	5	3		2			1	1		3						18	4	9	936
表採・撹土		1	60	4	26	2												14																8			124
風倒木			175	2	22						1	1		2	1	3	1	71	1	1			1					1				3	1	7		6	296
焼土跡			43	19	2		39		1					3			2	53	2			1												1	2		168
木根撹乱																																		1			1
	143	72	38,013	8,670	1,262	8	1,426	11	84	38	16	145	3	225	99	245	182	22,064	136	46	1	40	26	10	148	46	5	259	3	3	23	27	22	623	542	140	75,776

表Ⅲ－8　包含層掲載土器一覧(1)

掲載番号	現在・現存・紛失			点数	同一個体を複数掲げ			点数	分類	復元個体(cm)			底径	図化部					胎土	焼成	色調	底部(著作物)				残存率	法量(著作物)		底部(著作物)		胎土(著作物)	決定する型式
	無図化・無掲	掲載・未掲	紛失		掲載図・遺構	紛失	点数			口径	器高	胴径		形状	隆帯の有無	隆帯	口縁の有無	施文・施文	施文・施文	内面調整	表面	断面	表面	断面		表面	断面					
図第－302－1	15A	第		34	15A	第		19	Ⅱb	(22.4)	11.8	41.0	丸底	直立	無	—	有	平柳研条(第1類 横走	熱赤文の縁行	ミガキ	縄文	ﾖｺﾅﾃﾞ	縄痕	海綿骨針		下駄ｂ式						
	15K	弥		1																												
図第－303－2	23A	第		57	23A	第		33	Ⅱb	(15.4)	(10.6)	27.4	丸底	やや外反	無	—	無	附加条文	附加条文(体部下半 短節縄文)	ミガキ 横	縄文	ﾖｺﾅﾃﾞ	縄痕	海綿骨針		下駄ｂ式						
図第－303－3	23A	第		22	23A	第		13	Ⅱb	(14.5)	(7.5)	27.2	丸底	直立	無	—	無	附加条文	附加条文	横 縄痕跡非	—	ﾖｺﾅﾃﾞ	縄痕	海綿骨針 砂礫検査		下駄ｂ式						
図第－303－4	13S	第		34	13S	第		6	Ⅱb	(—)	(12.5)	(18.0)	丸底	—	—	—	—	—	附加条文	ミガキ 横	縄文	ﾖｺﾅﾃﾞ(?)	縄痕	海綿骨針		下駄ｂ式						
図第－304－5	20Bq	第		33	20Bq	第		1	Ⅱb	—	—	—	丸底(体部下半)	—	—	—	—	—	熱赤文の縁行	ミガキ 横	縄文	ﾖｺﾅﾃﾞ	縄痕	海綿骨針		下駄ｂ式						
	20Ng	第		7	20Ng	第		7																								
図第－304－6	15M	第		20	20Ng	第		16	Ⅱb	(—)	(11.9)	(18.7)	丸底(体部下半)	—	—	—	—	—	熱赤文の縁行	ミガキ 横	—	ﾖｺﾅﾃﾞ?	縄痕	海綿骨針		下駄ｂ式						
図第－304－7	15M	第		32	15M	第		29	Ⅱb	(—)	(14.6)	(29.4)	丸底(体部下半)	—	—	—	—	—	敲撫縄文	磨消なし ミガキ	縄文	ﾖｺﾅﾃﾞ?	縄痕	海綿骨針		下駄ｂ式						
		弥		7	15M	弥		3																								
					15K	第		1																								
図第－305－8	22L	第		39	22L	第		17	Ⅱa	(20.6)	(8.2)	25.6	丸底	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		サイコ型式						
図第－305－9	12G	第		33	12G	第		4	Ⅱa	(24.3)	(10.6)	30.0	丸底	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		サイコ型式						
	12P	第		23	12P	第		6																								
図第－305－10	10Q	第		49	10Q	第		2	Ⅱa	(19.5)	(6.7)	21.1	丸底	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		サイコ型式						
図第－306－11	13K	第		41	13K	第		33	Ⅱa	(23.1)	(8.1)	25.4	丸底	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		サイコ型式						
					13X	2		7																								
図第－307－12a	11Z	第		3	11Z	弥		1	Ⅰa	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		連続式式骨針(高野工群)						
	12Y	第		3	12Y	第		1																								
	12Z	第		5	12Y	第		10																								
図第－307－12b	11Z	第		1	11Z	第		13																								
	12Y	第		2	13b	1		1																								
					15X	第		1																								
					10K	第		1																								
					未図化			1																								
図第－307－13	10K	第		4	10K	第		2	Ⅰa	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		連続式式骨針(高野工群)						
図第－307－14	10a	第		1					Ⅰa	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		連続式式骨針(高野工群)						
図第－307－15	10X	第		1					Ⅰa	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		連続式式骨針(高野工群)						
図第－307－16	10X	1b		5					Ⅰa	—	—	—	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		連続式式骨針(高野工群)						
図第－307－17	10X	第		3					Ⅰa	—	—	—	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		連続式式骨針(高野工群)						
	10W	第		2																												
図第－307－18	10K	第		1	10Y	第		1	Ⅰa	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		連続式式骨針(高野工群)						
	10Y	第		1	12Z	第		3																								
	12Y	第		2																												
	12Z	第		1																												
図第－307－19	10K	第		2					Ⅰa	—	—	—	完底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		連続式式骨針(高野工群)						
図第－307－20	12Y	第		8					Ⅰa	—	—	—	平底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		連続式式骨針(高野工群)						
図第－307－21									Ⅰa	—	—	—	平底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		連続式式骨針(高野工群)						
図第－307－22a	12Y	第		1					Ⅰa	—	—	—	平底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		連続式式骨針(高野工群)						
図第－307－22b	12Z	第		1																												
図第－307－23	12j	第		2	未図化			1	Ⅰa	—	—	—	平底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		連続式式骨針(高野工群)						
図第－307－24	16P	第		1					Ⅰa	—	—	—	平底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		連続式式骨針(高野工群)						
図第－308－25a	16N	第		6	16N	第		6	Ⅱb	—	—	—	口縁～胴部	外反	無	—	有	不整縄文	附加条文	無	縄文	ﾖｺﾅﾃﾞ	縄痕	海綿骨針		下駄ｂ式						
図第－308－25b	16N	第		4																ミガキ 横												
図第－308－26	16L	第		2	16M	第		5	Ⅱb	—	—	—	口縁部	直立	無	—	有	不整縄文	平柳研条	ミガキ 横	—	—	縄痕	海綿骨針		下駄ｂ式						
					16L	第		3																								
図第－308－27	16P	第		1					Ⅱb	—	—	—	口縁部	やや外反	直立	—	—	不整縄文	—	ミガキ 横	—	—	縄痕	海綿骨針		下駄ｂ式						
図第－308－28a	10a	第		2	9 a	第		1	Ⅱb	—	—	—	胴部 / 体部	—	—	—	有	不整縄文	指圧痕しの縄文	ミガキ 横	—	—	縄痕	海綿骨針		下駄ｂ式						
	10b	第		1	10a	第		8																								
					10b	第		7																								
					10c	第		4																								
					11a	第		2																								
					11b	第		1																								
図第－308－28b	10a	第		1	10a	第		3		—	—	—	口縁～胴部	やや外反	直立	—	有	不整縄文	指ケズり	ミガキ 横	—	—	縄痕	海綿骨針		下駄ｂ式						
図第－308－28b	10a	第		2	10a	第		2	Ⅱb	—	—	—	口縁～胴部	直立	—	—	有	不整縄文	指ケズり	ミガキ 横	—	—	縄痕	海綿骨針								
図第－308－28c	10a	第		2	10b	第		2																								
					11a	第		1		—	—	—	体部	—	—	—	—	—	指ケズり	ミガキ 横	—	—	縄痕	海綿骨針								

表Ⅲ－8　包含層掲載土器一覧(2)

掲載番号	発表記・報告	発掘	点数	発表記・報告	発掘	点数	分類	胎土混和（mm）門径	器高	形高	器形	口縁部の形態	形状	隆帯の有無	隆帯上	口縁の有無	地文・施文	地文・施文	内面調整	底部	形状	胎土(重量比)(%)	決定する型式
図第－208－20a	22P	第	14	22P	第	14	Ⅱb	—	—	—	口縁－胴部	—	やや外反	—	—	有	縄圧縄文の回転	縄圧縄文の回転	無	縄痕	渦巻状	縄痕	海棲貝殻	下層ⅱ式
図第－208－20b	22P	第	3					—	—	—	口縁－胴部	—	やや外反	—	—	有	縄圧縄文の回転	縄圧縄文の回転	無	縄痕	渦巻状	縄痕	海棲貝殻	下層ⅱ式
図第－208－21	31H	第	1	31H	第	1	Ⅱb	—	—	—	口縁部	—	やや外反	無	—	有	指圧痕の縄文	—	無	縄痕	渦巻状	縄痕	海棲貝殻	下層ⅱ式
		31H	第	1																				
図第－208－22	13F	第	1	13F	第	1	Ⅱb	—	—	—	口縁－体部？	直立	無	—	無	無	縄圧縄文	縄圧縄文	無	—	—	縄痕	海棲貝殻	下層ⅱ式
		13F	第	1	13G	第	1																	
図第－208－23	23N	第	3				Ⅱb	—	—	—	口縁部	やや外反	波状	—	—	—	単節斜行縄文	—	ミガキ	—	—	縄痕	海棲貝殻	下層ⅱ式
																	単軸絡条体第1類の縄文							
図第－208－24	20K	第	2	20J	第	1	Ⅱb	—	—	—	口縁部	直立	波状	—	—	—	単軸絡条体第1類の縄文	—	無	縄痕	渦巻状	縄痕	海棲貝殻	下層ⅱ式
		20L	第	1	20K	第	1																	
					20K	第	2																	
					20L	第	2																	
					20M	第	1																	
					20N	第	1																	
					20N	第	2																	
					20A	第	1																	
図第－208－25	20N	第	1				Ⅱb	—	—	—	口縁部	外反	—	—	—	有	単節斜行縄文	—	ミガキ	—	—	縄痕	海棲貝殻＋赤彩少量	下層ⅱ式
図第－208－26	20M	第	2				Ⅱb	—	—	—	口縁部	やや外反	無	—	有	有	単軸絡条体第1類 縄文	粗糸之の縄打	ミガキ 粗	—	—	縄痕	海棲貝殻	下層ⅱ式
図第－208－27	20L	第	1				Ⅱb	—	—	—	口縁部	直立	無	—	有	有	単軸絡条体第1類 縄文	粗糸之の縄打	ミガキ	—	—	縄痕	海棲貝殻	下層ⅱ式
図第－208－28	24L	廃氏	1				Ⅱb	—	—	—	口縁部	直立	無	—	有	有	単軸絡条体第1類 縄文	粗糸之の縄打	無	—	—	縄痕	海棲貝殻	下層ⅱ式
図第－208－29a	10M	第	1	10M	第	3	Ⅱb	—	—	—	口縁部（波状）	やや外反 波状	—	—	—	有	単軸絡条体第1類	—	ミガキ	—	—	縄痕	海棲貝殻	下層ⅱ式
				10M	第	2																		
図第－208－29b	10N	第	5	11K	第	1		—	—	—	体部－底部	—	—	—	—	—	—	粗糸之の縄打	ミガキ	—	—	縄痕	海棲貝殻	
				12M	第	1																		
図第－208－40	19M	第	9	19G	第	2	Ⅱb	—	—	—	口縁－体部	直立気味	無	—	無	有	単軸絡条体第1類	粗糸之の縄打	無	—	—	縄痕	海棲貝殻 赤彩少量	下層ⅱ式
				19M	第	16																		
図第－209－41	21L	第	17	21L	第	23	Ⅱb	—	—	—	口縁－体部	やや外反 波状	有	連結する不整隆帯文	有	有	不整隆帯文	縄圧縄文	無	—	—	縄痕	海棲貝殻	下層ⅱ式
図第－209－42a	15L	第	1				Ⅱb	—	—	—	口縁部	外反	有	—	有	有	不整隆帯文	—	ミガキ	—	—	縄痕	海棲貝殻	下層ⅱ式
図第－209－42b	15L	第	1					—	—	—	口縁部	外反	有	—	有	有	不整隆帯文	—	ミガキ	—	—	縄痕	海棲貝殻	下層ⅱ式
図第－209－43	22M	廃氏	2				Ⅱb	—	—	—	口縁－体部	外反	有	連結の可能性？	有	有	不整隆帯文	平部縄文	無	縄痕	渦巻状	縄痕	砂礫子（付着ならば？）	下層ⅱ式
図第－209－44	19Ng	第	1				Ⅱb	—	—	—	口縁部	直立	有	—	有	有	単軸絡条体第1類 他に隆帯文	単軸絡条体第1類 他に隆帯文	無	—	—	縄痕	海棲貝殻	下層ⅱ式
図第－209－45a	22L	第	3				Ⅱa	—	—	—	口縁－体部	やや外反	有	—	有	有	単節縄文他に指ケ赤	単節縄文？	ミガキ	—	—	縄痕	海棲貝殻	下層ⅱ式
図第－209－45b	22L	第	2					—	—	—	口縁部	外反	有	—	有	有	単節縄文他に指ケ赤	—	ミガキ	—	—	縄痕	海棲貝殻	
図第－209－46	14H	第	1				Ⅱb	—	—	—	頸部	—	有	—	有	有	縄の付着	—	ミガキ 粗	—	—	縄痕	海棲貝殻	下層ⅱ式
図第－209－47a	12K	第	2	12K	第	2	Ⅱb	—	—	—	口縁部	直立	—	—	—	有	無縄条体第1類	無縄条体第1類	ミガキ 粗	—	—	縄痕	海棲貝殻	下層ⅱ式
図第－209－47b	12K	第	3	13J	第	1		—	—	—	口縁部	直立	有	—	有	有	無縄条体第1類	—	ミガキ 粗	—	—	縄痕	海棲貝殻	
図第－209－48	3Q	第	4				Ⅱb	—	—	—	頸部	—	有	—	有	有	単軸絡条体第1類 縄文	単軸絡条体第1類 縄文	ミガキ 粗	—	—	縄痕	海棲貝殻 砂・赤少量	下層ⅱ式
図第－209－49a	18H	第	2				Ⅱb	—	—	—	口縁部	やや外反 波状	有	—	有	有	条痕文	—	無	—	—	縄痕	海棲貝殻	下層ⅱ式
図第－209－49b	18H	第	1					—	—	—	頸部－体部	—	有	無	有	有	条痕文	縄圧縄文	無	—	—	縄痕	海棲貝殻 砂少量	
図第－209－50	22L	第	27	22L	第	13	Ⅱb	—	—	—	口縁部－体部	やや外反	有	無	有	有	縄文	粗糸之の縄打	無	—	—	縄痕	海棲貝殻 砂少量	下層ⅱ式
				22M	第	2																		
図第－210－51	14N	廃氏	3	11T	第	3	Ⅱb	—	—	—	口縁部 / 体部	直立気味	有	縄の組み	有	有	不整隆帯文	撚糸縄文	ミガキ 粗	—	—	縄痕	海棲貝殻	下層ⅱ式
	14T	廃氏	1	14L	第	1																		
	14T	第	1	14T	第	2																		
				14T	第	13																		
				14U	第	1																		
図第－210－52	14L	第	2	14L	第	2	Ⅱb	—	—	—	口縁部	やや外反	有	縄端による刻空	有	有	不整隆帯文	撚糸縄文	縄痕研磨	—	—	縄痕	海棲貝殻	下層ⅱ式
	14L	第	2																					
図第－210－53	16J	第	1				Ⅱb	—	—	—	口縁部	やや外反	有	粘土による刻空の側壁	有	有	不整隆帯文	—	粗	—	—	縄痕	海棲貝殻	下層ⅱ式
図第－210－54a	13J	第	1				Ⅱb	—	—	—	口縁部	やや外反	有	粘土による刻空	有	有	不整隆帯文	—	粗	—	—	縄痕	海棲貝殻	下層ⅱ式
図第－210－54b	13J	第	1					—	—	—	頸部	—	有	—	有	有	不整隆帯文	—	粗	—	—	縄痕	海棲貝殻	
図第－210－55	16K	第	5	16K	第	8	Ⅱb	—	—	—	頸部 / 体部	—	有	縄による刻空	有	有	不整隆帯文	撚糸之の縄打	粗	—	—	縄痕	海棲貝殻	下層ⅱ式
	16K	第	3	16K	第	2																		
	16L	第	3	16L	第	3																		

表Ⅲ－8　包含層掲載土器一覧(3)

掲載番号	角度(○：横倒・横打)	種別	特記	点数	角度(○：横倒・横打)	種別	特記	点数	分類	角度(横倒・横打) 口縁	頸部	胴部	底部	器形	口縁部(○：裏側を指す) 形状	隆帯の有無	隆帯上	口縁の有無	角度(○：横倒・横打) 角度・施文	角度(○：裏側を指す) 角度・施文	内面隆帯	底部(○：裏側を指す) 表面	形状	胎土(○：裏側を指す)	決定する型式
図第－123－56	25I	堂		2	25I			4	Ⅱb	—	—	—		筒部－体部	—	有	先に2本粘土	有	附加縄文	附加縄文？	有	—	—	磯編	浮線B式
	25J	堂																							
図第－123－57	12E	堂		1					Ⅱb	—	—	—		口縁部	外反	有	先に2本粘土	有	半截竹目状工具	—	有	磯編	海綿骨針	浮線B式
図第－123－58	19F	堂		2					Ⅱb	—	—	—		頸部	—	有	滑ニスによる粘土	有	表面摩滅	無	—	磯編	海綿骨針	浮線B式
図第－123－59	12K	堂		2					Ⅱb	—	—	—		頸部	—	有	先に2本粘土	有	—	半截竹目状工具	有	磯編	海綿骨針	浮線B式
図第－123－60	22L	堂		1					Ⅱb	—	—	—		頸部	—	有	先に2本粘土	有	半截竹条痕 第1類 横走	指赤文の縦行	有	磯編	海綿骨針 赤少量	浮線B式
図第－123－61	26P	堂		1					Ⅱb	—	—	—		頸部	—	有	竹管状工具による刺突	有	—	—	—	—	—	磯編	浮線B式
図第－123－62a	19K	堂		3	19K	堂	21		Ⅱb	—	—	—		口縁部	やや外反	—	—	—	半截竹条痕 第1類	—	1ヂキ	—	—	磯編 海綿骨針	浮線B式
図第－123－62b	19K	堂		2	19L	堂	1		—	—	—	—		口縁部	やや外反	有（粗）	横位工具による刺突の連続	有	半截竹条痕 第1類	—	1ヂキ	—	—	磯編 海綿骨針	浮線B式
図第－123－62c	13E	2		1					Ⅱb	—	—	—		頸部	—	有	滑ニスによる粘土	有	縦長縄文	縦長縄文	無	—	—	磯編 海綿骨針 赤粒	浮線B式
図第－123－63a	13E	2		1					Ⅱb	—	—	—		頸部	—	—	—	—	縦長縄文	縦長縄文	無	—	—	磯編 海綿骨針 赤粒	浮線B式
図第－123－63d	20K	堂		2					Ⅱb	—	—	—		頸部－体部	—	有（粗）	滑ニスによる粘土	有	—	縦長縄文	無	—	—	磯編 海綿骨針 赤粒	浮線B式
図第－123－65					20N	堂	4		Ⅱb	—	—	—	口縁部／体部	やや外反	有	粗工具による刺突の連続	有	不整撚糸縄文他に混和	附加縄文	1ヂキ	—	—	磯編 海綿骨針	浮線B式
					20J	堂	2																		
					20K	堂	1																		
					20L	堂	3																		
					20L	堂	2																		
					20M	堂	1																		
					20N	堂	3																		
					20M	堂	10																		
図第－123－66		11G	堂	5	13I	堂	1		Ⅱb	—	—	—	口頸部	やや外反	有	竹管状工具による刺突	有	刺突 不整撚糸縄文他に混和	—	1ヂキ	—	—	磯編 海綿骨針	浮線B式
		11H	堂	1	14K	堂	1																		
					14I	堂	1																		
					14J	堂	1																		
					14M	堂	2																		
					15F	堂	1																		
図第－123－67		23N	堂	6	23N	堂	18		Ⅱb	—	—	—	口頸部	外反	有	竹管状工具による刺突	有	不整撚糸縄文他に混和	指赤文の縦行	1ヂキ 粗	—	—	磯編 海綿骨針	浮線B式
図第－123－68	20N	堂		3	20N	堂	2		Ⅱb	—	—	—	口頸部	直立	有	強撚による刺突	有	不整撚糸縄文他に混和	—	1ヂキ 粗	—	—	磯編 海綿骨針	浮線B式
図第－123－69		20O	堂	1					Ⅱb	—	—	—	口頸部	直立	有	強撚による刺突	有	不整撚糸縄文他に混和	—	1ヂキ 粗	—	—	磯編 海綿骨針 赤粒	浮線B式
図第－123－70		17M	堂	2					Ⅱb	—	—	—	口頸部	外反	有	無	有	不整撚糸縄文他に混和	縦長縄文？	1ヂキ 粗	—	—	磯編 海綿骨針	浮線B式
図第－123－71		21L	堂	1					Ⅱb	—	—	—	口頸部	外反	有	無	有	不整撚糸縄文他に混和	縦長縄文？	1ヂキ 粗	—	—	磯編 海綿骨針	浮線B式
図第－123－72a	22N	堂		3	22N	堂	17		Ⅱb	—	—	—	頸部	—	有	強撚による刺突	有	不整撚糸縄文他に混和	半截竹条痕第2類	1ヂキ 粗	—	—	磯編 海綿骨針	浮線B式
図第－123－72b	22N	堂		5					Ⅱb	—	—	—	体部	—	—	—	—	不整撚糸縄文他に混和	半截竹条痕第2類	1ヂキ 粗	—	—	磯編 海綿骨針	浮線B式
図第－123－72a	14I	堂		4	13Q	堂	1		Ⅱb	—	—	—	口縁部	直立・波状	無	—	有	不整撚糸縄文他に混和	半截竹条痕第2類	粗	—	—	磯編 海綿骨針	浮線B式
図第－123－72b		14I	堂	2	13I	堂	2						体部	—	—	—	—	—	指赤文の縦行	粗	—	—	磯編 海綿骨針	
					13J	堂	2																		
					13M	堂	1																		
					14N	堂	1																		
					15I	堂	2																		
					14J	堂	24																		
					16M	堂	2																		
図第－122－74	19K	堂		1					Ⅱb	—	—	—	口頸部	直立	無	—	不整撚糸縄文他に混和	粗	指赤文の縦行	粗 磯編 海綿骨針	—	—	磯編 海綿骨針	浮線B式
図第－122－75	19K	堂		1					Ⅱb	—	—	—	口縁部	直立気味	無	—	有	不整撚糸縄文他に混和	指赤文の縦行	粗	—	—	磯編 海綿骨針 赤粒少量	浮線B式
図第－122－76	19F	堂		1					Ⅱb	—	—	—	口縁部	やや外反	無	—	有	縦走他に混和	縦長縄文？	1ヂキ 粗	—	—	磯編 海綿骨針 赤粒少量	浮線B式
図第－122－77	12M	堂		1					Ⅱb	—	—	—	口縁部	外反（不反）	有（不反）	—	有	縦走他に混和	縦長縄文	粗	—	—	磯編 海綿骨針 赤粒少量	浮線B式
図第－122－78	13J	堂		1					Ⅱb	—	—	—	口縁部	やや外反（口縁刺突）	—	—	有？	半截竹条痕 第1類	縦長縄文	粗 磯編 海綿骨針	—	—	磯編 海綿骨針 赤粒少量	浮線B式
図第－122－80a	13J	堂		1					Ⅱb	—	—	—	口縁部	直立（口縁刺突）	有？	半截竹条痕 第1類	有？	半截竹条痕 第1類の横走	縦長縄文	粗 磯編 海綿骨針	—	—	磯編 海綿骨針 赤粒少量	浮線B式
図第－122－80b	21L	堂		2	21L	堂	8		Ⅱb	—	—	—	口縁部	直立（口縁刺突）	—	半截竹条痕 第1類	—	半截竹条痕 第1類の横走	縦長縄文	粗 磯編 海綿骨針	—	—	磯編 海綿骨針 赤粒少量	浮線B式
図第－122－80c	21L	堂		1	21L	堂	11			—	—	—													
図第－122－80d	21L	堂		3						—	—	—	口縁部												
図第－122－80e	21L	堂		3						—	—	—													

表Ⅲ－8　包含層掲載土器一覧(4)

掲載番号	発表記・報告・紀要	出土地点・遺構・層位	点数	同一個体を複数掲げ 遺構名・遺構	層位	点数	分類	胎土顕微鏡(μm) 口径	底径	器高	器形	口縁部の形態	頸部の形態	胴部の形態	底部の形態	施文・施文	施文・施文	内面調整	底部	形式	焼成・調整技法・特記	決定する型式
図第－172－83	21N	第	1				Ⅱa	—	—	—	口縁部	直立	—	—	—	櫛描波状文1段	—	無	—	—	構造 非結合粘土ひも	下層b式
図第－172－82	21L	第	1				Ⅱa	—	—	—	口縁部	直立	—	—	—	櫛描波状文1段	—	無	—	—	構造 薄層容器	下層b式
図第－172－81	17W	第	1				Ⅱa	—	—	—	体部	直立	—	—	—	—	条痕文	無	—	—	構造	下層b式
図第－172－84	22L	第	2				Ⅱa	—	—	—	体部	直立	—	—	—	—	撚糸文の縦行	条痕	—	—	構造 薄層容器	下層b式
図第－172－85	20J	第	1				Ⅱa	—	—	—	体部	直立	—	—	—	—	附加条文	条痕	—	—	構造 薄層容器	下層b式
図第－172－86	12N	第	1				Ⅱa	—	—	—	体部	直立	—	—	—	—	縄圧縄文	条痕	—	—	構造 薄層容器	下層b式
図第－172－87	11U	第	2				Ⅱa	—	—	—	体部	直立	—	—	—	—	縄圧縄文？	条痕	—	—	構造 薄層容器	下層b式
図第－172－88	10J	第	2				Ⅱa	—	—	—	体部	直立	—	—	—	—	撚糸＋単軸絡条体縄文1段	工ボキ	—	—	構造 薄層容器 ジ金	下層b式
図第－172－89	17W	第	1				Ⅱa	—	—	—	体部	直立	—	—	—	—	不整縄絡文＋単軸絡条体縄文1段	工ボキ 無	—	—	構造 薄層容器	下層b式
図第－172－90	11E	第	2				Ⅱa	—	—	—	体部	直立	—	—	—	—	不整縄絡文＋単軸絡行縄文	工ボキ 無	—	—	構造 薄層容器 補修	下層b式
図第－172－91	19M	第	1				Ⅱa	—	—	—	体部	直立	—	—	—	—	撚糸文の縦行	工ボキ 無	—	—	構造 薄層容器	下層b式
図第－172－92a	11K	第	8	17K	第	2		—	—	—	体部	直立	—	—	—	—	附加条文	工ボキ 無	—	—	構造 薄層容器	下層b式
図第－172－92b	12K	第	2	17K	第	2		—	—	—	体部	直立	—	—	—	—	附加条文	無	—	—	構造 薄層容器	下層b式
				17L	第	2		—	—	—												
図第－173－93	22M	第	3	22M	第	2		—	—	—	体部～底部	直立	—	—	—	—	撚糸圧縄行縄文	無	縄文	中平上げ底	構造 薄層容器	下層b式
				22M	第	1																
図第－173－94	22M	第	12	22M	第	9	Ⅱa	—	—	—	体部～底部	—	—	—	—	—	単軸絡条体第1類＋工ボキ	条痕＋工ボキ	—	—	構造 薄層容器	下層b式
				22L	第	3																
図第－173－95	20L	第	1				Ⅱa	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	附加条文	無	縄文	上げ底	構造 薄層容器	下層b式
図第－173－96	12J	第	1	12J	第	9	Ⅱa	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	附加条文	工ボキ	—	—	構造 薄層容器	下層b式
図第－173－97	22L	第	3	22L	第	2	Ⅱa	—	—	—	体部～底部	—	—	—	—	—	附加条文	無	縄文	上げ底	構造 薄層容器	下層b式
図第－173－98	11T	第	4				Ⅱa	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	撚糸縄文	無	縄文	上げ底	構造 薄層容器	下層b式
図第－174－99a	20K	第	2	20K	第	16	Ⅱa	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	単軸絡条体第1類	条痕	—	—	構造 薄層容器	下層b式
図第－174－99b	20K	第	2	20L	第	4		—	—	—	体部	—	—	—	—	—	単軸絡条体第1類	条痕	—	—	構造 薄層容器	下層b式
図第－174－100	20M	第	2	20N	第	12	Ⅱa	—	—	—	体部～底部	—	—	—	—	—	単軸絡条体第3類	無	—	—	構造 薄層容器	下層b式
				20L	1	45																
				20M	第	1																
				20M	外																	
図第－174－101	20K	第					Ⅱa	—	—	—	体部～底部	—	—	—	—	—	単軸絡条体第3類	工ボキ 無	—	—	構造 薄層容器	下層b式
	20L	第																				
図第－174－102a	20K	第	16	19K	第	2		—	—	—	体部	—	—	—	—	—	撚糸文の縦行	工ボキ 無	—	—	構造 薄層容器	下層b式
	20K	東隣未	2	20J	第	4																
図第－174－102b	20K	第	1	20J	外	1	Ⅱa	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	撚糸文の縦行	工ボキ 無	縄文	上げ底	構造 薄層容器	下層b式
				20K	第	15																
				20L	第	1																
図第－174－103	20L	第	10	21L	第	2	Ⅱa	—	—	—	体部～底部	—	—	—	—	—	撚糸文の縦行	無	工ボキ	上げ底	構造 薄層容器	下層b式
	21L	第	4																			
図第－175－104	22N	第	32	22N	第	16	Ⅱa	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	撚糸文の縦行	上部工ボキ 下部 無	縄文＋工ボキ	上げ底	構造 薄層容器	下層b式
				22L	第	1																
				22P	第	1					底部											
図第－175－105	20J	第	7	20J	第	4	Ⅱa	—	—	—	体部～底部	—	—	—	—	—	撚糸文の縦行	工ボキ 無	縄文＋工ボキ	上げ底	構造 薄層容器	下層b式
	20J		1																			
図第－175－106	22L	第	3	22L	第	2	Ⅱa	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	撚糸文の縦行	無	縄文	上げ底	構造 薄層容器	下層b式
	22L	第	1	22N	第	1																
図第－175－107	12L	第	1				Ⅱa	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	単軸絡条体第1類＋不整縄絡文	工ボキ	—	—	構造 薄層容器	下層b式
図第－175－108	17W	第	1				Ⅱa	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	撚糸文の縦行	工ボキ	縄文	上げ底	構造 薄層容器	下層b式
図第－175－109	21N	第	1				Ⅱa	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	撚糸文の縦行	工ボキ	—	—	構造 薄層容器	下層b式
図第－175－110	19M	第	1				Ⅱa	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	撚糸文の縦行	工ボキ	縄文 工ボキ	上げ底	構造 薄層容器	下層b式
図第－175－111	19J	第	1	19J	第	1	Ⅱa	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	撚糸文の縦行	工ボキ	—	—	構造 薄層容器	下層b式
図第－175－112	23L	第	2	23L	第	1	Ⅱa	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	撚糸文の縦行	工ボキ 無	縄文	上げ底	構造 薄層容器	下層b式
	23N	第	1	23N	第	2																
図第－175－113	20N	第	1				Ⅱa	—	—	—	体部～底部	—	—	—	—	—	撚糸文の縦行	工ボキ	縄文	上げ底	構造 薄層容器	下層b式
図第－176－114	20M	第	3	20M	第	1	Ⅱa	—	—	—	口縁部	やや外反	無	—	台(裾のみ)	撚糸縄文	撚糸縄文	無	—	—	構造 薄層容器	下層a-c式
図第－176－115	19M	第	1				Ⅱa	—	—	—	口縁部	やや外反	—	—	—	結束圧痕縄文		工ボキ 無	—	—	構造 薄層容器	下層a-c式
図第－176－116	18O	廃棄	1	18O	第	2	Ⅱa	—	—	—	底部	—	無	—	4 ヘラ切り痕	単軸絡条体第1類	撚糸文の縦行	工ボキ	—	—	構造 薄層容器	下層a-c式
図第－176－117	18O	第	1	18L	第	1	Ⅱa	—	—	—	底部	—	無	—	4 ヘラ切り痕	単軸絡条体第1類	撚糸文の縦行	工ボキ	—	—	構造 薄層容器	下層a-c式
図第－176－118	17G	1	2	17G	1	13	Ⅱa	—	—	—	底部	やや外反	無	—	台	単軸絡条体第1類	撚糸圧縄文	工ボキ 無	—	—	構造 薄層容器	下層a-c式

表Ⅲ－８　包含層掲載土器一覧(5)

掲載番号	発見・現存・紛失	兼指示・非兼	特記	点数	同一個体本数所蔵所	兼指示・非兼	特記	点数	分類	発見個体（m） 口径	底径	器高	器形	形状	口縁部の有無	口縁の有無	口縁部（裏野多類） 地文・施文	地文・施文	内面調整	底部（裏野多類） 底部	形状	胎土(裏野多類)	完定する型式
図第－136－119	14T	要		1					Ⅱb	—	—	—	口縁部	円筒	無（？）	有（？）	縄条飛行縄文	—	ミガキ（清拭）	—	—	繊維 海綿骨針	下層ｂ-ｃ式
図第－136－120	17S	要		1					Ⅱb	—	—	—	胴部	—	無（？）	—	縄条飛行縄文	—	ミガキ	—	—	繊維 海綿骨針	下層ｂ-ｃ式
図第－136－121	13S	要		1					Ⅱb	—	—	—	胴部	—	無（？）	—	縄条飛行縄文	—	無	—	—	繊維 海綿骨針	下層ｂ-ｃ式
図第－136－122	15S	要		1					Ⅱb	—	—	—	胴部	—	—	—	縄条飛行縄文	—	ミガキ	—	—	繊維 海綿骨針	下層ｂ-ｃ式
図第－136－123	13K	要		1					Ⅱb	—	—	—	口縁部	やや外反	—	—	縄の圧痕	—	ミガキ	—	—	繊維 海綿骨針	下層ｂ-ｃ式
図第－136－124	20L	要		3					Ⅱb	—	—	—	胴部～底部	—	有	胴部	—	—	条痕縄条痕	ミガキ（清拭）	—	繊維 海綿骨針	下層ｃ-ｄ式
図第－136－125	9V	要		2					Ⅱb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	条痕縄条痕	ミガキ（清拭）	—	繊維 海綿骨針	下層ｃ-ｄ式
図第－136－126	26P	要		1					Ⅱb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	条痕縄条痕	ミガキ（清拭）	—	繊維 海綿骨針	下層ｃ-ｄ式
図第－136－127	20K	要		1					Ⅱb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	条痕縄条痕	ミガキ（清拭）	—	繊維 海綿骨針	下層ｃ-ｄ式
図第－136－128	16D	要		1					Ⅱb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	条痕縄条痕	ミガキ	—	繊維 海綿骨針	下層ｃ-ｄ式
図第－136－129	18H	要		2					Ⅱb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	条痕縄条痕	ミガキ	—	繊維 海綿骨針	下層ｃ-ｄ式
図第－136－130	13L	要		1					Ⅱb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	条痕縄条痕	ミガキ 撫	—	繊維 海綿骨針	下層ｃ-ｄ式
図第－136－131	18MM	要		1					Ⅱb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	条痕縄条痕	潤撫	—	繊維 海綿骨針	下層ｃ-ｄ式
図第－136－132	16H	要		3	16H		要	3	Ⅱb	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	条痕縄条痕	ミガキ	縄文	石片 繊維 海綿骨針	下層ｃ-ｄ式
図第－136－133	19N	要		1					Ⅱb	—	—	—	口縁	やや外反	無	—	有	等間隔条痕 第１類模式	熱水文の縦行	ミガキ	—	繊維 海綿骨針	下層ｄ1式
図第－136－134	20O	要		1					Ⅱb	—	—	—	口縁	直立	無	—	有	等間隔条痕 第１類模式	—	ミガキ 撫	—	繊維 海綿骨針	下層ｄ1式
図第－136－135	13R	要		1					Ⅱb	—	—	—	口縁	屈曲直立	無	—	有	屈曲縄文？	熱水文の縦行	ミガキ	—	繊維 海綿骨針	下層ｄ1式
図第－136－136	9S	要		1					Ⅱb	—	—	—	口縁	直立	無	—	有（熱水文）	等間隔行縄文	—	ミガキ（清拭）	—	繊維 海綿骨針	下層ｄ1式
図第－136－137	20S	要		2					Ⅱb	—	—	—	口縁	外反	無	—	有（熱水文）	熱水行縄	条痕縄条痕	ミガキ（清拭）	—	繊維 海綿骨針 ※0.1～0.2の硬さ3.5	下層ｄ1式
図第－136－138	12K	要		3					Ⅱb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	右行結節文	ミガキ	—	繊維 海綿骨針	下層ｄ1式
図第－136－139	10Q	要		1					Ⅱb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	右横位巻き縄文	ミガキ（清拭）	—	繊維 海綿骨針	下層ｄ1式
図第－136－140	10Q	要		1					Ⅱb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	右横位巻き縄文	ミガキ	—	繊維 海綿骨針	下層ｄ1式
図第－136－141	13M	要		1					Ⅱb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	右横位巻き縄文	撫	—	繊維 海綿骨針	下層ｄ1式
図第－136－142	16K	要		2	16J		要	1	Ⅱb	—	—	—	胴部（？） 体部	—	—	—	有（？）	不整縄縦？文	熱水文・結束第１類・結束縄文	ミガキ（清拭）	—	繊維 海綿骨針	下層ｄ1式
	16L	要		1	16K		要	1															
					16M		要	2															
					16N		要	20															
					16L		要	4															
					16L		要	17															
図第－136－143	14P	要		3					Ⅱb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	右行結節赤文	潤撫	—	—	繊維 海綿骨針	下層ｄ1式
図第－136－144	15S	要		1					Ⅱb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	右横位巻き縄文 ＋結節縄文 ＋潤撫文	ミガキ	—	繊維 海綿骨針	下層ｄ1式
図第－136－145a	16N	要		2					Ⅱb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	右行結（？）	ミガキ	—	繊維 海綿骨針	下層ｄ1式
図第－136－145b	16N	要		1					Ⅱb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	右行結（？）	ミガキ	—	繊維 海綿骨針	下層ｄ1式
図第－136－146	11M	要		1					Ⅱb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	赤文施に縦縄文	ミガキ	—	繊維 海綿骨針	下層ｄ1式
図第－136－147	13N	要		1					Ⅱb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	赤文施に縦縄文	撫	—	繊維	下層ｄ1式
図第－136－148	18M	要		1					Ⅱb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	赤文施に縦縄文	ミガキ	—	繊維 海綿骨針	下層ｄ1式
図第－136－149	15S	要		1					Ⅱb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	赤文施に縦縄文	ミガキ	—	繊維 海綿骨針	下層ｄ1式
図第－136－150	19R	要		1	19R		要	6	Ⅱb	—	—	—	体部	—	—	—	—	—	右横位巻き縄文 ＋潤撫文	ミガキ（清拭）	—	繊維 海綿骨針	下層ｄ1式
図第－136－151	16N	要		1					Ⅱb	—	—	—	口縁	—	—	—	—	縄の圧痕	—	ミガキ	—	繊維 海綿骨針	下層ｄ2式
図第－136－152	18N	要		2					Ⅱb	—	—	—	口縁	—	—	—	—	縄の圧痕	—	ミガキ	—	繊維 海綿骨針	下層ｄ2式
図第－136－153	17N	要		1					Ⅱb	—	—	—	口縁	—	—	—	—	撚糸	撚糸	ミガキ	—	繊維 砂	下層ｄ2式
図第－136－154	13V	要		1					Ⅱb	—	—	—	口縁	—	—	—	—	—	無（撚減）	ミガキ	—	繊維 砂	下層ｄ1式
図第－177－155	17L	要		1					Ⅱa	—	—	—	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	円筒上層ａ式
図第－177－156	13P	要		1					Ⅱa	—	—	—	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	円筒上層ａ式
図第－177－157	16O	要		1					Ⅱa	—	—	—	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	円筒上層ａ式
図第－177－158	17N	要		1					Ⅱa	—	—	—	口縁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	円筒上層ａ式
図第－177－159	18K	要		1	18K		要	1	Ⅱa	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	円筒上層ａ式
図第－177－160	18V	要		4	17T		要	3	Ⅱa	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ場式
図第－177－161	11V	要		1					Ⅱa	—	—	—	肩平部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ場式
図第－177－162	10L	要		2					Ⅱa	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ場式
図第－177－163	20K	要		2	20K		要	2	Ⅱa	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ場式
図第－177－164	10V	要		2					Ⅱa	—	—	—	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ場式
図第－177－165	10Q	要		2					Ⅱa	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ場式
図第－177－166a	15L	要		1					Ⅱa	—	—	—	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ場式
図第－177－166b	11W	要		1																			
図第－177－167	12V	要		1					Ⅱa	—	—	—	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ場式
図第－177－168	18M	要		9	19M		要	3	Ⅱa	—	—	—	胴部～底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ場式
図第－177－169	20L	要		5	20L		要	5	Ⅱa	—	—	—	口縁～底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイベ場式

表Ⅲ－8　包含層掲載土器一覧(6)

発元・現存・紙片					同一個体を現存紙片				分類	角文関係（cm）			底部	口縁部（重郭を閉）					体部（重郭を閉）			底部（重郭を閉）		胎土（重郭を閉）	決定する型式
掲図番号	発掘区・遺構	層位	出土	点数	調査区・遺構	層位	出土	点数		口径	底径	器高	形式	形状	隆帯の有無	隆帯上	口縁の有無	角文・施文	角文・施文	内面隆帯	表面	形状			
図第－172－17D	12F	第		2					IIa	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイ＝曙式
図第－172－21L	11F	第		1					IIa	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	サイ＝曙式
図第－170－172	11F	第		6	11F	第		2	IVa	—	—	—	口縁部 底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
	12F	第		9	12F	第		4																	
					14H	第		1																	
図第－170－272a	12F	I		4	14H	I		2	IVa	—	—	—	口縁部 胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
	13J	第		4	13J	第		3																	
図第－170－272b	13J	第		2	17G	I		2																	
	14K	第		2																					
図第－170－374	17G	第		12	17G	第		3	IVa	—	—	—	口縁－胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
図第－170－374a	11M	第		1	11F	第		2	IVa	—	—	—	口縁部 胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
図第－170－374b	13J	第		2																					
図第－170－376a	11J	第		1	11J	第		3	IVa	—	—	—	口縁－胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
図第－170－376b	11J	第		1																					
図第－170－377	12E	I		1	12E	I		3	IVa	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
	13J	第		1	13G	第		1																	
					13J	第		2																	
図第－170－378	20G	第		1					IVa	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
図第－170－379	19S	第		1					IVa	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
図第－170－380	13J	第		1	10Q	第		1	IVa	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
図第－170－381	13J	第		2					IVa	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
図第－170－382	17G	第		3	17G	第		2	IVa	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
図第－170－383	18L	第		2					IVa	—	—	—	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
図第－170－384a	17R	第		3	17R	第		16	IVa	—	—	—	口縁 胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
図第－170－384b	17R	第		1																					
図第－170－385	19O	第		2					IVa	—	—	—	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
図第－170－386a	16K	第		2	11a	第		2	IVa	—	—	—	口縁 胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
	11a	第		1	14R	第		16																	
図第－170－386b	13K	第		1																					
	16K	第		2																					
図第－170－387	19P	第		1					IVa	—	—	—	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
図第－170－388	17M	第		1					IVa	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
図第－170－389	13a	第		1					IVa	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
図第－170－390	10R	第		2					IVa	—	—	—	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
図第－170－391	13M	第		3	13M	第		1	IVa	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
図第－170－392	11M	第		3					IIa	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
図第－170－393	10a	第		1					IVa	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
図第－170－394	14K	第		1					IVa	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリヤキ式
図第－180－395	28O	第		2	28O	第		1	V	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	大原A式
図第－180－396a	17N	第		17	18M	第		1	VI	—	—	—	口縁 胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	岩山式土器
	16N	第		2	18N	第		3																	
	16O	第		1	19P	第		1																	
	16O	第		1	19O	第		2																	
図第－180－396b					16O	第		3					底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
					16M	第		3																	
					16M	第		2																	
					16M	第		3																	
					16N	第		6																	
					16O	第		3																	
					16O	第		1																	
					17N	第		2																	
					17N	第		1																	
					17L	第		1																	
					17O	第		1																	
					18O	第		3																	
					19P	第		1																	
図第－180－397	17M	第		1					VI	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	岩山式土器
図第－180－398	17N	第		1					VI	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	岩山式土器
図第－180－399	15O	第		1					VI	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	岩山式土器
図第－180－400	15O	第		1					VI	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	岩山式土器
図第－180－401	17N	第		1					VI	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	岩山式土器
図第－180－402	17L	第		1					VI	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	岩山式土器

表Ⅲ－8　包含層掲載土器一覧(7)

掲載番号	器長(cm)・器種	器長(cm)・種類	個体	点数	器種・種類	個体	点数	分類	口径	底径	器高	備考	形状	隆帯の有無	隆帯	口縁部の有無	地文・施文	地文・施文	内面調整	胎土	形状	胎土(重量比)(%)	決定する型式
図Ⅲ－180－203	10N	器	1					Ⅵ	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
	10N	器	1																				
図Ⅲ－180－204	10N	器	1					Ⅵ	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
図Ⅲ－181－205	16O	器	1					Ⅵ	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
図Ⅲ－180－206	17N	器	3		17N	器	3	Ⅵ	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
図Ⅲ－180－207	12N	器	2					Ⅵ	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
	10N	器	1																				
図Ⅲ－180－208	15O	器	1					Ⅵ	—	—	—	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
図Ⅲ－180－209a	10N	器	1		10N	器	5	Ⅵ	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
図Ⅲ－180－209b	16O	器	2									胴部											
	16O	器	2									底部											
	16P	器	1																				
図Ⅲ－180－210	16O	器	1					Ⅵ	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
図Ⅲ－180－211	16O	器	1					Ⅵ	—	—	—	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
図Ⅲ－180－212	16O	器	1					Ⅵ	—	—	—	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
	17O	器	1																				
図Ⅲ－181－213	15O	器	2					Ⅵ	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
	14O	器	1																				
図Ⅲ－181－214	15O	器	1					Ⅵ	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
図Ⅲ－181－215	15o	器	1					Ⅵ	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
図Ⅲ－180－216	13MM	器	1					Ⅵ	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
図Ⅲ－180－217	10N	器	2					Ⅵ	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
図Ⅲ－181－218	25L	1	1		11T	器	3	Ⅵ	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
					12N	器	3																
					20M	器	8																
図Ⅲ－181－219	15O	器	1					Ⅵ	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
図Ⅲ－181－220	17N	器	2		17N	器	2	Ⅵ	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
	17N	器	1																				
図Ⅲ－180－221	17L	器	1					Ⅵ	—	—	—	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
図Ⅲ－181－222a	13J	器	3		14J	器	3	Ⅵ	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
図Ⅲ－181－222b	13J	器	2		15J	器	2																
図Ⅲ－181－223	10R	1	1		10R	1	4	Ⅵ	—	—	—	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
図Ⅲ－181－224	18O	器	1					Ⅵ	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
図Ⅲ－181－225	13M	器	1		14O	器	1	Ⅵ	—	—	—	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
	13M	器	1		15O	器	1																
					15M	器	2																
					22N	器	1																
					15O	器	1																
					16M	器	2																
					16O	器	1																
					17M	器	1																
図Ⅲ－181－226	12C	器	2		12N	器	1	Ⅵ	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
	13O	器	3		13N	器	1																
	10O	器	1		11N	器	1																
					15O	器	2																
					15O	器	1																
					16O	器	1																
図Ⅲ－181－227	14T	器	1					Ⅵ	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
図Ⅲ－181－228	13M	器	1					Ⅵ	—	—	—	底部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
図Ⅲ－181－229	15O	器	1					Ⅵ	—	—	—	把手部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
図Ⅲ－181－230	17N	器	1					Ⅵ	—	—	—	台付土器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
図Ⅲ－181－231	18L	器	1					Ⅵ	—	—	—	台付土器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
図Ⅲ－181－232	15O	器	1					Ⅵ	—	—	—	台付土器(すかしあり)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
図Ⅲ－181－233	16M	器	1					Ⅵ	—	—	—	台付土器(すかしあり)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
図Ⅲ－181－234	10M	器	1					Ⅵ	—	—	—	台付土器(すかしあり)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	磯山式土器
図Ⅲ－182－235	19L	器	2					土製品	—	—	—	板状	—	—	—	—	—	粗ガラ文の銀行	ミガキ	—	—	鐵機	下駄ヒ文
図Ⅲ－182－236	1J	器	1					土製品	12.5	1.25	2.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
図Ⅲ－182－237	14M	器	1					土製品(紡錘)	(6.5)	5.1	5.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	トリサキ式紡行
図Ⅲ－182－238	14P	器	4		14P	器	3	土製品(土錘)				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

表Ⅲ－9　包含層掲載石器一覧(1)

掲載番号	器種名	調査区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	遺物番号	備考
図第－185－1	石鏃	19－J	Ⅲ層	2.65	1.27	0.33	0.90	頁岩	5	
図第－185－2	石鏃	18－Q	Ⅲ層	3.19	1.80	0.46	2.32	メノウ	5	
図第－185－3	石鏃	17－L	Ⅲ層	(3.61)	1.52	0.59	3.12	頁岩	29	
図第－185－4	石鏃	12－F	Ⅱ層	3.72	1.51	0.39	1.49	頁岩	18	
図第－185－5	石鏃	12－M	Ⅲ層	3.79	1.81	0.37	2.13	頁岩	13	
図第－185－6	石鏃	18－Q	Ⅲ層	3.97	1.85	0.50	2.96	頁岩	8	
図第－185－7	石鏃	19－M	Ⅲ層	3.12	2.01	0.52	2.59	頁岩	22	
図第－185－8	石鏃	21－L	Ⅲ層	(3.79)	1.51	0.39	1.92	頁岩	18	
図第－185－9	石鏃	23－L	Ⅲ層	3.09	1.55	0.46	1.80	頁岩	1	
図第－185－10	石鏃	18－Q	Ⅲ層	3.59	1.34	0.43	1.52	頁岩	10	
図第－185－11	石鏃	23－P	Ⅲ層	(2.49)	1.32	0.33	0.80	頁岩	2	
図第－185－12	石鏃	15－Y	Ⅲ層	(3.82)	1.51	0.78	3.82	黒曜石	11	
図第－185－13	石鏃	12－P	Ⅲ層	(3.65)	1.41	0.46	0.98	頁岩	7	
図第－185－14	石鏃	18－T	Ⅲ層	2.64	1.13	0.39	0.84	頁岩	2	
図第－185－15	石鏃	22－L	Ⅲ層	(3.24)	1.54	0.42	1.03	頁岩	4	
図第－185－16	石鏃	10－b	Ⅲ層	3.29	1.35	0.44	1.17	頁岩	10	
図第－185－17	石鏃	9－T	Ⅱ層	3.43	1.21	0.41	1.41	頁岩	2	
図第－185－18	石鏃	13－M	Ⅲ層	(3.59)	2.12	0.74	5.18	黒曜石	12	
図第－185－19	石鏃	27－R	Ⅲ層	3.96	1.29	0.37	1.25	頁岩	4	
図第－185－20	石鏃	17－O	Ⅱ層	4.48	1.06	0.42	1.29	頁岩	5	
図第－185－21	石鏃	12－N	Ⅱ層	5.18	1.56	0.77	4.20	頁岩	2	
図第－185－22	石鏃	12－O	Ⅲ層	4.37	2.57	0.72	7.20	頁岩	3	
図第－185－23	石槍	17－R	Ⅲ層	8.22	2.88	1.20	23.85	頁岩	12	
図第－185－24	石槍	15－N	Ⅰ層	8.19	2.55	0.73	15.27	頁岩	3	
図第－185－25	石槍	17－R	Ⅲ層	8.22	4.13	1.19	39.47	頁岩	13	
図第－185－26	石槍	11－Q	Ⅲ層	8.97	4.41	1.44	45.09	頁岩	19	
図第－185－27	石槍	11－Y	Ⅲ層	10.12	4.49	1.42	32.98	頁岩	9	
図第－185－28	石槍	11－S	Ⅲ層	10.31	3.03	1.36	40.65	頁岩	11	
図第－186－29	石槍	15－M	Ⅰ層	10.58	2.56	1.36	24.48	頁岩	7	
図第－186－30	石槍	22－M	Ⅲ層	12.47	2.98	1.84	48.23	頁岩	13	
図第－186－31	石槍	17－T	Ⅲ層	12.51	3.72	1.38	51.57	頁岩	8	
図第－186－32	石槍	25－L	Ⅱ層	12.91	3.89	2.04	78.27	頁岩	2	
図第－186－33	石槍	15－W	Ⅲ層	5.62	3.05	0.74	11.72	凝灰岩	2	
図第－186－34	石槍	16－R	Ⅲ層	7.19	2.45	0.86	11.41	頁岩	10	
図第－186－35	石槍	15－b	Ⅲ層	8.52	2.90	0.95	21.03	頁岩	1	
図第－186－36	石槍	18－L	Ⅱ層	7.74	2.48	1.86	28.91	頁岩	15	
図第－186－37	石槍	15－L	Ⅲ層	13.41	5.55	1.59	108.02	凝灰岩	9	
図第－186－38	石槍	20－N	Ⅱ層	10.37	4.54	1.55	61.15	頁岩	39	
図第－187－39	石錐	18－O	Ⅱ層	3.38	0.68	0.41	0.89	頁岩	4	
図第－187－40	石錐	11－b	Ⅲ層	3.32	1.12	0.69	2.17	メノウ	8	
図第－187－41	石錐	16－T	Ⅲ層	7.55	1.95	1.06	12.91	頁岩	10	
図第－187－42	石錐	12－R	Ⅱ層	8.77	1.42	0.99	10.44	頁岩	6	
図第－187－43	石錐	22－L	Ⅲ層	3.24	1.24	0.32	1.23	頁岩	47	
図第－187－44	石錐	18－T	Ⅴ層	3.29	1.62	0.62	2.63	頁岩	28	
図第－187－45	石錐	24－L	Ⅰ層	3.87	0.99	0.48	1.69	頁岩	13	
図第－187－46	石錐	20－I	Ⅱ層	7.80	2.91	1.07	17.88	頁岩	8	
図第－187－47	石錐	18－N	Ⅲ層	5.83	1.97	1.04	8.25	頁岩	15	
図第－187－48	石錐	14－P	Ⅲ層	7.49	2.49	0.82	13.63	頁岩	11	
図第－187－49	石錐	23－M	Ⅲ層	7.99	2.62	1.07	21.37	頁岩	20	
図第－187－50	石錐	27－N	Ⅰ層	3.39	2.13	0.61	3.96	頁岩	2	
図第－187－51	石錐	14－K	Ⅲ層	3.65	2.38	0.31	2.29	頁岩	13	
図第－187－52	石錐	25－L	Ⅱ層	4.58	3.56	0.87	10.79	頁岩	5	
図第－187－53	石錐	21－L	風倒木	4.63	3.20	0.83	7.74	頁岩	21	
図第－187－54	石錐	21－I	Ⅲ層	7.04	3.58	1.44	22.96	頁岩	6	
図第－188－55	つまみ付きナイフ	13－N	Ⅲ層	7.31	2.42	1.31	15.34	頁岩	20	
図第－188－56	つまみ付きナイフ	17－O	Ⅲ層	8.37	3.29	1.09	20.79	頁岩	18	
図第－188－57	つまみ付きナイフ	11－b	Ⅲ層	7.06	2.55	0.79	11.64	頁岩	12	
図第－188－58	つまみ付きナイフ	19－I	Ⅰ層	(5.82)	1.68	0.71	5.77	頁岩	9	
図第－188－59	つまみ付きナイフ	14－T	Ⅲ層	8.65	3.56	1.04	28.82	頁岩	18	
図第－188－60	つまみ付きナイフ	13－L	Ⅲ層	12.54	3.74	1.53	62.84	頁岩	6	
図第－188－61	つまみ付きナイフ	21－N	Ⅲ層	13.47	4.35	1.71	75.44	頁岩	9	
図第－188－62	つまみ付きナイフ	15－M	Ⅱ層	6.57	4.04	0.88	20.22	頁岩	16	
図第－188－63	つまみ付きナイフ	23－M	Ⅲ層	6.04	2.04	0.69	5.65	頁岩	19	
図第－188－64	つまみ付きナイフ	12－M	Ⅲ層	7.25	1.63	1.13	11.20	頁岩	7	
図第－188－65	つまみ付きナイフ	11－Y	Ⅲ層	9.74	3.34	1.00	25.64	頁岩	6	
図第－188－66	つまみ付きナイフ	18－T	Ⅲ層	8.16	2.73	0.93	15.01	頁岩	3	

表Ⅲ－9　包含層掲載石器一覧(2)

掲載番号	器種名	調査区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	遺物番号	備考
図Ⅲ－188－67	つまみ付きナイフ	11－L	Ⅲ層	8.33	4.76	1.18	20.29	頁岩	10	
図Ⅲ－188－68	つまみ付きナイフ	21－L	Ⅲ層	(7.71)	6.12	1.34	31.14	頁岩	15	
図Ⅲ－189－69	つまみ付きナイフ	12－V	Ⅲ層	8.74	1.99	0.87	12.01	頁岩	4	
図Ⅲ－189－70	つまみ付きナイフ	11－a	Ⅲ層	6.64	2.49	0.63	8.91	頁岩	20	
図Ⅲ－189－71	つまみ付きナイフ	17－T	Ⅲ層	7.55	2.65	1.26	16.53	頁岩	20	
図Ⅲ－189－72	つまみ付きナイフ	14－Q	Ⅲ層	9.46	2.42	1.12	20.15	頁岩	5	
図Ⅲ－189－73	つまみ付きナイフ	20－P	Ⅳ層	(3.71)	2.53	0.78	5.64	黒曜石	6	
図Ⅲ－189－74	つまみ付きナイフ	13－R	Ⅱ層	7.05	3.51	0.98	14.24	頁岩	3	
図Ⅲ－189－75	つまみ付きナイフ	10－a	Ⅱ層	7.88	3.88	0.92	25.09	頁岩	6	
図Ⅲ－189－76	つまみ付きナイフ	21－M	Ⅲ層	6.67	4.27	0.80	14.69	頁岩	20	
図Ⅲ－189－77	つまみ付きナイフ	20－N	Ⅲ層	8.12	3.61	1.19	28.11	頁岩	30	
図Ⅲ－189－78	つまみ付きナイフ	14－M	Ⅲ層	8.16	6.04	1.28	30.94	頁岩	15	
図Ⅲ－189－79	つまみ付きナイフ	18－K	Ⅲ層	8.76	3.12	1.46	31.43	頁岩	8	
図Ⅲ－190－80	つまみ付きナイフ	19－M	Ⅱ層	9.28	4.63	1.41	41.06	頁岩	19	
図Ⅲ－190－81	つまみ付きナイフ	20－M	Ⅱ層	9.97	6.61	1.88	75.51	頁岩	5	
図Ⅲ－190－82	つまみ付きナイフ	10－V	Ⅲ層	4.06	5.74	0.66	13.18	頁岩	4	
図Ⅲ－190－83	つまみ付きナイフ	25－M	Ⅰ層	4.79	5.96	1.25	25.22	頁岩	5	
図Ⅲ－190－84	つまみ付きナイフ	21－N	Ⅲ層	5.35	7.24	0.97	17.10	頁岩	15	
図Ⅲ－190－85	つまみ付きナイフ	18－K	Ⅲ層	(3.76)	4.31	1.24	15.06	黒曜石	5	
図Ⅲ－191－86	スクレイパー	12－S	Ⅱ層	7.88	2.92	0.98	18.59	頁岩	6	
図Ⅲ－191－87	スクレイパー	13－M	Ⅲ層	7.62	3.42	0.91	22.51	頁岩	16	
図Ⅲ－191－88	スクレイパー	16－S	Ⅲ層	7.08	3.12	0.81	19.92	頁岩	18	
図Ⅲ－191－89	スクレイパー	19－I	Ⅰ層	6.97	4.03	1.25	31.27	頁岩	2	
図Ⅲ－191－90	スクレイパー	17－R	Ⅲ層	7.23	3.63	1.13	26.42	頁岩	10	
図Ⅲ－191－91	スクレイパー	13－S	Ⅱ層	6.96	4.14	1.12	20.37	頁岩	5	
図Ⅲ－191－92	スクレイパー	20－K	Ⅲ層	8.12	4.34	1.55	47.02	頁岩	14	
図Ⅲ－191－93	スクレイパー	17－N	Ⅲ層	8.84	4.29	1.47	41.08	頁岩	7	
図Ⅲ－191－94	スクレイパー	14－M	Ⅲ層	10.78	5.27	1.75	101.28	頁岩	17	
図Ⅲ－191－95	スクレイパー	10－Z	Ⅲ層	8.35	4.64	1.74	65.53	頁岩	3	
図Ⅲ－192－96	スクレイパー	20－K	Ⅲ層	9.55	3.79	1.24	37.42	頁岩	8	
図Ⅲ－192－97	スクレイパー	12－J	撹乱	11.77	3.06	1.14	28.75	頁岩	15	
図Ⅲ－192－98	スクレイパー	17－M	Ⅲ層	5.73	3.41	1.05	19.54	頁岩	12	
図Ⅲ－192－99	スクレイパー	16－F	Ⅰ層	6.46	4.68	1.17	30.33	頁岩	3	
図Ⅲ－192－100	スクレイパー	12－F	Ⅲ層	5.85	3.67	1.37	24.15	頁岩	1	
図Ⅲ－192－101	スクレイパー	10－V	Ⅲ層	7.32	3.38	1.29	33.56	頁岩	10	
図Ⅲ－192－102	スクレイパー	16－G	Ⅱ層	(7.13)	5.00	1.21	40.47	頁岩	3	
図Ⅲ－192－103	スクレイパー	10－V	Ⅲ層	6.66	5.48	1.76	48.99	頁岩	11	
図Ⅲ－192－104	スクレイパー	15－a	Ⅲ層	4.68	2.74	1.07	11.25	頁岩	6	
図Ⅲ－192－105	スクレイパー	14－G	Ⅰ層	6.08	2.15	1.28	20.07	頁岩	2	
図Ⅲ－192－106	スクレイパー	15－R	Ⅲ層	8.14	4.60	1.18	42.99	頁岩	3	
図Ⅲ－192－107	スクレイパー	12－K	Ⅲ層	5.45	2.78	0.75	11.15	頁岩	6	
図Ⅲ－192－108	スクレイパー	11－I	Ⅲ層	5.18	3.64	1.63	26.68	メノウ	10	
図Ⅲ－192－109	スクレイパー	10－X	Ⅲ層	5.30	3.51	1.27	23.62	頁岩	2	
図Ⅲ－193－110	スクレイパー	14－Q	Ⅲ層	(6.46)	3.43	1.34	22.25	メノウ	9	
図Ⅲ－193－111	スクレイパー	11－G	Ⅱ層	6.67	4.29	1.17	25.91	頁岩	5	
図Ⅲ－193－112	スクレイパー	11－L	Ⅲ層	8.32	3.34	1.27	37.77	頁岩	8	
図Ⅲ－193－113	スクレイパー	11－X	Ⅲ層	(6.68)	4.29	1.51	48.27	頁岩	8	
図Ⅲ－193－114	スクレイパー	22－M	Ⅲ層	8.28	5.74	0.86	29.00	砂岩	1	
図Ⅲ－193－115	スクレイパー	15－K	Ⅱ層	4.39	6.11	0.83	21.92	頁岩	3	
図Ⅲ－193－116	スクレイパー	21－N	Ⅲ層	4.65	7.03	0.59	19.07	頁岩	13	
図Ⅲ－193－117	スクレイパー	16－V	Ⅲ層	6.22	6.41	1.75	52.67	頁岩	4	
図Ⅲ－193－118	スクレイパー	16－d	Ⅱ層	(8.64)	6.08	2.21	99.82	粘板岩	2	
図Ⅲ－193－119	スクレイパー	11－J	Ⅲ層	5.01	7.78	1.47	43.64	頁岩	12	
図Ⅲ－194－120	両面調整石器	21－J	Ⅲ層	(9.88)	3.09	2.15	60.22	頁岩	5	
図Ⅲ－194－121	両面調整石器	21－M	Ⅲ層	9.71	3.37	1.73	48.36	頁岩	21	
図Ⅲ－194－122	両面調整石器	12－V	Ⅲ層	12.94	5.25	2.86	174.32	頁岩	9	
図Ⅲ－194－123	両面調整石器	18－S	Ⅲ層	12.47	7.05	2.44	274.46	粘板岩	2	
図Ⅲ－195－124	両面調整石器	10－V	Ⅲ層	17.01	6.25	3.63	325.00	頁岩	9	
図Ⅲ－195－125	両面調整石器	11－J	Ⅱ層	9.01	6.32	3.94	178.96	頁岩	2	
図Ⅲ－195－126	両面調整石器	17－T	Ⅳ層	11.05	7.18	2.21	165.59	頁岩	11	
図Ⅲ－196－127	両面調整石器	18－S	Ⅲ層	5.58	4.62	1.61	45.92	頁岩	7	
図Ⅲ－196－128	両面調整石器	11－S	Ⅱ層	8.09	6.81	2.81	157.28	頁岩	5	
図Ⅲ－196－129	両面調整石器	17－W	Ⅲ層	6.47	5.09	1.78	47.13	頁岩	2	
図Ⅲ－196－130	両面調整石器	15－L	Ⅲ層	8.24	8.08	1.78	99.25	頁岩	10	
図Ⅲ－196－131	U字フレイク	23－M	Ⅱ層	5.77	5.36	2.01	38.76	頁岩	12	
図Ⅲ－196－132	R字フレイク	12－F	Ⅱ層	(6.07)	2.88	0.39	4.94	頁岩	15	

表Ⅲ－9　包含層掲載石器一覧(3)

掲載番号	器種名	調査区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	遺物番号	備考
図Ⅲ－196－133	Ⅹフレイク	14－X	Ⅱ層	7.56	5.98	1.98	66.68	頁岩	3	
図Ⅲ－196－134	楔形石器	16M	Ⅱ層	3.80	2.75	0.70	6.85	メノウ	28	
図Ⅲ－196－135	楔形石器	16M	Ⅱ層	4.80	4.70	1.10	29.00	obs	16	
図Ⅲ－196－136	楔形石器	16N	Ⅱ層	3.10	3.20	1.70	15.25	頁岩	23	
図Ⅲ－197－137	石核	24－N	Ⅱ層	13.01	9.64	5.98	790.00	頁岩	4	
図Ⅲ－197－138	石核	24－L	Ⅱ層	7.81	8.29	3.00	196.39	頁岩	6	
図Ⅲ－198－139	石核	17－R	Ⅱ層	19.62	8.03	6.76	1140.00	頁岩	4	
図Ⅲ－199－140	石核	11－J	Ⅱ層	4.48	78.40	3.98	263.32	頁岩	11	
図Ⅲ－199－141	石核	13－X	Ⅱ層	4.67	6.94	4.22	136.89	頁岩	8	
図Ⅲ－199－142	石核	14－O	Ⅱ層	6.81	6.59	5.58	345.00	頁岩	5	
図Ⅲ－200－143－a	石刃接合資料(状況1)			11.46	11.23	4.72	632.52			
図Ⅲ－200－143－b	石刃接合資料(状況2)			11.81	8.39	4.69	383.20			
図Ⅲ－201－143－1	接合資料（石核）	18－O	Ⅱ層	9.33	6.43	3.51	249.32	珪質岩	6	
図Ⅲ－201－143－2	接合資料（石核）	19－P	Ⅱ層	6.63	8.89	4.90	290.13		3	
図Ⅲ－201－143－3	接合資料(フレイク)	18－O	Ⅱ層	5.09	6.87	3.20	93.07		5	
図Ⅲ－202－144	石斧	16－X	Ⅱ層	9.54	4.88	2.73	213.96	緑色泥岩	1	
図Ⅲ－202－145	石斧	17－b	Ⅱ層	10.23	5.12	2.59	224.58	緑色泥岩	1	被熱
図Ⅲ－202－146	石斧	18－S	Ⅱ層	10.61	4.89	2.79	231.63	砂岩	1	
図Ⅲ－202－147	石斧	17－b	Ⅱ層	11.31	4.75	2.58	225.81	緑色泥岩	2	被熱
図Ⅲ－202－148	石斧	10－b	Ⅰ層	(8.25)	3.91	3.73	142.46	緑色泥岩	1	
図Ⅲ－202－149	石斧	12－Z	Ⅱ層	(14.18)	5.17	2.30	271.82	砂岩	1	
図Ⅲ－203－150	石斧	12－U	Ⅱ層	19.75	7.82	4.49	871.00	砂岩	1	
図Ⅲ－203－151	石斧	18－N	Ⅱ層	9.02	5.02	1.66	87.66	凝灰岩	2	
図Ⅲ－203－152	石斧	14－O	Ⅱ層	(7.16)	1.74	0.95	21.04	砂岩	1	
図Ⅲ－203－153	石斧	13－N	Ⅳ層	(5.78)	1.82	1.04	19.10	緑色泥岩	2	
図Ⅲ－204－154	編平打製石器	16－W	Ⅱ層	9.89	13.47	3.02	545.00	安山岩	1	未成品
図Ⅲ－204－155	編平打製石器	17－N	Ⅱ層	10.25	14.52	2.92	633.00	安山岩	8	
図Ⅲ－204－156	編平打製石器	12－V	Ⅱ層	8.89	15.24	3.28	590.00	砂岩	2	
図Ⅲ－204－157	編平打製石器	15－M	Ⅱ層	8.36	14.79	2.71	450.00	砂岩	18	
図Ⅲ－204－158	編平打製石器	17－L	Ⅱ層	9.49	14.61	1.54	349.00	凝灰岩	15	
図Ⅲ－204－159	編平打製石器	10－F	Ⅱ層	6.88	16.43	1.76	216.00	砂岩	2	
図Ⅲ－204－160	編平打製石器片	14－H	Ⅱ層	6.27	14.01	1.83	305.00	安山岩	1	
	編平打製石器片	14－H	Ⅱ層					安山岩	3	
図Ⅲ－204－161	編平打製石器	19－O	Ⅱ層	7.91	15.88	1.76	314.00	凝灰岩	14	
図Ⅲ－204－162	編平打製石器	26－P	Ⅱ層	7.36	15.28	3.23	489.00	砂岩	5	
図Ⅲ－204－163	編平打製石器	12－Y	Ⅱ層	8.06	14.11	1.72	261.80	凝灰岩	4	
図Ⅲ－205－164	編平打製石器	19－K	Ⅱ層	6.92	16.50	2.32	336.00	凝灰岩	9	
図Ⅲ－205－165	すり石	10－a	Ⅱ層	8.23	15.67	4.53	850.00	安山岩	1	
図Ⅲ－205－166	すり石	10－R	Ⅰ層	5.54	11.94	3.03	287.51	砂岩	1	
図Ⅲ－205－167	すり石	17－R	Ⅱ層	5.63	14.09	1.52	185.41	砂岩	3	
図Ⅲ－205－168	すり石	11－G	Ⅱ層	6.19	(7.61)	3.38	250.42	閃緑岩	3	
図Ⅲ－205－169	すり石	19－M	Ⅱ層	10.02	12.04	3.19	570.00	凝灰岩	7	
図Ⅲ－205－170	すり石	14－X	Ⅱ層	7.26	12.22	5.57	700.00	砂岩	3	
図Ⅲ－205－171	北海道式石冠	14－X	Ⅱ層	7.23	11.71	5.41	710.00	砂岩	5	
図Ⅲ－205－172	北海道式石冠	14－R	Ⅱ層	8.41	16.77	5.54	1105.00	砂岩	4	
図Ⅲ－205－173	北海道式石冠	17－S	Ⅱ層	8.43	13.74	6.37	1200.00	砂岩	3	
図Ⅲ－205－174	北海道式石冠	14－M	Ⅱ層	10.54	15.98	5.49	1775.00	砂岩	2	未成品
図Ⅲ－206－175	石錘	15－K	Ⅱ層	5.62	5.74	0.86	40.87	安山岩	6	
図Ⅲ－206－176	たたき石	17－S	Ⅱ層	16.41	9.52	4.01	1020.00	砂岩	1	
図Ⅲ－206－177	たたき石	17－O	Ⅱ層	13.14	6.98	3.89	485.00	砂岩	7	
図Ⅲ－206－178	たたき石	17－T	Ⅴ層	15.63	5.79	3.28	515.00	ひん岩	2	
図Ⅲ－206－179	たたき石	27－N	Ⅰ層	7.84	6.18	4.52	366.87	頁岩	1	
図Ⅲ－206－180	たたき石	20－L	Ⅱ層	9.76	8.10	5.03	620.00	砂岩	9	
図Ⅲ－206－181	たたき石	17－O	Ⅱ層	10.64	8.88	4.06	750.00	砂岩	4	被熱
図Ⅲ－206－182	たたき石	14－U	Ⅱ層	7.12	11.38	8.04	835.00	砂岩	4	
図Ⅲ－206－183	たたき石	18－M	Ⅱ層	8.07	5.78	3.31	181.20	粘板岩	6	
図Ⅲ－206－184	たたき石	15－K	Ⅱ層	13.81	9.47	4.17	732.00	安山岩	1	接合（4点）
図Ⅲ－207－185	石錘	12－X	Ⅱ層	13.36	17.10	2.30	630.00	凝灰岩	4	
図Ⅲ－207－186	石錘	11－V	Ⅳ層	5.52	5.96	1.61	84.62	粘板岩	8	
図Ⅲ－207－187	石錘	22－L	Ⅱ層	8.78	11.64	1.97	277.55	砂岩	7	
図Ⅲ－207－188	石錘	12－W	Ⅱ層	10.67	12.83	2.52	495.00	凝灰岩	3	未成品
図Ⅲ－207－189	石錘	11－V	Ⅳ層	6.37	7.21	1.35	90.31	泥岩	6	
図Ⅲ－207－190	台石	10－X	Ⅱ層	37.10	20.90	5.70	4700.00	砂岩	4	

Ⅳ章　自然科学的手法による分析

1．館野６遺跡における放射性炭素年代（AMS 測定）

㈱加速器分析研究所

1　測定対象試料

館野６遺跡は、北海道北斗市館野85－１ほか（北緯41°47′21″、東経140°37′04″）に所在し、函館湾に面する標高52～58メートルの海岸段丘に立地する。館野２遺跡の南方500メートルに位置する。測定対象試料は、Ｈ－２　Ｆ－１出土木炭（№14：IAAA－102928）、Ｈ－３　HF－２出土木炭（№15：IAAA－102929）、Ｈ－10　HF－１出土木炭（№16：IAAA－102930）、Ｈ－13　HP－１出土木炭（№17：IAAA－102931）、Ｈ－16　HF－１出土木炭（№18：IAAA－102932）、Ｈ－17　HF－１出土木炭（№19：IAAA－102933）、Ｐ－14　Ｆ－１出土木炭（№20：IAAA－102934）、Ｆ－28出土木炭（№21：IAAA－102935）、Ｆ－59出土木炭（№22：IAAA－102936）、埋設土器４出土木炭（№23：IAAA－102937）の合計10点である（表Ⅳ－１）。試料はすべてフローテーションによって回収された。

2　測定の意義

遺構の年代を特定する。

3　化学処理工程

(1)　メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。

(2)　酸－アルカリ－酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常１mol／ℓ（１M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから１Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が１Mに達した時には「AAA」、１M未満の場合は「AaA」と表１に記載する。

(3)　試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

(4)　真空ラインで二酸化炭素を精製する。

(5)　精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

(6)　グラファイトを内径１㎜のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4　測定方法

３MV タンデム加速器（NEC　Pelletron　9SDH－２）をベースとした^{14}C－AMS 専用装置を使用し、^{14}C の計数、^{12}C 濃度（^{13}C／^{12}C）、^{14}C 濃度（^{14}C／^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド

試料の測定も同時に実施する。

5　算出方法

(1)　$\delta^{13}C$ は、試料炭素の^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表Ⅳ－１）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

(2)　^{14}C 年代（Libby Age:yrBP）は、過去の大気中^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C 年代は $\delta^{13}C$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表Ⅳ－１に、補正していない値を参考値として表Ⅳ－２に示した。^{14}C 年代と誤差は、下１桁を丸めて10年単位で表示される。また、^{14}C 年代の誤差（±１σ）は、試料の^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2％であることを意味する。

(3)　pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい（^{14}C が少ない）ほど古い年代を示し、pMC が100以上（^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}C$ によって補正する必要があるため、補正した値を表Ⅳ－１に、補正していない値を参考値として表Ⅳ－２に示した。

(4)　暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、１標準偏差（１σ＝68.2％）あるいは２標準偏差（２σ＝95.4％）で表示される。グラフの縦軸が^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、$\delta^{13}C$ 補正を行い、下一桁を丸めない^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース（Reimer et al.2009）を用い、OxCalv4.1較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表Ⅳ－２に示した。暦年較正年代は、^{14}C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC／AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

6　測定結果

試料の^{14}C 年代は、Ｈ－２　Ｆ－１出土木炭№14が4470±30yrBP、Ｈ－３ HF－２出土木炭№15が4160±30yrBP、Ｈ－10 HF－１出土木炭№16が4440±30yrBP、Ｈ－13 HP－１出土木炭№17が4940±30yrBP、Ｈ－16 HF－１出土木炭№18が4430±30yrBP、Ｈ－17 HF－１出土木炭№19が4450±30yrBP、Ｐ－14　Ｆ－１出土木炭№20が4710±30yrBP、Ｆ－28出土木炭№21が640±20yrBP、Ｆ－59出土木炭№22が4410±30yrBP、埋設土器４出土木炭№23が4880±30yrBP である。暦年較正年代（１σ）は、№14が3327～3091cal BC、№15が2872～2680cal BC、№16が3310～3017cal BC、№17が3763～3664 cal BC、№18が3309～3013cal BC、№19が3312～3024cal BC、№20が3623～3380cal BC、№21が1295～1388cal AD、№22が3090～2935cal BC、№.23が3695～3642cal BC の間に各々複数の範囲で示される。№17、23は縄文時代前期後半頃、№20は縄文時代前期末葉頃、№14、16、18、19、22は縄文時代中期前半頃、№15は縄文時代中期後葉頃に相当する年代値である。これらに比べて№21は大幅に新しい値となっている。

表Ⅳ－1　測定結果

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ13C（‰）（AMS）	δ13C 補正あり Libby Age（yrBP）	δ13C 補正あり pMC（%）
IAAA－102928	No.14	H－2　F－1	木炭	AAA	－27.87±0.50	4,470±30	57.34±0.22
IAAA－102929	No.15	H－3　HF－2	木炭	AAA	－27.99±0.42	4,160±30	59.57±0.22
IAAA－102930	No.16	H－10　HF－1	木炭	AAA	－29.56±0.40	4,440±30	57.57±0.21
IAAA－102931	No.17	H－13　HP－1	木炭	AAA	－26.30±0.58	4,940±30	54.03±0.21
IAAA－102932	No.18	H－16　HF－1	木炭	AAA	－26.22±0.35	4,430±30	57.59±0.22
IAAA－102933	No.19	H－17　HF－1	木炭	AAA	－25.59±0.35	4,450±30	57.50±0.20
IAAA－102934	No.20	P－14　F－1	木炭	AAA	－24.64±0.26	4,710±30	55.64±0.20
IAAA－102935	No.21	F－28	木炭	AAA	－26.14±0.41	640±20	92.39±0.27
IAAA－102936	No.22	F－59	木炭	AAA	－22.23±0.50	4,410±30	57.79±0.20
IAAA－102937	No.23	埋設土器４　Ⅲ層下位	木炭	AAA	－28.13±0.46	4,880±30	54.48±0.19

［＃4131］

表Ⅳ－2（1）　暦年較正

測定番号	δ13C 補正なし Age（yrBP）	δ13C 補正なし pMC（%）	暦年較正用（yrBP）	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
IAAA－102928	4,520±30	57.00±0.21	4,467±31	3327calBC－3218calBC（48.6%） 3176calBC－3160calBC（ 6.6%） 3121calBC－3091calBC（13.1%）	3339calBC－3206calBC（50.8%） 3196calBC－3079calBC（32.7%） 3071calBC－3024calBC（12.0%）
IAAA－102929	4,210±30	59.20±0.21	4,161±29	2872calBC－2849calBC（11.4%） 2813calBC－2742calBC（34.9%） 2730calBC－2694calBC（18.6%） 2687calBC－2680calBC（ 3.3%）	2880calBC－2832calBC（19.3%） 2820calBC－2632calBC（76.1%）
IAAA－102930	4,510±30	57.03±0.21	4,435±29	3310calBC－3296calBC（ 3.6%） 3284calBC－3276calBC（ 2.1%） 3265calBC－3240calBC（11.0%） 3106calBC－3017calBC（51.6%）	3328calBC－3218calBC（26.5%） 3179calBC－3158calBC（ 3.0%） 3123calBC－3004calBC（56.9%） 2990calBC－2929calBC（ 9.1%）
IAAA－102931	4,970±30	53.89±0.20	4,944±31	3763calBC－3724calBC（31.9%） 3716calBC－3693calBC（21.6%） 3682calBC－3664calBC（14.7%）	3782calBC－3655calBC（95.4%）
IAAA－102932	4,450±30	57.44±0.21	4,432±30	3309calBC－3300calBC（ 2.3%） 3283calBC－3276calBC（ 1.5%） 3265calBC－3240calBC（10.3%） 3105calBC－3013calBC（54.1%）	3327calBC－3230calBC（22.7%） 3225calBC－3219calBC（ 0.7%） 3176calBC－3158calBC（ 2.4%） 3121calBC－2927calBC（69.6%）

表Ⅳ－２(1)　暦年較正

測定番号	δ13C 補正なし		暦年較正用	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC(%)	(yrBP)		
IAAA－102933	4,460±30	57.43±0.20	4,445±28	3312calBC－3295calBC(6.1%) 3287calBC－3275calBC(4.1%) 3265calBC－3239calBC(14.1%) 3106calBC－3024calBC(43.8%)	3332calBC－3214calBC(36.7%) 3188calBC－3155calBC(5.8%) 3132calBC－3010calBC(50.5%) 2980calBC－2960calBC(1.7%) 2951calBC－2942calBC(0.7%)
IAAA－102934	4,700±30	55.68±0.20	4,709±28	3623calBC－3604calBC(12.6%) 3523calBC－3500calBC(16.4%) 3431calBC－3380calBC(39.2%)	3631calBC－3579calBC(22.8%) 3534calBC－3493calBC(21.1%) 3468calBC－3374calBC(51.5%)
IAAA－102935	650±20	92.18±0.26	635±23	1295calAD－1315calAD(25.9%) 1356calAD－1388calAD(42.3%)	1287calAD－1327calAD(39.3%) 1342calAD－1395calAD(56.1%)
IAAA－102936	4,360±30	58.12±0.20	4,405±28	3090calBC－3049calBC(26.4%) 3033calBC－3009calBC(15.1%) 2983calBC－2935calBC(26.7%)	3263calBC－3253calBC(1.6%) 3099calBC－2920calBC(93.8%)
IAAA－102937	4,930±30	54.13±0.18	4,879±27	3695calBC－3678calBC(23.3%) 3667calBC－3642calBC(44.9%)	3703calBC－3638calBC(95.4%)

［参考値］

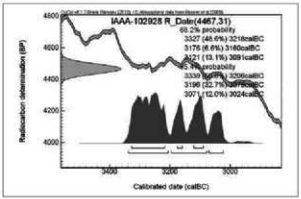
試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

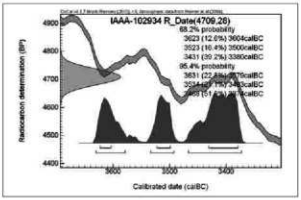
文献

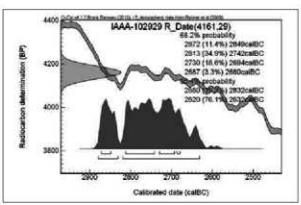
Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion : Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

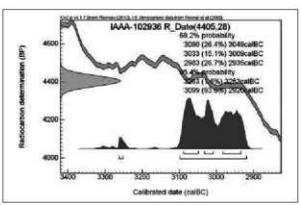
Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

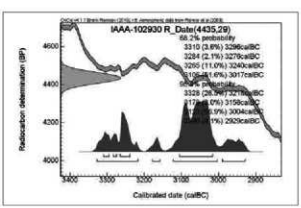
Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal 09 and Marine 09 radiocarbon age calibration curves, 0 -50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4), 1111-1150

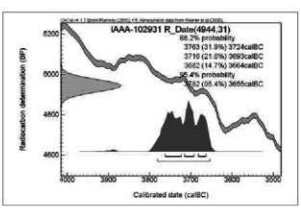

IAAA-102928 R_Date(4467,31)
68.2% probability
3327 (48.6%) 3218calBC
3176 (6.6%) 3180calBC
3221 (13.1%) 3091calBC
95.4% probability
3339 (3.8%) 3206calBC
3196 (32.1%) 3000calBC
3071 (12.0%) 3024calBC
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calBC)

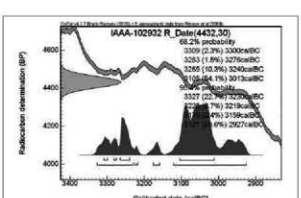

IAAA-102934 R_Date(4709,26)
68.2% probability
3623 (12.6%) 3604calBC
3523 (16.4%) 3500calBC
3431 (39.2%) 3380calBC
95.4% probability
3631 (22.8%) 3575calBC
3534 (48.7%) 3457calBC
3451 (24.0%) 3416calBC
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calBC)

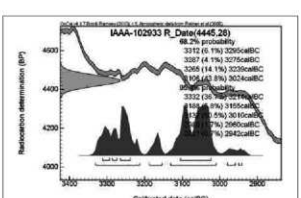

IAAA-102929 R_Date(4161,29)
68.2% probability
2872 (11.4%) 2849calBC
2913 (34.9%) 2742calBC
2730 (18.6%) 2694calBC
2687 (3.3%) 2680calBC
95.4% probability
2890 (38.9%) 2832calBC
2820 (76.1%) 2630calBC
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calBC)

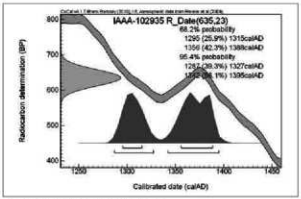

IAAA-102936 R_Date(4405,28)
68.2% probability
3090 (26.4%) 3048calBC
3039 (15.1%) 3009calBC
2963 (26.7%) 2935calBC
95.4% probability
3101 (100%) 2935calBC
3099 (93.9%) 2926calBC
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calBC)

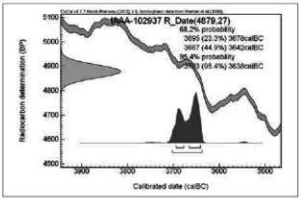

IAAA-102930 R_Date(4435,29)
68.2% probability
3310 (3.8%) 3296calBC
3284 (2.1%) 3279calBC
3265 (11.0%) 3240calBC
3105 (51.6%) 3017calBC
95.4% probability
3328 (36.9%) 3219calBC
3176 (41.0%) 3159calBC
3141 (18.9%) 3004calBC
2935 (100%) 2926calBC
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calBC)


IAAA-102931 R_Date(4944,31)
68.2% probability
3763 (31.9%) 3724calBC
3710 (21.6%) 3693calBC
3662 (14.7%) 3664calBC
95.4% probability
3783 (95.4%) 3655calBC
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calBC)


IAAA-102932 R_Date(4432,30)
68.2% probability
3309 (2.3%) 3300calBC
3283 (1.8%) 3276calBC
3265 (10.3%) 3240calBC
3105 (54.1%) 3013calBC
95.4% probability
3327 (22.7%) 3230calBC
3218 (3.1%) 3213calBC
3176 (44.4%) 3159calBC
3141 (28.6%) 2927calBC
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calBC)


IAAA-102933 R_Date(4445,26)
68.2% probability
3312 (6.1%) 3295calBC
3287 (4.1%) 3275calBC
3265 (14.1%) 3235calBC
3105 (43.8%) 3024calBC
95.4% probability
3332 (38.1%) 3214calBC
3188 (4.1%) 3155calBC
3138 (52.5%) 3010calBC
2978 (7.7%) 2966calBC
2950 (7.1%) 2943calBC
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calBC)





［参考］暦年較正年代グラフ

2．館野６遺跡出土炭化材の樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

1．はじめに

館野６遺跡は北斗市館野に所在し、矢不来川右岸の河岸段丘上に立地する、縄文時代前期から後期前半を主体とする複合遺跡である。館野６遺跡では竪穴住居跡や土坑などが検出され、炭化材が出土した。ここでは館野６遺跡で出土した炭化材の樹種同定を行った。なお同定については、森林総合研究所の能城修一氏の御教示を得た。

2．試料と方法

試料は竪穴住居跡の焼土Ｈ－２　Ｆ１で１点、竪穴住居跡内の炉跡であるＨ－３　HF２とＨ－10 HF１、Ｈ－16 HF１、Ｈ－17 HF１で各１点、竪穴住居跡内の柱穴または付属ピットであるＨ－13 HP１で１点、土坑の焼土Ｐ－14　Ｆ１で１点、焼土であるＦ－28とＦ－59で各１点、埋設土器４で１点の計10点の出土炭化材である。遺構の時期については、Ｈ－２　Ｆ１とＨ－３　HF２、Ｈ－13 HP１、Ｐ－14　Ｆ１、Ｆ－28、Ｆ－59、土器埋設４は縄文時代前期後半、Ｈ－10 HF１とＨ－16 HF１、Ｈ－17 HF１は縄文時代中期前半と考えられている。計測が可能な試料について、加工前に残存半径と残存年輪数の計測を行った。残存半径は試料で残存している半径を直接計測し、残存年輪数は残存半径内の年輪数を計測した。

炭化材の樹種同定は、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）についてカミソリと手で割断面を作製し、整形して両面テープで試料台に固定した。その後乾燥させ、イオンスパッタにて金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE 社製　VE－9800）にて検鏡および写真撮影を行った。なお同定試料の残りについては、北海道埋蔵文化財センターに保管されている。

3．結果

表Ⅳ－３　館野６遺跡出土炭化材の樹種同定結果

時期	縄文時代前期後半							縄文時代中期前半			
遺構／遺構	H－2 F１	H－3 HF２	H－13 HP１	P－14 F１	F－28	F－59	埋設土器４	H－10 HF１	H－16 HF１	H－17 HF１	合計
イヌガヤ					1						1
カバノキ属				1							1
コナラ属コナラ節	1	1	1			1		1	1		6
バラ属							1				1
環孔材										1	1
合計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10

同定の結果、針葉樹のイヌガヤ１分類群と、広葉樹のカバノキ属とコナラ属コナラ節（以下コナラ節と呼ぶ）、バラ属、樹種不明の環孔材の４分類群の計５分類群が産出した。コナラ節が最も多く６点産出し、イヌガヤとカバノキ属、バラ属、環孔材が各１点産出した。同定結果を表Ⅳ－３に、一覧を表Ⅳ－４に示す。

次に、同定された材の特徴を記載し、図版に各樹種の走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1)　イヌガヤ　*Cephalotaxus harringtonia* (Knight ex Forbes) K.Koch イヌガヤ科　図版Ⅳ－１　１ａ－１ｃ（No.８）

仮道管と放射組織で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、高さ１～３列となる。分野壁孔は小型のトウヒ型で、１分野に１～４個みられる。仮道管の内壁にやや不揃いに密に走るらせん肥厚がみられる。

イヌガヤの現在の植生は岩手県以南の本州、四国、九州に分布し、変種のハイイヌガヤは北海道西部から本州日本海側の多雪地帯に分布する、常緑小高木の針葉樹である。樹木自体が小さいため、現在では顕著な木材利用は行われていない。

(2) カバノキ属 *Betula* カバノキ科 図版Ⅳ－１ ２ａ－２ｃ（№７）

小型の道管が単独ないし２～５個複合してやや密に散在する散孔材であるが、今回の試料では２年輪をまたぐ試料が採取できなかった。道管は10～20段程度の階段穿孔を有する。放射組織は同性で、幅１～３列となる。

カバノキ属にはマカンバやダケカンバ、ウダイカンバなどがあり、代表的なマカンバは北海道から本州北中部の温帯の、日当たりの良い場所に生育する落葉高木の広葉樹である。材はやや重硬かつ強靭で、切削加工は容易である。

(3) コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図版Ⅳ－１ ３ａ－３ｃ（№２）・図版Ⅳ－２ ４ａ－４ｃ（№３）

年輪の始めに大型の道管が１～２列並び、晩材部では急に径を減じた道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属コナラ節にはコナラやミズナラなどがあり、温帯から暖帯にかけて広く分布する落葉高木の広葉樹である。代表的なミズナラの材は、やや重く強靭で切削加工はやや難しい。

(4) バラ属 *Rosa* バラ科 図版Ⅳ－２ ５ａ－５ｃ（№10）

年輪の始めに大型の道管が１～３列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が単独でやや疎に配列する環孔材である。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

バラ属にはノイバラやヤマイバラなどがあり、温帯から暖帯に分布する落葉低木の蔓性の広葉樹である。現在では材利用は顕著に行われてはいない。

(5) 環孔材 Ring-porednood 図版Ⅳ－２ ６ａ－６ｃ（№６）

年輪の始めに大型の道管が１～２列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が単独ないし数個複合して散在する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は平伏、方形、直立細胞が混在する異性で幅１～４列となる。

４．考察

館野６遺跡の縄文時代前期後半の遺構では、竪穴住居跡の焼土であるＨ－２ Ｆ１と竪穴住居跡の炉跡であるＨ－３ ＨＦ２、竪穴住居跡の柱穴または付属ピットであるＨ－13 ＨＰ１、焼土であるＦ－59ではコナラ節が産出し、土坑の焼土であるＰ－14 Ｆ１ではカバノキ属、焼土であるＦ－28ではイヌガヤ、土器埋設４からはバラ属が産出した。また、縄文時代中期前半の竪穴住居跡の炉跡であるＨ－10 ＨＦ１とＨ－16 ＨＦ１ではコナラ節、Ｈ－17 ＨＦ１では樹種不明の環孔材が産出した。

竪穴住居跡の炉跡から出土した炭化材は、いずれも燃料材の残渣であると考えられる。また竪穴住居跡の焼土と柱穴または付属ピットから出土した炭化材は、炭化した建築材または燃料材の残渣などの可能性が考えられる。土坑の焼土を含む焼土から出土した炭化材は、燃料材の残渣である可能性が

高く、埋設土器内から出土した炭化材の用途は不明である。竪穴住居跡の炉跡や焼土、柱穴または付属ピットなどで産出したコナラ節は、火持ちが良くて長時間燃焼するという性質を持つ。また重硬で耐朽性が高い樹種でもある。そのため燃料材や建築材として利用されていたと考えられる。土坑内の焼土から出土したカバノキ属は現在でも薪炭材として用いられる材である。焼土で出土したイヌガヤと土器埋設４で出土したバラ属は、薪炭材として利用されることは少ない樹種である。しかし試料№８のイヌガヤは直径６㎜程度の枝状の材であり、燃料として利用されていた可能性が高い。№10のバラ属は破片状となっていて形状確認が行えず、用途は不明であった。

クリは、縄文時代の前期から後期を通して、全国的に住居址の建築材や燃料材に多く利用されている（千野、1991）。館野６遺跡と同じ北斗市に所在する矢不来６遺跡・矢不来９遺跡・矢不来11遺跡では、縄文時代の竪穴住居跡の炉跡やピット、焼土から炭化材が出土し、最も同定試料数の多い矢不来９遺跡では、クリが４点、ハリギリが２点、イヌガヤとサクラ属が各１点産出している（藤根・中村、2008）。

矢不来６・９・11遺跡の縄文時代中期の遺構ではクリが多く産出する傾向がみられたが、館野６遺跡ではクリは全くみられず、コナラ節が最も多く産出した。花粉分析が行われていないため遺跡周辺の森林環境は不明であるが、館野６遺跡は急な崖地に立地しており、遺跡周辺にクリが生育していなかった可能性や、周辺森林から燃料材や建築材などとしてコナラ節を選択し、クリを利用していなかった可能性などが考えられる。

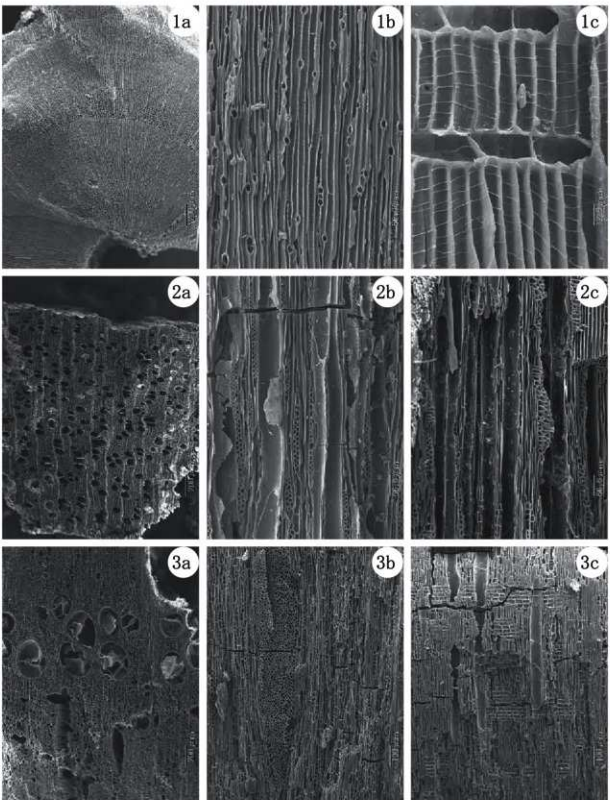
引用文献

千野裕道（1991）縄文時代に二次林はあったか－遺跡出土の植物性遺物からの検討－。東京都埋蔵文化財センター研究論集、Ⅹ、215－249。

藤根　久・中村賢太郎（2008）矢不来６遺跡・矢不来９遺跡・矢不来11遺跡出土の炭化材樹種同定。北海道埋蔵文化財センター編「矢不来６遺跡(2)・矢不来９遺跡・矢不来11遺跡(2)」：97－101、北海道埋蔵文化財センター。

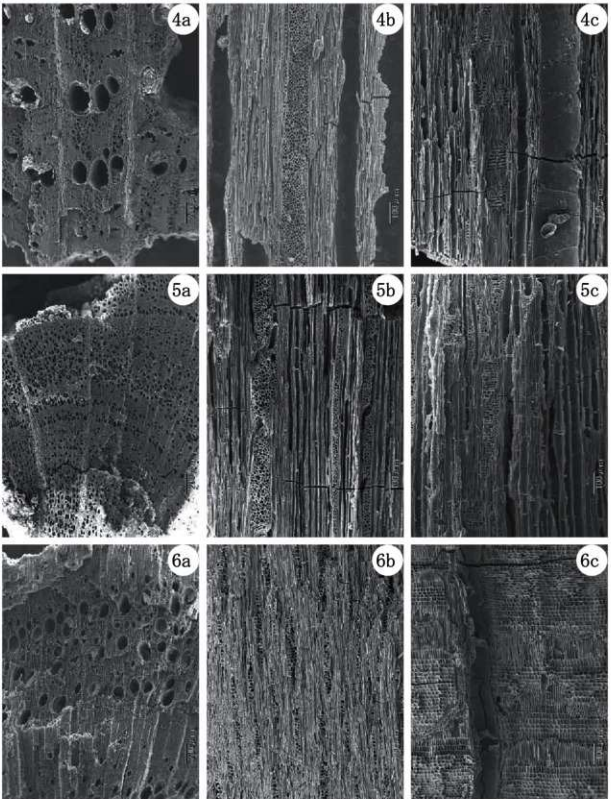
表Ⅳ－４　館野６遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧

試料№	遺　構	層位	遺物番号	樹　種	残存半径（㎝）	残　存年輪数	時　期	備　考
1	H－2　F１			コナラ属コナラ節	0.6	2	縄文時代前期後半	
2	H－3　HF２			コナラ属コナラ節	0.7	3		
3	H－10　HF１	１層		コナラ属コナラ節	0.7	7	縄文時代中期前半	
4	H－13　HP１		1	コナラ属コナラ節	1.2	4	縄文時代前期後半	
5	H－16　HF１			コナラ属コナラ節	0.5	4	縄文時代中期前半	炭化物集中
6	H－17　HF１	１層		環孔材	0.4	2		
7	P－14　F１		1	カバノキ属	0.4	1	縄文時代前期後半	
8	F－28			イヌガヤ	0.3	3	縄文時代前期後半	最外部あり
9	F－59			コナラ属コナラ節	0.4	4	縄文時代前期後半	
10	埋設土器４	Ⅲ層下位		バラ属	0.6	7	縄文時代前期後半	



図版Ⅳ－１　館野６遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(1)

１ａ－１ｃ。イヌガヤ（No42）　２ａ－２ｃ。カバノキ属（No41）　３ａ－３ｃ。コナラ属コナラ節（No36）
ａ：横断面・ｂ：接線断面・ｃ：放射断面



図版Ⅳ－２　鉈野６遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(2)

４ａ－４ｃ。コナラ属コナラ節（No37）　５ａ－５ｃ。バラ属（No44）　６ａ－６ｃ。環孔材（No40）
ａ：横断面・ｂ：接線断面・ｃ：放射断面

3．北斗市館野６遺跡の黒曜石製遺物の原材産地分析

有限会社　遺物材料研究所

はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光Ｘ線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石製遺物の石材産地推定を行なっている[1,2,3]。最近の黒曜石の伝播距離に関する研究では、伝播距離は数千キロメートルが一般的で、６千キロメートルを推測する学者もでてきている。このような研究結果が出てきている現在、正確に産地を判定すると言うことは、原理原則に従って同定を行うことである。原理原則は、同じ元素組成の黒曜石が異なった産地では生成されないという理論がないために、少なくとも遺跡から半径数千キロメートルの内にある石器の原材産地の原石と遺物を比較し、必要条件と十分条件を満たす必要がある。ノーベル賞を受賞された益川敏英博士の言を借りれば、科学とは、仮説をたて正しいか否かあらゆる可能性を否定することにある。即ち十分条件の証明が非常に重要であると言い換えられると思われる。『遺物原材とある産地の原石が一致したという「必要条件」を満たしても、他の産地の原石にも一致する可能性が残っているから、他の産地には一致しないという「十分条件」を満たして、一致した産地の原石が使用されているとはじめて言い切れる。また、十分条件を求めることにより、一致しなかった産地との交流がなかったと結論でき、考古学に重要な資料が提供される。

産地分析の方法

先ず原石採取であるが、本来一つの産地から産出する全ての原石を採取し分析する必要があるが現実的には不可能である。そこで、産地から抽出した数十個の原石でも、その産地全ての原石を分析して比較した結果と同じ結果が推測でき、理論的にも証明されている方法として、マハラノビスの距離を求めてその結果を用いておこなうホテリングのＴ２乗検定法がある。ホテリングのＴ２乗検定法とクラスター判定法（同定ではなく分類）、元素散布図法（散布図範囲に入るか否かで判定）の各々の方法を比較すると以下の通りとなる。

クラスター判定法はクラスターを作る産地の組み合わせを変えることにより、クラスターが変動してしまう。例えば、Ａ原石製の遺物とＡ、Ｂ、Ｃ産地の原石でクラスターを作ったとき遺物はＡ原石とクラスターを作るが、Ａ原石を抜いて、Ｄ、Ｅ産地の原石を加えてクラスターを作ると、遺物がＥ産地とクラスターを作ってしまう。もし、Ａ産地が調査されていないと、遺物はＥ原石製遺物と判定される可能性があり結果の信頼性に疑問が生じる。また、Ａ原石製遺物と分かっていれば、Ｅ原石とクラスターを作らないようもできる。クラスター分析を正確に行うには遺物の原石産地を予め推測し、クラスターを組み立てる必要があるため、正しい結果を得るのは大変に困難なものとなる。

元素散布図法は肉眼で原石群元素散布図の中に分析した遺物の結果が入るか否かを図示した方法で、原石の含有元素の絶対定量値を求めてその違いを地球科学的に議論するには地質学では最も適した方法であるが、産地分析の見地からみると、クラスター法よりさらに後退した方法であり、何個の原石を分析すればその産地を正確に表現出来るのか不明で、例えば分析する原石の数が少ないときにはＡ産地とＢ産地が区別できていたのに、分析する原石数が増えるとＡ産地、Ｂ産地の区別ができな

くなる可能性があり（クラスター法でも同じ危険性がある）判定結果に疑問が残る。以上のことから産地分析の方法として理想的なものは、地質学の常識的な知識さえあればよく、火山学、堆積学などの専門知識は必要なく、また、実際の分析においては非破壊で遺物の形態の違いによる相対定量値の影響を評価しながら同定を行うことが必要で、地球科学的なことは関係なく、如何に原理原則に従って正確な判定をおこなえるかが重要である。このようにクラスター判定法、元素散布図法の欠点を解決するために考え出され、理論的に証明された判定法がホテリングのＴ２乗検定法である。仮に現在調査した317個の原石・遺物群について散布図を書くと、各群40個の原石の元素分析結果を元素散布図にプロットすると、317群Ｘ40個＝12680点の元素散布図になり、これが８元素比Ｘ８元素比÷２－４＝30個の散布図となり、この図の中に遺物の分析点をプロットして産地を推測することは、想像できても実用的ではない。もし、散布図で判定するなら、あらかじめ遺物の原石産地を決めて、予想した産地のみで散布図を書き産地を決定する。これでは、一致する産地のみを探すのみで、科学的分析のあらゆる可能性を否定することが科学分析であると言うことに反し科学的産地分析と言えない。産地分析を正確に行うには、ある産地の原石の元素組成と遺物の元素組成が一致すればそこの産地の原石と決定できるという理論がないために、多数の産地の原石と遺物を比較し、必要条件と十分条件を満たす必要がある。考古学では、人工品の様式が一致すると言う結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調合素材があり、それらが一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致すると言うことは、古代人の思考が一致すと考えてもよく、相互関係を調査する上で重要な意味をもつ結果である。しかし、石器の様式による分類ではなく自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類では、例えば石材産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、産地地方との交流を示す土器が出土しているなどを十分条件の代用にすると産地分析は中途半端な結果となり、遠距離伝播した石材を近くの産地と誤判定する可能性がある。人が移動させた石器の元素組成とＡ産地原石の元素組成が一致し、必要条件を満たしたとき、確かにＡ産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなるが、偶然(産地分析法が不完全なために)に一致した可能性も大きく、もし他のＢ、Ｃ、Ｄ…の産地の原石と比較していない場合それらの産地でないとの証拠がないために、Ａ産地だと言い切れない。ここで、十分条件として、可能なかぎり地球上の全ての原産地（Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ…）の原石群と比較して、Ａ産地以外の産地とは一致しないことを十分条件として証明すれば、石器がＡ産地の原石と決定することができる。この十分条件を肉眼観察で求めることは観察する人たち個々の主観が入り、分類基準がまちまちとなるため混乱し不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても全ての産地が区別できるかは、それぞれが使用している産地分析法によってそれぞれ異なるため、実際におこなってみなければ分からない。産地分析の結果の信頼性は何ヶ所の原材産地の原石と客観的に比較して得られたかにより大きく左右され、比較した産地が少なければ信頼性の低い結果と言える。黒曜石、安山岩などの主成分組成は各原産地に大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には違いがあると考えられるため、微量成分を中心に元素分析をおこないこれを産地の特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、原産地毎に数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物の分析値を対比して、各平均値からの離れ具合（マハラノビスの距離）を求める。また、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地が異なる地点の可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限の個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのＴ２乗検定を行う。この検定を分析した全ての産地についておこない、ある遺物原材と同じ元素

組成の原石がA産地では10個中に一個みられ、B産地では一万個中に一個、C産地では百万個中に一個、D産地では…一個と各産地に求められるような、客観的な検定結果からA産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。すなわち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。

今回分析した遺物は北海道北斗市に位置する館野６遺跡出土の黒曜石製遺物４個で、産地分析の結果が得られたので報告する。

黒曜石原石の分析

黒曜石原石の自然面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X線分析装置によって元素分析を行なう。分析元素はAl、Si、K、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの12元素をそれぞれ分析した。塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。黒曜石は、Ca／K、Ti／K、Mn／Zr、Fe／Zr、Rb／Zr、Sr／Zr、Y／Zr、Nb／Zrの比の値の産地を区別する指標としてそれぞれ用いる。黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に黒曜石の原産地は分布している。調査を終えた原産地を図Ⅳ－１に示す。元素組成によってこれら原石を分類し表Ⅳ－５～８に示すこの原石群に原石産地が不明の遺物で作った遺物群を加えると317個の原石群・遺物群になる。ここでは北海道地域および一部の東北地域の産地について記述すると、白滝地域の原産地は、北海道紋別郡遠軽町に位置し、鹿砦北方２㎞の採石場の赤石山の露頭、鹿砦東方約２㎞の幌加沢地点、また白土沢、八号沢などより転礫として黒曜石が採取できる。赤石山の大産地の黒曜石は色に関係無く赤石山群（旧白滝第１群）にまとまる。また、あじさいの滝の露頭からは赤石山と肉眼観察では区別できない原石が採取でき、あじさい滝群を作った（旧白滝第２群）、また、八号沢の黒曜石原石と白土沢、十勝石川沢の転礫は梨肌の黒曜石で元素組成はあじさい滝群に似るが石肌で区別できる。幌加沢からの転礫の中で70％は幌加沢群になりあじさい滝群と元素組成から両群を区別できず、残りの30％は赤石山群に一致する。置戸地域産原石は、北海道常呂郡置戸町の清水の沢林道より採取された原石であり、その元素組成は置戸・所山群にまとまり、また同町の秋田林道で採取される原石は置戸山群にまとまる。また、同町中里地区の露頭の小原石（最大約３㎝）は、置戸山群、常呂川の転礫で作った常呂川第５群に一致し、同町安住地区の小原石の中には常呂川第３群に一致する原石がみられた。北見市留辺蘂のケショマップ川一帯で採取される原石はケショマップ第１、第２およびチマキナウシ林道から採取される黒曜石原石から新たにケショマップ第０群(旧ケショマップ第３群に似る）分類される。また、白滝地域、ケショマップ、置戸地域産原石は、湧別川および常呂川に通じる流域にあり、両河川の流域で黒曜石の円礫が採取され、湧別川下流域から採取した黒曜石円礫247個の元素組成分類結果を表Ⅳ－９に示した。また、中ノ島、北見大橋間の常呂川から採取した658個の円礫の中には、独特の元素組成の原石も見られ、新しい原石群を追加し分類結果を表Ⅳ－５～８と表10に示した。

また、湧別川の上流地域の遠軽町社名潤地域のサナブチ川流域からも独特の元素組成の原石が見られ、表Ⅳ－５～８と表Ⅳ－11に示した。十勝三股産原石は、北海道河東郡上士幌町の十勝三股露頭があり、また露頭前の十三ノ沢の谷筋および沢の中より原石が採取され、この原石の元素組成は十勝三股群にまとまる。この十勝三股産原石は十勝三股を起点に周辺の河川から転礫として採取され十三ノ沢、タウシュベツ川、音更川、芽登川、美里別川、サンケオルベ川さらに十勝川に流れた可能性があり、十勝川から採取される黒曜石円礫の元素組成は、十勝三股産の原石の元素組成と相互に近似して

いる。これら元素組成の近似した原石の原産地は相互に区別できず、もし遺物石材の産地分析でこの遺物の原石産地が十勝三股群に同定されたとしても、これら十勝三股を起点にした周辺の河川の複数の採取地点を考えなければならない。しかし、この複数の産地をまとめて十勝地域としても、古代の地域間の交流を考察する場合、問題はないと考えられる。釧路・上阿寒地域の礫層から最大3.5cmの大きさの円礫状黒曜石原石が産出し、成分組成は十勝三股産と一致した。

また、清水町、新得町、鹿追町にかけて広がる美蔓台地から産出する黒曜石から２つの美蔓原石群が作られた。この原石は産地近傍の遺跡で使用されている。

名寄地域では、朝日川、金沢川、上名寄地区、忠烈布地区、智恵文川、智南地区から円礫状の黒曜石が採取できる。これら名寄地域産出の黒曜石を元素組成で分類すると、名寄第１群と名寄第２群に分類できそれぞれ87％と13％の率になる。これら分類率を表５に示した。旭川市の近文台、台場、嵐山遺跡付近および雨文台北部などから採集される黒曜石の円礫は、20％が近文台第１群、69％が近文台第２群、11％が近文台第３群にそれぞれ分類され、それから台場の砂礫採取場からは近文台諸群に一致するもの以外に、黒、灰色系円礫も見られ、台場第１、２群を作った。

また、滝川市江別乙で採集される親指大の黒曜石の礫は、元素組成で分類すると約79％が滝川群にまとまり、21％が近文台第２、３群に元素組成が一致する。滝川群に一致する元素組成の原石は、北竜市恵袋別川培本社からも採取される。秩父別町の雨竜川に開析された平野を見下す丘陵中腹の緩斜面から小円礫の黒曜石原石が採取される。産出状況と礫の状態は滝川産黒曜石と同じで、秩父別第１群は滝川第１群に元素組成が一致し、第２群も滝川第２群に一致しさらに近文台第２群にも一致する。

赤井川産原石は、北海道余市郡赤井川村の土木沢上流域およびこの付近の山腹より採取できる。ここから採取される原石の中で少球果の列が何層にも重なり石器の原材として良質とはいえないもので赤井川第１群を作り、また、球果の非常に少ない握り拳半分大の良質なものなどで赤井川第２群を作った。これら第１、２群の元素組成は非常に似ていて、遺物を分析したときしばしば、赤井川両群に同定される。

豊泉産原石は豊浦町から産出し、元素組成によって豊泉第１、２群の両群に区別され、豊泉第２群の原石は斑晶が少なく良質な黒曜石である。豊泉産原石の使用圏は道南地方に広がり、一部は青森県に伝播している。また、青森県教育庁の斉藤岳氏提供の奥尻島幌内川産黒曜石の原石群が確立されている。

最近の北見市教育委員会太田敏量氏による原石産地調査で、上足寄地域から上足寄群、津別・相生から相生群、釧路市埋蔵文化財センターの石川朗氏による釧路空港、上阿寒地域からピッチストーン様の黒曜石が調査され、相互に似た組成を示し、それぞれ相生群、釧路空港群を作った。

また雄武地域・音稲府川から名寄第２群に組成の似た音稲府群、鵡居・久著呂川から久著呂川群群を作り原石群に新たに登録した。

出来島群は青森県西津軽郡つがる市七里長浜の海岸部より採取された円礫の原石で作られた群で、この出来島群と相互に似た元素組成の原石は、岩木山の西側を流れ鰺ケ沢地区に流入する中村川の上流で１点採取され、また、青森市の鶴ケ坂およびつがる市鶴ばみ地区より採取されている。青森県西津軽郡深浦町の海岸と同町の六角沢およびこの沢筋に位置する露頭より採取された原石で六角沢群を作り、また、八森山産出の原石で八森山群を作った。これら深浦町の両群と相互に似た群は、青森市戸門地区より産出する黒曜石で作られた戸門第２群である。戸門第１群、成田群、青森市県民の森地区より産出の大釈迦群（旧浪岡群）は赤井川産原石の第１、２群と弁別は可能であるが原石の元素組成は比較的似ている。戸門、大釈迦産黒曜石の産出量は非常に少なく、希に石鏃が作れる大きさのも

のがみられるが、鷹森山群は鷹森山麓の成田地区産出の黒曜石で中には５㎝大のものもみられる。

また、考古学者の話題になる下湯川産黒曜石についても原石群を作った。産地分析は、日本、近隣国を含めた産地の合計317個の原石群・遺物群と比較し、必要条件と十分条件を求めて遺物の原石産地を同定する。

結果と考察

遺跡から出土した黒曜石製石器、石片は風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。縄文時代の黒曜石製遺物は表面から約３ミクロン程度の厚さで風化層ができており、分析はこの風化層を通して遺物の内部の新鮮面をいかに多く測定するかが重要である。蛍光Ｘ線分析法の中の電子線励起方式のEPMA 分析は表面の分析面積１～数百ミクロン分析されているが、深さ約１ミクロンの風化層しか分析を行っていないために、得られた結果は原石で求めた新鮮面のマトリックスと全く異なった可能性の風化層のみの分析結果になる。このため黒曜石遺物は破壊して新鮮面を出して分析する必要がある。非破壊分析された黒曜石製遺物のEPMA 測定された産地分析結果は全く信用できないＸ線励起（50KeV）でマトリックスをシリカとしてモデル計算を行うと、表面から、カリウム元素など軽元素で数ミクロンから10ミクロン、鉄元素で約300ミクロン、ジルコニウムで約800ミクロンの深さまで分析され、鉄元素より重い元素では風化層の影響は相当無視できると思われる。風化層以外に表面に固着した汚染物が超音波洗浄でも除去できないときはその影響を受ける。また、被熱黒曜石の風化層は厚く、表面ひび割れ層に汚染物が入り込んでいるときも分析値に大きく影響する。風化層が厚い場合、軽い元素の分析ほど表面分析になるため、水和層の影響を受けやすいと考えられ、Ca／Ｋ、Ti／Ｋの両軽元素比量を除いて産地分析を行なう。軽元素比を除いて場合、また除かずに産地分析を行った場合、いずれの場合にも同定される産地は同じである。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやや不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。一方、安山岩製石器、石片は、黒曜石製遺物に比べて風化の進行が早く、非破壊で原石産地が特定される確率は黒曜石製遺物に比べて相当低くなる。サヌカイト製は風化の進行が早く完全非破棄分析での産地分析ができる確率は黒曜石に比べて相当低くなる。サヌカイト製遺物の表面が白っぽく変色し部分は新鮮な部分と異なった元素組成になっていると考えられる。このため遺物の測定面の風化した部分に、圧縮空気によってアルミナ粉末を吹きつけ風化層を取り除き新鮮面を出して測定を行なっている。今回分析した館野６遺跡出土の黒曜石製遺物の分析はセイコーインスツルメンツ社のSEA2110Ｌシリーズ卓上型蛍光Ｘ線分析計で行い分析結果を表５に示した。

石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためRb／Zrの一変量だけを考えると、表５の試料番号109704番の遺物ではRb／Zrの値は1.361であり、赤石山群に比較すると、赤石山群の［平均値］±［標準偏差値］は、1.340±0.059である。遺物と原石群の差を赤石山群の標準偏差値（σ）を基準にして考えると遺物は原石群の平均値から0.36σ離れている。ところで赤石山群原産地から100個の原石を採取し分析すると、平均値から±0.36σのずれより大きいものが72個ある。すなわち、この遺物が赤石山群の原石から作られていたと仮定しても、0.36σ以上離れる確率は72％であると言える。だから、赤石山群の平均値から0.36σしか離れていないときには、この遺物が赤石山群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。次にこの遺物を赤井川第１群に比較すると、赤井川第１群の［平均値］±［標準偏差値］は、0.969±0.060であるので上記と同様に赤井川第１群群の標準偏差値（σ）を基準にして考えると、こ

の遺物の赤井川第１群の平均値からの隔たりは6.5σである。これを確率の言葉で表現すると、赤井川第１群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から6.5σ以上離れている確率は、百万分の一であると言える。このように、百万個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、赤井川第１群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は赤石山群に72%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから赤石山産原石が使用されていると同定され、さらに赤井川第１群に１／10,000%の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%に満たないことから赤井川第１群の原石でないと同定される」。遺物が一ヶ所の産地（赤石山産地）と一致したからと言って、例え赤石山群と赤井川第１群の原石は成分が異なっていても、分析している試料は原石でなく遺物であり、さらに分析誤差が大きくなる不定形（非破壊分析）であることから他の産地に一致しないとは言えない。また同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地（赤石山産地）に一致し必要条件を満足したと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表１の317個すべての原石群・遺物群について行ない十分条件を求め、低い確率で帰属された原石群の原石は使用していないとして可能性を消していくことにより、はじめて赤石山産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はRb／Zrといった唯１つの変量だけでなく、前述した８つの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならない。例えば、Ａ原産地のＡ群でＣａ元素とRb元素との間に相関がありCaの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、Ａ群の石材で作られた遺物であれば、Ａ群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少しずれている場合には、この試料はＡ群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのＴ２乗検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて産地を同定する[4,5]。産地の同定結果は１個の遺物に対して、黒曜石製のものについては317個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略しているが、本研究ではこれら産地の可能性が非常に低いことを確認したという非常に重要な意味を含んでいる。すなわち赤石山産原石と判定された遺物に対して、カムチャッカ産原石とかロシア、北朝鮮の遺跡で使用されている原石および信州和田峠産の原石の可能性を考える必要がないという結果であり、ここでは高い確率で同定された産地のみの結果を表Ⅳ－13に記入した。風化の程度の差はあるものの風化していない遺物はなく、遺物を分析して原石産地が同定されない場合は、１：風化の影響で分析値が変動し、新鮮面と分析値が大きくことなったとき。２：遺物の厚さが薄く、厚さの影響が分析値に現れたとき。３：未発見の原石産地の原石が使用されているときなど。風化の影響を受けている遺物の黒曜石は光沢なく表面が雲っていて、分析するとカリウムの分析値が大きく分析される。風化の影響が少ないときは軽元素比を抜くことにより同定が行える。風化が激しく、軽元素以外の他の元素まで風化の影響がおよぶと、遺物の産地は同定できなくなり、また、新鮮面分析と異なった原石産地に同定されることがあり注意が必要である。原石群を作った原石試料は直径３㎝以上で５㎜以上の厚さであるが、細石刃などの小さな遺物試料の分析では、遺物の厚さが1.5㎜以下の薄い部分を含んで分析すると、厚さの影響を受けて、重い元素は小さく測定され、分析値には大きな誤差範囲が含まれるために、分析値に実験で求めた厚さ補正値を乗じて同定を行わなければならない。分析平均厚さが0.3㎜以下になると補正が困難になり同定できない。細石刃は厚さが薄く、縄文時代の遺物より風化の進んだ遺物もあり、厚さ補正と軽元素を抜いて同定を行っている。

蛍光X線分析では、分析試料の風化による化学的変化（カリウムが大きく観測される）、表面が削られる物理的変化、不定形の小試料では薄い部分を完全に避けて分析できないとき、分析面が遺物の極端な曲面しか分析できない場合など、分析値に影響が残り、また、装置による分析誤差も加わり、分析値は変動し判定結果は一定しない。特に元素比組成の似た原産地同士では区別が困難で、遺物の原石産地が原石・遺物群の複数の原石産地に同定されるとき、および、信頼限界の0.1％の判定境界に位置する場合は、分析場所を変えて３～12回分析し最も多くの回数同定された産地を判定の欄に記している。風化、厚さ、不定形など比較原石群分析とは異なる誤差が遺物の分析値に含まれるために、産地分析では、一致する産地（必要条件）の結果だけでは信頼性が小さく、他の産地には一致しない（十分条件）ことを満足しなければならない。また、判定結果には推定確率が求められているために、先史時代の交流を推測するときに、低確率（１％以下）の遺物はあまり重要に考えないなど、考古学者が推定確率をみて選択できるために、誤った先史時代交流を推測する可能性がない。

ホテリングのＴ２乗検定の定量的な同定結果から、石材の成分組成以外の各産地特有の原石の特徴を考慮して遺物の原石産地判定を行うとき、石材の成分組成以外の鉱物組成などの特徴を肉眼観察で求めた場合、キラキラ光る鉱物が多い、少ない、また輝石か、雲母かなど個人的な知識、経験などの主観が加わり判定される。白滝地域産黒曜石の中で、赤石山産原石の割れ面はガラス光沢を持っているが、元素組成が相互に似たあじさい滝、八号沢、白土沢、幌加沢、十勝石川沢などの群の原石は、あじさい滝、幌加沢産はガラス光沢を示し、八号沢、白土沢、十勝石沢川産は梨肌を示すため、原石産地の判定に梨肌か、梨肌でないかを指標に加えた。また、赤井川および十勝産、上阿寒礫層産原石を使用した遺物の判定は複雑になる場合がある。これは青森市戸門、鷹森山地区、青森市浪岡大釈迦より産出する黒曜石で作られた戸門第１、鷹森山、大釈迦の各群の元素組成が赤井川第１、２群、十勝三股群、上阿寒礫層群に比較的似ているために、遺物独特の風化の影響、不定形による影響を受けた分析値は、分析値への受け方の程度により戸門原産地と赤井川または十勝・上阿寒礫層産地、これら複数の原産地に同時に同定される場合がしばしば見られる。十勝三股群、上阿寒礫層群、赤井川諸群、大釈迦群、戸門第１群、鷹森山群に同定された遺物を定量的に弁別する目的で、元素比の組み合わせを探し、新たに、K／Si、Fe／Zr、Sr／Zr、Y／Zr、Sr／Rb、Y／Rb、Ti／Fe、Si／Feの組み合わせによるホテリングのＴ２乗検定を行う。また、従来の元素比の組み合わせで同定されなかった原石・遺物群は十分条件となる。従って、判定の必要条件と十分条件は新元素比と従来元素比の両ホテリングのＴ２乗検定結果の組み合わせで判定する。また、戸門産地の原石が使用されたか否かは、一遺跡で多数の遺物を分析し戸門第１群と第２群に同定される頻度を求め、これを戸門産地における第１群（50％）と第２群（50％）の産出頻度と比較し戸門産地の原石である可能性を推定する。多数分析した遺物のなかに全く戸門第２群に帰属される遺物が見られないときは、戸門産地からの原石は使用されなかったと推測できる。また青森市浪岡大釈迦産原石は非常に小さい原石が多く使用された可能性は低いと思われる。新たな元素比の組み合わせでも、十勝三股群と上阿寒礫層群は区別ができず、上阿寒礫層群の原石は最大3.5㎝以下のローリング痕のない円礫で、遺物の大きさが3.5㎝以上の場合十勝産と特定できる。また石器作成にロスする原石長さを考えると、かなり小さな石器でも上阿寒礫層群の原石は使用できない可能性があるなど、元素分析以外の情報をも取り入れて原石産地を絞り込んでいる。分析した北斗市館野６遺跡出土黒曜石製遺物４個のホテリングのＴ２乗検定結果から、各産地の使用個数と使用頻度は赤石山産が１個（25％）、赤井川産が２個（50％）、出来島産が１個（25％）であった。遺物の原石が露頭で採取されたか、河川で採取されたかの判定は、遺物に原石の自然面が残る場合は円礫は河川採取で、角礫は露頭採取と判断する。赤石山、八号沢・白土沢、あ

じさい滝、幌加沢群、ケショマップ第２群に一致する元素組成の原石は白滝地域、ケショマップ産地以外に湧別川下流域でも円礫状で原石が採取される（表Ⅳ－９）。また、所山群、置戸山群、ケショマップ第１群、ケショマップ第２群、常呂川第２群、常呂川第３群、常呂川第４群、常呂川第５群、常呂川第６群、十勝群、台場第２群、割れ面が梨肌の親指大の八号沢群に一致する元素組成の円礫状の原石が北見・常呂川流域で採取される（表Ⅳ－10）。ナナブチ川からは社名淵群、赤石山群、八号沢・白土沢群に一致する原石が採取される（表Ⅳ－11）。白滝地域、置戸地域、留辺蘂・ケショマップ地域の露頭産か、また湧別川下流域、常呂川流域、ナナブチ川産の何れかの産地から伝播したかを推測するには、多数の遺物を分析して、各産地群に同定される頻度を求め、湧別川、常呂川採取黒曜石原石の頻度分布と比較して決定されるが、今回分析した遺物の個数が少なく、河川採取の可能性を推測することが出来なかった。分析番号109707番には円礫状の自然面が見られ、残された円礫曲面から原石の大きさを推測すると50㎜以上の大きさが推測されることから、出来島海岸の礫層の中の原石が伝播した可能性を推測した。今回分析した結果の中で同定された（必要条件を満たした産地）、赤石山、赤井川、出来島産地地域との生活、文化情報の交換があったと推測し、また同定されなかった（十分条件）産地地域と交流がなかったと推測しても、産地分析の結果と矛盾しない。

参考文献

１）藁科哲男・東村武信（1975）、蛍光Ｘ線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定（Ⅱ）。考古学と自然科学、８：61－69
２）藁科哲男・東村武信・鎌木義昌（1977）、（1978）、蛍光Ｘ線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定（Ⅲ）。（Ⅳ）。考古学と自然科学、10、11：53－81：33－47
３）藁科哲男・東村武信（1983）、石器原材の産地分析。考古学と自然科学、16：59－89
４）東村武信（1976）、産地推定における統計の手法。考古学と自然科学、９：77－90
５）東村武信（1990）、考古学と物理化学。学生社

表Ⅳ－5　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地原石群名		分析個数	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	第一主成分 Rb/Zr	Sr/Zr	第二主成分 Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
	名倉第1群	114	0.478±0.011	0.121±0.005	0.035±0.007	2.011±0.065	0.614±0.032	0.574±0.022	0.130±0.017	0.024±0.016	0.033±0.002	0.434±0.001
	名倉第2群	35	0.309±0.015	0.103±0.005	0.021±0.006	1.776±0.055	0.696±0.044	0.265±0.011	0.301±0.022	0.020±0.020	0.028±0.007	0.394±0.003
	黒滝　名倉暗川	45	0.306±0.009	0.100±0.005	0.023±0.002	1.765±0.037	0.705±0.020	0.256±0.004	0.305±0.020	0.025±0.006	0.028±0.001	0.395±0.007
白滝周辺	赤石沢	130	0.473±0.004	0.064±0.003	0.079±0.013	2.714±0.142	1.340±0.039	0.283±0.009	0.341±0.030	0.075±0.026	0.038±0.002	0.374±0.006
	行者沢	27	0.438±0.004	0.023±0.002	0.102±0.015	3.069±0.181	1.835±0.088	0.097±0.016	0.492±0.039	0.107±0.019	0.027±0.002	0.368±0.006
	十勝石沢川	48	0.437±0.003	0.023±0.002	0.103±0.013	3.013±0.128	1.847±0.072	0.079±0.026	0.481±0.026	0.103±0.020	0.027±0.001	0.362±0.007
	八号沢	30	0.138±0.009	0.022±0.002	0.105±0.017	3.123±0.127	1.846±0.065	0.105±0.019	0.475±0.045	0.076±0.046	0.027±0.002	0.359±0.042
	柳加沢	48	0.139±0.002	0.023±0.003	0.099±0.007	2.975±0.172	1.794±0.111	0.104±0.017	0.470±0.034	0.103±0.040	0.027±0.001	0.369±0.009
	あ　こ　ら　沢	34	0.139±0.003	0.023±0.003	0.099±0.007	2.970±0.124	1.792±0.108	0.102±0.036	0.472±0.028	0.086±0.040	0.027±0.001	0.364±0.007
	野宿沢	48	0.136±0.002	0.040±0.005	0.076±0.004	2.546±0.121	1.405±0.060	0.124±0.018	0.373±0.018	0.076±0.022	0.036±0.001	0.358±0.008
	五丈沢第1群	30	0.819±0.013	0.165±0.006	0.061±0.010	1.266±0.117	0.644±0.031	0.941±0.030	0.165±0.030	0.039±0.016	0.039±0.006	0.437±0.008
	五丈沢第2群	107	0.817±0.011	0.099±0.005	0.040±0.006	1.273±0.067	0.612±0.027	0.848±0.024	0.107±0.024	0.041±0.015	0.037±0.002	0.442±0.009
	五丈沢第3群	47	0.529±0.014	0.096±0.008	0.068±0.048	2.746±0.282	0.838±0.100	0.796±0.081	0.220±0.043	0.035±0.021	0.036±0.006	0.413±0.014
	白幡第1群	50	1.036±0.052	0.142±0.005	0.072±0.011	2.912±0.117	0.291±0.020	0.678±0.036	0.126±0.022	0.022±0.012	0.049±0.006	0.517±0.014
	白幡第2群	45	0.452±0.005	0.122±0.026	0.075±0.010	2.026±0.108	0.786±0.034	0.843±0.056	0.252±0.015	0.027±0.014	0.028±0.002	0.416±0.023
	秩父第第1群	51	0.249±0.017	0.122±0.006	0.079±0.011	1.644±0.068	0.995±0.037	0.458±0.023	0.235±0.024	0.023±0.021	0.032±0.006	0.334±0.015
	秩父第第2群	48	0.249±0.016	0.097±0.005	0.065±0.016	2.205±0.125	0.814±0.034	0.789±0.043	0.284±0.025	0.032±0.016	0.037±0.003	0.417±0.016
	諏訪第1群	35	0.253±0.008	0.127±0.006	0.077±0.009	1.624±0.090	1.017±0.045	0.459±0.025	0.235±0.029	0.038±0.018	0.035±0.002	0.379±0.023
	諏訪第2群	40	0.522±0.016	0.101±0.010	0.068±0.019	2.753±0.140	0.809±0.055	0.783±0.064	0.201±0.030	0.040±0.019	0.036±0.003	0.419±0.014
	星印原第1群	94	0.298±0.006	0.128±0.005	0.017±0.001	1.304±0.032	0.422±0.012	0.153±0.009	0.138±0.007	0.008±0.003	0.025±0.001	0.425±0.011
	星印原第2群	50	0.275±0.011	0.128±0.008	0.018±0.001	1.349±0.037	0.413±0.013	0.167±0.010	0.137±0.006	0.008±0.003	0.025±0.001	0.429±0.009
	竹矢洞第	41	0.340±0.018	0.105±0.009	0.054±0.003	2.140±0.106	0.676±0.022	0.407±0.040	0.223±0.007	0.052±0.041	0.025±0.001	0.429±0.009
	竹矢洞－2群	46	0.284±0.004	0.077±0.003	0.025±0.001	1.629±0.030	0.721±0.019	0.234±0.013	0.313±0.009	0.013±0.009	0.031±0.006	0.382±0.005
	置戸一河合	65	0.126±0.008	0.128±0.005	0.016±0.002	1.811±0.050	0.924±0.034	0.438±0.020	0.179±0.023	0.041±0.020	0.027±0.002	0.547±0.021
	所山・武蔵石中	52	0.272±0.006	0.095±0.005	0.041±0.002	1.738±0.070	0.947±0.016	0.429±0.016	0.201±0.015	0.017±0.026	0.028±0.001	0.391±0.006
	置戸・置戸山	58	0.464±0.016	0.138±0.005	0.069±0.008	1.728±0.072	0.449±0.024	0.407±0.023	0.133±0.019	0.036±0.034	0.032±0.003	0.456±0.030
	置戸・中里	44	0.456±0.017	0.134±0.005	0.067±0.011	1.809±0.051	0.475±0.024	0.400±0.023	0.149±0.013	0.030±0.018	0.031±0.003	0.459±0.021
	置戸・宝住第1群	48	0.392±0.025	0.138±0.023	0.031±0.006	1.562±0.121	0.381±0.011	0.241±0.012	0.161±0.007	0.025±0.009	0.031±0.001	0.395±0.012
	北見・東北用第2群	48	0.154±0.023	0.145±0.009	0.037±0.002	1.705±0.061	0.378±0.046	0.423±0.022	0.115±0.008	0.033±0.017	0.039±0.002	0.439±0.029
	北見・東北用第3群	48	0.180±0.011	0.137±0.006	0.030±0.006	1.549±0.059	0.372±0.018	0.258±0.014	0.179±0.019	0.029±0.015	0.033±0.006	0.414±0.011
	北見・東北用第4群	30	0.207±0.017	0.109±0.005	0.042±0.002	1.842±0.076	0.807±0.041	0.445±0.029	0.192±0.033	0.035±0.017	0.031±0.005	0.382±0.013
	北見・東北用第5群	51	0.470±0.034	0.146±0.013	0.044±0.004	1.932±0.161	0.503±0.045	0.459±0.060	0.153±0.012	0.043±0.029	0.034±0.003	0.448±0.034
	北見・東北用第6群	48	0.461±0.006	0.258±0.006	0.045±0.001	2.367±0.032	0.490±0.010	0.706±0.014	0.116±0.006	0.029±0.015	0.033±0.001	0.428±0.008
	北見・東北用第7群	48	0.520±0.017	0.098±0.004	0.067±0.002	2.967±0.036	0.529±0.013	0.668±0.016	0.154±0.006	0.064±0.006	0.036±0.001	0.413±0.011
	北見・東北用第8群	48	0.238±0.005	0.113±0.004	0.027±0.001	1.799±0.033	0.682±0.013	0.273±0.013	0.214±0.006	0.023±0.006	0.026±0.001	0.352±0.005
	ケショマップ第1群	68	0.575±0.006	0.130±0.011	0.054±0.011	2.555±0.086	0.595±0.058	0.636±0.022	0.167±0.027	0.037±0.020	0.030±0.003	0.397±0.043
	ケショマップ第2群	65	0.626±0.011	0.145±0.005	0.076±0.004	2.631±0.126	0.496±0.030	0.712±0.032	0.170±0.028	0.034±0.020	0.031±0.002	0.396±0.009
	ケショマップ第3群	46	0.772±0.039	0.178±0.007	0.093±0.003	2.569±0.073	0.521±0.023	0.730±0.023	0.150±0.008	0.032±0.006	0.032±0.003	0.396±0.009
	十勝一覧	60	0.256±0.018	0.074±0.005	0.060±0.010	2.283±0.067	1.097±0.035	0.434±0.023	0.334±0.029	0.064±0.025	0.029±0.002	0.396±0.013
	佐倉第1群	41	0.066±0.015	0.052±0.010	0.022±0.003	1.375±0.064	0.862±0.061	0.707±0.044	0.199±0.029	0.015±0.007	0.031±0.005	0.442±0.013
	佐倉第2群	28	0.593±0.006	0.141±0.012	0.056±0.016	3.028±0.251	0.782±0.040	0.764±0.061	0.197±0.026	0.038±0.022	0.034±0.002	0.449±0.009
	上見原	44	2.930±0.683	1.245±0.284	0.210±0.048	10.582±1.176	0.126±0.026	1.602±0.117	0.180±0.013	0.025±0.012	0.065±0.030	0.420±0.103
	荷物原第1群	48	0.406±0.014	0.208±0.009	0.051±0.002	2.420±0.038	0.415±0.014	0.773±0.018	0.148±0.007	0.010±0.011	0.030±0.001	0.428±0.009
	茅原第1群	145	0.258±0.006	0.074±0.004	0.068±0.003	2.332±0.079	1.003±0.039	0.431±0.021	0.353±0.016	0.062±0.021	0.029±0.003	0.396±0.008
	茅原第第2群	48	0.254±0.007	0.062±0.003	0.070±0.005	2.325±0.111	1.143±0.090	0.432±0.025	0.346±0.028	0.090±0.028	0.025±0.001	0.368±0.009
	湯倉・相生	48	0.306±0.009	0.127±0.024	0.025±0.002	1.178±0.121	0.154±0.012	1.625±0.016	0.177±0.012	0.023±0.013	0.067±0.008	0.525±0.074
	鋼路原湯	46	2.969±0.402	1.260±0.185	0.222±0.096	12.161±1.357	0.158±0.013	1.727±0.053	0.180±0.016	0.028±0.014	0.063±0.006	0.398±0.058
	鋼路・上河原鋼路	44	0.254±0.009	0.074±0.003	0.069±0.007	2.214±0.084	1.117±0.062	0.428±0.025	0.341±0.031	0.077±0.019	0.029±0.006	0.392±0.011
	鋼路・久美沢川	30	1.064±0.040	0.566±0.027	0.205±0.008	7.505±0.194	0.196±0.009	0.898±0.034	0.312±0.008	0.042±0.006	0.044±0.002	0.404±0.022
	赤井川第1群	50	0.254±0.029	0.070±0.004	0.086±0.010	2.213±0.116	0.989±0.060	0.438±0.021	0.249±0.024	0.058±0.023	0.027±0.002	0.371±0.008
	赤井川第2群	30	0.258±0.065	0.072±0.002	0.080±0.030	2.207±0.085	0.970±0.045	0.436±0.026	0.245±0.021	0.023±0.029	0.025±0.007	0.371±0.007
	豊泉第1群	75	0.072±0.009	0.148±0.007	0.060±0.003	1.764±0.076	0.436±0.027	0.607±0.028	0.172±0.020	0.032±0.020	0.032±0.002	0.411±0.012
	豊泉第2群	40	0.077±0.009	0.133±0.006	0.055±0.008	1.723±0.066	0.436±0.019	0.513±0.018	0.177±0.016	0.007±0.015	0.030±0.005	0.431±0.016
	恵比寿・鹿内用	58	0.285±0.028	0.087±0.005	0.103±0.032	1.834±0.182	2.063±0.224	1.475±0.207	0.289±0.066	0.085±0.031	0.031±0.004	0.347±0.043
	鹿内	35	0.284±0.015	0.075±0.003	0.100±0.008	1.575±0.064	2.181±0.036	0.748±0.036	0.118±0.014	0.144±0.035	0.034±0.002	0.442±0.013
	白滝高	27	0.346±0.022	0.132±0.007	0.231±0.019	2.268±0.065	0.805±0.044	1.106±0.056	0.399±0.038	0.179±0.031	0.038±0.003	0.499±0.013
諏訪	六角沢	36	0.080±0.008	0.087±0.011	0.033±0.002	0.697±0.021	0.128±0.008	0.002±0.002	0.064±0.007	0.035±0.004	0.026±0.002	0.379±0.009
	小倉山	41	0.027±0.005	0.098±0.005	0.033±0.002	0.703±0.018	0.134±0.006	0.002±0.002	0.070±0.005	0.034±0.006	0.027±0.002	0.368±0.009
青森県	戸門第1群	28	0.230±0.024	0.069±0.003	0.068±0.042	2.338±0.257	1.168±0.062	0.321±0.063	0.277±0.065	0.076±0.025	0.036±0.002	0.362±0.015
青森県	戸門第2群	28	0.086±0.006	0.104±0.004	0.033±0.002	0.691±0.021	0.123±0.006	0.002±0.002	0.069±0.010	0.033±0.005	0.025±0.002	0.369±0.007
	横戸・蛇平	30	0.104±0.017	0.132±0.007	0.252±0.025	2.264±0.143	0.864±0.052	1.081±0.060	0.360±0.039	0.186±0.037	0.033±0.002	0.406±0.019
	鷹森山	45	0.230±0.009	0.066±0.003	0.074±0.009	2.547±0.131	1.153±0.066	0.351±0.031	0.284±0.031	0.049±0.037	0.028±0.005	0.381±0.016
	西山沢	52	0.250±0.006	0.066±0.003	0.072±0.003	2.445±0.063	1.121±0.032	0.339±0.025	0.239±0.025	0.060±0.026	0.029±0.003	0.381±0.006
秋田県	下掵川	36	0.253±0.478	2.703±5.149	3.267±6.217	21.646±1.500	0.090±0.021	1.706±0.182	0.156±0.015	0.109±0.031	0.053±0.002	0.460±0.014
	大釈洞	64	0.252±0.012	0.066±0.003	0.074±0.002	2.536±0.148	1.149±0.063	0.348±0.035	0.284±0.022	0.044±0.035	0.028±0.002	0.383±0.009
	男女	43	8.800±0.243	2.484±0.055	0.164±0.009	2.509±0.336	0.068±0.014	1.621±0.063	0.284±0.022	0.027±0.014	0.124±0.034	0.490±0.004
山形県	小赤沢	43	0.295±0.009	0.087±0.004	0.120±0.008	1.644±0.081	1.495±0.081	0.930±0.043	0.287±0.036	0.098±0.040	0.029±0.002	0.406±0.008
	猫本	45	0.285±0.008	0.087±0.004	0.219±0.017	1.671±0.077	1.503±0.072	0.939±0.054	0.286±0.045	0.108±0.034	0.028±0.006	0.367±0.008
	月山	44	0.285±0.023	0.123±0.007	0.182±0.016	1.806±0.096	0.986±0.069	1.022±0.071	0.276±0.036	0.139±0.033	0.033±0.002	0.443±0.004
	鳥海山	45	0.285±0.008	0.123±0.005	0.049±0.007	1.806±0.056	0.985±0.025	0.441±0.023	0.212±0.020	0.036±0.015	0.033±0.003	0.460±0.010
	雫石	25	0.436±0.013	0.087±0.012	0.052±0.007	1.764±0.061	0.305±0.016	0.431±0.023	0.209±0.016	0.045±0.014	0.041±0.003	0.594±0.004
岩手県	折壁第1群	37	0.632±0.033	0.085±0.013	0.052±0.002	1.766±0.068	0.302±0.037	0.420±0.026	0.205±0.015	0.039±0.016	0.040±0.001	0.579±0.009
	折壁第2群	34	0.598±0.033	0.143±0.008	0.061±0.003	1.826±0.064	0.179±0.010	0.246±0.022	0.416±0.032	0.121±0.014	0.037±0.003	0.601±0.011
	北倉	29	0.602±0.064	0.175±0.035	0.033±0.003	1.781±0.068	0.313±0.020	0.416±0.027	0.214±0.013	0.036±0.036	0.040±0.002	0.576±0.027
宮城県	南倉	21	2.174±0.068	0.349±0.027	0.057±0.005	2.544±0.149	0.116±0.009	0.656±0.024	0.138±0.015	0.020±0.013	0.023±0.002	0.956±0.040
	上多賀	34	1.329±0.078	0.286±0.038	0.178±0.027	11.362±1.167	0.068±0.004	1.208±0.063	0.133±0.016	0.027±0.018	0.027±0.003	0.856±0.024
栃木県	高原山	40	0.238±0.067	0.200±0.010	0.044±0.007	2.036±0.110	0.381±0.025	0.502±0.028	0.190±0.017	0.053±0.014	0.036±0.002	0.536±0.014
	神津島第1群	56	0.261±0.014	0.136±0.005	0.102±0.011	1.729±0.079	0.471±0.027	0.680±0.027	0.247±0.021	0.090±0.026	0.036±0.003	0.504±0.012
東京都	神津島第2群	43	0.228±0.017	0.136±0.005	0.114±0.005	1.633±0.079	0.452±0.024	0.656±0.044	0.303±0.029	0.107±0.029	0.032±0.004	0.353±0.012
	長根	40	0.338±0.020	0.120±0.005	0.118±0.014	1.885±0.096	0.614±0.036	0.664±0.045	0.291±0.029	0.095±0.039	0.034±0.006	0.476±0.012
神奈川県	箱根・芦尾	30	0.765±0.256	2.239±0.072	0.238±0.019	9.262±0.622	0.048±0.017	1.757±0.061	0.252±0.017	0.035±0.019	0.140±0.006	1.528±0.046
	箱根・蛍原	43	0.266±0.064	0.609±0.019	0.076±0.007	2.912±0.104	0.062±0.007	0.680±0.029	0.202±0.011	0.041±0.010	0.080±0.005	1.126±0.038
	霧島湯	31	1.663±0.071	0.361±0.039	0.056±0.007	2.139±0.067	0.073±0.008	0.629±0.025	0.154±0.009	0.081±0.009	0.067±0.005	0.904±0.028
鹿児島	九州高原	52	2.225±0.149	0.506±0.035	0.042±0.009	2.228±0.164	0.085±0.008	0.737±0.029	0.135±0.013	0.007±0.007	0.071±0.006	0.880±0.052
	上多賀	34	1.329±0.078	0.286±0.038	0.042±0.006	1.697±0.068	0.087±0.009	0.554±0.023	0.138±0.011	0.020±0.009	0.064±0.004	0.856±0.024
静岡県	柏崎西	35	1.213±0.164	0.314±0.028	0.031±0.004	1.699±0.167	0.113±0.007	0.391±0.022	0.143±0.007	0.009±0.009	0.047±0.004	0.663±0.025
	小豆島	40	0.110±0.008	0.052±0.004	0.207±0.038	3.211±0.319	0.829±0.089	0.154±0.030	0.547±0.054	0.087±0.057	0.025±0.004	0.429±0.016
香川県	色部	42	0.228±0.012	0.065±0.003	0.064±0.003	2.033±0.119	0.828±0.052	0.599±0.030	0.190±0.029	0.077±0.023	0.032±0.004	0.352±0.012
	上田原第1群	36	0.339±0.017	0.113±0.006	0.060±0.006	1.739±0.080	0.749±0.052	0.605±0.029	0.121±0.026	0.047±0.031	0.035±0.004	0.392±0.018
	上田原第2群	40	0.730±0.017	0.202±0.008	0.056±0.011	1.998±0.152	0.413±0.028	0.840±0.039	0.138±0.025	0.051±0.031	0.030±0.020	0.590±0.024
	上田原第3群	45	0.440±0.052	0.108±0.014	0.079±0.028	2.258±0.138	0.784±0.135	0.222±0.086	0.107±0.041	0.067±0.063	0.085±0.031	0.442±0.026

表Ⅳ－６　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地黒石群名		分析個数	元素 Ca／K	Ti／K	Mn／K	Fe／K	Rb／K	Sr／K	Y／K	Nb／K	Al／K	Si／K
長野県	霧不明	16E	0.136±0.032	0.068±0.003	0.101±0.038	1.331±0.070	1.052±0.051	0.360±0.030	0.275±0.039	0.090±0.035	0.029±0.007	0.346±0.011
	鷲原沢	35	0.139±0.030	0.066±0.003	0.100±0.039	1.324±0.066	1.055±0.057	0.368±0.033	0.279±0.032	0.096±0.035	0.030±0.008	0.345±0.010
	和田峠第１層	142	0.267±0.028	0.049±0.008	0.117±0.011	1.346±0.085	1.853±0.124	0.112±0.006	0.400±0.048	0.139±0.026	0.025±0.005	0.355±0.016
	和田峠第２層	32	0.147±0.004	0.052±0.003	0.133±0.011	1.481±0.086	2.485±0.169	0.027±0.013	0.327±0.040	0.185±0.023	0.026±0.003	0.363±0.025
	和田峠第３層	51	0.267±0.042	0.064±0.032	0.114±0.014	1.509±0.118	1.667±0.135	0.275±0.007	0.352±0.046	0.122±0.024	0.025±0.003	0.347±0.017
	和田峠第４層	37	0.144±0.027	0.062±0.004	0.094±0.009	1.373±0.085	1.337±0.037	0.206±0.030	0.263±0.038	0.090±0.022	0.023±0.002	0.351±0.039
	和田峠第５層	43	0.145±0.024	0.073±0.004	0.075±0.009	1.375±0.106	1.196±0.096	0.275±0.040	0.256±0.036	0.086±0.023	0.021±0.002	0.360±0.013
	和田峠第６層	55	0.136±0.014	0.065±0.005	0.066±0.012	1.333±0.064	1.323±0.093	0.134±0.033	0.279±0.039	0.080±0.017	0.021±0.003	0.353±0.024
	鷹山・星山	55	0.128±0.004	0.062±0.002	0.122±0.010	1.259±0.036	1.856±0.062	0.045±0.010	0.442±0.030	0.222±0.020	0.026±0.003	0.360±0.013
	冷石室	101	0.223±0.021	0.049±0.003	0.036±0.008	1.164±0.078	0.993±0.101	0.400±0.048	0.126±0.022	0.052±0.037	0.032±0.007	0.354±0.008
	高松沢	53	0.206±0.017	0.090±0.003	0.064±0.008	1.237±0.069	0.830±0.077	0.332±0.034	0.149±0.026	0.096±0.042	0.032±0.002	0.348±0.006
	ハコダテ	21	0.222±0.014	0.099±0.006	0.058±0.006	1.238±0.075	0.826±0.075	0.302±0.034	0.140±0.022	0.100±0.027	0.035±0.005	0.340±0.009
	立野	49	0.130±0.007	0.068±0.003	0.102±0.008	1.320±0.027	1.023±0.063	0.302±0.030	0.283±0.035	0.104±0.060	0.030±0.003	0.350±0.011
	東洋町	67	0.224±0.017	0.136±0.013	0.034±0.003	1.207±0.099	0.827±0.058	0.256±0.030	0.140±0.024	0.043±0.017	0.031±0.003	0.363±0.013
	区子島	30	0.252±0.027	0.126±0.007	0.059±0.009	1.638±0.179	0.668±0.052	0.402±0.008	0.111±0.024	0.037±0.052	0.027±0.007	0.401±0.011
	有珠	87	0.267±0.011	0.134±0.006	0.048±0.013	1.382±0.066	0.546±0.034	0.272±0.036	0.170±0.011	0.045±0.022	0.031±0.004	0.381±0.011
	大雪沢	42	1.481±0.117	0.066±0.023	0.042±0.006	2.509±0.135	0.162±0.011	0.841±0.044	0.105±0.010	0.099±0.008	0.026±0.003	0.329±0.012
	横尾	41	3.167±0.066	1.071±0.026	0.115±0.015	7.360±0.366	0.158±0.016	0.833±0.040	0.186±0.015	0.033±0.012	0.045±0.005	0.313±0.021
	名寄盆地	32	0.147±0.008	0.059±0.003	0.029±0.006	1.462±0.078	0.743±0.047	0.288±0.018	0.162±0.020	0.031±0.006	0.024±0.004	0.359±0.009
	名寄盆２層	32	0.263±0.032	0.095±0.018	0.030±0.006	1.501±0.093	0.717±0.056	0.326±0.029	0.001±0.022	0.046±0.015	0.026±0.002	0.338±0.006
	十勝川	67	0.147±0.007	0.059±0.003	0.066±0.012	1.351±0.061	0.942±0.042	0.273±0.024	0.182±0.025	0.038±0.025	0.028±0.007	0.359±0.009
新潟県	鳥谷	41	0.232±0.011	0.068±0.003	0.189±0.017	1.179±0.130	1.272±0.098	0.172±0.046	0.374±0.067	0.154±0.034	0.037±0.003	0.359±0.008
	大江川	47	0.169±0.006	0.142±0.005	0.032±0.003	1.608±0.034	0.261±0.009	0.232±0.009	0.150±0.008	0.033±0.009	0.036±0.001	0.491±0.014
	金山	46	0.211±0.014	0.097±0.007	0.030±0.003	1.711±0.036	0.418±0.027	0.261±0.012	0.181±0.016	0.033±0.007	0.032±0.003	0.492±0.015
	岩船沢	55	0.163±0.019	0.053±0.005	0.090±0.011	1.354±0.058	1.445±0.062	0.084±0.012	0.309±0.036	0.100±0.028	0.032±0.007	0.349±0.009
石川県	上牧	48	0.159±0.012	0.066±0.003	0.060±0.011	1.360±0.031	0.839±0.021	0.534±0.026	0.172±0.014	0.052±0.016	0.032±0.003	0.350±0.008
福井県	冬師	42	0.407±0.006	0.123±0.006	0.038±0.002	1.628±0.048	0.643±0.028	0.675±0.023	0.113±0.008	0.064±0.012	0.026±0.001	0.450±0.016
	甲岩	37	0.295±0.020	0.127±0.008	0.035±0.007	1.411±0.095	0.797±0.021	0.501±0.033	0.114±0.015	0.027±0.012	0.032±0.002	0.324±0.007
長野県	香坂峠１層	40	0.226±0.015	0.062±0.005	0.045±0.007	1.463±0.064	0.863±0.054	0.265±0.032	0.097±0.023	0.024±0.012	0.024±0.002	0.347±0.008
	香坂峠２層	40	0.226±0.032	0.100±0.004	0.048±0.009	1.764±0.066	0.813±0.045	0.397±0.030	0.112±0.026	0.138±0.024	0.026±0.002	0.446±0.052
	和田峠（星糞）	48	0.146±0.006	0.059±0.003	0.102±0.011	1.367±0.041	1.171±0.040	0.237±0.021	0.144±0.020	0.088±0.016	0.028±0.002	0.359±0.009
	加工	40	0.166±0.002	0.093±0.009	0.044±0.001	1.899±0.019	0.278±0.013	0.009±0.005	0.061±0.005	0.154±0.019	0.020±0.003	0.249±0.006
島根県	隠岐	40	0.152±0.009	0.063±0.003	0.015±0.001	0.960±0.030	0.210±0.011	0.010±0.005	0.060±0.006	0.154±0.020	0.020±0.001	0.248±0.006
	久見	41	0.145±0.008	0.062±0.003	0.021±0.001	0.986±0.033	0.386±0.015	0.007±0.007	0.109±0.006	0.238±0.008	0.023±0.001	0.315±0.005
岡山県	津	48	0.268±0.009	0.078±0.003	0.077±0.018	1.927±0.130	1.721±0.113	0.808±0.060	0.244±0.051	0.085±0.036	0.031±0.004	0.367±0.009
	黒曜原１層	51	1.202±0.077	0.341±0.010	0.032±0.006	3.146±0.170	0.096±0.005	1.350±0.062	0.225±0.026	0.020±0.026	0.029±0.003	0.329±0.011
	黒曜原２層	50	1.585±0.126	0.394±0.018	0.035±0.007	2.860±0.160	0.423±0.058	1.044±0.077	0.024±0.019	0.067±0.013	0.045±0.006	0.507±0.015
	蒜山	50	0.144±0.021	0.044±0.003	0.035±0.013	1.349±0.078	0.849±0.078	0.130±0.027	0.027±0.009	0.067±0.013	0.024±0.003	0.500±0.008
	神谷・和山	51	1.186±0.067	0.343±0.008	0.038±0.012	3.202±0.163	0.707±0.061	1.386±0.088	0.029±0.025	0.073±0.021	0.044±0.005	0.500±0.014
	大梅沢黒曜１層	39	1.467±0.120	0.363±0.023	0.042±0.009	3.125±0.179	0.494±0.041	1.030±0.073	0.038±0.023	0.067±0.013	0.041±0.003	0.487±0.016
	大梅沢黒曜２層	34	1.466±0.145	1.166±0.023	0.042±0.014	3.205±0.205	0.465±0.040	1.236±0.050	0.029±0.020	0.067±0.013	0.041±0.003	0.487±0.016
福岡県	八女黒曜原	68	0.261±0.010	0.211±0.017	0.033±0.005	0.798±0.027	0.326±0.013	0.283±0.015	0.071±0.009	0.034±0.008	0.033±0.006	0.279±0.009
佐賀県	中野第１層	40	0.152±0.009	0.063±0.003	0.015±0.001	0.960±0.030	0.210±0.011	0.010±0.005	0.060±0.006	0.154±0.020	0.020±0.001	0.248±0.006
	中野第２層	40	0.345±0.007	0.104±0.003	0.027±0.006	1.338±0.029	0.455±0.017	0.207±0.014	0.089±0.016	0.059±0.014	0.026±0.004	0.338±0.008
	腰野	39	0.206±0.014	0.072±0.004	0.021±0.003	1.227±0.036	0.546±0.061	0.090±0.008	0.104±0.022	0.037±0.009	0.029±0.003	0.353±0.009
	鷹島	46	0.211±0.009	0.074±0.005	0.075±0.009	1.572±0.042	1.600±0.086	0.414±0.042	0.311±0.048	0.250±0.063	0.035±0.003	0.335±0.008
	板屋川	50	0.414±0.009	0.077±0.003	0.161±0.012	2.947±0.142	1.233±0.081	2.015±0.099	0.147±0.035	0.255±0.040	0.030±0.002	0.388±0.009
	石器原１層	40	0.125±0.004	0.120±0.005	0.092±0.008	1.170±0.114	0.022±0.022	1.170±0.114	0.022±0.022	0.071±0.026	0.031±0.003	0.500±0.008
	石器原２層	40	0.165±0.022	0.107±0.010	0.126±0.013	1.660±0.342	0.036±0.070	1.907±0.119	0.147±0.020	0.194±0.028	0.030±0.008	0.383±0.010
大分県	姫島	50	0.215±0.030	0.067±0.006	0.049±0.006	1.611±0.057	1.845±0.257	1.562±0.231	0.364±0.026	0.126±0.026	0.029±0.006	0.401±0.012
	両剣第１層	53	0.226±0.011	0.065±0.003	0.111±0.006	0.743±0.000	1.845±0.286	0.593±0.020	0.318±0.067	0.090±0.044	0.038±0.004	0.401±0.012
	★両剣第２層	50	0.849±0.064	0.143±0.010	0.186±0.016	1.355±0.063	0.610±0.095	3.017±0.459	0.142±0.090	0.289±0.056	0.034±0.010	0.427±0.015
	★両剣第３層	50	0.215±0.013	0.211±0.024	0.042±0.027	0.848±0.159	0.756±0.068	0.105±0.020	0.104±0.024	0.042±0.005	0.042±0.003	0.442±0.011
	★イ秘	50	1.059±0.143	0.240±0.030	0.120±0.043	3.598±1.020	0.035±0.106	1.000±1.062	0.118±0.068	0.092±0.036	0.044±0.004	0.449±0.058
	★姫島	50	0.206±0.061	0.155±0.013	0.040±0.027	1.397±0.128	0.912±0.106	0.206±0.027	0.117±0.040	0.104±0.040	0.040±0.003	0.367±0.020
	尾瀬	30	0.315±0.023	0.127±0.009	0.065±0.016	1.449±0.124	0.000±0.051	0.686±0.080	0.175±0.016	0.102±0.020	0.026±0.002	0.371±0.009
北海道	白滝産	50	0.206±0.041	0.059±0.006	0.006±0.006	1.500±0.204	0.011±0.011	0.526±0.053	0.007±0.007	0.133±0.024	0.032±0.003	0.370±0.010
	置戸下尾平	64	0.402±0.036	0.086±0.013	0.016±0.006	1.364±0.095	0.303±0.019	0.712±0.042	0.080±0.018	0.035±0.011	0.032±0.010	0.288±0.016
	入澤ノ沢	37	0.172±0.009	0.066±0.002	0.030±0.005	1.176±0.043	0.385±0.012	0.011±0.004	0.135±0.018	0.354±0.014	0.023±0.002	0.276±0.007
北海道	百戸瀬	30	0.206±0.007	0.095±0.005	0.033±0.006	1.174±0.035	0.309±0.012	0.013±0.005	0.129±0.014	0.376±0.025	0.023±0.003	0.275±0.008
	向山	26	0.146±0.009	0.038±0.002	0.059±0.009	1.693±0.100	1.726±0.085	0.035±0.008	0.344±0.040	0.717±0.047	0.023±0.002	0.338±0.005
	信濃	40	0.126±0.020	0.027±0.003	0.056±0.009	1.246±0.078	2.246±0.087	0.000±0.000	0.514±0.049	0.848±0.047	0.024±0.003	0.367±0.009
北海道	柏原１層	42	0.213±0.005	0.038±0.004	0.075±0.006	2.565±0.136	1.579±0.079	0.420±0.034	0.292±0.039	0.228±0.027	0.027±0.003	0.361±0.013
	柏原２層	42	0.190±0.012	0.032±0.006	0.068±0.011	2.371±0.321	1.586±0.199	0.315±0.069	0.270±0.095	0.239±0.056	0.026±0.003	0.356±0.010
	柏原３層	42	0.224±0.036	0.063±0.010	0.066±0.017	1.860±0.200	0.836±0.121	0.368±0.098	0.145±0.038	0.127±0.030	0.028±0.003	0.329±0.012
	柏原第４層	41	0.268±0.014	0.070±0.006	0.042±0.001	1.833±0.086	0.717±0.179	0.451±0.040	0.111±0.010	0.023±0.025	0.027±0.003	0.341±0.005
長崎県	星鹿	43	0.334±0.016	0.080±0.003	0.044±0.009	1.744±0.069	0.533±0.030	0.485±0.039	0.094±0.020	0.039±0.012	0.030±0.003	0.350±0.008
	中町第１層	42	0.244±0.011	0.060±0.003	0.057±0.004	1.666±0.060	0.800±0.087	0.398±0.039	0.135±0.017	0.046±0.026	0.025±0.001	0.342±0.007
	中町第２層	42	0.240±0.010	0.079±0.003	0.060±0.004	1.793±0.060	0.791±0.081	0.398±0.041	0.108±0.016	0.046±0.024	0.026±0.001	0.342±0.007
	大早第１層	50	0.202±0.012	0.039±0.004	0.076±0.018	2.628±0.214	1.695±0.146	0.403±0.060	0.319±0.073	0.233±0.051	0.030±0.003	0.342±0.016
	大早第２層	40	0.423±0.016	0.075±0.007	0.089±0.012	2.797±0.274	1.148±0.135	1.834±0.192	1.033±0.060	0.209±0.053	0.034±0.003	0.367±0.009
	大早第３層	42	0.268±0.032	0.064±0.005	0.088±0.020	1.931±0.156	0.799±0.110	0.633±0.049	0.122±0.013	0.115±0.025	0.030±0.003	0.367±0.010
	腰岳	43	0.194±0.009	0.054±0.003	0.040±0.008	1.686±0.114	0.833±0.058	0.251±0.019	0.192±0.032	0.124±0.039	0.034±0.011	0.331±0.017
	天草	75	0.179±0.007	0.054±0.002	0.041±0.003	1.737±0.036	0.822±0.036	0.181±0.024	0.232±0.020	0.133±0.024	0.033±0.004	0.331±0.008
	小値賀	30	0.337±0.023	0.127±0.005	0.063±0.007	1.441±0.070	0.611±0.052	0.703±0.044	0.175±0.239	0.077±0.017	0.031±0.002	0.330±0.007
	淵岡	30	0.261±0.016	0.214±0.007	0.034±0.002	1.790±0.033	0.326±0.012	0.278±0.023	0.069±0.012	0.031±0.009	0.031±0.003	0.243±0.008
	高森	44	0.256±0.009	0.214±0.006	0.033±0.005	1.794±0.029	0.329±0.017	0.275±0.019	0.066±0.014	0.030±0.009	0.030±0.003	0.243±0.008
	大崎	50	0.304±0.130	0.066±0.035	0.075±0.008	1.494±0.040	0.247±0.014	1.236±0.092	0.080±0.008	0.041±0.012	0.030±0.003	0.292±0.030
熊本県	冠岳第１層	50	0.211±0.008	0.211±0.008	0.032±0.003	1.794±0.033	0.326±0.012	0.278±0.023	0.069±0.012	0.031±0.009	0.031±0.003	0.243±0.008
	冠岳第２層	57	1.599±0.107	0.722±0.046	0.085±0.011	6.205±0.306	0.236±0.018	1.154±0.055	0.103±0.016	0.047±0.013	0.027±0.004	0.217±0.008
	阿蘇	40	0.179±0.007	0.279±0.009	0.045±0.005	2.598±0.126	0.279±0.018	0.811±0.046	0.066±0.012	0.029±0.012	0.032±0.004	0.300±0.009
	長崎県	53	0.668±0.165	0.104±0.006	0.086±0.010	0.977±0.087	0.205±0.015	0.335±0.104	0.098±0.016	0.060±0.008	0.031±0.003	0.295±0.012
	佐一鷹用	48	0.147±0.036	0.063±0.041	0.038±0.011	0.838±0.034	0.252±0.016	1.288±0.124	0.101±0.034	0.063±0.043	0.027±0.003	0.265±0.025
	鷹取	49	0.158±0.146	0.053±0.030	0.075±0.011	1.571±0.076	1.257±0.096	1.192±0.112	0.091±0.036	0.060±0.008	0.030±0.004	0.292±0.031
	福江	78	0.208±0.021	0.101±0.009	0.034±0.006	1.362±0.086	0.021±0.009	0.304±0.037	0.162±0.027	0.022±0.007	0.022±0.007	0.317±0.009
	佐一木津留第１層	43	0.206±0.016	0.064±0.004	0.070±0.009	1.543±0.083	0.648±0.029	0.266±0.034	0.130±0.021	0.031±0.009	0.031±0.003	0.494±0.011
	佐一木津留第２層	53	0.261±0.015	0.094±0.006	0.066±0.010	1.713±0.095	1.342±0.065	0.253±0.029	0.201±0.029	0.047±0.016	0.032±0.002	0.331±0.010
鹿児島県	黒曜	36	0.136±1.119	5.001±0.175	0.041±0.002	0.038±0.002	0.009±0.004	0.155±0.005	0.031±0.019	0.000±0.000	0.035±0.009	0.440±0.022
	開聞十字原１層	45	0.186±0.010	0.083±0.005	0.047±0.008	1.611±0.070	0.948±0.055	0.340±0.042	0.281±0.031	0.041±0.022	0.022±0.008	0.340±0.011
	開聞十字原２層	45	0.247±0.028	0.106±0.006	0.047±0.008	1.488±0.074	0.768±0.034	0.428±0.069	0.255±0.020	0.039±0.027	0.024±0.008	0.328±0.013
	開聞十字原３層	45	0.247±0.028	0.106±0.006	0.047±0.008	1.488±0.074	0.768±0.034	0.428±0.069	0.255±0.020	0.039±0.027	0.024±0.008	0.328±0.013
	川棚	42	0.262±0.028	0.142±0.006	0.022±0.004	1.178±0.040	0.742±0.028	0.608±0.025	0.100±0.018	0.029±0.013	0.029±0.003	0.273±0.006
鹿児島県	上牟礼	32	0.206±0.016	0.140±0.006	0.019±0.003	1.166±0.064	0.735±0.027	0.605±0.031	0.101±0.018	0.029±0.013	0.029±0.003	0.271±0.006
	上平尾	41	0.129±0.008	0.064±0.037	0.053±0.006	1.342±0.215	0.186±0.015	1.105±0.056	0.087±0.009	0.022±0.008	0.036±0.003	0.391±0.011
	平石海岸	34	1.064±0.054	0.952±0.028	0.062±0.005	1.975±0.182	0.184±0.011	1.266±0.049	0.093±0.010	0.021±0.010	0.038±0.003	0.408±0.011
	電子基	48	0.523±0.029	0.067±0.006	0.061±0.003	1.494±0.061	0.611±0.039	0.608±0.052	0.127±0.017	0.060±0.022	0.033±0.003	0.494±0.011
	其他	30	0.355±0.032	0.137±0.006	0.060±0.010	1.815±0.062	0.644±0.028	0.550±0.029	0.146±0.021	0.064±0.030	0.032±0.003	0.524±0.012
台湾	台東鹿野	37	0.340±0.010	0.196±0.007	0.038±0.007	1.862±0.079	0.553±0.035	0.549±0.017	0.123±0.012	0.024±0.017	0.029±0.007	0.407±0.009
ロシア	イリスタヤ川	40	0.179±1.455	6.053±0.538	0.292±0.051	12.024±4.964	0.060±0.016	2.859±0.442	0.176±0.027	0.025±0.016	0.085±0.026	1.574±0.152
	ナチキ	48	0.220±0.008	0.104±0.004	0.089±0.006	1.284±0.062	0.608±0.028	0.500±0.036	0.122±0.030	0.094±0.023	0.034±0.003	0.340±0.006
	RED LAKE－I	40	0.154±0.004	0.064±0.003	0.014±0.002	1.238±0.027	1.039±0.026	0.011±0.009	0.305±0.016	0.044±0.021	0.023±0.008	0.334±0.005
	クルビチャン川第２層	44	0.188±0.005	0.086±0.003	0.031±0.002	1.866±0.036	1.188±0.008	0.580±0.012	0.066±0.003	0.086±0.015	0.029±0.003	0.486±0.023
アラスカ	ニンディ MILE	36	0.164±0.003	0.064±0.003	0.064±0.003	1.868±0.031	1.170±0.039	0.021±0.008	0.330±0.009	0.066±0.012	0.031±0.003	0.494±0.011
北朝鮮	白頭山天池	30	0.254±0.009	0.067±0.003	0.048±0.005	1.086±0.028	0.530±0.013	0.481±0.008	0.151±0.015	0.338±0.012	0.027±0.003	0.306±0.008
ロシア	MULLIMICA	35	0.413±0.005	0.227±0.010	0.043±0.008	1.495±0.060	0.565±0.011	1.058±0.042	0.096±0.006	0.098±0.022	0.026±0.003	0.475±0.007

表Ⅳ－7　黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

	各地遺物群名	分析個数	元素比 Ca/Ｋ	Ti/Ｋ	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/Ｋ	Si/Ｋ
北海道	HS１遺物群	67	0.242±0.021	0.107±0.005	0.038±0.006	1.296±0.077	0.430±0.084	0.153±0.009	0.140±0.015	0.088±0.013	0.058±0.022	0.325±0.042
	HS２遺物群	60	0.452±0.011	0.135±0.008	0.041±0.006	1.795±0.073	0.448±0.021	0.419±0.039	0.130±0.015	0.035±0.019	0.034±0.030	0.500±0.015
	FR１遺物群	53	0.643±0.012	0.124±0.008	0.052±0.007	2.567±0.143	0.530±0.032	0.689±0.052	0.156±0.015	0.004±0.008	0.029±0.031	0.407±0.047
	FR２遺物群	59	0.535±0.061	0.106±0.012	0.053±0.009	2.543±0.138	0.557±0.051	0.685±0.029	0.165±0.021	0.086±0.022	0.027±0.009	0.373±0.043
	FR３遺物群	37	0.380±0.037	0.084±0.007	0.052±0.009	2.548±0.145	0.586±0.056	0.681±0.053	0.164±0.021	0.037±0.023	0.023±0.006	0.292±0.037
	FR４遺物群	44	0.281±0.042	0.074±0.010	0.051±0.008	2.300±0.117	0.639±0.057	0.679±0.052	0.155±0.021	0.039±0.017	0.018±0.008	0.258±0.036
	FR４遺物群	32	0.098±0.032	0.221±0.007	0.054±0.006	2.540±0.101	0.426±0.018	0.802±0.023	0.109±0.013	0.107±0.013	0.127±0.023	0.447±0.021
	KT１遺物群	56	1.103±0.050	0.346±0.027	0.081±0.008	2.942±0.133	0.314±0.053	0.775±0.082	0.133±0.016	0.039±0.021	0.043±0.007	0.516±0.025
	KT２遺物群	38	0.959±0.027	0.154±0.005	0.085±0.010	2.882±0.052	0.542±0.028	1.111±0.040	0.107±0.015	0.012±0.016	0.042±0.008	0.519±0.030
	KS１遺物群	32	0.275±0.007	0.107±0.005	0.047±0.010	1.751±0.051	0.836±0.038	0.468±0.021	0.180±0.019	0.023±0.028	0.025±0.007	0.345±0.030
	KS２遺物群	62	0.244±0.011	0.070±0.004	0.036±0.013	1.749±0.168	1.080±0.108	0.424±0.036	0.327±0.042	0.037±0.031	0.023±0.011	0.379±0.041
	KS３遺物群	48	0.164±0.009	0.041±0.002	0.086±0.013	2.566±0.126	1.462±0.057	0.182±0.019	0.389±0.042	0.092±0.028	0.024±0.002	0.327±0.025
	K10遺物群	48	0.185±0.007	0.049±0.003	0.061±0.013	2.162±0.122	1.031±0.041	0.435±0.025	0.263±0.028	0.050±0.019	0.023±0.002	0.260±0.009
青森県	ND9遺物群	54	5.445±0.122	2.303±0.074	0.207±0.024	13.422±1.113	0.151±0.018	1.839±0.134	0.207±0.022	0.007±0.011	0.069±0.006	0.622±0.021
	HY 遺物群	33	0.238±0.011	0.131±0.006	0.048±0.008	1.636±0.066	0.418±0.028	1.441±0.035	0.482±0.024	0.029±0.028	0.020±0.005	0.484±0.068
	SN１遺物群	33	0.287±0.006	0.087±0.004	0.033±0.005	1.597±0.037	0.244±0.011	0.258±0.011	0.284±0.012	0.009±0.012	0.021±0.006	0.329±0.006
	SN２遺物群	29	0.209±0.006	0.146±0.006	0.076±0.008	1.571±0.082	0.736±0.035	0.292±0.017	0.264±0.029	0.038±0.020	0.023±0.009	0.363±0.025
	SW４遺物群	45	0.267±0.005	0.147±0.003	0.085±0.004	1.900±0.075	0.942±0.033	0.480±0.024	0.253±0.014	0.166±0.017	0.024±0.003	0.344±0.024
秋田県	KN 遺物群	107	0.334±0.011	0.124±0.006	0.053±0.007	1.561±0.071	0.347±0.020	0.219±0.014	0.216±0.015	0.054±0.017	0.024±0.011	0.473±0.040
	TB 遺物群	60	0.252±0.014	0.113±0.007	0.124±0.015	1.805±0.088	0.875±0.056	0.663±0.038	0.272±0.029	0.093±0.037	0.026±0.009	0.378±0.025
	HR 遺物群	48	0.259±0.008	0.093±0.003	0.067±0.011	2.055±0.067	0.741±0.028	0.293±0.016	0.333±0.021	0.064±0.019	0.036±0.003	0.444±0.030
岩手県	AI１遺物群	43	1.519±0.028	0.277±0.030	0.038±0.006	2.849±0.053	0.207±0.030	0.526±0.017	0.251±0.013	0.009±0.012	0.058±0.017	0.929±0.024
	AI２遺物群	61	1.141±0.074	0.352±0.023	0.080±0.009	2.752±0.082	0.194±0.009	0.716±0.019	0.242±0.014	0.008±0.014	0.080±0.024	1.353±0.049
	AI３遺物群	61	0.950±0.013	0.239±0.004	0.109±0.007	3.306±0.105	0.194±0.009	0.900±0.028	0.240±0.012	0.014±0.010	0.092±0.026	1.360±0.039
	AI４遺物群	122	1.850±0.059	0.474±0.025	0.067±0.007	2.050±0.077	0.083±0.006	0.531±0.030	0.177±0.010	0.011±0.013	0.064±0.025	1.061±0.105
	AI５遺物群	122	3.187±0.092	0.696±0.027	0.101±0.009	3.787±0.108	0.114±0.010	0.802±0.026	0.241±0.012	0.006±0.012	0.091±0.020	1.234±0.052
	FS 遺物群	43	0.272±0.006	0.097±0.029	0.053±0.007	1.791±0.063	0.327±0.019	0.453±0.024	0.207±0.018	0.029±0.027	0.017±0.011	0.339±0.014
	SD 遺物群	48	2.900±0.050	0.741±0.034	0.118±0.030	3.922±0.077	0.117±0.012	0.906±0.026	0.246±0.013	0.008±0.017	0.083±0.013	1.195±0.029
	UNG2遺物群	45	2.802±0.123	0.542±0.056	0.104±0.005	3.567±0.066	0.118±0.012	0.851±0.025	0.238±0.016	0.002±0.012	0.085±0.004	1.246±0.061
新潟県	AC１遺物群	63	0.479±0.014	0.192±0.006	0.054±0.008	1.561±0.075	0.400±0.017	0.440±0.019	0.189±0.019	0.061±0.015	0.033±0.005	0.427±0.016
	AC２遺物群	46	0.251±0.007	0.086±0.003	0.112±0.013	2.061±0.076	0.904±0.035	0.406±0.020	0.409±0.024	0.108±0.023	0.036±0.003	0.426±0.007
	AC３遺物群	36	0.457±0.016	0.144±0.005	0.083±0.010	1.891±0.051	0.282±0.010	0.381±0.017	0.286±0.018	0.041±0.012	0.049±0.005	0.616±0.043
	IN１遺物群	56	0.320±0.010	0.082±0.035	0.063±0.006	2.009±0.189	0.940±0.035	0.742±0.033	0.272±0.030	0.064±0.030	0.026±0.030	0.427±0.021
	IN２遺物群	48	0.743±0.043	0.140±0.004	0.140±0.015	1.476±0.142	0.738±0.039	1.582±0.080	0.104±0.030	0.038±0.013	0.036±0.003	0.396±0.030
	IN３遺物群	45	0.341±0.053	0.089±0.026	0.089±0.026	2.037±0.204	0.867±0.030	0.736±0.053	0.170±0.030	0.057±0.025	0.027±0.005	0.426±0.018
	IN４遺物群	45	0.233±0.006	0.064±0.002	0.038±0.002	1.841±0.056	0.935±0.030	0.754±0.024	0.182±0.011	0.087±0.029	0.018±0.001	0.214±0.005
長野県	NK 遺物群	57	0.566±0.029	0.163±0.007	0.086±0.011	1.832±0.084	0.467±0.031	1.691±0.064	0.102±0.031	0.041±0.028	0.038±0.003	0.500±0.034
	UH65遺物群	48	0.308±0.018	0.118±0.005	0.040±0.010	1.646±0.100	0.811±0.039	0.562±0.030	0.138±0.031	0.087±0.030	0.036±0.005	0.426±0.022
	UH66遺物群	48	0.310±0.019	0.075±0.005	0.064±0.014	1.980±0.062	0.901±0.051	0.841±0.040	0.159±0.038	0.034±0.030	0.041±0.016	0.378±0.025
	UH53遺物群	48	0.287±0.005	0.115±0.005	0.050±0.014	1.580±0.045	0.967±0.017	0.942±0.023	0.320±0.017	0.075±0.004	0.025±0.003	0.360±0.008
	FUT13遺物群	50	0.730±0.168	0.270±0.023	0.159±0.007	4.326±0.434	0.777±0.125	1.809±0.206	0.477±0.124	0.038±0.069	0.039±0.003	1.724±0.089
島根県	矢野原鉱山産	44	0.137±0.005	0.136±0.007	0.014±0.001	0.820±0.019	0.304±0.006	0.018±0.006	0.060±0.002	0.144±0.005	0.020±0.001	0.234±0.008
	原田第遺物群	43	0.175±0.002	0.097±0.002	0.015±0.001	0.868±0.012	0.217±0.005	0.002±0.002	0.048±0.002	0.119±0.004	0.020±0.001	0.232±0.004
山口県	YM 遺物群	56	0.381±0.036	0.138±0.005	0.038±0.012	1.641±0.102	0.721±0.039	0.497±0.026	0.128±0.022	0.047±0.016	0.023±0.003	0.331±0.043
	NM 遺物群	40	0.330±0.010	0.103±0.003	0.042±0.012	1.718±0.083	1.048±0.057	0.518±0.034	0.196±0.057	0.058±0.018	0.022±0.003	0.326±0.041
	MK－１遺物群	48	0.067±0.008	0.038±0.002	0.010±0.003	0.677±0.023	0.370±0.007	0.006±0.002	0.125±0.012	0.082±0.010	0.022±0.002	0.337±0.010
	MK－２遺物群	48	0.258±0.010	0.026±0.002	0.055±0.015	1.765±0.121	1.140±0.092	0.297±0.029	0.302±0.037	0.177±0.022	0.031±0.002	0.268±0.007
大分県	1遺物群	54	0.794±0.070	0.202±0.009	0.064±0.015	1.774±0.132	0.380±0.030	1.350±0.086	0.076±0.032	0.079±0.022	0.040±0.004	0.434±0.035
宮崎県	HB１遺物群	48	0.197±0.035	0.754±0.055	0.098±0.042	2.099±0.844	0.434±0.062	0.975±0.130	0.368±0.079	0.126±0.079	0.083±0.022	0.312±0.525
	HB２遺物群	43	0.434±0.100	1.627±0.671	0.110±0.044	9.900±1.595	1.176±0.088	1.209±0.450	0.327±0.052	0.378±0.069	0.178±0.044	0.938±1.552
	UT１遺物群	46	0.297±0.013	0.102±0.005	0.059±0.010	1.638±0.094	1.012±0.056	0.736±0.039	0.168±0.027	0.034±0.028	0.024±0.011	0.390±0.014
	KU４遺物群	48	1.871±0.305	1.016±0.094	3.796±0.795	14.996±4.006	0.473±0.061	2.043±0.225	0.732±0.079	0.056±0.045	0.080±0.037	1.302±0.246
	KU１遺物群	45	0.363±0.012	0.103±0.003	0.064±0.004	1.943±0.158	0.985±0.057	0.527±0.038	0.197±0.030	0.079±0.028	0.028±0.002	0.409±0.009
	KU２遺物群	45	0.402±0.015	0.146±0.008	0.060±0.007	1.529±0.148	0.729±0.052	0.565±0.038	0.137±0.024	0.083±0.026	0.029±0.003	0.443±0.022
	KU３遺物群	48	1.565±0.154	0.557±0.045	0.074±0.011	3.748±0.495	0.284±0.018	0.783±0.064	0.106±0.021	0.025±0.011	0.047±0.006	0.499±0.021
	KU４遺物群	36	2.425±0.108	0.871±0.136	0.093±0.007	5.623±0.642	0.220±0.015	0.906±0.074	0.107±0.009	0.031±0.015	0.062±0.007	0.567±0.036
	KU５遺物群	32	0.296±0.012	0.066±0.007	0.060±0.004	1.570±0.075	1.213±0.063	0.728±0.036	0.234±0.043	0.064±0.030	0.014±0.003	0.259±0.028
	KU６遺物群	46	0.447±0.011	0.122±0.003	0.045±0.020	1.737±0.046	0.687±0.023	0.481±0.030	0.140±0.009	0.030±0.024	0.030±0.001	0.428±0.008
	KB８遺物群	48	0.655±0.009	0.151±0.009	0.026±0.005	1.515±0.020	0.332±0.011	0.340±0.011	0.102±0.005	0.051±0.014	0.032±0.003	0.431±0.007
	SG 遺物群	48	1.668±0.094	0.778±0.038	0.082±0.010	4.106±0.222	0.302±0.016	0.690±0.025	0.133±0.013	0.015±0.019	0.027±0.021	0.553±0.033
	OK 遺物群	32	1.371±0.074	0.667±0.025	0.061±0.008	3.109±0.164	0.202±0.012	0.579±0.027	0.122±0.014	0.009±0.014	0.027±0.018	0.518±0.023
鹿児島県	KK１遺物群	48	0.347±0.010	0.080±0.003	0.081±0.012	3.085±0.155	0.867±0.036	1.087±0.065	0.119±0.036	0.184±0.023	0.027±0.002	0.265±0.009
	KK２遺物群	46	0.521±0.012	0.122±0.004	0.035±0.013	1.125±0.037	0.872±0.048	1.500±0.074	0.109±0.034	0.181±0.025	0.026±0.004	0.399±0.009
	HM１遺物群	44	0.460±0.024	0.861±0.021	0.063±0.013	8.678±0.065	0.642±0.039	0.739±0.054	0.127±0.034	0.065±0.018	0.037±0.005	0.282±0.008
	HM２遺物群	50	0.485±0.022	0.123±0.006	0.054±0.004	1.975±0.122	0.695±0.040	0.454±0.034	0.194±0.028	0.058±0.028	0.034±0.006	0.474±0.016
	ON１遺物群	54	0.303±0.012	0.167±0.006	0.038±0.007	1.117±0.044	0.447±0.020	0.435±0.016	0.136±0.025	0.039±0.016	0.032±0.006	0.376±0.012
	ON２遺物群	56	0.226±0.019	0.053±0.004	0.084±0.017	2.418±0.128	1.492±0.068	0.667±0.046	0.211±0.032	0.108±0.028	0.030±0.004	0.345±0.011
	MT和島産	45	0.262±0.010	0.104±0.003	0.064±0.003	1.440±0.046	1.017±0.038	0.496±0.030	0.275±0.018	0.067±0.040	0.025±0.003	0.343±0.005
	MT和江産物群	45	0.777±0.062	0.154±0.008	0.029±0.002	1.627±0.105	0.287±0.019	0.345±0.042	0.320±0.068	0.036±0.016	0.035±0.003	0.466±0.005
	NT O－６遺物群	44	0.376±0.036	0.136±0.023	0.063±0.004	1.357±0.041	0.890±0.031	0.686±0.029	0.151±0.011	0.132±0.013	0.029±0.001	0.422±0.014
	NT R５１遺物群	36	0.440±0.009	0.146±0.038	0.043±0.002	1.738±0.075	0.666±0.019	0.475±0.019	0.134±0.007	0.051±0.019	0.028±0.001	0.385±0.036
	NT R５２遺物群	44	0.364±0.011	0.102±0.006	0.061±0.003	1.922±0.089	0.902±0.035	0.471±0.018	0.189±0.032	0.029±0.032	0.027±0.001	0.363±0.002
	NT R５３遺物群	44	0.355±0.006	0.088±0.007	0.055±0.003	1.661±0.082	0.906±0.053	0.450±0.034	0.179±0.043	0.088±0.026	0.027±0.001	0.403±0.007
	NT R５５遺物群	43	0.440±0.004	0.139±0.006	0.047±0.004	1.651±0.084	0.738±0.016	0.434±0.013	0.144±0.008	0.063±0.021	0.028±0.001	0.422±0.008

表Ⅳ－８　黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

		各地遺物群の分析解析	元素比											
			Ca／K	Ti／K	Mn／Z r	Fe／Z r	Rb／Z r	Sr／Z r	Y／Z r	Nb／Z r	Al／K	Si／K
北海道		公軍城西遺跡遺物	73	0.126±0.012	0.062±0.006	0.017±0.003	1.148±0.051	0.585±0.026	0.568±0.039	0.150±0.022	0.372±0.035	0.025±0.004	0.189±0.042
ロシア	イリムチャ遺跡	イリムチャ	26	18.888±2.101	6.088±0.868	0.293±0.032	27.993±2.608	0.055±0.017	2.716±0.162	0.103±0.019	0.036±0.030	0.173±0.029	1.634±0.240
		RMA－1遺物群	43	26.384±1.603	10.508±0.536	0.240±0.030	36.686±1.044	0.176±0.031	2.357±0.092	0.105±0.025	0.031±0.041	0.222±0.023	2.176±0.123
		RMA－3遺物群	43	20.226±1.462	8.128±0.592	0.218±0.009	24.174±0.833	0.193±0.023	2.233±0.079	0.090±0.022	0.089±0.053	0.055±0.032	1.548±0.144
		RMA－4遺物群	43	27.653±3.592	9.780±1.292	0.253±0.040	27.838±1.009	0.179±0.021	2.379±0.080	0.121±0.029	0.026±0.030	0.225±0.030	2.203±0.292
		RMA－5遺物群	43	27.586±1.836	9.965±0.667	0.250±0.030	25.522±1.037	0.189±0.029	2.287±0.098	0.111±0.029	0.033±0.029	0.219±0.035	2.177±0.157
		RO－1遺物群	43	2.124±2.767	0.472±0.614	0.244±0.040	0.106±1.109	1.140±0.026	2.132±0.096	0.136±0.022	0.023±0.023	0.092±0.030	0.904±0.224
		RO－2遺物群	43	20.655±1.403	8.379±0.622	0.214±0.009	23.337±0.721	0.176±0.027	2.219±0.075	0.097±0.019	0.057±0.041	0.056±0.031	1.554±0.108
		新冬海－1遺物群	43	16.930±1.452	7.993±0.713	0.155±0.005	18.028±0.466	0.133±0.018	2.064±0.073	0.071±0.020	0.022±0.030	0.035±0.032	1.369±0.120
		RW－1遺物群	43	16.232±1.229	7.622±0.591	0.154±0.005	17.579±0.469	0.133±0.016	2.053±0.075	0.065±0.018	0.041±0.032	0.028±0.030	1.290±0.098
		Bugapat遺物群	46	18.200±1.136	7.064±0.466	0.463±0.033	30.787±0.844	0.080±0.007	1.038±0.033	0.275±0.020	0.092±0.024	0.132±0.009	1.164±0.080
		Bolshoy遺物群	43	0.108±0.006	0.122±0.004	0.005±0.000	0.475±0.020	0.155±0.003	0.003±0.002	0.056±0.001	0.162±0.002	0.030±0.003	0.373±0.009
		コムキトリア－1遺物	47	0.340±0.008	0.160±0.003	0.113±0.005	1.382±0.065	0.219±0.017	0.504±0.028	0.190±0.012	0.109±0.031	0.036±0.030	0.440±0.013
		パリツア遺物群	45	0.260±0.019	0.081±0.007	0.019±0.002	1.198±0.106	0.726±0.078	0.007±0.028	0.228±0.036	0.056±0.015	0.035±0.003	0.342±0.045
		ブリボリコバヤ－2遺物	48	0.129±0.004	0.045±0.002	0.012±0.001	0.898±0.071	0.740±0.036	0.008±0.006	0.290±0.021	0.028±0.016	0.023±0.003	0.342±0.007
		コルチチャ－2遺物群	48	0.275±0.009	0.137±0.003	0.060±0.002	1.230±0.020	0.442±0.014	0.559±0.026	0.121±0.013	0.185±0.026	0.029±0.003	0.386±0.011
		ハラチャウンター2遺物群	45	0.296±0.050	0.068±0.008	0.003±0.002	1.181±0.037	0.192±0.020	0.025±0.013	0.392±0.014	0.038±0.025	0.030±0.003	0.293±0.007
	カムチャツカ半島	パラトウンカ－1	36	0.306±0.048	0.125±0.011	0.048±0.003	1.853±0.186	0.246±0.014	0.752±0.070	0.075±0.016	0.035±0.008	0.041±0.006	0.482±0.052
		パラトウンカ－2	40	0.717±0.018	0.269±0.006	0.031±0.006	1.604±0.043	0.119±0.007	0.398±0.016	0.005±0.008	0.016±0.006	0.031±0.003	0.402±0.010
		パラトウンカ－3	48	0.384±0.008	0.097±0.004	0.043±0.007	1.642±0.033	0.282±0.011	0.753±0.026	0.066±0.026	0.033±0.062	0.017±0.003	0.176±0.009
		パラトウンカ－4	48	0.141±0.007	0.074±0.003	0.029±0.004	1.069±0.025	0.203±0.007	0.150±0.006	0.106±0.009	0.024±0.006	0.016±0.002	0.146±0.004
		アバチャ	40	0.255±0.007	0.100±0.003	0.029±0.004	1.121±0.036	0.192±0.007	0.151±0.008	0.106±0.009	0.024±0.007	0.026±0.003	0.303±0.007
		トウコロ遺物群	45	0.467±0.009	0.262±0.005	0.043±0.002	1.528±0.047	0.186±0.015	0.490±0.019	0.118±0.011	0.030±0.013	0.032±0.003	0.448±0.020
		Ushiki V遺物群	44	0.186±0.006	0.074±0.003	0.075±0.004	1.406±0.079	0.796±0.038	0.435±0.045	0.151±0.027	0.281±0.079	0.022±0.003	0.328±0.003
		Ushiki遺物群	50	0.537±0.015	0.186±0.011	0.064±0.004	1.384±0.082	0.253±0.023	1.423±0.086	0.080±0.018	0.020±0.023	0.030±0.001	0.397±0.042
		Ushiki Ⅱ遺物群	50	0.281±0.005	0.141±0.003	0.066±0.002	1.250±0.028	0.377±0.017	0.568±0.022	0.114±0.015	0.151±0.032	0.028±0.001	0.386±0.004
	アラスカ	GULOB遺物群	40	0.167±0.017	0.074±0.003	0.035±0.002	1.438±0.039	0.975±0.037	0.215±0.023	0.220±0.018	0.139±0.036	0.023±0.001	0.327±0.005
		XMR遺物群	40	2.897±0.065	1.695±0.048	0.038±0.001	1.555±0.074	0.100±0.007	0.831±0.018	0.103±0.006	0.043±0.018	0.047±0.001	0.508±0.014
		YUK01遺物群	40	0.155±0.005	0.041±0.002	0.026±0.002	1.530±0.035	1.022±0.027	0.007±0.010	0.253±0.017	0.146±0.063	0.022±0.001	0.331±0.010
		YUK16遺物群	40	0.154±0.007	0.066±0.004	0.037±0.002	1.496±0.039	1.046±0.032	0.178±0.017	0.232±0.014	0.146±0.036	0.023±0.001	0.327±0.007
		YUK34遺物群	40	0.172±0.003	0.085±0.003	0.032±0.002	1.495±0.041	0.830±0.028	0.322±0.022	0.177±0.017	0.098±0.063	0.022±0.001	0.327±0.004
		UNL01遺物群	40	0.425±0.005	0.170±0.002	0.024±0.001	1.162±0.009	0.128±0.005	0.186±0.005	0.129±0.004	0.037±0.010	0.027±0.001	0.364±0.004
		UNR07遺物群	40	0.428±0.027	0.249±0.017	0.020±0.001	1.245±0.032	0.202±0.007	0.208±0.009	0.087±0.006	0.011±0.010	0.025±0.003	0.334±0.004
		CHA遺物群	40	0.606±0.008	0.209±0.029	0.043±0.001	1.778±0.045	0.106±0.007	0.248±0.007	0.106±0.007	0.041±0.015	0.034±0.003	0.439±0.008
		CRG遺物群	40	0.980±0.008	0.132±0.003	0.005±0.000	0.411±0.004	0.074±0.002	0.000±0.001	0.064±0.002	0.239±0.004	0.031±0.001	0.313±0.002
		MMK03遺物群	41	0.438±0.007	0.165±0.005	0.027±0.001	1.409±0.029	0.245±0.010	0.560±0.016	0.068±0.030	0.030±0.017	0.029±0.001	0.371±0.007
		MMK12遺物群	41	0.126±0.006	0.085±0.003	0.066±0.005	1.091±0.031	0.830±0.030	0.046±0.016	0.211±0.015	0.338±0.037	0.023±0.001	0.335±0.006
		HEA10遺物群	41	0.222±0.007	0.130±0.004	0.021±0.001	1.338±0.135	0.454±0.026	0.412±0.018	0.134±0.014	0.092±0.022	0.020±0.001	0.279±0.003
		HEA20遺物群	41	0.235±0.005	0.082±0.003	0.028±0.002	1.843±0.086	1.006±0.035	0.207±0.029	0.351±0.021	0.087±0.048	0.026±0.001	0.363±0.005
		KBD04遺物群	41	0.072±0.006	0.234±0.006	0.008±0.000	0.721±0.004	0.063±0.002	0.001±0.001	0.067±0.002	0.379±0.006	0.039±0.001	0.322±0.003
		KBD12遺物群	41	0.274±0.006	0.170±0.005	0.031±0.001	1.293±0.020	0.409±0.010	0.442±0.017	0.090±0.015	0.031±0.025	0.026±0.001	0.359±0.003
		KBD131遺物群	41	0.156±0.004	0.048±0.002	0.131±0.006	1.244±0.061	2.125±0.091	0.031±0.023	0.430±0.024	0.290±0.062	0.024±0.001	0.342±0.005
		NOA02遺物群	41	0.149±0.003	0.134±0.004	0.063±0.002	1.075±0.043	0.654±0.032	0.285±0.018	0.142±0.012	0.243±0.035	0.023±0.001	0.323±0.004
		NOA07遺物群	41	0.230±0.005	0.176±0.011	0.017±0.001	0.871±0.016	0.221±0.007	0.068±0.006	0.097±0.006	0.065±0.014	0.024±0.001	0.301±0.005
		SJT－E遺物群	40	0.039±0.010	0.121±0.025	0.006±0.000	0.454±0.005	0.097±0.002	0.001±0.001	0.073±0.002	0.224±0.005	0.022±0.001	0.338±0.009
		SJT－Z－2遺物群	40	0.098±0.003	0.152±0.003	0.005±0.000	0.449±0.004	0.075±0.002	0.000±0.000	0.063±0.002	0.229±0.004	0.022±0.001	0.336±0.003
エチオピア		BAE2A遺物群	45	0.542±0.006	0.289±0.003	0.038±0.001	1.396±0.017	0.464±0.011	1.995±0.024	0.073±0.006	0.095±0.028	0.031±0.001	0.549±0.009
標準試料		JG－1*	127	0.726±0.010	0.202±0.005	0.026±0.001	1.379±0.031	0.993±0.036	1.331±0.046	0.254±0.027	0.105±0.017	0.038±0.002	0.342±0.004

試料一覧／本課題第１群，ポ群＝UT遺物群，HS２群＝群Ⅰ・群Ⅱが出群，FR２群＝ケショマップ第一群にそれぞれ一致　平均値±標準偏差値。★：ガラス質安山岩，NK遺物群：中・原遺跡，HY遺物群：日和山遺跡，ＳＮ遺物群：三内丸山遺跡ほか，KN遺物群：此掛沢遺跡，HS遺物群：北進遺跡，KI遺物群：柳木遺跡，UT遺物群：内堀遺跡，AI遺物群：柏ノ沢遺跡，FS遺物群：姥ノ沢遺跡，SD遺物群：下新城遺跡，FR遺物群：妻鹿遺跡，ＳＴ遺物群：妙ヶ谷遺跡，FH遺物群：妙ヶ谷遺跡，KT遺物群：北江遺跡，KS遺物群：カウスス遺跡ユーチ地区，SG遺物群：北風新遺跡，OK遺物群：熊出野遺跡，TB遺物群：ピヤリ遺跡，NM遺物群：新琴遺跡，MK遺物群：南五遺跡，YM遺物群：南ヶ，藤塚，竹土遺跡，AC1，２，３遺物群：アチャ平遺跡，IN１，２遺物群：笛野原遺跡，KJ遺物群：KJ遺跡，HB１，２（フラット型）：八丈島第２遺跡，HR遺物群：姫原遺跡，NM遺物群：金ノ山遺跡，KU４（硬質石質）：久米野遺跡，ON１，２：大原野遺跡，NED：鮫香遺跡，UNG（UNG6）：上ノ原遺跡，UNG1遺物群：雲南遺跡などに比定される遺物の産地不明の原石群，ウラジオストク付近：イリスチヤ遺跡，南ルスチャッカ：パラトウンカ，ナヤキ，アバチャ遺跡，中部カムチャッカ（Ushiki）１，２，下遺跡，コムクリスク－ナーチムル：アー１遺物群，MTR21遺物群：耳取遺跡，FUT13遺物群：八千代村原地遺跡，NTO－6遺物群：江別遺跡，SW４遺物群：沢ノ黒遺跡，原田和遺物群：原田遺跡，NTR51，2，32，遺物群：赤ノ藤山遺跡，大野原第２遺跡，大野原第３遺跡。

a）：Ando, A, Kurasawa H, Ohmori, T. & Takeda, E.(1974). 1974 compilation of data on the GSJ's geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical journal V.8.5, 171-192.

表Ⅳ－９　湧別川河口域の河床から採取した247個の黒曜石円礫の分類結果

黒石群名	個数	百分率	備考
赤石山群	90個	36%	白滝産地赤石山群に一致
八号沢・白土沢群	120個	49%	側れ面が風化の黒曜石
あこい滝群、銀加沢	31個	13%	側れ面が風化でないもの
ケショマップ第２群	5個	2%	
KS２遺物群	1個	0.0%	

注：８号沢、白土沢、あこい滝、銀加沢の一部は組成が類似し、分類は側れ面の風化の有かで区別した。

表Ⅳ－10　常呂川（中ノ島～北見大橋）から採取した661個の黒曜石円礫の分類結果

黒石群名	個数	百分率	備考
所山群	321個	49%	常呂川第１群に属る
瀬戸山群	75個	11%	常呂川第２群、常呂川第５群、HS２遺物群に属る
ケショマップ第１群	65個	10%	FR１、FR２遺物群に属る
ケショマップ第２群	96個	14%	赤に同時にケショマップ第６群に0.5～0.00%で同定、FR１、FR２遺物群に属る
八号沢群	1個	0.2%	側れ面風化
常呂川第２群	14個	2%	瀬戸山群、高原山群、HS２遺物群に属る
常呂川第３群	3個	0.5%	
常呂川第４群	70個	11%	KS１遺物群、所山群に属る
常呂川第５群	10個	2%	瀬戸山群、HS２遺物群に属る
常呂川第６群	1個	0.2%	FR１遺物群に属る
常呂川第７群	2個	0.3%	FR２遺物群に属る
常呂川第８群	1個	0.2%	石倉第２群に属る
十勝	1個	0.2%	戸門第１群、雌阿山群、大釈迦群に属る
白滝第２群	1個	0.2%	米飯第１群に属る

注：常呂川第２群は分析極所を変えて複数回測定して作る。

表Ⅳ－11　サナブチ川から採取した44個の黒曜石円礫の分類結果

黒石群名	個数	百分率	備考
赤石山群	42個	95%	
赤石山群	1個	2%	白滝産地赤石山群に一致
八号沢・白土沢群	1個	2%	側れ面が風化の黒曜石

注：８号沢、白土沢、あこい滝、銀加沢の一部は組成が類似し、分類は側れ面の風化の有かで区別した。

表Ⅳ－12　北斗市館野６遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果

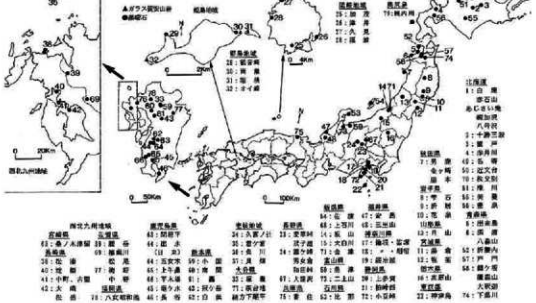
分析番号	定量比									
	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
109704	0.175	0.065	0.170	1.370	1.361	0.312	0.365	0.080	0.027	0.300
109705	0.250	0.070	0.099	2.265	1.015	0.449	0.264	0.024	0.026	0.350
109706	0.252	0.070	0.094	2.424	0.946	0.437	0.259	0.029	0.026	0.363
109707	0.336	0.130	0.241	2.282	0.861	1.030	0.417	0.148	0.033	0.468
JG－1	0.280	0.208	0.072	1.113	0.969	1.260	0.310	0.047	0.031	0.317

JG－1（産地試料）：Anda,A.,Kurasawa,H.,Ohmori,T.& Takeda,E.,1973 compilation of data on the GSJ's geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal, Vol. 8 125-132 (1974)

表Ⅳ－13　北斗市館野６遺跡出土黒曜石製遺物の産地分析結果

試料番号	遺構	層位	番号	遺物名	分析番号	ホテリングの T²検定結果	判定	備考
1	H－6	堆	525	フレイク	109701	赤石山（43%）	赤石山	
2	H－10	堆	395	フレイク	109705	赤井川第１群（97%）、赤井川第２群（86%）	赤井川	
3	FC－1	表採	1－2	フレイク	109706	赤井川第１群（77%）、赤井川第２群（3%）	赤井川	
3	FC－9	表採	15－2	フレイク	109707	赤井川（98%）、幌十（28%）	赤井川	円礫以外産あり

注意：産年産地分析を行う所が多くなりましたが、判定結果が複雑にも関わらず結果のみを掲ならない場合があります。本報告では日本における各遺跡の産地分析の判定基準を一定にして、産地分析を行っていますが、判定基準の異なる研究方法（生原稿式の論考も研究方法で異なるように）にも関わらず、個々産地ごのために結果のように結果のとうに思われます。全ご関係（相互チェックなこ）ありますが、本研究結果に連続させるには本研究法で再分析が必要です。本報告の分析結果を考古学資料として考古は日本に同じ遺跡で同定されている結果で古代交流関などを考慮をする必要があります。



4．館野地区・矢不来地区の完新世テフラ

館野地区，矢不来地区各遺跡の完新世テフラの岩石学的特徴を記載し、既知のテフラとの対比を行なった。各遺跡では一～三層の降下テフラが産出し、最上位のものから駒ヶ岳Ko－ｄ、不明、白頭山Ｂ－Ｔｍが認められた。館野、館野２、館野４、矢不来６、矢不来７、矢不来11の各遺跡を例とした。

１．テフラの産状（図Ⅳ－２）

ａ．最上位のテフラ：白色、にぶい黄橙色のシルト～砂質テフラで、場所により複数のフォールユニットからなっている。層厚５㎝以下で斑状、層状に断続的に産出する。作土中に取り込まれていることが多い。旧地表面の窪みにレンズ状に堆積していることがある。

ｂ．中位のテフラ：砂質で軽石を多く含んでいる。層厚１～２㎝で層状に局所的に産出する。上方へ向かってやや細粒化することがある。

ｃ．最下位のテフラ：黄褐色のシルト質で斑状、層状に断続的に産出する。通常、層厚は１～２㎝であるが、旧地表面の窪みでは最大層厚10～20㎝のレンズ状に産出することがある。そのような場所では弱いラミナが認められる。

２．テフラの鉱物組み合わせ（表Ⅳ－14）

偏光顕微鏡によりテフラの構成物を検鏡した。検鏡試料は、最上位のテフラは矢不来６－２の第２層、中位のテフラは館野－２の第２層、最下位のテフラは館野４－２の第４層と矢不来７－２の第１層、第３層を使用した（図Ⅳ－２）。

ａ．最上位のテフラ（検鏡粒径１／８－１／16㎜）：上部、下部のユニットとも主に斜長石と火山ガラスからなり、斜方輝石、単斜輝石、不透明鉱物をまれに含んでいる。火山ガラスの形態は、スポンジ状発泡の軽石型に富み、繊維状発泡の軽石型とバブルウォール型を少量含んでいる。

ｂ．中位のテフラ（検鏡粒径１／４－１／８㎜）：上部では斜長石が多く、角閃石、単斜輝石、不透明鉱物からなっている。黒雲母、斜方輝石、火山ガラスをまれに含んでいる。軽石も多く、スコリア、岩片も含んでいる。下部では主に斜長石と角閃石が多く、単斜輝石、不透明鉱物からなっている。クリストバライト、黒雲母、斜方輝石をまれに含んでいる。軽石、スコリアも含まれる。本テフラの軽石には白色のものと灰色のものとがある。

ｃ．最下位のテフラ（検鏡粒径１／８㎜＞）：多量の火山ガラスと少量のアルカリ長石からなっている。角閃石、斜方輝石、単斜輝石、不透明鉱物をまれに含む試料がある。鉱物以外に植物珪酸体、珪藻、海綿骨針をまれに含む試料がある。

３．火山ガラスの化学組成（表Ⅳ－15、図Ⅳ－３－１・２）

EDS 型Ｘ線マイクロアナライザにより火山ガラスの化学分析を行なった。分析試料は検鏡試料と同じである。

ａ．最上位のテフラ：平均化学組成では、SiO_2は75％台、K_2Oは２％未満である。

ｂ．中位のテフラ：分析試料は白色軽石の石基ガラスである。SiO_2の組成幅が大きい。

ｃ．最下位のテフラ：SiO_2の組成幅が大きく、バイモーダルの組成を示す。

4．テフラの対比

最下位のテフラは多量の火山ガラスとアルカリ長石を含む特異なテフラである。火山ガラスの化学組成幅が大きくバイモーダルの組成値分布を示す。このような特徴のテフラは白頭山（長白山）起源の白頭山苫小牧火山灰（B－Tm。10世紀。町田・新井、2003）である。

最上位のテフラはB－Tmよりも新しい層準にあることと鉱物組み合わせ、火山ガラスの形態、火山ガラスの化学組成から駒ヶ岳起源のKo－d（AD1640。北海道火山灰命名委員会、1979。徳井、1990）に対比される。

中位のテフラは角閃石を多く含む点で、渡島半島に分布する他の完新世テフラとは異なった鉱物組み合わせを有している。また、軽石は色調を異にするものがあり、スコリアも含んでいる。このテフラは紀藤（2001）が渡島大島起源のOs－bに対比したテフラと同じテフラで、木古内や函館でも確認される（北海道埋蔵文化財センター、1987・1988）。しかし、渡島大島へ向かって層厚が増すということはなく、むしろ館野・矢不来以外ではより発達が悪くなる。渡島大島起源とするにはまだ未詳の部分が多い。ここでは噴出源不明としておく。

5．まとめ

館野・矢不来地域では三層の完新世テフラが認められる。それぞれ異なった鉱物組み合わせと火山ガラスの化学組成を有しているので、鏡下観察または化学組成から三層間の区別は容易である。

厚くレンズ状に産出するB－Tmには弱いラミナが認められる。鉱物以外の粒子を含むことからも最堆積の相を示しているものであろう。

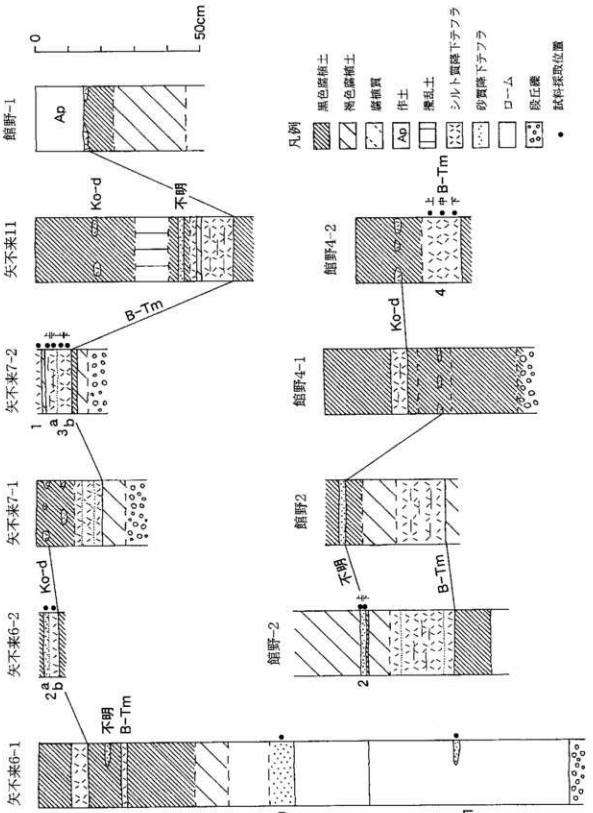
中位のテフラはB－TmとKo－d間の年代を補うテフラであるので、噴出源の確定と年代の決定が今後の課題である。

今回、更新世のテフラは分析対象としていないが、ローム層中に降下テフラが産出することがあり（図1の矢不来6－1）、今後の詳しい記載が望まれる。鏡下観察では、第9層は斜長石、角閃石、スポンジ状発泡の火山ガラスに富む火山灰、第11層ローム中のテフラは斜長石、斜方輝石、スポンジ状発泡の火山ガラスに富む火山灰であった。

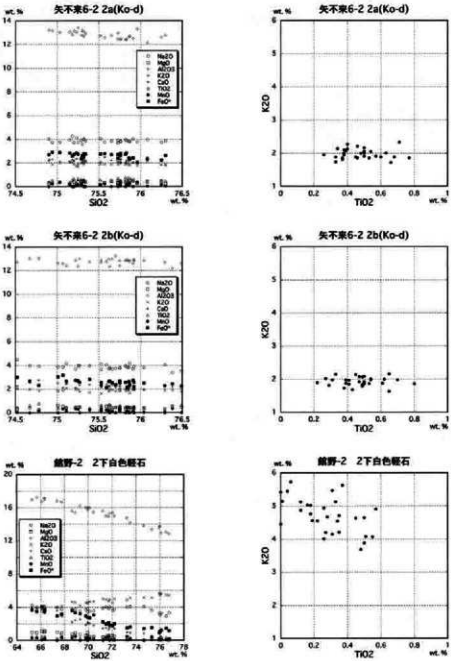
引用文献

北海道埋蔵文化財センター（1987）：「木古内町建川２・新道４遺跡」。614ｐ。
北海道埋蔵文化財センター（1988）：「函館市桔梗２遺跡」。252ｐ。
北海道火山灰命名委員会（1979）：「北海道の火山灰分布図」。
紀藤典夫（2001）：矢不来地区のテフラ。北海道上磯町教育委員会「町内遺跡発掘調査事業報告書－平成11・12年度発掘調査概要報告－」、79ｐ、19－20。
町田　洋・新井房夫(2003)：「新編火山灰アトラス－日本列島とその周辺」。東京大学出版会、336ｐ。
徳井由美（1990）：八千代Ａ遺跡におけるテフラ層の分析。北海道帯広市教育委員会「帯広・八千代Ａ遺跡本文編」、100ｐ、65－72。

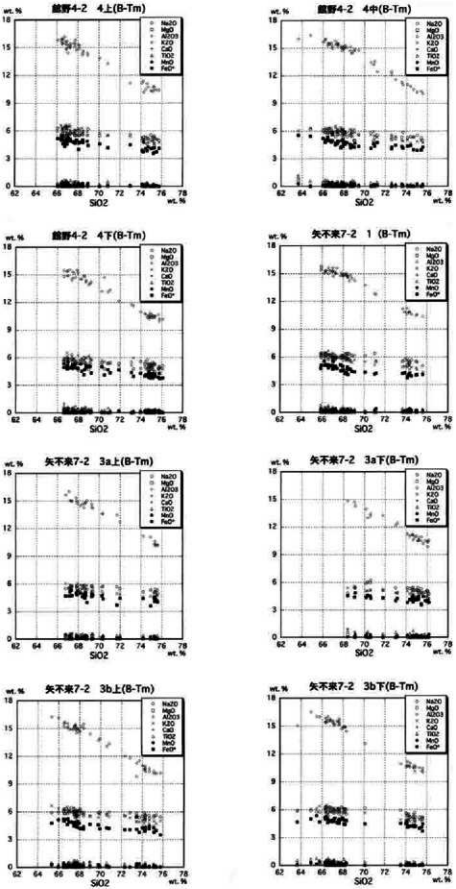
（花岡　正光）


矢不来6-1
矢不来6-2
矢不来7-1
矢不来7-2
矢不来11
館野-1
館野-2
館野2
館野4-1
館野4-2
Ko-d
B-Tm
不明
Ap
0
50cm
凡例
黒色腐植土
褐色腐植土
腐植質
作土
攪乱土
シルト質降下テフラ
砂質降下テフラ
ローム
段丘礫
試料採取位置

図Ⅳ－2　地質柱状図



図Ⅳ－３－１　火山ガラスの化学組成値分布(1)



図Ⅳ－３－２　火山ガラスの化学組成値分布(2)

表Ⅳ－14　テフラの構成物

試料	クリストバライト	アルカリ長石	斜長石	黒雲母	角閃石	斜方輝石	単斜輝石	不透明鉱物	火山ガラス	軽石	スコリア	岩片	植物珪酸体	珪藻	海綿骨針
矢不来6-2 2a	—		○	—	—	tr	tr	tr	○M>F, Bw	—	—	—	—	—	—
矢不来6-2 2b	—		○	—	—	tr	tr	tr	○M>F, Bw	—	—	—	—	—	—
館野-2 2上	—		○	tr	+	tr	+	+	tr	○	+	+	—	—	—
館野-2 2下	tr		○	tr	○	tr	+	+	—	+	+	—	—	—	—
館野4-2 4上	—	+	—	—	tr	—	tr	—	●Bw>F>M	—	—	—	+	—	—
館野4-2 4中	—	+	—	—	tr	tr	tr	—	●Bw>F>M	—	—	—	tr	—	—
館野4-2 4下	—	+	—	—	tr	—	tr	—	●Bw>F>M	—	—	—	tr	tr	tr
矢不来7-2 1	—	+	—	—	tr	—	—	—	●Bw>F>M	—	—	—	tr	—	—
矢不来7-2 3a上	—	+	—	—	tr	tr	—	tr	●Bw>F>M	—	—	—	—	—	—
矢不来7-2 3a下	—	+	—	—	—	—	tr	tr	●Bw>F>M	—	—	—	—	—	—
矢不来7-2 3b上	—	+	—	—	tr	—	tr	—	●Bw>F>M	—	—	—	tr	—	tr
矢不来7-2 3b下	—	+	—	—	tr	tr	—	—	●Bw>F>M	—	—	—	tr	—	—

●：すこぶる多い　○：多い　＋：少ない　tr：まれ　Bw：バブルウォール型　F：繊維状発泡　M：スポンジ状発泡

表Ⅳ－15　火山ガラスの平均化学組成（重量%、100%規格化値）

試料	SiO2	TiO2	Al2O3	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na2O	K2O	合計（測定値合計）	測定数	対比テフラ
矢不来6-2 2a	75.55	0.48	12.82	2.63	0.11	0.38	2.16	3.89	1.98	100.00(95.46)	29	Ko-d
矢不来6-2 2b	75.58	0.48	12.77	2.58	0.12	0.44	2.22	3.88	1.94	100.00(95.76)	30	Ko-d
館野-2 2下白色軽石	71.01	0.28	15.29	2.43	0.18	0.53	1.85	3.71	4.72	100.00(95.70)	30	不明
館野4-2 4上	69.53	0.33	13.89	4.63	0.16	0.02	0.04	5.54	5.85	100.00(95.61)	50	B-Tm
館野4-2 4中	69.16	0.36	14.16	4.62	0.16	0.05	0.07	5.60	5.82	100.00(95.58)	50	B-Tm
館野4-2 4下	71.23	0.32	12.81	4.52	0.11	0.06	0.18	5.36	5.41	100.00(95.62)	50	B-Tm
矢不来7-2 1	69.16	0.35	13.98	4.60	0.18	0.02	0.04	5.86	5.80	100.00(95.51)	50	B-Tm
矢不来7-2 3a上	70.44	0.33	13.51	4.58	0.15	0.03	0.22	5.44	5.30	100.00(97.80)	30	B-Tm
矢不来7-2 3a下	73.66	0.27	11.65	4.18	0.10	0.03	0.08	5.26	4.78	100.00(97.80)	30	B-Tm
矢不来7-2 3b上	70.07	0.36	13.43	4.51	0.14	0.01	0.04	5.79	5.65	100.00(96.35)	50	B-Tm
矢不来7-2 3b下	69.73	0.36	13.66	4.64	0.12	0.03	0.05	5.66	5.67	100.00(96.53)	48	B-Tm

FeO*：全鉄．分析条件：機器JSM-5600LV＋JED-2200，加速電圧15kV，照射電流0.35nA，測定時間100秒（ライブタイム），測定面積2.5～10μm四方，ZAF補正．

V章　まとめ

1．小　括

館野６遺跡（本線部分）はⅠ章４節で述べたとおり、矢不来館から下矢不来川を挟んだ対岸の標高55m前後の海岸段丘上にある。近い位置に存在が認められるが、中世の遺構・遺物の検出は無かった。自然地形を利用した矢不来館は、下の沢川・下矢不来川が外堀としての機能をし、館野６遺跡側に面して入り口部分の平場・大手虎口・連続縦土塁が築かれている。推測すれば、対岸の台地（館野６遺跡）は外敵がこのあたりから進入するのを想定し警戒した、もしくは戦略に用いたところではなかったかと思われる。

縄文時代の遺構・遺物については、遺跡の位置が円筒土器文化圏にあり、円筒土器下層～上層のものが検出されている。平成20年度に調査を行った本線部分においては主体となるのは下層ｂ式相当とサイベ沢Ⅶ式である。

円筒土器下層ｂ式相当では、住居跡から検出したもの、土坑墓と考えられる土坑から出土したもの、住居跡の窪みを利用した土器捨て場である遺物集中４からのものと、特徴が分かれる。住居跡からのものは、サイベ沢Ⅰ式相当を含む下層ｃ式の古手と考えられ、土坑からのものは下層ｂ式の新しいもの、遺物集中４からのものは、下層ｂ式相当のものである。

住居跡から出土した土器は口頸部文様帯に羽状縄文を持つもの（Ｈ－２・図Ⅲ－92－１）、幅の狭い口頸部文様帯に条痕文、体部には斜行縄文が施されているものである（Ｈ－８・図Ⅲ－107－１）。共に内面は磨かれており、器高は口径に対し低く、口縁が外反もしくは外反気味になっている。Ｈ－２のものに関しては、底面に縄文が施されている。Ｈ－８出土のものについては、サイベ沢遺跡第１地点22層出土（大場他1972）のものを大沼（1986ａ）が下層ｃ式に位置付け、木古内町新道４遺跡のBP－157から出土のものをサイベ沢Ⅰ式に比定している。この中に幅の狭い口縁に条痕と体部に単節斜行縄文が施されているＨ－８と同じ文様のものがあり、またＨ－２のものと共通する、幅の狭い口縁部文様帯に羽状縄文があるものの底面に縄文が施されているものがある。大沼（1986ｂ）はこれらを含む新道４遺跡Ｂ地区の調査で出土した縄文時代前期の土器について「サイベ沢Ⅰ式を含み、円筒土器下層ｃ式に通ずる特色をもつ土器群」としており、本遺跡で今回報告範囲の住居跡から出土したものもこれらに比定されるものではないかと考えられる。

土坑墓（Ｐ－23・24・33）出土のものはいずれも坑底出土である。土坑の規模は坑底の長軸が50cm前後、単軸が30cm前後で長軸が西－東（Ｐ－23・24）北西－南東（Ｐ－33）を向く。共通する遺物として、小型の土器がある。特徴は、隆帯を持ち底部が磨かれているもの（Ｐ－24）・隆帯を持たず、底面に縄文が施されているもの（Ｐ－23・33）があり、体部には撚糸・附加条・羽状縄文＋不整綾絡文などが施されている。内面は磨かれている。この小型の土器に伴い、Ｐ－23には頁岩製のスクレイパー３点、Ｒフレイク２点、扁平打製石器１点が出土している。Ｐ－24には頁岩のフレイク１点、扁平打製石器１点が出土、Ｐ－33からは頁岩製のフレイクが１点出土している。Ｐ－23から出土しているスクレイパーについて、掲載遺物（図Ⅲ－133）は縦長剥片の右側縁もしくは両側縁に僅かな調整によるもので、未掲載にしたもう１点のスクレイパーも比較的縦長の剥片の背面左側縁の一部と腹面側の下端に調整が施されているものである。フレイクのうち１点は打面に調整剥離が観察できる。扁平打製石器については凝灰岩の扁平な礫に片面と両端、長軸の１側縁に加工が加えられているものである。Ｐ－24については砂岩製の扁平打製石器が、Ｐ－24の加工と共通するものである。Ｐ－33につ

いては、原石面の残るフレイクが坑底から出土しているほか、埋め戻しの覆土中からは原石面の残るフレイクが２点出土している。１つは腹面に被熱し炭化物状のものが付着、１つは片面に打面調整が残り剥離が行なわれた石核的なものである。この共通する土坑の特徴（坑底面規模・長軸方向）と共通する遺物（小型の土器・少々の頁岩の剥片・扁平打製石器）は特記しておきたい。このほか、フラスコ状を呈する概時期の土坑墓としてＰ－14がある。これにも坑底から復元により土器の体部下半と、Ｐ－23・24・33と共通する頁岩製のフレイク２点、石核１点、凝灰岩製の扁平打製石器も２点出土している。この土坑の坑底から検出した焼土をフローテーション法により得られた炭化物は、ＡＭＳ法の年代測定により4,710±30yrBP という結果が得られており、調査の年代観とほぼ一致する。

遺物集中４から出土した土器は隆帯を持つものと持たないものがあり、隆帯を持つものは隆帯上に指頭による圧痕や低い隆帯上に竹管状工具による刺突が施されているものがある。口頸部文様帯には不整綾絡文が施されているものが多く、このほか沈線が施されているものもある。体部は主に撚糸文・附加条文が多く、複節縄文・網目状撚糸文・体部中央に不整綾絡文を持つものや、撚り戻しの縄文のものがある。隆帯を持たないものは、口頸部文様帯に不整綾絡文・撚糸文を横走させるもの・単節斜行縄文が施されているものがある。体部の文様は隆帯を持つものとほぼ共通し、底部は上げ底、底面は縄文が施されているものが多く、磨かれているものもある。

このほか、概時期の遺構として黒曜石の剥片を主体としたFC－９がある。この剥片は原産地分析により青森県の日本海側、出来島産との結果が得られた。素材に用いられたものは海岸で採取できる握り拳大の円磨された転石が用いられている。これは青森県の鰺ヶ沢、七里長浜の海岸付近砂浜で採取することができ、この黒曜石を含む路頭も観察できる（新渡戸・鈴木1983）。本遺跡では縄文時代中期前半、サイベ沢Ⅶ式の住居跡から検出した黒曜石は原産地分析により遠軽町白滝産や余市郡赤井川産との結果が得られており、石器石材の一部で縄文時代前期後半では円筒土器文化圏内での物流から、中期前半になると円筒土器文化圏外を含む道内の物質を取り入れ、活動していたことが伺えよう。

円筒土器上層式においてはサイベ沢Ⅶ式が住居跡に伴い多く検出した。床面や生活面から出土したもので、地文施文後に貼付帯が施されるもの・地文施文後に沈線文が施されるもの・地文が結節回転文を持つもの・結節回転文を持たないものなど、土器型式の中でも前後関係がいわれていたものについて、特段差の無い結果になっている。覆土・床面・生活面の判断が適正であったか、発掘調査での反省点は残る。しかし、三宅(1989)が東北地方と併行期にある円筒土器上層ｄ式と同ｅ式について、「上層ｅ式が文様構成を採用したのも、（円筒土器文化の）崩壊過程にあっても伝統を重視するがために、限定された選択肢の一つとして施文具の置換を採用したのである。その施文方法が円筒土器の伝統になく、かつ隆帯から沈線という極端な転換であっても、土器を構成するその他の諸要素は、まぎれもなく円筒土器の直系を示すものである。」としている。館野６遺跡の概時期遺構出土遺物について、三宅のいう円筒土器文化の崩壊過程と考えれば、大幅な時間差は無いものと捉えることができよう。

縄文時代早期の遺物で類例が少ないものとして、Ⅰ群ａ類の虎杖浜式併行とした高野Ⅰ群に比定される土器がある。乳房状の尖底と平底のものがあり、条痕が施文・調整に施されている。遺物量が少なく、出土は包含層で縄文時代前期を下らないⅢ層中からで、縄文時代中期前半の遺構などに撹乱を受けている可能性がある。今後の資料増加を期待する。

調査区の後背に平成21年度調査区の補償道路部分がある。ここでは円筒土器下層式期の集落と盛土遺構が検出されており、遺物量は100万点を超える。北海道南部において、円筒土器下層式がどのように萌芽し展開・移行していくのか、今後の整理作業によって明らかになることが期待できる資料で

ある。

また、表Ⅰ－1に示した函館江差自動車道建設に伴う発掘調査で、現在調査中や整理作業中の遺跡は木古内町を含め6ヶ所、ほか近隣市町で新幹線建設事業に伴うものが5ヶ所ある。今後、これらが整理・報告され、各時期の問題点などを解明する資料が増えていくものと考えている。　（袖岡）

大沼　忠春　1986a　「道南の前期縄文土器群の編年について（Ⅱ）」『北海道考古学』22輯
大沼　忠春　1986b　『木古内町　建川1・新道4遺跡』北埋調報33
大場　利夫他　1972　『サイベ沢遺跡－函館郊外桔梗村サイベ沢遺跡発掘調査報告書－』

2．P－14坑底検出の砂質の礫について

本調査でP－14から砂質の礫3点が出土した。坑底出土の礫2点（遺物番号27・28）、PP1の1層出土の礫1点（遺物番号36）である。他にH－10の2層上、10J区Ⅲ層、12Q区Ⅲ層、13Q区Ⅲ層、19M区Ⅲ層から出土した礫各1点も見かけ上類似する石質であった。これらの肉眼観察では、出土した直後は円礫の形状を保っており、表面はもろく、ブラシを使って水で洗浄すると削れ、乾燥すると表面が粉状になり割れるという特徴があった。さらに10J区Ⅲ層から出土した礫などは一部や全体が赤褐色を呈していた。このような状態であったことから、使用痕などの観察は困難であった。この礫の石材を判断する必要があると考え、第1調査部第1調査課　花岡正光が石材の分析を行った（表Ⅴ－1）。試料はP－14坑底出土の礫（遺物番号27、試料番号1）とPP1の1層出土の礫（遺物番号36、試料番号2）、10J区Ⅲ層出土の礫（試料番号3）を用い、比較試料として、矢不来9遺跡H－2HF－1の被熱土壌（試料番号4）と遺跡内のⅤ層の土壌（試料番号5）を選択した。矢不来9遺跡H－2HF－1の被熱土壌は中央が堅い板状であったが周辺はもろく、焼かれた粘土のようにみえたものである。出土時から多数のひび割れがあり、取上げの際にそこから割れ、多数のブロック状になっていた。硬さは場所で異なるものの、取上げの際に割れる特徴が類似するため用いた。遺跡内のⅤ層の土壌については、Ⅴ層がP－14の坑底の層位であり、試料の礫と考えているものは埋土が固まったもの、あるいは被熱によりⅤ層が硬化したものの可能性について検討するためである。また出土時の形状を保つものとしてP－14坑底出土の遺物番号28の礫があり、参考資料として掲載した（図版Ⅴ－1）。

結果は坑底出土の礫（試料番号1）とPP1出土の礫（試料番号2）は水成の泥質砂岩である。また、10J区Ⅲ層出土の礫（試料番号3）は水成の凝灰質砂岩である。矢不来9遺跡H－2HF－1の被熱土壌（試料番号4）は被熱（高温酸化）した水成の粘土または粘土質土、遺跡内のⅤ層の土壌（試料番号5）は風成塵起源の陸成ロームである。

試料番号1～4はいずれも水成堆積物で、これらは館野6遺跡で遺構の坑底や床面となるⅤ層（試料番号5）とは構成物が明らかに異なり、他の場所から持ち込まれたものと判断できる。また同じ海成段丘上にあり近接する矢不来9遺跡においても、H－2HF－1の被熱土壌（試料番号4）は他の場所から持ち込まれた粘土または粘土質土を床面に貼ったものと考える。

今回の結果を踏まえ、今後は取上げ方法や保存処理を検討していく必要がある。P－14の坑底出土の遺物番号27（試料番号1）については現場では礫と考え、パラロイドB72で強化を行い、取り上げ後の形状を保っている。　（佐藤）

表Ⅴ－1　石材・土壌分析観察一覧

試料番号	遺跡名	遺構／調査区	層位	遺物番号	試料名	現場での状態と処理前の状態		処理後の検鏡結果	判定
1	館野6遺跡	P－14	坑底	27	礫	現場	5㎝程度の厚みがある、やや偏平な円礫の形状で、形を保つがもろい。乾燥すると表面は粉状になり、崩れたり、割れる。にぶい黄橙色。	珪質岩の砂粒、、角閃石、輝石、黒雲母、石英がある。やや円摩され、十分に円磨されているものもある。海綿骨針、海棲種の珪藻を含む。	水成の泥質砂岩
						処理前	砂の粒径は細粒～極細粒。石英粒、珪質岩の岩片、白色の岩片が目立つ。角閃石がある。海綿骨針を含む。粒子はやや円磨されている。水中で2番目に早く分解。		
2	館野6遺跡	P－14 PP1	1	36	礫	現場	5㎝程度の厚みがある、やや偏平な円礫の形状で、形を保つがもろい。乾燥すると表面は粉状になり、崩れたり、割れる。にぶい黄橙色。	構成物は1に類似する。1よりも全体に細粒。海棲種の珪藻を認めず。	水成の泥質砂岩
						処理前	砂の粒径は極細粒。細礫サイズの粒子が1個ある。白色の岩片が多い。角閃石がある。水中で1番早く分解。		
3	館野6遺跡	10J	Ⅲ	5	礫	現場	5㎝程度の厚みがある、やや偏平な円礫の形状で、形を保つがややもろい。乾燥すると表面は粉状になり、一部が割れる。表面は土壌水分の影響による鉄分の付着があり赤みを帯びる。にぶい黄橙色。	多量の火山ガラス（粒径0.1㎜±。バルブウォール型と繊維状型）と結晶（粒径0.05㎜±）・岩片がある。海綿骨針、海棲種の珪藻を含む。火山ガラスの周縁には衝突痕がある。結晶・岩片は円磨されている。降下火山灰が海水中を移動したものであろう。	水成の凝灰質砂岩
						処理前	粒度はシルト質～極細粒砂。多量の火山ガラスを含むように見える。体積の割りに軽い（比重小）。他試料とは全く見かけが異なる。水中ではそのままで分解しないため、押圧して粉砕。		
4	矢不来9遺跡	H－2 HF－1	1		被熱土壌	現場	3㎝程度の厚みがある、板状の形状である。表面にひび割れがあり、堅い。赤褐色。	粒子の表面が高温酸化により赤褐色に変色して、構成物の内容がわかりにくい。角閃石、黒雲母、長石、石英がある。被熱により白濁した海綿骨針を多く含む。	被熱（高温酸化）した水成の粘土または粘土質土
						処理前	表面は汚れて良く見えない。見かけが2に類似する。海綿骨針と推定される白濁した針状物質がある。海棲種の珪藻の可能性のあるものが1個ある。マンガン結核が多い。水中ではそのままで分解しないため、押圧して粉砕。		
5	館野6遺跡	遺跡内	Ⅴ		土壌（Ⅴ層）	現場	黄褐色ローム。	長石が多く、石英、火山ガラスがある。重鉱物は角閃石が目立ち、輝石、黒雲母がある。マンガン結核、微粒炭を多く含む。	風成塵起源の陸成ローム
						処理前	粘土質で極細粒砂が混じる。角閃石が目立つ。水中で2番目に早く分解。		

※処理・観察方法
水浸→指間で粉砕→HCl処理（超音波洗浄）→乾燥→実体顕微鏡観察。試料番号3は偏光顕微鏡を併用。

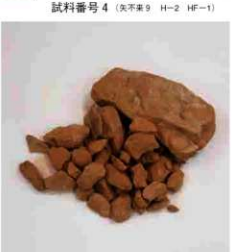
図版Ⅴ－1

P－14　坑底遺物出土状況

試料番号２（P－14　PP1 遺物番号 36）

試料番号４（矢不来９　H－2　HF－1）

試料番号１（P－14　坑底遺物番号 27）



試料番号３（10J 区Ⅲ層）

参考資料（P－14　坑底遺物番号 28）

試料番号５（館野６遺跡Ⅴ層）

P－14 壙底の砂質礫と比較資料

引用・参考文献

青森県教育委員会　1974　『中の平遺跡発掘調査報告書』
青森県教育委員会　1996　『畑内遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告187集
青森県教育委員会　1997　『畑内遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告211集
青森県教育委員会　1999　『畑内遺跡Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告262集
青森県教育委員会　2000　『畑内遺跡Ⅵ』青森県埋蔵文化財調査報告276集
青森県教育委員会　2001　『畑内遺跡Ⅵ』青森県埋蔵文化財調査報告308集
青森県教育委員会　2002　『畑内遺跡Ⅷ』青森県埋蔵文化財調査報告326集
青森県教育委員会　1997　『三内丸山遺跡Ⅷ』青森県埋蔵文化財調査報告230集
青森県教育委員会　1998　『三内丸山遺跡Ⅸ』青森県埋蔵文化財調査報告249集
秋田県教育委員会　1990　『はりま館遺跡発掘調査報告書』秋田県埋蔵文化財報告書192集
秋田県教育委員会　1993　『萩ノ台Ⅱ遺跡』』秋田県埋蔵文化財報告書236集
秋田県教育委員会　1999　『池内遺跡』　秋田県埋蔵文化財報告書308集
阿部　千春　1993　「北海道南部における初期の円筒土器とその周辺」『考古学ジャーナル』６月号№362
石岡　憲雄　1999　「東北地方　前期（円筒下層式）」　『縄文時代』10号
市村　高男　2000　「茂別館跡についての考察－調査の中間報告－」　地域史研究『はこだて』32
岩内町教育委員会　1958　「東山遺跡」『岩内遺跡』
江坂　輝弥　編　1970　『石神遺跡』　ニュー・サイエンス社
榎森　進　2011　「激動の北の中世」『新版　北海道の歴史　上』北海道新聞社
大館市教育委員会　2008　『男神遺跡発掘調査報告書』
大沼　忠春　1981　「道央部の前期縄文土器群の編年について」　「北海道考古学』17輯
大沼　忠春　1984　「道南の前期縄文土器群の編年について」　『北海道考古学』20輯
大沼　忠春　1985　「魚骨文の新例について」　『北海道考古学』21輯
大沼　忠春　1986　「道南の前期縄文土器群の編年について（Ⅱ）」　『北海道考古学』22輯
大沼　忠春　1993　「北海道東部の円筒土器文化」　『考古学ジャーナル』　６月号№362
乙部町教育委員会　1976　「元和」
海峡土器編年研究会　2005『東北・北海道の縄文時代前期末葉～中期初頭土器の課題―資料集―』
上磯町　1997　『上磯町史　上巻』　上磯町
上磯町教育委員会　1988　『富川砦墓跡』
上磯町教育委員会　1990　『矢不来３遺跡』
上磯町教育委員会　2001　『町内遺跡発掘調査事業報告－平成11・12年度発掘調査概要報告－』
上磯町市史編纂委員会編　1917　『茂別郷土史』　上磯町史資料集第２集
上磯町市史編纂委員会編　19　『添山』
亀田町教育委員会・市立函館博物館　1967　『サイベ沢Ｂ遺跡調査報告』
木古内町教育委員会　1999　『釜谷遺跡』
熊野　喜蔵　他　1974　「茅部郡森町森川Ａ遺跡出土の前期縄文式土器」『北海道考古学』第10輯
小林　達雄　編　2008　『総覧　縄文土器』　㈱アム・プロモーション
㈶北海道埋蔵文化財センター　『知内町　湯の里遺跡群』北埋調報18

㈶北海道埋蔵文化財センター　『知内町　湯の里３遺跡』北埋調報32
㈶北海道埋蔵文化財センター　『木古内町　建川１・新道４遺跡』北埋調報33
㈶北海道埋蔵文化財センター　『上磯町　矢不来２遺跡』北埋調報37
㈶北海道埋蔵文化財センター　『木古内町　建川２・新道４遺跡』北埋調報43
㈶北海道埋蔵文化財センター　『函館市　石川１遺跡』北埋調報45
㈶北海道埋蔵文化財センター　『函館市　桔梗２遺跡』北埋調報46
㈶北海道埋蔵文化財センター　『上磯町　矢不来天満宮跡』北埋調報47
㈶北海道埋蔵文化財センター　『木古内町　新道４遺跡』北埋調報52
㈶北海道埋蔵文化財センター　『上磯町　茂別遺跡』北埋調報121
㈶北海道埋蔵文化財センター　『長万部町　花岡２遺跡・花岡３遺跡』北埋調報139
㈶北海道埋蔵文化財センター　『森町　倉知川右岸遺跡』北埋調報196
㈶北海道埋蔵文化財センター　『北斗市　館野遺跡⑴』北埋調報237
㈶北海道埋蔵文化財センター　『北斗市　矢不来８遺跡⑶・矢不来９遺跡⑵・矢不来10遺跡⑵・矢不来11遺跡』⑶』北埋調報272
斉藤　岳　2002　「青森県における石器の石材の研究について」『青森県考古学』第13号
青森県考古学会30周年記念論集
佐々木　繁喜　1997　「東北地方の黒曜石」『岩手考古学』第９号
知内町教育委員会　1975　『森越』
市立函館博物館　1972　『サイベ沢遺跡－函館郊外桔梗村サイベ沢遺跡発掘調査報告書－』
関根　達人　2010　「平成22年度北海道北斗市矢不来館発掘調査概要」
第31回　南北海道情報交換会　発表資料
関根　達人　2011　「北斗市矢不来館跡」　第32回　南北海道情報交換会　発表資料
高橋　正勝・小笠原　忠久　1976　「縄文文化前期・中期」『北海道考古学講座』みやま書房
高橋　正勝　1981　「北海道南部の土器」　『縄文文化の研究』４　雄山閣
戸井町教育委員会　1992　『戸井貝塚Ⅰ』
戸井町教育委員会　1993　『戸井貝塚Ⅱ』
戸井町教育委員会　1993　『戸井貝塚Ⅲ』
戸井町教育委員会　1994　『戸井貝塚Ⅳ』
戸井町教育委員会　1996　『戸井貝塚Ⅴ』
「土偶とその情報」研究会　1994　『東北・北海道の土偶Ⅰ』土偶シンポジウム２秋田会　資料集
永田　方正　1984　『北海道蝦夷語地名解』　草風館
野村　崇　1985　『北海道縄文時代終末期の研究』　みやま書房
野村　祐一・石井　淳平・塚田　直哉　2008　「下国館跡　茂別館跡・矢不来館跡の基礎的研究」
第29回　南北海道考古学情報交換会　発表資料Ｖol.２
名取　武光・峰山　巌　1954　『伊達町北黄金遺跡発掘調査報告』
名取　武光・峰山　巌　1957　「若生貝塚発掘報告」『北方文化研究報告』第12輯
名取　武光・峰山　巌　1963　「茶呑場遺跡　付伊達町北黄金遺跡群」『北方文化研究報告』第18輯
新渡戸　隆・鈴木　克彦　1983　「日本海七里長浜の黒曜石原石採取踏査」『考古風土記』第８号
函館圏開発事業団　1974　『西桔梗』
函館市教育委員会　1977　『函館空港第４地点・中野遺跡』

函館市教育委員会　1979　『見晴町Ｂ遺跡発掘調査報告書』
函館市教育委員会　1981　『権現台場遺跡発掘調査報告書』
藤本　英夫　編　1980　『日本城郭体系１　北海道・沖縄』　新人物往来社
北海道文化財保護協会編　1981　『館野２遺跡』
松浦　武四郎　1856　「渡島日誌　其の壱」
秋葉　實解読　1988　『武四郎蝦夷地紀行』　北海道出版企画センター
松浦　武四郎　1859　「東西蝦夷山川地理取調図二」
山田　秀三　監修／佐々木　利和　編　1988　『アイヌ語地名集成』
＜別冊＞東西蝦夷山川地理取調図　草風館
松前町教育委員会　1974　『松前町大津遺跡発掘調査報告書』
松前町教育委員会　1974　『松前町高野遺跡発掘報告』
松前町教育委員会　1984　『松前町郷土資料館調査報告』
松前町教育委員会　1983　『白坂』
南茅部町埋蔵文化財調査団　1993　『八木Ａ遺跡Ⅱ・ハマナス野遺跡』
南茅部町埋蔵文化財調査団　1995　『八木Ａ遺跡Ⅱ・ハマナス野遺跡』
南茅部町教育委員会　2002　『大船Ｃ遺跡　ハマナス野遺跡 Vol. ⅩⅦ』
南北海道情報交換会編　1995　『円筒土器下層式図録集』　南北海道情報交換会
南北海道情報交換会編　1995　『円筒土器下層式図録集Ⅱ』　南北海道情報交換会
三宅　徹也　1981　「円筒土器」　『縄文文化の研究』３　雄山閣
三宅　徹也　1989　「円筒土器下層様式」・「円筒土器上層様式」　『縄文土器大観』１　小学館
宮内　崇裕・八木　浩司　1984　「松前半島東岸の海成段丘と第４期地殻変動」『地学雑誌』93－５
村越　潔　1984　『増補　円筒土器文化』　雄山閣考古学選書10
森町教育委員会　1982　『森川Ａ遺跡』
森　靖裕　2002「北海道・上磯町の中世館跡と近世台場跡」『日本歴史』2002年５月号　吉川弘文館
八雲町教育委員会　1992　『コタン温泉遺跡』
山内先生没後25年記念編集刊行会　1996　『画龍点睛－山内清男没後25年記念論集―』

写　真　図　版

図版１～105　現場写真

図版106～136　遺構出土の遺物

図版137～145　包含層出土の土器

図版146～152　包含層出土の石器

調査区北側Ⅲ層上面検出（西から）

調査区南東側Ⅲ層上面検出（北東から）

調査状況(1)

図版 2

調査区南西側Ⅲ層上面検出（北から）

調査区北東側Ⅲ層上面検出（北から）

調査状況(2)

25%調査状況（西から）

調査状況（北から）

調査状況(3)

図版 4

調査区南側完掘（東から）

調査区北東側完掘（北東から）

調査状況(4)

調査区北西側完掘（南から）

調査区南西側完掘（北から）

調査状況(5)

図版 6

調査区南東側側溝部分完掘（北東から）

調査区南西側側溝部分完掘（東から）

調査状況(6)

調査区西側側溝部分完掘（南から）

調査区中央沢地形完掘（南東から）

調査状況(7)

図版 8

沈砂地完掘（北西から）

調査状況(8)

調査区中央北側断層検出（東から）

調査区中央北側断層土層断面（東から）

断層(1)

図版10

調査区中央南側断層検出（北西）

調査区中央東側断層検出（東から）

断層(2)

調査区中央南側断層完掘(1)(東から)

調査区中央南側断層完掘(2)(東から)

断層(3)

図版12

H－1　完掘（北から）

H－1　東西土層断面（南から）

H－1　南北土層断面（西から）

H－1　遺物出土状況（東から）

H－1　HF－1　土層断面（西から）

H－1　HP－1　土層断面（西から）

H－1 (2)

図版14

H－2　完掘（北東から）

H－2　東西土層断面（北から）

H－2　南北土層断面（西から）

H－2　床面遺物出土状況（北東から）

H－2　覆土遺物出土状況（拡大）（東から）

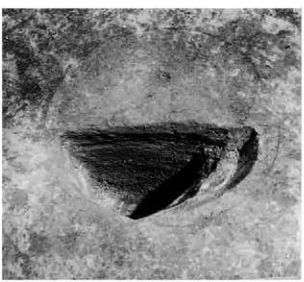
H－2　垂飾（覆土２層）出土状況（南から）

H－2 (2)

図版16

H－2　HF－1　検出（西から）

H－2　HF－1　土層断面（北から）



H－2　HP－1　土層断面（南から）

H－2　HP－2　土層断面（南から）

H－2　HP－4　完掘（南から）

H－2　HP－5　遺物出土状況（南から）

H－3　完掘（南東から）

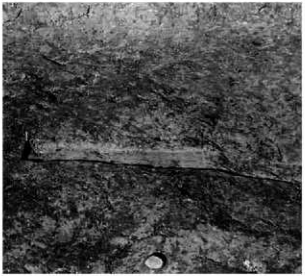
H－3　東西土層断面（南から）

H－3　南北土層断面（西から）

図版18

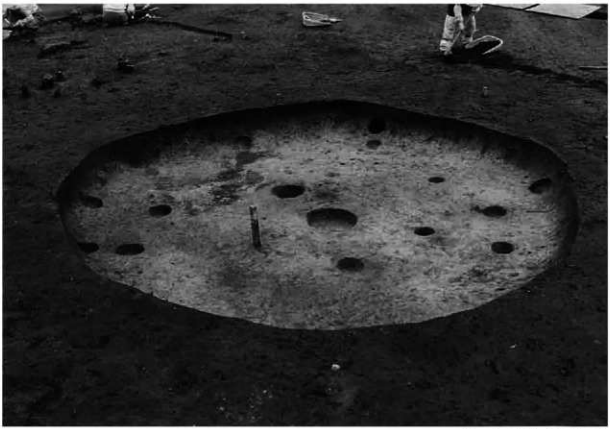
H－3　遺物出土状況（北から）

H－3　HF－1　土層断面（西から）



H－3　HF－2　土層断面（西から）

H－3 (2)



H－4　完掘（北東から）

H－4　東西　土層断面（北から）

H－4　南北　土層断面（西から）

図版20

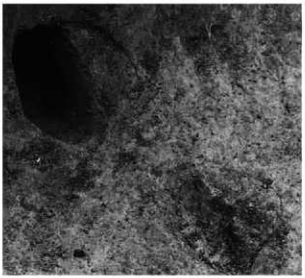
H－4　遺物出土状況（北から）

H－4　HF－1　土層断面（南から）

H－4　HF－2　土層断面（南東から）

H－4 (2)

H－4　HF－3　土層断面（南から）



H－4　HP－1・2（南から）

H－4　HP－4・5（南から）

H－4　HP－8（西から）

H－4　HP－9（北東から）

H－5　完掘（北東から）

H－5　南東北西土層断面（南西から）

H－5　南西北東土層断面（北西から）

H－5　遺物出土状況（北から）

H－5　HF－1　土層断面（西から）

H－5　HP－1　土層断面（西から）

H－5 (2)

H－6　3層上面遺物出土状況（北西から）

H－6　床面遺物出土状況（南から）

H－6　東西土層断面（南東から）

H－6　南北土層断面（西から）

H－6　3層遺物出土状況（南東から）

H－6　3層遺物出土状況（No.2）（西から）

H－6 (2)

図版26

H－6　3層遺物出土状況（No.3土器）（北から）

H－6　3層遺物出土状況（No.5土器）（北から）

H－6　3層遺物出土状況（No.10土器）（南西から）

H－6　3層遺物出土状況(No.10土器内部）（北東から）

H－6　床面遺物出土状況（北から）

H－6　床面遺物出土状況（No.1土器）（西から）

H－6 (3)

H－6　床面遺物出土状況（No.12土器）（北東から）

H－6　床面遺物出土状況（No.12土器）（北から）

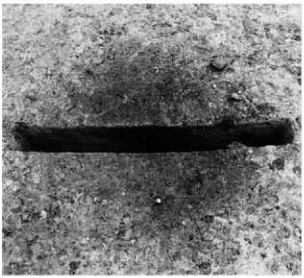
H－6　床面遺物出土状況（No.13土器）（南東から）

H－6　床面遺物出土状況(No.13土器内部）（北西から）

H－6　HS－1　検出（北から）

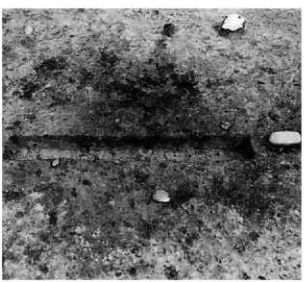
H－6　HFC－1・2　検出（南から）

図版28

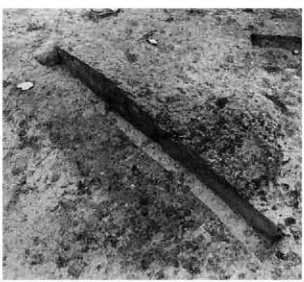


H－6　HF－1　土層断面（西から）

H－6　HF－1　完掘（北から）



H－6　HF－2　土層断面（南西から）



H－6　HF－3　土層断面（西から）

H－6　HF－4　土層断面（北西から）

H－6　HF－5　土層断面（東から）

H－6　HF－6　土層断面（東から）

H－6　HP－1　土層断面（南から）

H－6　HP－2　土層断面（南西から）

H－6　HP－3　土層断面（西から）

H－6　HP－4　土層断面（西から）

H－6　HP－5　土層断面（西から）

図版30

H－6　HP－6　土層断面（南西から）

H－6　HP－7　土層断面（南西から）

H－6 (7)

H－7　完掘（南西から）

H－7　南北土層断面（西から）

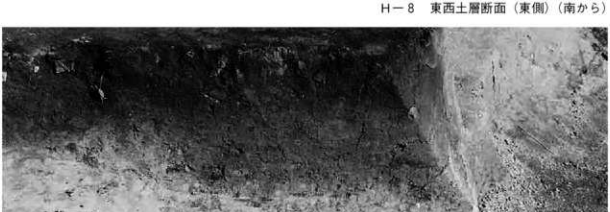
H－7　東西土層断面（北から）

Ｈ－７　南北土層断面（延長部分）（西から）

Ｈ－７　遺物出土状況（北から）

H－8　完掘（西から）

H－8　東西土層断面（東側）（南から）



H－8　南北土層断面（北側）（西から）

図版34

H－8　南北土層断面（南側）（西から）

H－8　遺物出土状況（北西から）

H－8　HP－2　土層断面（南から）

H－8　HP－2　遺物出土状況（南から）

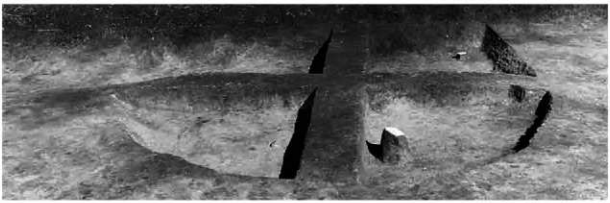
H－8　HP－5　土層断面（南から）

H－8　HP－5　遺物出土状況（東から）

H－8（3）

H－9　完掘（北から）

H－9　東西土層断面（南から）



H－9　南北土層断面（西から）

H－9　遺物出土状況（北から）

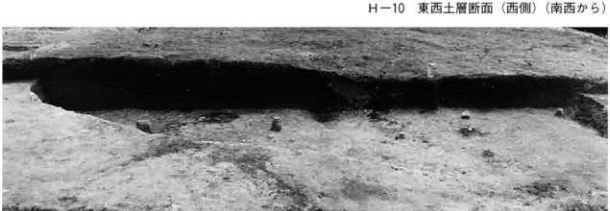
H－9　HP－1　完掘（南から）

H－9　HP－2　完掘（南から）

H－9 (2)

H－10　完掘（北西から）

H－10　東西土層断面（西側）（南西から）



H－10　南北土層断面（西から）

H－10　床面遺物出土状況（南西から）

H－10　床面遺物出土状況（西から）

H－10　遺物出土状況（No.3土器）（西から）

H－10　床面遺物出土状況（No.6土器）（北東から）

H－10　HF－1　土層断面（南西から）

H－10　HF－2　土層断面（南西から）

H－10　HF－3　土層断面（西から）

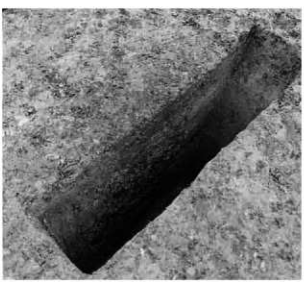
H－10　HP－1　土層断面（西から）

H－10　HP－2　土層断面（西から）

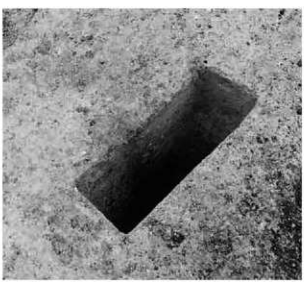
H－10　HP－8　土層断面（西から）

H－10　HP－9　土層断面（南東から）

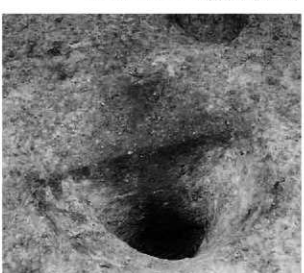
H－10　HP－10　土層断面（南西から）



H－10　HP－11　土層断面（西から）



H－10　HP－12　土層断面（西から）



H－10　HP－13　土層断面（南西から）

H－10　HP－14　土層断面（西から）

H－11　完掘（北東から）

H－11　南西北東土層断面（南東から）

H－11　南北土層断面（西から）

H－11　床面遺物出土状況（北から）

H－11　床面遺物出土状況（No.3 土器）（北西から）

H－11　HFC－1　検出（北から）

H－11　No.12　石斧出土状況（南東から）

H－11　No.13　台石出土状況（北東から）

H－11　HP－12　土層断面（北から）

H－11　HP－12　遺物出土状況（北から）

H－11　HP－1　土層断面（西から）

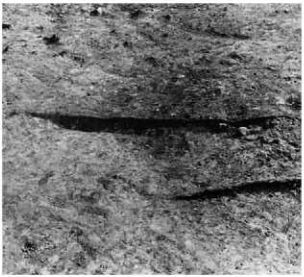
H－11　HP－7　土層断面（西から）

H－12　完掘（南西から）

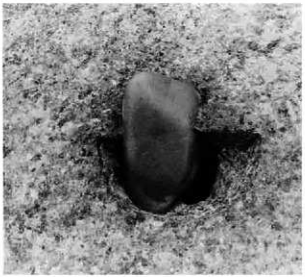
H－12　土層断面（南から）

H－12　土層断面（西から）

H－12　遺物出土状況（南西から）



H－12　HF－1　土層断面（西から）



H－12　HP－4　遺物出土状況（北から）

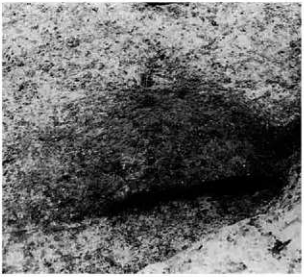
H－12(2)

H－13　完掘（西から）

H－13　土層断面（北から）

H－13　土層断面（西から）

H－13　遺物出土状況（西から）

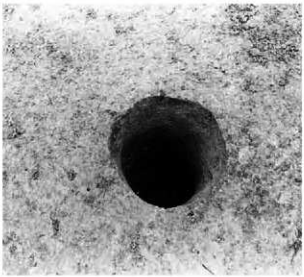


H－13　HF－1　土層断面（北から）

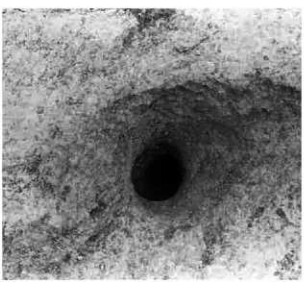
H－13　HP－1　土層断面（南西から）

H－13(2)

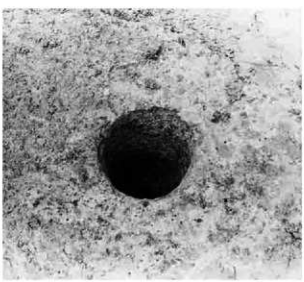
H－13　HP－1　完掘（西から）



H－13　HP－14　完掘（南西から）



H－13　HP－5　完掘（南西から）



H－13　HP－6　完掘（東から）

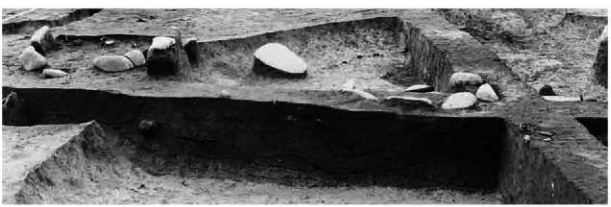
H－13(3)

H－14　完掘及び遺物出土状況（北東から）

H－14　南西北東土層断面（南東から）

H－14　南北土層断面（北側）（北西から）

H－14　南北土層断面（南側）（東から）



H－14　南北土層断面（北側）（東から）

H－14　南北土層断面（北側）（西から）

H－14　南西北東土層断面（北東側）（南東から）

H－14　床面遺物出土状況（No.1 土器）（北西から）

H－14　HP－3　土層断面（南西から）

H－14　HP－3　完掘（南から）

H－14(3)

H－15　完掘（西から）

H－15　南西北東土層断面（北西から）

H－15　南東北西土層断面（北西から）

H－15　床面遺物出土状況（西から）

H－14　HF－1　土層断面（南から）

H－15　HP－5　土層断面（南から）

H－15(2)

H－16　完掘（北から）

H－16　南北土層断面（南西から）

H－16　東西土層断面（南から）

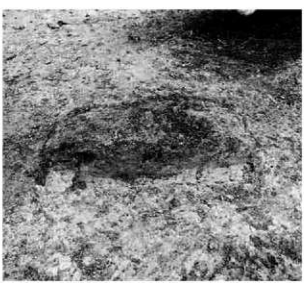
H－16　床面遺物出土状況（北から）

H－16　遺物出土状況（西から）

H－16　HF－1　検出（西から）

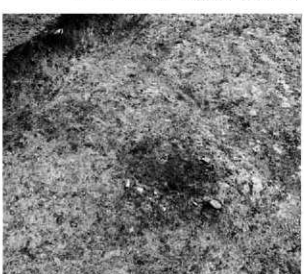
H－16　HF－1　土層断面（西から）

H－16　HF－2　検出（東から）



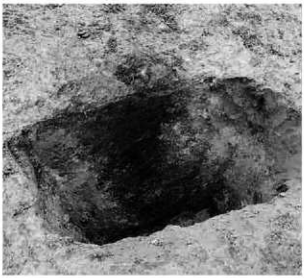
H－16　HF－2　土層断面（北西から）

H－16　HF－3　土層断面（西から）



H－16　FC－1　検出（北西から）

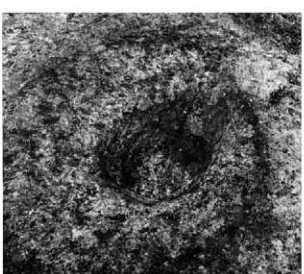
H－16　HP－1・4　完掘（西から）



H－16　HP－2　土層断面（南から）

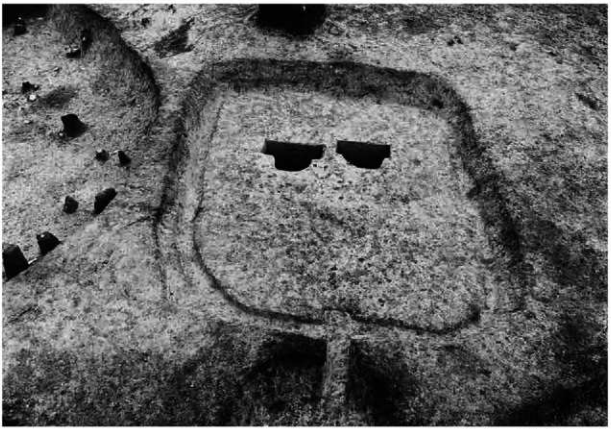
H－16　HP－3　検出（南西から）

H－16　HP－3　土層断面（南西から）



H－16　HP－3　完掘（北西から）

図版60



H－17　完掘（北東から）

H－17　南北土層断面（西から）

H－17(1)

H－17　遺物出土状況（西から）

H－17　床面遺物出土状況（No.1土器）（南東から）

H－17　HP－1　土層断面（南西から）

P－1　土層断面（北から）

P－1　完掘（北から）

P－2　土層断面（東から）

P－2　完掘（北西から）

P－2　完掘（南から）

P－3　土層断面（南西から）

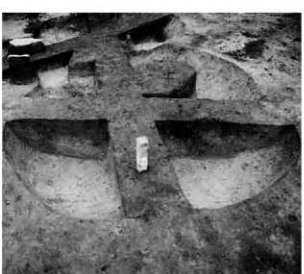
土坑(1)　P－1～3

P－4　土層断面（北から）

P－4　遺物出土状況（南から）

P－4　坑底焼土検出（北西から）

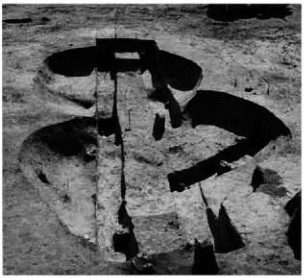
P－4　坑底焼土検出（北から）



P－5　土層断面（南から）

P－4（奥）・5　土層断面（南から）

土坑(2)　P－4



P－4（前）・5　完掘（東から）

P－6　土層断面（東から）

P－6　完掘（北東から）

P－7　土層断面（北西から）

P－7　完掘（西から）

P－8　土層断面（南西から）

土坑(3)　P－4～8

P－8　完掘（南から）

P－10　土層断面（東から）

P－10　遺物出土状況（東から）

P－11　遺物出土状況（北東から）

P－11　土層断面（南から）

P－12　土層断面（南東から）

土坑(4)　P－8・10～12

P－12　PP－1　土層断面（西から）

P－12　完掘（北東から）

P－13　土層断面（西から）

P－13　土層断面（西から）

P－13　遺物出土状況（1回目）（北から）

P－13　遺物出土状況（2回目）（北東から）

土坑(5)　P－12～13

P－13　遺物出土状況（3回目）（北から）

P－13　完掘（西から）

P－14　坑底遺物出土状況（北から）

P－14　PP－1・PF－1（西から）

P－14　PF－1　検出（北から）

P－14　完掘（西から）

土坑(6)　P－13～14

P－15　土層断面（西から）

P－15　完掘（南から）

P－16　土層断面（南から）

P－16　覆土及び焼土（西から）

P－16　覆土及び焼土　土層断面（南から）

P－16　遺物出土状況（東から）

土坑(7)　P－15～16

P－17　土層断面（北西から）

P－17　遺物出土状況（北西から）

P－18　土層断面（西から）

P－18　遺物出土状況（東から）

P－19　土層断面（西から）

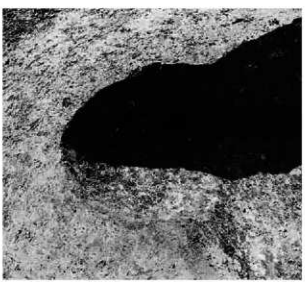
P－19　完掘（西から）

土坑(8)　P－17～19

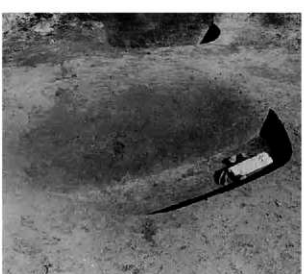
P－20　土層断面（南から）

P－20　完掘（南から）

P－21　土層断面（西から）



P－21　完掘（東から）



P－23　土層断面（南から）

P－23　坑底遺物出土状況（北西から）

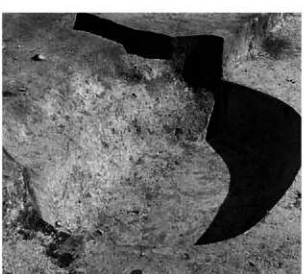
土坑(9)　P－20～23

P－23　坑底遺物出土状況（拡大）（北から）

P－24　土層断面（南から）

P－24　坑底遺物出土状況（西から）

P－24　坑底遺物出土状況（西から）



P－24　完掘（西から）

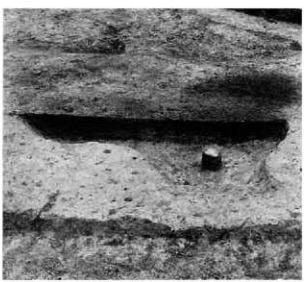
P－25　土層断面（南西から）

土坑(10)　P－23～25

P－25　完掘（南から）

P－26　土層断面（南から）

P－26　完掘（南東から）



P－27　土層断面（北から）

P－27　完掘（北から）

P－28　検出面遺物出土状況（南東から）

土坑(11)　P－25～28

P－28　土層断面（北から）

P－28　遺物出土状況（北東から）

P－28　完掘（北から）

P－29　土層断面（西から）

P－29　坑底遺物出土状況（北から）

P－29　完掘（北から）

土坑(12)　P－28～29

P－30　土層断面（北西から）

P－30　完掘（西から）

P－31　土層断面（南から）

P－31　完掘（北東から）

P－32　土層断面（東から）

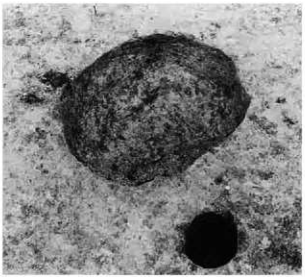
P－32　完掘（南東から）

土坑(13)　P－30～32

P－33　土層断面（西から）

P－33　坑底遺物出土状況（北東から）

P－34　土層断面（南から）



P－34　完掘（南東から）

P－35　土層断面（西から）

P－35　完掘（西から）

土坑(14)　P－33～35

P－36　土層断面（西から）

P－36　完掘（南東から）

P－37　土層断面（東から）

P－37　坑底遺物出土状況（東から）

P－37　PP－1　土層断面（東から）

P－37　PP－1　完掘（北東から）

土坑(15)　P－36～37

P－38(左)・39(右)　土層断面（西から）

P－38　土層断面（東から）

P－38　完掘（北から）

P－39　完掘（西から）

P－40　土層断面（西から）

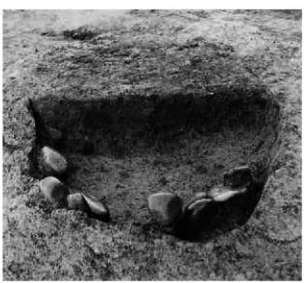
P－40　遺物出土状況（西から）

土坑(16)　P－38～40

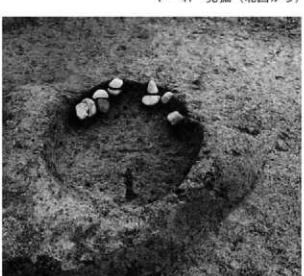
P－40　PP－1　土層断面（東から）

P－40　PP－1　完掘（東から）

P－41　完掘（北西から）



P－42　土層断面（南から）



P－42　完掘（北西から）

P－42　土層断面及び完掘（南から）

土坑(17)　P－40～42

F－1　土層断面（南西から）

F－2　土層断面（南西から）

F－3　検出（南から）

F－3　土層断面（南東から）

F－4　土層断面（南から）

F－5　土層断面（西から）

焼土(1)　F－1～5

F－6　土層断面（西から）

F－7　土層断面（南東から）

F－9　検出及び土層断面（南西から）

F－9　遺物出土状況（南西から）

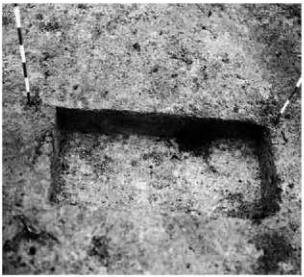
F－10　検出及び土層断面（南から）

F－11　検出及び土層断面（南西から）

焼土(2)　F－6・7・9～11

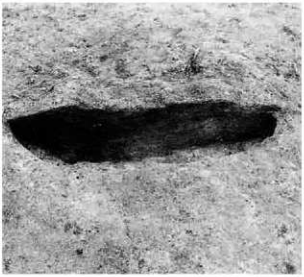
F－12　土層断面（西から）

F－13　土層断面（南から）



F－14　土層断面（西から）

F－15　検出及び土層断面（西から）



F－16　土層断面（北から）

F－17　土層断面（北から）

焼土(3)　F－12～17

F－18　土層断面（北から）

F－19　検出（北から）

F－19　土層断面（南東から）

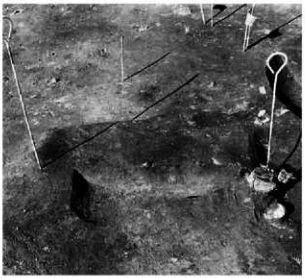
F－19　完掘（東から）

F－20　土層断面（北西から）

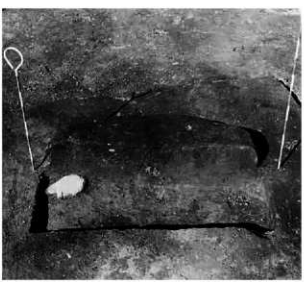
F－21　土層断面（南西から）

焼土(4)　F－18～21

F－22　土層断面（北西から）



F－23　土層断面（南西から）



F－24　土層断面（南西から）

F－25　土層断面（南から）

F－26　土層断面（北から）

F－27　土層断面（北から）

焼土(5)　F－22～27

F－28　土層断面（西から）

F－29　土層断面（南東から）

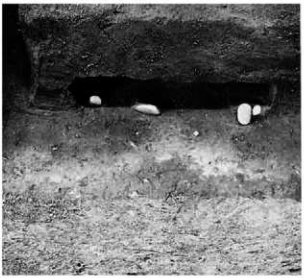
F－30　検出（南東）

F－30　土層断面（北から）

F－31　土層断面（南西から）

F－31　遺物出土状況（西から）

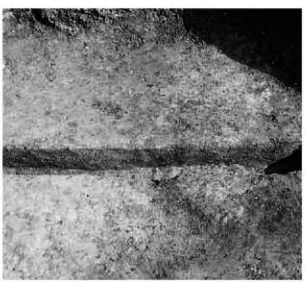
焼土(6)　F－28～31



F－32　土層断面（南東から）

F－33　検出（東から）

F－33　土層断面（南から）

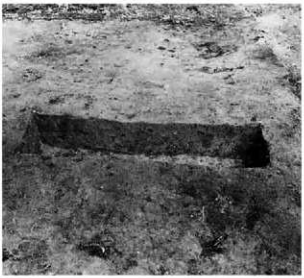


F－34　土層断面（南西から）

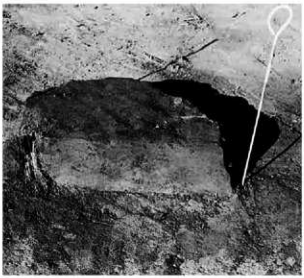
F－35　土層断面（北から）

F－36　土層断面（東から）

焼土(7)　F－32～36



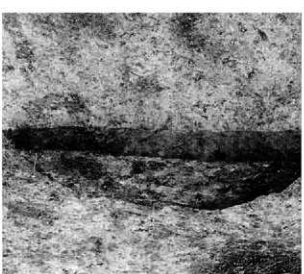
F－37　土層断面（西から）



F－38　土層断面（南から）

F－39　土層断面（南西から）

F－40　土層断面（西から）



F－41　土層断面（南から）

F－42　土層断面（東から）

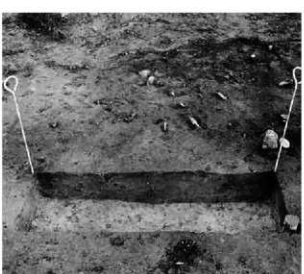
焼土(8)　F－37～42

F－43　検出（西から）

F－43　土層断面（南から）

F－44　土層断面（北から）

F－45(右)・46(左)　土層断面（南東から）



F－47　土層断面（北西から）

F－48　土層断面（北西から）

焼土(9)　F－43～48

F－49　土層断面（北西から）

F－50　土層断面（北から）

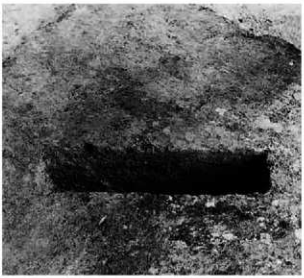
F－51　土層断面（西から）

F－51・FC－12　検出（北西から）

F－53　土層断面（東から）

F－54　土層断面（西から）

焼土(10)　F－49～51・53・54



F－55　土層断面（西から）

F－56　土層断面（北から）

F－57　土層断面（西から）

F－58　土層断面（南西から）

F－59（手前）・60（奥）　検出（北から）

F－59　土層断面（西から）

焼土（11）　F－55～60

F－60　検出（東から）

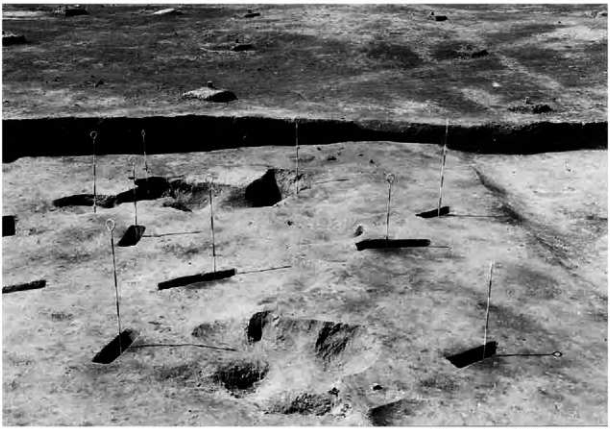
F－60　土層断面（南西から）

F－61　検出（南東から）

F－61　土層断面（南西から）

F－62　土層断面（北東から）

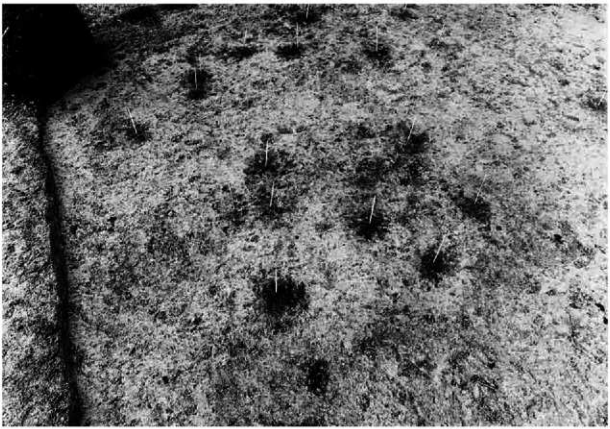
焼土(12)　F－60～62



SP－１～９　検出（南東から）

SP－22～40　完掘（西から）

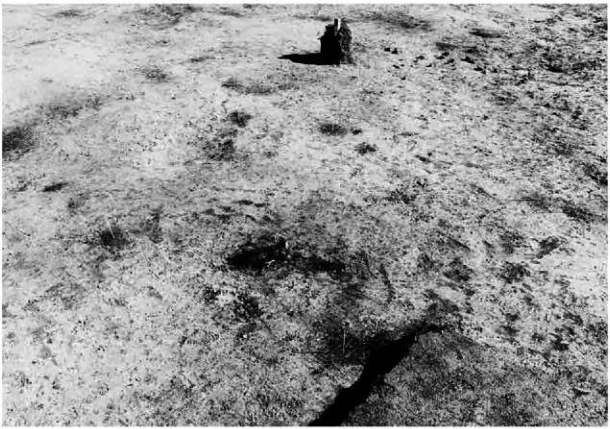
柱穴様の小土坑(1)　SP－１～９・22～40



SP　検出（14N区周辺）（東から）

SP　検出（11～13W区周辺）（西から）

柱穴様の小土坑(2)　SP（14N・11～13W区）



SP　検出（15・16－K・L区周辺）（南西から）

SP－4　土層断面（南西から）

SP－8　土層断面（北西から）

柱穴様の小土坑(3)　SP－4～8

SP－11　検出（北東から）

SP－12(右)・13(左)　完掘（南西から）

SP－14　検出（北西から）

SP－15　完掘（南西から）

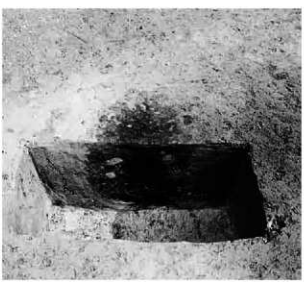
SP－16　検出（南西から）

SP－17　土層断面（南から）

柱穴様の小土坑(4)　SP－11～17

SP－18　土層断面（南から）

SP－19　土層断面（南から）



SP－20　土層断面（南から）

SP－21　土層断面（南西から）

SP－104　土層断面（北から）

SP－105　土層断面（西から）

柱穴様の小土坑(5)　SP－18～105

SP－118　土層断面（西から）

SP－129（手前右）・128・133（奥左）　土層断面（南西から）

SP－166（左）・167　土層断面（霜付き）（南西から）

柱穴様の小土坑（6）　SP－118～167

TP－1　土層断面（東から）

TP－1　完掘（西から）

TP－2　土層断面（北から）

TP－2　完掘（東から）

TP－3　検出（北西から）

TP－3　土層断面（南東から）

Tピット(1)　TP－1～3

TP－3　完掘（南東から）

TP－4　土層断面（北から）

TP－4　完掘（南から）

TP－5　土層断面（南から）

TP－5　完掘（南東から）

TP－4・6　完掘（北から）

Tピット(2)　TP－3～6

FC－1　検出（西から）

FC－2　検出（南東から）

FC－3　検出（南東から）

FC－4　検出（東から）

FC－5　検出（北から）

FC－5　遺物出土状況（北東から）

フレイク・チップ集中(1)　FC－1～5

FC－7　検出（南西から）

FC－8　検出（北東から）

FC－9　検出(1)(西から)

FC－9　検出(2)(北から)

FC－9　検出(3)(西から)

FC－9　土層断面（北から）

フレイク・チップ集中(2)　FC－7～9

FC－9　周辺遺物出土状況（北西から）

FC－10　検出（南から）

FC－11　検出（西から）

FC－13　検出（北から）

FC－14　検出（北から）

フレイク・チップ集中(3)　FC－9～11・13・14

図版102

ＳＰ－１　検出（西から）

遺物集中１　検出（南西から）

遺物集中２　検出（北から）

遺物集中３　検出(1)(北から)

遺物集中３　検出(2)(西から)

遺物集中３　検出(3)(東側拡大)（北から）

集石(1)・遺物集中(1)　Ｓ－１・遺物集中１～３

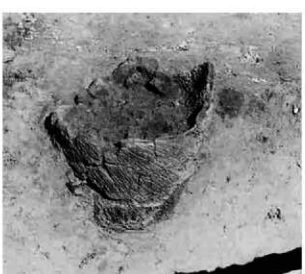
遺物集中３　検出(4)(西側拡大)（北から）

遺物集中４　検出状況（西から）

遺物集中６　検出（北から）

遺物集中７　Ⅴ層下検出（南西から）

遺物集中８　検出（北東から）

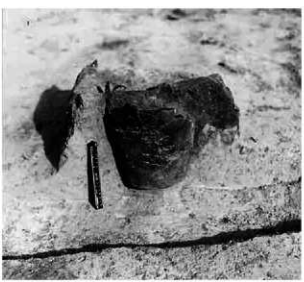


埋設土器１　土層断面（西から）

遺物集中(2)・埋設土器(1)　遺物集中３・４・６～８・埋設土器１

埋設土器２　検出（北西から）

埋設土器３　土層断面（南西から）



埋設土器４　土層断面（西から）

埋設土器５　検出（西から）

埋設土器５　土層断面（南西から）

埋設土器５　内部出土遺物（南西から）

埋設土器(2)　埋設土器２～５

Ⅴ層　遺物　出土状況（北東から）

Ⅴ層　土器　出土状況（北東から）

石錐（Ⅴ層）出土状況（西から）

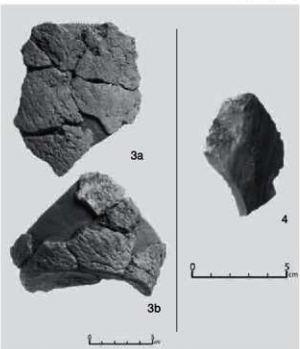
Ⅴ層　フレイク出土状況（西から）

石錘出土状況（北から）

包含層　遺物の出土状況

H－1・1

H－1・2

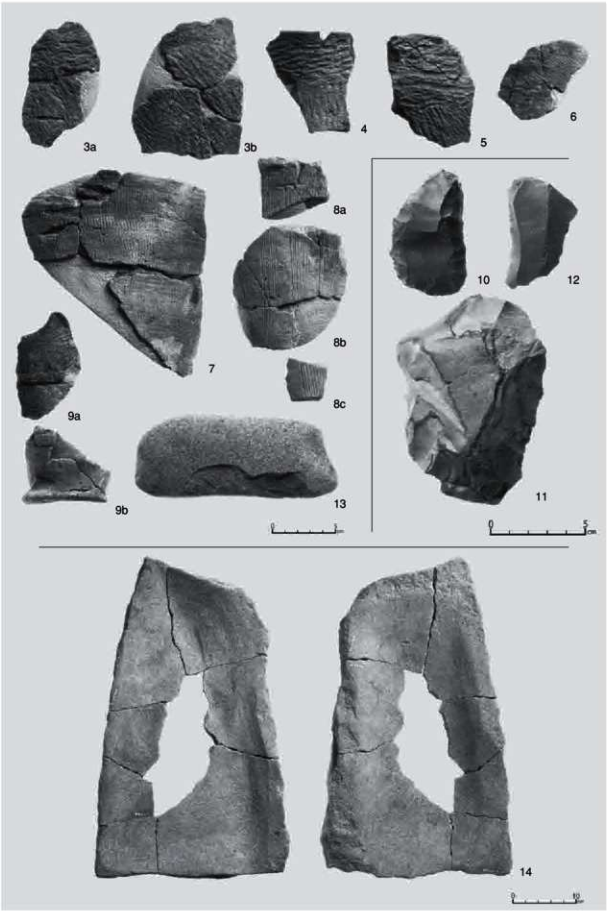


H－1

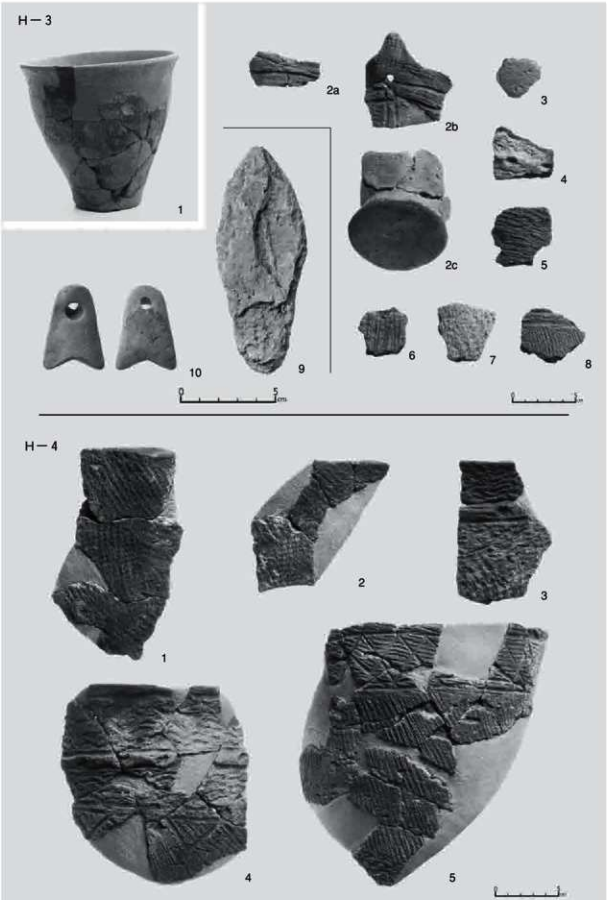
H－2・1

H－2・2

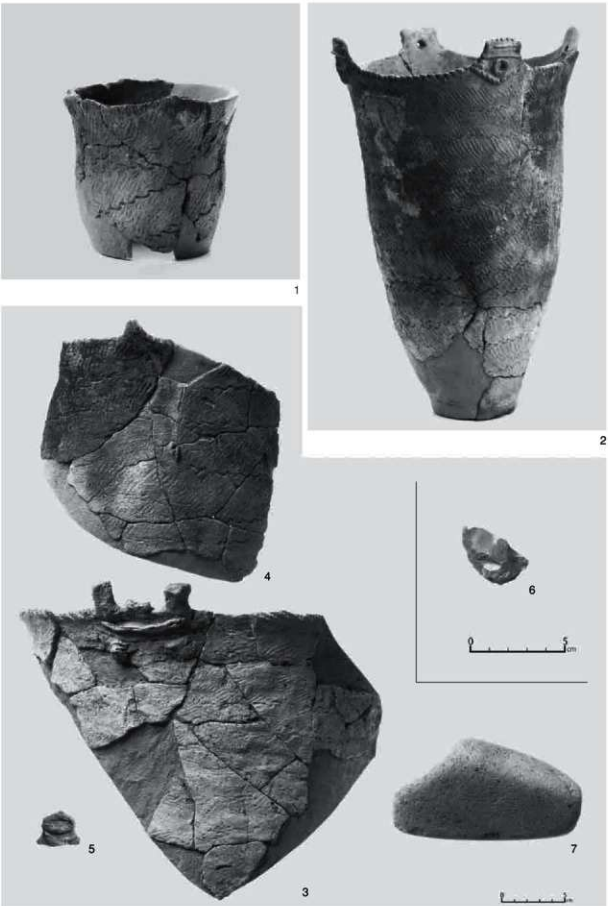
H－1出土遺物・H－2出土遺物(1)



H－2出土遺物(2)



H－3・H－4出土遺物



H－5 出土遺物

1

2

3

4

5

H－6出土遺物(1)

6

7

8

9

10

11

H－6出土遺物(2)

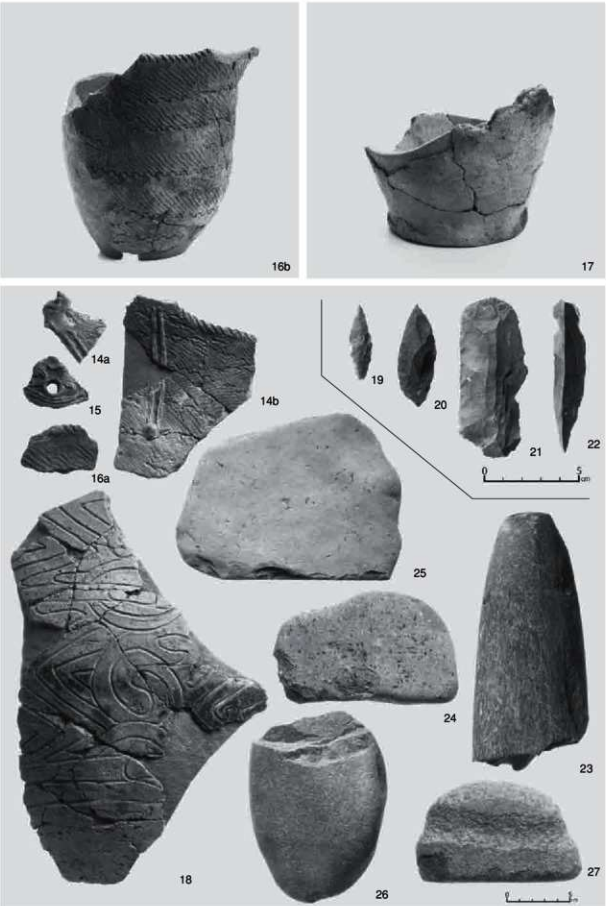
12（正面）

12（側面）

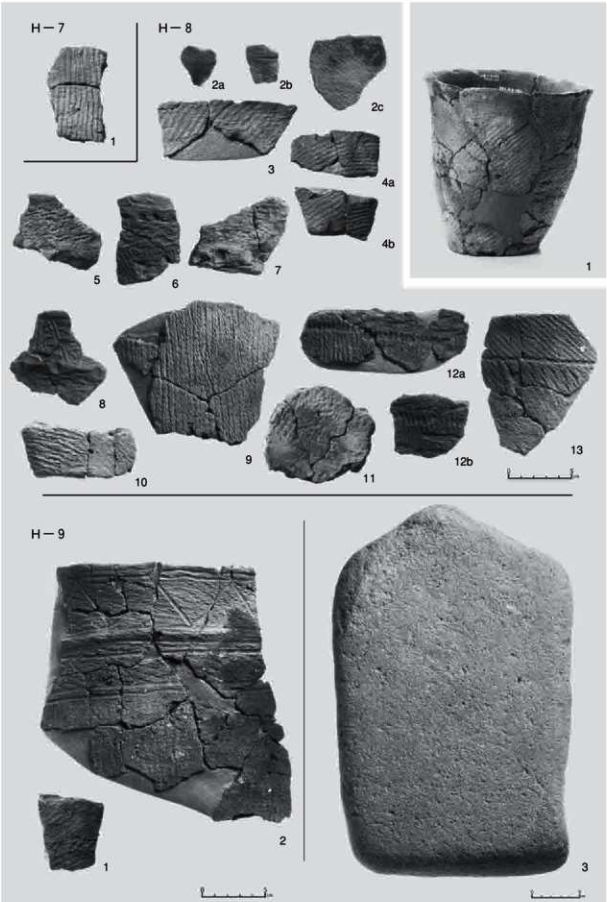
13（正面）

13（側面）

H－6出土遺物(3)



H－6出土遺物(4)



H－7・8・9出土遺物

1（正面）

1（側面）

3

2

6

H－10出土遺物(1)

4

5

7

9

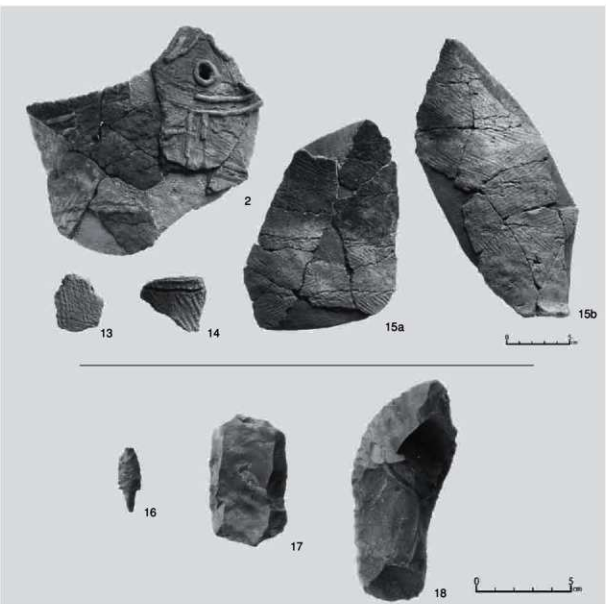
11

8

H－10出土遺物(2)

10

12



H－10出土遺物(3)

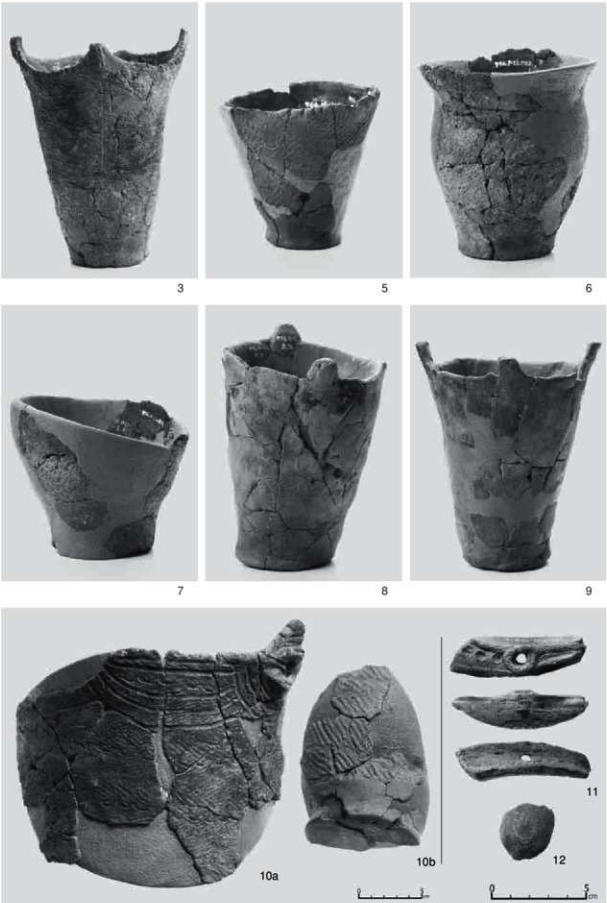
1

4

2（正面）

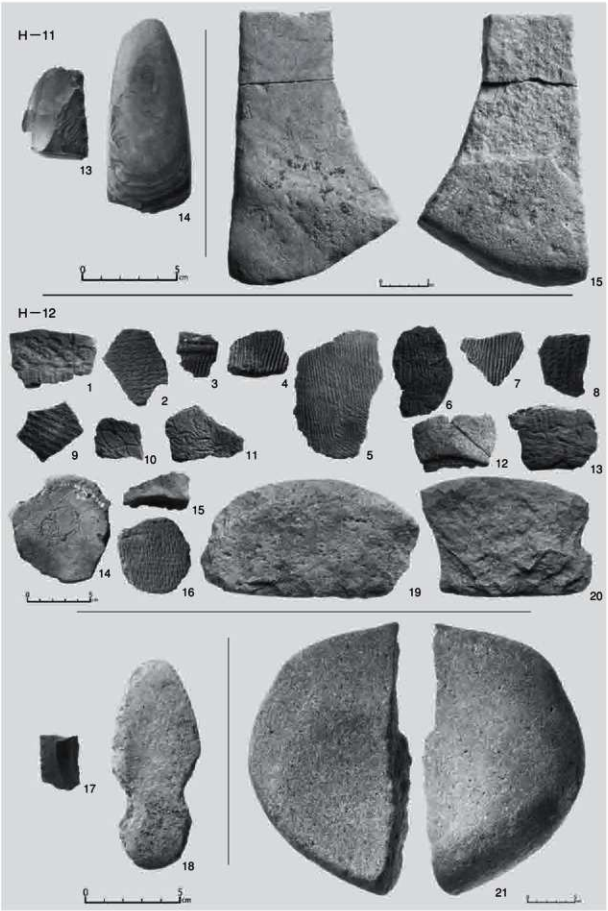
2（側面）

H－11出土遺物(1)

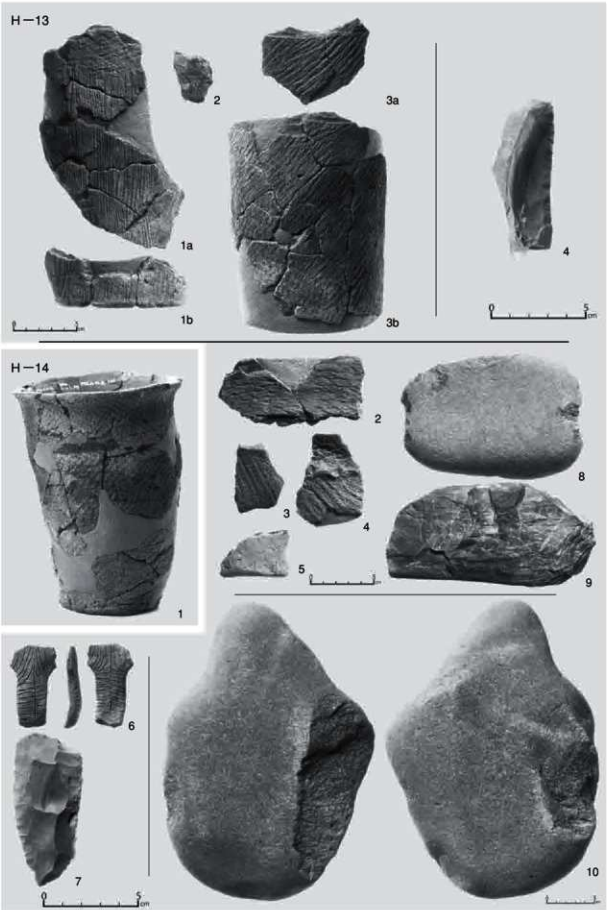


H－11出土遺物(2)

図版120

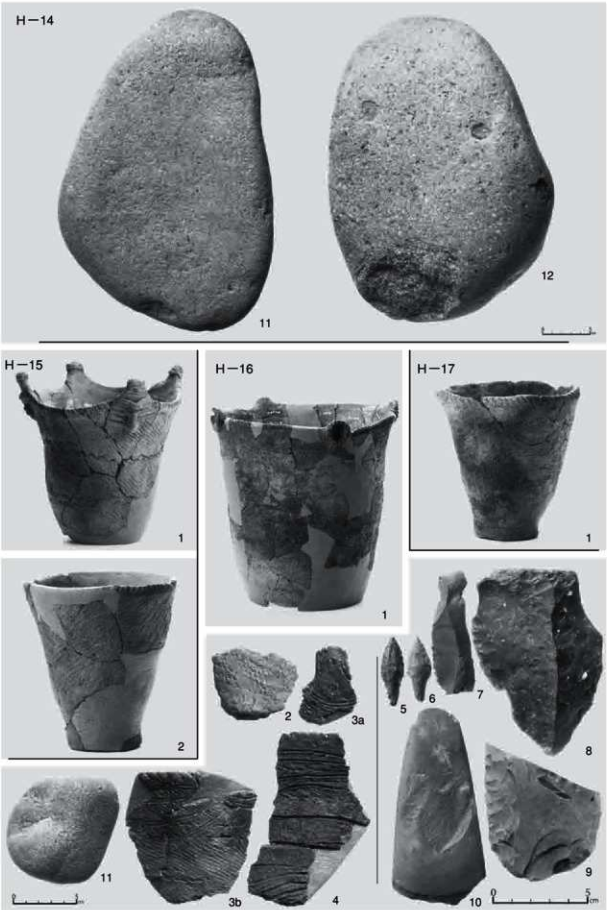


H－11出土遺物(3)・H－12出土遺物

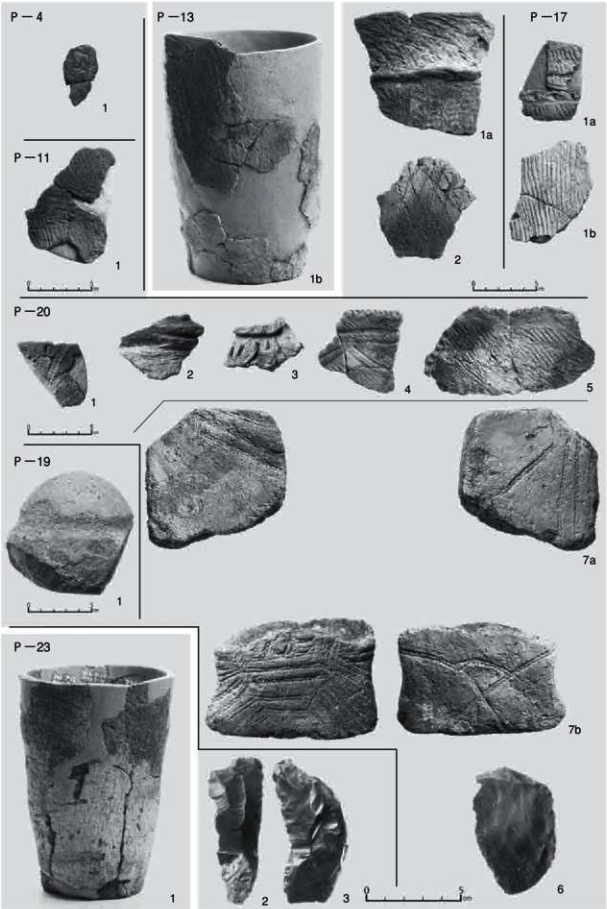


H－13出土遺物・H－14出土遺物(1)

図版122

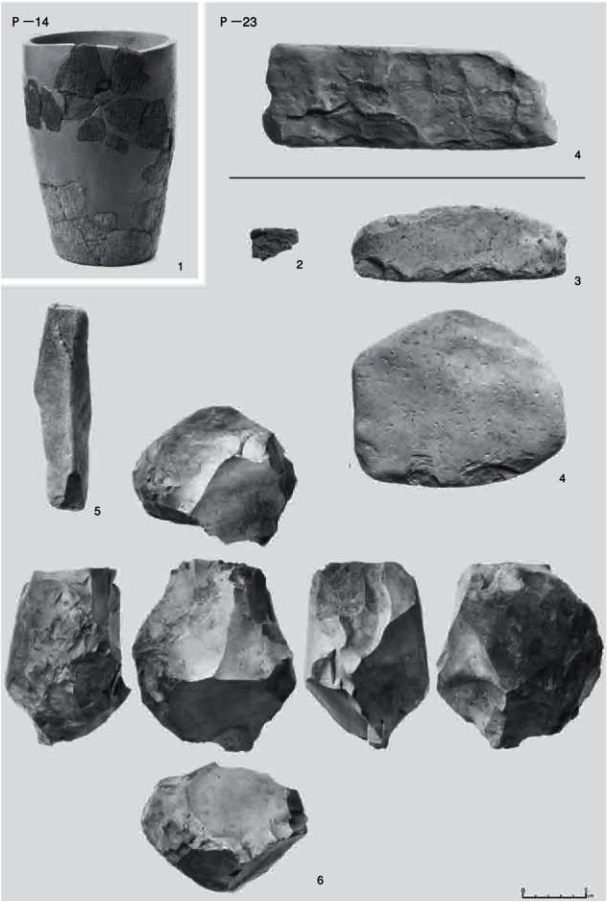


H－14出土遺物(2)・H－15・16・17出土遺物

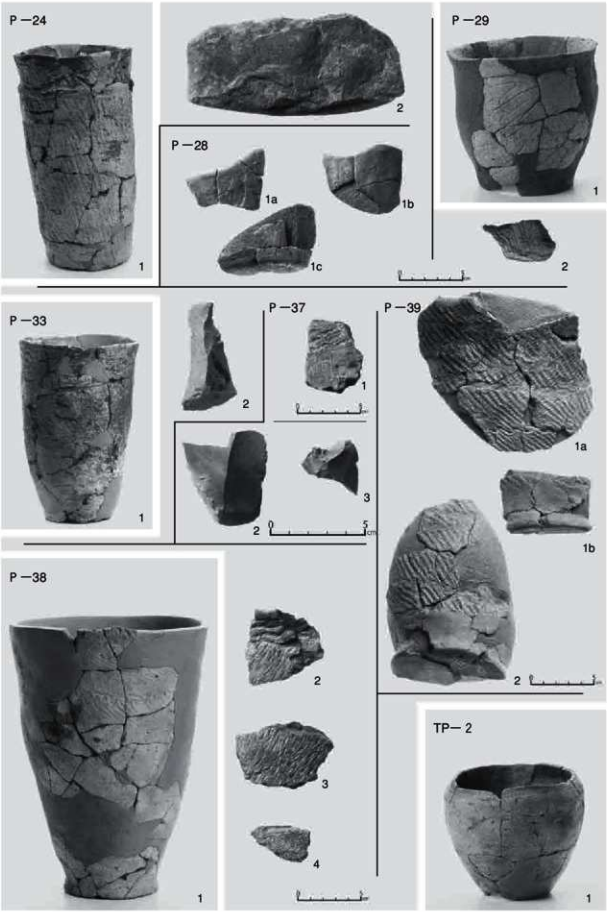


P－4・11・13・17・19・20・23(1)出土遺物

図版124

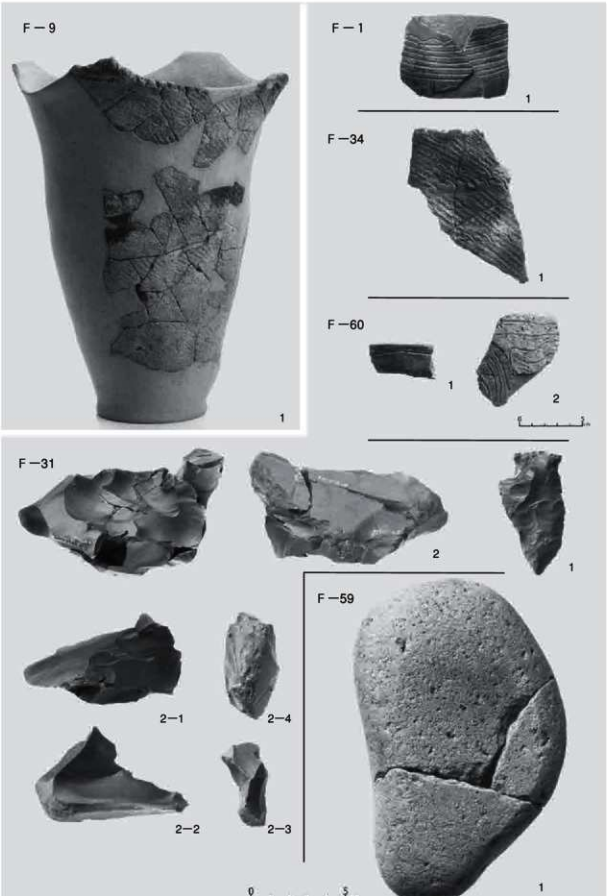


P－14・23(2)出土遺物

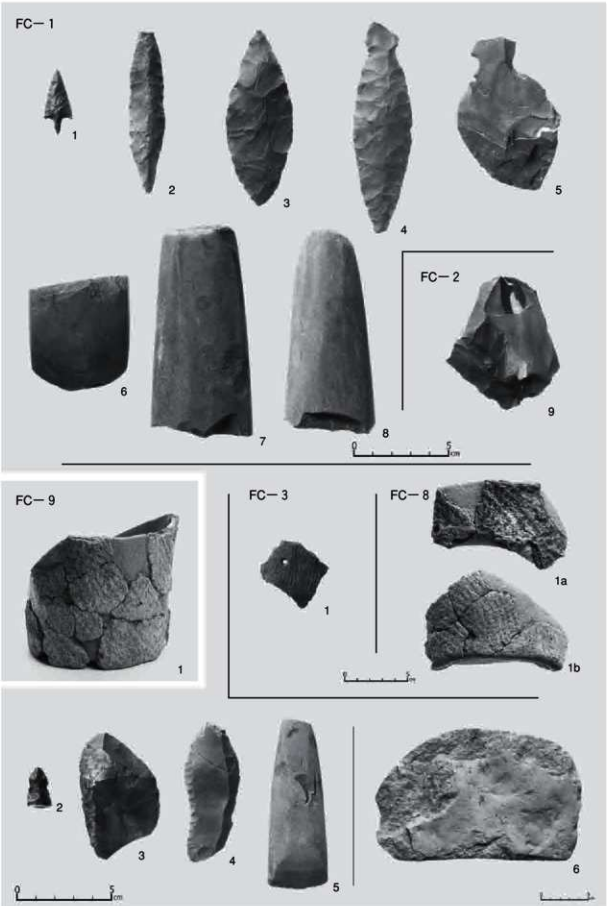


P－24・28・29・33・37・38・39・TP－2 出土遺物

図版126



F－1・9・31・34・59・60出土遺物



FC－1・2・3・8・9出土遺物

埋設土器１・１

埋設土器２・１

埋設土器４・１

埋設土器３・１

埋設土器５・１

埋設土器１・２・３・４・５出土遺物

遺物集中１・１

遺物集中３・１

遺物集中３・２

遺物集中３・３

遺物集中３・５

遺物集中３・４

遺物集中４・１

遺物集中１・３出土遺物・遺物集中４出土遺物(1)

遺物集中４・２

遺物集中４・３

遺物集中４・４

遺物集中４・５

遺物集中４・６

遺物集中４・９

遺物集中４・８

遺物集中４出土遺物(2)

遺物集中４・７

遺物集中４・11

遺物集中４・15

遺物集中４・10

遺物集中４・12

遺物集中４出土遺物(3)

遺物集中４・13

遺物集中４・14

遺物集中４・16

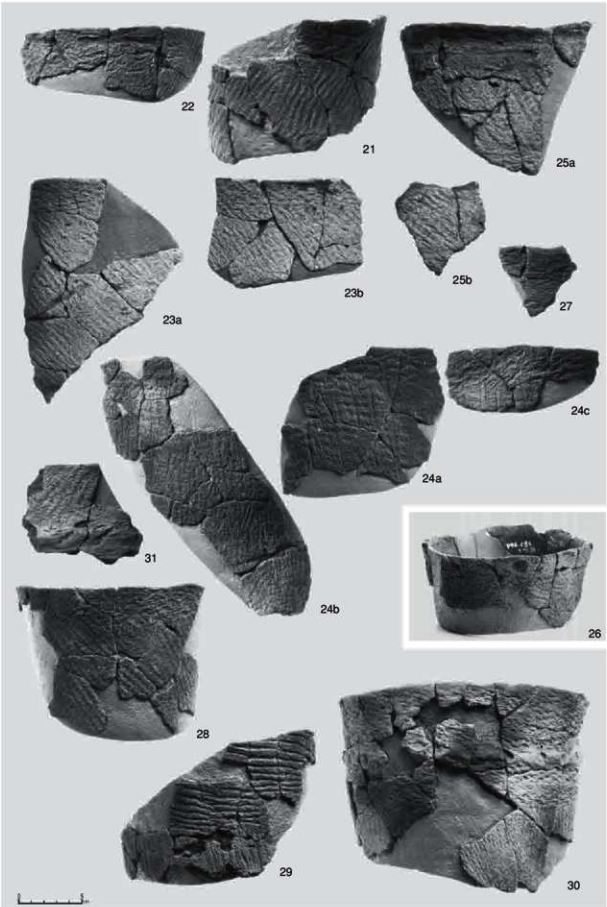
遺物集中４・19

遺物集中４・17

遺物集中４・18

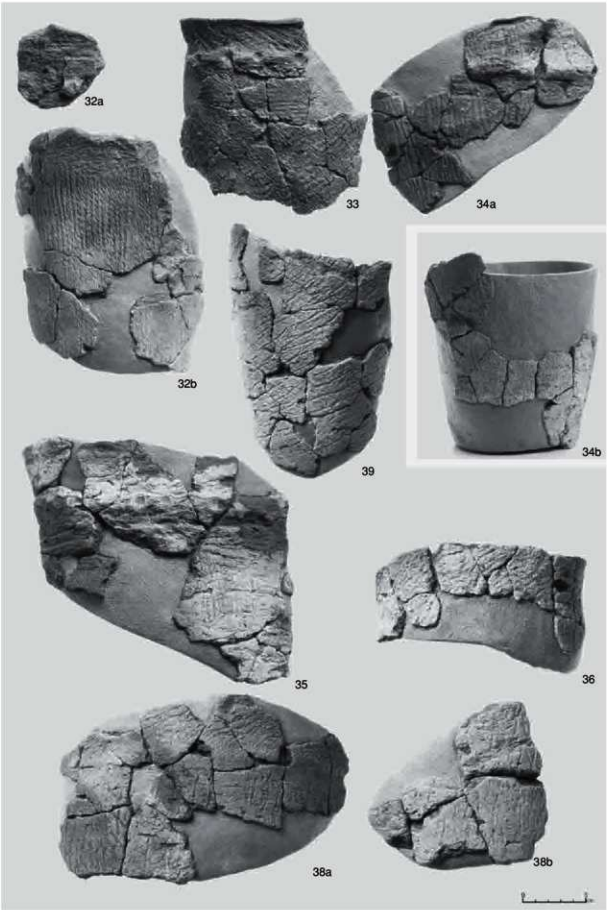
遺物集中４・20

遺物集中４出土遺物(4)

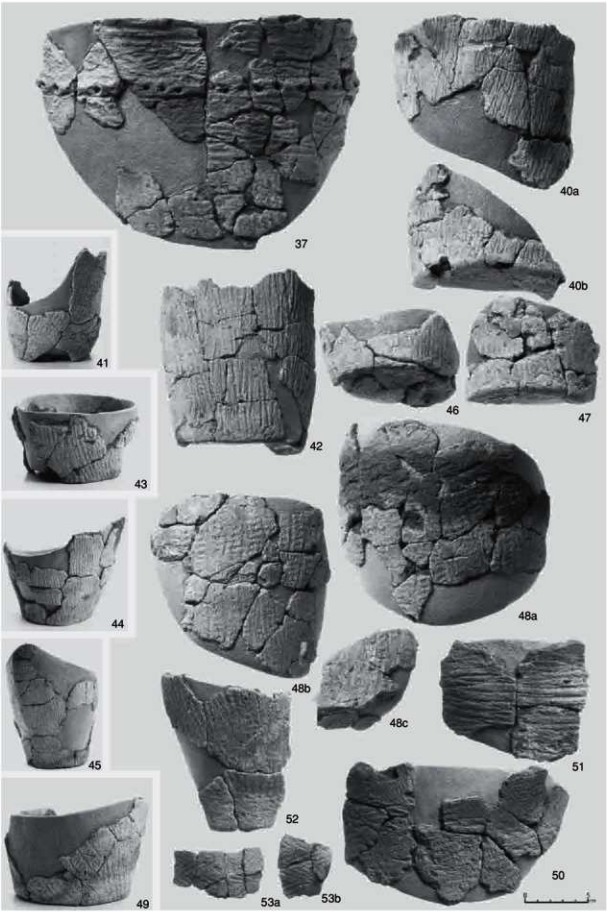


遺物集中４出土遺物(5)

図版134

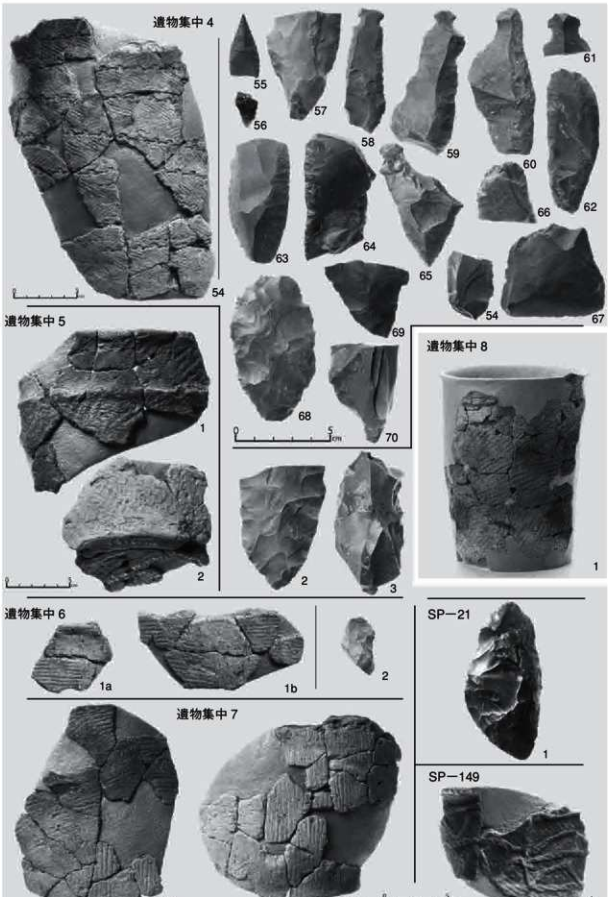


遺物集中４出土遺物(6)



遺物集中４出土遺物(7)

図版136



遺物集中 4 出土遺物(8)・遺物集中 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 出土遺物・SP−21・149出土遺物

1

2

3

4

包含層出土の土器(1)

5

6

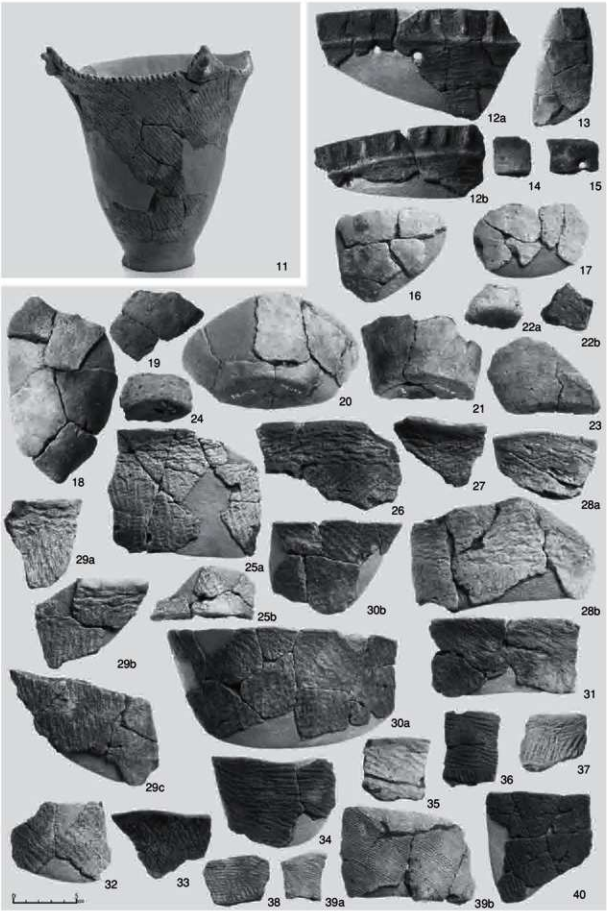
7

8

9

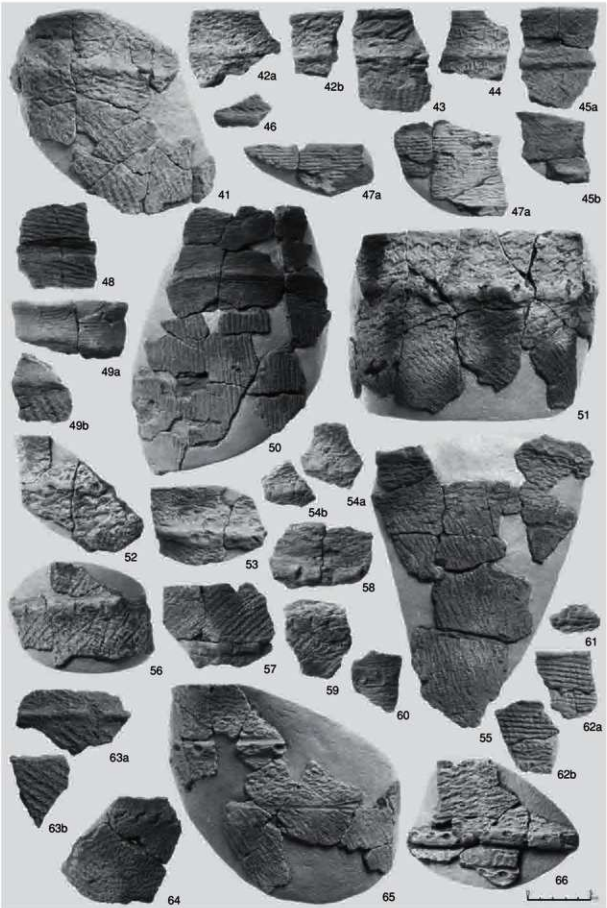
10

包含層出土の土器(2)

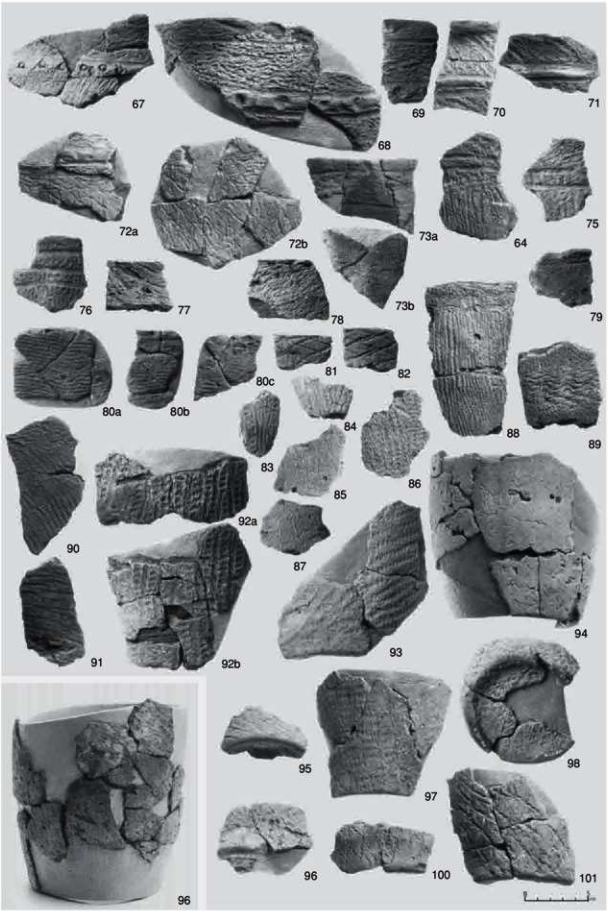

11
12a
13
12b
14
15
16
17
22a
22b
19
20
21
23
24
18
27
28a
26
29a
25a
30b
28b
25b
29b
31
30a
29c
36
37
35
34
32
33
38
39a
39b
40

包含層出土の土器(3)

図版140

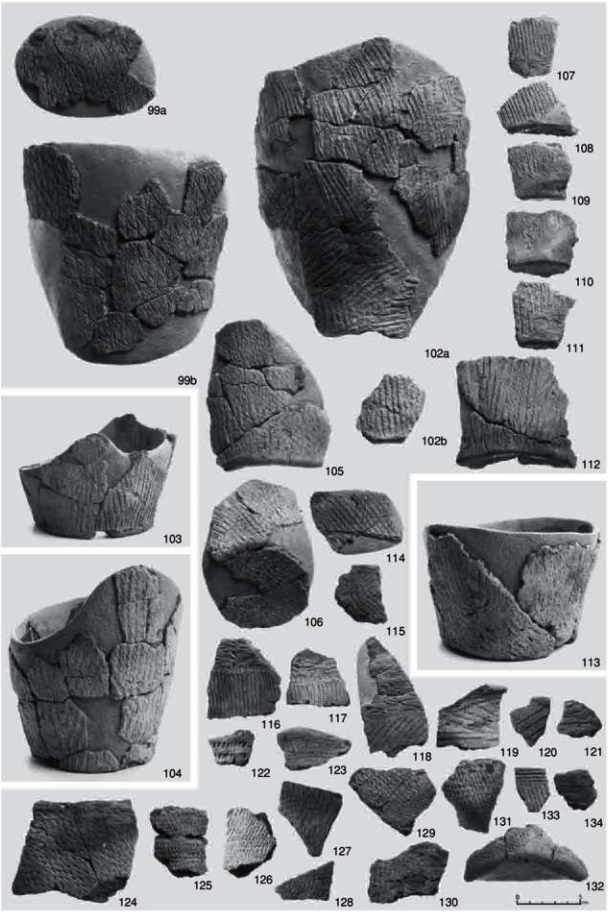


包含層出土の土器(4)

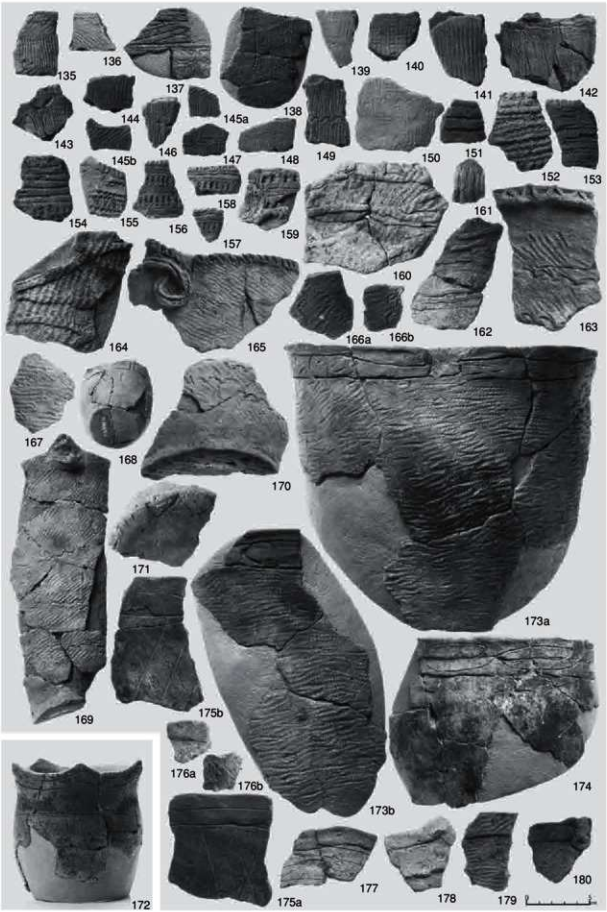

67
68
69
70
71
72a
72b
73a
64
75
76
77
78
73b
79
80a
80b
80c
81
82
88
89
83
84
85
86
90
92a
87
94
91
92b
93
95
97
98
96
96
100
101

包含層出土の土器(5)

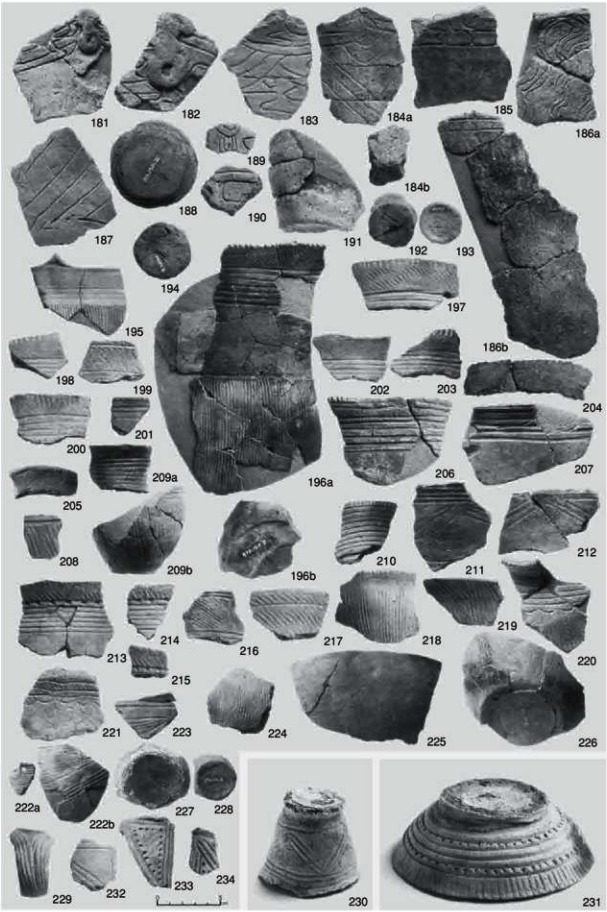
図版142



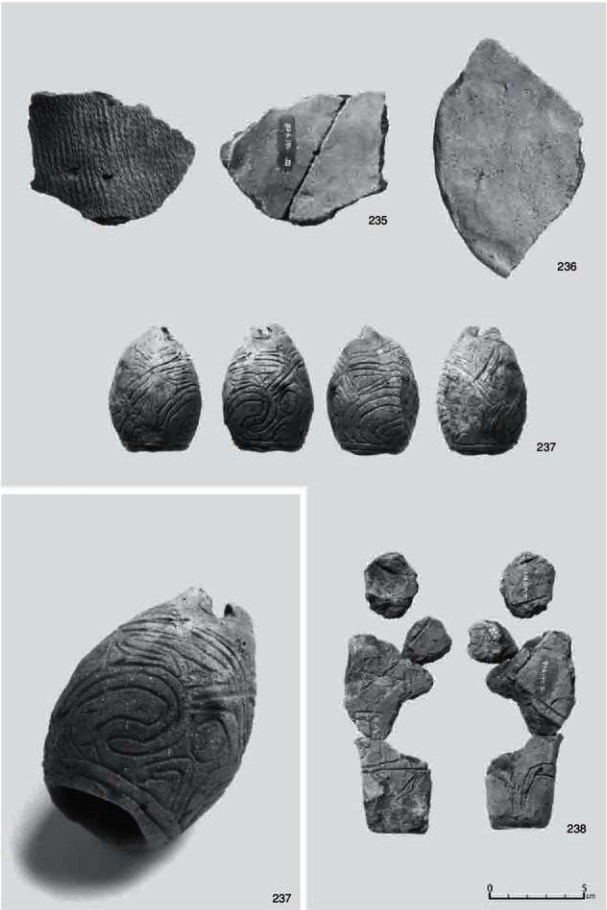
包含層出土の土器(6)


135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145a
145b
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166a
166b
167
168
169
170
171
172
173a
173b
174
175a
175b
176a
176b
177
178
179
180

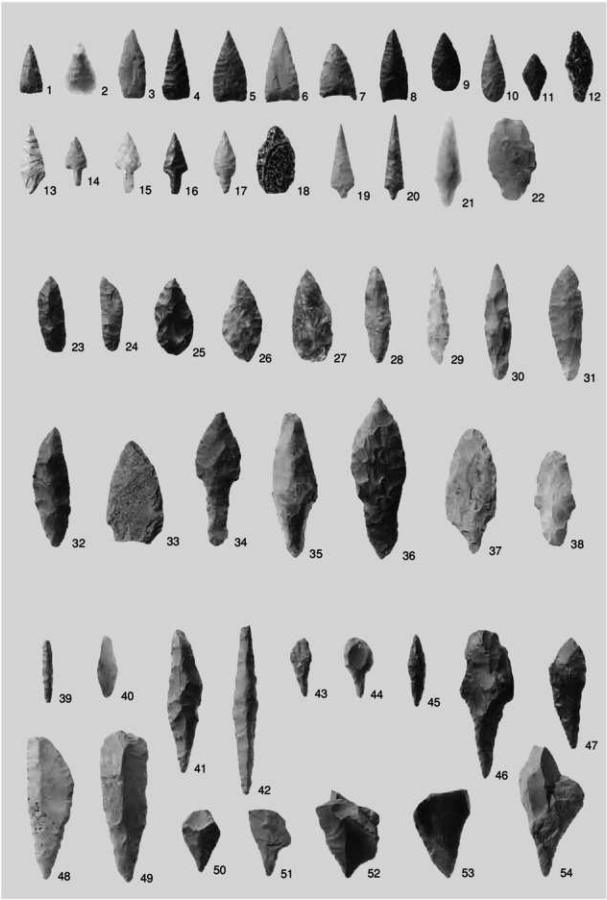
包含層出土の土器(7)


181
182
183
184a
185
186a
187
188
189
190
191
184b
192
193
194
195
196a
197
186b
198
199
200
201
202
203
204
205
209a
206
207
208
209b
196b
210
211
212
213
214
216
217
218
219
220
215
221
223
224
225
226
222a
222b
227
228
229
232
233
234
230
231

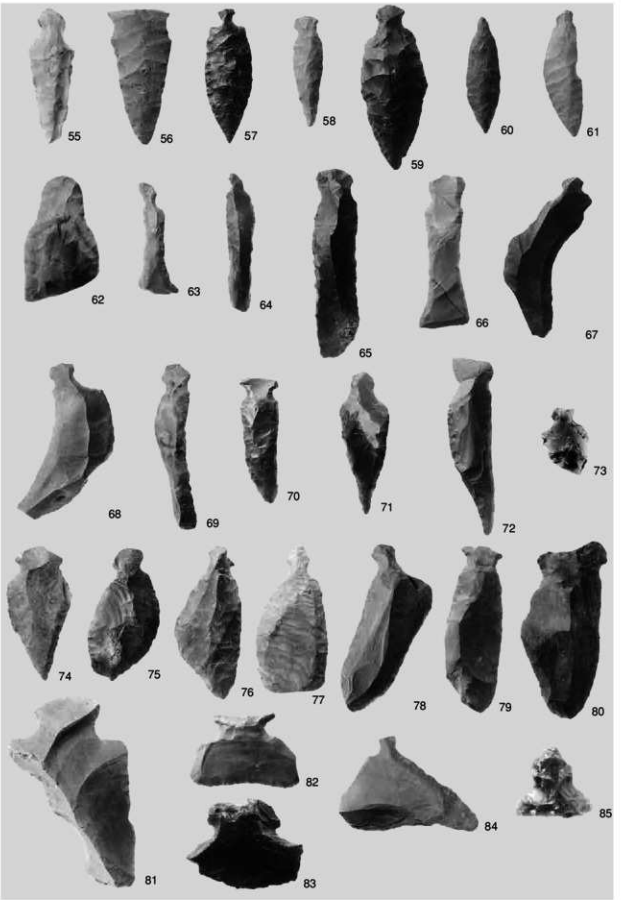
包含層出土の土器(8)



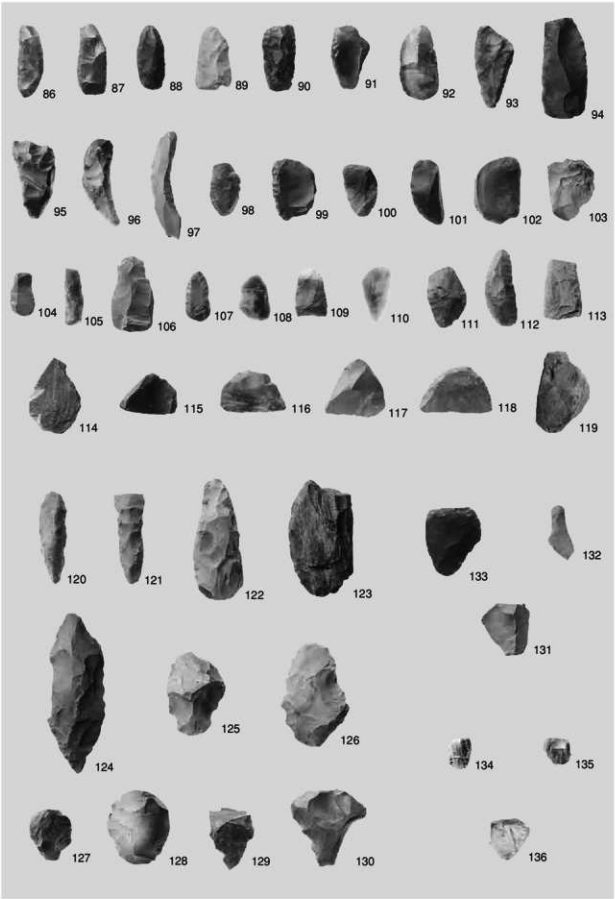
包含層出土の土製品


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54

包含層出土の石器(1)


55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85

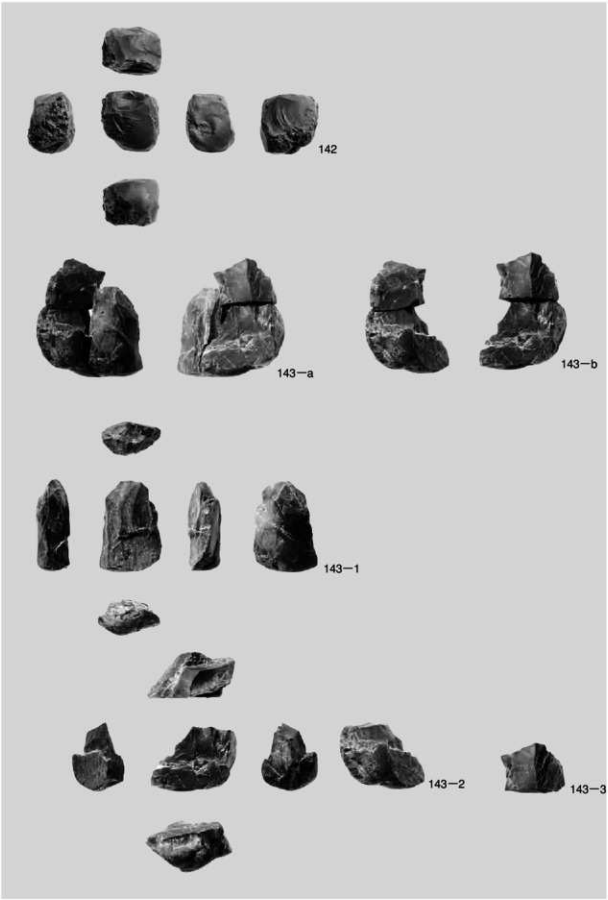
包含層出土の石器(2)


86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
133
132
131
124
125
126
134
135
127
128
129
130
136

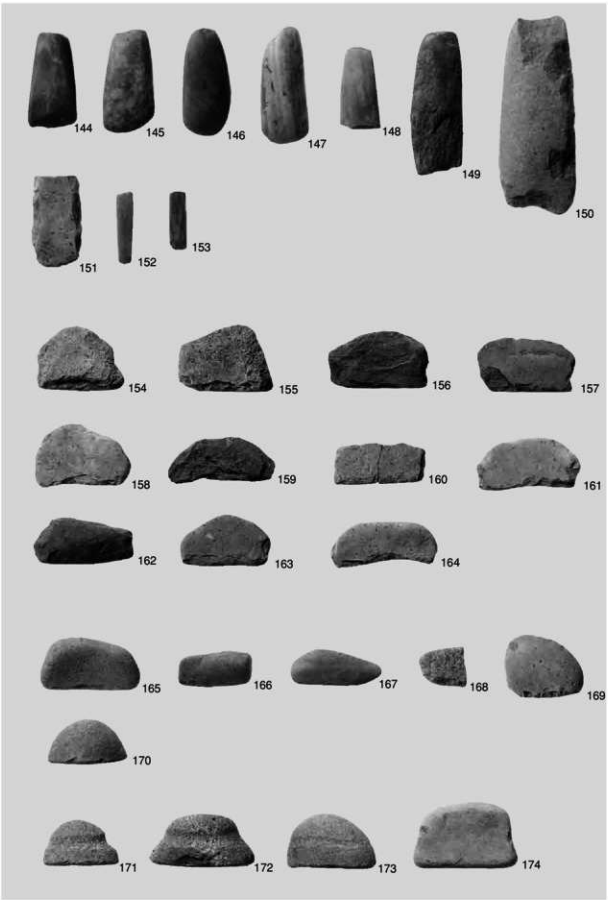
包含層出土の石器(3)

包含層出土の石器(4)

図版150

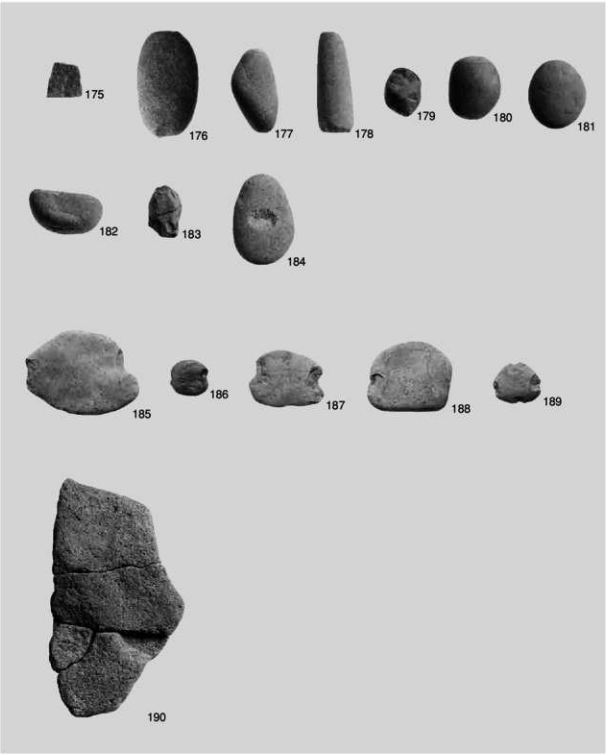


包含層出土の石器(5)


144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174

包含層出土の石器(6)

図版152



包含層出土の石器(7)

報告書抄録

ふりがな	ほくとし　たてのろくいせき　かっこいち
書名	北斗市　館野６遺跡(1)
副書名	高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財調査報告書
巻次	あり
シリーズ名	公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター　調査報告書
シリーズ番号	第295集
編著者名	佐川俊一・谷島由貴・袖岡淳子・佐藤　剛・吉田裕吏洋・花岡正光・立川トマス
編集機関	公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター（URL http://www.domaibun.or.jp）
所在地	〒069－0832　北海道江別市西野幌685番地－１　TEL 011－386－3231
発行年月日	西暦2013年２月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 M20杭 °′″	東経 M20杭 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
館野６遺跡 （たてのろくいせき）	北海道北斗市 （ほっかいどうほくとし）	12360	B－06－35	41° 47′ 20″	140° 37′ 02″	20080512 ～20081128	5,768㎡	高規格幹線道路函館江差自動車道茂辺地道路工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
館野６遺跡	集落跡	縄文時代早期 縄文時代前期後半 縄文時代中期前半 縄文時代後期前葉 続縄文時代	竪穴式住居跡17軒 土坑43基 Ｔピット５基 焼土62ヶ所 フレイク集中14ヶ所 埋設土器５基 遺物集中８ヵ所 集石１基 柱穴状の小土坑193基	・縄文時代早期、松前町高野Ⅰ群土器に相当する土器 ・縄文時代前期後半の円筒土器下層ｂ式土器 ・縄文時代後期前葉のトリサキ式に相当する土器 ・続縄文時代、恵山式に相当する土器 各時期の石器類・土・石製品	函館湾に突き出た海岸段丘が陥没地形により平坦面が二分されている。これを境に、北側には円筒土器下層ｂ式相当の小規模な集落と捨て場（遺物集中）を検出。南側にはサイベ沢Ⅶ式相当の集落を検出した。

公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター調査報告書第295集

北斗市

館野６遺跡（１）

―高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書―

平成25年２月28日

編集・発行　公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター
〒069－0832　江別市西野幌685番地１
ＴＥＬ（011）386－3231（代表）
ＦＡＸ（011）386－3238

印　　刷　富士プリント株式会社
〒064－0916　札幌市中央区南16条西９丁目２番10号
ＴＥＬ（011）531－4711
ＦＡＸ（011）530－2549